

仙台市文化財調査報告書第512集

長町駅東遺跡第14次調査(1)

— 総合店舗建設に伴う令和元年度発掘調査報告書 —

[第2分冊]

2024年 3 月

仙台市教育委員会

株式会社 ヤマダホールディングス

第2分冊 目次

第5章 検出遺構と出土遺物	323
第2節 古墳時代～奈良時代の遺構と遺物	323
(1) 竪穴住居跡	323
(2) 鍛冶関連遺構	494
(3) 掘立柱建物跡	510
(4) 溝跡	523
(5) 土坑	563
(6) ピット	570
(7) 性格不明遺構	570
(8) 遺構外出土遺物	582
第3節 弥生時代以前の遺構と遺物	588
(1) 弥生時代包含層調査の概要	588
(2) IV・V層出土遺物	588
(3) 包含層外出土遺物	601
(4) 接合資料	628
(5) 縄文土器	636
(6) 下層トレンチ調査	636
第6章 自然科学分析	641
第1節 長町駅東遺跡第14次調査の花粉分析	641
(1) 試料	641
(2) 分析方法	641
(3) 結果	644
(4) 考察	644
第2節 長町駅東遺跡第14次調査における放射性炭素年代(AMS測定)	647
(1) 測定対象試料	647
(2) 測定の意義	647
(3) 化学処理工程	649
(4) 測定方法	649
(5) 算出方法	649
(6) 測定結果	650
第7章 まとめ	654
引用・参考文献	

第2分冊 挿図目次

第229図 SI469 竪穴住居跡(1) …………… 323	第265図 SI481 竪穴住居跡出土遺物 ……… 372
第230図 SI469 竪穴住居跡(2) …………… 324	第266図 SI482 竪穴住居跡 …………… 374
第231図 SI470 竪穴住居跡 …………… 326	第267図 SI482 竪穴住居跡出土遺物 ……… 376
第232図 SI471 竪穴住居跡(1) …………… 328	第268図 SI483 竪穴住居跡 …………… 376
第233図 SI471 竪穴住居跡(2) …………… 329	第269図 SI484 竪穴住居跡 …………… 377
第234図 SI471 竪穴住居跡(3) …………… 330	第270図 SI485 竪穴住居跡(1) …………… 378
第235図 SI471 竪穴住居跡出土遺物 ……… 331	第271図 SI485 竪穴住居跡(2) …………… 379
第236図 SI472 竪穴住居跡(1) …………… 332	第272図 SI486 竪穴住居跡 …………… 380
第237図 SI472 竪穴住居跡(2) …………… 334	第273図 SI486 竪穴住居跡出土遺物 ……… 382
第238図 SI472 竪穴住居跡出土遺物 ……… 335	第274図 SI487 竪穴住居跡・同出土遺物 …… 384
第239図 SI473 竪穴住居跡(1) …………… 337	第275図 SI488 竪穴住居跡 …………… 385
第240図 SI473 竪穴住居跡(2) …………… 338	第276図 SI489 竪穴住居跡 …………… 386
第241図 SI473 竪穴住居跡出土遺物(1) …… 340	第277図 SI489 竪穴住居跡出土遺物 ……… 387
第242図 SI473 竪穴住居跡出土遺物(2) …… 341	第278図 SI490 竪穴住居跡 …………… 388
第243図 SI474A 竪穴住居跡(1) ……… 343・344	第279図 SI490 竪穴住居跡出土遺物 ……… 389
第244図 SI474A 竪穴住居跡(2) …………… 345	第280図 SI491 竪穴住居跡(1) …………… 391
第245図 SI474A 竪穴住居跡出土遺物(1) …… 346	第281図 SI491 竪穴住居跡(2) …………… 392
第246図 SI474A 竪穴住居跡出土遺物(2) …… 347	第282図 SI491 竪穴住居跡出土遺物 ……… 394
第247図 SI474A 竪穴住居跡出土遺物(3) …… 348	第283図 SI492 竪穴住居跡(1) …………… 395
第248図 SI474B 竪穴住居跡 ……… 349・350	第284図 SI492 竪穴住居跡(2) …………… 396
第249図 SI474B 竪穴住居跡出土遺物 ……… 351	第285図 SI492 竪穴住居跡出土遺物 ……… 397
第250図 SI475 竪穴住居跡(1) …………… 353	第286図 SI493 竪穴住居跡 …………… 399
第251図 SI475 竪穴住居跡(2)・ 同出土遺物 …………… 354	第287図 SI493 竪穴住居跡出土遺物 ……… 400
第252図 SI476 竪穴住居跡(1) …………… 355	第288図 SI494 竪穴住居跡 …………… 401
第253図 SI476 竪穴住居跡(2) …………… 357	第289図 SI495 竪穴住居跡 …………… 402
第254図 SI476 竪穴住居跡出土遺物 ……… 358	第290図 SI496 竪穴住居跡 …………… 404
第255図 SI477 竪穴住居跡 …………… 360	第291図 SI497 竪穴住居跡(1) …………… 405
第256図 SI477 竪穴住居跡出土遺物 ……… 362	第292図 SI497 竪穴住居跡(2) …………… 407
第257図 SI478 竪穴住居跡 …………… 363	第293図 SI497 竪穴住居跡出土遺物(1) …… 408
第258図 SI479 竪穴住居跡(1) …………… 365	第294図 SI497 竪穴住居跡出土遺物(2) …… 409
第259図 SI479 竪穴住居跡(2) …………… 366	第295図 SI498 竪穴住居跡 …………… 410
第260図 SI479 竪穴住居跡(3) …………… 366	第296図 SI499 竪穴住居跡・同出土遺物 …… 411
第261図 SI479 竪穴住居跡出土遺物 ……… 367	第297図 SI500 竪穴住居跡 …………… 413
第262図 SI480 竪穴住居跡(1) …………… 368	第298図 SI501 竪穴住居跡 …………… 414
第263図 SI480 竪穴住居跡(2) …………… 369	第299図 SI502 竪穴住居跡 …………… 415
第264図 SI481 竪穴住居跡 …………… 370	第300図 SI502 竪穴住居跡出土遺物(1) …… 417
	第301図 SI502 竪穴住居跡出土遺物(2) …… 418

第302 図	SI503 竪穴住居跡	419	第340 図	SI520 竪穴住居跡出土遺物(1)	466
第303 図	SI504 竪穴住居跡	420	第341 図	SI520 竪穴住居跡出土遺物(2)	467
第304 図	SI505 竪穴住居跡(1)	421	第342 図	SI521 竪穴住居跡	468
第305 図	SI505 竪穴住居跡(2)	422	第343 図	SI523 竪穴住居跡(1)	470
第306 図	SI505 竪穴住居跡(3)	423	第344 図	SI523 竪穴住居跡(2)	471
第307 図	SI505 竪穴住居跡出土遺物(1)	424	第345 図	SI523 竪穴住居跡出土遺物(1)	473
第308 図	SI505 竪穴住居跡出土遺物(2)	425	第346 図	SI523 竪穴住居跡出土遺物(2)	474
第309 図	SI505 竪穴住居跡出土遺物(3)	426	第347 図	SI524 竪穴住居跡・同出土遺物	475
第310 図	SI506 竪穴住居跡・同出土遺物	427	第348 図	SI525 竪穴住居跡・同出土遺物	477
第311 図	SI507 竪穴住居跡	428	第349 図	SI526 竪穴住居跡(1)	478
第312 図	SI508 竪穴住居跡	429	第350 図	SI526 竪穴住居跡(2)	479
第313 図	SI509 竪穴住居跡	430	第351 図	SI526 竪穴住居跡出土遺物	480
第314 図	SI509 竪穴住居跡出土遺物	432	第352 図	SI527 竪穴住居跡(1)	482
第315 図	SI510 竪穴住居跡	433	第353 図	SI527 竪穴住居跡(2)	484
第316 図	SI510 竪穴住居跡出土遺物	434	第354 図	SI527 竪穴住居跡(3)	484
第317 図	SI511 竪穴住居跡(1)	436	第355 図	SI527 竪穴住居跡出土遺物	485
第318 図	SI511 竪穴住居跡(2)	437	第356 図	SI528 竪穴住居跡	486
第319 図	SI511 竪穴住居跡出土遺物	438	第357 図	SI528 竪穴住居跡出土遺物	488
第320 図	SI512 竪穴住居跡・同出土遺物	440	第358 図	SI529 竪穴住居跡	489
第321 図	SI513 竪穴住居跡	442	第359 図	SI530 竪穴住居跡・同出土遺物	490
第322 図	SI513 竪穴住居跡出土遺物	443	第360 図	SI531 竪穴住居跡	492
第323 図	SI514 竪穴住居跡(1)	444	第361 図	SI532 竪穴住居跡	493
第324 図	SI514 竪穴住居跡(2)	445	第362 図	SI522 竪穴状遺構—床面1(1)	495
第325 図	SI514 竪穴住居跡出土遺物	447	第363 図	SI522 竪穴状遺構—床面1(2)	496
第326 図	SI515 竪穴住居跡(1)	449	第364 図	SI522 竪穴状遺構—床面1(3)	
第327 図	SI515 竪穴住居跡(2)	450		および遺物出土状況	496
第328 図	SI515 竪穴住居跡(3)	451	第365 図	SI522 竪穴状遺構—床面2	498
第329 図	SI515 竪穴住居跡出土遺物	452	第366 図	SI522 竪穴状遺構出土遺物(1)	500
第330 図	SI516 竪穴住居跡	454	第367 図	SI522 竪穴状遺構出土遺物(2)	501
第331 図	SI516 竪穴住居跡出土遺物	455	第368 図	SK328・329・355・358・383・ 461・477 鍛冶関連遺構	503
第332 図	SI517 竪穴住居跡(1)	456	第369 図	SK355 鍛冶関連遺構出土遺物	504
第333 図	SI517 竪穴住居跡(2)	457	第370 図	SX37・39・42～44 鍛冶関連遺構	507
第334 図	SI518 竪穴住居跡(1)	458	第371 図	SX37・42 鍛冶関連遺構 出土遺物	508
第335 図	SI518 竪穴住居跡(2)・ 同出土遺物	459	第372 図	SX46・47 鍛冶関連遺構	509
第336 図	SI519 竪穴住居跡	461	第373 図	SB45 掘立柱建物跡出土遺物	511
第337 図	SI519 竪穴住居跡出土遺物	463	第374 図	SB45 掘立柱建物跡	512
第338 図	SI520 竪穴住居跡(1)	464			
第339 図	SI520 竪穴住居跡(2)	465			

第375図	SB46 掘立柱建物跡	513	第410図	SD345 溝跡出土遺物	556
第376図	SB47 掘立柱建物跡出土遺物	514	第411図	SD346～348 溝跡	557
第377図	SB47 掘立柱建物跡	515・516	第412図	SD349・350・356 溝跡	558
第378図	SB48 掘立柱建物跡	518	第413図	SD349 溝跡出土遺物	559
第379図	SB49 掘立柱建物跡	521・522	第414図	SD351～353 溝跡・SD351・352 溝跡出土遺物	560
第380図	古墳時代～奈良時代遺構配置図 (溝跡・土坑・性格不明遺構)	524	第415図	SD354・357～360 溝跡	561
第381図	SD284・286～289・301～304 ・332～334 溝跡(1)	525	第416図	SD361・362 溝跡	562
第382図	SD284・286～289・301～304 ・332～334 溝跡(2)	526	第417図	SK336・346 土坑出土遺物	563
第383図	SD284 溝跡出土遺物	527	第418図	古墳時代～奈良時代土坑(1)	564
第384図	SD332 溝跡出土遺物	528	第419図	古墳時代～奈良時代土坑(2)	565
第385図	SD296・319 溝跡	529	第420図	古墳時代～奈良時代土坑(3)	566
第386図	SD297 溝跡出土遺物	530	第421図	古墳時代～奈良時代土坑(4)	567
第387図	SD297 溝跡	531	第422図	古墳時代～奈良時代土坑(5)	568
第388図	SD291・298・306・308 溝跡	532	第423図	古墳時代～奈良時代 ピット配置図(1)	571
第389図	SD299 溝跡	533	第424図	古墳時代～奈良時代 ピット配置図(2)	572
第390図	SD299 溝跡出土遺物	534	第425図	古墳時代～奈良時代 ピット配置図(3)	573
第391図	SD301 溝跡出土遺物	535	第426図	古墳時代～奈良時代 ピット配置図(4)	574
第392図	SD303 溝跡出土遺物(1)	537	第427図	古墳時代～奈良時代 ピット配置図(5)	575
第393図	SD303 溝跡出土遺物(2)	538	第428図	古墳時代～奈良時代 ピット配置図(6)	576
第394図	SD333 溝跡出土遺物	539	第429図	SX41・49・50～52 性格不明遺構	581
第395図	SD312 溝跡出土遺物	540	第430図	遺構外出土遺物(1)	583
第396図	SD309・310・312・313 溝跡	541	第431図	遺構外出土遺物(2)	584
第397図	SD314 溝跡出土遺物	541	第432図	遺構外出土遺物(3)	586
第398図	SD311・314・315・318 溝跡	542	第433図	遺構外出土遺物(4)	587
第399図	SD317 溝跡出土遺物	544	第434図	弥生時代調査区配置図	588
第400図	SD317・320・321 溝跡	545	第435図	弥生A区IV・V層遺物 出土状況図	589
第401図	SD322 溝跡・同出土遺物	546	第436図	弥生B・C区IV・V層遺物 出土状況図	590
第402図	SD323～327 溝跡・ SD325 溝跡出土遺物	548	第437図	弥生D区IV・V層遺物 出土状況図	591・592
第403図	SD328 溝跡	549			
第404図	SD328 溝跡出土遺物	550			
第405図	SD331 溝跡出土遺物	551			
第406図	SD330・331 溝跡	552			
第407図	SD338・340・341 溝跡	553			
第408図	SD343・345 溝跡	555			
第409図	SD343 溝跡出土遺物	556			

第438図	弥生E区IV・V層遺物 出土状況図	593	第462図	包含層外出土石器(4)	619
第439図	IV・V層出土弥生土器(1)	593	第463図	包含層外出土石器(5)	620
第440図	IV・V層出土弥生土器(2)	595	第464図	包含層外出土石器(6)	621・622
第441図	IV・V層出土弥生土器(3)	596	第465図	包含層外出土石器(7)	623
第442図	IV・V層出土弥生土器(4)	597	第466図	包含層外出土石器(8)	624
第443図	IV・V層出土石器(1)	598	第467図	包含層外出土石器(9)	625
第444図	IV・V層出土石器(2)	599	第468図	包含層外出土石器(10)	626
第445図	IV・V層出土石器(3)	600	第469図	包含層外出土石器(11)	627
第446図	包含層外出土弥生土器(1)	602	第470図	包含層外出土石器(12)	628
第447図	包含層外出土弥生土器(2)	603	第471図	接合資料1	629・630
第448図	包含層外出土弥生土器(3)	604	第472図	接合資料2	631
第449図	包含層外出土弥生土器(4)	605	第473図	接合資料3	632
第450図	包含層外出土弥生土器(5)	606	第474図	接合資料6・7	633・634
第451図	包含層外出土弥生土器(6)	607	第475図	接合資料4・5	635
第452図	包含層外出土弥生土器(7)	608	第476図	包含層外出土縄文土器	636
第453図	包含層外出土弥生土器(8)	609	第477図	下層トレンチ配置図	636
第454図	包含層外出土弥生土器(9)	610	第478図	TR1・2断面図	637
第455図	包含層外出土弥生土器(10)	611	第479図	TR3～5断面図	639
第456図	包含層外出土弥生土器(11)	612	第480図	花粉分析試料採取位置	641
第457図	包含層外出土弥生土器(12)	613	第481図	花粉化石群集	643
第458図	包含層外出土弥生土器(13)	614	第482図	花粉化石	646
第459図	包含層外出土石器(1)	616	第483図	炭化物試料採取位置(1)	647
第460図	包含層外出土石器(2)	617	第484図	炭化物試料採取位置(2)	648
第461図	包含層外出土石器(3)	618	第485図	暦年較正年代グラフ(参考)(1)	652
			第486図	暦年較正年代グラフ(参考)(2)	653

第2分冊 挿表目次

第23表 鍛冶関連遺構 (SK) 観察表 …………… 505	第33表 土坑 (古墳時代～奈良時代) 観察表 (3) …………… 570
第24表 鍛冶関連遺構 (SX) 観察表 …………… 509	第34表 ピット (古墳時代～奈良時代) 観察表 (1) …………… 577
第25表 溝跡 (古墳時代～奈良時代) 観察表 (1) …………… 543	第35表 ピット (古墳時代～奈良時代) 観察表 (2) …………… 578
第26表 溝跡 (古墳時代～奈良時代) 観察表 (2) …………… 544	第36表 ピット (古墳時代～奈良時代) 観察表 (3) …………… 579
第27表 溝跡 (古墳時代～奈良時代) 観察表 (3) …………… 548	第37表 ピット (古墳時代～奈良時代) 観察表 (4) …………… 580
第28表 溝跡 (古墳時代～奈良時代) 観察表 (4) …………… 550	第38表 性格不明遺構 (古墳時代～奈良時代) 観察表 …………… 582
第29表 溝跡 (古墳時代～奈良時代) 観察表 (5) …………… 554	第39表 花粉分析結果 …………… 642
第30表 溝跡 (古墳時代～奈良時代) 観察表 (6) …………… 562	第40表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值) …………… 650
第31表 土坑 (古墳時代～奈良時代) 観察表 (1) …………… 568	第41表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年代較正用 ^{14}C 年代、 較正年代) …………… 651
第32表 土坑 (古墳時代～奈良時代) 観察表 (2) …………… 569	

第5章 検出遺構と出土遺物

第2節 古墳時代～奈良時代の遺構と遺物(第229～433図)

(1) 竪穴住居跡(第229～361図)

SI469 竪穴住居跡(第229・230図)

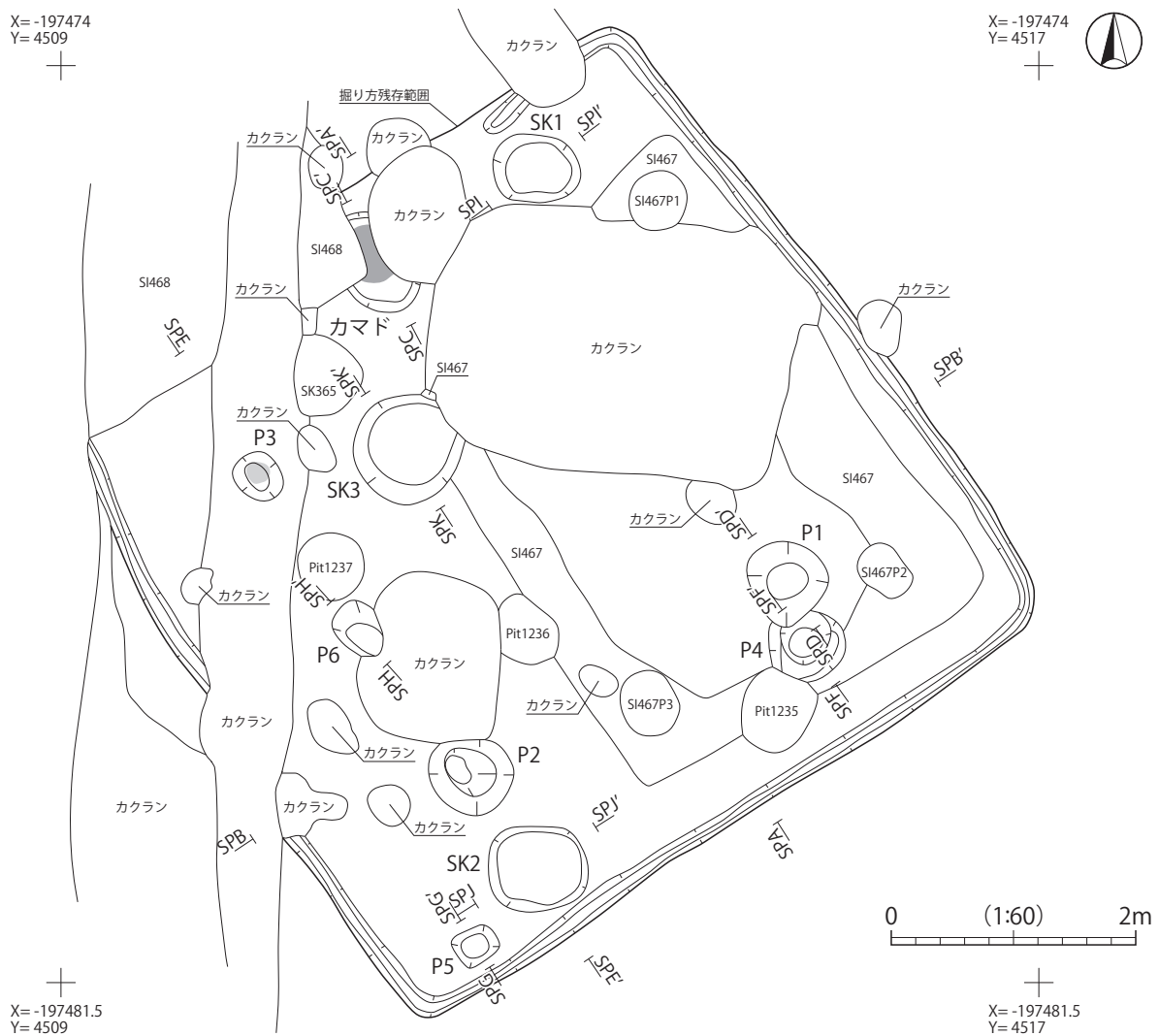
【位置・確認】 調査区西部の95・102・103・111区に位置する。壁・床面の大部分が、SI468の重複や削平・攪乱により失われている。

【重複】 SI467・468より古く、SI495より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸626cm、短軸604cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-36°-Wを測る。

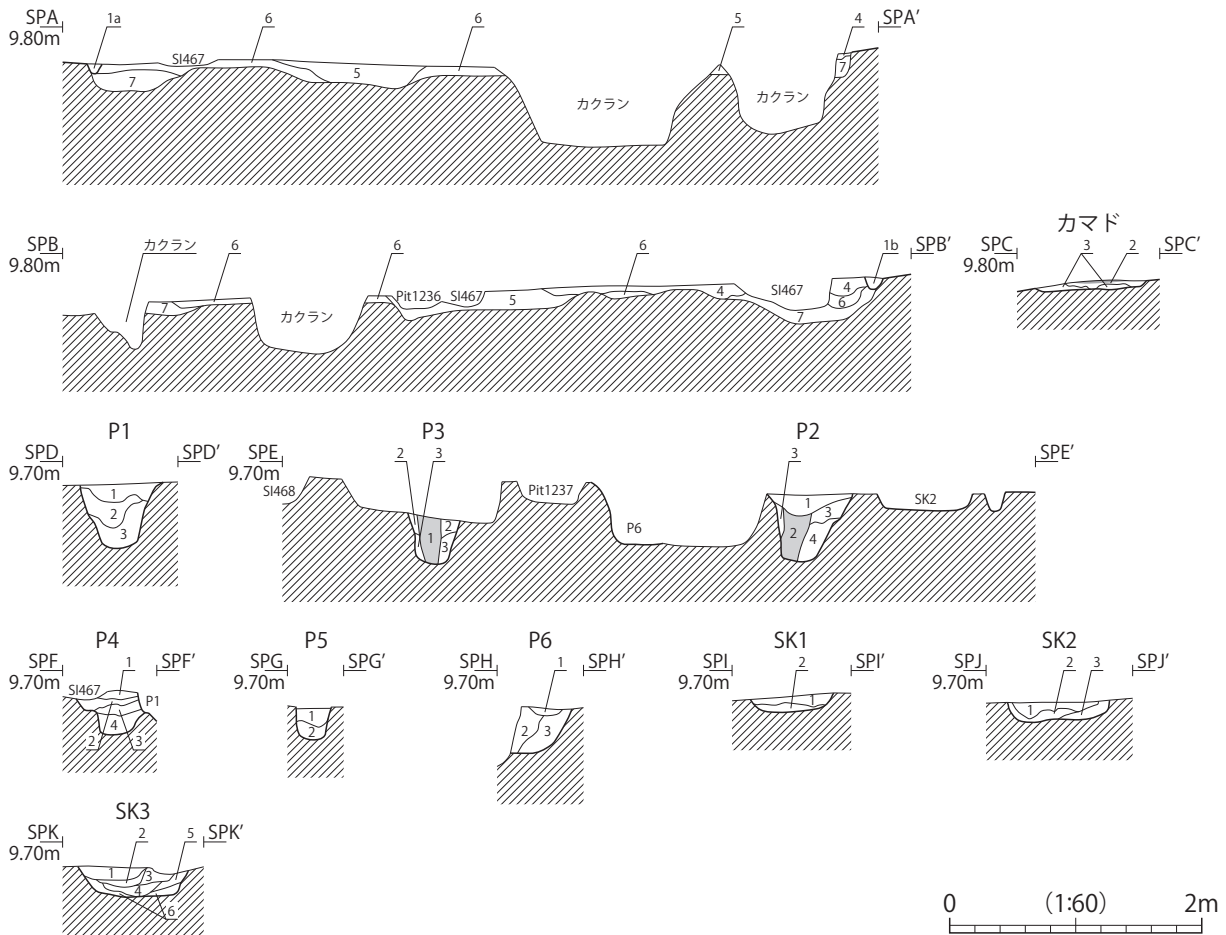
【堆積土】 大別で7層に分層した。1層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。2・3層はカマド掘り方埋土、4～7層は住居掘り方埋土である。



第229図 SI469 竪穴住居跡(1)

SI469 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝堆積土	1a	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
	1b	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※一部グライ化
カマド掘り方埋土	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒少量含む。 ※上面被熱
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
住居掘り方埋土	4	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。



第230図 SI469 竪穴住居跡(2)

【壁面】 壁高は最大で5cm残存するが、形状は不明である。

【床面】 全体の形状は不明で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～3の規模は残存値も含め長軸42～69cm、短軸36～63cm、深さ42～54cmを測る。P2の堆積土下半とP3の堆積土で、径18～22cm程度の柱痕跡を確認した。P4はP1の南側に重複し、その状況や規模などから建て替え前の古い支柱穴であった可能性がある。P5・6は補助柱穴などと考えられ、P5は南西隅、P6はP2とP3の中間に配置されている。P6で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐり。断面形はU字形を呈し、規模は幅10～18cm、深さ9～14cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置するが、燃焼部の底面のみ残存する。燃焼部は壁内に位置し、壁面から40cm程度内側に長径39cm程度の焼面がみられる。

SI469 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~40mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P4	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、白色粘土ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、白色粘土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、白色粘土ブロック(5~20mm程度)少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	
P6	1	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、褐灰色シルトブロック(5~20mm程度)少量含む。
	3	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・焼土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	5YR5/2 灰褐色	シルト	焼土粒多量、IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒少量含む。
SK2	1	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土粒多量、IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
	2	5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK3	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	2.5YR4/1 赤灰色	シルト	焼土粒多量、IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒少量含む。
	4	2.5YR4/1 赤灰色	シルト	焼土粒多量、IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	6	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。

SI469 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	円形	65×62	54		主柱穴
P2	円形	69×63	54		主柱穴 柱痕跡
P3	(円形)	(42)×(36)	(42)		主柱穴 柱痕跡
P4	(円形)	(64)×(56)	34		旧主柱穴
P5	隅丸方形	35×28	29		補助柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P6	(隅丸長方形)	(48)×37	48		補助柱穴
SK1	楕円形	72×55	16		貯蔵穴
SK2	隅丸方形	81×70	14		カマド関連土坑
SK3	円形	88×(82)	28		カマド関連土坑

【その他の施設】 床面で3基(SK1~3)の土坑を検出した。SK1はカマドと北東隅の中間、SK2は南壁際の西寄り、SK3はカマド前に位置する。SK1は位置や形状から貯蔵穴、SK2・3は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK1の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸72cm、短軸55cm、深さ16cmを測る。SK2の平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸81cm、短軸70cm、深さ14cmを測る。SK3の平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸88cm、短軸82cm、深さ28cmを測る。

【掘り方】 深さ11~33cmを測り、南側から北側に向かって階段状に低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器、鉄滓などが出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。

SI470 竪穴住居跡(第231図)

【位置・確認】 調査区南西部の95・96・103・104区に位置する。壁・床面全体が削平され、掘り方のみ残存する。掘り方は、西壁付近がSI463、北東隅がSD309の重複により失われている。

【重複】 SI463、SD309より古く、SI498より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸433cm、短軸400cmを測り、平面形は東西に長い長方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-44°-Eを測る。

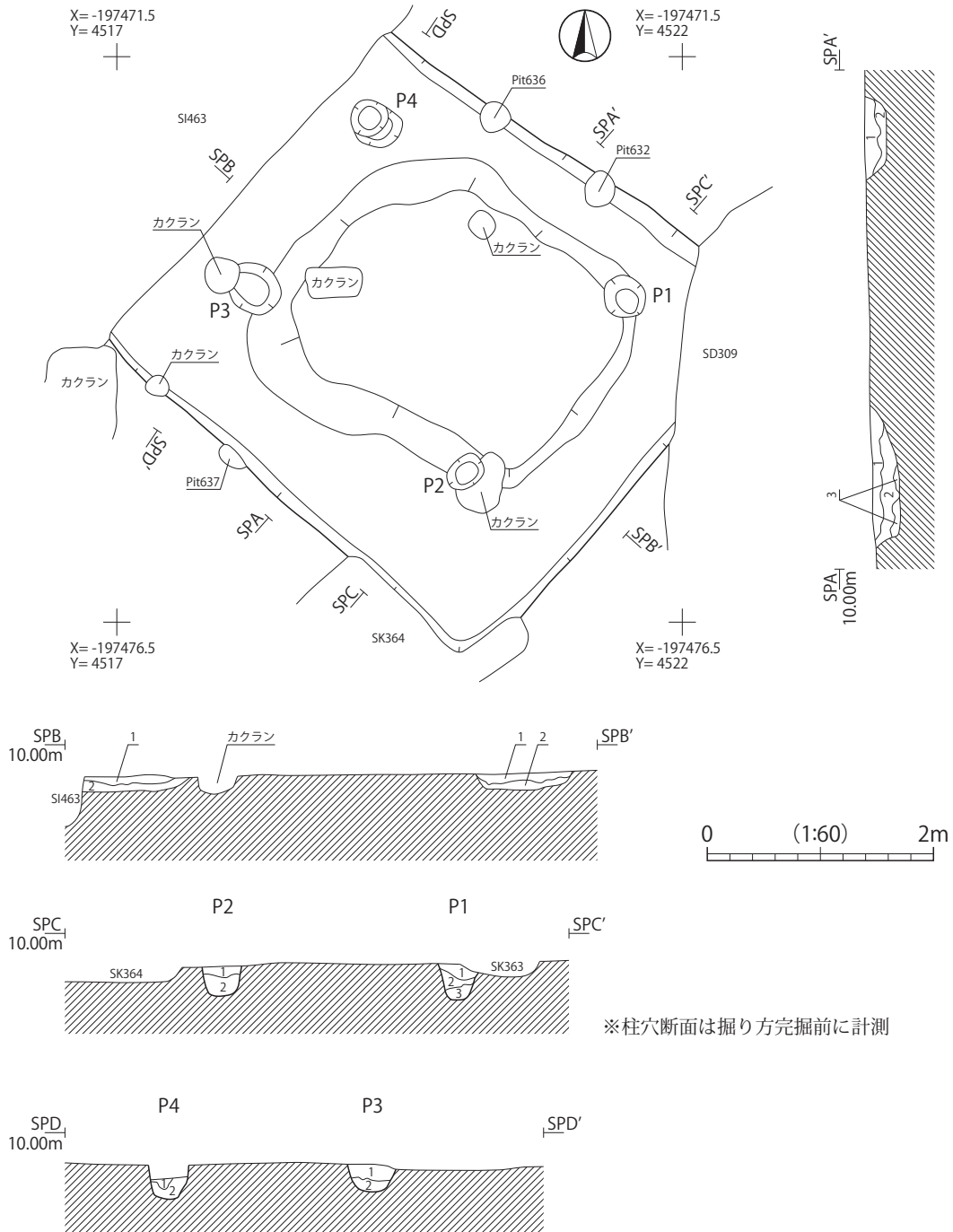
【堆積土】 3層に分層した。いずれも住居掘り方埋土である。

【柱穴】 掘り方底面で4基(P1~4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は残存値も含め長軸35~49cm、短軸26~43cm、深さ25~32cmを測る。

【掘り方】 残存値で深さ12～24cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 掘り方埋土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI463との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。



SI470 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方埋土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 ※北西部グライ化
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。
	3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量含む。

第231図 SI470 竪穴住居跡

SI470 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
P4	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰白色シルトブロック(10mm程度)微量含む。

SI470 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(40)×(36)	32	主柱穴
P2	(楕円形)	(35)×(26)	25	主柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	(円形)	(49)×(43)	26	主柱穴
P4	(楕円形)	(47)×(37)	32	主柱穴

SI471 竪穴住居跡(第232～235図)

【位置・確認】 調査区中央部西寄りの61・70区に位置する。北東部から南西部の床面と掘り方が溝状の攪乱に、カマド1煙道部の先端部付近と北東隅の上部がSD305の重複により失われている。

【重複】 SI491・512、SK450、Pit1315・1399より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸525cm、短軸507cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマド1を基準としてN-27°-Wを測る。

【堆積土】 22層に分層した。1～3層は灰黄褐色・にぶい黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。4・5層は周溝堆積土だが、5層は壁際の周溝よりもさらに内側から検出された、もう一つの周溝堆積土である。6～15層はカマド1堆積土、16・17層はカマド1袖構築土、18～22層は住居掘り方埋土である。またカマド2は個別に層番を付し、6層に分層した。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で40cmを測る。

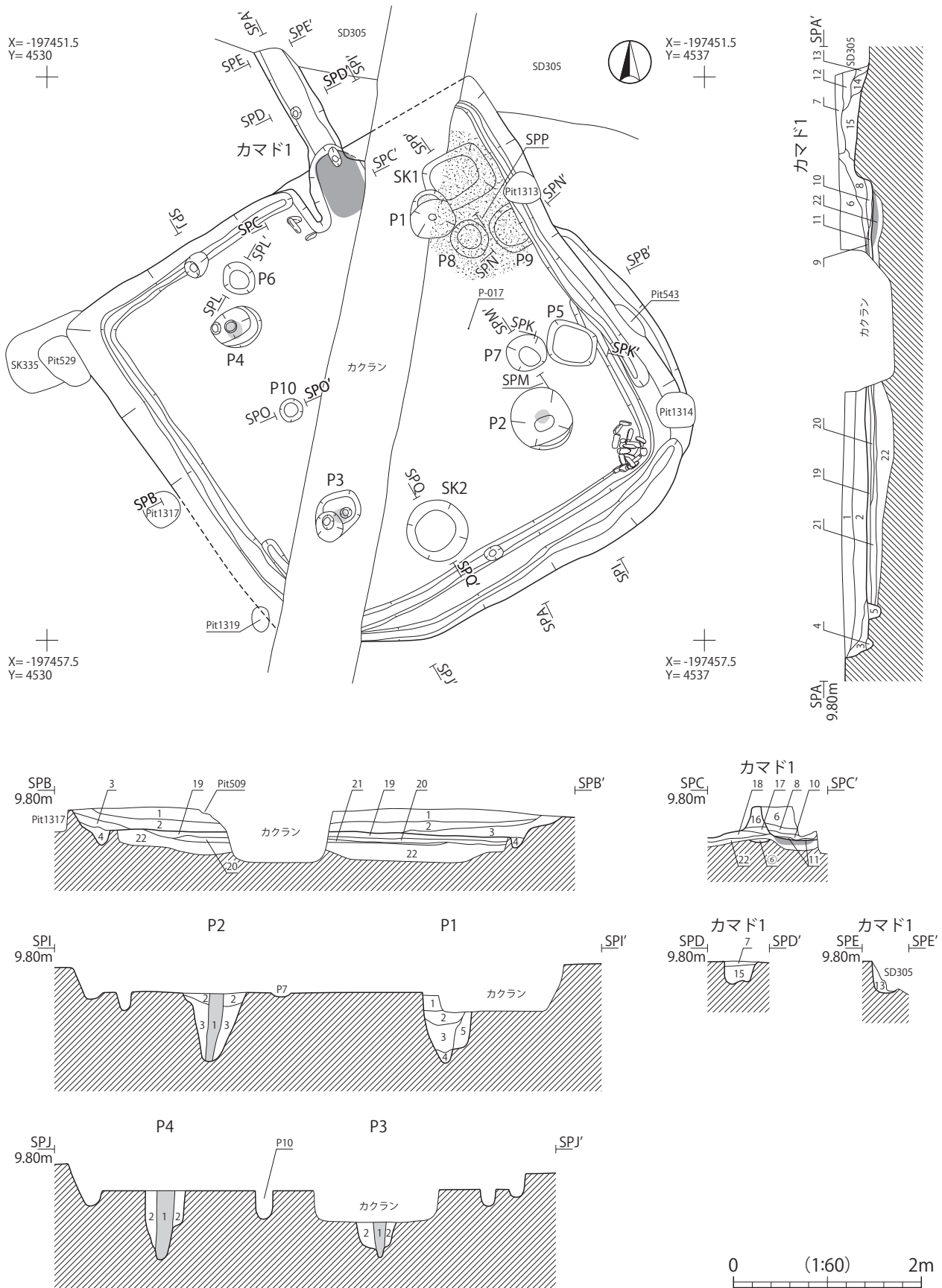
【床面】 概ね平坦で、褐灰色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。北東隅には炭化物範囲が広がり、南東隅には礫の集積がみられた。

【柱穴】 床面で8基(P1～5・7・8・10)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は残存値も含め長軸53～68cm、短軸43～62cm、深さ38～75cmを測る。P2～4で径15～19cm程度の柱痕跡が、P1で柱の抜き取り痕を確認した。P7・8・10は補助柱穴と考えられ、P7はP2北側、P8はP1南側の至近に、P10はP3とP4の間に配置されている。P5は土坑状で浅いため、柱穴以外の性格も考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形ないしV字形に近い形状を呈し、規模は幅10～20cm、深さ1～19cmを測る。また南半部では、壁際の周溝から9～21cm前後内側にもう一つの周溝が検出された。住居南半の周溝に沿って「コ」字状にめぐり、規模は幅17～20cm、深さ13～19cmを測る。壁際の周溝に一部壊されていることから古い周溝と考えられ、壁の拡張が行われたと考えられる。

【カマド】 北壁に並んだ状態で、カマド1・2を検出した。カマド1の方が新しい。カマド1は壁の中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、東袖は攪乱により失われている。西袖は壁面に対して直交し、規模は長さ64cm、幅25～32cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き81cm、幅67cmを測る。底面は弧状にくぼみ、長径70cm程度の焼面がみられる。奥壁は外反して18cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は残存値で長さ120cm、幅33～39cm、深さ16～31cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

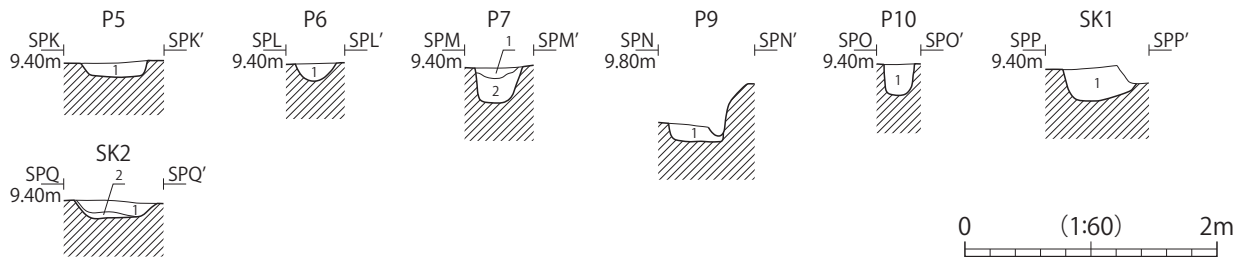
カマド2はカマド1の西側に位置し、煙道部のみ残存する。煙道部は壁面から直交して延び、住居床面とは9cm程度の比高差が認められる。規模は残存値で長さ105cm、幅20～29cm、深さ18～25cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。



第232図 SI471 竪穴住居跡(1)

SI471 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
カマド1 堆積土	6	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。 ※天井崩落土
	8	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒多量含む。
	9	10YR2/1 黒色	シルト	焼土粒多量含む。
	10	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒多量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	13	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
	14	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	15	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
カマド1袖 構築土	16	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	17	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方 埋土	18	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	19	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	20	10YR7/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	21	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)炭化物粒微量含む。
	22	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(20～50mm程度)多量含む。
カマド2 堆積土	①	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～50mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。 ※天井崩落土
	③	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。
	④	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	⑤	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)炭化物粒少量含む。
	⑥	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。



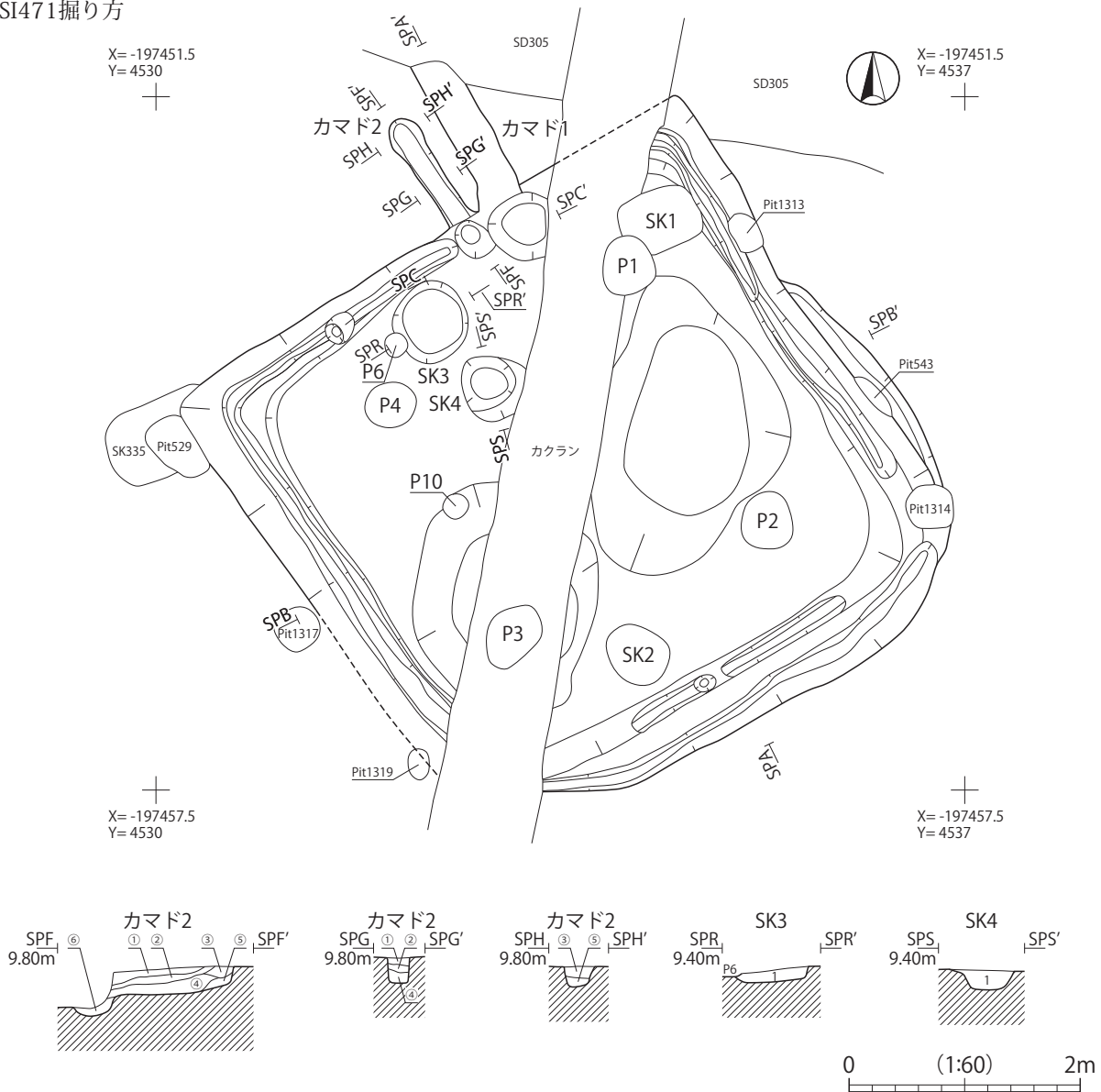
SI471 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	炭化物粒少量、IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。
	4	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。
P4	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P6	1	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土粒多量、炭化物粒少量、IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量、IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。
P9	1	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土粒多量、IV層土ブロック(10～15mm程度)炭化物粒微量含む。
P10	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量、IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	細砂	IV層土粒微量含む。
SK3	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK4	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)炭化物粒少量、焼土粒微量含む。

第233図 SI471 竪穴住居跡(2)

【その他の施設】 床面で2基 (SK1・2) の土坑と2基 (P6・9) のピット、掘り方で2基 (SK3・4) の土坑を検出した。SK1は北東隅、SK2は南壁際、SK3・4はカマド1・2の西側に位置する。SK1・3は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は残存値で長軸71cm、短軸58cm、深さ26cmを測る。SK3の平面形は円形を呈し、規模は長軸65cm、短軸64cm、深さ8cmを測る。P6・9は土坑状で浅く、堆積土に焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑と考えられる。

SI471掘り方



SI471 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	(円形)	(53) × (48)	75		主柱穴
P2	円形	68 × 62	73		主柱穴 柱痕跡
P3	(楕円形)	(60) × (45)	(38)		主柱穴 柱痕跡
P4	楕円形	54 × 43	74		主柱穴 柱痕跡
P5	隅丸長方形	54 × 45	12		性格不明(土坑か)
P6	円形	34 × 34	15		カマド関連土坑
P7	円形	43 × 38	40		補助柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P8	円形	41 × 38	21		補助柱穴
P9	(隅丸方形)	50 × (37)	14		カマド関連土坑
P10	円形	25 × 24	26		補助柱穴
SK1	隅丸長方形	(71) × 58	26		貯蔵穴
SK2	円形	66 × 64	12		性格不明土坑
SK3	円形	65 × 64	8		貯蔵穴
SK4	(円形)	59 × (58)	16		性格不明土坑

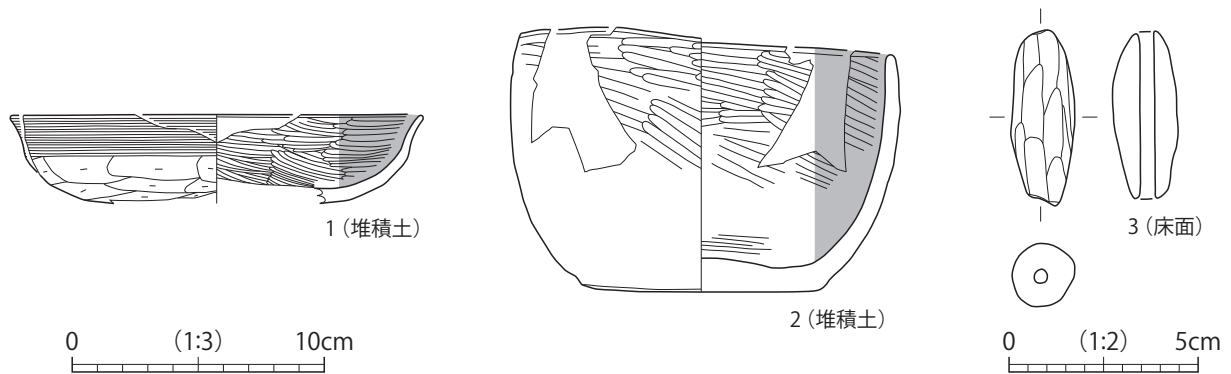
第234図 SI471 竪穴住居跡 (3)

【掘り方】 深さ11～20cmを測る。中央部の東西2箇所が、土坑状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、土製品などが出土し、土師器環1点・鉢1点、土製品1点を掲載した(第235図)。

3は東部の床面から出土した。1は浅身の土師器環で、薄手で精巧なつくりである。体部は内湾し、口縁部で外反する。内面に黒色処理が施されている。色調は橙色を呈し、胎土はやや粗く、3mm以下の砂礫と赤色粒子、海綿骨針をいずれも微量含む。関東系土師器が在地化したものと考えられる。2は土師器鉢である。平底から緩く屈曲して立ち上がり、内湾しながら口縁部に至る。内面に黒色処理が施されている。3は管状の土錘で、外面はナデが施されている。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI491との新旧関係から、6期(8世紀前半)以降と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-178	SI471	堆積土	土師器	環	(16.2)	—	(3.5)	口縁:ヨゾリ 体~底部:ヘラズリ	ヘラガキ	内面黒色処理 骨針微量含む	340
2	C-179	SI471	堆積土	土師器	鉢	(14.5)	9.3	10.5	口縁~体部:ヘラガキ 底部:不明	ヘラガキ	内面黒色処理 内外面やや摩滅	340

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
3	P-017	SI471	床面	土製品	土錘	4.7	1.7	1.7	12.1	孔径0.4cm	340

第235図 SI471 竪穴住居跡出土遺物

SI472 竪穴住居跡(第236～238図)

【位置・確認】 調査区中央部の79・88・97区に位置する。北東隅は攪乱により失われている。

【重複】 SI480・497・513・514・516・517、SD345より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸574cm、短軸525cmを測り、平面形はやや東西に長い方形を呈する。

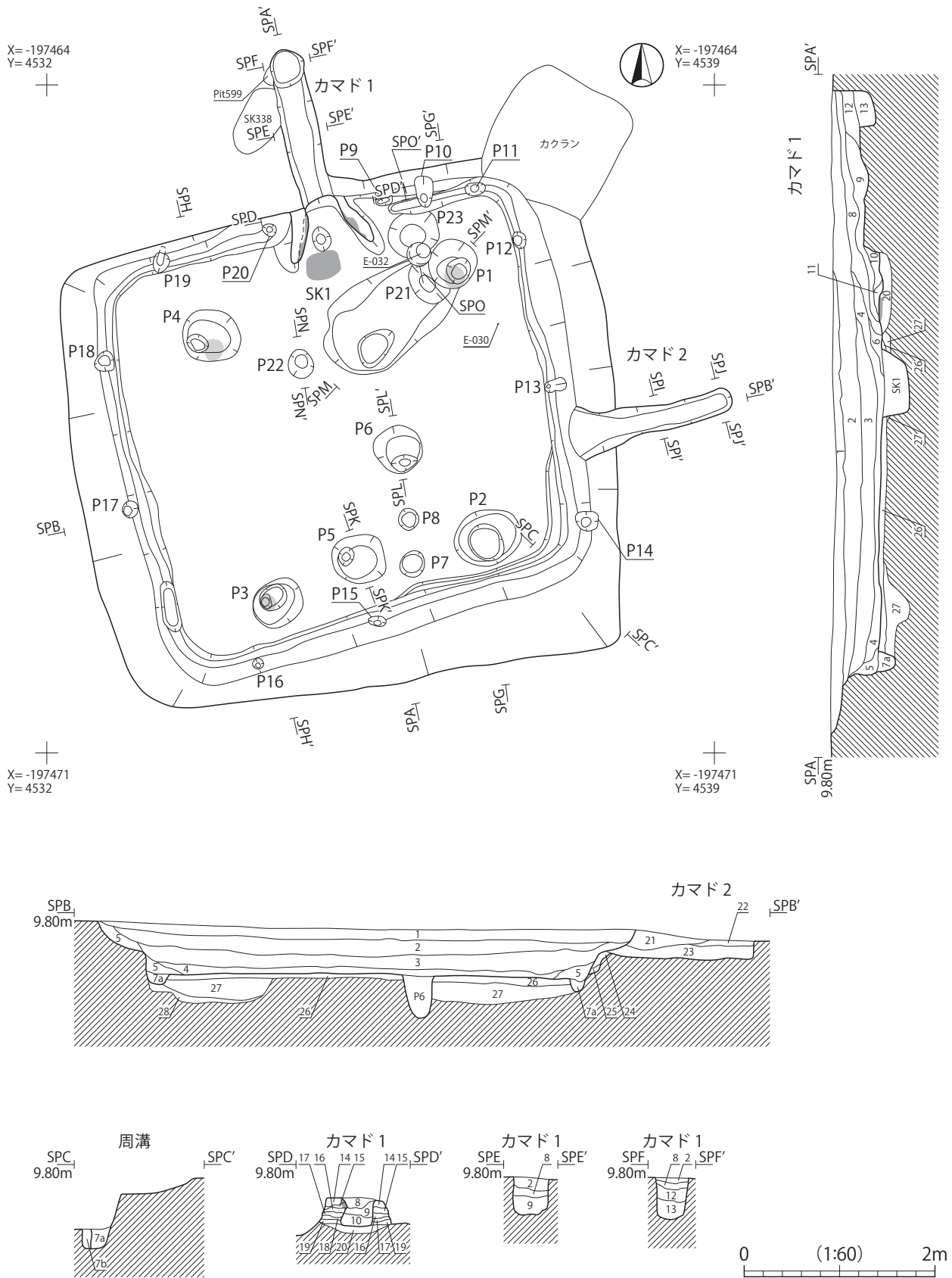
【方向】 カマド1を基準としてN-13°-Wを測る。

【堆積土】 大別で28層に分層した。1～6層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。7層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。8～13層はカマド1堆積土である。14～19層はカマド1袖構築土、20層はカマド1掘り方埋土である。21～25層はカマド2堆積土、26～28層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 中位まで直立気味に立ち上がり、上部で大きく開く。壁高は最大で60cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、黒褐色粘土質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で21基(P1～21)、掘り方で2基(P22・23)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は長軸52～72cm、短軸45～59cm、深さ26～79cmを測る。P2・4は土坑状で浅い。P1・3・4で径18～25cm程度の柱痕跡、P2で柱の抜き取り痕を確認した。補助柱穴と考えられるP5・6・21の配置は不規則である。P22・23の性格は不明だが、P23で柱の抜き取り痕を確認した。P7・8は南壁際から南北に並ぶため、入



第236図 SI472 竪穴住居跡(1)

SI472 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、灰色シルトブロック(5～20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	7a	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒微量含む。
	7b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※旧周溝堆積土か
カマド1 堆積土	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	11	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	焼土粒・灰少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※灰層
	12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	13	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
カマド1袖 構築土	14	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。
	15	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※内面被熱
	16	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。 ※内面被熱
	17	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	18	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	19	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド1 掘り方埋土	20	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド2 堆積土	21	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	22	2.5Y7/3 浅黄色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	23	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物粒少量含む。
	24	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	25	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物粒少量含む。
	26	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方 埋土	27	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	28	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。

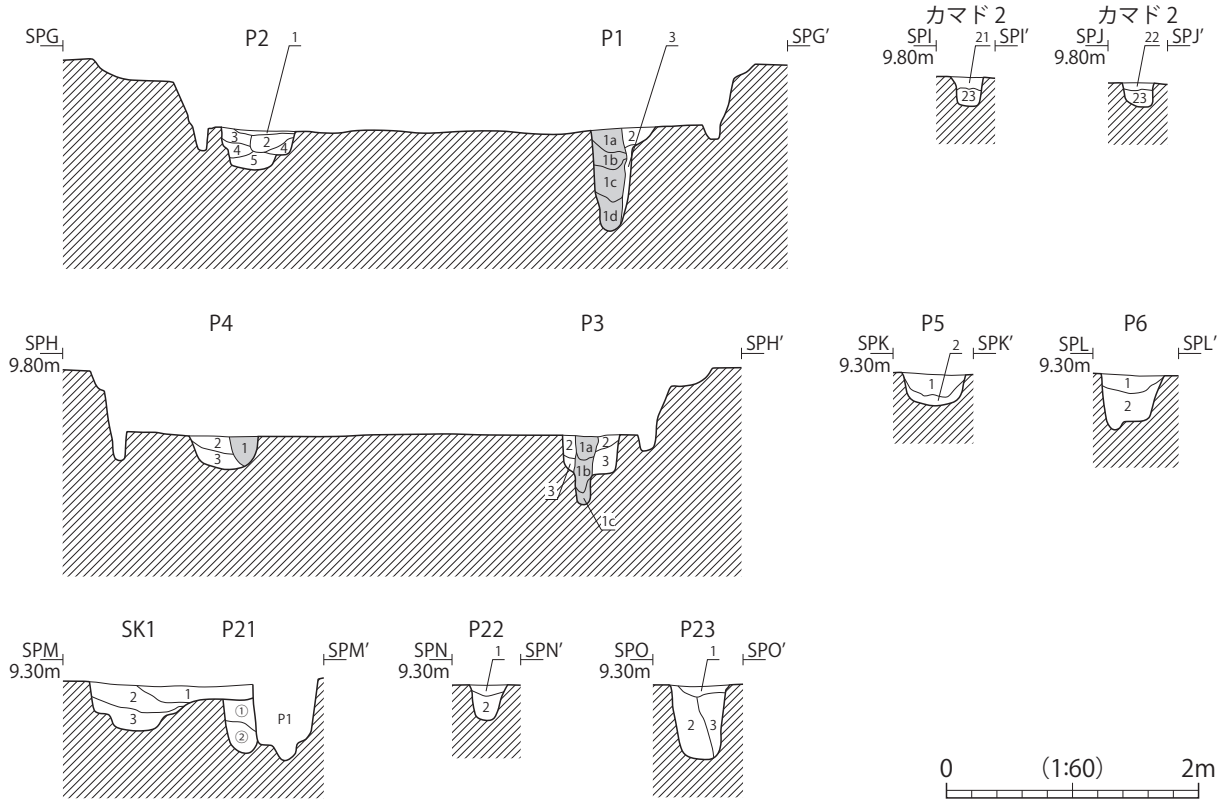
SI472 施設堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1c	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・砂質シルトブロック(5～20mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	1d	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	IV層土粒・砂質シルトブロック(5～20mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1a	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1c	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P4	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P5	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P6	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P7	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P8	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P9	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P10	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒少量含む。
P11	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P12	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P13	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P15	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P16	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P17	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P18	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
P19	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P20	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P21	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P22	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒・灰色粘土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。

SI472 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	52×51	79	主柱穴 柱痕跡
P2	楕円形	72×59	26	主柱穴
P3	楕円形	55×45	55	主柱穴 柱痕跡
P4	円形	60×55	34	主柱穴 柱痕跡
P5	円形	54×50	25	補助柱穴
P6	円形	49×48	43	補助柱穴
P7	円形	28×25	13	補助柱穴(入口施設か)
P8	円形	23×21	10	補助柱穴(入口施設か)
P9	隅丸方形	17×17	47	壁柱穴
P10	楕円形	33×19	68	壁柱穴
P11	楕円形	21×13	(24)	壁柱穴
P12	楕円形	18×14	(31)	壁柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P13	楕円形	23×12	(29)	壁柱穴
P14	隅丸方形	25×22	80	壁柱穴
P15	楕円形	18×10	(23)	壁柱穴
P16	円形	12×12	(20)	壁柱穴
P17	円形	18×16	(33)	壁柱穴
P18	円形	21×21	83	壁柱穴
P19	楕円形	22×17	75	壁柱穴
P20	円形	15×13	(10)	壁柱穴
P21	楕円形	49×(28)	43	補助柱穴
P22	円形	31×27	28	性格不明
P23	円形	55×47	58	性格不明
SK1	楕円形	(151)×90	23	性格不明土坑



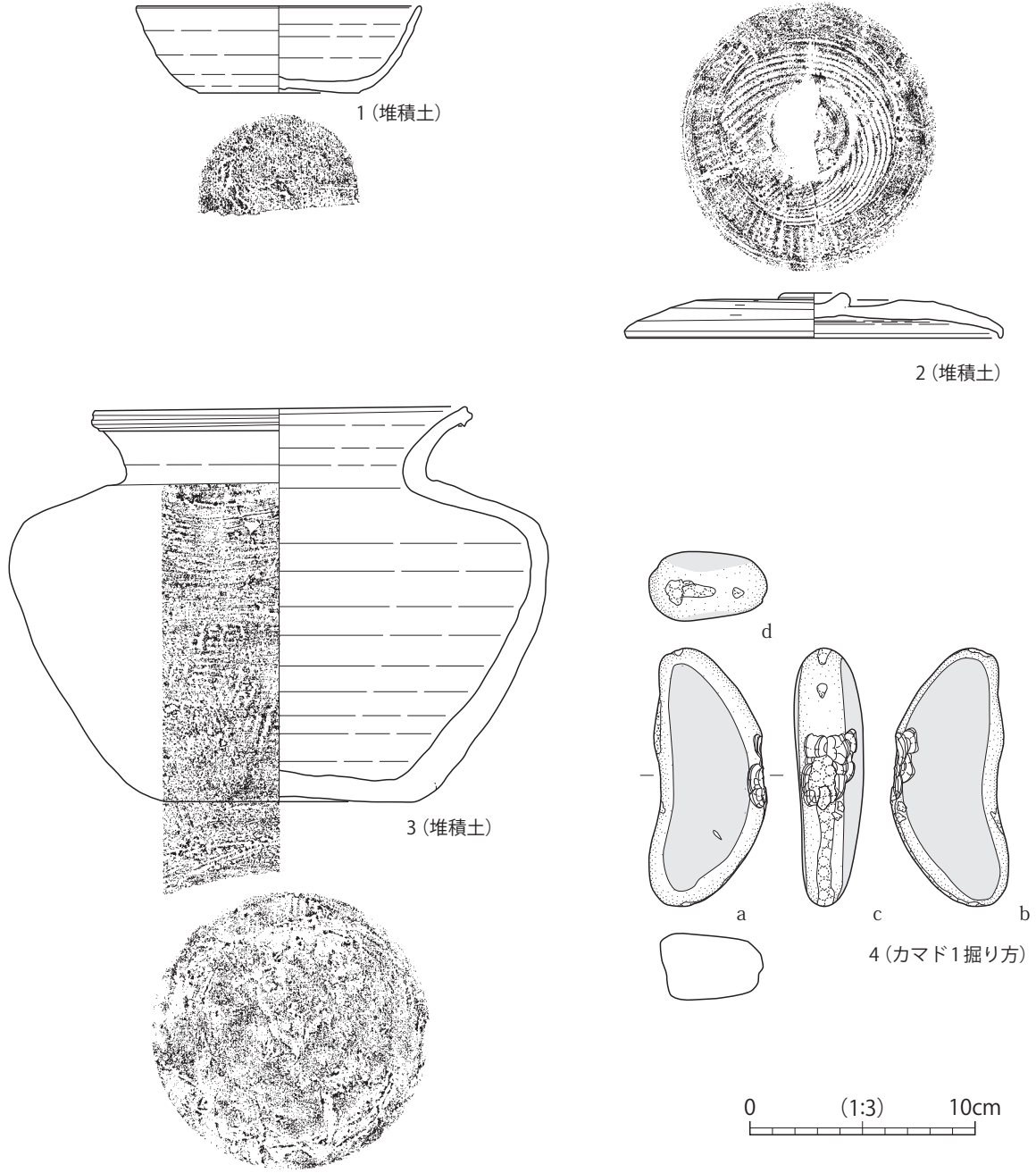
第237図 SI472 竪穴住居跡 (2)

口施設に関連する柱穴の可能性がある。P9～20は壁柱穴で、壁面を一周するように配置されている。

【周溝】 カマド1部分を除き、壁面に沿ってめぐり。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅14～42cm、深さ7～19cmを測る。

【カマド】 北壁でカマド1、東壁でカマド2を検出した。カマド1の方が新しい。カマド1は壁の中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ74cm、幅22cm、西袖は長さ66cm、幅32cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き71cm、幅46cmを測る。底面は概ね平坦で、焚口付近に長径37cm程度の焼面がみられる。燃烧部中央から西寄りの地点には支脚の抜き取り痕とみられる小規模なくぼみがある。奥壁は外傾しながら17cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ162cm、幅31～35cm、深さ35～42cmを測り、底面は起伏しながら先端部に向かって緩やかに立ち上がり、先端部はピット状を呈する。

カマド2は煙道部のみ残存し、煙道部は壁面から直交して延び、住居床面とは26cm程度の比高差が認められる。規模は長さ174cm、幅26～52cm、深さ16～19cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	E-030	SI472	堆積土	須恵器	环	(12.6)	(7.2)	3.9	口調整 底部：回転へ切→手持へスリ	口調整	外面口縁部重ね焼き痕	340
2	E-031	SI472	堆積土	須恵器	蓋	16.7	—	2.0	口縁～天井下位：口調整 天井中位：回転へスリ 天井上位：回転糸切→口調整によるツマミ貼付	口調整	内外面天井部重ね焼き痕	340
3	E-032	SI472	堆積土	須恵器	甕	16.5	11.0	17.6	口縁：口調整 胴上位～中位：平行タタ→口調整 胴下位～底部：回転へスリ→平行タタ 持へスリ 底部：平行タタ→北ナテ	口調整	外面肩部・内面口縁部灰かぶり	341

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
4	Kc-010	SI472 坑1	掘り方	礫石器	磨+敲石	11.4	5.2	3.0	257.5	安山岩	磨2面(平) 敲(側面)	341

第238図 SI472 竪穴住居跡出土遺物

【その他の施設】 床面から1基(SK1)の土坑が検出された。カマド1前に位置し、性格は不明である。

【掘り方】 深さ4～37cmを測る。カマド1前から中央部および南・西壁際の一部を除き、一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、礫石器、鉄滓、土製品などが出土した。堆積土からの出土が大半を占める。須恵器坏1点・蓋1点・甕1点、礫石器1点を掲載した(第238図)。

1はやや深身の須恵器坏である。平底から丸みを持って立ち上がり、外傾しながら内湾気味に口縁部に至る。底部の切り離しは回転ヘラ切りで、手持ちヘラケズリによる再調整が施されている。色調は灰色を呈し、胎土はやや粗く、2mm以下の砂礫と少量の黒色粒子を含む。2は須恵器蓋である。扁平な天井部で、口縁部は短く折り返されている。ツマミはリング状を呈する。天井部には片側を起点に強く糸を引いた静止糸切りによる切り離しが残し、その周縁に回転ヘラケズリが施されている。色調は灰黄色～灰色を呈し、胎土はやや粗く、2mm以下の砂礫と黒色粒子を含む。焼成はやや不良で、軟質に近い。3は須恵器甕である。平底から屈曲して直線的に外傾し、肩部で丸く屈曲する。口縁部は外反気味に外傾し、端部に凸面を持ち、上下はつまみ出されている。灰色～暗灰色を呈し、胎土はやや粗く、3mm以下の砂礫を含む。器壁が厚く、重量感のあるつくりである。4は磨敲石で、磨面は2面みられる。c・d面に敲打痕が認められる。石材は安山岩である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI480・497・513・514・516・517との新旧関係から、6期(8世紀前半)以降と考えられる。

SI473 竪穴住居跡(第239～242図)

【位置・確認】 調査区南部の97・105区に位置する。各壁上部の一部やカマド燃焼部西側、西袖、煙道部の一部が攪乱により失われている。

【重複】 SI474、SD317・350、SK465より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸511cm、短軸460cmを測り、平面形は北側に広がる台形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-22°-Wを測る。

【堆積土】 大別で32層に分層した。1～9層は住居堆積土で、にぶい黄褐色シルトや暗褐色砂質シルト、にぶい黄橙色粘土質シルトなどが互層状に堆積しており、人為的な埋土とみられる。10層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。11～22層はカマド堆積土である。23～25層はカマド袖構築土、26層はカマド掘り方埋土である。27・28層は壁の構築土とみられ、壁面に貼り付くように堆積している。29～32層は住居掘り方埋土である。

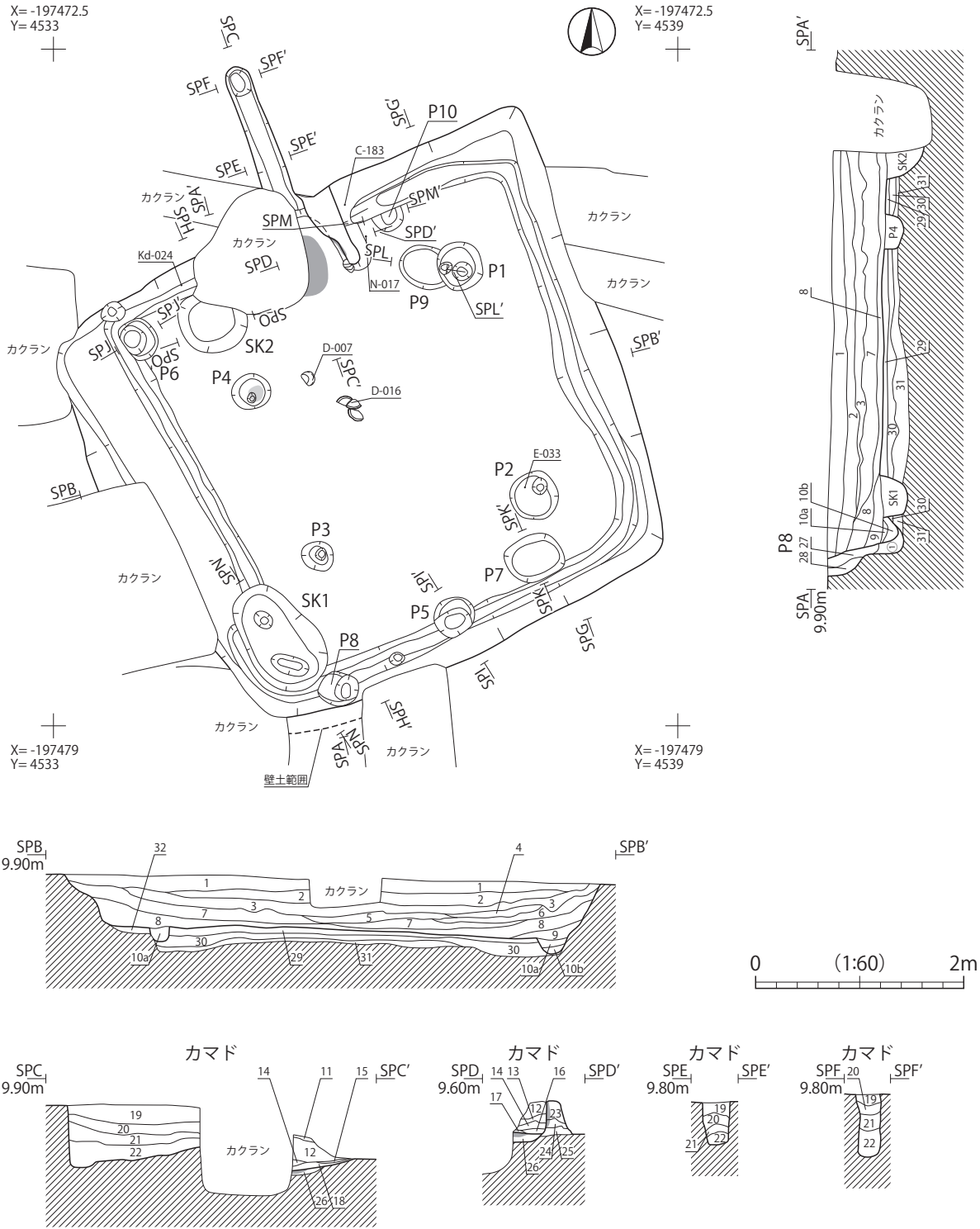
【壁面】 中位まで外傾しながら直線的に立ち上がり、上部で大きく開く。壁高は最大で24cmを測る。

【床面】 中央部が高まり、灰黄褐色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で8基(P1～8)、掘り方で2基(P9・10)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は長軸31～46cm、短軸27～45cm、深さ23～43cmを測る。P4で径12cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6・8は周溝と重複することから、壁柱穴と考えられる。P6の堆積土下半で、径9cm程度の柱痕跡を確認した。P7・9・10の性格は不明だが、P7・9は土坑状で浅いため、柱穴以外の性格も考えられる。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。ただし、南西隅はSK1の重複で不明瞭となっている。なお西壁では45～49cm前後、北壁では4～29cm前後内側に周溝がめぐっているため、西・北壁の拡張が行われた可能性がある。断面形はU字形を呈し、規模は幅16～31cm、深さ6～21cmを測る。底面の一部で壁材の痕跡とみられるくぼみを確認した。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、攪乱により西袖を含む燃焼部西側と煙道部の一部が失われている。東袖は壁面に対して直交し、規模は長さ87cm、幅28～30cmを測る。先端部には棒状の自



SI473 施設観察表

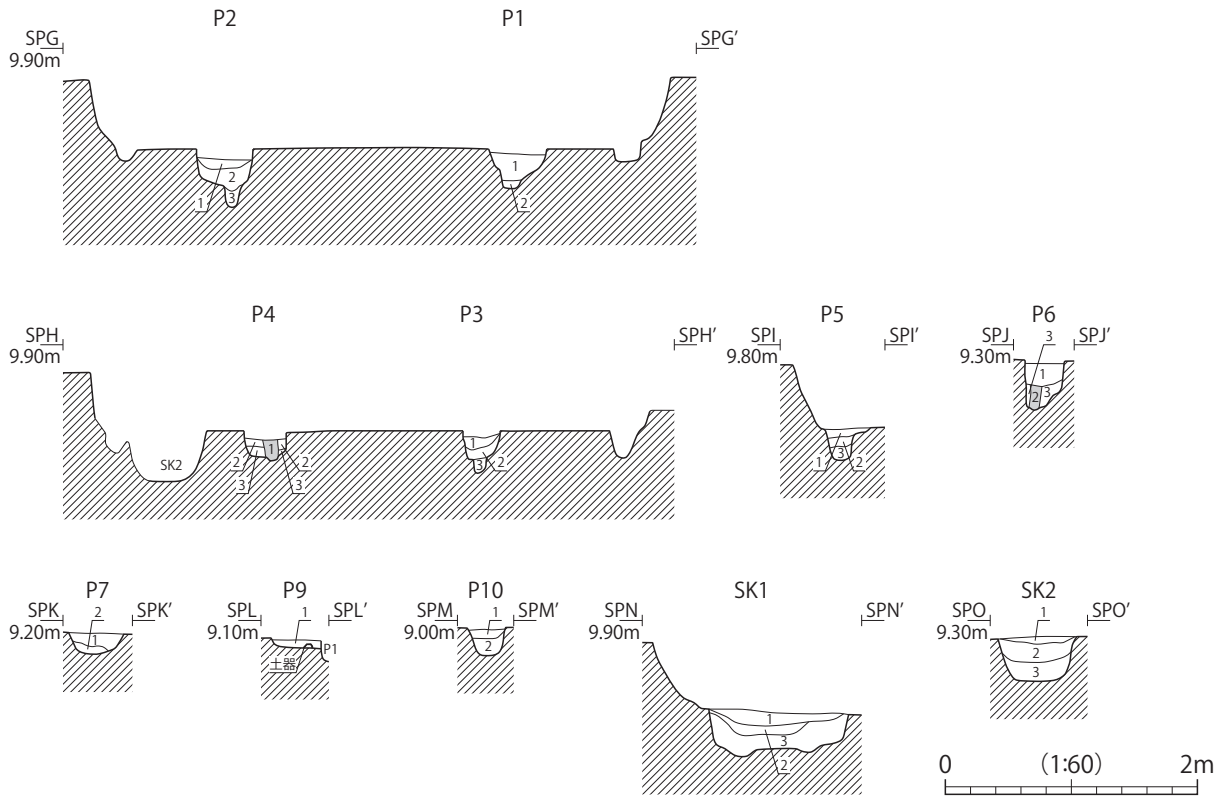
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	46×42	32	主柱穴
P2	円形	46×45	43	主柱穴
P3	円形	31×27	31	主柱穴
P4	円形	37×34	23	主柱穴 柱痕跡
P5	円形	40×36	26	壁柱穴
P6	楕円形	40×32	39	壁柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7	隅丸長方形	53×43	17	性格不明(土坑)
P8	円形	37×32	24	壁柱穴
P9	楕円形	(51)×41	5	性格不明(土坑)
P10	(円形)	34×30	22	性格不明
SK1	楕円形	111×70	37	貯蔵穴
SK2	円形	68×(49)	36	旧貯蔵穴→カマド関連土坑か

第239図 SI473 竪穴住居跡(1)

SI473 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量、IV層土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	5	10YR2/1 黒色	細砂	炭化物粒多量、焼土粒少量、IV層土ブロック(10～40mm程度)微量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR6/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
周溝堆積土	10a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	10b	10YR7/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
カマド堆積土	11	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	13	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	14	10YR8/1 灰白色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。 ※灰層
	15	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	16	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒少量含む。
	17	10YR2/1 黒色	シルト	焼土粒少量含む。 ※炭化物層
	18	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒多量、IV層土粒少量含む。
	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	20	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	21	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
カマド袖構築土	22	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	23	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
	24	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
カマド掘り方埋土	25	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	26	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
壁構築土	27	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	28	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
住居掘り方埋土	29	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
	30	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	31	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
	32	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。



第240図 SI473 竪穴住居跡(2)

SI473 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック(20～40mm程度)微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
P3	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	3	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)多量含む。
P5	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量含む。
P7	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
P8	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P9	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒少量含む。
P10	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
SK2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。

然礫による芯材が埋設されているが、上部は失われている。燃焼部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き77cm、幅14～40cmを測る。底面は弧状に掘り込まれ、中央部から焚口付近にかけて長径58cm程度の焼面がみられる。奥壁はわずかに外傾しながら15cm程度立ち上がり、煙道部へつながら。煙道部は長さ149cm、幅23～28cm、深さ47～61cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がり、先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。SK1は南西隅、SK2はカマド西側の至近に位置する。ともに位置や形状から貯蔵穴とみられるが、SK1は周溝と重複することから、壁拡張後の新しい貯蔵穴とも考えられる。また、SK2は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑であった可能性もある。SK1の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸111cm、短軸70cm、深さ37cmを測る。SK2の平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸68cm、短軸49cm、深さ36cmを測る。

【掘り方】 深さ9～26cmを測る。壁際が一段低く掘り込まれている。各壁際にはテラス状の段差が認められる。

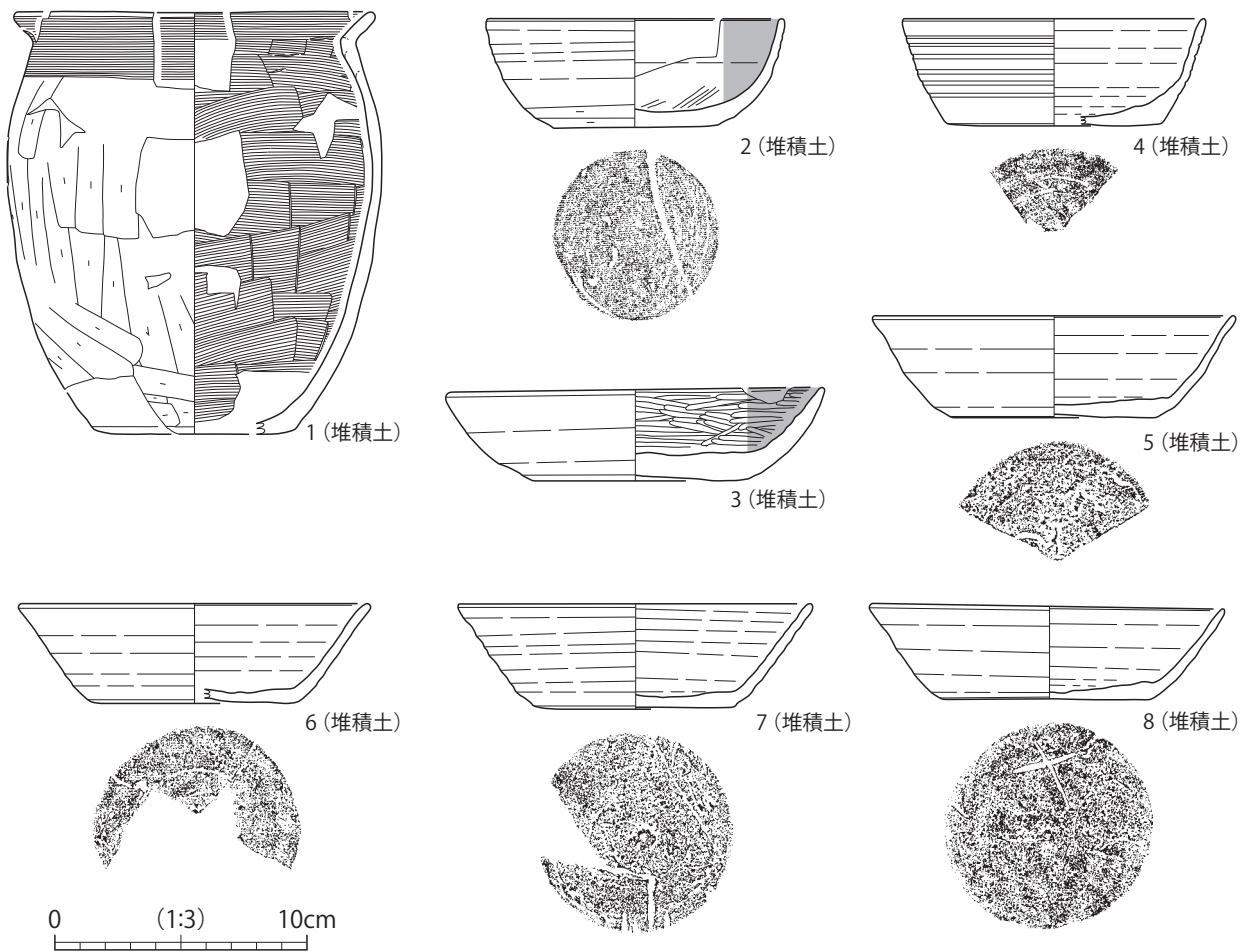
【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、鉄滓、土製品などが出土した。土師器甕1点、ロクロ土師器坏2点、須恵器坏5点、石製品2点、金属製品1点を掲載した(第241・242図)。9・10はカマド西側の周溝から出土した。

1は中型の土師器甕である。胴部上位に最大径が位置し、頸部は「く」字状に屈曲し、口縁部で短く直線的に外傾する。外面は縦方向のヘラケズリを基本とするが、胴部下位は斜方向に施される。薄手で軽量なつくりである。色調は橙色～にぶい橙色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と微量の海綿骨針を含む。2・3はロクロ土師器坏である。2は深身の小型品である。平底から丸味を持って立ち上がり、内湾しながら口縁部に至る。底部の切り離しは回転糸切りだが、摩滅が著しく底部の再調整は確認できなかった。3は平底から屈曲し、直線的に外傾し口縁部に至る。底部の切り離しは、手持ちヘラケズリによる再調整が施されているため不明である。ともに内面に黒色処理が施されている。胎土はともに精良で、細砂と赤色粒子、微細な雲母を含む。4～8は須恵器坏である。4は箱形、5～8は台形を呈し、5・6の口縁部はわずかに外反する。4は6条の沈線が体部にめぐる。5～8の底部の切り離しは回転ヘラ切りで、8のみヘラナデによる再調整が施されている。4は回転ヘラケズリ後にハケメ状の工具による調整が施されているため、底部の切り離しは不明である。4・7・8の色調は灰色、5は青灰色、6は明褐灰色～橙色を呈する。4の

胎土は精良で、細砂と黒色粒子を含む。5～7はやや粗く、いずれも3mm以下の砂礫と黒色粒子を含む。8はやや粗く2mm以下の砂礫と微量の海綿骨針を含む。

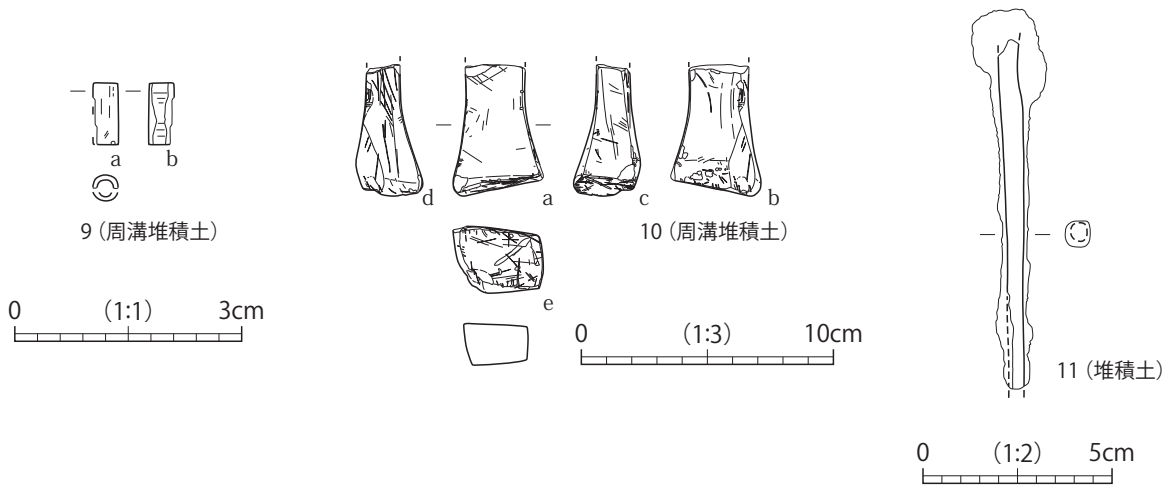
9は石製の管玉で、両側から穿孔されている。石材は碧玉である。10は砥石で、砥面が5面あり、a～e面に溝状痕・線条痕がみられる。石材は細粒凝灰岩である。11は棒状鉄製品である。断面形が円形を呈することから、紡錘車の軸棒と考えられる。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI474、SD317・350との新旧関係から、5期（7世紀中頃～後半）以降の可能性はある。人為堆積土から出土した土師器甕やロクロ土師器坏、須恵器坏（第241図1～8）がまとめて出土していることから、7期（8世紀中頃～後半）に近い可能性もある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-183	SI473	堆積土	土師器	甕	(14.0)	(8.3)	16.8	口縁：ヨコテ 胴～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 胴～底部：ヘラテ	骨針微量含む 外面二次被熱による赤色化	341
2	D-007	SI473	堆積土	ロクロ土師器	坏	11.7	6.2	4.4	口縁～体上半：ロコ調整 体下半：回転ヘラズリ 底部：回転糸切(再調整不明)	ロコ調整→ヘラミガキ	内面黒色処理か 内外面摩滅雲母含む	341
3	D-016	SI473	堆積土	ロクロ土師器	坏	14.7	8.5	3.7	口縁～体部：ロコ調整 底部：手持ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 内外面口縁部火傷痕 雲母含む	341
4	E-035	SI473	堆積土	須恵器	坏	(12.0)	(8.4)	(4.3)	ロコ調整→沈線 底部：回転ヘラズリ→ヘラミガキ	ロコ調整		341
5	E-036	SI473	堆積土	須恵器	坏	(14.3)	(8.2)	4.1	ロコ調整 底部：回転ヘラ切	ロコ調整	外面口縁部重ね焼き痕	341
6	E-037	SI473	堆積土	須恵器	坏	(13.9)	(8.0)	(4.0)	ロコ調整 底部：回転ヘラ切	ロコ調整	外面体部・内面口縁部重ね焼き痕	341
7	E-033	SI473	堆積土	須恵器	坏	(14.0)	8.0	4.2	ロコ調整 底部：回転ヘラ切	ロコ調整	外面口縁部重ね焼き痕	341
8	E-034	SI473	堆積土	須恵器	坏	13.9	8.2	3.8	ロコ調整 底部：回転ヘラ切→ヘラテ	ロコ調整	底部線刻「×」骨針微量含む	341

第241図 SI473 竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
9	Kd-024	SI473 周溝	堆積土	石製品	管玉	0.8	(0.4)	—	0.1	碧玉	両側穿孔 孔径0.1～0.2cm	341
10	Kd-025	SI473 周溝	堆積土	石製品	砥石	(5.2)	3.6	2.6	44.9	細粒凝灰岩	砥面5面 溝状痕(a～e面) 線条痕(a～e面) 端部欠損	341
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
11	N-017	SI473	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(9.3)	0.5	0.5	24.9		両端部欠損 紡錘車の軸棒か	341

第242図 SI473 竪穴住居跡出土遺物(2)

SI474A 竪穴住居跡(第243～247図)

【位置・確認】 調査区南部の97・105・113区に位置する。床面の大部分と壁の一部が、SI473、SD317の重複や攪乱により失われている。

【重複】 SI473、SD317・349・350・351、SK461、Pit1365より古く、SI474B・519、SD322より新しい。本住居跡は、SI474Bの拡張後に相当する。

【規模・形態】 確認された規模は長軸906cm、短軸853cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-18°-Wを測る。

【堆積土】 18層に分層した。1～7層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8層は周溝堆積土、9～14層はカマド堆積土である。15・16層はカマド袖構築土、17層はカマド掘り方埋土、18層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直線的ないし内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で37cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、にぶい黄褐色シルトの主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で9基(P1～9)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～3の規模は残存値も含め長軸53～64cm、短軸49～64cm、深さ47～75cmを測る。P1～3の堆積土下半で、径13～30cm程度の柱痕跡を確認した。P4はP2とP3の間に位置するため、補助柱穴と考えられる。P5～7は南壁際の中央部から北側に向かって重複して並ぶため、入口施設に関連する柱穴と考えられる。P8はP1と、P9はP2と重複し、その状況や規模などから建て替え前の古い支柱穴と考えられる。P4～6・9の堆積土下半とP7の堆積土で、径10～21cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形はU字形を呈し、規模は幅10～30cm、深さ5～30cmを測る。北壁を除く各周溝の底面では、壁材の痕跡とみられるくぼみを確認した。

第5章 検出遺構と出土遺物

SI474A 堆積土註記表

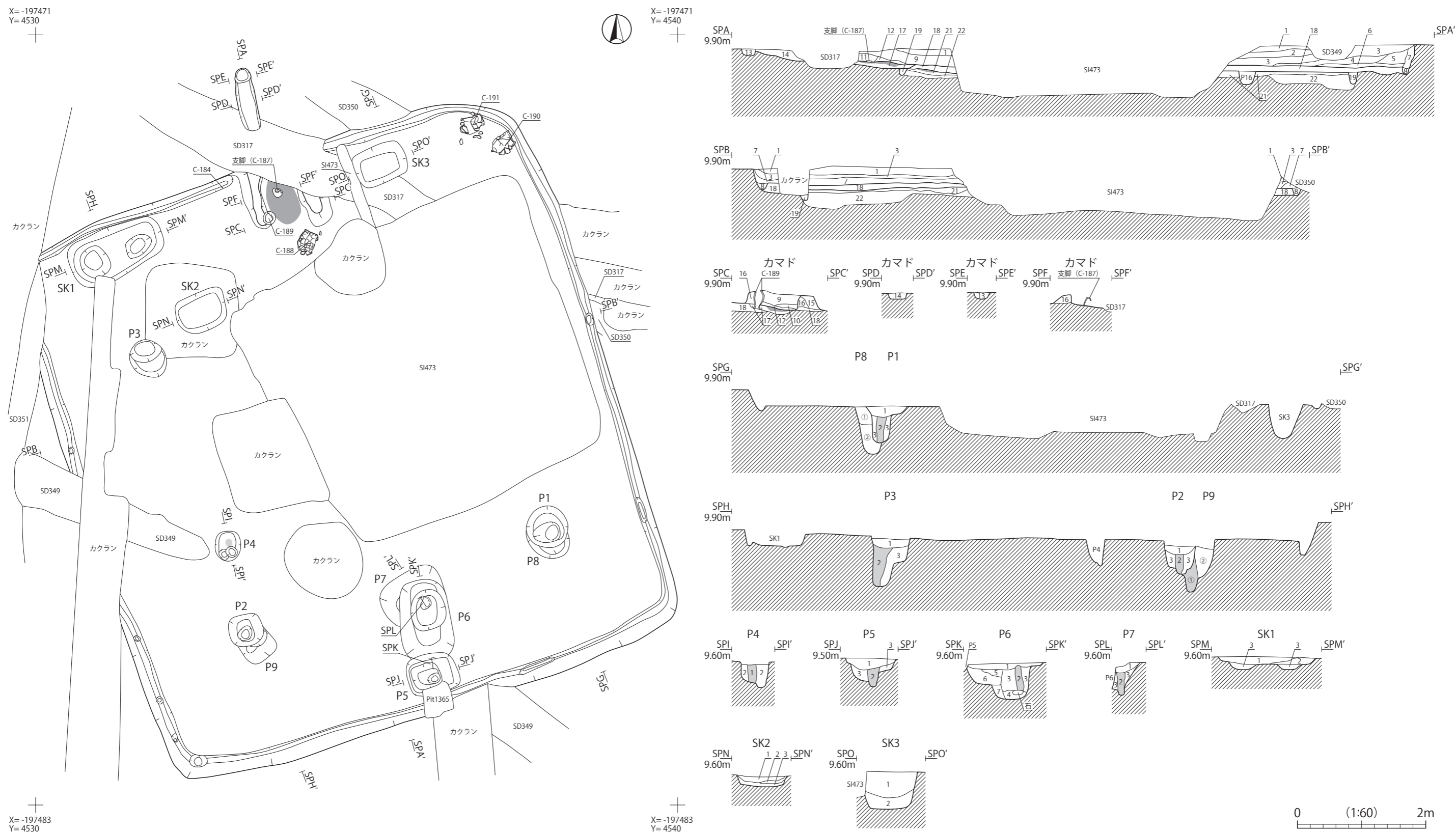
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(15～30mm程度)少量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)少量含む。
周溝堆積土	8	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
カマド堆積土	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	10	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量、IV層土粒・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。 ※灰層
	13	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
カマド袖 構築土	14	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
カマド掘り方埋土	16	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒微量含む。
	17	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	18	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

SI474A 施設堆積土註記表

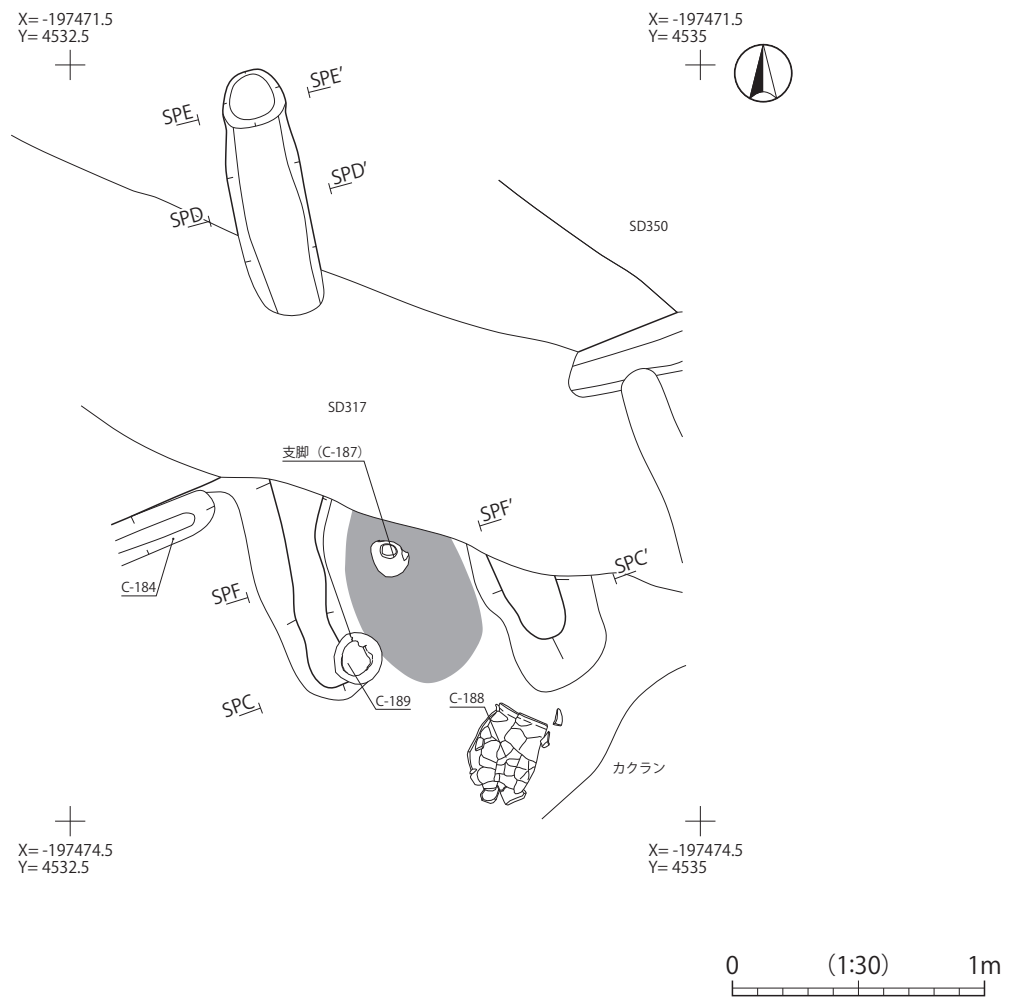
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
P4	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P5	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土・黒褐色シルト斑状に含む。
	6	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)少量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
P8	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	②	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
P9	①	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	②	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量含む。
SK2	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)・黒褐色シルトブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
SK3	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
		10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量含む。

SI474A 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	64×64	58	主柱穴 柱痕跡
P2	隅丸方形	53×49	47	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	62×(53)	75	主柱穴 柱痕跡
P4	円形	46×40	23	補助柱穴 柱痕跡
P5	隅丸長方形	78×(60)	45	補助柱穴(入口施設) 柱痕跡
P6	隅丸長方形	(115)×80	53	補助柱穴(入口施設) 柱痕跡
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7	(隅丸長方形)	101×(65)	56	補助柱穴(入口施設) 柱痕跡
P8	(円形)	(65)×49	69	旧主柱穴
P9	(隅丸方形)	52×(49)	67	旧主柱穴 柱痕跡
SK1	隅丸長方形	151×(79)	23	貯蔵穴
SK2	隅丸長方形	(80)×(60)	(18)	貯蔵穴
SK3	隅丸長方形	(82)×(58)	58	貯蔵穴



第243図 SI474A 竪穴住居跡 (1)



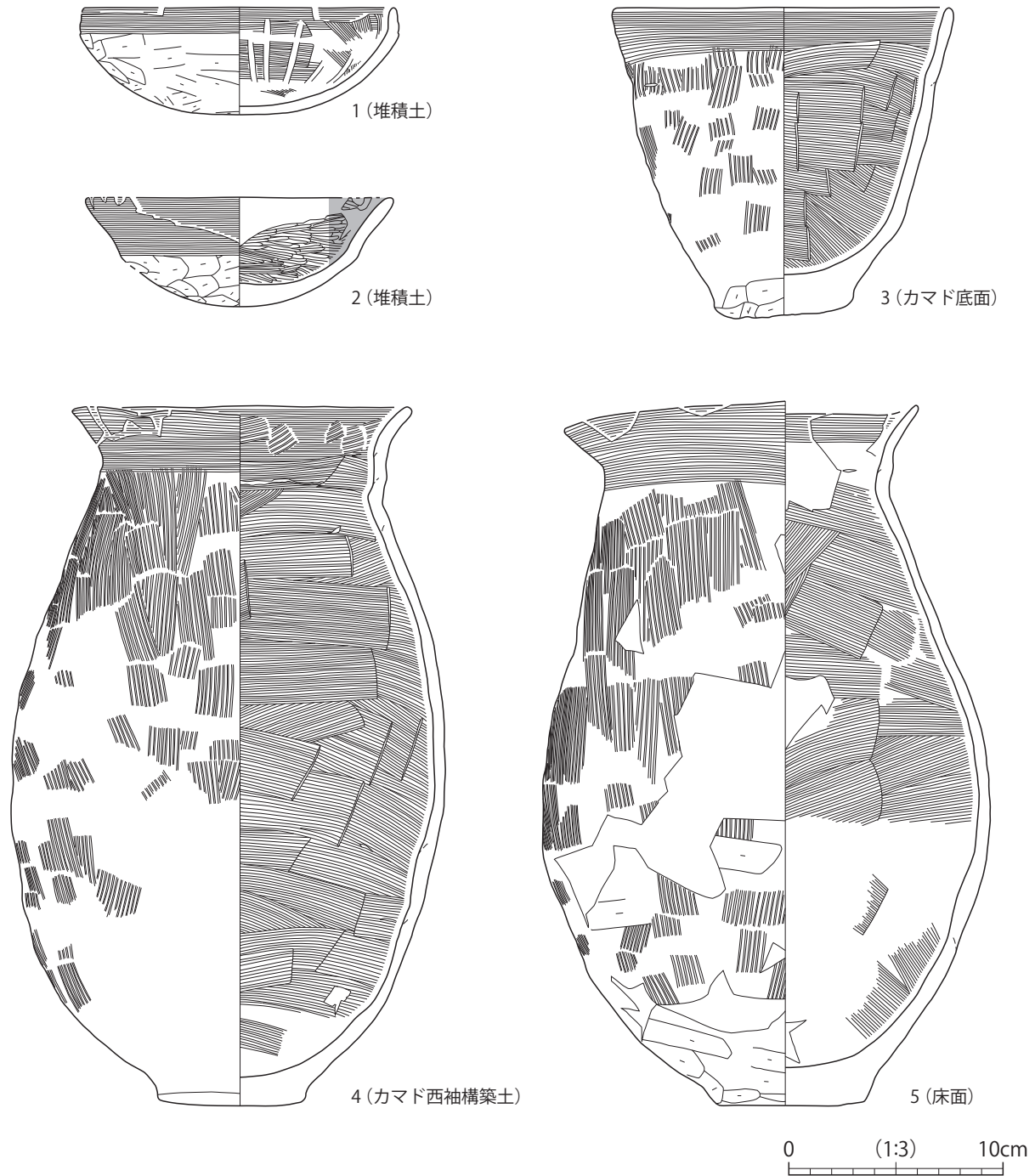
第244図 SI474A 竪穴住居跡(2)

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、SD317の重複により燃烧部奥壁付近から煙道部の中ほどまでが失われている。

袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は残存値で長さ60cm、幅38cm、西袖は長さ90cm、幅29cmを測る。西袖先端部には倒置された状態の土師器甕(第245図4)が1個体、芯材として埋設されている。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き110cm前後と推定され、幅が残存値で68～84cmを測る。底面は奥壁に向かって緩やかに立ち上がり、底面全体におよぶ長径75cm程度の焼面がみられる。焼面からは支脚として転用されたと考えられる倒置された土師器鉢(第245図3)が出土している。奥壁は残存しないが、燃烧部底面と煙道部の比高差はみられない。煙道部は長さが149cm前後と推定され、幅29cm、深さ9～15cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がり、先端部はピット状を呈する。

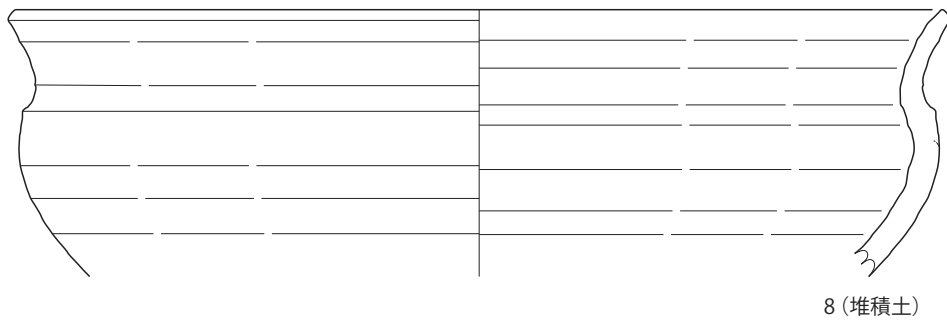
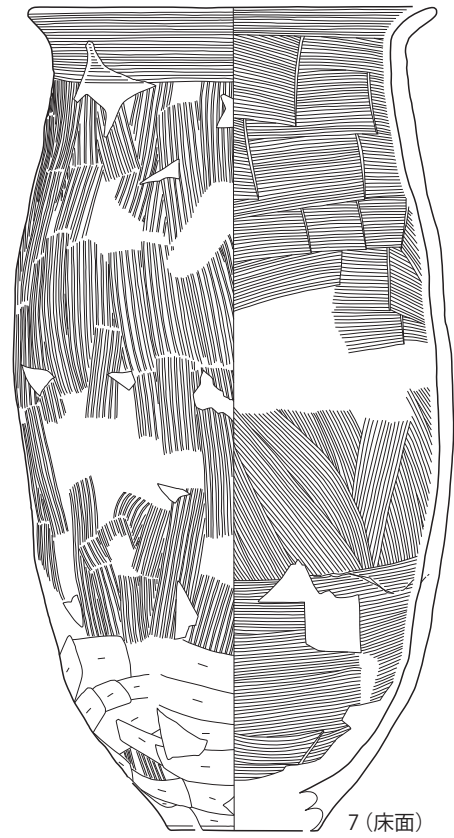
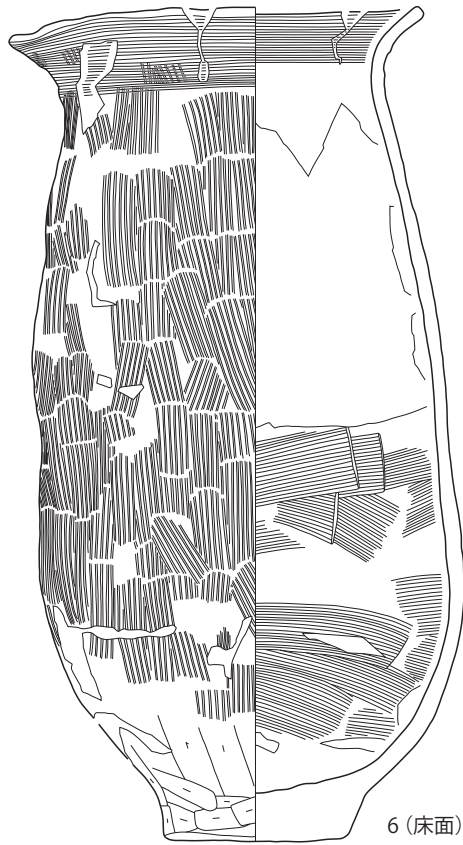
【その他の施設】 床面で3基(SK1～3)の土坑を検出した。SK1はカマドと北西隅の中間、SK2はSK1の南側、SK3はカマドの東側に位置する。いずれも位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は残存値で長軸151cm、短軸79cm、深さ23cmを測る。SK2の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は残存値で長軸80cm、短軸60cm、深さ18cmを測る。SK3の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は残存値で長軸82cm、短軸58cm、深さ58cmを測る。

【掘り方】 深さ6～26cmを測る。底面はSI474Bの床面とほぼ同一で、概ね平坦である。



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-185	SI474A	堆積土	土師器	环	(14.4)	—	(5.0)	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラスリ	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラデ→ヘラミガキ (放射状)	関東系 外面漆仕上げか 骨 針微量含む 内外面摩滅	341
2	C-184	SI474A	堆積土	土師器	环	(14.2)	—	5.1	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラスリ	ヘラミガキ	内面黒色処理	341
3	C-187	SI474A カマド	底面	土師器	鉢	15.5	6.5	14.5	口縁：ヨナデ 体部：ハマ 底部：ヘラスリ	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラデ	角閃石微量含む 外面二次被 熱により赤色化 外面摩滅	341
4	C-189	SI474A カマド 西袖	構築土	土師器	甃	15.4	(6.5)	32.7	口縁：ヨナデ 胴部：ハマ 底部：不明	口縁：ヨナデ→ハマ 胴～底部：ヘラデ	角閃石少量含む 外面やや摩 滅	342
5	C-190	SI474A	床面	土師器	甃	16.3	5.6	32.9	口縁：ヨナデ 胴上～中位：ハマ 胴下位：ヘラスリ 底部：ヘラスリ	口縁：ヨナデ 胴～底部：ヘラデ	角閃石微量含む 内外面摩滅	342

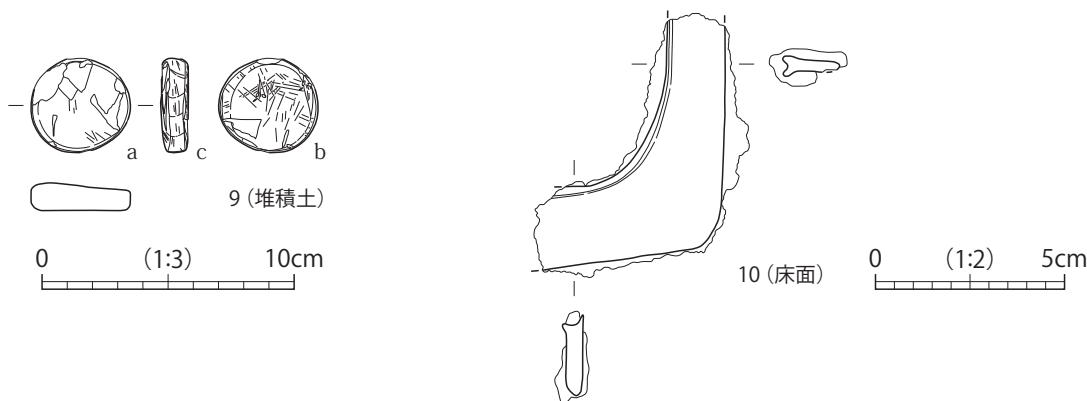
第245図 SI474A 竪穴住居跡出土遺物(1)



0 (1:3) 10cm

図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
6	C-191	SI474A	床面	土師器	甕	15.9	7.3	33.1	口縁：ヨナテ 胴上～中位：ハナ 胴下～底部：ハナナリ	口縁：ヨナテ 胴～底部：ハナテ	内外面摩滅	342
7	C-188	SI474A	床面	土師器	甕	15.9	(5.9)	32.6	口縁：ヨナテ 胴上～中位：ハナ 胴下位～底部：ハナナリ	口縁：ヨナテ 胴～底部：ハナテ	角閃石微量含む	342
8	E-038	SI474A	堆積土	須恵器	鉢	(36.8)	—	(10.6)	叩調整	叩調整	外面口唇部・内面に灰かぶり 骨針中量含む	343

第246図 SI474A 竪穴住居跡出土遺物(2)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
9	Kd-027	SI474A	堆積土	石製品	円盤状石製品	4.0	3.7	1.1	45.4	凝灰岩	線条痕 (a～c面)	343
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)		備考	写真図版
10	N-018	SI474A	床面	金属製品	鉄製鋤先	6.6	2.2	0.4				

第247図 SI474A 竪穴住居跡出土遺物 (3)

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、土製品などが出土し、土師器坏2点・鉢1点・甕4点、須恵器鉢1点、石製品1点、金属製品1点を掲載した(第245～247図)。7はカマド前の床面から潰れた状態で出土し、4はカマド西袖の芯材に転用されていた。1・2は土師器坏である。1は鬼高系土師器の特徴を持ち、薄手で精巧なつくりである。丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部と体部の境には弱い段を持つ。外面は黒色漆仕上げされていると考えられる。色調は橙色を呈し、胎土は粉のように細かく精良で、細砂と赤色粒子、微量の海綿骨針含む。焼成はやや不良で、軟質である。2は厚手の丸底で、口縁部は外反気味に外傾する。口縁部と体部の境に稜を持つ。内面に黒色処理が施されている。3は土師器鉢である。厚手の平底で、外傾しながら直線的に口縁部に至る。4～7は土師器甕である。4・5の最大径は胴部中位よりやや下位に、7は胴部中位に位置する。4・5は張りのある楕円形、7は張りのない楕円形、6は下膨れで、いずれも器高が30cm以上を超える長胴形である。4・5の口縁部は内湾気味に直立した後中位で緩く外反、6は外反、7は直線的に外傾する。頸部にはいずれも稜を持ち、6は口縁部中位に稜を持つ。8は須恵器鉢である。体部は内湾し、口縁部は直線的に外傾、端部は面取りされ方形を呈する。頸部には段を持つ。色調は暗灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒と海綿骨針を含む。9は円盤状の石製品で、何らかの模造品と考えられる。a～c面に線条痕がみられる。石材は凝灰岩である。10は鉄製鋤先で、木質柄の装着部には断面V字形の溝がめぐる。

【時期】 床面とカマドから出土した土師器甕(第245・246図3・5～7)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

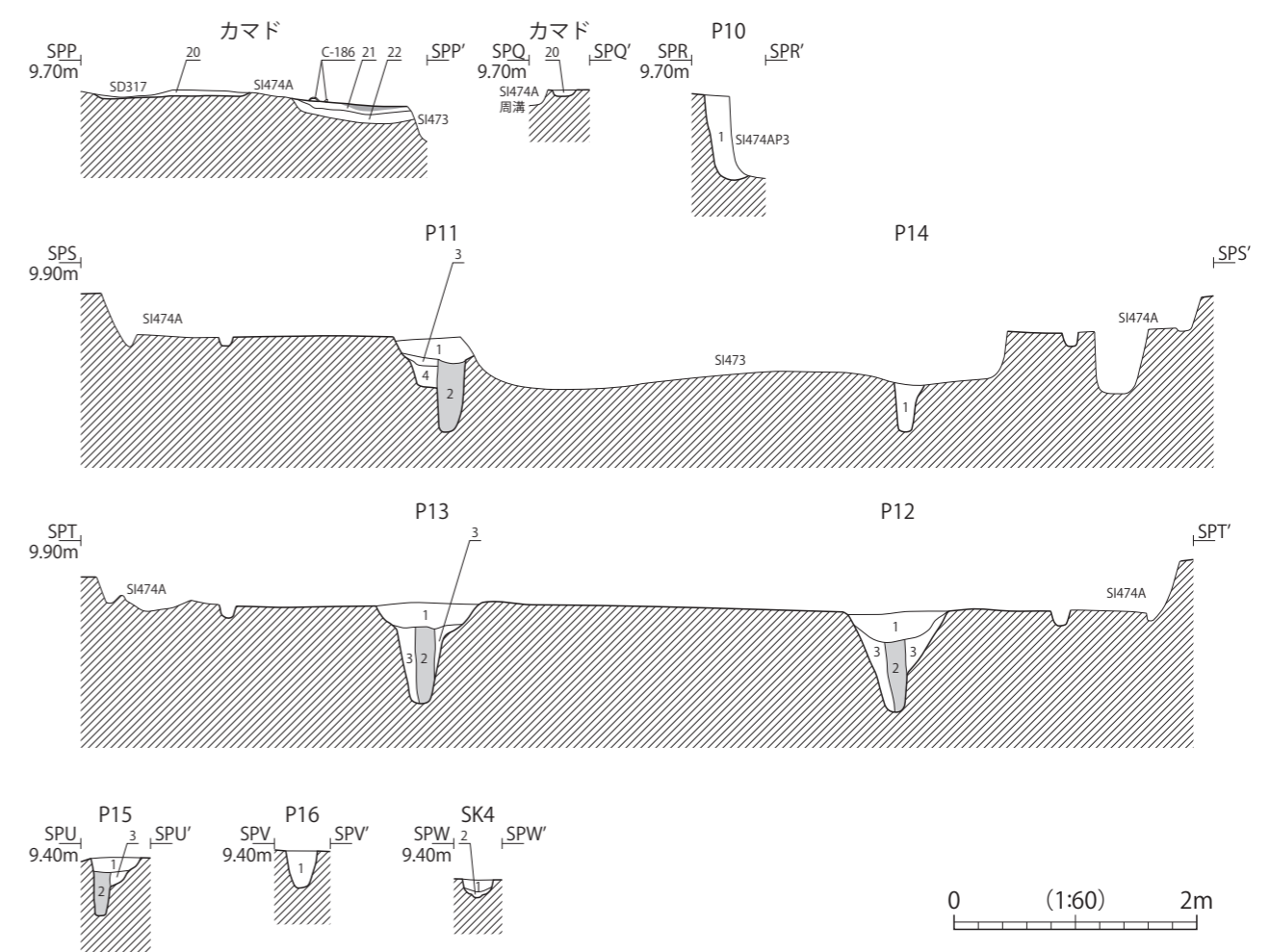
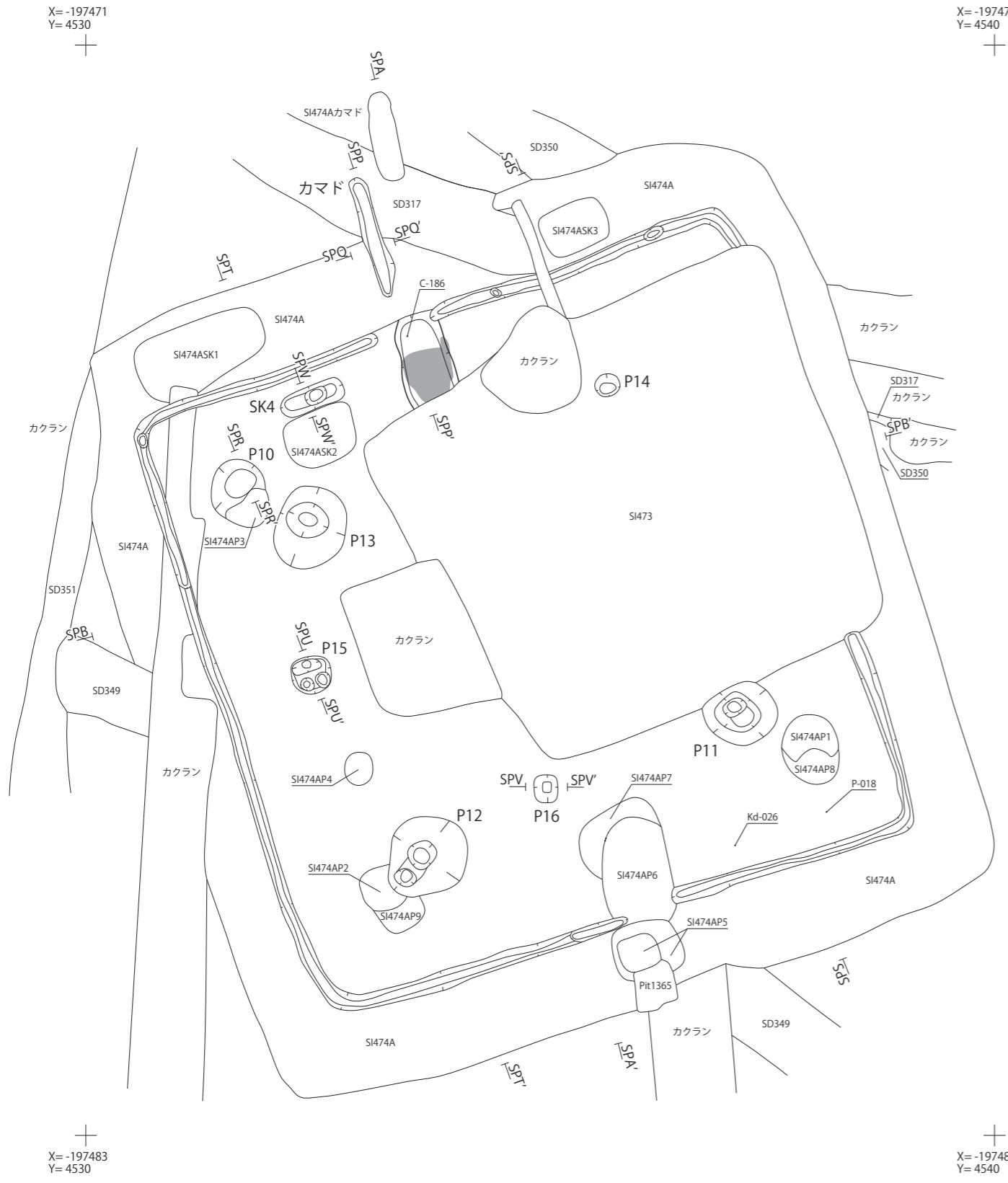
SI474B 竪穴住居跡(第248・249図)

【位置・確認】 調査区中央部の97・105・113区に位置する。SI474Aの直下で入れ子状に重複する。規模はSI474Aより一回り小さい。壁はSI474Aの拡張時に失われている。

【重複】 SI473・474A、SD317・349・350・351、SK461、Pit1365より古く、SI519、SD322より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸712cm、短軸710cmを測り、平面形は東西にやや長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-19°-Wを測る。



SI474B 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝堆積土	19	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
カマド堆積土	20	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
住居掘り方埋土	21	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	22	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

SI474B 施設堆積土誌記表

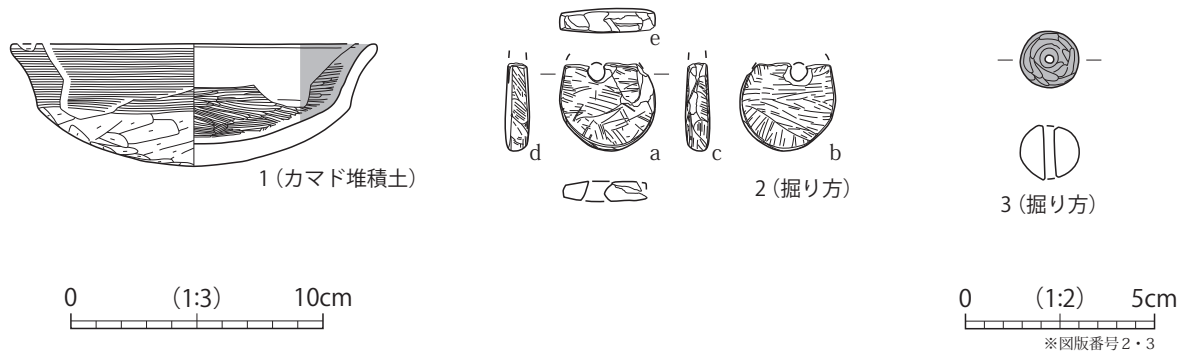
遺構名	層位	土色	土性	備考
P10	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)多量含む。
P11	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	4	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(10~20mm程度)微量含む。
P12	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)・黒褐色シルトブロック(20~30mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)多量含む。
P13	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)・黒褐色シルトブロック(5~30mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(30~50mm程度)多量含む。
P14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
P15	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/1 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
SK4	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒多量、IV層土粒微量含む。

SI474B 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P10	(円形)	66×(58)	69	補助柱穴
P11	(円形)	73×(68)	81	主柱穴 柱痕跡
P12	隅丸方形	99×88	84	主柱穴 柱痕跡
P13	隅丸方形	92×76	83	主柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P14	(円形)	(27)×(25)	(40)	主柱穴
P15	円形	44×41	50	補助柱穴 柱痕跡
P16	隅丸方形	30×26	25	補助柱穴
SK4	隅丸長方形	73×25	32	貯蔵穴

第248図 SI474B 竪穴住居跡



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-186	SI474B ホト	堆積土	土師器	环	(14.4)	—	4.9	口縁：ヨ字 体～底部：ハナズリ	ヘリガキ	内面黒色処理 内外面摩滅	343
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
2	Kd-026	SI474B	掘り方	石製品	有孔石製品	2.5	(2.3)	0.6	3.6	細粒凝灰岩	線条痕 (a-e 面) 両側穿孔 孔径 0.5 ~ 0.8cm	343
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
3	P-018	SI474B	掘り方	土製品	土玉	1.5	1.5	1.4	3.2	ミナキ 黒色処理 孔径 0.2 ~ 0.3cm	343	

第249図 SI474B 竪穴住居跡出土遺物

【堆積土】 4層に分層した。土層番号はSI474Aからの連番である。19層は周溝堆積土、20層はカマド堆積土、21・22層は住居掘り方埋土である。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面およびSI473との重複範囲内で7基 (P10 ~ 16) を検出した。遺構番号はSI474Aからの連番である。規模や位置から支柱穴と考えられるP11 ~ 14の規模は残存値も含め長軸27 ~ 99cm、短軸25 ~ 88cm、深さ40 ~ 84cmを測る。P14は上部がSI473の重複により失われているが、底面標高はP11 ~ 13と概ね揃っている。P11 ~ 13の堆積土下半で、径16 ~ 23cm程度の柱痕跡を確認した。P10・15・16は補助柱穴と考えられ、P10がP13北西側の至近、P15がP12とP13の中間付近、P16がP11とP12の中間付近に配置されている。P15の堆積土下半で、径14cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅11 ~ 21cm、深さ4 ~ 24cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、弧状に掘り込まれた燃烧部底面と煙道部の一部のみ残存する。燃烧部の掘り込みは壁内に位置し、長さ95cm、幅52 ~ 61cmを測り、底面の中央部から焚口付近にかけて長径56cm程度の焼面がみられる。

煙道部は燃烧部との接続部付近が失われているが、規模は残存値で長さ135cm、幅18 ~ 22cm、深さ4cmを測る。底面は燃烧部との比高差がほとんどみられず、概ね平坦に延びる。

【その他の施設】 掘り方で1基 (SK4) の土坑を検出した。柱穴同様、遺構番号はSI474Aからの連番とした。カマドと北西隅の間に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸73cm、短軸25cm、深さ32cmを測る。

【掘り方】 深さ17 ~ 40cmを測り、壁際が溝状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品などが出土し、土師器環1点、石製品1点、土製品1点を掲載した(第249図)。1は土師器環で、厚手の丸底を呈し、口縁部は外反する。口縁部と体部の境は内外面に稜を持つ。内面に黒色処理が施されている。2は有孔石製品で、平面形は円形を呈し、a・b面には両側から穿孔された貫通孔がある。a～e面に線条痕がみられる。石材は細粒凝灰岩である。3は球形の土玉で、外面はミガキ後黒色処理が施されている。

【時期】 カマドから出土した土師器環(第249図1)の特徴およびSI519との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI475 竪穴住居跡(第250・251図)

【位置・確認】 調査区中央部の62・63・71・72・80・81区に位置する。南東部・北東隅周辺・西半部の壁・床面の一部が、SI405・410・441、SD290・331の重複により失われている。

【重複】 SI405・410・441・453、SD331より古く、SI490、SD322・354、SK469・501、Pit1362より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸631cm、短軸572cmを測り、平面形はやや南北に長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-58°-Eを測る。

【堆積土】 14層に分層した。1～3層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4・5層は周溝堆積土で、4層は壁際、5層はその内側に位置する別の周溝堆積土である。6～12層はカマド堆積土、13・14層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で30cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、暗褐色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で5基(P1～5)を検出した。規模や位置からP3・4が支柱穴と考えられ、南東部と北西部の支柱穴は重複遺構により失われたとみられる。P4の一部を壊すP1も建て替え後の支柱穴と考えられるが、規模は小型化している。規模は残存値も含め長軸35～69cm、短軸32～64cm、深さ31～81cmを測る。P3・4で柱の抜き取り痕を確認した。P2は補助柱穴と考えられ、P3の北側に配置されている。P5はP2とP3の間に重複するが、土坑状で浅いため、柱穴以外の性格も考えられる。

【周溝】 残存範囲では、南西部の壁面に沿って検出した。南壁では内側にもう一つの周溝が接して延びるが、新旧関係は不明である。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅21～30cm、深さ12～17cmを測る。

【カマド】 東壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、SI405、SD290の重複により大部分が失われ、燃焼部の奥壁付近から煙道部の南半部のみ残存する。

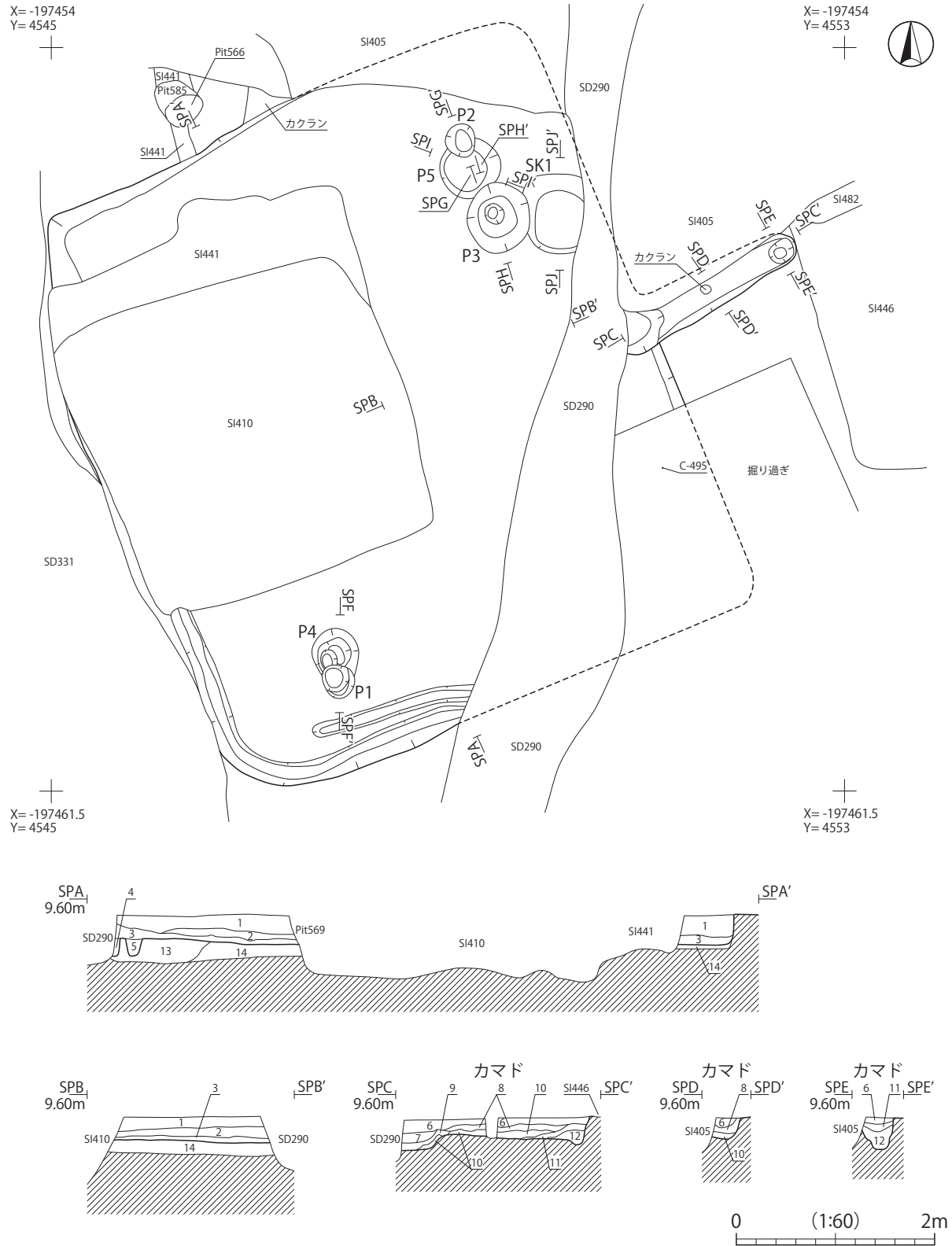
燃焼部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き41cm、幅48cmを測る。底面は土坑状に掘り込まれ、焼面はみられない。奥壁は外反して14cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は残存値で長さ152cm、幅29～32cm、深さ15～29cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がり、先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマドの北側に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は隅丸方形を呈し、規模は残存値で長軸80cm、短軸59cm、深さ21cmを測る。

【掘り方】 深さ3～22cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環1点を掲載した(第251図)。深身で、丸底から緩く屈曲し、内湾しながら口縁部に至る。内面に黒色処理が施されている。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI405・410・441・453・490との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。



SI475 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	35×32	31	主柱穴
P2	円形	34×31	24	補助柱穴
P3	円形	69×64	81	主柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	(楕円形)	(51)×47	74	主柱穴
P5	円形	61×(54)	22	性格不明(土坑か)
SK1	隅丸方形	80×(59)	21	貯蔵穴

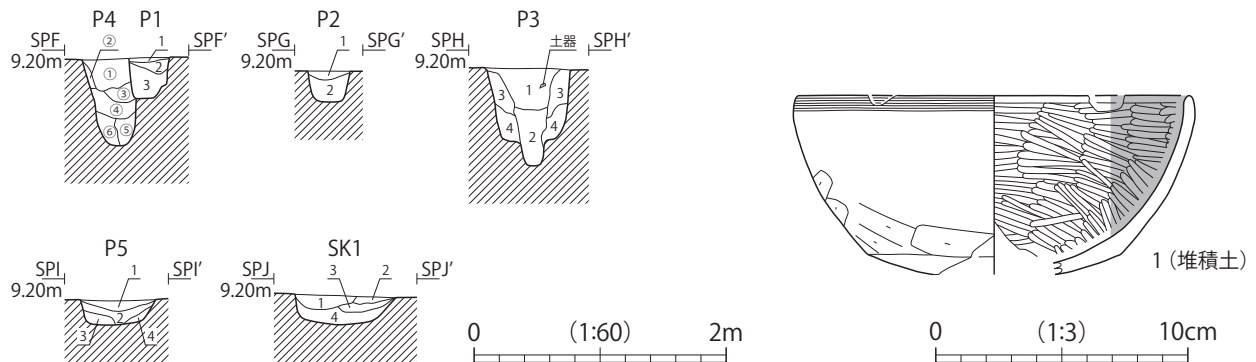
第250図 SI475 竪穴住居跡(1)

SI475 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、灰色シルトブロック(5~20mm程度)・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※天井崩落土
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土斑状、焼土ブロック(5~20mm程度)少量含む。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
住居掘り方埋土	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	13	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	14	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

SI475 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、灰色シルトブロック(5~20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P4	①	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	②	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	③	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	④	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	⑤	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	⑥	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒微量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、灰少量、灰色粘土ブロック(5~20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5~20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5~30mm程度)・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-495	SI475	堆積土	土師器	环	(15.4)	—	(7.1)	口縁：刃打 体部：アラガリ	ハラガキ	内面黒色処理 外面磨滅	343

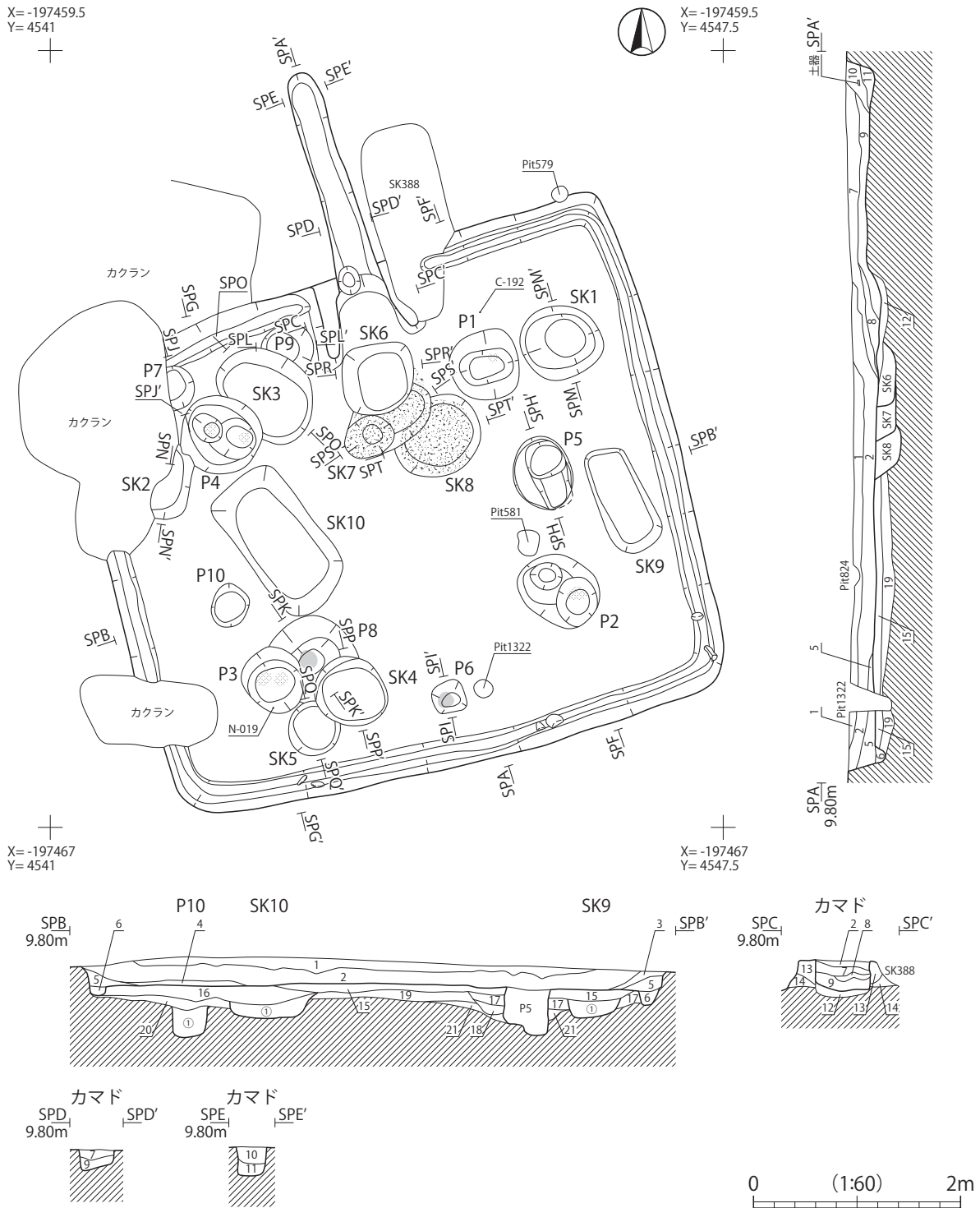
第251図 SI475 竪穴住居跡(2)・同出土遺物

SI476 竪穴住居跡 (第252 ~ 254 図)

【位置・確認】 調査区中央部の71・80・89区に位置する。北西隅付近と西壁・北壁の一部は攪乱により失われている。

【重複】 SI513・518、SD322・331・354、SX51 より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸563cm、短軸498cmを測り、平面形はやや東西に長い方形を呈する。



第252図 SI476 竪穴住居跡 (1)

【方向】 カマドを基準としてN-16°-Wを測る。

【堆積土】 21層に分層した。1～5層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7～11層はカマド堆積土である。12層はカマド掘り方埋土、13・14層はカマド袖構築土で、袖の構築後に燃焼部底面を埋土している。15～21層は住居掘り方埋土である。

SI476 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
周溝堆積土	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド堆積土	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	5YR3/2 暗赤褐色	砂質シルト	焼土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	11	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物ブロック(5～30mm程度)多量、IV層土粒微量含む。
カマド掘り方埋土	12	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)・焼土粒多量、炭化物粒少量含む。
カマド袖構築土	13	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	14	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)多量含む。
住居掘り方埋土	15	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	16	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	17	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	18	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。
	19	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	20	10YR7/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。
	21	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。

SI476 施設堆積土註記表

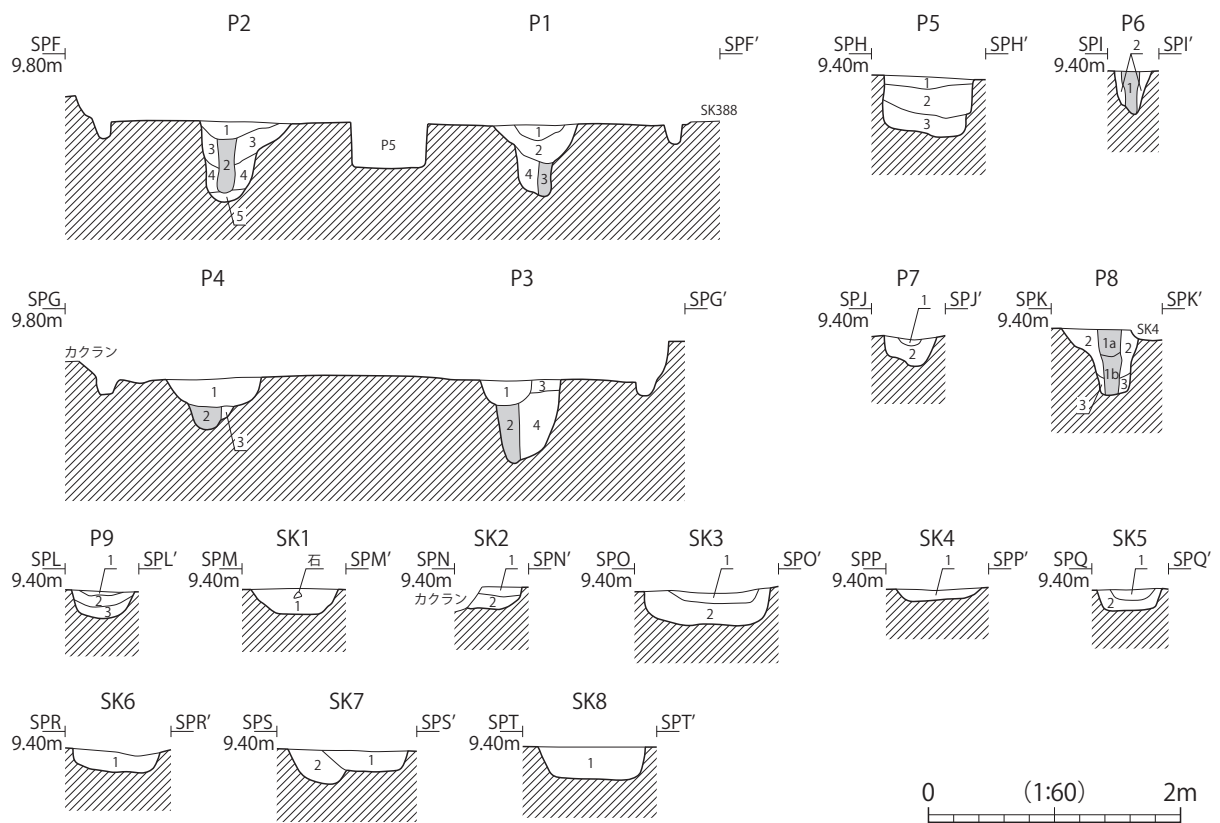
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。
	5	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P3	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P4	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量含む。
P6	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。
P7	1	10YR7/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～20mm程度)多量含む。
P8	1a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P9	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物主体、焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
P10	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物主体、焼土粒少量、IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	①	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
SK1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。
SK2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。
SK3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK4	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK5	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK6	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5～20mm程度)少量含む。
SK7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～60mm程度)・焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
SK8	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
SK9	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
SK10	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で31cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、にぶい黄橙色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。カマド前には炭化物範囲がみられる。

【柱穴】 床面で7基(P1～6・8)、掘り方で1基(P10)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は長軸65～80cm、短軸58～75cm、深さ43～67cmを測る。P1～4の堆積土下半で、径10～25cm程度の柱痕跡を確認した。このうち、P2・4の底面で柱の圧痕とみられるくぼみを2箇所ずつ検出したため、建て替えが行われた可能性がある。同様にP8はP3と重複し、その状況や規模から、建て替え前の古い支柱穴であった可能性がある。P1と2の中間付近に配置されているP5は、補助柱穴と考えられる。P6は南壁中央部の手前に配置されているため、入口施設に関連する柱穴と考えられる。P6・8では径15～19cm程度の柱痕跡を確認した。P10の性格は不明である。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅14～21cm、深さ8～24cmを測る。南壁の周溝上面からは、自然礫がまばらに出土した。



SI476 施設観察表

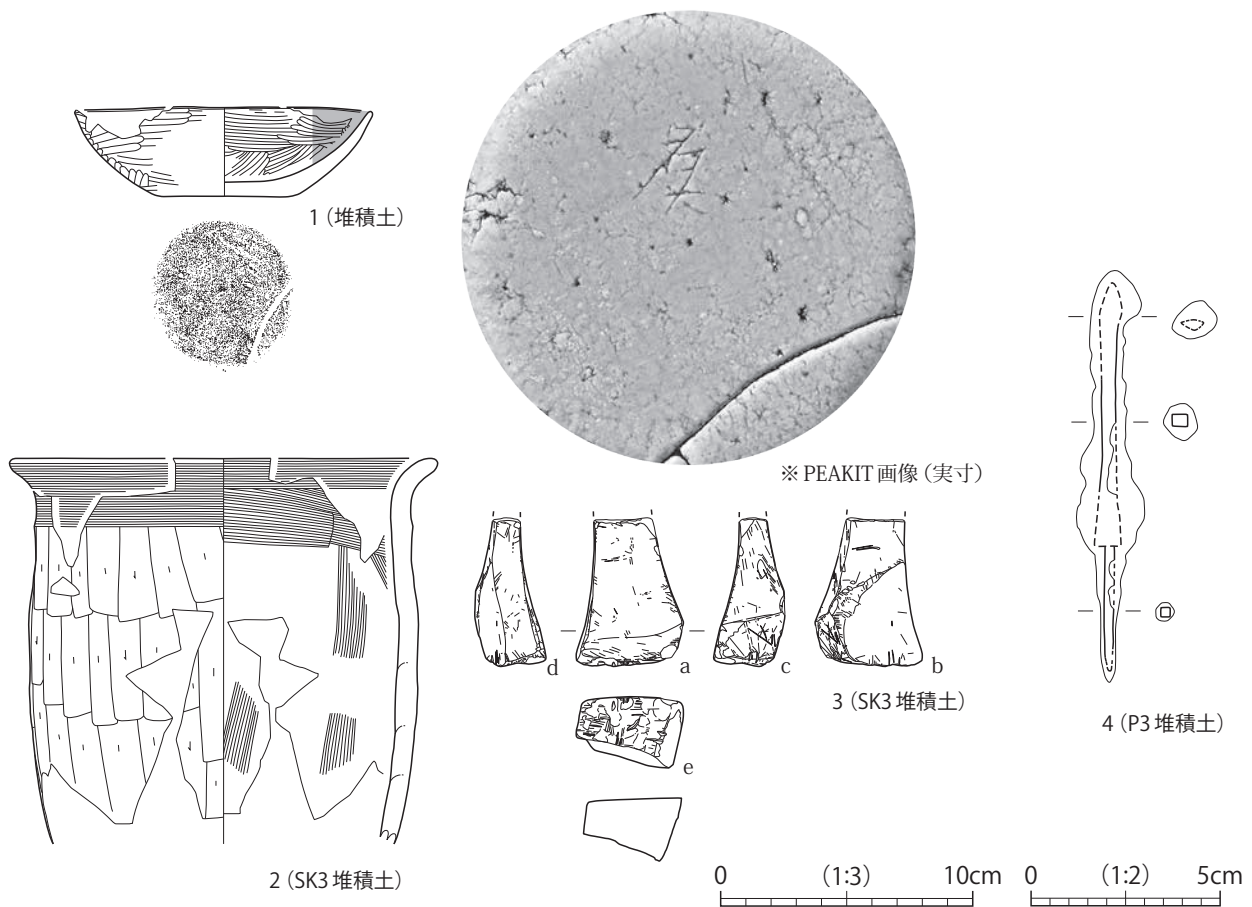
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	隅丸方形	67×66	56	支柱穴 柱痕跡
P2	楕円形	80×63	66	支柱穴 柱痕跡
P3	楕円形	65×58	67	支柱穴 柱痕跡
P4	円形	76×75	43	支柱穴 柱痕跡
P5	楕円形	71×56	49	補助柱穴
P6	隅丸方形	31×30	34	補助柱穴(入口施設) 柱痕跡
P7	(円形)	42×(25)	25	カマド関連土坑
P8	(円形)	(84)×(80)	54	旧支柱穴か 柱痕跡
P9	(円形)	49×(42)	21	カマド関連土坑
P10	円形	40×34	30	性格不明

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	円形	78×70	20	貯蔵穴
SK2	(隅丸方形)	(75)×(34)	20	貯蔵穴
SK3	楕円形	101×79	29	貯蔵穴
SK4	円形	72×65	9	性格不明土坑
SK5	円形	52×50	18	性格不明土坑
SK6	隅丸方形	69×67	17	性格不明土坑
SK7	楕円形	96×(60)	26	性格不明土坑
SK8	楕円形	87×(72)	25	性格不明土坑
SK9	隅丸長方形	106×52	22	性格不明土坑
SK10	隅丸長方形	(143)×74	24	性格不明土坑

第253図 SI476 竪穴住居跡(2)

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、東袖の外壁はSK388の重複により失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は残存値で長さ76cm、幅22cm、西袖は長さ84cm、幅23～29cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き81cm、幅52～72cmを測る。底面はわずかに起伏し、焼面はみられない。奥壁は外反して12cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ203cm、幅31～41cm、深さ21～28cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面で8基(SK1～8)の土坑と2基(P7・9)のピット、掘り方で2基(SK9・10)の土坑を検出した。中央部から南西部を除く範囲に分布し、一部重複する。このうちSK1～3は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は円形を呈し、規模は長軸78cm、短軸70cm、深さ20cmを測る。SK2の平面形は隅丸方形と考えられ、規模は残存値で長軸75cm、短軸34cm、深さ20cmを測る。SK3の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸101cm、短軸79cm、深さ29cmを測る。P7・9は土坑状で浅く、堆積土に焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-192	SI476	堆積土	土師器	环	(11.6)	5.8	3.5	ヘリミガキ	ヘリミガキ	内面黒色処理 内面口縁部～体部漆付着か 底部線刻「名大」(釘状の工具か)	343
2	C-497	SI476 SK3	堆積土	土師器	甕	(16.6)	—	(15.3)	口縁：ヨナデ 胴部：ヘラズリ	口縁：ヨナデ 胴部：ヘラデ	骨針・角閃石微量含む	343
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
3	Kd-029	SI476 SK3	堆積土	石製品	砥石	(5.9)	4.2	2.8	58.9	細粒凝灰岩	砥面5面 溝状痕(a～e面) 線条痕(a～e面) 端部欠損	343
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
4	N-019	SI476 P3	堆積土	金属製品	鉄鏃か	10.9	0.6	0.3	20.3	ほぼ完形 長頸 四面段間	343	

第254図 SI476 竪穴住居跡出土遺物

【掘り方】 深さ3～26cmを測る。カマド前から南東部を除き、不規則に低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、鉄滓などが出土し、土師器環1点・甕1点、石製品1点、金属製品1点を掲載した(第254図)。2・3はSK3から出土した。1は土師器環で、平底から屈曲し、外傾しながら内湾気味に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。内面に黒色処理が施されている。外面の底部には、焼成後に釘状の工具と考えられるもので「名大」と刻書されている。この刻書については、第254図および写真図版384にPEAKIT画像を掲載した。内面の口縁部から底部にかけて、漆と考えられる黒色付着物が部分的に認められる。2は土師器甕である。張りのない胴部を持ち、口縁部で外反する。外面は強いヘラケズリが縦方向に施されている。色調はにぶい褐色を呈し、胎土はやや粗く、多量の2mm以下の砂礫、微量の海綿骨針を含む。3は砥石で、砥面が5面あり、a～e面に溝状痕・線条痕がみられる。石材は細粒凝灰岩である。4は長頸の鉄鏃と考えられる。鏃身部は両刃で、断面形は両丸造である。鬘部は四面段鬘である。

【時期】 SK3から出土した土師器甕(第254図2)の特徴およびSD331との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性がある。

SI477 竪穴住居跡(第255・256図)

【位置・確認】 調査区中央部の70・71・79区に位置する。煙道部の一部が攪乱により失われているが、全体的に残存状態が良好な住居跡である。

【重複】 SI479・480・511・512より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸440cm、短軸408cmを測り、平面形は東西にやや長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-68°-Eを測る。

【堆積土】 19層に分層した。1～5層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7～13層はカマド堆積土である。14～16層はカマド袖構築土、17層はカマド掘り方埋土、18・19層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で33cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、黒褐色粘土質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

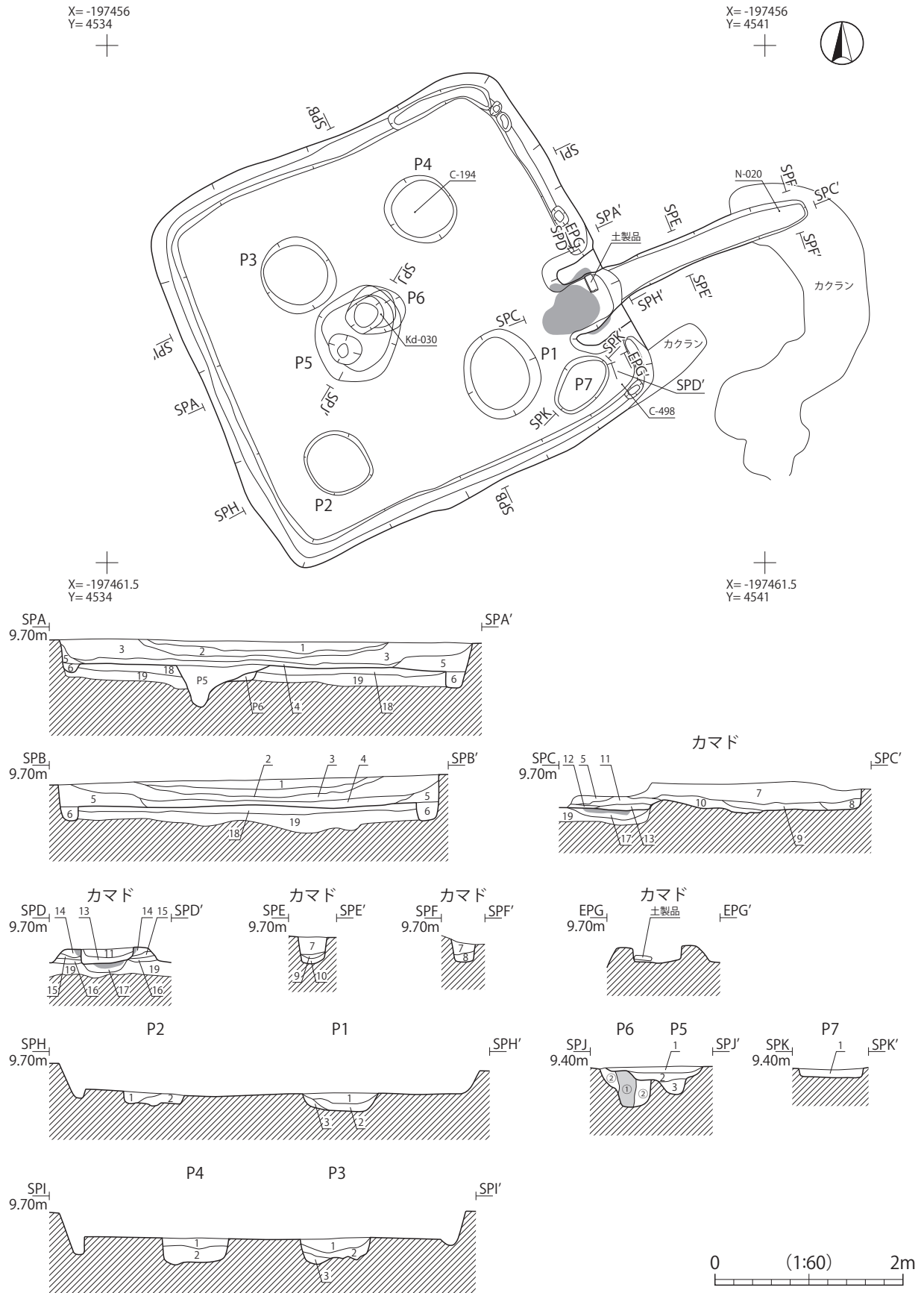
【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は長軸69～96cm、短軸65～81cm、深さ15～26cmを測る。いずれも土坑状で浅く、住居の規模に対して大型である。P5は中央部付近に配置され、P6と重複する。P6で径20cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6は補助柱穴と考えられる。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないし箱形を呈し、規模は幅14～30cm、深さ4～27cmを測る。東壁の周溝底面では、一部で壁材の痕跡とみられる小規模なくぼみを検出した。

【カマド】 東壁中央部から南寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、焚口付近は失われている。袖は壁面に対して直交し、南袖の規模は残存値で長さ67cm、幅30cm、北袖は長さ62cm、幅33cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は焼面の範囲から奥行き93cm前後が推定され、幅56cmを測る。底面は奥壁に向かってわずかに下がり、中央部から焚口付近にかけて長径64cm程度の焼面がみられる。奥壁は「く」字状に外傾しながら10cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。袖の芯材か焚口の懸架材とみられる直方体の土製品が、燃焼部から倒れた状態で出土している。煙道部は長さ213cm、幅26～41cm、深さ18～35cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がり、中央部付近で平坦に延びる。

【その他の施設】 床面で1基(P7)のピットを検出した。南東隅に位置し、形状からも貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 深さ14～17cmを測る。底面は概ね平坦で、北東部の一部が土坑状に低く掘り込まれている。



第255図 SI477 竪穴住居跡

SI477 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・灰色シルトブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド堆積土	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※下面被熱、天井崩落土か
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)・骨片少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	12	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	IV層土粒少量含む。
	13	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・灰多量、炭化物粒少量含む。 ※灰層
	14	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド袖構築土	15	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	16	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・灰色粘土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	17	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	18	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	19	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。

SI477 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P6	①	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	②	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5～30mm程度)・炭化物粒少量、灰微量含む。

SI477 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	96×81	18	主柱穴
P2	円形	69×65	15	主柱穴
P3	円形	80×75	20	主柱穴
P4	楕円形	76×70	26	主柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	円形	103×89	38	補助柱穴
P6	(円形)	(62)×(54)	49	補助柱穴 柱痕跡
P7	楕円形	70×47	9	貯蔵穴

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器坏3点、石製品1点、金属製品1点を掲載した(第256図)。5はカマド煙道部の堆積土から出土した。1～3は土師器坏である。1は浅身で、口縁部と体部の境には沈線状の段を持つ。扁平な丸底で、口縁部は内湾気味に外傾する。2・3は口縁部と体部の境に段が認められないもので、2は浅身、3は深身である。2・3は内湾しながら口縁部に至る。1・3の内面に黒色処理が施されているが、2は二次被熱によって黒色処理が消失している可能性がある。4は石製の管玉で、片側から穿孔されたと考えられる。表面には火ハネ痕がみられる。石材は緑色凝灰岩である。5は鉄製刀子で、関部は^{りょうま}両関で形状は斜角関である。

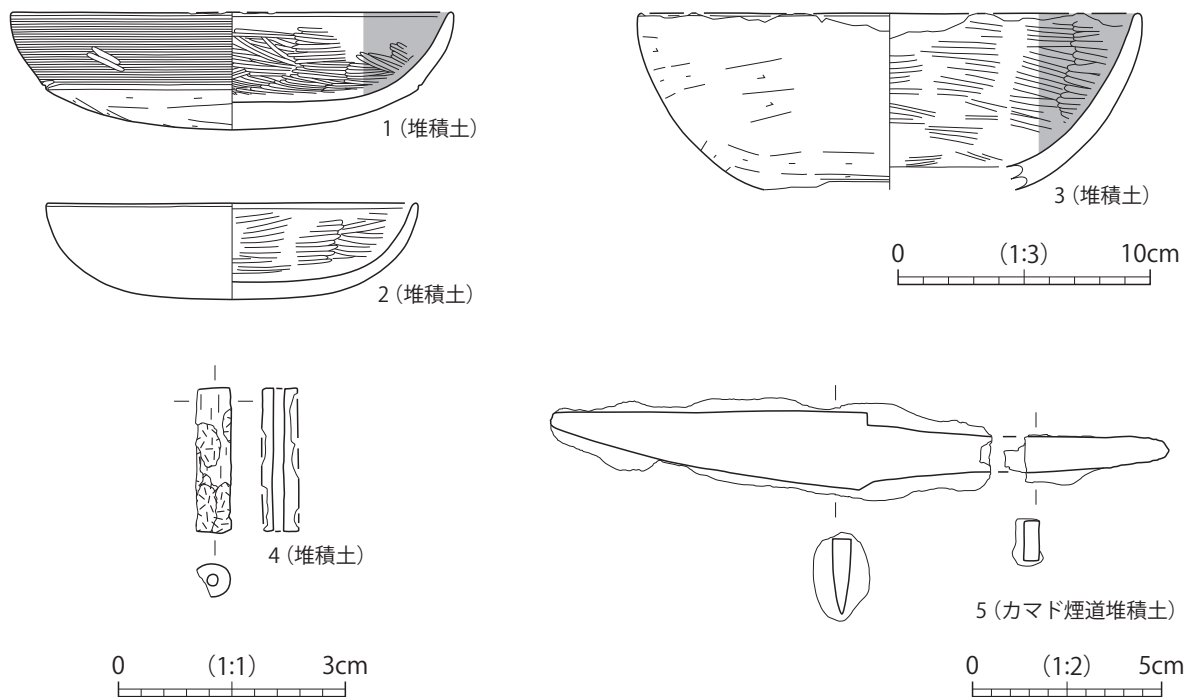
【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI479・480・511・512との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以降の可能性がある。

SI478 竪穴住居跡(第257図)

【位置・確認】 調査区北部の37・38・45・46区に位置する。北壁と北東部床面の一部がSD346の重複、南東部と南西隅周辺がSI409、SB45の重複や攪乱により失われている。

【重複】 SI409、SB45、SD331・333、Pit1117より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸451cm、短軸429cmを測り、平面形は方形を呈する。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-195	SI477	堆積土	土師器	環	(17.4)	—	(4.7)	口縁：ヨコナテ→ハミガキ 体～底部：ハラスリ	ハミガキ	内面黒色処理 内面やや摩滅	343
2	C-194	SI477	堆積土	土師器	環	(14.6)	—	3.8	不明	ハミガキ	内面黒色処理か(被熱により不明瞭)外面二次被熱のため赤色化	343
3	C-498	SI477	堆積土	土師器	環	(19.6)	—	(7.0)	ハラスリ	ハミガキ	内面黒色処理 内外面摩滅	343
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
4	Kd-030	SI477	堆積土	石製品	管玉	1.9	0.5	0.5	0.5	緑色凝灰岩	片側穿孔か 孔径0.1cm 火傷痕あり	343
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
5	N-020	SI477 灰土煙道	堆積土	金属製品	鉄製刀子	(16.3)	2.0	0.5	55.6	茎部～刃部 両関	343	

第256図 SI477 竪穴住居跡出土遺物

【方向】 西壁を基準としてN-13°-Wを測る。

【堆積土】 8層に分層した。1～6層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、基本層IV層土の堆積状況から人為的な埋土とみられる。7層は周溝堆積土、8層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 やや外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で32cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄橙色シルトの埋土上面を床面とする。

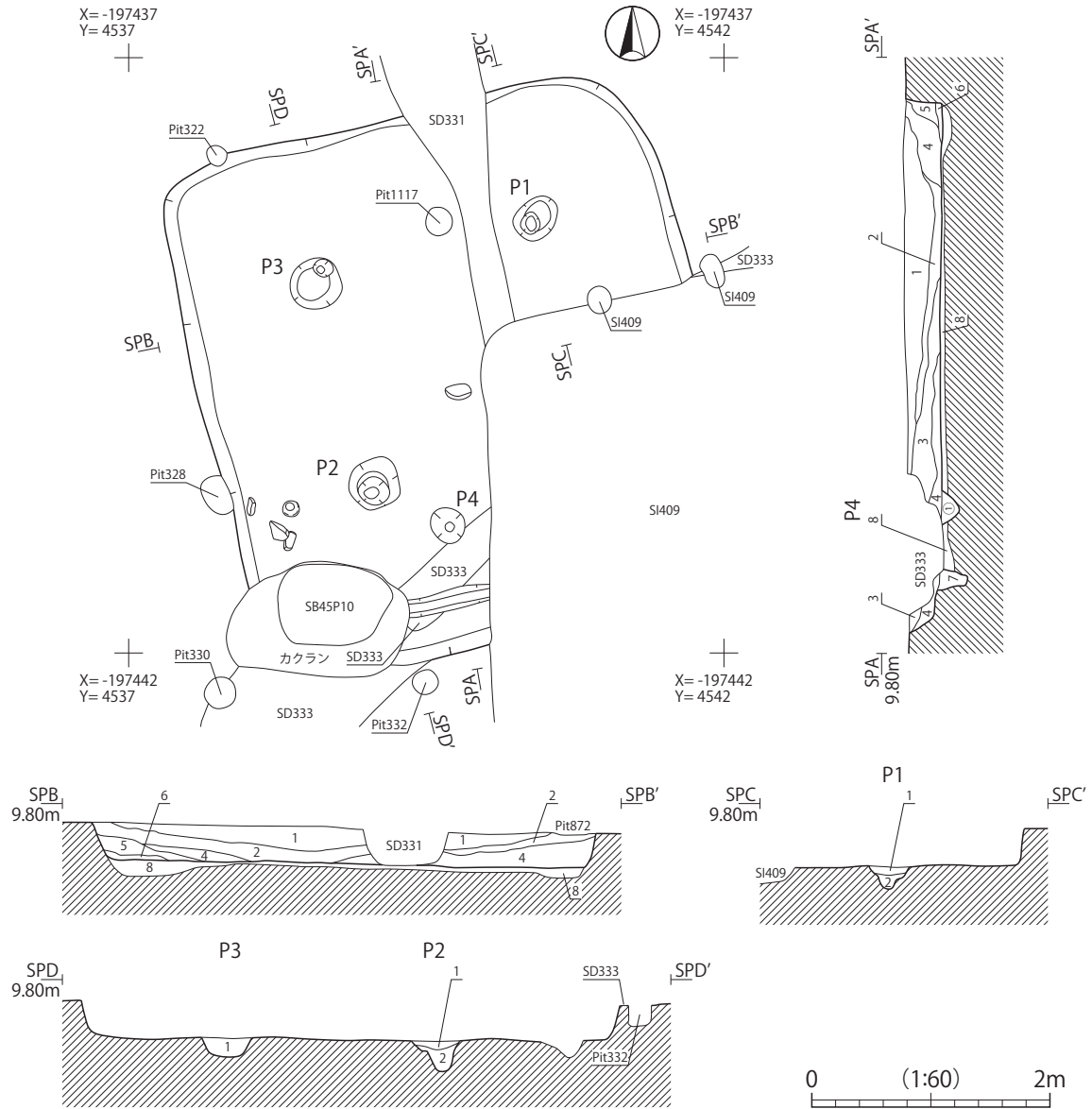
【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～3の規模は長軸40～43cm、短軸32～42cm、深さ17～26cmを測る。P3は土坑状で浅い。補助柱穴と考えられるP4はP2の南東側に配置されている。

【周溝】 残存範囲では、南壁際で部分的に検出した。壁面から22～24cm前後内側に延びる。断面形は台形を呈し、規模は残存値で幅13～18cm、深さ23～24cmを測る。幅に対して深く掘り込まれている。

【掘り方】 深さ3～12cmを測り、壁際が溝状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓などが出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI409、SD331との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以前の可能性がある。



SI478 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(30～50mm程度)少量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
周溝堆積土	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)多量含む。
住居掘り方埋土	8	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック斑状に含む。

SI478 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、埴土粒微量含む。
P4	①	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。

SI478 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	40×32	20	主柱穴
P2	隅丸方形	43×41	26	主柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	円形	43×42	17	主柱穴
P4	円形	(31)×28	15	補助柱穴

第257図 SI478 竪穴住居跡

SI479 竪穴住居跡 (第258～261図)

【位置・確認】 調査区中央部の70・71・79・80区に位置する。北西部はSI477の重複により大部分が失われ、南壁も攪乱により中央部から東部にかけて失われている。

【重複】 SI477、SD306より古く、SI511・514・517、SK494より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸525cm、短軸492cmを測り、平面形は東側に広がる台形を呈する。

【方向】 カマド1を基準としてN-70°-Eを測る。

【堆積土】 12層に分層した。1～4層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。5層は周溝堆積土、6・7層はカマド1堆積土である。8層はカマド1袖構築土、9・10層はカマド1掘り方埋土、11・12層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、8層に分層した。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で22cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、黒褐色粘土質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。北東隅周辺には炭化物範囲がみられる。

【柱穴】 床面およびSI477の重複範囲内で7基(P1～4・6・7・12)、掘り方で3基(P8～10)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1・2・7・12の規模は残存値も含め長軸41～91cm、短軸38～68cm、深さ53～67cmを測る。P1・7の堆積土とP2の堆積土下半で、径13～19cm程度の柱痕跡を確認した。P3・4・6・8～10は土坑状で浅いため、柱穴以外の性格も考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅12～25cm、深さ3～12cmを測る。

【カマド】 東壁中央部でカマド1・2を検出した。2基のカマドは重複しており、カマド1の方が新しい。カマド1は壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して馬蹄状に延び、南袖の規模は長さ77cm、幅41cm、北袖は長さ77cm、幅62cmを測る。両袖ともに壁外を24～36cm程度掘り込み、燃焼部奥壁材と一体となるように構築されている。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き53cm、幅47cmを測る。底面は起伏し、底面全体におよぶ長径34cm程度の焼面がみられる。奥壁は階段状に傾斜して11cm程度緩やかに立ち上がり、煙道部へつながる。煙道の先端部は攪乱により失われているが、残存値で長さ111cm、幅27～49cm、深さ12～13cmを測り、底面は中央部に向かって緩やかに下がる。カマド2の燃焼部はカマド1と同一であるため、付け替え前の古い煙道部に相当する。方位はカマド1の煙道部より16°北に振れ、規模は残存値で長さ134cm、幅30～36cm、深さ18～32cmを測る。底面はカマド1燃焼部の底面からそのまま緩やかに下がり、先端部はピット状を呈する。

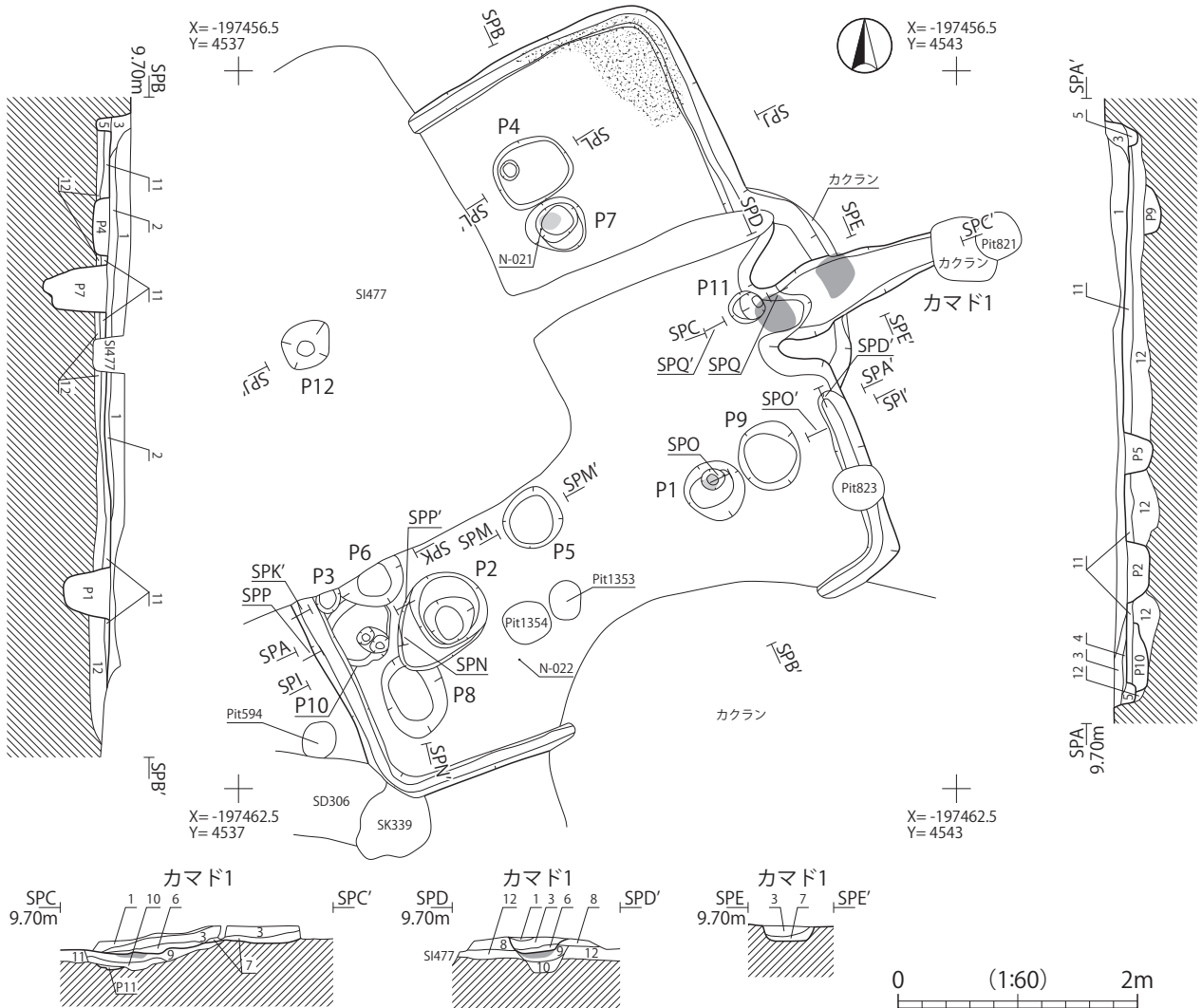
【その他の施設】 床面で1基(P5)、掘り方で1基(P11)のピットを検出した。P5は土坑状で浅く、堆積土に焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑と考えられる。P11はカマド北袖の先端部直下に位置するため、袖芯材の埋設穴であった可能性がある。

【掘り方】 深さ11～18cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、礫石器・石製品、金属製品、鉄滓などが出土し、土師器坏1点、礫石器1点、石製品1点、金属製品2点を掲載した(第261図)。5は南西部の床面、4はP7から出土した。また、北東部の堆積土からは種実が1点出土したため、写真のみ掲載した(写真図版344-3)。1は薄手の土師器坏で、扁平な丸底を呈し、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境には外面に段、内面に稜を持つ。内面に黒色処理が施されている。2は磨石で、磨面がa・b面の一部にあり、a面から側面にかけて黒色物質が付着する。石材は安山岩である。3は砥石で、砥面が5面あり、a～d面に溝状痕・線条痕、b面に敲打痕が認められる。上端にはa面からc面にかけて両側から穿孔された貫通孔がある。石材は細粒凝灰岩である。4・5は長頸の鉄鏃である。4の鏃身部は片刃で断面形は平片刃造、^{かくまち}関部は角関と考えられる。頸部の中位でL字形に折り曲げられている。

5の関部は四面段関である。

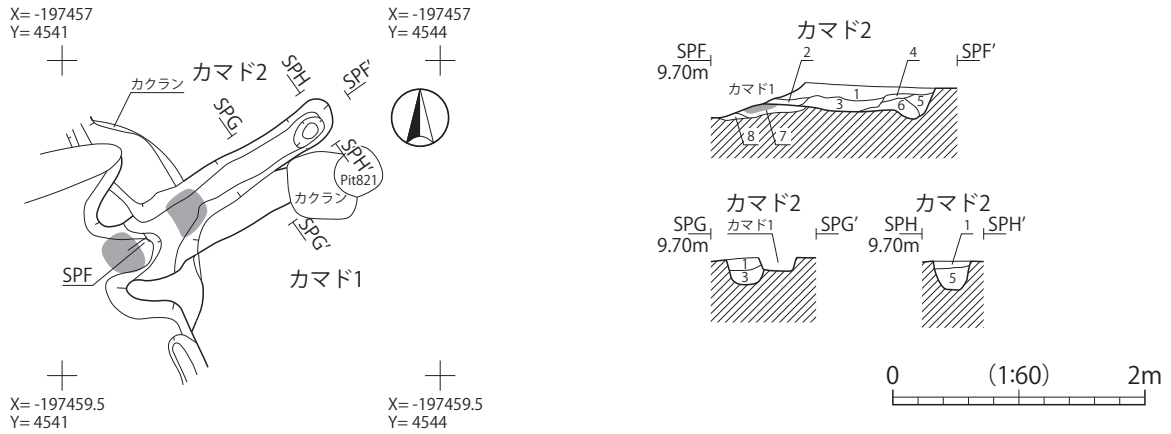
【時期】 掘り方から出土した土師器環(第261図1)の特徴およびSI477・511・514・517との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性がある。



SI479 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド1 堆積土	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒少量、灰微量含む。 ※灰層
	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド1 袖構築土	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド1 掘り方埋土	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	10	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
住居掘り方埋土	11	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド2 堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※天井崩落土
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド2 掘り方埋土	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。

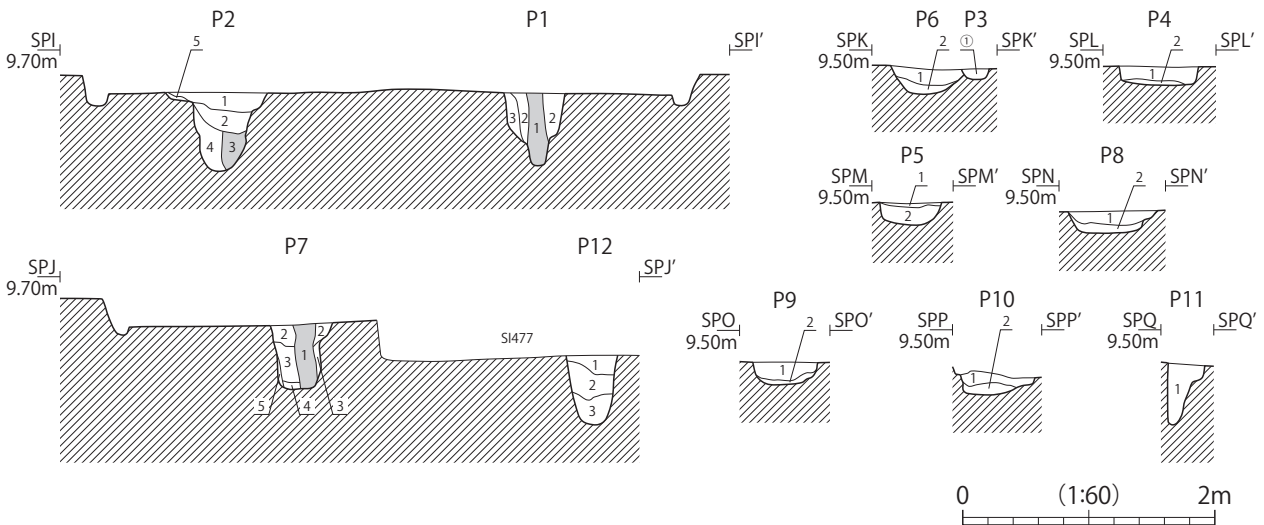
第258図 SI479 竪穴住居跡(1)



第259図 SI479 竪穴住居跡(2)

SI479 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR6/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P3	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、IV層土粒・炭化物粒少量、骨片微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
P7	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P8	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5~20mm程度)・炭化物粒少量含む。
	2	2.5Y7/2 灰黄色	砂質シルト	炭化物粒微量含む。
P9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・炭化物粒少量、焼土ブロック(5~20mm程度)微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
P10	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P11	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P12	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~40mm程度)多量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。

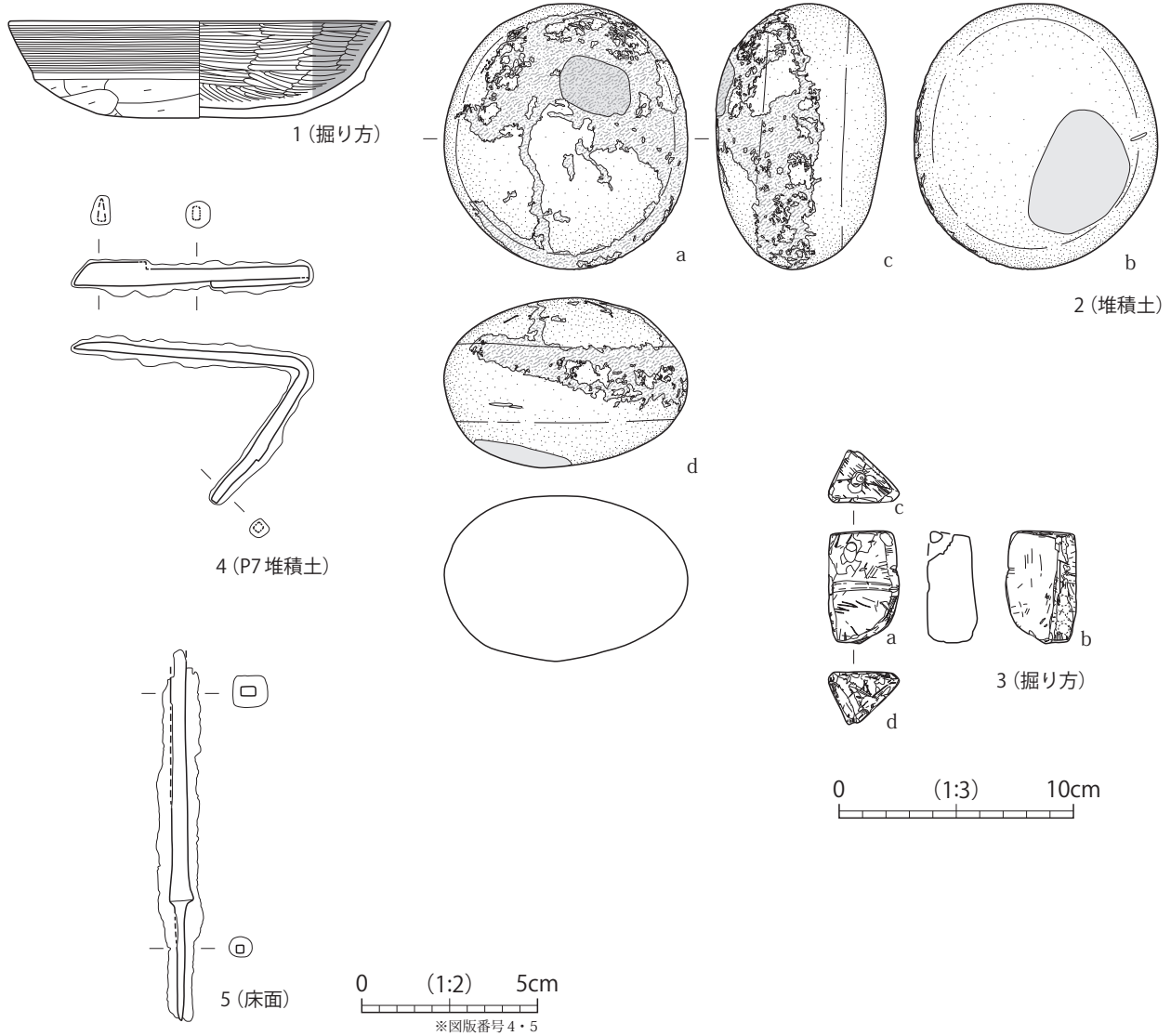


第260図 SI479 竪穴住居跡(3)

SI479 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	51×50	57	主柱穴 柱痕跡
P2	楕円形	91×68	67	主柱穴 柱痕跡
P3	(円形)	(21)×20	8	性格不明(土坑か)
P4	隅丸方形	63×55	20	性格不明(土坑か)
P5	円形	52×49	18	カマド関連土坑
P6	(円形)	(56)×(34)	17	性格不明(土坑か)

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7	円形	51×47	53	主柱穴 柱痕跡
P8	楕円形	71×51	17	性格不明(土坑か)
P9	円形	57×52	21	性格不明(土坑か)
P10	(円形)	(61)×56	29	性格不明(土坑か)
P11	円形	29×27	47	カマド芯材埋設穴か
P12	(円形)	(41)×(38)	(55)	主柱穴



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-196	SI479	掘り方	土師器	環	(16.2)	—	4.1	口縁: 30° 体~底部: 45°入り	ハミガキ	内面黒色処理	343
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
2	Kc-012	SI479	堆積土	礫石器	磨石	11.4	10.4	7.2	1214.6	安山岩	磨2面(凸) 黒色付着物あり	344
3	Kd-031	SI479	掘り方	石製品	砥石	4.8	3.0	2.2	33.0	細粒凝灰岩	砥面5面 溝状痕(a~d面) 線条痕(a~d面) 敲打痕(b面) 両側穿孔(穿孔内盲孔あり) 孔径1.7~1.9cm	344
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
4	N-021	SI479 P7	堆積土	金属製品	鉄鏃	(6.9)	0.6	0.2	14.7	完形 長頸 角潤	343	
5	N-022	SI479	床面	金属製品	鉄鏃	(10.6)	0.5	0.3	18.3	鏃身部欠損 長頸 四面段潤	343	

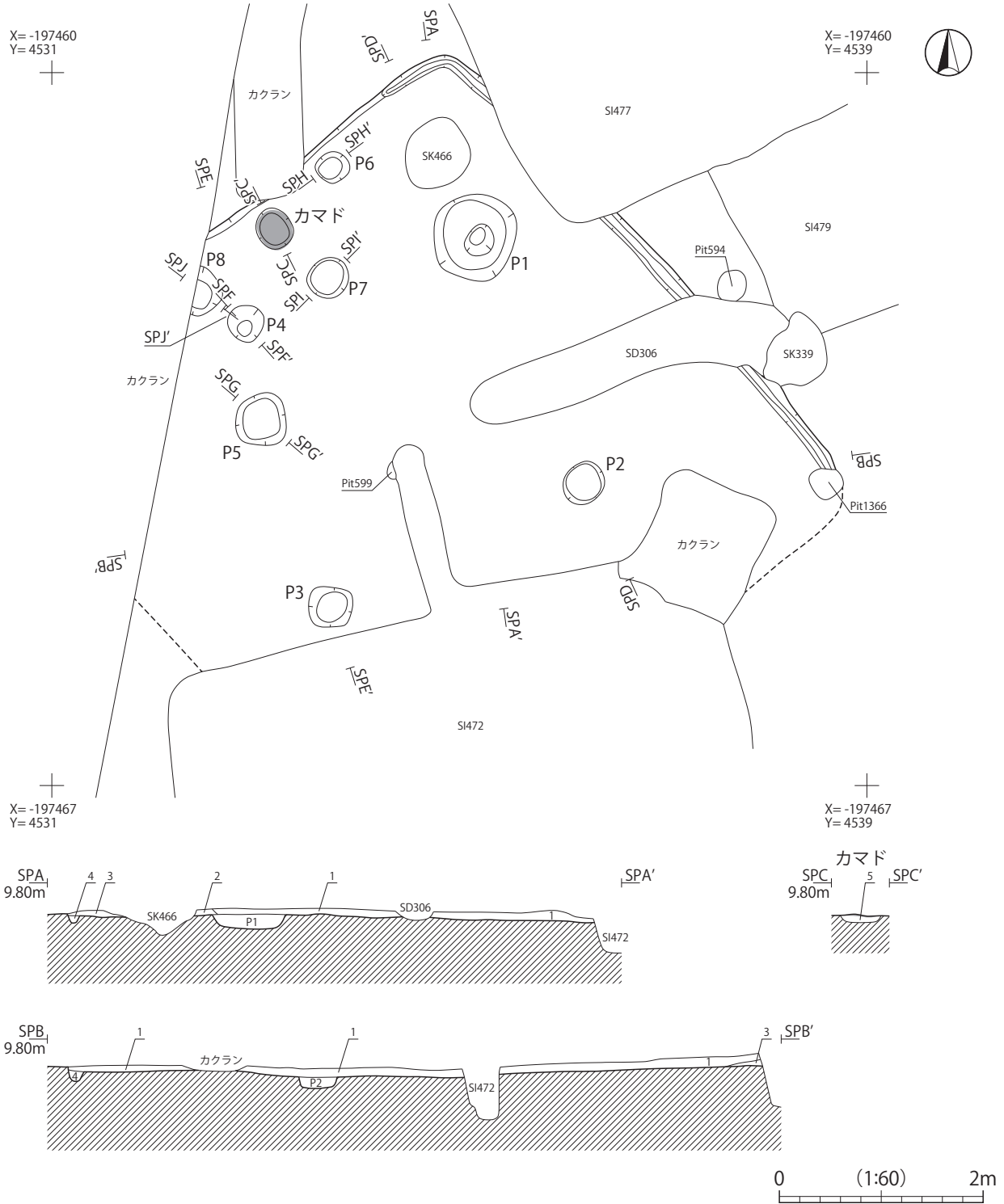
第261図 SI479 竪穴住居跡出土遺物

SI480 竪穴住居跡 (第262・263 図)

【位置・確認】 調査区中央部の70・79区に位置する。南西部がSI472や攪乱、東壁と床面の一部がSI477とSD306、北西部と北・西壁の一部が攪乱により失われている。

【重複】 SI472・477、SD306より古く、SI514・516、SD345、Pit1609より新しい。

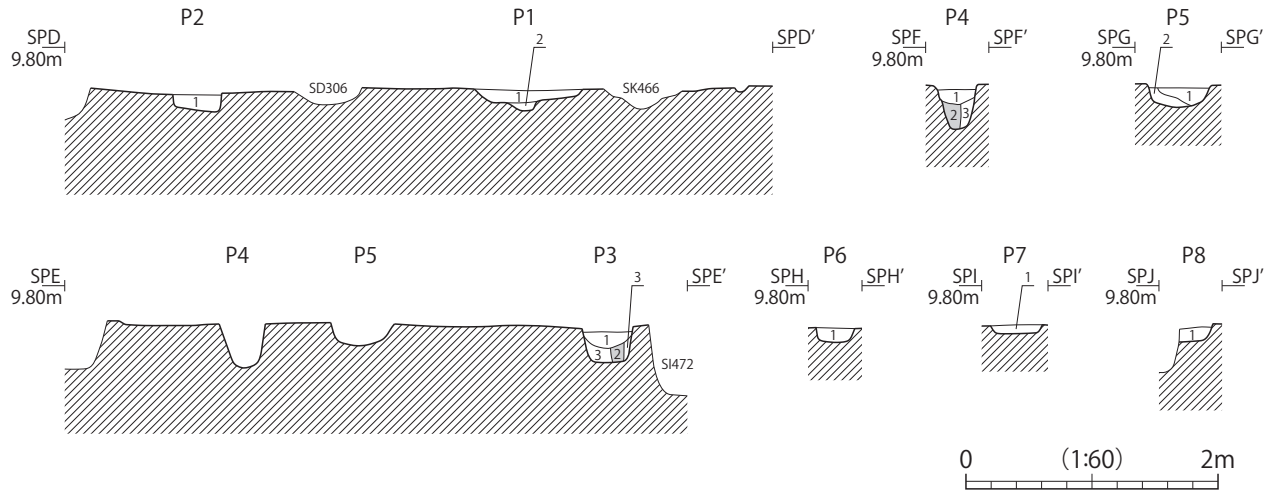
【規模・形態】 確認された規模は長軸607cm、短軸606cmを測り、平面形は方形と考えられる。



第262 図 SI480 竪穴住居跡 (1)

SI480 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
周溝堆積土	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	5	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒少量含む。 ※被熱



SI480 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。
P6	1	2.5YR3/1 暗赤灰色	シルト	焼土粒・炭化物粒多量、IV層土粒微量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
P8	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。

SI480 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	隅丸方形	86×79	18	性格不明(土坑か)
P2	円形	44×38	12	性格不明(土坑か)
P3	隅丸方形	43×39	30	補助柱穴 柱痕跡
P4	円形	36×36	35	補助柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	隅丸方形	52×50	18	性格不明(土坑か)
P6	隅丸方形	31×29	11	性格不明(土坑か)
P7	円形	41×38	6	性格不明(土坑か)
P8	(隅丸方形)	(40)×(39)	14	性格不明(土坑か)

第263図 SI480 竪穴住居跡(2)

【方向】 東壁を基準としてN-43°-Wを測る。

【堆積土】 5層に分層した。1～3層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は周溝堆積土、5層はカマド掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で6cm残存するが、形状は不明である。

【床面】 概ね平坦で、基本層IV層を直接床面とする。

【柱穴】 床面で8基(P1～8)を検出した。いずれも配置は不規則であり、主柱穴は確認できなかった。P1・2・5～8は土坑状で浅いため、柱穴以外の性格も考えられる。補助柱穴と考えられるP3・4の堆積土で、径11～14cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲では、北東隅から東壁の壁面に沿って検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅10～15cm、深さ1～11cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置するが、燃烧部底面のみ残存する。底面はやや起伏し、壁面から9cm程度内側に長径40cm程度の焼面がみられる。

【出土遺物】 堆積土、床面施設から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI472・477・514・516との新旧関係から、5期（7世紀末頃～8世紀初頭）以降の可能性がある。

SI481 竪穴住居跡（第264・265図）

【位置・確認】 調査区中央部の98区に位置する。北西隅の壁上部がSD290の重複により失われているほか、単独ピットの重複や攪乱により各壁が部分的に失われている。

【重複】 SI485より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸279cm、短軸252cmを測り、平面形は方形を呈する。

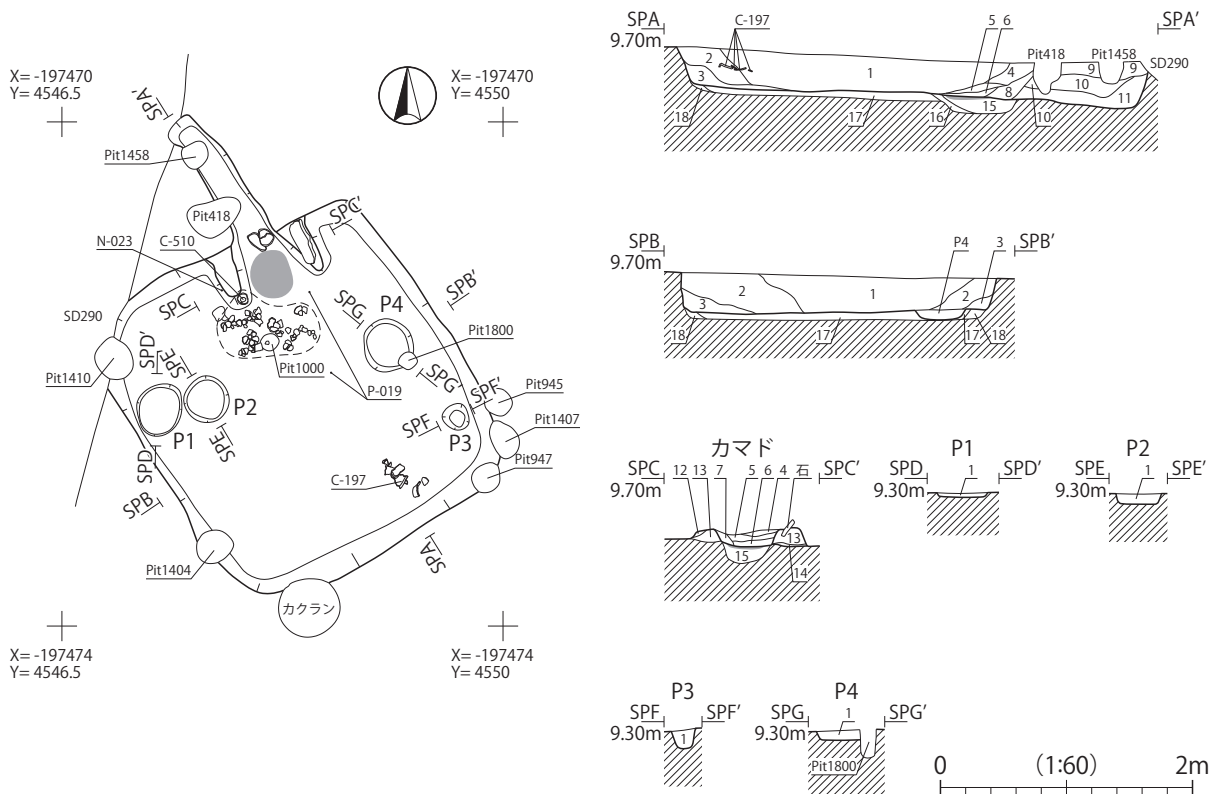
【方向】 カマドを基準としてN-32°-Wを測る。

【堆積土】 18層に分層した。1～4層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1・2層は人為的な埋土、3・4層は自然堆積とみられる。5～11層はカマド堆積土、12～14層はカマド袖構築土である。15・16層はカマド掘り方埋土、17・18層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で35cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、暗褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。カマド前には硬化範囲がみられる。

【柱穴】 床面で4基（P1～4）を検出した。P1・2・4は土坑状で浅いため、柱穴以外の性格も考えられる。P3は南東隅付近に配置されているため、補助柱穴の可能性もある。



第264図 SI481 竪穴住居跡

SI481 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(30mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※一部グライ化
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
カマド堆積土	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	6	10YR4/1 褐色	シルト	灰多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※灰層
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
カマド袖構築土	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。
	13	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド掘り方埋土	14	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	15	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	16	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
	17	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土・褐色シルトブロック斑状に含む。
	18	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。

SI481 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。

SI481 施設観察表

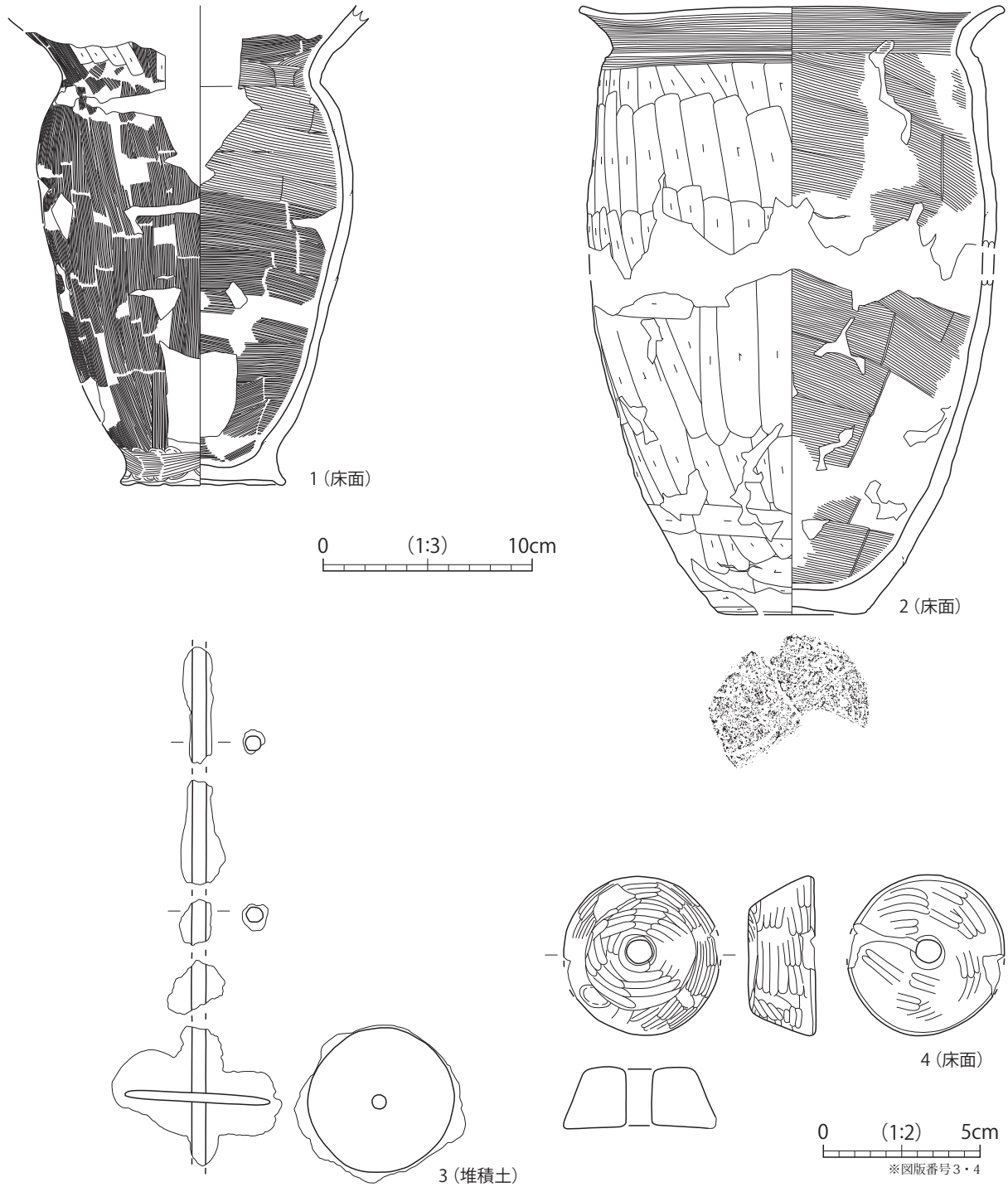
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	43×37	4	性格不明(土坑か)
P2	円形	36×36	10	性格不明(土坑か)
P3	円形	21×20	15	補助柱穴か
P4	円形	43×39	6	性格不明(土坑か)

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ48cm、幅28cm、西袖は長さ48cm、幅28cmを測る。芯材か焚口の懸架材の可能性のある板状の自然礫が、東袖の構築土に埋没した状態で出土している。また、西袖先端部からカマド前の床面で、土師器甕(第265図1)が潰れた状態で出土していることから、芯材として埋設されていたと考えられる。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き61cm、幅53cmを測る。底面は煙道部に向かってわずかに下がり、中央部から焚口付近にかけて長径39cm程度の焼面がみられる。支脚の可能性のある被熱した扁平・球状の自然礫が、奥壁際から2点出土している。煙道部は長さ107cm、幅25～30cm、深さ29～37cmを測り、底面は燃焼部底面からそのまま延び、先端部に向かって緩やかに下がる。

【掘り方】 深さ2～11cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器甕2点、金属製品1点、土製品1点を掲載した(第265図)。1・2はカマド前の床面から出土した。3はカマド西袖の外壁に接して、4は中央部付近の床面から出土した。1・2は土師器甕で、1は中型品である。上げ底状を呈し、底部端部はつまみ出されている。胴部最大径が上位に位置し、口縁部は長く直線的に外傾する。2は胴部最大径が中位に位置し、口縁部で外反気味に外傾する。2の頸部は段を持つが、1は認められない。2の外表面は縦方向の弱いヘラズリを基本とするが、下位は横方向に施されている。ともに胎土が特徴的で粗く、1が多量の黒色の円礫が混じる砂礫、少量の赤色粒子含み、2は多量の8mm以下の石英を主とする砂礫、微量の海綿骨針含む。器形や調整などから、1は東北地方北部の影響を受けたもの、2は関東系土師器と考えられる。3は鉄製紡錘車で、軸棒に紡輪が残存する。4は土製の紡錘車で、断面形は台形を呈する。全面にミガキが施され、側縁の一部にオサエがみられる。

【時期】 床面から出土した土師器甕(第265図1・2)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-510	SI481	床面	土師器	甗	—	7.8	(23.0)	口縁：ハメ→ハカスリ 胴部：ハメ 胴下端～底部：北' 杵I→北' 行'	口縁：ハメ→ハカサ 胴上位：ハカサ 胴中～下位：ハメ	外面口縁～胴上位、内面胴下半に煤付着	344
2	C-197	SI481	床面	土師器	甗	(20.0)	(7.2)	(29.1)	口縁：ヨサデ 胴部：ハカスリ	口縁：ヨサデ 胴～底部：ハカサ	関東系 底部木葉痕 骨針微量含む 内面やや摩滅 内面胴下半被熱による赤色化	344
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
3	N-023	SI481	堆積土	金属製品	鉄製紡錘車	全長	幅	厚さ				71.6
4	P-019	SI481	床面	土製品	紡錘車	5.1	4.9	2.2	46.4	辺'キ'杵I孔径0.8cm	344	

第265図 SI481 竪穴住居跡出土遺物

SI482 竪穴住居跡 (第266・267図)

【位置・確認】 調査区中央部の63・72区に位置する。東部および中央～西部と南部の各所が、SI445・446・450・452、SD343などの重複により失われている。

【重複】 SI445・446・450・452、SD343、SK451・464、Pit1083・1324・1415・1425より古く、SI405・483・486・490より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸588cm、短軸524cmを測り、平面形は南側に広がる台形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-38°-Wを測る。

【堆積土】 17層に分層した。1～5層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7～12層はカマド堆積土である。13・14層はカマド袖構築土、15層はカマド掘り方埋土、16・17層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で29cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で12基(P1～12)を検出した。P2・5・8・9が支柱穴の可能性はあるが、P8は深さ6cmと極端に浅く、支柱穴と断定できない。規模は残存値も含め長軸23～37cm、短軸17～33cm、深さ6～24cmを測る。P9で径8cm程度の柱痕跡を確認した。補助柱穴と考えられるP4・11は、P4はP5の南西側、P11はP9の北側にそれぞれ配置されている。P1・3・6・7・10・12は土坑状で浅いため、柱穴以外の性格も考えられる。

【周溝】 残存範囲では、南西部の壁面に沿って検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅14～20cm、深さ4～8cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、焚口付近は失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は残存値で長さ61cm、幅28cm、西袖は長さ59cm、幅23cmを測る。

燃焼部は壁内に位置し、規模は焼面の範囲から奥行き73cm前後が推定され、幅37cmを測る。底面は弧状にくぼみ、中央部から焚口付近にかけて長径50cm程度の焼面がみられる。奥壁は住居の壁線から18cm程度内側に位置し、外傾しながら直線的に14cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ94cm、幅15～27cm、深さ6～14cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

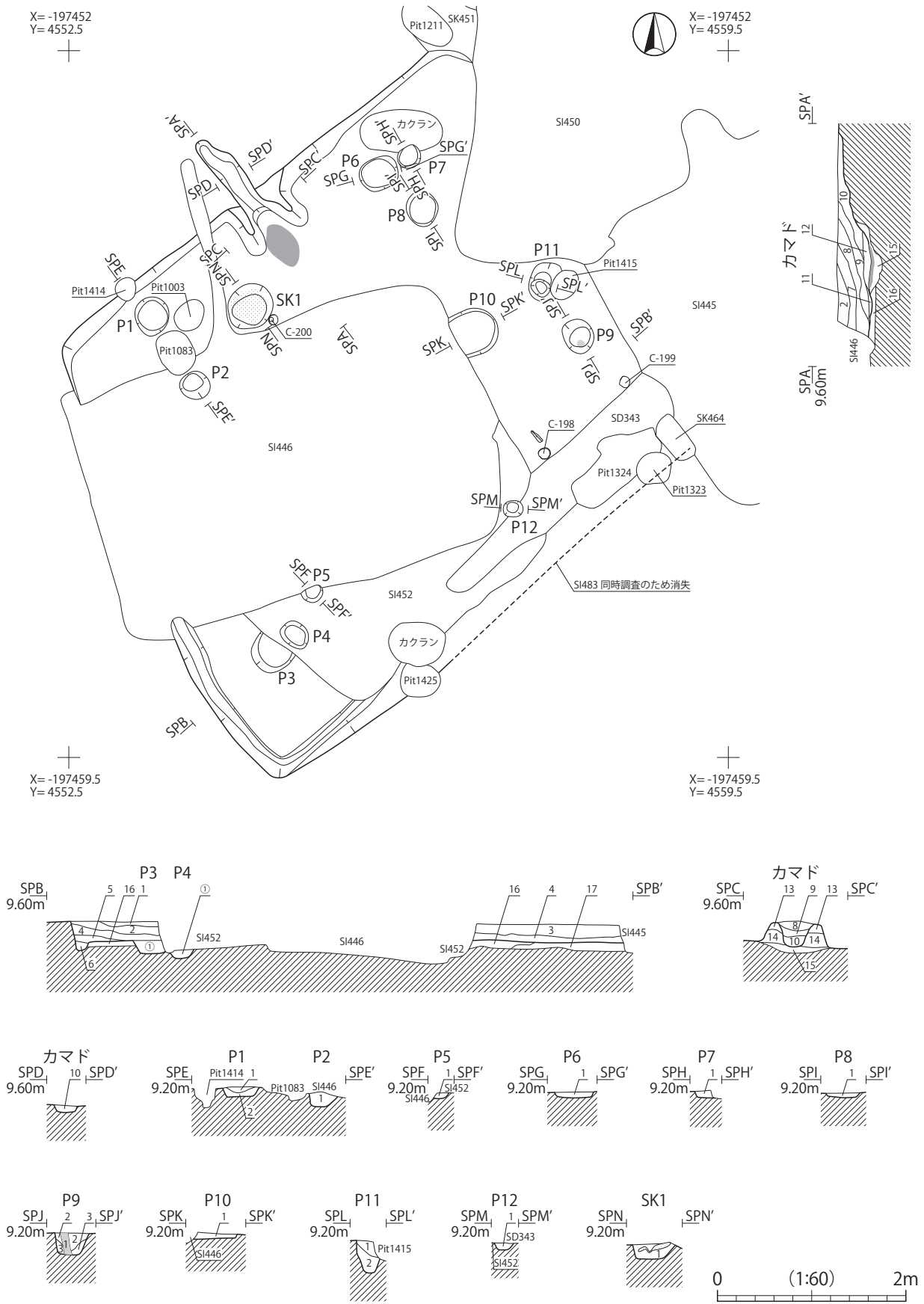
【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマド前西寄りに位置し、堆積土上層には白色粘土が充填されていたため、粘土貯蔵用の土坑と考えられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸51cm、短軸46cm、深さ17cmを測る。

【掘り方】 深さ1～9cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、鉄滓などが出土し、土師器坏1点・坏もしくは蓋1点・鉢1点、石製品1点を掲載した(第267図)。

1・2はいずれも床面から出土した土師器坏であるが、2は蓋の可能性も考えられる。1はやや厚手で、底部から体部は深身の半球形を呈し、口縁部で外反気味にやや外傾する。口縁部と体部の境に段を持つ。内面はナデ調整されており、黒色処理は認められない。色調は橙色～暗褐色を呈し、胎土はやや粗く、多量の砂粒、少量の海綿骨針を含む。関東系土師器が在地化したものと考えられる。2は器壁が薄く精巧なつくりである。丸底風平底で、扁平に内湾し短く直立して口縁部に至る。内外面を粗くヘラミガキ後黒色処理が施されている。3は土師器鉢である。平底から屈曲して直線的に外傾し、口縁部は緩く外反する。体部は外面が弱いヘラケズリ、内面は強いヘラケズリが施されている。4は砥石で、砥面が4面あり、a～d面に溝状痕・線条痕がみられる。石材は砂岩である。

【時期】 床面から出土した土師器坏もしくは蓋(第267図1・2)の特徴から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。



第266図 SI482 竪穴住居跡

SI482 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	9	10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	11	10YR3/1 黒褐色	シルト	上面に炭化物帯状に含む。
	12	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・灰多量、炭化物ブロック(10mm程度)少量含む。 ※灰層
カマド袖構築土	13	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	14	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド掘り方埋土	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
住居掘り方埋土	16	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。

SI482 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P3	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P4	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P7	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
P12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒・灰白色粘土塊多量含む。

SI482 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	42×36	10	性格不明(土坑か)
P2	(円形)	(30)×(30)	(16)	主柱穴
P3	(円形)	45×(34)	14	性格不明(土坑か)
P4	(楕円形)	(32)×(25)	(9)	補助柱穴
P5	(円形)	(23)×(17)	(6)	主柱穴
P6	楕円形	41×34	5	性格不明(土坑か)
P7	円形	26×(23)	6	性格不明(土坑か)

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	円形	37×33	6	主柱穴か
P9	楕円形	37×31	24	主柱穴 柱痕跡
P10	(楕円形)	50×(47)	3	性格不明(土坑か)
P11	楕円形	42×(24)	35	補助柱穴
P12	(楕円形)	(21)×(17)	(7)	性格不明(土坑か)
SK1	円形	51×46	17	粘土貯蔵施設

SI483 竪穴住居跡(第268図)

【位置・確認】 調査区中央部の72区に位置する。北半部の大部分が、SI446・452・482、SD343などの重複により失われている。残存範囲および他遺構の重複範囲内では、周溝・カマドなどの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI452・482、SD324・343、Pit1324・1425より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸263cm、短軸238cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-10°-Wを測る。

【堆積土】 4層に分層した。1層は黒褐色シルトの住居堆積土で、2～4層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で12cm残存するが、形状は不明である。

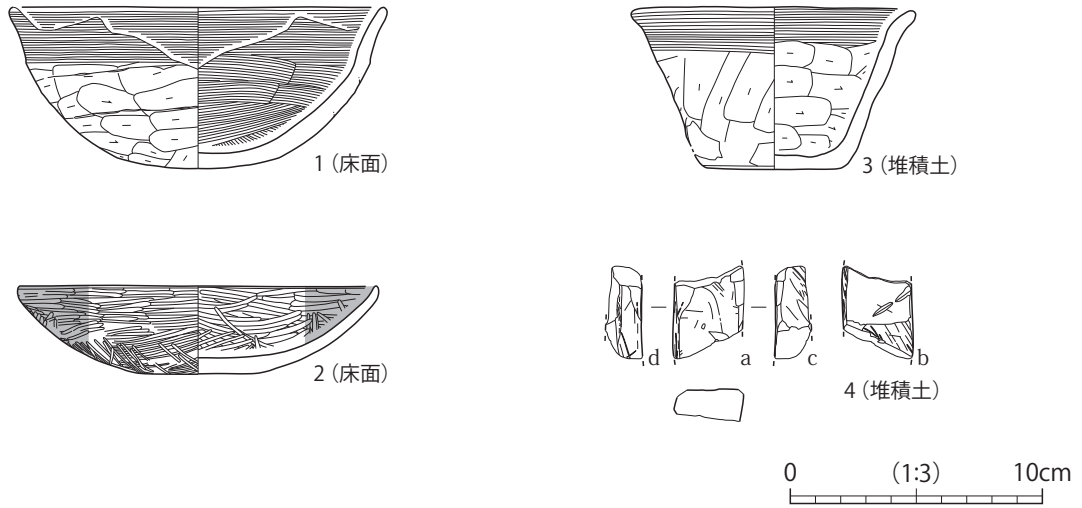
【床面】 中央部がわずかに高まり、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で1基(P1)を検出した。中央部からやや南西寄りに配置されている。

【掘り方】 深さ12～15cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓などが出土したが、図化できるものはなかった。

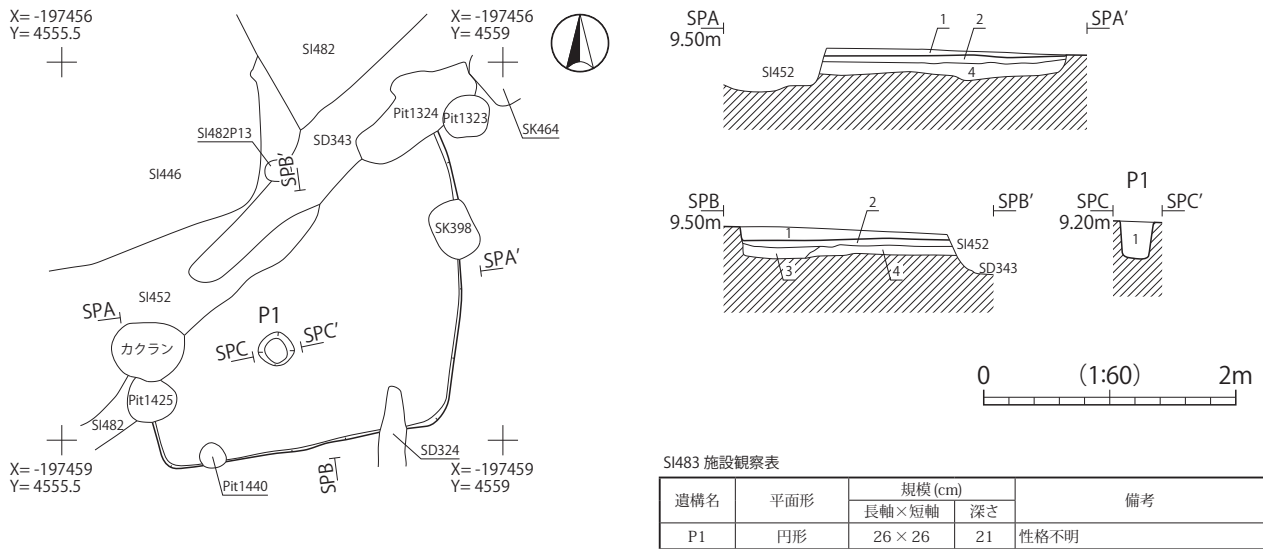
【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI452・482との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以前と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-198	SI482	床面	土師器	环	(14.7)	—	6.4	口縁：ヨナテ 体～底部：ハラスリ	口縁：ヨナテ 体～底部：ハナテ	内面摩滅 骨針・角閃石少量含む	344
2	C-199	SI482	床面	土師器	环 or 蓋	14.2	5.0	3.5	ハミガキ	ハミガキ	内外面黒色処理	344
3	C-200	SI482	堆積土	土師器	鉢	11.2	5.6	6.4	口縁：ヨナテ 体部：ハラスリ 底部：不明	口縁：ヨナテ 体～底部：ハラスリ	外面体～底部摩滅	344

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
4	Kd-032	SI482	堆積土	石製品	砥石	(3.7)	2.9	1.5	16.0	砂岩	砥面4面 溝状痕 (a～d面) 線条痕 (a～d面) 端部欠損	344

第267図 SI482 竪穴住居跡出土遺物



遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	26×26	21	性格不明

SI483 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

SI483 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。

第268図 SI483 竪穴住居跡

SI484 竪穴住居跡 (第269図)

【位置・確認】 調査区中央部の81区に位置する。住居本体はSI453の重複により失われ、カマド煙道の先端部付近のみ残存する。消失範囲内では、柱穴・周溝などの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI453より古く、SI486より新しい。

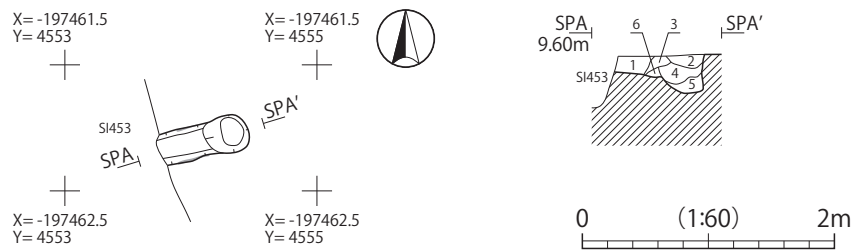
【方向】 N-73°-Eを測る。

【堆積土】 6層に分層した。暗褐色シルトを主体とする。

【カマド】 煙道部は残存値で長さ72cm、幅26～30cm、深さ19～30cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がり、先端部はピット状を呈する。

【出土遺物】 出土しなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI453・486との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以降と考えられる。



SI484 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。

第269図 SI484 竪穴住居跡

SI485 竪穴住居跡 (第270・271図)

【位置・確認】 調査区中央部の89・98・99区に位置する。各壁の上部がSI481、SD290・322・327・354などの重複により部分的に失われている。

【重複】 SI481、SD322・327・354、Pit1451より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸525cm、短軸485cmを測り、平面形は東西にやや長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-30°-Wを測る。

【堆積土】 19層に分層した。1～6層は黒褐色・灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～3層は人為的な埋土、4～6層は自然堆積とみられる。7層は周溝堆積土、8～14層はカマド堆積土である。15～17層はカマド袖構築土、18・19層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で67cmを測る。西壁は上部が「く」字状に開く。

【床面】 中央部がわずかに高まり、黒褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で5基(P1～5)、掘り方で1基(P6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は長軸33～41cm、短軸32～38cm、深さ20～45cmを測る。P1・3はP2・4と比べ極端に浅い。P4で径15cm程度の柱痕跡、P1・3で柱の抜き取り痕を確認した。P5は土坑状で浅いため、柱穴以外の性格も考えられる。P6はP1北側の至近から検出したが、性格は不明である。

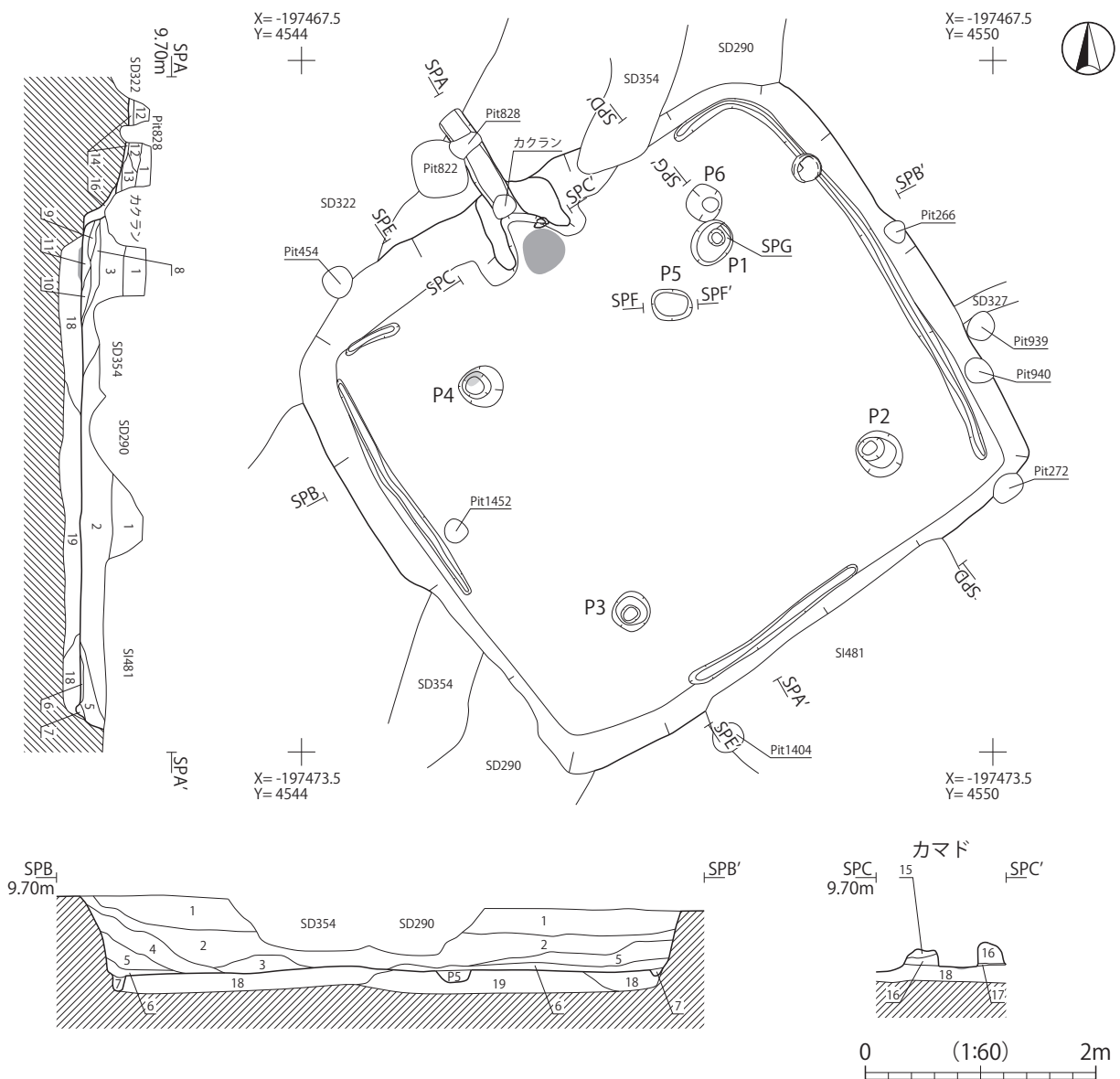
【周溝】 各壁の壁面に沿って、断続的に検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅7～14cm、深さ3～9cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖の焚口付近は残存せず、煙道の先端部もSD322の重複により失われている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は残存値で長さ65cm、幅31cm、西袖は長さ70cm、幅38cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は焼面の範囲から奥行き60cm前後が考えられ、幅41cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部から焚口付近にかけて長径38cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら内湾気味に29cm程度立ち上がり、煙道部へつながらる。煙道部は残存値で長さ102cm、幅21～24cm、深さ24cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【掘り方】 深さ9～19cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓などが出土したが、図化できるものはなかった。

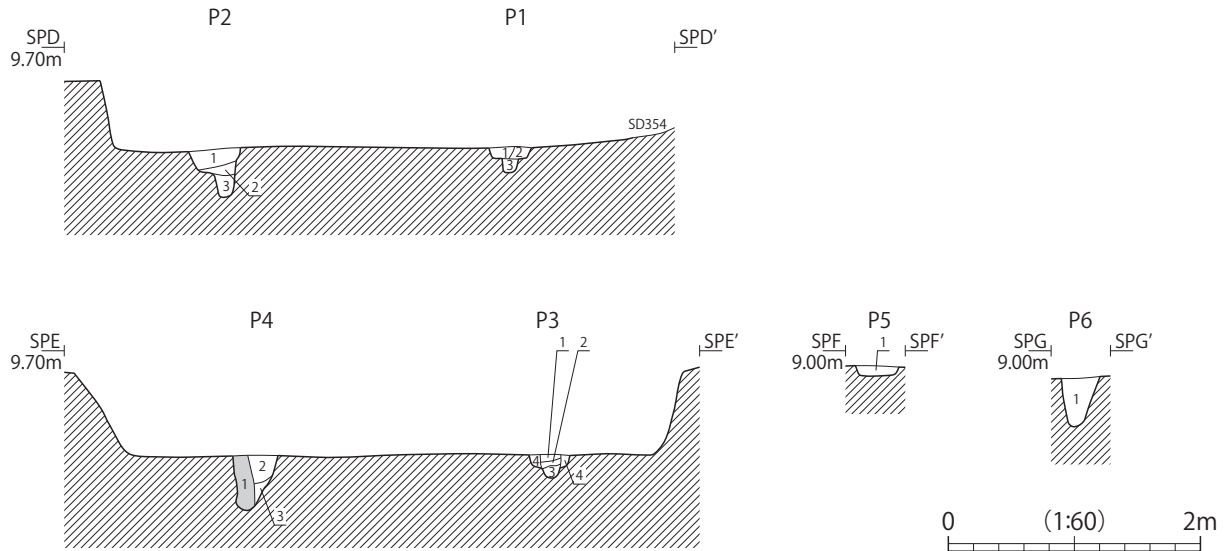
【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI481との新旧関係および本住居跡より新しいSD354がSD322(3期)よりも古いことから、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。



第270図 SI485 竪穴住居跡(1)

SI485 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(30mm程度)・黒褐色シルトブロック(30mm程度)微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(30mm程度)微量含む。
周溝堆積土	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
カマド堆積土	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰多量、焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	13	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	14	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、IV層土粒・焼土粒微量含む。
カマド袖構築土	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	16	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。 ※奥壁構築にも使用
	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒微量含む。
住居掘り方埋土	18	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	19	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。



SI485 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、黒褐色シルト粒微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。

SI485 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	41×34	20	主柱穴
P2	円形	41×38	40	主柱穴
P3	円形	33×32	20	主柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	36×36	45	主柱穴 柱痕跡
P5	楕円形	35×27	9	性格不明(土坑か)
P6	隅丸方形	30×30	42	性格不明

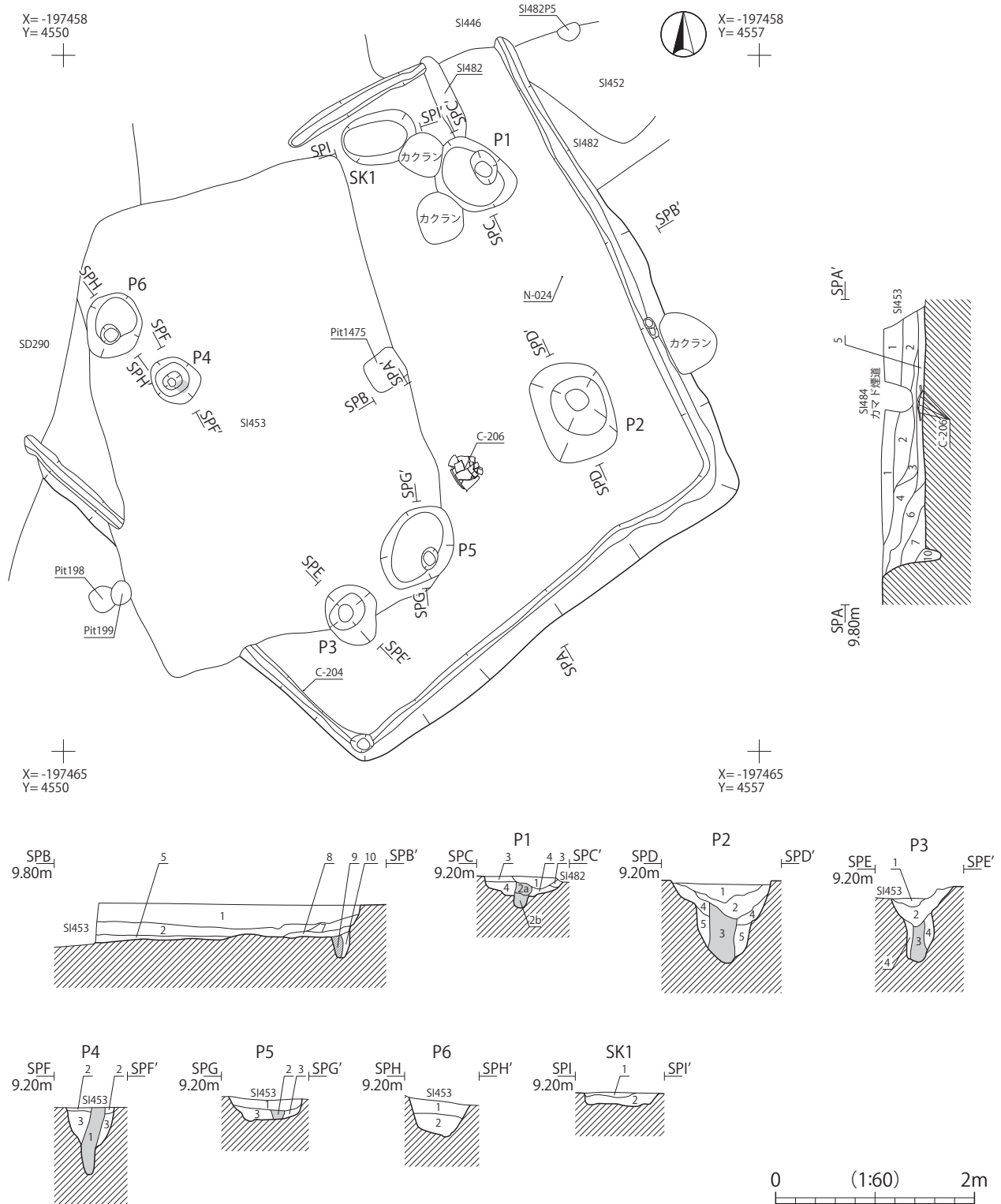
第271図 SI485 竪穴住居跡(2)

SI486 竪穴住居跡 (第272・273図)

【位置・確認】 調査区中央部の72・80・81・90区に位置する。西半部の大部分がSI453の重複、北半部の壁も削平やSI446・452・482の重複により失われている。

【重複】 SI446・452・453・482・484、Pit1475より古く、SI490、SK502より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸625cm、短軸553cmを測り、平面形は北西側に広がる台形を呈する。



第272図 SI486 竪穴住居跡

【方向】 東壁を基準としてN-27°-Wを測る。

【堆積土】 10層に分層した。1～8層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。9層は周溝内に埋設された^{せきいた}堰板痕跡とみられるが、上部は失われている。10層は周溝堆積土である。

【壁面】 わずかに外反して立ち上がり、壁高は最大で45cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、基本層IV層を直接床面とする。

【柱穴】 床面およびSI453の重複範囲内で6基(P1～6)を検出した。P1のみ土坑状で浅いが、位置からP1～4が主柱穴と考えられる。規模は残存値も含め長軸51～101cm、短軸44～76cm、深さ29～82cmを測る。P1～3の堆積土下半とP4の堆積土で、径12～27cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6は補助柱穴などと考えられ、P5はP3の東側、P6はP4の北側に配置されている。P5は土坑状で浅いが、堆積土下半で径14cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲では北壁の一部を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形はU字形を呈し、規模は幅13～19cm、深さ3～19cmを測る。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。北壁際の東寄りに位置し、位置や形状から貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸76cm、短軸53cm、深さ14cmを測る。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓などが出土し、土師器坏1点・甕2点・

SI486 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
堰板痕跡	9	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
周溝堆積土	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。

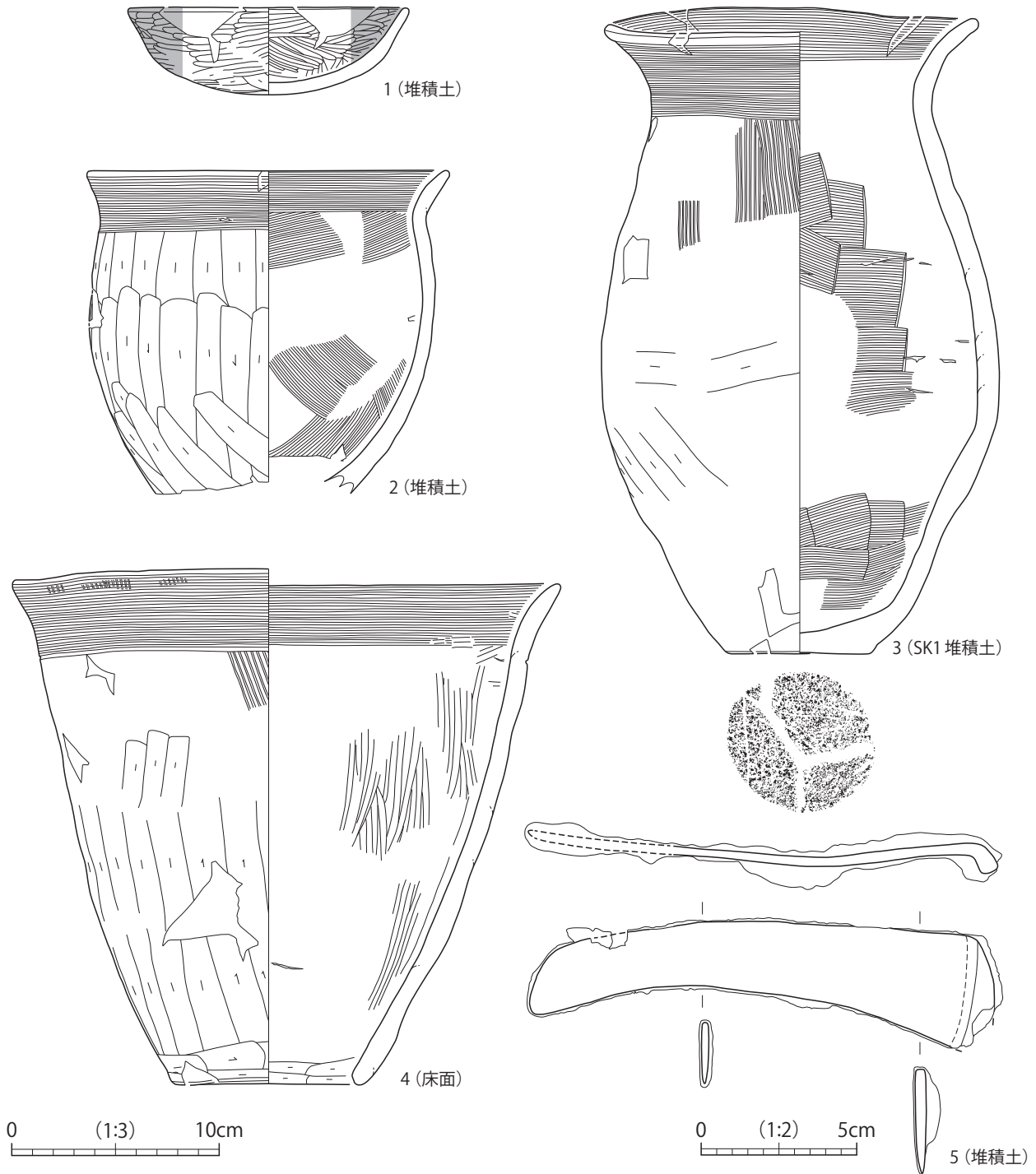
SI486 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
	2a	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	5	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
P3	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P5	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。

SI486 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	楕円形	84×(66)	29	主柱穴 柱痕跡	
P2	隅丸長方形	101×76	82	主柱穴 柱痕跡	
P3	(円形)	(63)×(54)	76	主柱穴 柱痕跡	
P4	(円形)	(51)×(44)	(64)	主柱穴 柱痕跡	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	(楕円形)	(92)×(67)	38	補助柱穴 柱痕跡
P6	(円形)	(63)×(56)	51	補助柱穴
SK1	楕円形	76×53	14	貯蔵穴



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-203	SI486	堆積土	土師器	環	13.4	—	4.2	ハラスリ→ハミガキ	ハミガキ	内外面黒色処理か	345
2	C-204	SI486	堆積土	土師器	甕	17.4	—	(15.6)	口縁：ヨコテ 胴部：ハラスリ	口縁：ヨコテ 胴部：ハミガキ	内面やや摩滅 骨針微量含む	345
3	C-205	SI486 SK1	堆積土	土師器	甕	17.7	6.8	31.1	口縁：ヨコテ 胴上位：ハミ 胴中位～底部：ハラスリ	口縁：ヨコテ 胴部：ハミガキ	底部木葉痕 骨針・角閃石微量含む 内外面摩滅	345
4	C-206	SI486	床面	土師器	甕	26.2	孔径 9.0	24.9	口縁：ハミ→ヨコテ 胴上位：ハミ 胴中位～底部：ハラスリ	口縁：ヨコテ→ハミガキ 胴部：ハミガキ 底部：ハラスリ	単孔 角閃石微量含む 内外 やや摩滅	345

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
5	N-024	SI486	堆積土	金属製品	鉄鎌	(14.9)	3.4	0.4	64.8	ほぼ完形 基部折り返し	345

第273図 SI486 竪穴住居跡出土遺物

甑1点、金属製品1点を掲載した(第273図)。4は南部の床面から潰れた状態で出土した。1は土師器坏で、扁平な丸底を呈し、緩やかに内湾しながら口縁部に至る。内外面の色調が暗褐色を呈するため、黒色処理が施されていると考えられる。2・3は土師器甕で、2は小型品である。2の胴部は短胴形、3は胴部中位に最大径が位置する張りの強い楕円形を呈する。2の口縁部は直線的に外傾、3は緩く外反する。ともに外面に弱いヘラケズリが施されているが、3は胴部中位で横方向に施される。2の色調はにぶい黄橙色、3は浅黄橙色～にぶい褐色を呈する。2の胎土は精良で、砂粒と少量の赤色粒子、3はやや粗く、3mm以下の砂礫、ともに微量の海綿骨針を含む。4は単孔の土師器甑である。胴部は直線的に外傾し、口縁部で外反気味に外傾する。頸部には沈線状の段を持つ。5は曲刃の鉄鎌で、基部がL字形に折り返されている。

【時期】 床面とSK1から出土した土師器甕・甑(第273図3・4)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI487 竪穴住居跡(第274図)

【位置・確認】 調査区東部の99・100区に位置する。北部の大部分が攪乱により失われ、西壁から南西隅もSD345の重複により壁の上部が失われている。

【重複】 SD345、Pit1465より古く、SK468より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸360cm、短軸299cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 南壁を基準としてN-47°-Eを測る。

【堆積土】 4層に分層した。1・2層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。3・4層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で25cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 掘り方で1基(P2)を検出した。南東隅に配置されるが、性格は不明である。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑と、1基(P1)のピットを検出した。SK1・2はともに北東部に位置し、SK2の大部分はSK1の重複により失われている。SK1の内部には褐灰色粘土が厚く堆積するが、SK2とともに性格は不明である。P1は北東隅に位置し、土坑状で浅いため貯蔵穴の可能性がある。

【掘り方】 深さ2～9cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓などが出土し、金属製品1点を掲載した(第274図)。1は長頸の鉄鎌で、関部は棘関である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SD345との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。

SI488 竪穴住居跡(第275図)

【位置・確認】 調査区中央部の90区に位置する。壁面は削平され、東半部と床面の一部は攪乱に、北壁から西壁と北西部床面はSD297の重複により失われている。残存範囲および消失範囲内では、周溝・カマドなどの床面施設は確認できなかった。

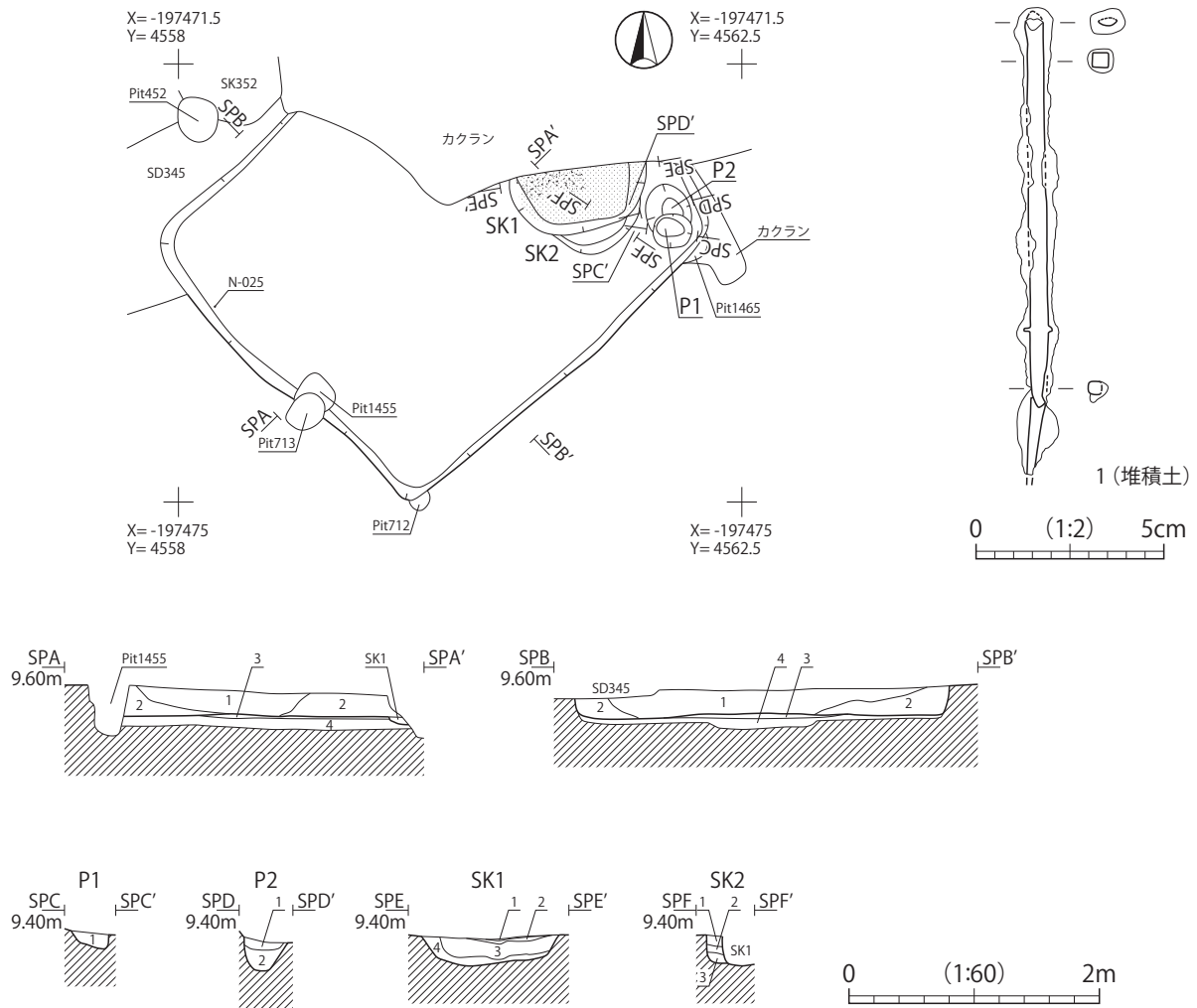
【重複】 SD297より古く、Pit1463より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸380cm、短軸198cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 西壁を基準としてN-21°-Wを測る。

【堆積土】 3層に分層した。1・2層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、3層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で13cm残存するが、形状は不明である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
1	N-025	SI487	堆積土	金属製品	鉄鏃	(12.1)	0.5	0.2	17.7	鏃身部欠損 長頸 棘関	345

SI487 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (10～20mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10～20mm程度) 多量含む。

SI487 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 微量含む。
SK1	1	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/1 褐色	シルト	炭化物主体、焼土粒少量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	黒褐色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	焼土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	灰白色粘土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック (5～10mm程度) 微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルト斑状に少量含む。

SI487 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	31×27	12	貯蔵穴か
P2	(楕円形)	42×36	24	性格不明

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	(円形)	111×(52)	23	性格不明土坑 内部に多量の粘土
SK2	(円形)	(66)×(17)	21	性格不明土坑

第274図 SI487 竪穴住居跡・同出土遺物

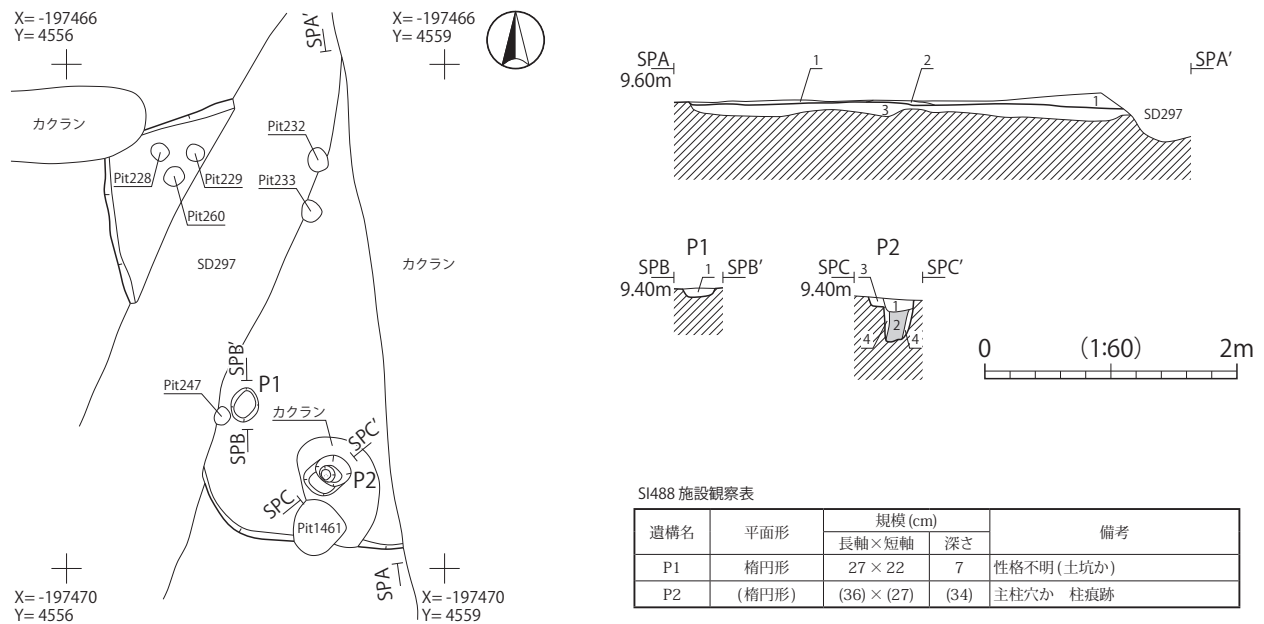
【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面および攪乱内で2基 (P1・2) を検出した。P2は、規模や位置から支柱穴の一部であった可能性があり、規模は残存値で長軸36cm、短軸27cm、深さ34cmを測る。堆積土下半で、径15cm程度の柱痕跡を確認した。P1は土坑状で浅いことから、柱穴以外の性格も考えられる。

【掘り方】 深さ4～11cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓などが出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。



SI488 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	27×22	7	性格不明(土坑か)
P2	(楕円形)	(36)×(27)	(34)	支柱穴か 柱痕跡

SI488 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量、IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。

SI488 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。

第275図 SI488 竪穴住居跡

SI489 竪穴住居跡 (第276・277図)

【位置・確認】 調査区東部の107区に位置する。東半部はSD299の重複や攪乱により失われ、北壁の上部もSD297の重複により失われている。

【重複】 SD297・299より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸293cm、短軸203cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 西壁を基準としてN-40°-Eを測る。

【堆積土】 12層に分層した。1～8層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。9層は周溝堆積土、10・11層はカマド掘り方埋土、12層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で25cmを測る。

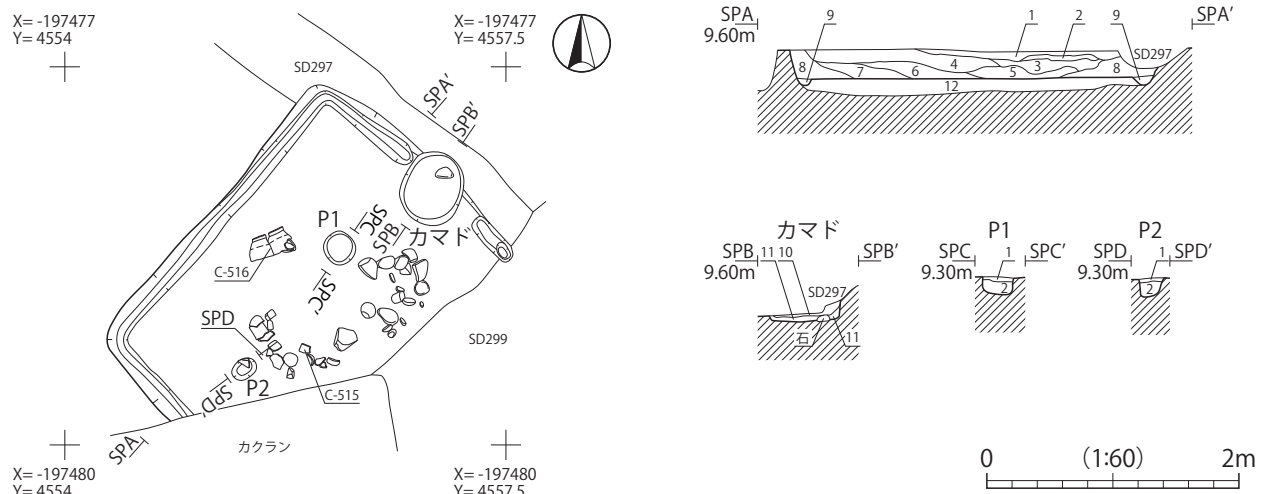
【床面】 概ね平坦で、褐灰色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 掘り方で2基(P1・2)を検出した。規模は小さいが、位置から主柱穴の可能性はある。規模は長軸21～26cm、短軸15～25cm、深さ14～15cmを測る。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅10～19cm、深さ5～9cmを測る。

【カマド】 北壁中央部と推定される位置に、壁面に直交して付設されている。燃烧部の掘り方のみ残存し、袖や煙道部は失われている。掘り方は大部分が壁内に位置するが、奥壁側12cm程度が壁外に張り出す。平面形は円形を呈し、規模は長さ57cm、幅50cmを測る。支脚の可能性が考えられる被熱した棒状の自然礫が、底面の奥壁際から1点出土している。

【掘り方】 深さ3～15cmを測り、底面は概ね平坦である。



SI489 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	26×25	14	主柱穴か
P2	楕円形	21×15	15	主柱穴か

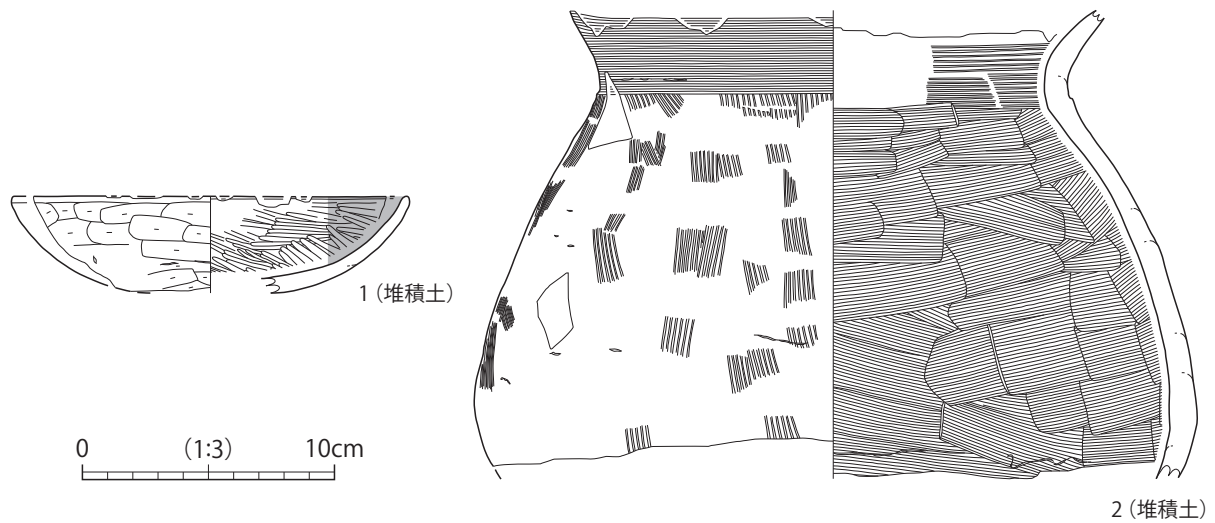
SI489 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	礫(50～200mm程度)多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	礫(100～200mm程度)少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	9	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド掘り方埋土	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	11	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
住居掘り方埋土	12	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。

SI489 施設堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
P2	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。

第276図 SI489 竪穴住居跡



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-515	SI489	堆積土	土師器	环	(15.6)	—	(3.8)	ハラズリ	ハラミガキ	内面黒色処理 角閃石微量含む	345
2	C-516	SI489	堆積土	土師器	甕	—	—	(18.8)	口縁：ヨナデ 胴部：ハメ	口縁：ハメ 胴部：ハラデ		345

第277図 SI489 竪穴住居跡出土遺物

【出土遺物】 堆積土から土師器・須恵器、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環1点・甕1点を掲載した(第277図)。これらは堆積土から多量の礫とともに出土した。1は土師器環で、体部は内湾しながら口縁部に至る。内面に黒色処理が施されている。2は土師器甕で、胴部中位に最大径が位置する球胴形と考えられる。頸部に段を持ち、口縁部で緩く外反する。

【時期】 時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。

SI490 竪穴住居跡 (第278・279図)

【位置・確認】 調査区中央部の71・72・81区に位置する。壁や床面の大部分がSI446・452・453・482・486、SD290などの重複により失われている。

【重複】 SI446・452・453・475・482・486、SD343、Pit1475より古く、SK501より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸619cm、短軸615cmを測り、平面形は方形を呈する。

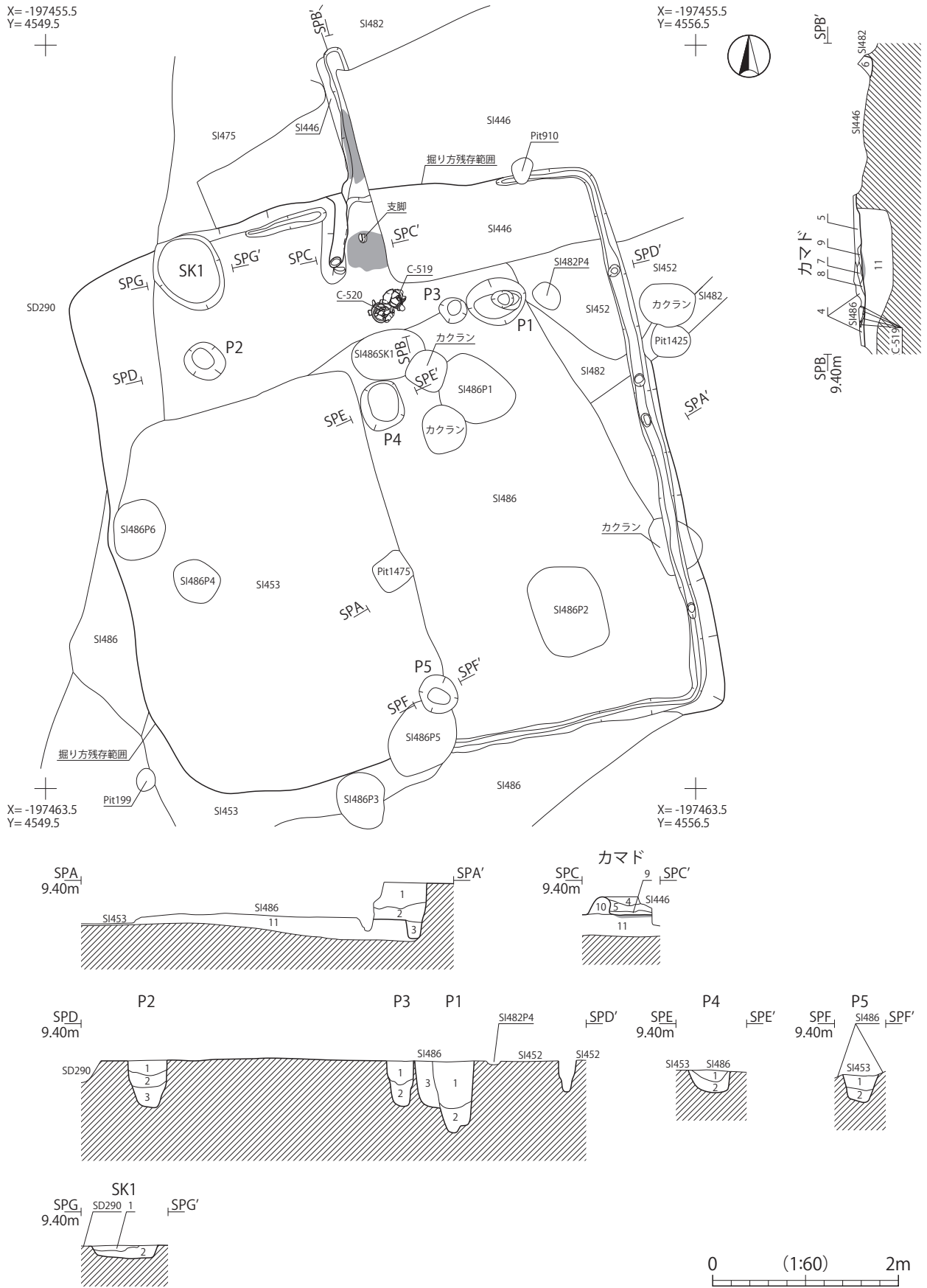
【方向】 東壁を基準としてN-14°-Wを測る。

【堆積土】 11層に分層した。1・2層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。3層は周溝堆積土、4～9層はカマド堆積土である。10層はカマド袖構築土、11層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で44cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面および消失範囲で5基(P1～5)を検出した。規模や位置からP1・2が支柱穴と考えられる一方、南部の支柱穴2基は重複遺構により失われている。規模は残存値も含め長軸43～64cm、短軸38～51cm、深さ55～77cmを測る。P1で柱の抜き取り痕を確認した。P3・4は補助柱穴と考えられ、P3はP1西側の至近、P4は中央部のやや北寄りにそれぞれ配置されている。P5は南壁中央部の手前に配置されるため、入口施設に関連する柱穴と考えられる。



第278図 SI490 竪穴住居跡

SI490 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
周溝堆積土	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
カマド堆積土	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・黒褐色粘土質シルトブロック(5~20mm程度)多量含む。
	6	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック斑状に少量含む。
	7	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック斑状に少量含む。 ※天井崩落土
	8	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量含む。
カマド袖構築土	9	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・灰少量含む。
	10	10YR4/6 褐色	シルト	
住居掘り方埋土	11	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。

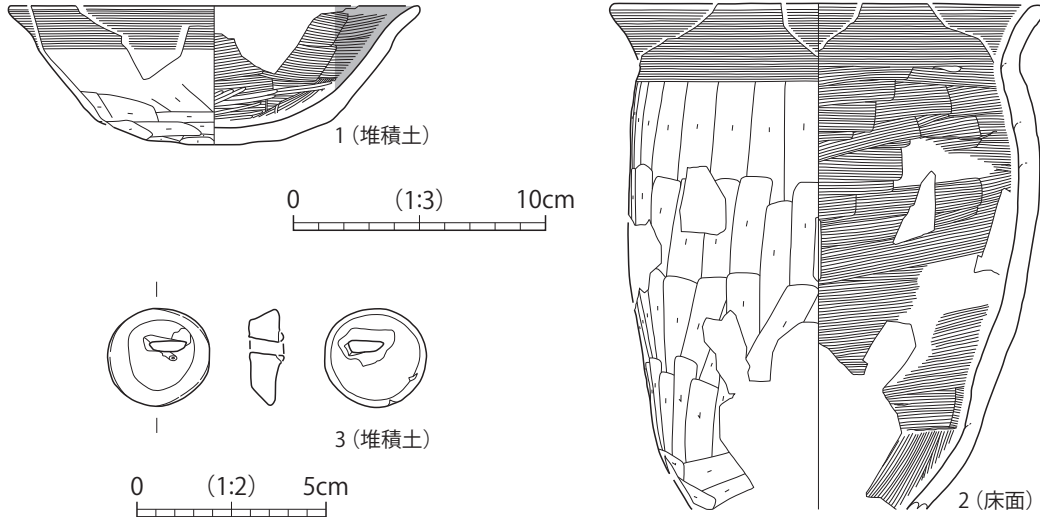
SI490 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P3	1	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P4	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・焼土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。

SI490 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(楕円形)	(64)×(51)	77	主柱穴
P2	(円形)	43×38	55	主柱穴
P3	(円形)	(29)×(28)	49	補助柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	(隅丸方形)	(51)×(45)	(26)	補助柱穴
P5	(円形)	(43)×(39)	(31)	補助柱穴(入口施設)
SK1	(円形)	85×(73)	15	貯蔵穴



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-518	SI490	堆積土	土師器	环	(16.2)	—	5.5	口縁：ヨサデ 体～底部：ハラズリ	口縁～体上半：ハラデ 体下半～底部：ハラデ→ハラ シキ	内面黒色処理 骨針多量、角閃石微量含む	346
2	C-519	SI490	床面	土師器	甃	(16.8)	—	(20.1)	口縁：ヨサデ 胴部：ハラズリ	口縁：ヨサデ 胴部：ハラデ	角閃石微量含む 外面胴下半二次被熱による赤色化・剥離	346
写真のみ	C-520	SI490	床面	土師器	甃	(22.8)	—	(8.5)	口縁：ヨサデ→ハラシガキ 胴部：ハラズリ	口縁：ヨサデ 胴部：ハラデ	角閃石少量含む 外面やや摩滅	384

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
3	P-047	SI490	堆積土	土製品	不明土製品	2.7	2.6	0.8	5.4	須恵質 表面灰かぶり 孔長軸1.1cm・短軸0.4cm	346

第279図 SI490 竪穴住居跡出土遺物

【周溝】 残存範囲では北西部・西壁・南東部を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形はU字形を呈し、規模は残存値も含め幅9～19cm、深さ3～20cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、燃烧部・煙道部ともに東半部がSI446の重複により失われている。西袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、規模は長さ92cm、幅20～25cmを測る。先端部に棒状の自然礫による芯材が埋設されている。燃烧部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き83cm、幅40cmを測る。底面は奥壁に向かってわずかに立ち上がり、焚口付近に長径45cm程度の焼面がみられる。焼面の奥壁側中央部には、棒状の自然礫による支脚が設置されている。奥壁は3cm程度の低い段差で、緩やかに煙道部へつながる。煙道部は残存値で長さ164cm、幅22～29cm、深さ17～27cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面から1基(SK1)の土坑を検出した。カマドと北西隅の間に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸85cm、短軸73cm、深さ15cmを測る。

【掘り方】 深さ10～38cmを測り、壁際が溝状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓などが出土し、土師器坏1点・甕1点、土製品1点を掲載した(第279図)。2はカマド前の床面から潰れた状態で出土した。また床面から出土した土師器甕を写真で掲載した(写真図版384-1)。1は土師器坏で、扁平な丸底から直線的に外傾し、口縁部は短く外反して開く。内面はヘラナデ後、底部をヘラミガキした後黒色処理が施されている。色調は浅黄橙色を呈し、胎土は精良で、少量の砂粒と赤色粒子、多量の実綿骨針を含む。関東系土師器が在地化したものと考えられる。2は土師器甕である。胴部上位に最大径が位置する張りのない砲弾形と考えられる。頸部に稜を持ち、口縁部で直線的に外傾する。外面は胴部上位から中位を縦方向に、胴部下位を横方向にヘラケズリが施されている。色調はにぶい橙色～にぶい褐色を呈し、胎土はやや粗く砂粒を含む。3は不明土製品で、平面形が円形、断面形が台形を呈する。正面右上寄りに貫通孔があり、孔の平面形は台形を呈する。須恵質で、灰かぶりが認められる。写真図版384-1(C-520)は土師器甕で、頸部の段は認められない。外面胴部は弱いヘラケズリが施されている。色調はにぶい褐色を呈し、胎土はやや精良で2mm以下の砂粒を含む。

【時期】 床面から出土した土師器甕(第279図2、写真図版384-1)の特徴およびSI482・486との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI491 竪穴住居跡(第280～282図)

【位置・確認】 調査区西部の52・53・60・61区に位置する。南東部は攪乱、南西部はSI305の重複によりそれぞれ分断されている。

【重複】 SI471、Pit356より古く、SD304、Pit1601より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸506cm、短軸414cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

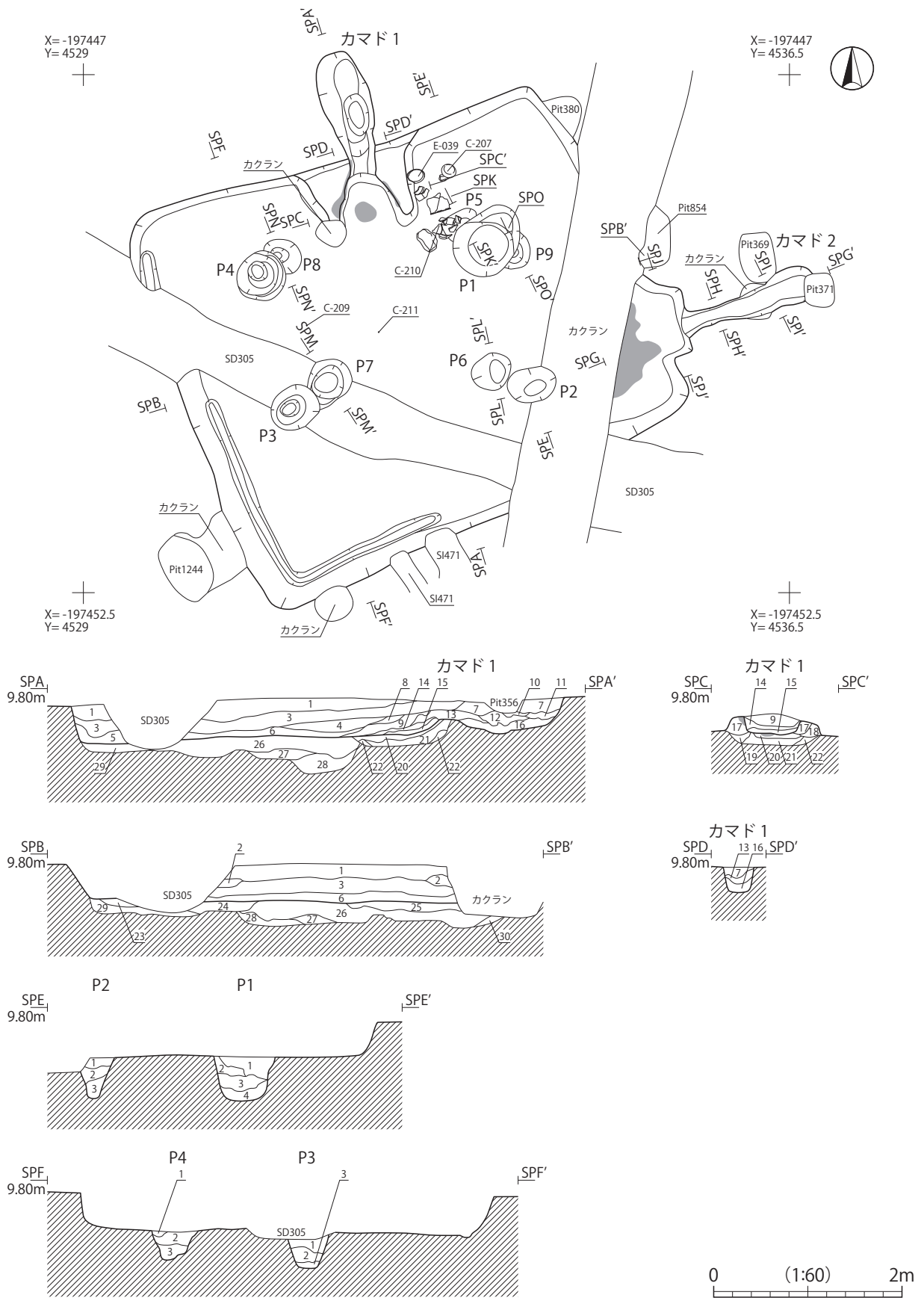
【方向】 カマド1を基準としてN-17°-Wを測る。

【堆積土】 30層に分層した。1～6層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。7～16層はカマド1堆積土、17・18層はカマド1袖構築土である。19～22層はカマド1掘り方埋土、23～30層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、10層に分層した。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で47cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

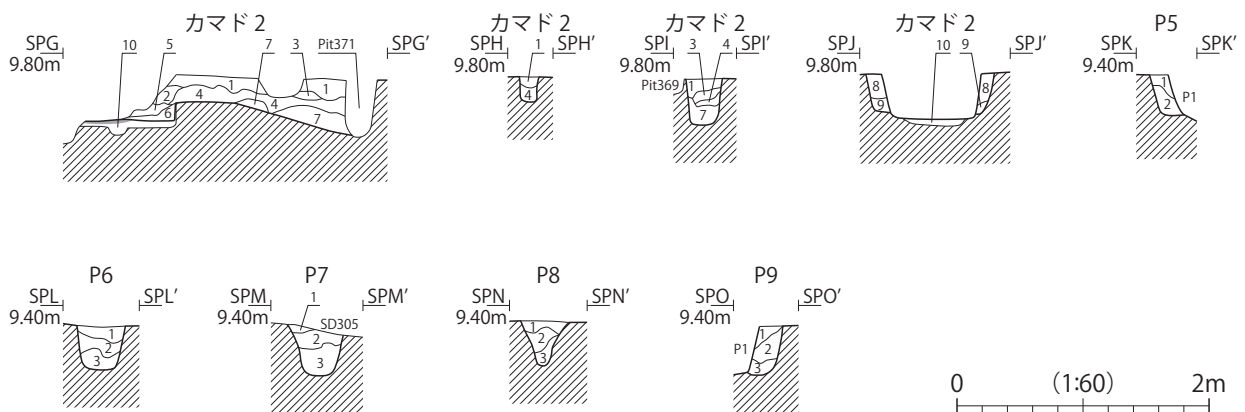
【柱穴】 床面で9基(P1～9)を検出した。規模や位置からP1～4が主柱穴と考えられるが、南西側にずれた状態で配置されている。規模は残存値も含め長軸52～82cm、短軸36～63cm、深さ33～44cmを測る。また、主柱穴4基に近接あるいは重複してP5～9を検出した。位置や規模から、建て替え前の古い主柱穴であった可能性がある。



第280図 SI491 竪穴住居跡(1)

SI491 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考	
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。	
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒少量、焼土ブロック(10mm程度)微量含む。	
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
	5	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。	
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。	
カマド1 堆積土	7	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。	
	8	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
	9	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。	
	10	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒少量含む。	
	11	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	
	12	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	
	13	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。	
	14	10YR5/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
	15	5YR5/1 褐灰色	シルト	炭化物粒・灰多量、焼土粒少量含む。	
	16	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。	
カマド1 袖 構築土	17	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
	18	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。	
カマド1 掘り方埋土	19	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5~10mm程度)少量含む。	
	20	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック互層状に少量含む。	
	21	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
	22	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。	
住居掘り方 埋土	23	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
	24	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	IV層土・灰黄褐色シルトブロック互層状に多量、炭化物粒微量含む。	
	25	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
	26	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物ブロック(5~10mm程度)微量含む。	
	27	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
	28	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
	29	7.5YR5/3 にぶい褐色	砂質シルト	IV層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。	
	30	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
	カマド2 堆積土	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
		2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
3		2.5Y6/2 灰黄色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒微量含む。	
4		10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。	
5		7.5YR6/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物ブロック(5~10mm程度)・灰少量含む。	
6		2.5Y6/1 黄灰色	粘土質シルト	焼土粒多量、炭化物粒少量含む。 ※灰層	
7		7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。	
カマド2 内壁構築土	8	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 ※南側グライ化	
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、酸化鉄少量含む。 ※南側グライ化	
カマド2 掘り方埋土	10	7.5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5~10mm程度)多量含む。	



SI491 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	82 × 63	44	主柱穴
P2	(楕円形)	(52) × (36)	41	主柱穴
P3	(楕円形)	(53) × (44)	36	主柱穴
P4	円形	53 × 51	33	主柱穴
P5	(円形)	40 × (30)	39	旧主柱穴か

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	円形	42 × 37	38	旧主柱穴か
P7	(楕円形)	(55) × (44)	44	旧主柱穴か
P8	楕円形	42 × (30)	39	旧主柱穴か
P9	(円形)	41 × (24)	39	旧主柱穴か

第281図 SI491 竪穴住居跡(2)

SI491 施設堆積土註記表

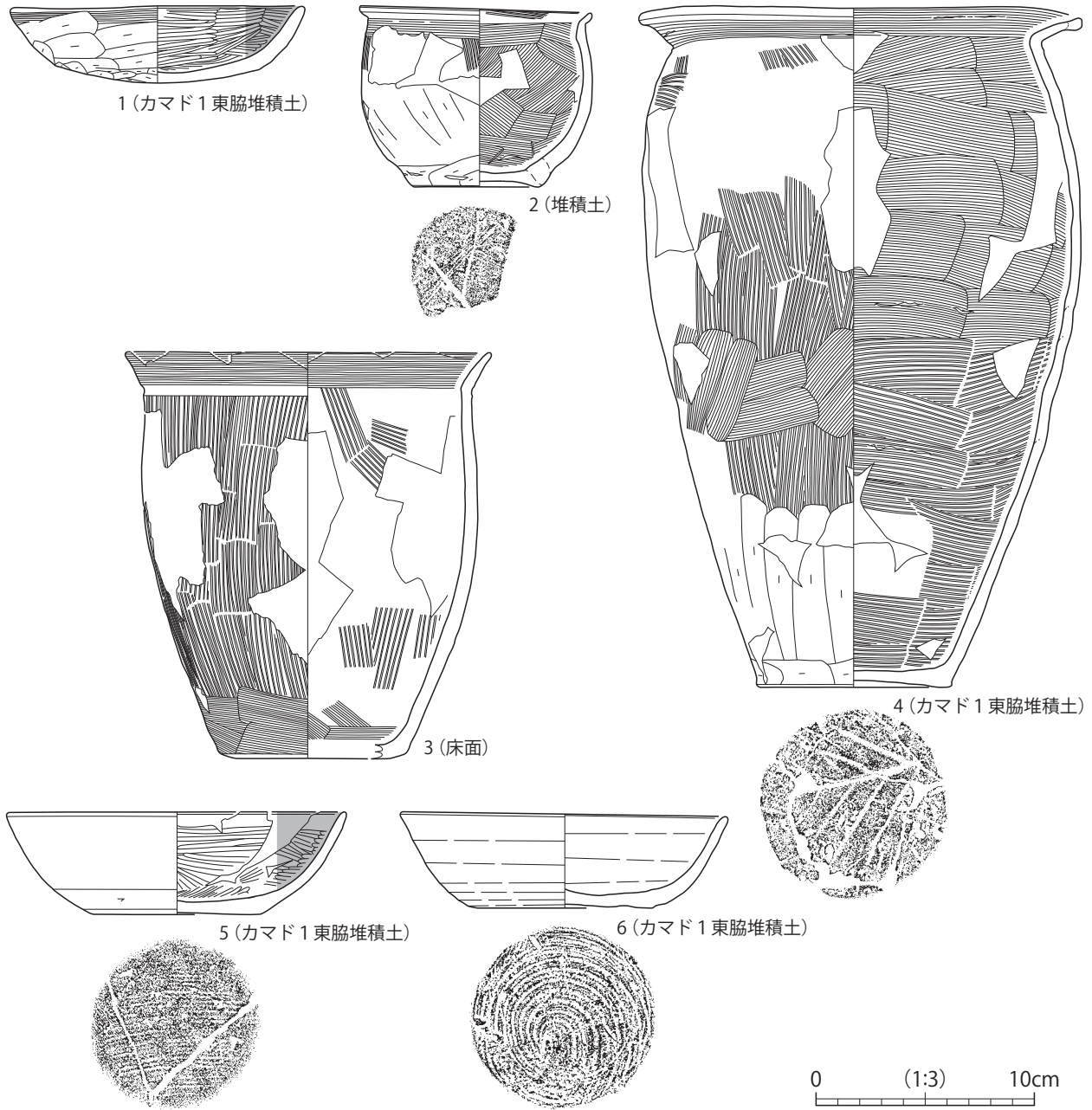
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR4/3 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒少量、黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P2	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	灰白色シルトブロック(5～10mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。
P3	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)炭化物粒少量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
P6	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P7	1	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	3	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P8	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
	3	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(10mm程度)微量含む。
P9	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、褐灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。

【周溝】 残存範囲では、西壁から南西部の壁面に沿って検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅12～18cm、深さ1～4cmを測る。

【カマド】 北壁でカマド1、東壁でカマド2を検出した。カマド1の方が新しい。カマド1は北壁の中央部に位置する。壁面に直交して付設されているが、西袖の先端部は攪乱により失われている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ90cm、幅30cm、西袖は残存値で長さ69cm、幅50cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き62cm、幅55cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部付近に長径23cm程度の焼面がみられる。奥壁は壁面から23cm程度内側に位置し、外傾しながら内湾気味に17cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ131cm、幅28～53cm、深さ24～40cmを測り、底面は中央部に向かって緩やかに下がる。カマド2は東壁南端に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は失われ、燃烧部は底面と奥壁のみ残存する。燃烧部は壁外に35cm程張り出し、焼面の範囲から推定した奥行きは100cm以上と考えられる。底面は概ね平坦で、攪乱によって大部分が失われているが、不整形の焼面を確認した。奥壁は直立気味に14cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道の先端部は攪乱により失われているが、規模は残存値で長さ150cm、幅16～37cm、深さ21～37cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【掘り方】 深さ4～39cmを測り、中央部付近から北半部が不規則に掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品などが出土し、土師器環1点・甕3点、ロクロ土師器環1点、須恵器環1点を掲載した(第282図)。1・4～6は、カマド1東脇の堆積土からまとまって出土した。3はカマド1前の床面から出土した。これらの残存状況は良好なため、壁上の施設から転落した可能性が考えられる。1は土師器環で、扁平な丸底から緩やかに屈曲して立ち上がり、外傾しながら内湾気味に口縁部に至る。外面はヘラケズリが口縁部にまでおよんでいる。内面に黒色処理が施されている。2～4は土師器甕で、2は小型品、3は中型品、4は大型品である。いずれも底部の径は大きく、2と4は上げ底状を呈する。2の胴部は張りの弱い球胴形である。3と4は口縁部に最大径が位置する。3の胴部はやや丸みを持って上位から底部に向かって、4は上位から底部に向かって直線的にともにすぼまる。2の口縁部は短く外傾、3は直線的に外傾、4は外反し大きく開く。3の頸部に沈線状の段、4は稜を持つが、2は認められない。5はロクロ土師器環で、平底から緩く屈曲し、外傾しながら内湾気味に口縁部に至る。内面に黒色処理が施されている。底部の切り離しは静止糸切りで、体部下端か



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-207	SI491 がト 1 東脇	堆積土	土師器	环	13.3	—	3.5	口縁：ヨコテ → ハカズリ 体～底部：ハカズリ	ハミガキ	内面黒色処理	346
2	C-209	SI491	堆積土	土師器	甕	10.5	(5.8)	8.3	口縁：ウチデ か 頸部：回転ハメ 胴上位：ハメ 胴中位～底部：ハカズリ	口縁：ウチデ か → ハメ 胴～底部：ハカデ	底部木葉痕	346
3	C-211	SI491	床面	土師器	甕	(16.6)	(8.5)	(18.6)	口縁：ヨコテ 胴部：ハメ 胴下端～底部：ハカデ	口縁：ヨコテ 胴部：ハメ 胴下端～底部：ハカデ	角閃石微量含む 外面胴部煤 付着 外面胴部～底部二次被 熱による赤色化	346
4	C-210	SI491 がト 1 東脇	堆積土	土師器	甕	19.9	8.7	31.2	口縁：ヨコテ 胴上～中位：ハメ → 一部ハカデ 胴下位～底部：ハカズリ	口縁：ヨコテ 胴上半：ハカデ 胴下半～底部：ハメ	底部木葉痕 外面胴下半煤付 着	346
5	D-005	SI491 がト 1 東脇	堆積土	ロクロ 土師器	环	(15.4)	(7.6)	4.7	口縁～体部：ウチデ 体下端～底部周縁：回転ハカズリ 底部：静止糸切	ハミガキ	内面黒色処理	346
6	E-039	SI491 がト 1 東脇	堆積土	須恵器	环	14.8	8.0	4.4	ウチ調整 底部：回転糸切	ウチ調整	内外面重ね焼き痕・火燻痕	346

第282図 SI491 竪穴住居跡出土遺物

ら底部周縁には回転ヘラケズリによる再調整が施されている。6は須恵器環で、平底から丸みを持って立ち上がり、体部は緩やかに内湾し、口縁部でわずかに外反する。底部の切り離しは回転糸切りで再調整は認められない。色調は灰白色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と少量の赤色粒子を含む。

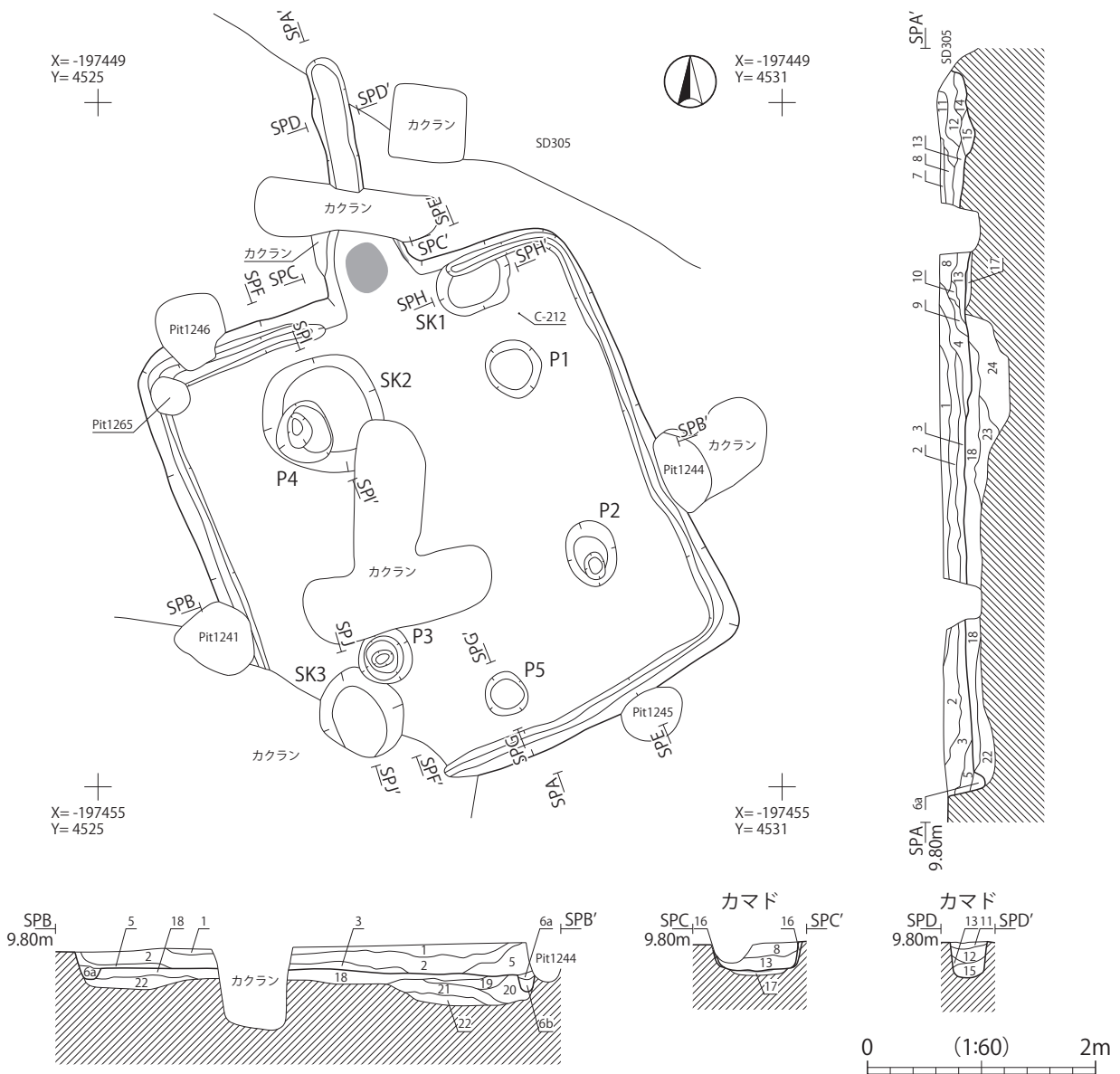
【時期】 床面とカマド脇から出土した土師器環・甕、須恵器環(第282図1・3～6)の特徴から、6期(8世紀前半)～7期(8世紀中頃～後半)と考えられる。

SI492 竪穴住居跡(第283～285図)

【位置・確認】 調査区西部の52・60・61区に位置する。南西隅と壁・床面の一部が重複遺構や攪乱により失われている。

【重複】 SI493・494、SD304、Pit1290より新しい。

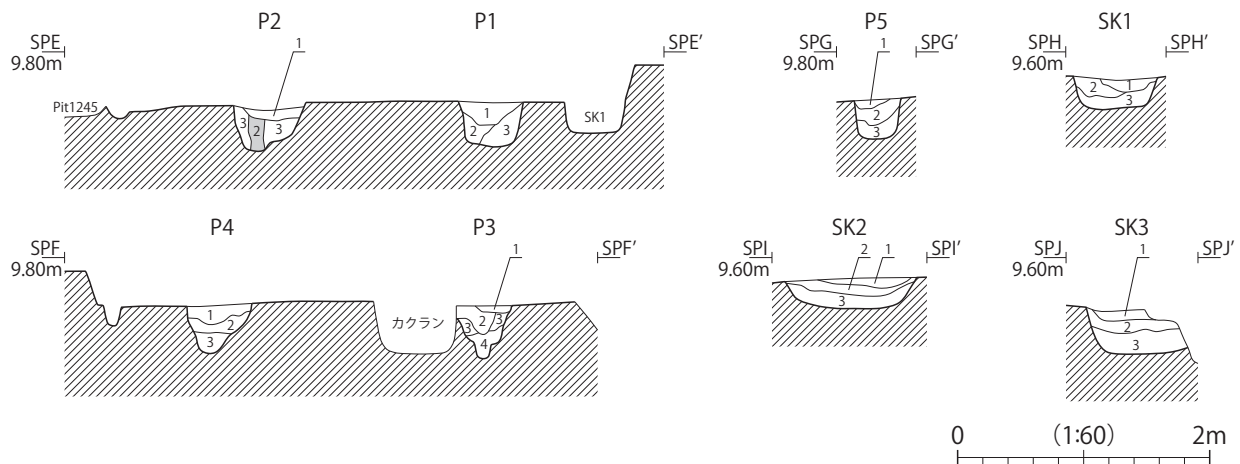
【規模・形態】 確認された規模は長軸439cm、短軸407cmを測り、平面形は方形を呈する。



第283図 SI492 竪穴住居跡(1)

SI492 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※部分的にグライ化
	4	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	6a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	6b	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	7	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	IV層土粒多量含む。 ※下面被熱
	8	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土斑状に少量、炭化物粒少量含む。
	9	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	10	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。 ※被熱
	11	10YR5/1 褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	12	10YR4/1 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
	13	2.5YR3/2 暗赤褐色	シルト	灰多量、IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	14	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5~20mm程度)・炭化物粒多量含む。
カマド内壁構築土	15	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド内壁構築土	16	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。 ※東面被熱
カマド掘り方埋土	17	2.5YR4/2 灰赤色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※被熱
住居掘り方埋土	18	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	20	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	21	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	22	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	23	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	24	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~50mm程度)多量含む。



SI492 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P3	1	10YR5/1 褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
P5	1	10YR5/1 褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	3	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
SK1	1	10YR4/1 褐色	シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)多量、IV層土粒・炭化物粒少量、灰白色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR4/1 褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、灰少量含む。
	3	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。 ※下に炭化物堆積(厚さ5mm程度)
SK3	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、礫(10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~40mm程度)少量含む。

第284図 SI492 竪穴住居跡(2)

SI492 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	51×49	34	主柱穴
P2	楕円形	58×43	38	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	(49)×45	43	主柱穴
P4	円形	54×50	37	主柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	円形	38×37	33	補助柱穴(入口施設)
SK1	楕円形	69×(48)	27	貯蔵穴
SK2	円形	103×102	22	カマド関連土坑
SK3	円形	(81)×(75)	41	性格不明土坑

【方向】 カマドを基準としてN-13°-Wを測る。

【堆積土】 大別で24層に分層した。1～5層は褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。7～15層はカマド堆積土である。16層はカマド内壁構築土、17層はカマド掘り方埋土、18～24層は住居掘り方埋土である。

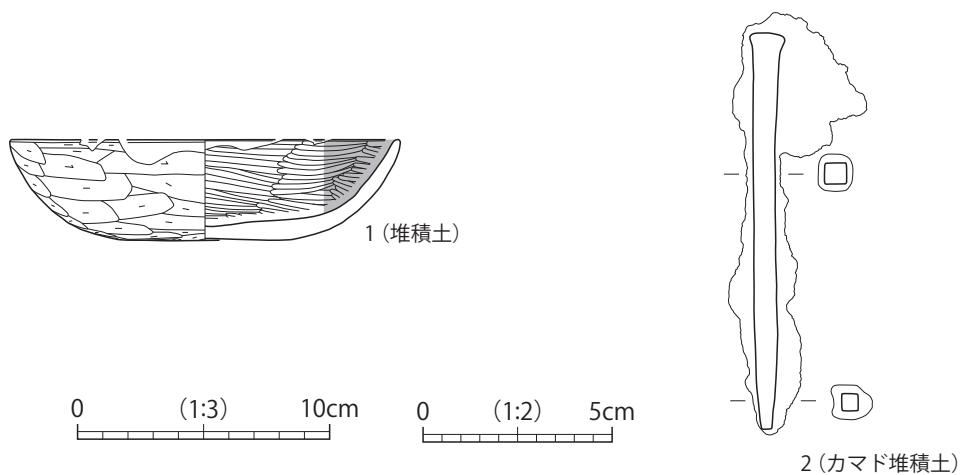
【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で32cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で5基(P1～5)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は残存値も含め長軸49～58cm、短軸43～50cm、深さ34～43cmを測る。P2の堆積土下半で、径13cm程度の柱痕跡を確認した。P1・3でも柱の抜き取り痕を確認した。P5は南壁中央部の手前に配置されているため、入口施設に関連する柱穴と考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅11～24cm、深さ5～18cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、燃焼部と煙道部の接続部付近は攪乱のため失われており、煙道部先端の壁もSD305の重複により上部が失われている。燃焼部は壁外に位置し、規模は残存値で奥行き76cm、幅77cmを測る。底面は奥壁側に向かって緩やかに下がり、中央部付近に長径43cm程度の焼面がみられる。奥壁は失われているが、煙道部と燃焼部底面は9cm程度の比高差が認められる。煙道部は残存値で長さ120cm、幅33cm、深さ18～30cmを測り、底面は中央部に向かって緩やかに下がる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-212	SI492	堆積土	土師器	坏	(15.4)	—	4.0	ハラスリ	ハミガキ	内面黒色処理	346
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
2	N-026	SI492 カマド	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	10.8	0.6	0.6	51.7	完形 鉄釘		346

第285図 SI492 竪穴住居跡出土遺物

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)、掘り方で1基(SK3)の土坑を検出した。SK1はカマドの東脇、SK2はカマドの南西側、SK3は南西隅付近に位置する。SK2はP4、SK3はP3と重複する。SK1は位置や形状から貯蔵穴、SK2は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK1の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸69cm、短軸48cm、深さ27cmを測る。SK2の平面形は円形を呈し、規模は長軸103cm、短軸102cm、深さ22cmを測る。

【掘り方】 深さ13～35cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、土製品などが出土し、土師器坏1点、金属製品1点を掲載した(第285図)。2はカマドから出土した。

1は土師器坏で、丸底風平底から内湾して立ち上がり口縁部に至る。内面に黒色処理が施されている。2は棒状鉄製品である。上端部がわずかに肥厚することから、鉄釘と考えられる。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SD304との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以降と考えられる。

SI493 竪穴住居跡(第286・287図)

【位置・確認】 調査区西部の51・52・59・60・69区に位置する。床面の大部分と壁面の一部が、SI461・462・492・532の重複や攪乱により失われている。

【重複】 SI461・462・492・532、Pit1282より古く、SI494より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸824cm、短軸660cmを測り、平面形は東西に長く、北側に広がる台形を呈する。

【方向】 西壁を基準としてN-28°-Eを測る。

【堆積土】 大別で11層に分層した。1～5層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。7～11層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で17cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で3基(P1～3)を検出した。主柱穴と考えられるP1・2の規模は、残存値も含め長軸62～67cm、短軸57～66cm、深さ48～49cmを測り、P1で上部が炭化した径30cm程度の柱痕跡を確認した。また、堆積土から扁平な自然礫が1点出土した。P3は補助柱穴と考えられ、西壁際の北寄りに配置されている。堆積土下半で、径20cm程度の柱痕跡を確認した。

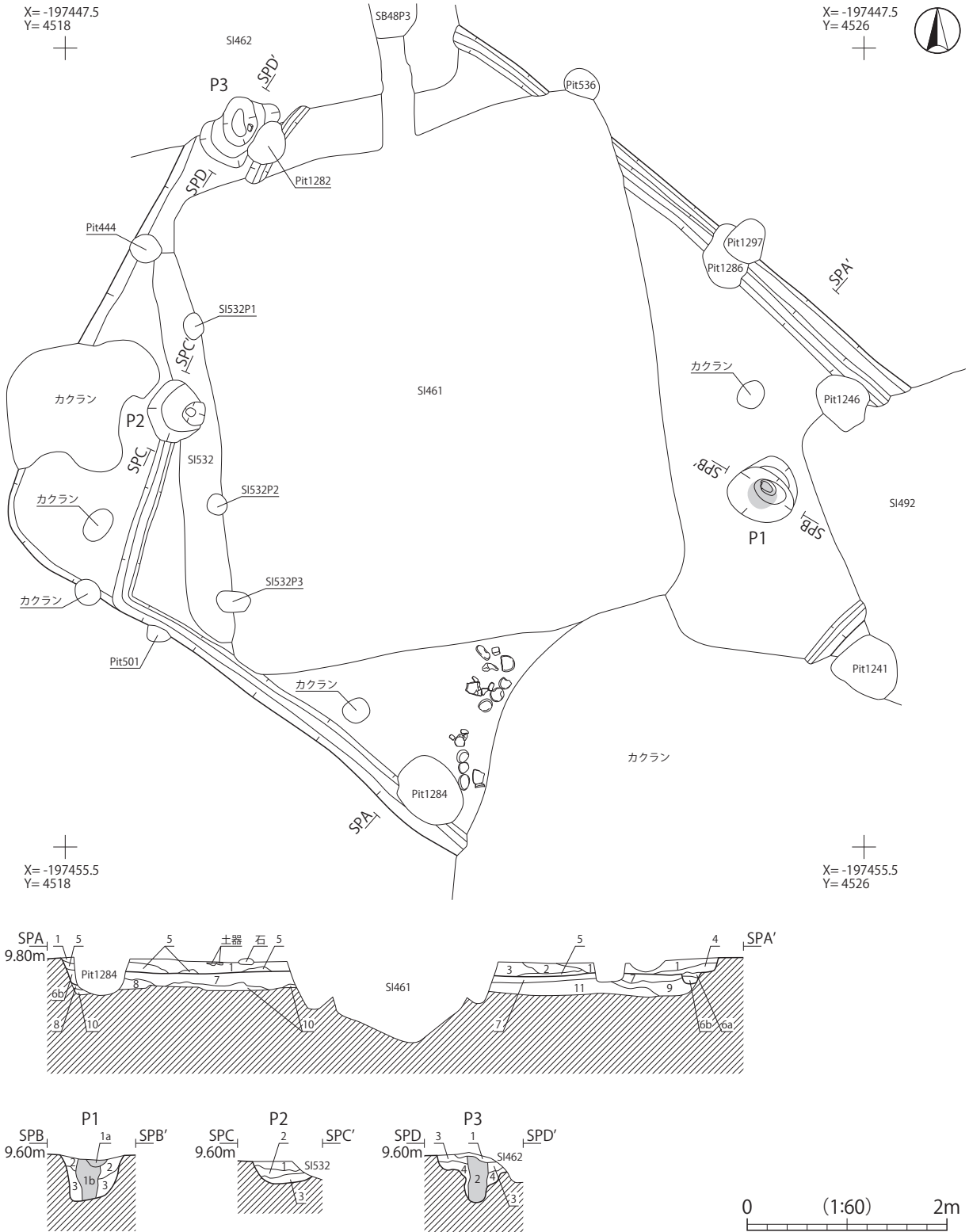
【周溝】 残存範囲では北・南・東の各壁面に沿い、西壁では壁面から61～128cm内側で検出した。西壁は、拡張された可能性がある。断面形はU字形を呈し、規模は幅17～28cm、深さ5～12cmを測る。

【掘り方】 深さ19～29cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器が出土し、土師器坏2点を掲載した(第287図)。2はP1から出土した。

1・2はともに丸底を呈し、1の口縁部は外反気味に直立、2は外反気味に外傾する。ともに内面に黒色処理が施されているが、部分的に認められない箇所もある。2は外面の口縁部から体部にかけて線刻のような痕跡が認められるが、線刻の幅は一定していない。

【時期】 P1から出土した土師器坏(第287図2)の特徴およびSI461・462・532との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～6期(8世紀前半)と考えられる。



SI493 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	67×66	48	主柱穴 柱痕跡
P2	(円形)	(62)×(57)	49	主柱穴
P3	(隅丸長方形)	(69)×(52)	48	補助柱穴 柱痕跡

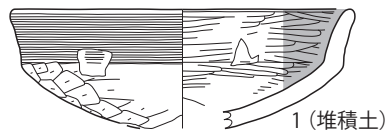
第286図 SI493 竪穴住居跡

SI493 堆積土註記表

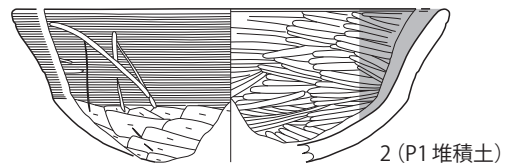
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒微量含む。
	5	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
周溝堆積土	6a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	6b	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	7	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	8	7.5YR3/3 にぶい褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	9	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	10	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	IV層土ブロック互層状に多量含む。
	11	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

SI493 施設堆積土註記表

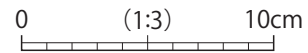
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰白色シルトブロック(5mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
	1b	7.5YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	灰白色シルトブロック(5~10mm程度)多量、IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
	3	7.5YR4/3 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
P3	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。



1 (堆積土)



2 (P1 堆積土)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-525	SI493	堆積土	土師器	環	(13.4)	—	(4.7)	口縁：ヨナテ 体部：ハカスリ	ハミガキ	内面黒色処理(部分的)角閃石微量含む 内外面やや摩滅	346
2	C-526	SI493 P1	堆積土	土師器	環	(17.0)	—	(6.1)	口縁：ヨナテ 体部：ハカスリ	ハミガキ	内面黒色処理(部分的) 外面口縁~体部線刻か	346

第287図 SI493 竪穴住居跡出土遺物

SI494 竪穴住居跡 (第288図)

【位置・確認】 調査区西部の52・60区に位置する。SI492・493、SD305の重複や攪乱により、壁上部の大部分が失われている。

【重複】 SI492・493より古く、Pit1374より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸318cm、短軸276cmを測り、平面形はやや南北に長い方形を呈する。

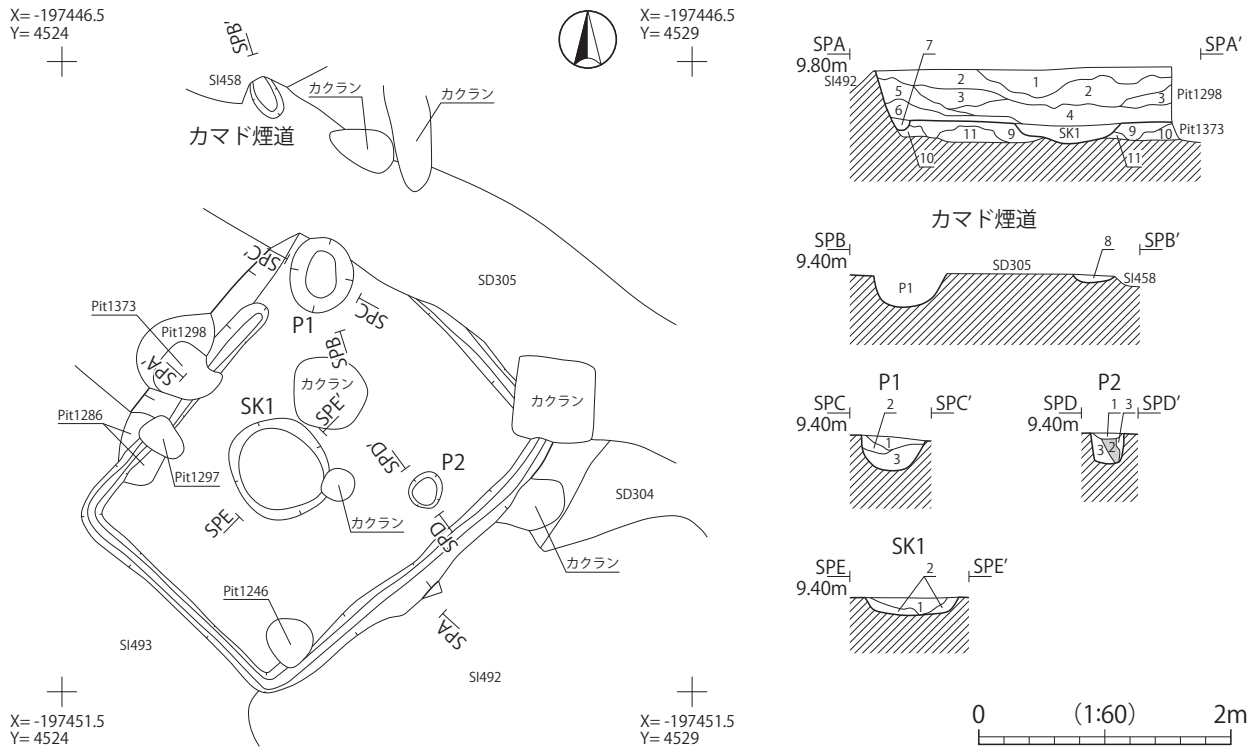
【方向】 西壁を基準としてN-43°-Eを測る。

【堆積土】 11層に分層した。1~6層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。7層は周溝堆積土、8層はカマド堆積土、9~11層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で46cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で2基(P1・2)を検出した。P1は北西隅に位置し、土坑状を呈する。壁外に残存する煙道部の延長線上に位置し、堆積土上層には少量の焼土粒・炭化物ブロックを含む。P2は東壁北寄りの手前に位置し、堆積土下半で径10cm程度の柱痕跡を確認した。柱痕跡は東壁側に傾いているため、入口施設に関連する柱穴の可能性はある。



SI494 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
周溝堆積土	7	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。
カマド堆積土	8	5YR6/2 灰褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	9	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	10	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	11	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

SI494 施設堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に多量、褐灰色シルトブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
SK1	1	7.5YR6/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・焼土ブロック(5~20mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒・灰少量含む。

SI494 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	(61)×50	29	カマド掘り方か
P2	円形	29×26	24	補助柱穴(入口施設か) 柱痕跡
SK1	円形	80×73	15	カマド関連土坑

第288図 SI494 竪穴住居跡

【周溝】 残存範囲では北西隅を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形はU字形を呈し、規模は幅12~25cm、深さ2~8cmを測る。

【カマド】 北西隅に位置していたものと考えられ、壁外から離れた位置に煙道の先端部のみ残存する。煙道部はN-17°-Wと住居の方位から西に振れ、長さ120cm程度と推定される。先端部は残存値で幅21cm、深さ6cmを測る。燃焼部は残存しないが、位置と堆積土の特徴から、P1がカマド掘り方の可能性がある。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。中央部付近に位置し、堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸80cm、短軸73cm、深さ15cmを測る。

【掘り方】 深さ3～12cmを測り、南東部と北西部が土坑状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI493との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

SI495 竪穴住居跡(第289図)

【位置・確認】 調査区西部の86・95区に位置する。削平により掘り方のみ残存し、SI463・469の重複や攪乱により各所が失われている。

【重複】 SI463・469より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸387cm、短軸327cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 西辺を基準としてN-31°-Eを測る。

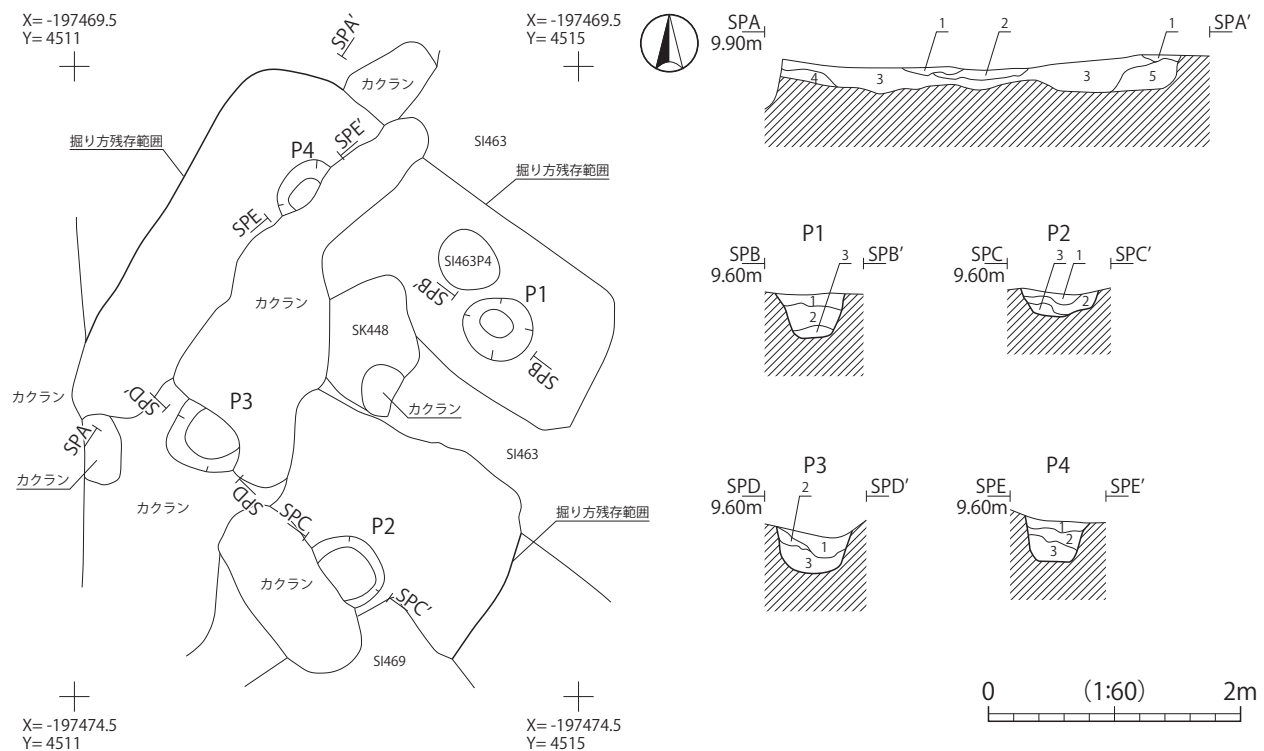
【堆積土】 5層に分層した。いずれも住居掘り方埋土である。

【柱穴】 掘り方底面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は残存値で長軸54～60cm、短軸27～51cm、深さ28～40cmを測る。

【掘り方】 残存値で深さ5～33cmを測り、南東隅および北西隅付近が土坑状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 掘り方から須恵器、鉄滓が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI463との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。



第289図 SI495 竪穴住居跡

SI495 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方埋土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰白色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック互層状に多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～70mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒少量含む。

SI495 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	灰褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。※全体グライ化
	2	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	灰白色シルトブロック(5～10mm程度)多量、粗砂少量含む。
	3	7.5YR6/3 にぶい褐色	砂質シルト	酸化鉄多量、粗砂少量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	IV層土粒・灰色シルトブロック(5～10mm程度)多量含む。
P3	1	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土・灰色シルト互層状に多量含む。
	2	7.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。
	3	7.5YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒・灰色シルトブロック(5～10mm程度)多量含む。
P4	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	IV層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。

SI495 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(56)×(51)	(40)	主柱穴
P2	(円形)	(60)×(42)	(28)	主柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	(隅丸方形)	(58)×(47)	(36)	主柱穴
P4	(円形)	(54)×(27)	(36)	主柱穴

SI496 竪穴住居跡(第290図)

【位置・確認】 調査区西部の69・70・78・79区に位置する。西半部は攪乱により失われている。

【重複】 SI501、SD345より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸422cm、短軸399cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 北壁を基準としてN-45°-Wを測る。

【堆積土】 12層に分層した。1～7層は灰褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8層は周溝堆積土、9層は堰板背後の埋土とみられるが、堰板痕跡は確認できなかった。10～12層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で37cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で3基(P1～3)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1・2の規模は長軸33～49cm、短軸33～41cm、深さ30～41cmを測る。補助柱穴と考えられるP3は中央部付近に配置されている。

【周溝】 残存範囲では北・東・南の各壁面に沿い、全ての壁面から7～13cm程度内側にめぐる。断面形は台形ないし皿形を呈し、規模は幅18～32cm、深さ5～17cmを測る。全体的に幅広に掘り込まれている。

【掘り方】 深さ7～29cmを測る。底面は東壁から南壁の壁際が、幅広の溝状に一段低く掘り込まれている。

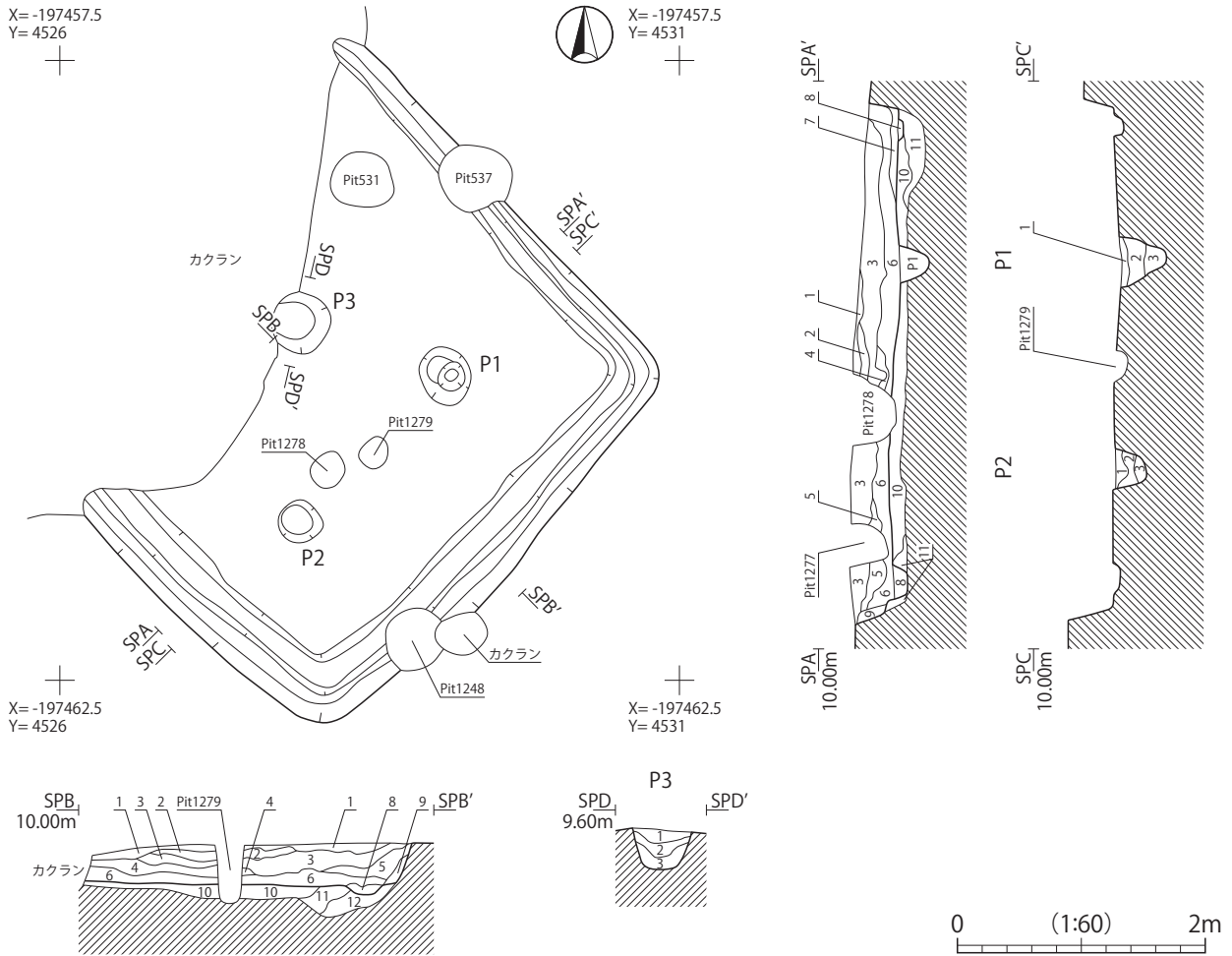
【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SD345との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以降と考えられる。

SI497 竪穴住居跡(第291～294図)

【位置・確認】 調査区西部の78・79・87・88・96区に位置する。中央部の大部分と北東部の一部が攪乱により、北東隅がSI472、南西隅がSK384の重複、煙道部先端と壁・床面の一部が攪乱やピットの重複により失われている。

【重複】 SI472より古く、SI516、SD317、SK459・460より新しい。



SI496 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	8	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
堰板背後の埋土	9	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
住居掘り方埋土	10	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 ※一部ゲライ化
	11	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~100mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・黒褐色シルトブロック(5~40mm程度)多量含む。

SI496 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

SI496 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	49×41	41	主柱穴
P2	円形	33×33	30	主柱穴
P3	(円形)	48×(45)	31	補助柱穴

第290図 SI496 竪穴住居跡

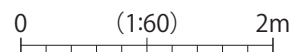
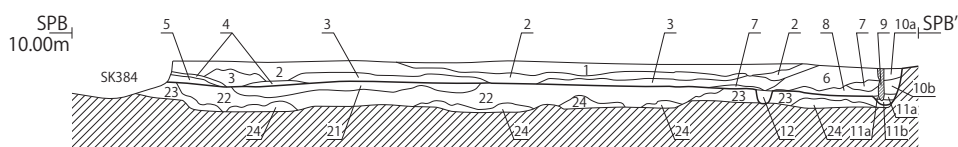
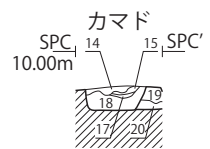
X=-197463
Y=4524

X=-197463
Y=4532.5



X=-197471.5
Y=4524

X=-197471.5
Y=4532.5



第291図 SI497 竪穴住居跡(1)

第5章 検出遺構と出土遺物

SI497 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※一部グライ化
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	5	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	灰白色シルトブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	7	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	8	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
堰板痕跡	9	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	10a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
堰板背後の埋土	10b	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。
	11a	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
周溝(拡張後)堆積土	11b	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド堆積土	13	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	14	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※被熱
	15	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	16	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	17	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量含む。
	18	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
カマド袖構築土	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・褐灰色シルトブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	20	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	21	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	22	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	23	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	24	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
	25	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック斑状に多量含む。

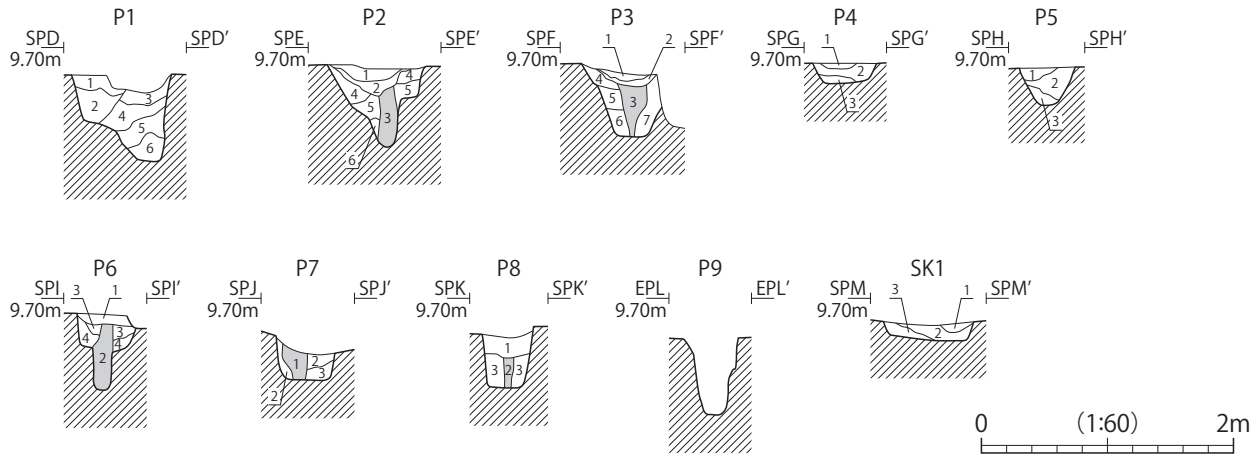
SI497 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	7.5YR4/3 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土粒・礫(30mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	4	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	7.5YR6/2 灰褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量、焼土粒微量含む。
	2	N2/ 黒色	粘土質シルト	炭化物主体。IV層土粒少量含む。
	3	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	4	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	N2/ 黒色	シルト	炭化物主体、IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	6	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	7	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
P9	—	—	—	※註記なし
SK1	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。

SI497 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	(80)×64	84	主柱穴
P2	円形	80×73	81	主柱穴 柱痕跡
P3	楕円形	(88)×(69)	59	主柱穴 柱痕跡
P4	(円形)	52×(24)	15	補助柱穴
P5	(楕円形)	45×(37)	31	補助柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	円形	46×(46)	60	補助柱穴 柱痕跡
P7	円形	54×46	36	性格不明 柱痕跡
P8	(円形)	(42)×(26)	48	性格不明 柱痕跡
P9	円形	50×45	61	性格不明
SK1	楕円形	72×55	16	貯蔵穴



第292図 SI497 竪穴住居跡(2)

【規模・形態】 確認された規模は長軸698cm、短軸543cmを測る。平面形は東西に長く、かつ北側に広がる台形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-45°-Eを測る。

【堆積土】 大別で25層に分層した。1～8層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、基本層IV層の堆積状況から人為的な埋土とみられる。9層は堰板痕跡である。10層は堰板背後の埋土で、a・bの2層に、11層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。12層は東壁際の周溝よりもさらに内側で検出した、もう一つの周溝堆積土である。13～18層はカマド堆積土である。19・20層はカマド袖構築土、21～25層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら内湾気味ないし直線的に立ち上がり、壁高は最大で25cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。残存する南半部では、炭化物範囲が広範囲に認められる。

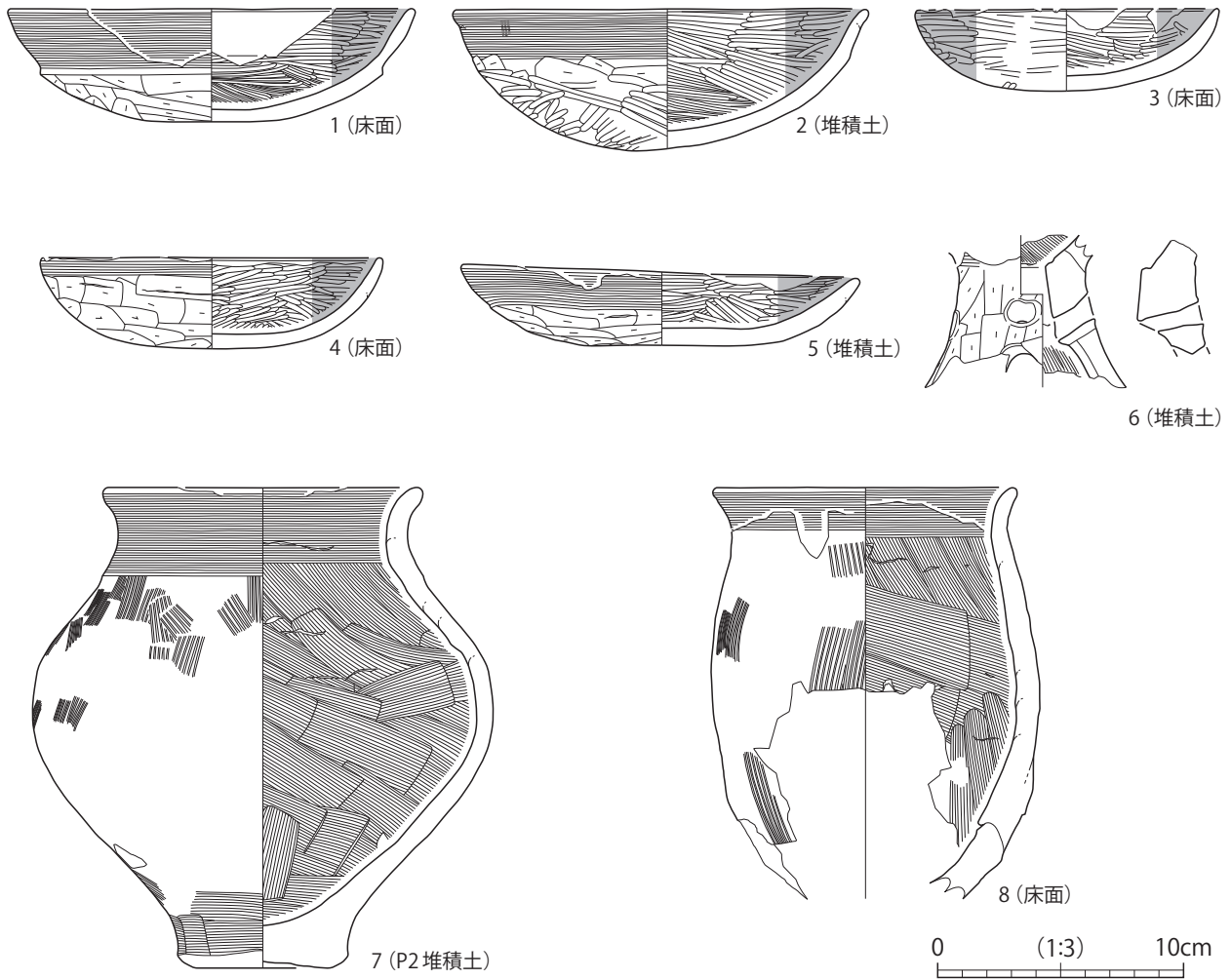
【柱穴】 床面で6基(P1～6)、掘り方で3基(P7～9)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～3の規模は残存値も含め長軸80～88cm、短軸64～73cm、深さ59～84cmを測る。P2・3の堆積土下半で径13～23cm程度の柱痕跡、P1で柱の抜き取り痕を確認した。P2の堆積土上層には、多量の炭化物が含まれる。補助柱穴と考えられるP4～6の配置は不規則である。P6～8の堆積土下半で、径8～20cm程度の柱痕跡を確認した。P7～9の性格は不明である。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないし弧状を呈し、規模は幅11～26cm、深さ2～12cmを測る。また、東壁際の周溝から76～137cm前後、西壁際の周溝から20～24cm前後内側にそれぞれ別の周溝を検出した。東側周溝の規模は幅11～15cm、深さ11～13cm、西側は幅16～21cm、深さ3～5cmを測る。ともに壁の拡張が行われる前の古い周溝と考えられる。

【カマド】 北壁中央部から西寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、Pit1250の重複や攪乱により燃焼部焚口と煙道部の先端が失われている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は残存値で長さ18cm、幅34cm、西袖は長さ36cm、幅22cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き24cm、幅55cmを測る。底面は煙道部に向かって緩やかに下がり、そのまま煙道部へつながる。焼面はみられない。煙道部は残存値で長さ71cm、幅17～47cm、深さ16cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマドと北西隅の間に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸72cm、短軸55cm、深さ16cmを測る。

【掘り方】 深さ5～16cmを測り、南半部が土坑状や階段状に低く掘り込まれている。



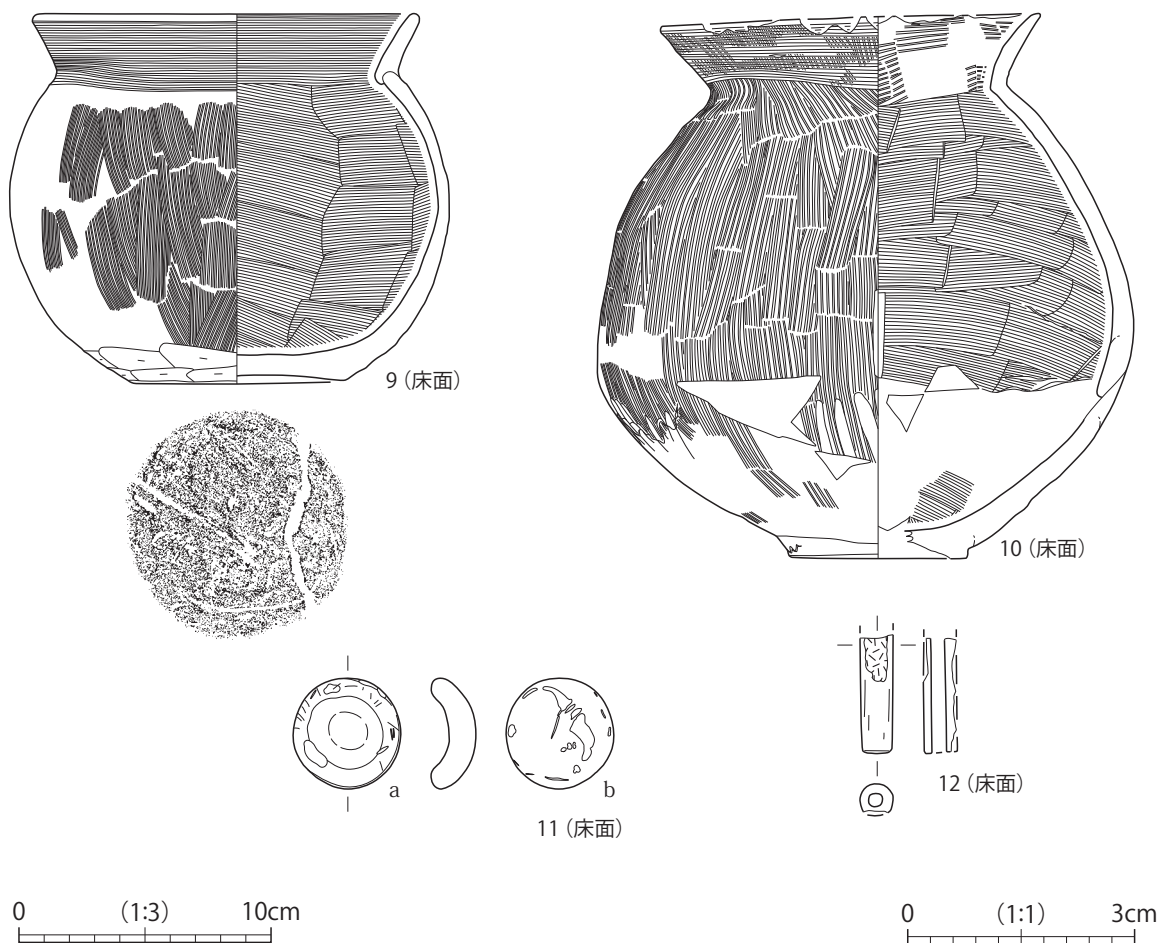
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-217	SI497	床面	土師器	环	(16.4)	—	(4.6)	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラスリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 雲母含む	347
2	C-216	SI497	堆積土	土師器	环	(16.6)	—	5.7	口縁：ハマ→ヨナデ 体～底部：ヘラスリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	内面黒色処理 角閃石微量含む	347
3	C-214	SI497	床面	土師器	环	12.3	—	3.3	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外面黒色処理 外面火傷痕	347
4	C-215	SI497	床面	土師器	环	13.8	—	3.7	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラスリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 角閃石微量含む 外面摩滅	347
5	C-213	SI497	堆積土	土師器	环	16.0	—	3.3	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラスリ	ヘラミガキ	内面黒色処理	347
6	C-530	SI497	堆積土	土師器	器台	—	—	(6.2)	ハマ→ヘラスリ	ヘラデ	透孔5箇所(2段) 角閃石少量含む	347
7	C-531	SI497 P2	堆積土	土師器	壺	(12.6)	(5.6)	19.5	口縁：ヨナデ 体上半：ハマ 体下半：ヘラデ 底部：ヘラスリ	口縁：ヨナデ 体部：ヘラデ	角閃石中量含む 外面やや摩滅	347
8	C-223	SI497	床面	土師器	甕	(12.1)	—	(16.7)	口縁：ヨナデ 胴部：ハマ	口縁：ヨナデ 胴部：ヘラデ	角閃石中量含む 外面二次被熱による赤色化 外面胴部下半剥離	347

第293図 SI497 竪穴住居跡出土遺物(1)

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品などが出土し、土師器環5点・器台1点・壺1点・甕3点、礫石器1点、石製品1点を掲載した(第293・294図)。1・3・4・8・10は、P1からP2周辺の床面からまとめて出土した。12はP5脇の床面から出土した。1～5は土師器環である。1・2・5は外面の口縁部と体部の境に段ないし稜、1は内面に稜を持つ。1の底部は扁平な丸底、2は深身の丸底、5は平底で皿状を呈する。いずれも内面に黒色処理が施されている。1の胎土は精良で、細砂と雲母を含む。3・4は口縁部と体部の境に段が認められないもので、3・4は扁平な半球形を呈する。黒色処理は、3が内外面、4は内面に施されている。6は土師器

器台である。器壁が厚く、直線的に開く脚部である。受け部から脚部にかけて貫通孔、脚部中位に4箇所、脚部下位に1箇所の透かし孔が認められ、透かし孔は2段で構成されると考えられる。7は土師器壺である。体部は算盤玉形を呈し、口縁部は外反する。8～10は土師器甕で、いずれも中型品である。8～9の最大径は胴部中位に位置し、8が張りのない楕円形、9が球胴形を呈する。10は胴部下位に最大径が位置する張りのある球胴形を呈する。8の口縁部は外反し、9の口縁部は直線的に外傾する。11は凹石で、a面の全体が皿状にくぼむ。石材は細粒凝灰岩である。12は石製の管玉で、片側から穿孔されたと考えられる。表面に火ハネ痕がみられる。石材は緑色凝灰岩である。

【時期】 床面から出土した土師器坏・壺・甕(第293・294図1・3・4・7～10)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。なお、支柱穴P2の堆積土2層から採取した炭化物について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦705～825年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
9	C-222	SI497	床面	土師器	甕	(15.0)	8.6	14.6	口縁：ヨコテ 胴部：ハメ 胴下端～底部：ハラズリ	口縁：ヨコテ 胴～底部：ハラテ	底部木葉痕 角閃石微量含む	347
10	C-221	SI497	床面	土師器	甕	(14.4)	(7.0)	21.6	口縁：ハメ→ヨコテ 胴上半：ハメ 胴下半：ハメ→ハマガキ 底部：剥離のため不明	口縁：ハメ 胴部：ハラテ	角閃石少量含む 外面二次被熱のため赤色化・剥離	347
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
11	Kc-013	SI497	床面	礫石器	凹石	4.4	4.3	1.8	27.0	細粒凝灰岩	凹1面(深)	347
12	Kd-033	SI497	床面	石製品	管玉	(1.6)	0.5	0.5	0.4	緑色凝灰岩	片側穿孔か 孔径0.2cm 火ハネ痕あり 端部欠損	347

第294図 SI497 竪穴住居跡出土遺物(2)

SI498 竪穴住居跡 (第295図)

【位置・確認】 調査区南西部の95・96・103・104区に位置する。削平のため掘り方のみ残存するが、掘り方東部もSI470の重複により大部分が失われている。周溝・カマド・柱穴などの床面施設も確認できなかった。

【重複】 SI470より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸331cm、短軸301cmを測り、平面形は方形と考えられる。

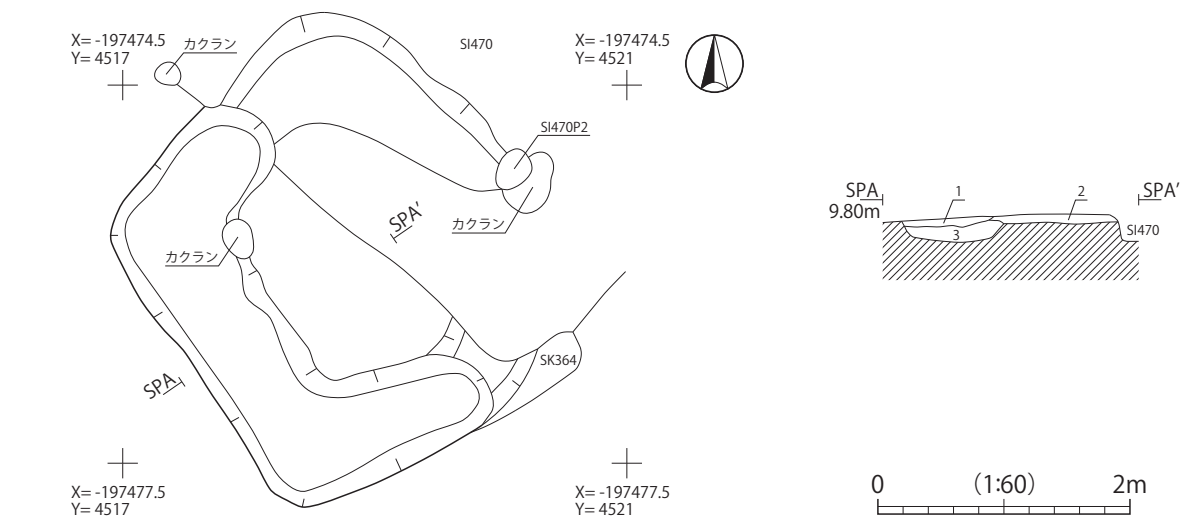
【方向】 西辺を基準としてN-36°-Wを測る。

【堆積土】 3層に分層した。いずれも住居掘り方埋土である。

【掘り方】 残存値で深さ5~31cmを測る。中央部を除く壁際が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 掘り方埋土中から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI470との新旧関係から、3期(6世紀末頃~7世紀前半)以前と考えられる。



SI498 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方埋土	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、褐灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量含む。

第295図 SI498 竪穴住居跡

SI499 竪穴住居跡 (第296図)

【位置・確認】 調査区南西部の111・119区に位置する。一部が攪乱や単独ピットの重複で失われているが、全体的に残存状態が良好な住居跡である。

【重複】 SI500・504、SK471より新しい。

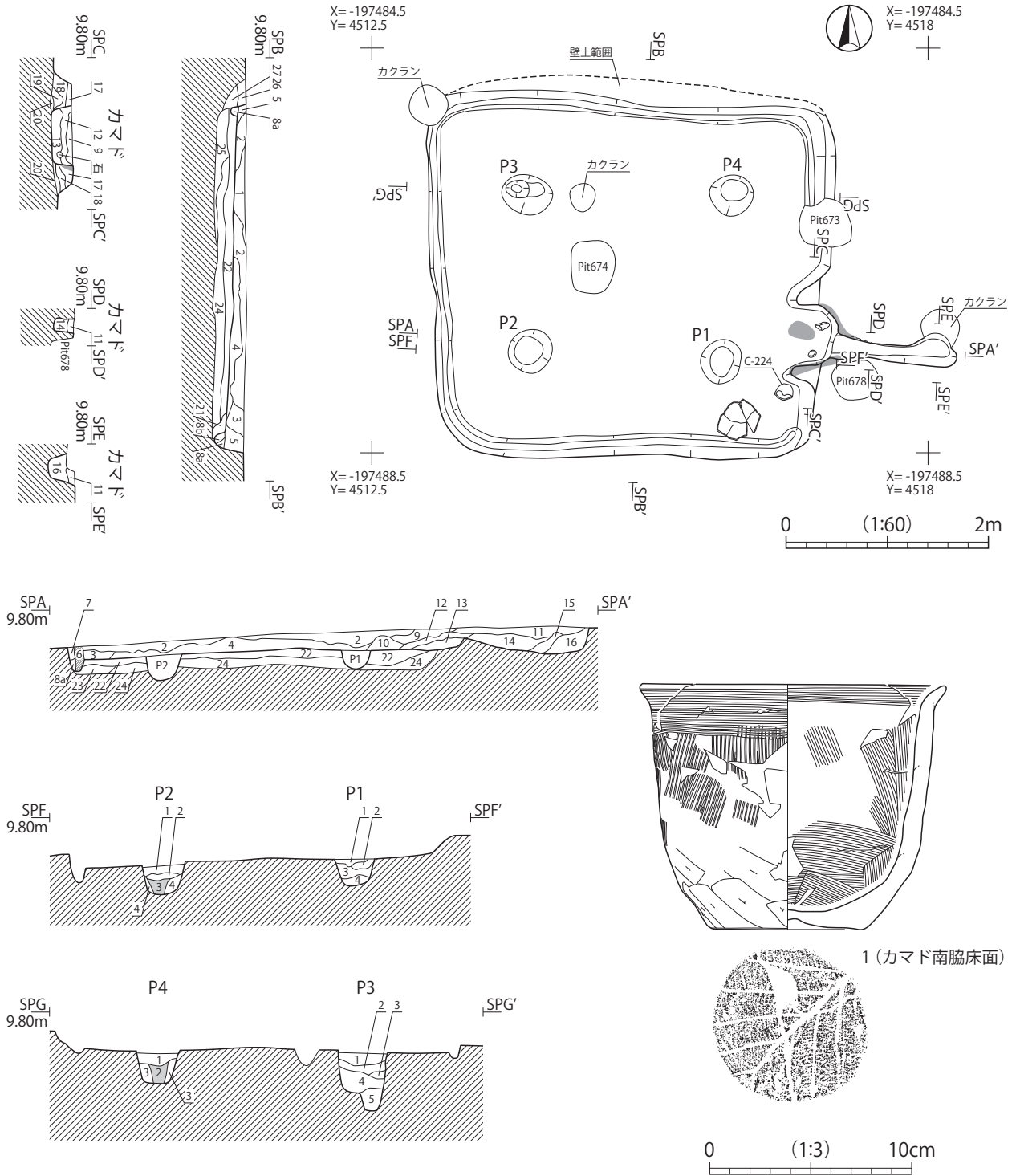
【規模・形態】 確認された規模は長軸402cm、短軸364cmを測り、平面形は東西にやや長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-98°-Eを測る。

【堆積土】 大別で27層に分層した。1~5層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は堰板痕、7層は堰板背後の埋土で、西壁の一部で確認された。8層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。9~16層はカマド堆積土である。17~20層はカマド袖構築土、21~25層は住居掘り方埋土である。26・27層は壁の構築土で、北壁で確認された。掘り方を埋める前に、灰黄褐色・にぶい黄橙シルトを水平に積み上げて壁を構築している。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で23cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-224	SI499 カマド南脇	床面	土師器	甕	15.0	7.5	12.1	口縁:ヨコテ 胴上~中位:カマ 胴下位~底部:ヘラズリ	口縁:ヨコテ 胴~底部:ヘラテ	底部木葉痕 角閃石少量含む 外面胴部二次被熱による赤色化	347

SI499 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	44×39	25	主柱穴
P2	円形	43×41	33	主柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	楕円形	50×38	59	主柱穴
P4	円形	41×40	33	主柱穴 柱痕跡

第296図 SI499 竪穴住居跡・同出土遺物

SI499 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック斑状に多量含む。
堰板痕跡	6	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
堰板背後の埋土	7	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
周溝堆積土	8a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	8b	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
カマド堆積土	9	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
	12	5YR5/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)・灰少量含む。
	13	5YR3/2 暗赤褐色	粘土質シルト	焼土ブロック(5mm程度)・灰多量、炭化物粒少量含む。
	14	5YR5/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	15	10YR6/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	16	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	炭化物粒多量、焼土粒微量含む。
カマド袖構築土	17	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	18	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	19	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	20	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	21	7.5YR4/3 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	22	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	23	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒微量含む。
	24	7.5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
壁構築土	25	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	26	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	27	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。

SI499 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物斑状に少量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、褐灰色シルトブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
P2	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土互層状に多量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	4	7.5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土斑状に多量含む。
P3	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
P4	1	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に多量含む。

【柱穴】 床面で4基(P1~4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長軸41~50cm、短軸38~41cm、深さ25~59cmを測る。P2・4の堆積土下半で、径19~22cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅12~24cm、深さ3~14cmを測る。

【カマド】 東壁中央部から南寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖も壁面に対して直交し、南袖の規模は長さ37cm、幅24cm、北袖は長さ32cm、幅34cmを測る。燃焼部の大部分は壁内に位置するが、奥壁側1/3程度が壁外に張り出す。規模は奥行き47cm、幅60cmを測る。底面は概ね平坦で、焚口付近に長径27cm程度の焼面がみられる。支脚と考えられる棒状の自然礫が、焼面の東側から南北に並んだ状態で出土している。奥壁は外傾しながら内湾気味に9cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ123cm、幅14~33cm、深さ14~27cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【掘り方】 深さ14~24cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、カマド南脇の床面から出土した土師器甕1点を掲載した(第296図)。1は小型品で、口縁部で短く外傾する。

【時期】 床面から出土した土師器甕(第296図1)の特徴から、6期(8世紀前半)の可能性がある。

SI500 竪穴住居跡 (第297図)

【位置・確認】 調査区南西部の119・127区に位置する。壁面は削平により大部分が失われ、床面が露呈していた。西壁際では床面も失われている。残存範囲においても南東隅がSK371、北壁の一部がPit683、南西隅が攪乱により失われている。

【重複】 SI499より古く、SI504より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸294cm、短軸273cmを測り、平面形は東西にやや長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-84°-Eを測る。

【堆積土】 7層に分層した。1層は周溝堆積土、2層はカマド煙道部の堆積土、3層はカマド掘り方埋土、4～7層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で2cm程度が残存するのみで、形状は不明である。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

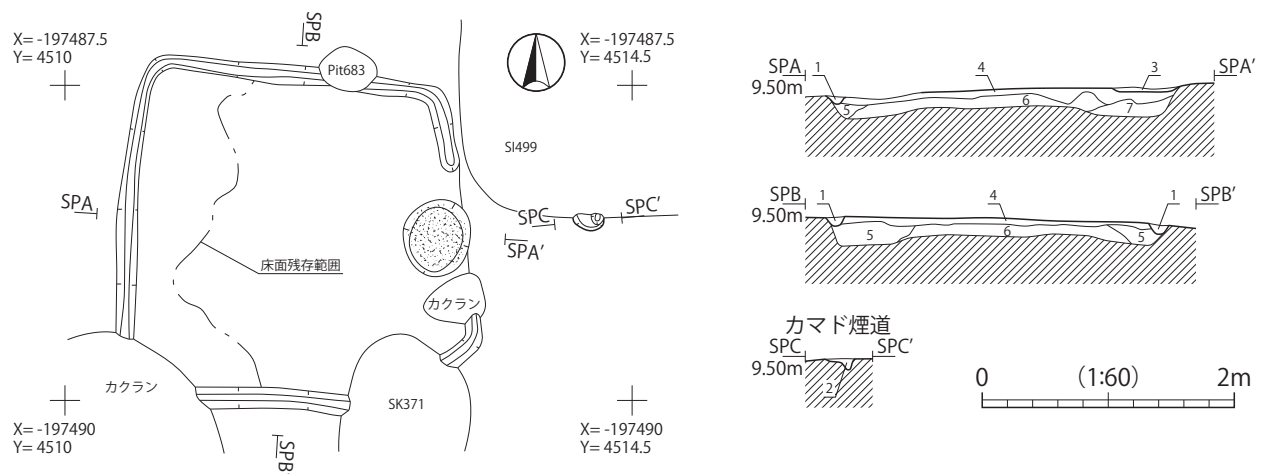
【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅10～16cm、深さ3～10cmを測る。

【カマド】 東壁中央部に位置するが、燃烧部の掘り方と煙道の先端部のみ残存する。燃烧部の掘り方は壁内に位置し、規模は奥行き53cm、幅62cmを測る。埋土上部は部分的に被熱し、掘り方全体におよぶ炭化物範囲がみられる。煙道部は長さ107cm程度と推定され、先端部の幅13cm、深さ2～9cmを測り、ピット状を呈する。

【掘り方】 深さ16～34cmを測り、壁際が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 掘り方から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI499との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前の可能性がある。



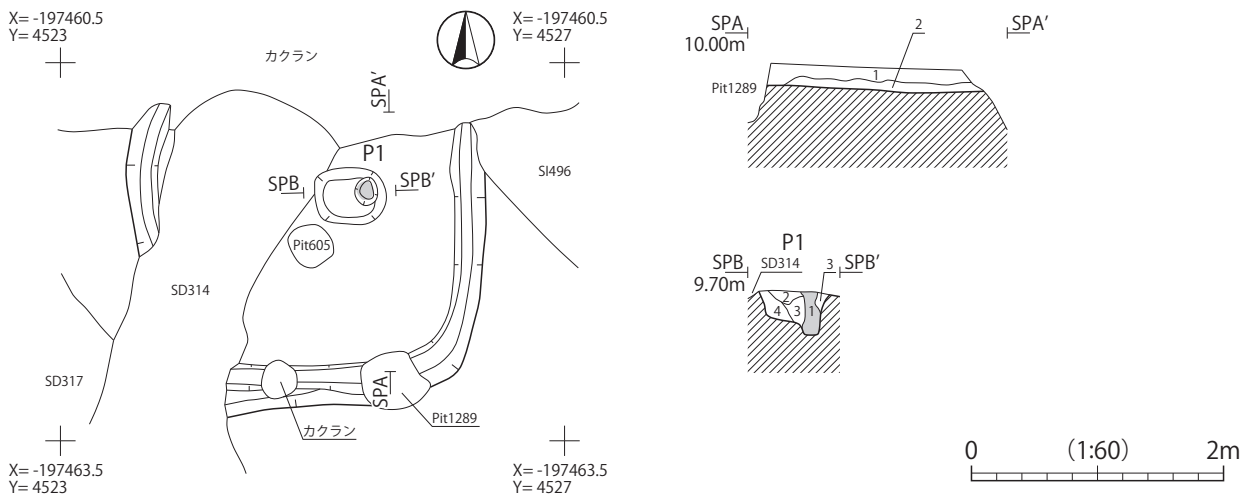
SI500 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝堆積土	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	IV層土ブロック斑状に多量含む。
カマド堆積土	2	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	焼土粒多量、IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
カマド掘り方埋土	3	2.5YR4/2 灰赤色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒多量、炭化物粒・灰少量含む。 ※部分的に被熱
住居掘り方埋土	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	5	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

第297図 SI500 竪穴住居跡

SI501 竪穴住居跡 (第298図)

- 【位置・確認】 調査区西部の78区に位置する。北部は攪乱、西部はSD314の重複により失われている。
- 【重複】 SI496、SD314より古い。
- 【規模・形態】 確認された規模は長軸287cm、短軸248cmを測り、平面形は隅丸方形と考えられる。
- 【方向】 西壁を基準としてN-8°-Wを測る。
- 【堆積土】 2層に分層した。灰褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土である。
- 【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で23cmを測る。
- 【床面】 概ね平坦で、土層観察を行ったA-A'付近では基本層IV層を直接床面とするが、他地点はにぶい黄褐色砂質シルトの埋土上面を床面とする。
- 【柱穴】 床面で1基(P1)を検出した。中央部付近に配置されている。径13cm程度の柱痕跡を確認した。
- 【周溝】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。南壁の一部では3~11cm前後内側に位置する。断面形はU字形ないし弧状を呈し、規模は幅18~27cm、深さ3~5cmを測る。
- 【掘り方】 深さ3~5cmを測る。東壁際がテラス状を呈し、他は一段低く掘り込まれている。
- 【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。
- 【時期】 時期決定できる遺物はないが、SD314との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前の可能性がある。



SI501 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	隅丸長方形	56×44	33	性格不明 柱痕跡

SI501 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	7.5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR6/3 にぶい褐色	砂質シルト	IV層土ブロック斑状に多量、炭化物粒微量含む。

SI501 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

第298図 SI501 竪穴住居跡

SI502 竪穴住居跡 (第299～301図)

【位置・確認】 調査区西部の96・104区に位置する。東部は攪乱に、北壁上部の大部分もSD310の重複により失われている。

【重複】 SD310、Pit1243より古く、SI507・508・521より新しい。

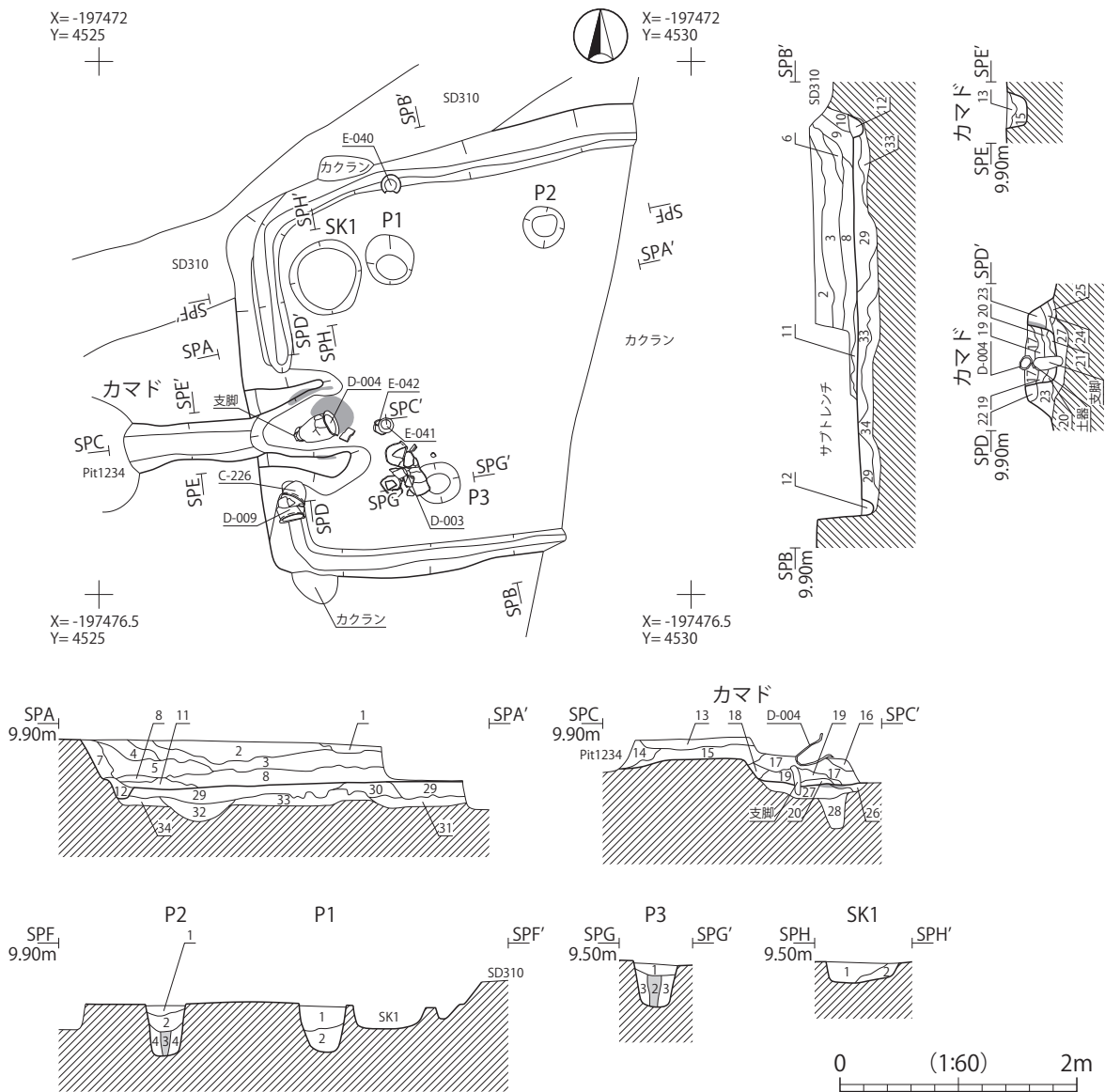
【規模・形態】 確認された規模は長軸367cm、短軸358cmを測り、平面形は東西に長い長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-96°-Wを測る。

【堆積土】 34層に分層した。1～11層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。12層は周溝堆積土、13～21層はカマド堆積土である。22～25層はカマド袖構築土、26～28層はカマド掘り方埋土、29～34層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で43cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。



第299図 SI502 竪穴住居跡

第5章 検出遺構と出土遺物

SI502 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、礫(10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	6	2.5Y4/2 暗黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/1 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	10	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	灰色シルト粒多量、IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド堆積土	13	2.5Y5/1 黄灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	14	2.5Y4/2 暗黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	15	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	16	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒少量含む。
	17	2.5Y5/2 暗黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	18	7.5Y4/2 灰褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	19	5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	20	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	灰多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	21	7.5YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、灰少量含む。
	22	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土斑状に少量、炭化物粒微量含む。 ※北袖内面被熱
	カマド袖構築土	23	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト
24		10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒微量含む。
25		10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
カマド掘り方埋土	26	7.5Y4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※上面全体被熱
	27	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※上面一部被熱
	28	2.5Y5/2 暗黄褐色	粘土質シルト	IV層土互層状に多量含む。
住居掘り方埋土	29	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	30	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	31	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰白色シルトブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	32	10YR5/1 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	33	2.5Y5/2 暗黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	34	2.5Y6/4 にぶい黄色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。

SI502 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	7.5YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

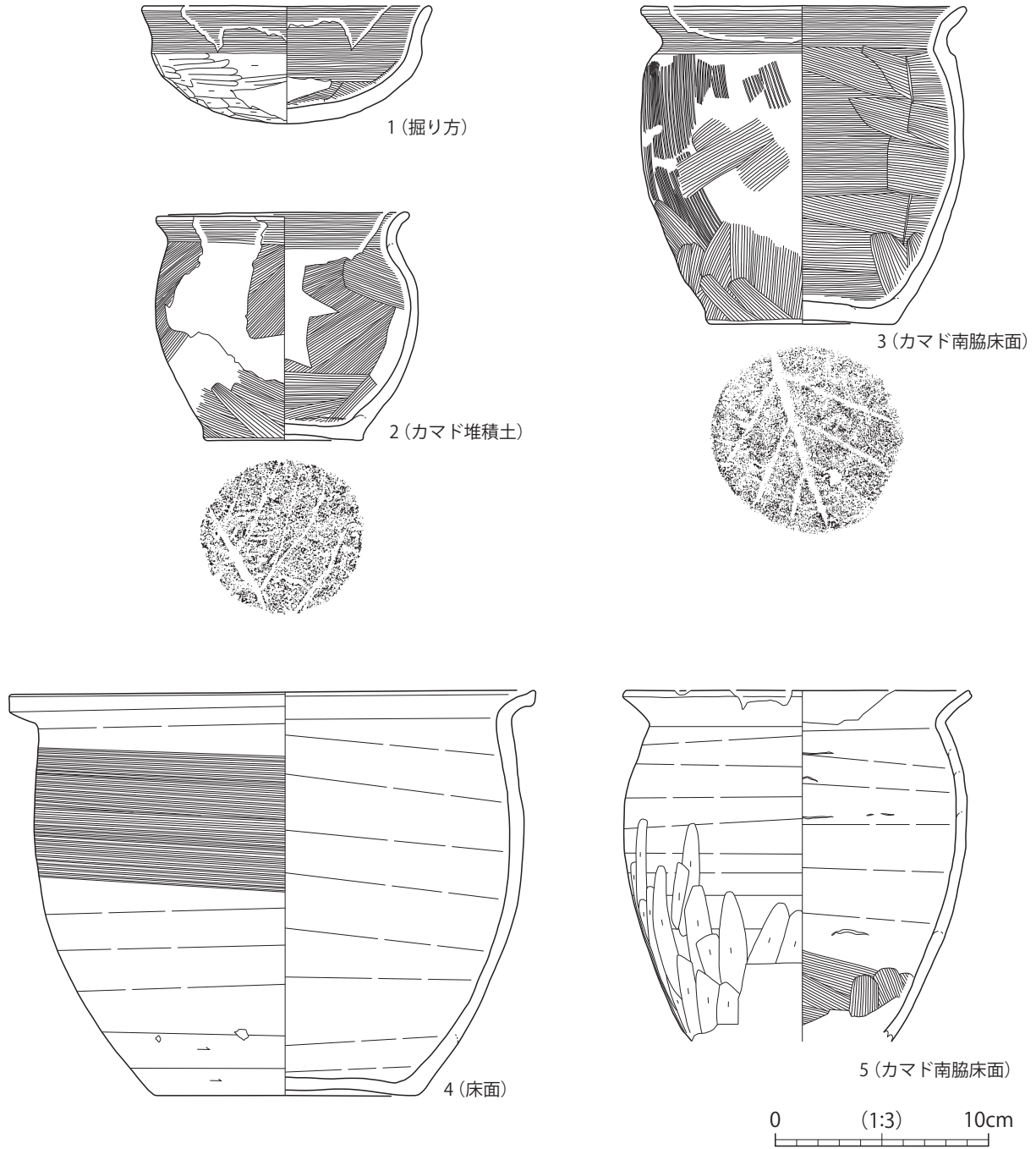
SI502 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	42×40	39	主柱穴
P2	円形	35×34	45	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	38×34	42	主柱穴 柱痕跡
SK1	円形	64×59	17	貯蔵穴

【柱穴】 床面で3基(P1～3)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長軸35～42cm、短軸34～40cm、深さ39～45cmを測る。P2・3の堆積土下半で、径9～12cm程度の柱痕跡を確認した。

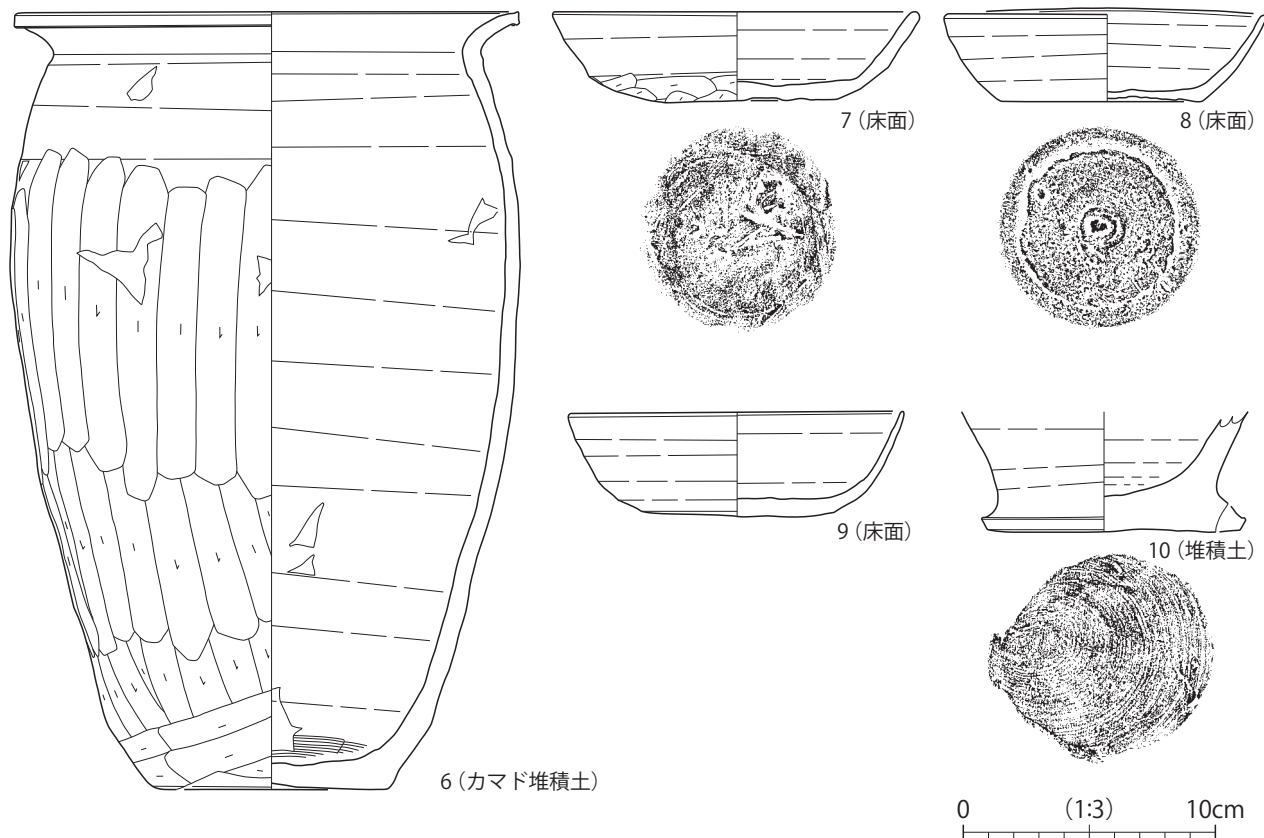
【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形を呈し、規模は幅17～36cm、深さ5～12cmを測る。北壁部分は幅広に掘り込まれている。

【カマド】 西壁中央部から南寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。煙道の先端部はPit1234の重複により失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、南袖の規模は長さ95cm、幅39cm、北袖は長さ80cm、幅29cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き89cm、幅62cmを測る。底面はわずかに起伏し、焚口付近に長径35cm程度の焼面がみられる。燃烧部中央付近には、棒状の自然礫による支脚が設置されている。支脚上に土師器の破片を被せ、高さを調節した痕跡がみられた。奥壁は外傾しながら直線的に18cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は残存値で長さ106cm、幅30～42cm、深さ17～24cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-225	SI502	掘り方	土師器	坏	(13.4)	—	5.5	口縁：ヨナデ 体上半：ハラスリ→ハミガキ 体下半～底部：ハラスリ	口縁：ヨナデ 体～底部：ハナデ	角閃石微量含む	348
2	C-227	SI502 かまど	堆積土	土師器	糞	11.7	7.4	10.7	口縁：ヨナデ 胴～底部：ハナデ	口縁：ヨナデ 胴～底部：ハナデ	底部木葉痕	348
3	C-226	SI502 かまど南脇	床面	土師器	糞	15.0	8.8	14.9	口縁：ヨナデ 胴～底部：ハナメ→ハナデ	口縁：ヨナデ 胴～底部：ハナデ	底部木葉痕	348
4	D-003	SI502	床面	ロクロ 土師器	鉢	24.5	12.3	19.0	口縁：ハナ調整 体上位：回転ハナ 体中位：ハナ調整 体下位：回転ハナ 底部：ハナデ	ハナ調整		348
5	D-009	SI502 かまど南脇	床面	ロクロ 土師器	糞	(16.1)	—	(16.5)	口縁～胴上半：ハナ調整 胴下半：ハラスリ	口縁～胴上位：ハナ調整 胴下半：ハナデ		348

第300図 SI502 竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
6	D-004	SI502 ホト	堆積土	ロクロ土師器	甕	19.9	9.2	30.8	口縁～胴上位：叩調整 胴中位～底部：ヘカスリ	口縁～胴下位：叩調整 底部：ヘカスリ		348
7	E-040	SI502	床面	須恵器	坏	14.3	7.3	3.6	口縁～体中位：叩調整 体下位：手持ヘカスリ 底部：回転ヘカスリ→手持ヘカスリ	叩調整	内面口縁部灰かぶり 内外面 火傷痕 内外面口縁部重ね焼 き痕	348
8	E-041	SI502	床面	須恵器	坏	12.6	8.0	3.7	叩調整 底部：回転ヘカスリ	叩調整	外面口縁部重ね焼き痕	348
9	E-042	SI502	床面	須恵器	坏	13.2	7.6	4.2	叩調整 底部：手持ヘカスリ	叩調整	内外面体部重ね焼き痕 骨針 少量含む	348
10	E-043	SI502	堆積土	須恵器	鉢	—	—	(4.8)	体部：叩調整 底部：回転糸切	叩調整	内面底部使用痕(磨)あり こ ね鉢か 骨針微量含む	348

第301図 SI502 竪穴住居跡出土遺物 (2)

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。北西隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸64cm、短軸59cm、深さ17cmを測る。

【掘り方】 深さ11～16cmを測る。底面は不規則に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓などが出土した。土師器坏1点・甕2点、ロクロ土師器鉢1点・甕2点、須恵器坏3点・鉢1点を掲載した(第300・301図)。本住居跡は個体資料が豊富で、4・6～8など完形に近い土器が多い。3・5はカマド南脇の床面から入れ子状に重なって、6はカマドに倒れ掛かった状態で出土した。1は土師器坏で、厚手で重量感のあるつくりである。丸底から内湾して立ち上がり、口縁部で外反気味に直立する。内面はナデ調整が施されており、黒色処理は認められない。色調は浅黄橙色～にぶい橙色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と赤色粒子を含む。関東系土師器が在地化したものと考えられる。2・3は土師器甕で、2は小型品、3は中型品である。ともに最大径は胴部中位に位置し、張りの弱い短胴形を呈する。口縁部はともに外反し、頸部の段は3に認められる。4はロクロ土師器の鉢である。口縁部に最大径が位置し、胴部上位から底部に向かって緩やかにすぼまる。口縁部は外反し、端部は上方につまみ出される。5・6はロクロ土師器甕で、5は中型品で、6は大型品である。ともに胴部上位に最大径が位置し、底部に向かってすぼまる。5の口縁部は直線的

に外傾、6は外反し大きく開き、端部は上下につまみ出される。7～9は須恵器環である。7・9の底部は丸底風平底、8は平底を呈する。7は直線的に外傾しながら口縁部に至るもので、体部中位に稜を持つ。8・9は体部から口縁部に向かって内湾気味に外傾する。底部の切り離しは、7は回転ヘラケズリ後手持ちヘラケズリ、8が回転ヘラ切りで再調整は認められず、9は手持ちヘラケズリの再調整が施されているためともに不明である。色調はいずれも灰色～暗灰色を呈する。胎土はいずれもやや粗く砂粒を含み、7には多量の黒色粒子、9には少量の海綿骨針を含む。10は須恵器こね鉢と考えられる。厚手の平底で、体部は直線的に外傾する。底部の切り離しは、回転糸切りで再調整は認められない。色調は灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒と微量の海綿骨針を含む。

【時期】 床面とカマドから出土した土師器甕、ロクロ土師器甕、須恵器環(第300・301図3～9)の特徴から、7期(8世紀中頃～後半)と考えられる。なお、第301図6の土師器甕内部から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦705～828年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。

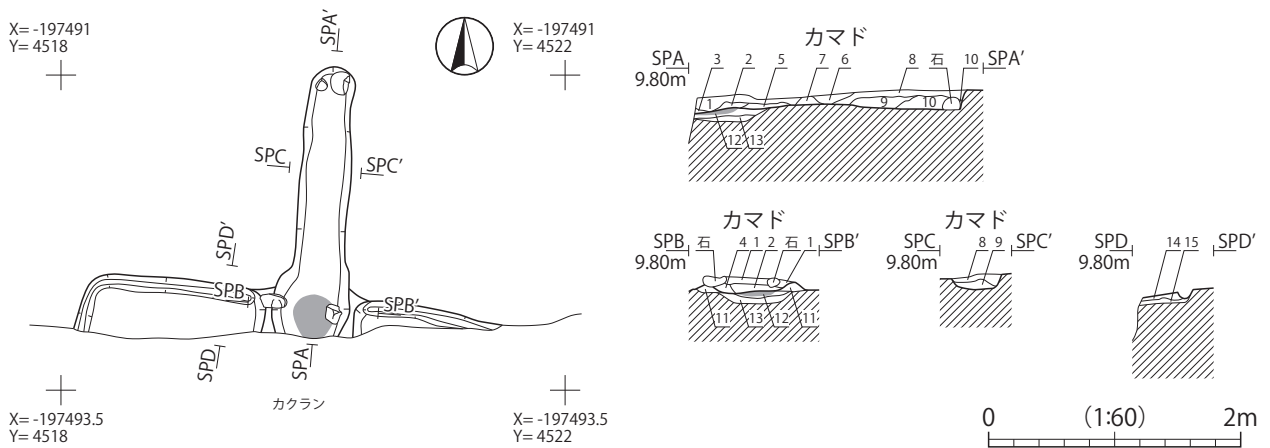
SI503 竪穴住居跡(第302図)

【位置・確認】 調査区南西部の127・128区に位置する。攪乱により大部分が失われ、カマドを含む北壁際の一部のみ残存する。

【重複】 SI506より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸330cm、短軸50cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-5°-Eを測る。



SI503 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド堆積土	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	2.5YR6/8 橙色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	3	7.5YR6/4 にぶい橙色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)多量含む。
	4	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	6	5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土粒・灰白色シルトブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	7	5YR6/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	8	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	9	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	10	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量、焼土粒微量含む。
カマド袖構築土	11	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。 ※内面被熱
カマド掘り方埋土	12	2.5YR6/3 にぶい橙色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。 ※全体被熱
	13	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
住居掘り方埋土	14	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、礫(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	15	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。

第302図 SI503 竪穴住居跡

【堆積土】 15層に分層した。1～10層はカマド堆積土である。11層はカマド袖構築土、12・13層はカマド掘り方埋土、14・15層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で9cm残存するが、形状は不明である。

【床面】 全体の形状は不明で、黄灰色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅11～12cm、深さ2～5cmを測る。

【カマド】 北壁中央部と推定される位置に、壁面に直交して付設されているが、攪乱により焚口付近が失われている。東袖の規模は残存値で長さ35cm、幅19cm、西袖は長さ35cm、幅20cmを測る。芯材とみられる板状の自然礫が、両袖基部から倒れた状態で出土した。燃烧部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き35cm、幅61cmを測る。底面は煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部との接続部手前には長径35cm程度の焼面がみられる。煙道部は長さ175cm、幅41cm、深さ5～15cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。先端部の底面から自然礫が2点出土した。

【掘り方】 深さ3～10cmを測り、底面の形状は不明である。

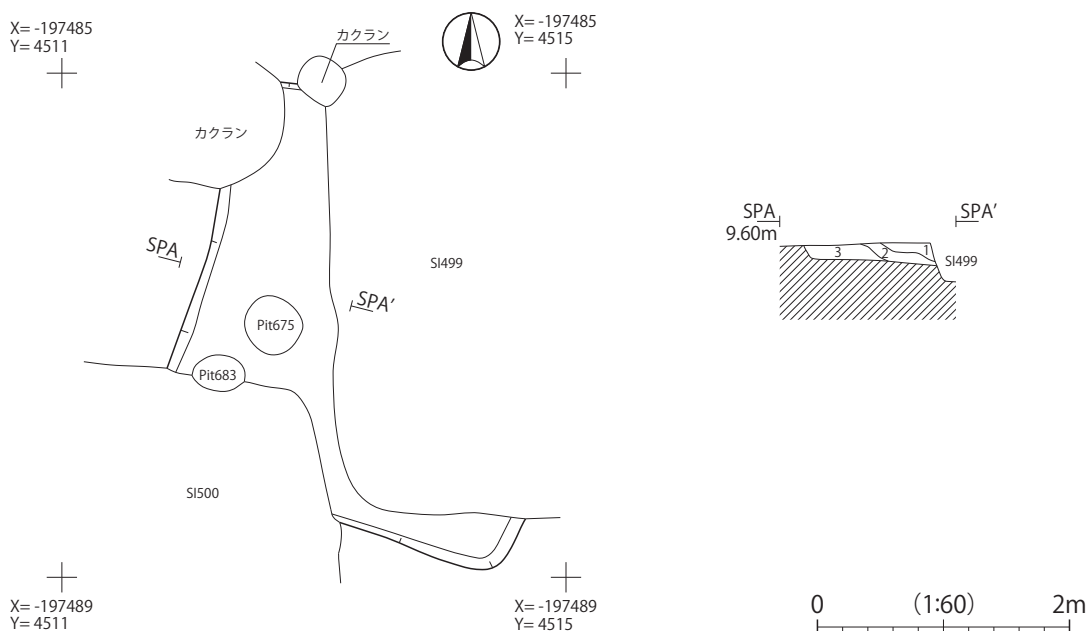
【出土遺物】 堆積土、床面施設から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI506との新旧関係から、6期(8世紀前半)以降の可能性はある。

SI504 竪穴住居跡 (第303図)

【位置・確認】 調査区南西部の119区に位置する。壁や床面は削平されている。残存する掘り方の東・南西部はSI499・500の重複、北西部は攪乱により失われている。周溝・柱穴・カマドなどの床面施設も確認できなかった。

【重複】 SI499・500より古い。



SI504 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方埋土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)・灰白色シルトブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

第303図 SI504 竪穴住居跡

【規模・形態】 確認された規模は長軸327cm、短軸303cmを測り、平面形は方形と考えられる。

【方向】 西壁を基準としてN-17°-Eを測る。

【堆積土】 3層に分層した。いずれも住居掘り方埋土である。

【掘り方】 残存値で深さ5～10cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 出土しなかった。

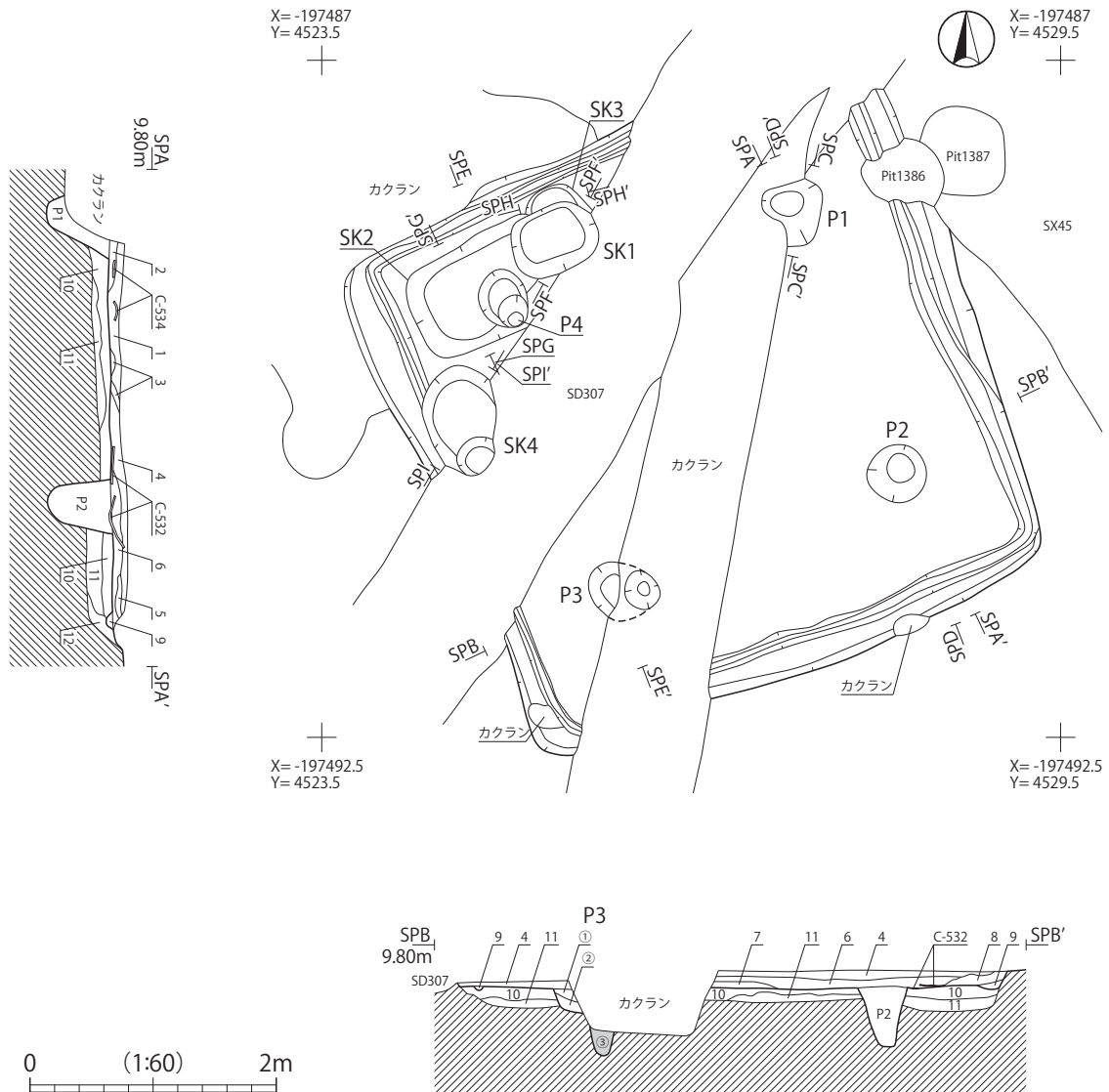
【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI499・500との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前の可能性がある。

SI505 竪穴住居跡(第304～309図)

【位置・確認】 調査区南西部の120・128区に位置する。北東・南西部壁、西壁中央部、中央・北西部床面が攪乱とSD307、SX45の重複により失われている。

【重複】 同時代の重複遺構はない。

【規模・形態】 確認された規模は長軸471cm、短軸468cmを測り、平面形は方形を呈する。

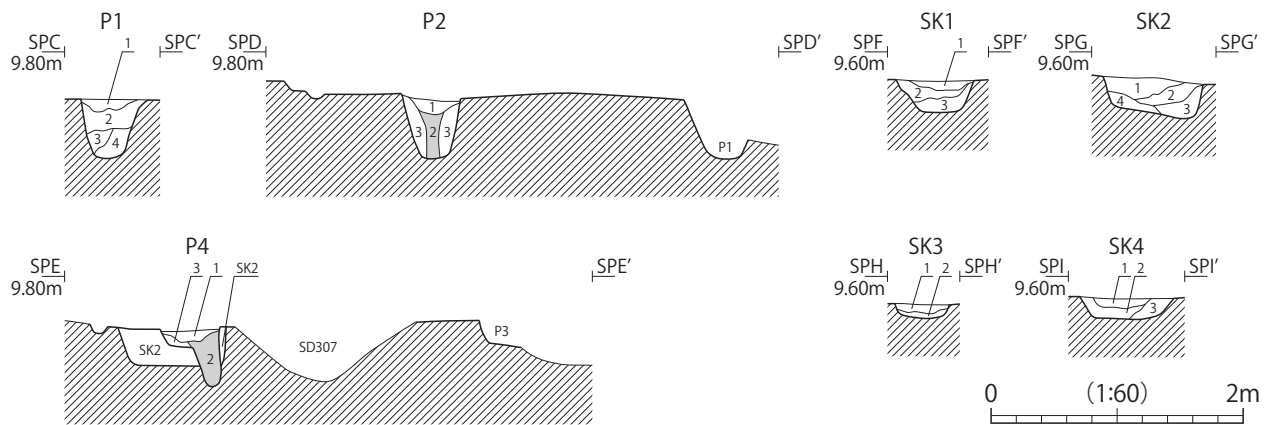


第304図 SI505 竪穴住居跡(1)

第5章 検出遺構と出土遺物

SI505 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量、焼土粒微量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	8	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
周溝堆積土	9	7.5YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒多量含む。
住居掘り方埋土	10	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	12	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。



SI505 施設堆積土註記表

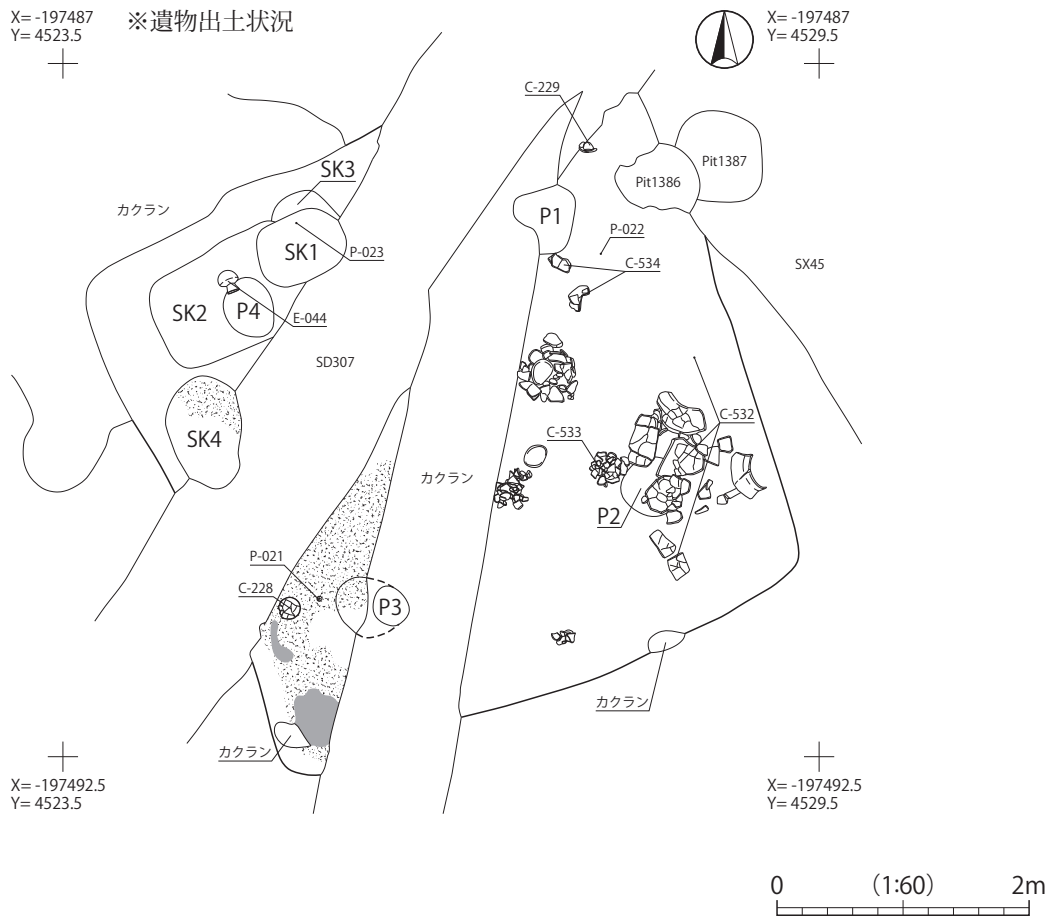
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土互層状に多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土・褐灰色シルト互層状に多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P3	①	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	②	2.5Y6/2 灰黄色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	③	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
P4	1	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	5YR3/2 暗赤褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK2	1	7.5YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・炭化物斑状に多量、焼土粒微量含む。
SK3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物斑状に少量、焼土粒微量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物斑状に多量含む。
SK4	1	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR4/3 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土斑状に少量、炭化物粒少量含む。
	3	7.5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。

SI505 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	(隅丸方形)	(55)×(49)	47	主柱穴	
P2	円形	46×46	52	主柱穴 柱痕跡	
P3	(楕円形)	(58)×(45)	66	主柱穴 柱痕跡	
P4	楕円形	49×39	47	主柱穴 柱痕跡	

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
SK1	(隅丸長方形)	(70)×(53)	25	貯蔵穴	
SK2	隅丸長方形	(122)×85	32	貯蔵穴	
SK3	(楕円形)	(45)×(36)	12	性格不明土坑	
SK4	(楕円形)	(89)×(59)	34	性格不明土坑	

第305図 SI505 竪穴住居跡(2)



第306図 SI505 竪穴住居跡 (3)

【方向】 東壁基準としてN-20°-Wを測る。

【堆積土】 12層に分層した。1～8層は暗灰黄色粘土質シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。9層は周溝堆積土、10～12層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で19cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。南西部を中心に炭化物範囲や焼土範囲がみられる。

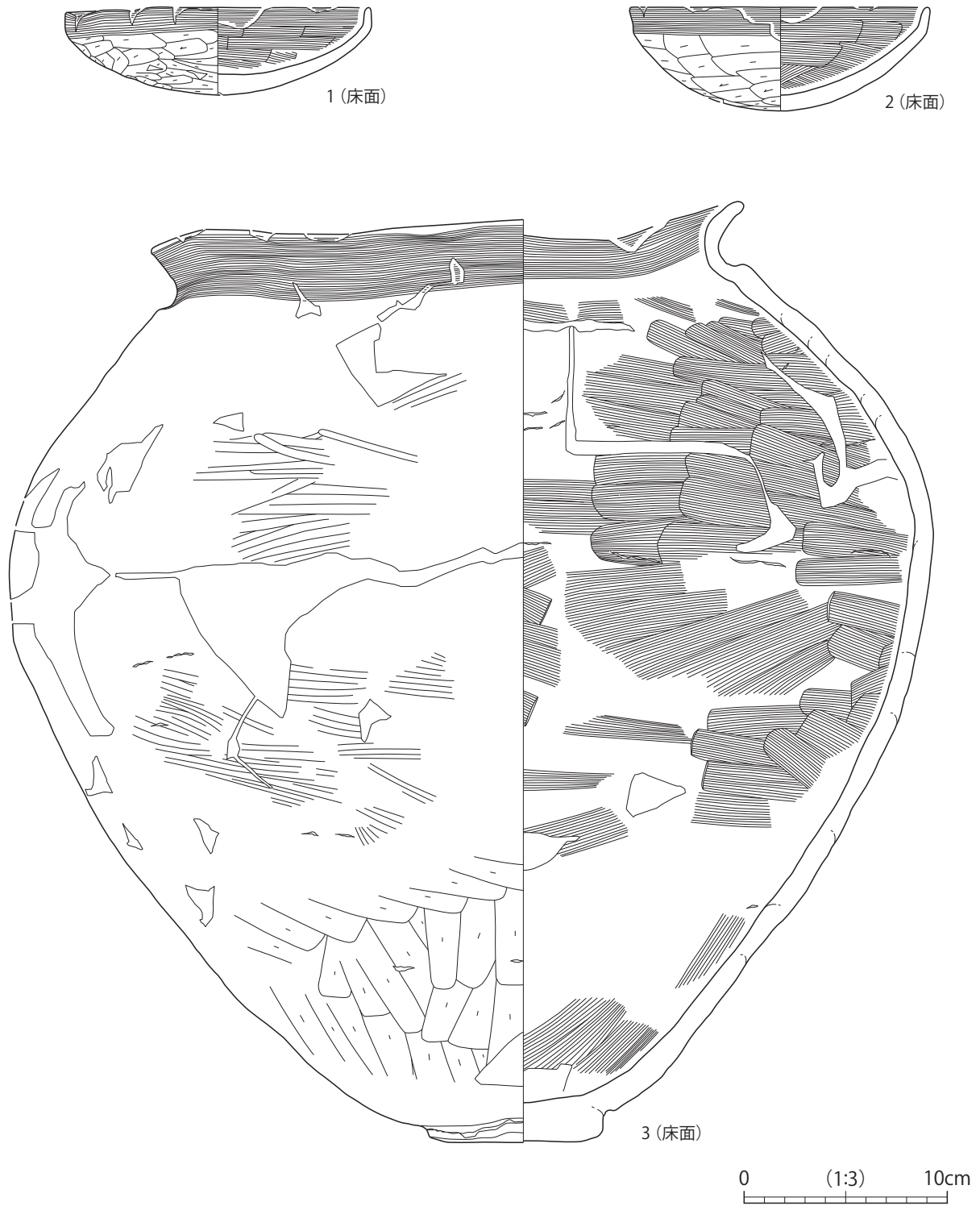
【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は残存値も含め長軸46～58cm、短軸39～49cm、深さ47～66cmを測る。P2～4の堆積土下半で径19～25cm程度の柱痕跡、P1で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 残存範囲では北壁は壁面に沿って、東・西・南壁は壁面から6～24cm前後内側に寄ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅8～22cm、深さ2～7cmを測る。

【その他の施設】 床面で4基(SK1～4)の土坑を検出した。SK1～3は北西部に3基が重複して位置し、SK1が最も新しい。SK2・3の新旧関係は不明である。SK4は西壁際のやや北寄りに位置する。SK1・2は位置や形状から貯蔵穴とみられるが、SK2はP4により壊されている。

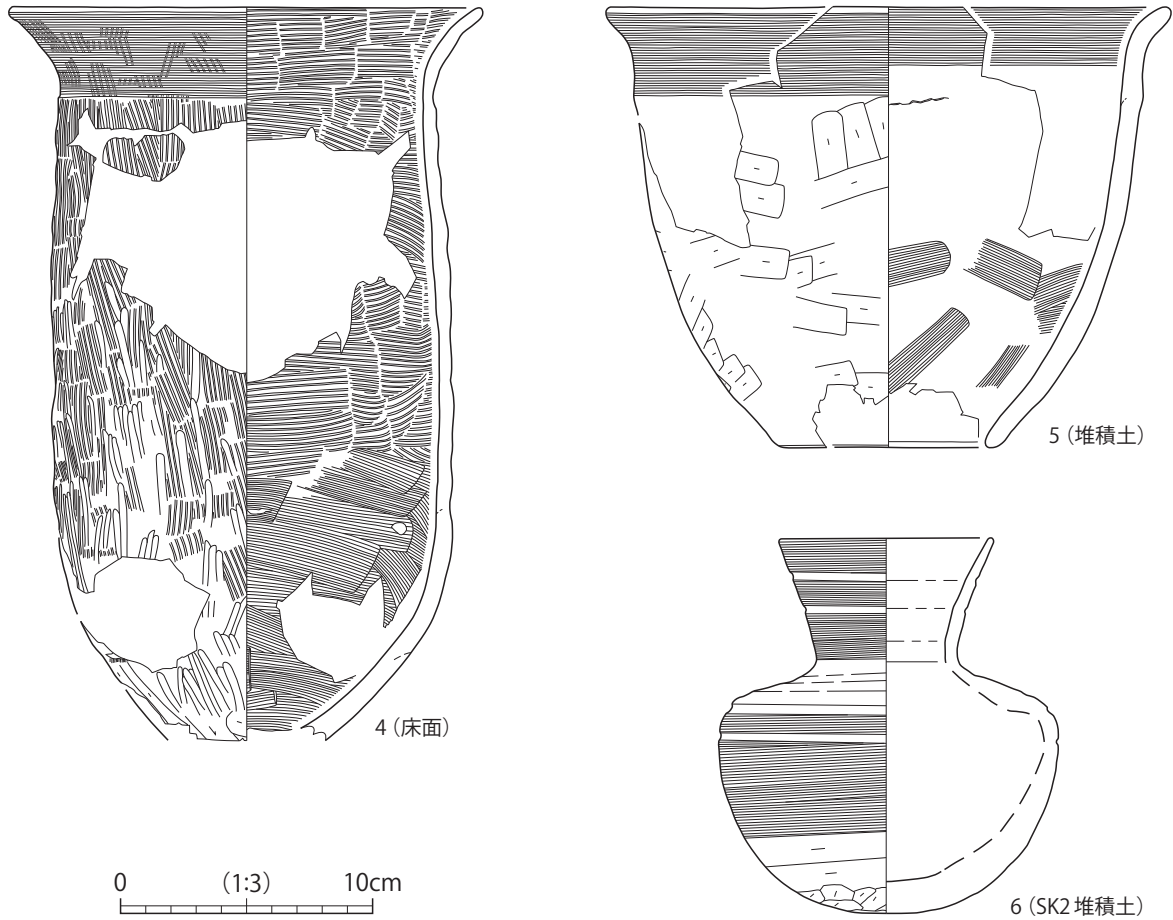
SK1の平面形は隅丸長方形と考えられ、規模は残存値で長軸70cm、短軸53cm、深さ25cmを測る。SK2の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は残存値で長軸122cm、短軸85cm、深さ32cmを測る。

【掘り方】 深さ9～26cmを測り、中央部を除く壁際が一段低く掘り込まれている。



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-228	SI505	床面	土師器	坏	14.9	—	4.3	口縁：ヨナテ 体～底部：ハラスリ	口縁：ヨナテ 体～底部：ハナテ	関東系	348
2	C-229	SI505	床面	土師器	坏	14.6	—	5.1	口縁：ヨナテ 体～底部：ハラスリ	口縁：ヨナテ 体～底部：ハナテ		348
3	C-532	SI505	床面	土師器	壺	28.7	8.5	46.3	口縁：ヨナテ 体上半：ハラスリ→ハミカキ 体下半～底部：ハラスリ	口縁：ヨナテ 体部：ハナテ	内外面やや摩滅 口縁～体上半被熱による赤色化・火い痕	349

第307図 SI505 竪穴住居跡出土遺物(1)



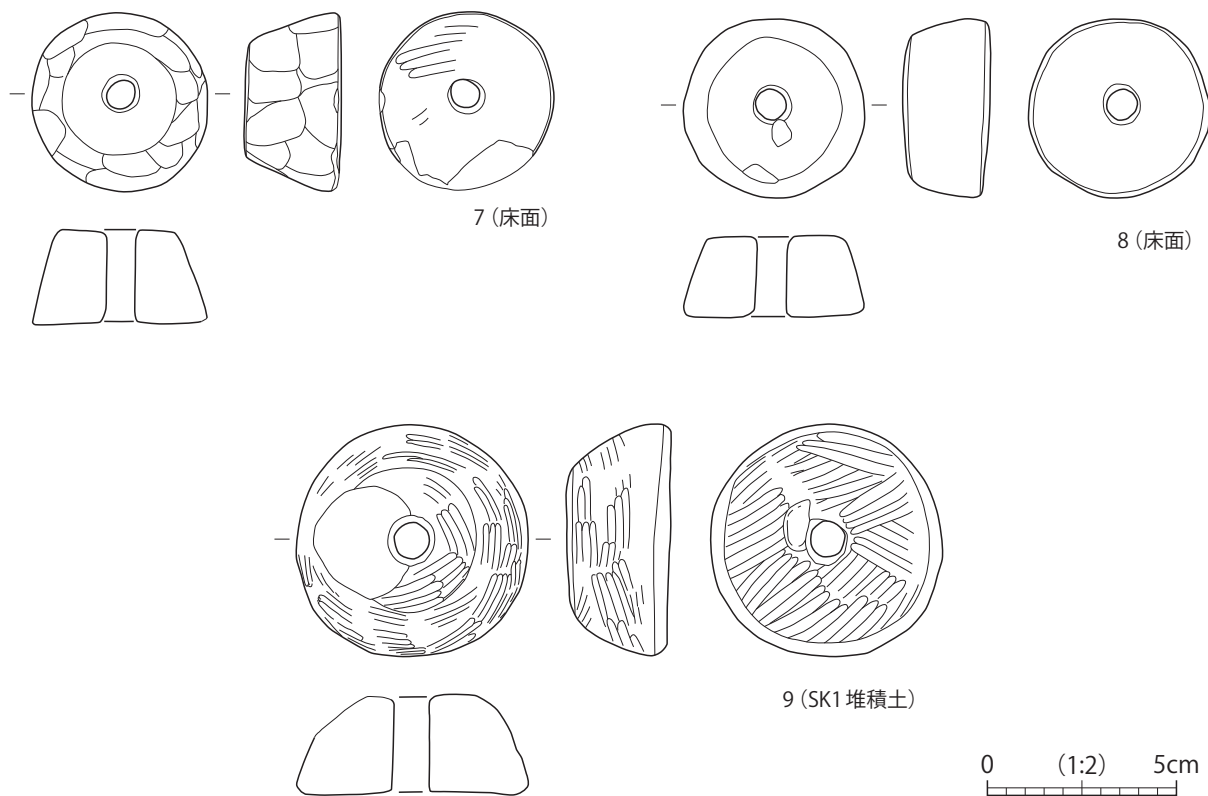
図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
4	C-533	SI505	床面	土師器	甕	18.6	—	29.1	口縁：ハメ→ヨコテ 胴上位：ハメ 胴中～下位：ハメ→ハラミガキ 胴下端：ハメ→ハラスリ→ハラミガキ	口縁～胴上半：ハメ 胴下半：ハラテ	角閃石少量含む	350
5	C-534	SI505	堆積土	土師器	甕	22.0	孔径 8.0	17.5	口縁：ヨコテ 胴部：ハラスリ	口縁：ヨコテ 胴部：ハラテ	角閃石少量含む 内外面摩滅	349
6	E-044	SI505 SK2	堆積土	須恵器	壺	8.4	—	14.9	口縁～頸部：ハメ→沈線 体上位：ロコ調整→沈線 体中位：ハメ→沈線 体下位～底部：回転ハラスリ→手持ハラスリ	ロコ調整		349

第308図 SI505 竪穴住居跡出土遺物 (2)

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、土製品などが出土し、土師器環2点・壺1点・甕1点・甕1点、須恵器壺1点、土製品3点を掲載した(第307～309図)。1～4・7・8は床面から、6はSK2から出土した。1・2は土師器環で、鬼高系土師器の特徴を持ち、2は在地産土師器の胎土と類似していることから在地化したものと考えられる。1は比較的薄手で精巧なつくりで、2は厚手で重量感のあるつくりである。1は浅身で扁平な丸底、2は深身の丸底である。口縁部はともに短く直立する。内面はともにナデ調整が施されており、黒色処理は認められない。1の色調はにぶい橙色～褐色、2はにぶい黄橙色を呈する。1の胎土は粉のように細かく精良で、細砂と少量の赤色粒子を含み、2はやや粗く2mm以下の砂礫を含む。1の焼成はやや軟質である。3は土師器壺で、器高が50cm近くある大型品である。最大径は体部上位に位置し、そこから径の小さな底部に向かってすぼまる。頸部に段を持ち、口縁部は短く外反する。4は土師器甕で、胴部最大径が下位に位置する。頸部に段を持ち、口縁部で緩く外反する。5は単孔の土師器甕で、胴部上位から下端に向かって緩やかにすぼまる。口縁部は外反する。6は須恵器壺である。丸底から緩やかに内湾して立ち上がり、肩部は丸味を持って屈曲し、口縁部で直線的に外傾する。

沈線が口縁部に2条、体部上位に2条めぐる。色調は灰白色～灰色を呈し、胎土はやや粗く砂粒を含む。焼成はやや軟質である。7～9は土製の紡錘車で、断面形はいずれも台形を呈する。7の表面はナデ、裏面にミガキが施され、8は摩滅のため調整は不明である。9は表面にミガキが施され、裏面の一部にオサエがみられる。

【時期】 床面とSK2から出土した土師器坏・甕、須恵器壺(第307・308図1～4・6)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。なお、西部南寄りの床面から採取した炭化物について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦603～641年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真 図版
						全長	幅	厚さ			
7	P-021	SI505	床面	土製品	紡錘車	4.7	4.6	2.6	54.0	ナデミガキ孔径0.7cm	350
8	P-022	SI505	床面	土製品	紡錘車	4.8	4.7	2.1	54.5	摩滅のため調整不明 孔径0.8cm	350
9	P-023	SI505 SK1	堆積土	土製品	紡錘車	6.1	6.1	2.7	104.9	ミガキナデ孔径0.9cm	350

第309図 SI505 竪穴住居跡出土遺物(3)

SI506 竪穴住居跡(第310図)

【位置・確認】 調査区南西部の127・128区に位置する。SI503の重複や攪乱により大部分が失われ、カマドを含む北壁周辺のみ残存する。

【重複】 SI503より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸355cm、短軸73cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-11°-Eを測る。

【堆積土】 17層に分層した。1層は周溝堆積土、2～6層はカマド堆積土である。7～10層はカマド掘り方埋土、11～17層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で6cm残存するが、形状は不明である。

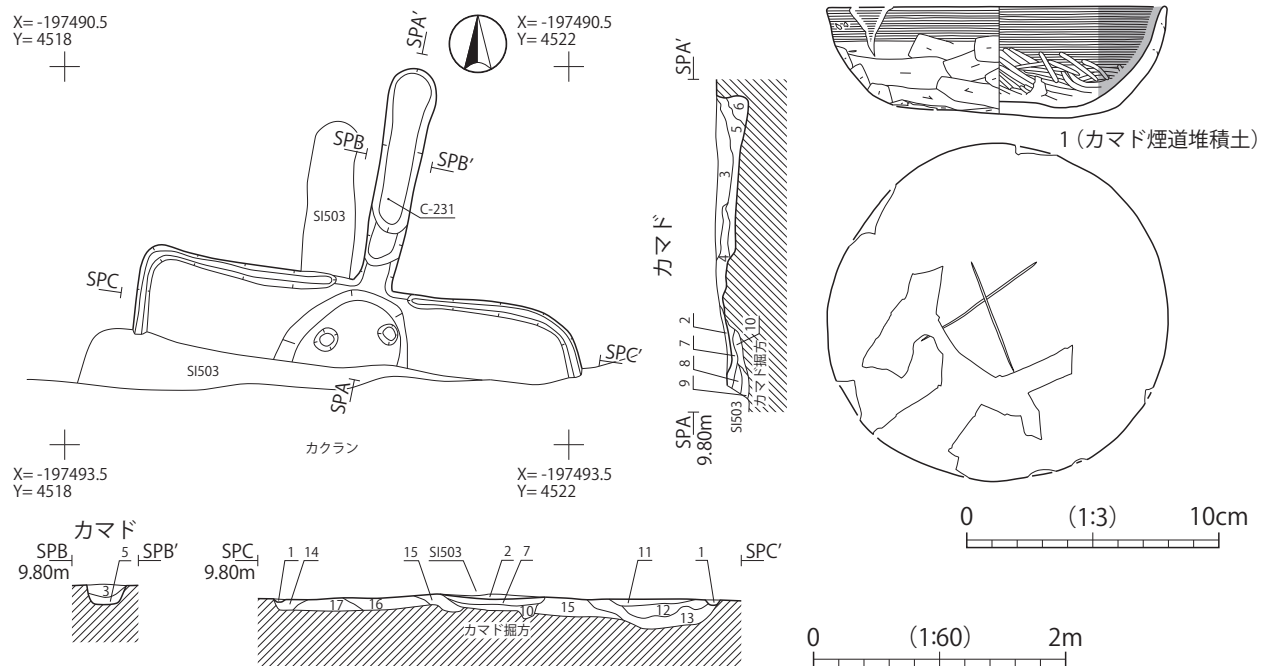
【床面】 全体の形状は不明で、にぶい褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅8～15cm、深さ1～6cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、袖は失われている。燃烧部は壁内に位置するが、焼面もみられないため、規模は不明である。底面は弧状にくぼみ、そのまま緩やかに煙道部へつながる。煙道部は長さ176cm、幅26～38cm、深さ4～26cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【掘り方】 深さ7～21cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土、カマド、掘り方から土師器が出土し、カマド煙道部から出土した土師器環1点を掲載した(第310図)。丸底風平底の底部から内湾して立ち上がり、口縁部で外反気味に直立する。内面は口縁部から体部をヨコナデ後に体部から底部をヘラミガキし、全体に黒色処理が施されている。色調は浅黄橙色を呈し、胎土はやや粗く、



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-231	SI506 カマド煙道	堆積土	土師器	環	13.3	—	4.4	口縁：ヨコナデ 体～底部：ヘラミガキ	口縁：ヨコナデ 体～底部：ヘラミガキ	内面黒色処理 底部線刻「+」 骨針微量含む	350

SI506 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	2	5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※全体被熱
カマド堆積土	3	7.5YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒微量含む。
	4	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	5	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド掘り方 埋土	7	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土斑状に少量、IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	8	5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	9	5YR4/1 褐灰色	砂質シルト	焼土斑状に多量、IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
住居掘り方 埋土	10	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	11	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	12	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	13	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	14	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	15	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	16	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	17	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

第310図 SI506 竪穴住居跡・同出土遺物

砂粒と少量の赤色粒子、微量の海綿骨針を含む。関東系土師器が在地化したものと考えられる。

【時期】 カマド煙道部から出土した土師器環(第310図1)の特徴から、6期(8世紀前半)の可能性はある。

SI507 竪穴住居跡(第311図)

【位置・確認】 調査区南西部の96・104区に位置する。SI502・508、SD313の重複や攪乱により大部分が失われ、南西・南東部壁際の一部が残存する。残存範囲およびSI502・508の重複範囲内では、柱穴・カマドなどの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI502・508、SD313より古く、SI521より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸300cm、短軸204cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 西壁を基準としてN-23°-Eを測る。

【堆積土】 5層に分層した。灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。

【壁面】 外反して立ち上がり、壁高は最大で45cmを測る。

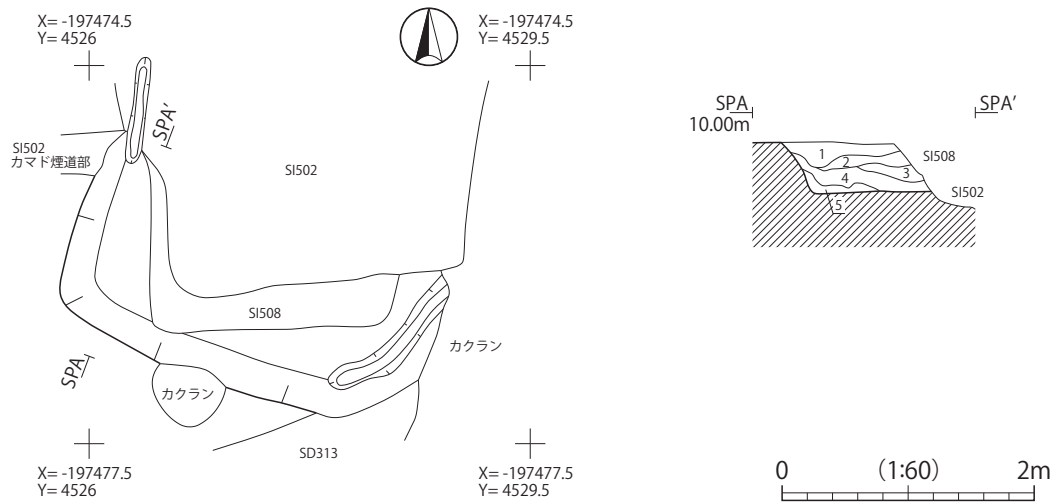
【床面】 全体の形状は不明で、土層観察を行ったA-A'付近では基本層IV層を直接床面とするが、他地点はにぶい黄褐色砂質シルトの埋土上面を床面とする。

【周溝】 東壁と西壁際で部分的に検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅11~18cm、深さ3~8cmを測る。

【掘り方】 深さ5~7cmを測り、底面は東半部が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI502・508・521との新旧関係から、7期(8世紀中頃~後半)以前と考えられる。



SI507 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

第311図 SI507 竪穴住居跡

SI508 竪穴住居跡 (第312図)

【位置・確認】 調査区南西部の104区に位置する。大部分がSI502の重複により失われ、南壁際と西壁周溝が残存する。残存範囲およびSI502の重複範囲内では、柱穴・カマドなどの床面施設は確認できなかった。本住居跡はSI507調査時に検出したため、壁面は掘削によって失われている。

【重複】 SI502より古く、SI507より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸200cm、短軸148cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 西壁を基準としてN-2°-Eを測る。

【堆積土】 4層に分層した。1層は周溝堆積土、2～4層は住居掘り方埋土である。

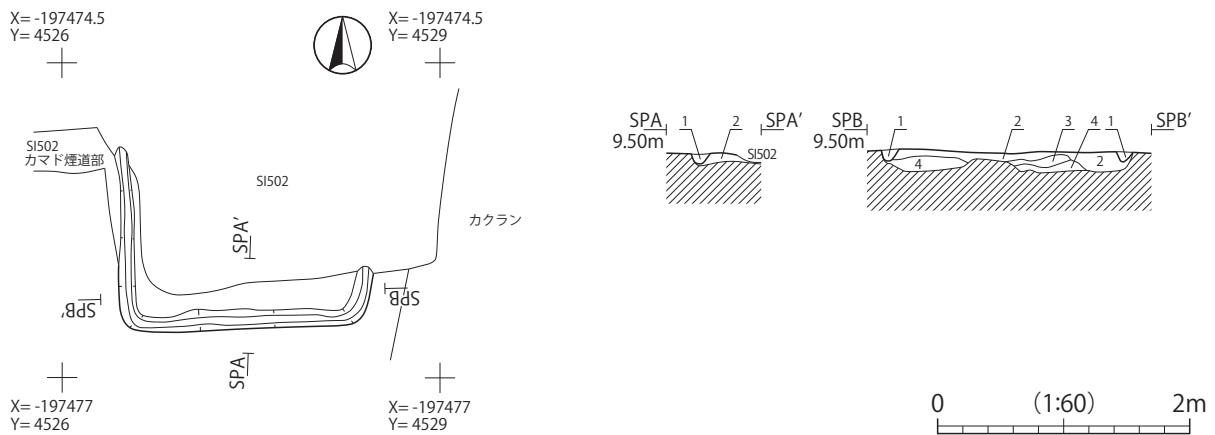
【床面】 全体の形状は不明で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【周溝】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅9～17cm、深さ4～10cmを測る。

【掘り方】 深さ7～16cmを測り、西半部と南東隅が土坑状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 周溝から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI502・507との新旧関係から、7期(8世紀中頃～後半)以前と考えられる。



SI508 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝堆積土	1	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 ※全体グライ化
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	3	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

第312図 SI508 竪穴住居跡

SI509 竪穴住居跡 (第313・314図)

【位置・確認】 調査区中央部の54・55・62区に位置する。大部分がSI405の重複により失われ、カマドを含む北壁際のみ残存する。

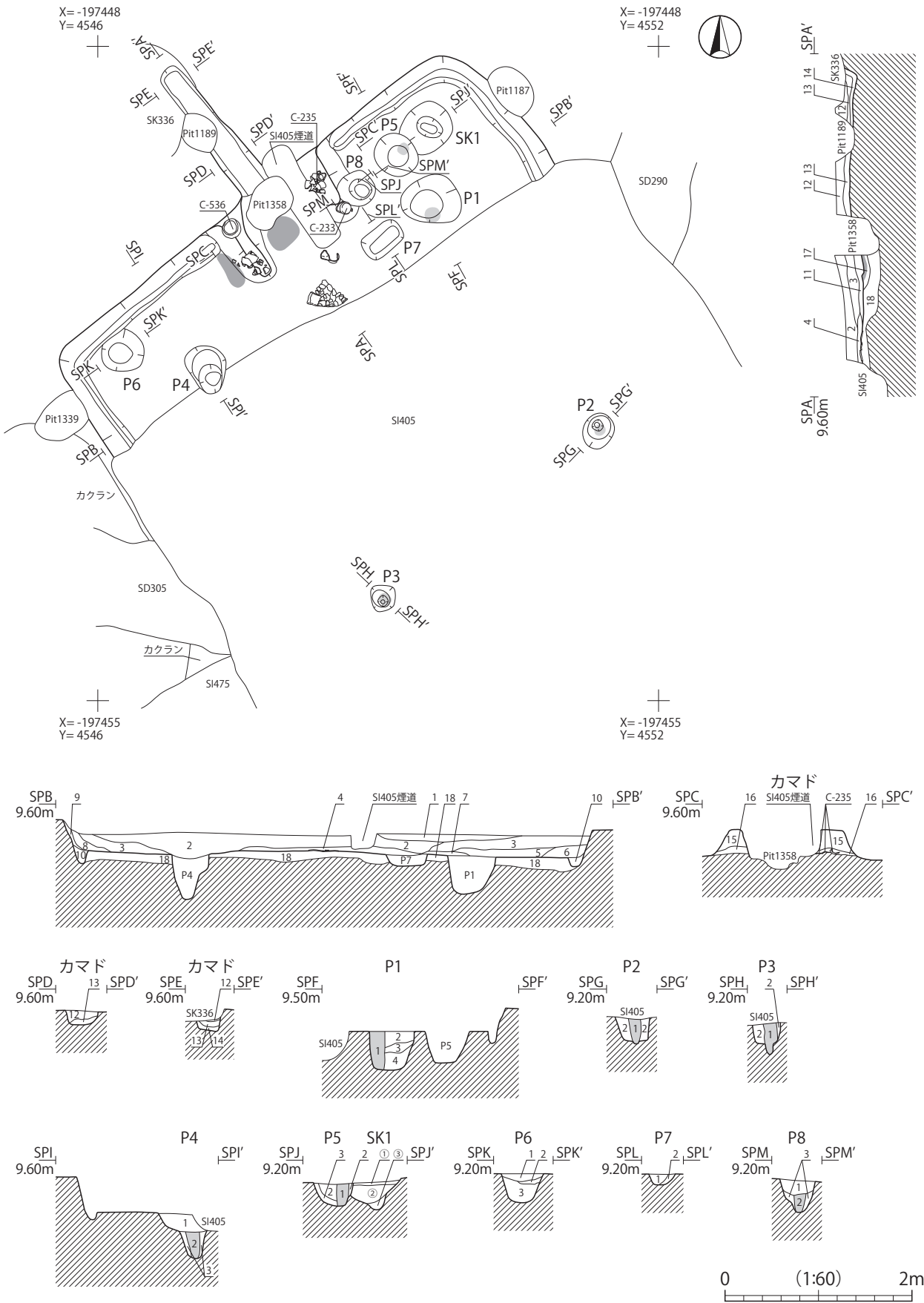
【重複】 SI405、SK336、Pit1189・1358より古く、SI515、Pit1359、SX49より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸567cm、短軸170cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-36°-Wを測る。

【堆積土】 18層に分層した。1～9層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。10層は周溝堆積土、11～14層はカマド堆積土である。15・16層はカマド袖構築土、17層はカマド掘り方埋土、18層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で43cmを測る。



第313図 SI509 竪穴住居跡

SI509 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	6	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	7	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒多量含む。
	8	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
	9	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
周溝堆積土	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
カマド堆積土	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・灰少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	12	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～30mm程度)・炭化物粒少量含む。
	13	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	14	2.5YR3/2 暗赤褐色	粘土質シルト	焼土ブロック(10～30mm程度)多量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
カマド袖構築土	15	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	16	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	17	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	18	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

SI509 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～15mm程度)多量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)少量含む。
P6	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
SK1	①	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	②	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	③	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。

SI509 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	65×51	41	主柱穴 柱痕跡
P2	(楕円形)	(38)×(32)	(40)	主柱穴 柱痕跡
P3	(隅丸方形)	(27)×(25)	(35)	主柱穴 柱痕跡
P4	楕円形	(52)×39	40	主柱穴 柱痕跡
P5	円形	48×44	27	補助柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	円形	45×(45)	31	補助柱穴
P7	隅丸長方形	46×28	11	補助柱穴
P8	円形	38×37	34	性格不明 柱痕跡
SK1	円形	(54)×49	36	貯蔵穴

【床面】 全体の形状は不明で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面およびSI405の重複範囲内から7基(P1～7)、掘り方から1基(P8)検出された。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は残存値も含め長軸27～65cm、短軸25～51cm、深さ35～41cmを測る。P1～3の堆積土とP4の堆積土下半で、径13～17cm程度の柱痕跡を確認した。P5～7は補助柱穴と考えられ、P5がカマドの東側、P6が北西隅付近、P7がP1西側の至近に配置されている。P8の性格は不明である。P5の堆積土とP8の堆積土下半で、径13cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅10～17cm、深さ3～16cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、SI405のカマド煙道部やSK336、Pit1189・1358の重複により、燃焼部や煙道部が部分的に失われている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は残存値で長さ84cm、幅41cm、西袖は長さ82cm、幅33～36cmを測る。両袖の先端部と基部に芯材とみられる土師器坏・甕

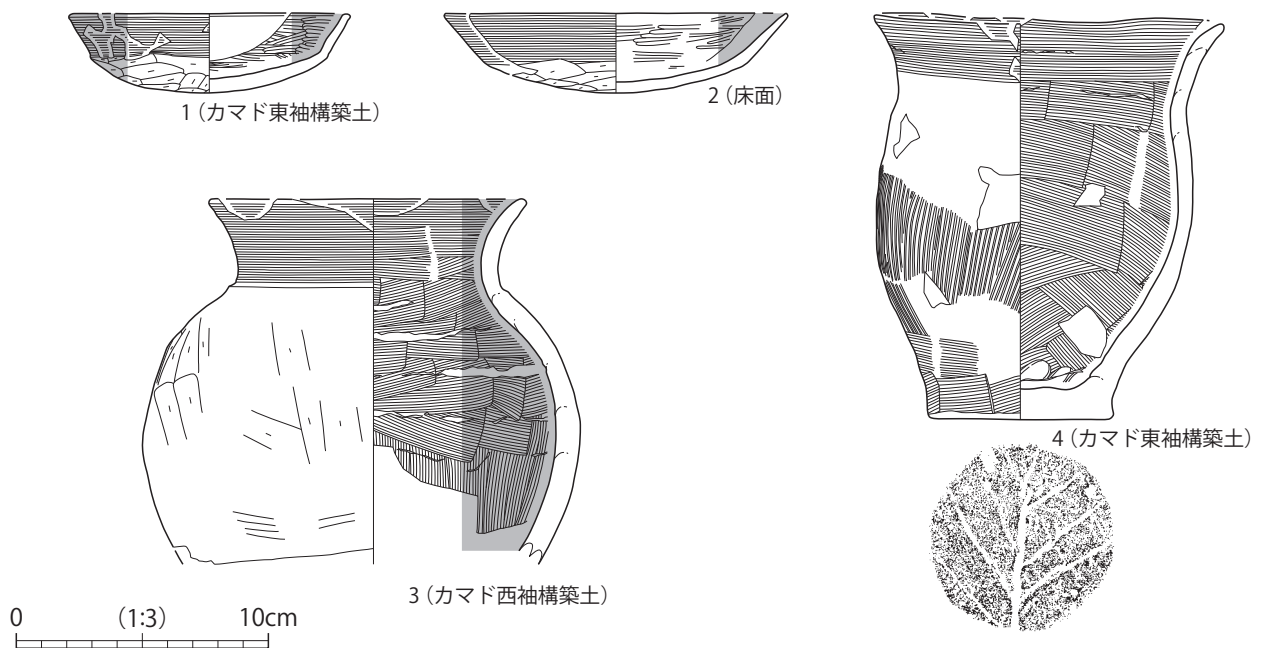
が4個体埋設されているが、一部の土器は潰れた状態で出土した(第314図1・3・4)。燃焼部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き85cm、幅85cmを測る。底面は起伏し、中央部に長径36cm程度の焼面がみられる。奥壁は失われているが、煙道部とは11cm程度の比高差が認められる。煙道部は残存値で長さ162cm、幅26～35cm、深さ14～24cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。北東隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸54cm、短軸49cm、深さ36cmを測る。

【掘り方】 深さ2～27cmを測り、カマドの前方から北東隅が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器などが出土し、土師器坏2点・壺1点・甕1点を掲載した(第314図)。1・4はカマド東袖、3は西袖の芯材として転用されていた。1・2は土師器坏で、ともに扁平な丸底を呈し、口縁部で直線的に外傾する。1の口縁部と体部の境は外面に段、内面に稜、2の外面はヘラケズリによって形成される稜を持つ。1は内外面に、2は内面に黒色処理が施されている。3は土師器壺で、頸部に段を持つ。球胴形を呈し、口縁部は外反気味に直立する。摩滅のため不明瞭な部分があるが、外面に弱いヘラケズリ後ヘラミガキが施されている。内面に黒色処理が施されているが、口縁部は部分的である。4は土師器甕で、頸部の段は認められない。胴部最大径が胴部中位に位置し、口縁部で外反する。

【時期】 床面から出土した土師器坏(第314図2)とカマド袖から出土した土師器坏・甕(第314図1・3・4)の特徴から、4期(7世紀中頃～後半)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-233	SI509 カマド 東袖	構築土	土師器	坏	10.9	—	3.1	口縁：ヨコナ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内外面黒色処理 角閃石微量含む 内面火傷による摩滅	350
2	C-234	SI509	床面	土師器	坏	(13.5)	—	3.1	口縁：ヨコナ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 内外面摩滅	350
3	C-536	SI509 カマド 西袖	構築土	土師器	壺	(12.3)	—	(14.5)	口縁：ヨコナ 体部：ヘラズリ →ヘラミガキ	口縁：ヨコナ →ヘラナ 体部：ヘラナ	内面黒色処理 角閃石微量含む 外面やや摩滅 口縁部内外面火傷痕 外面体部二次被熱による赤色化・剥離	350
4	C-235	SI509 カマド 東袖	構築土	土師器	甕	13.7	7.2	16.1	口縁：ヨコナ 胴部：ヘラ 胴下端～底部：ヘラナ	口縁：ヨコナ 胴部：ヘラナ 底部：北ノナ	底部木葉痕 角閃石少量含む 外面二次被熱による赤色化	350

第314図 SI509 竪穴住居跡出土遺物

SI510 竪穴住居跡 (第315・316図)

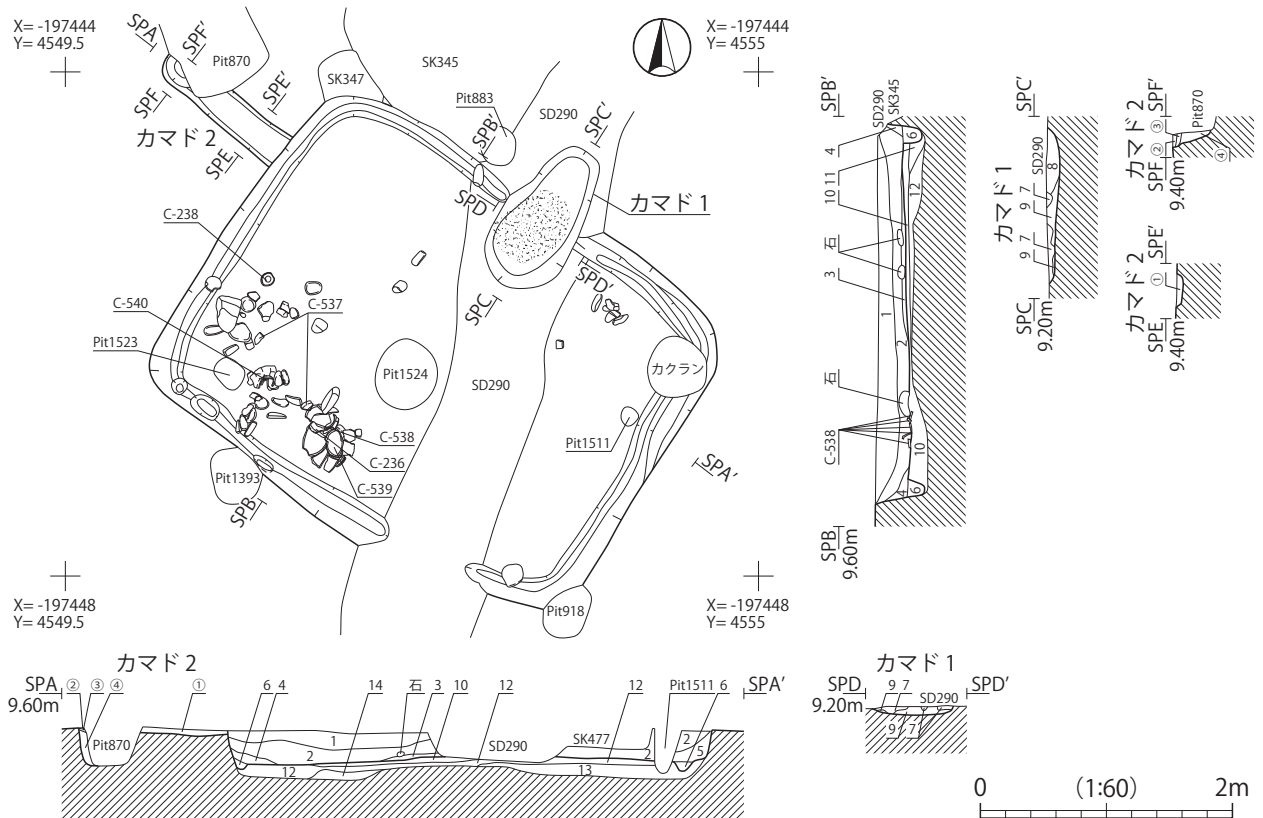
【位置・確認】 調査区中央部の47・55区に位置する。SD290の重複により中央部とカマド1の上部、SK345・347、Pit870の重複により北壁の西半部とカマド2の一部が失われている。

【重複】 SK477、Pit918・1393・1541より古く、SI515、Pit1529・1542より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸389cm、短軸302cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマド1を基準としてN-33°-Eを測る。

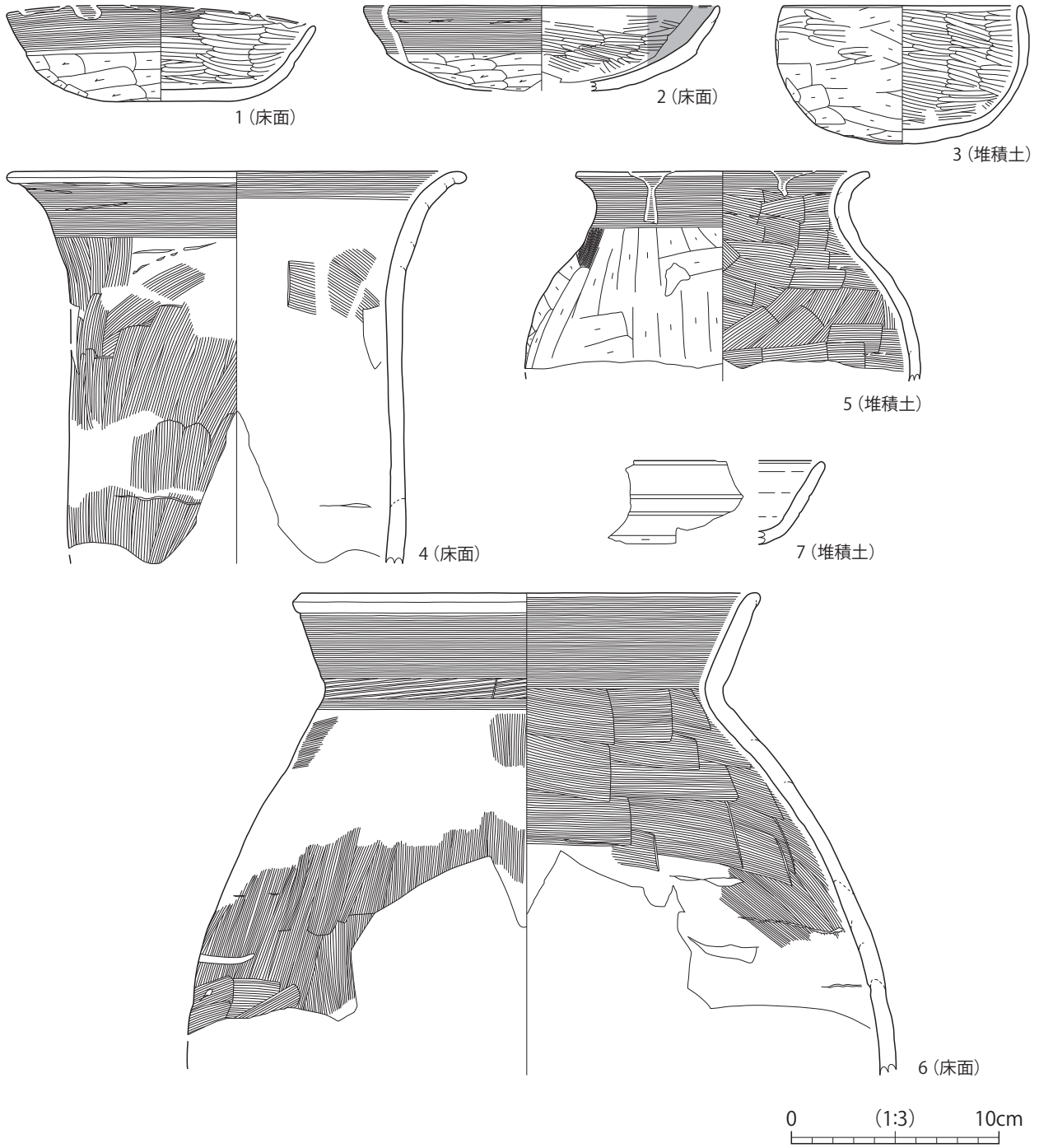
【堆積土】 14層に分層した。1～5層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1・2層は人為的な埋土、3～5層は自然堆積とみられる。6層は周溝堆積土、7～9層はカマド1掘り方埋土である。10～14層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、4層に分層した。



SI510 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考	
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～40mm程度)少量含む。	
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。	
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
周溝堆積土	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
	カマド1掘り方埋土	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
		8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)・焼土ブロック(5～30mm程度)・炭化物粒少量含む。
9		10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物主体。焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
住居掘り方埋土	10	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。	
	12	10YR6/6 明黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。	
	13	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
	14	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物少量含む。	
カマド2堆積土	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
	②	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
	③	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒帯状に少量、IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
	④	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	

第315図 SI510 竪穴住居跡



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-236	SI510	床面	土師器	环	14.8	7.7	4.6	口縁：ヨナデ 体部～底：ハラズリ	口縁：ヨナデ→ハラミガキ 体～底部：ハラミガキ	関東系 雲母含む	350
2	C-537	SI510	床面	土師器	环	(17.0)	—	(4.1)	口縁：ヨナデ 体部：ハラズリ	ハラミガキ	内面黒色処理 角閃石微量含む 内外面被熱による赤色化	350
3	C-238	SI510	堆積土	土師器	环	(11.4)	—	6.6	口縁：ハラズリ→ハラミガキ 体～底部：ハラズリ	ハラミガキ	内外面二次被熱による赤色化	350
4	C-538	SI510	床面	土師器	甗	(21.4)	—	(18.9)	口縁：ヨナデ 胴部：ハラナデ	口縁：ヨナデ 胴部：ハラナデ	角閃石微量含む 内面摩滅	350
5	C-540	SI510	堆積土	土師器	甗	(14.0)	—	(10.1)	口縁：ヨナデ 胴部：ハメ→ハラズリ	口縁：ヨナデ 胴部：ハラナデ	角閃石中量含む	350
6	C-539	SI510	床面	土師器	甗	(22.0)	—	(23.2)	口縁：ハメ→ヨナデ 胴部：ハラナデ→ハラミガキカ	口縁：ヨナデ 胴部：ハラナデ	外面やや摩滅 外面火い痕	351
7	E-045	SI510	堆積土	須恵器	高环 or 高台付 环	—	—	(5.0)	口縁～体中位：叩調整→沈線 体下位：回転ハラズリ	叩調整		351

第316図 SI510 竪穴住居跡出土遺物

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で29cmを測る。

【床面】 北東部が若干高まり、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【周溝】 残存範囲ではカマド1部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅10～15cm、深さ1～18cmを測る。

【カマド】 北壁でカマド1、西壁でカマド2を検出した。カマド1の方が新しい。カマド1は壁の中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、掘り方のみ残存する。掘り方は奥壁側1/2程度が壁外に張り出し、規模は残存値で奥行き124cm、幅46～67cmを測る。埋土上部は部分的に被熱し、中央部から焚口付近にかけて炭化物範囲がみられる。カマド2は煙道部のみ残存し、壁の中央部から北寄りに位置するが、先端部付近の東側はPit870の重複により失われている。煙道部は壁面から直交して延び、住居床面とは24cm程度の比高差が認められる。規模は長さ118cm、幅27～30cm、深さ5～32cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がり、先端部はピット状を呈する。

【掘り方】 深さ9～15cmを測り、中央部を除く壁際が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓、羽口などが出土し、土師器坏3点・甕3点、須恵器高坏もしくは坏1点を掲載した(第316図)。1・2・4・6は、南西部の床面から大小の自然礫とともにまとまって出土した。1～3は土師器坏である。1は扁平な丸底状平底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部と体部の境に段を持つ。内面は口縁部ヨコナデ後、口縁部から底部にかけてヘラミガキを施しており、黒色処理は認められない。色調は暗褐色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と赤色粒子、少量の雲母を含む。器形や調整などから関東系土師器と考えられる。2は扁平な丸底で、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境に段を持つ。3は深身で、口縁部は内湾気味に直立する。内面の黒色処理は2が施されているが、3は認められない。4～6は土師器甕である。4は円筒形を呈すると考えられる。5・6は胴部中位に最大径が位置すると考えられ、5は球胴形、6は楕円形を呈すると考えられる。4の口縁部は長く外反し大きく開き、5は外反、6は直線的に外傾し端部が丸く折り返されている。6の頸部は外面に稜を持つが、4・5には認められない。5の外面はハケメ後に弱いヘラケズリが施されている。6の焼成は良好で、硬く締まる。器形や調整などから4は東北地方北部の影響を受けている可能性がある。7は須恵器高坏もしくは高台付坏と考えられる。口縁部は直線的に外傾し、外面に細く浅い沈線が2条めぐる。色調は灰色を呈し、胎土はやや粗く、2mm以下の砂礫を含む。

【時期】 床面から出土した坏や甕(第316図1・2・4・6)の特徴から、4期(7世紀中頃～後半)と考えられる。

SI511 竪穴住居跡(第317～319図)

【位置・確認】 調査区中央部の48・49・57・58・66・80区に位置する。西壁周辺はSI477の重複に、東壁および南壁の上部もSI479の重複や攪乱により一部が失われている。

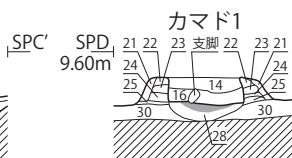
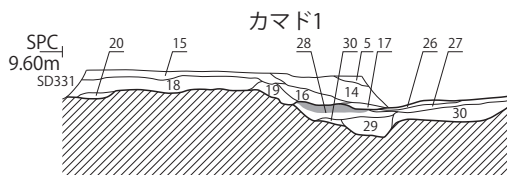
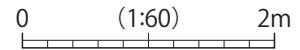
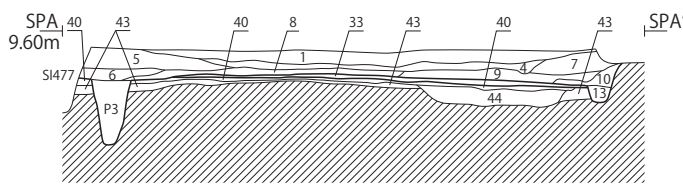
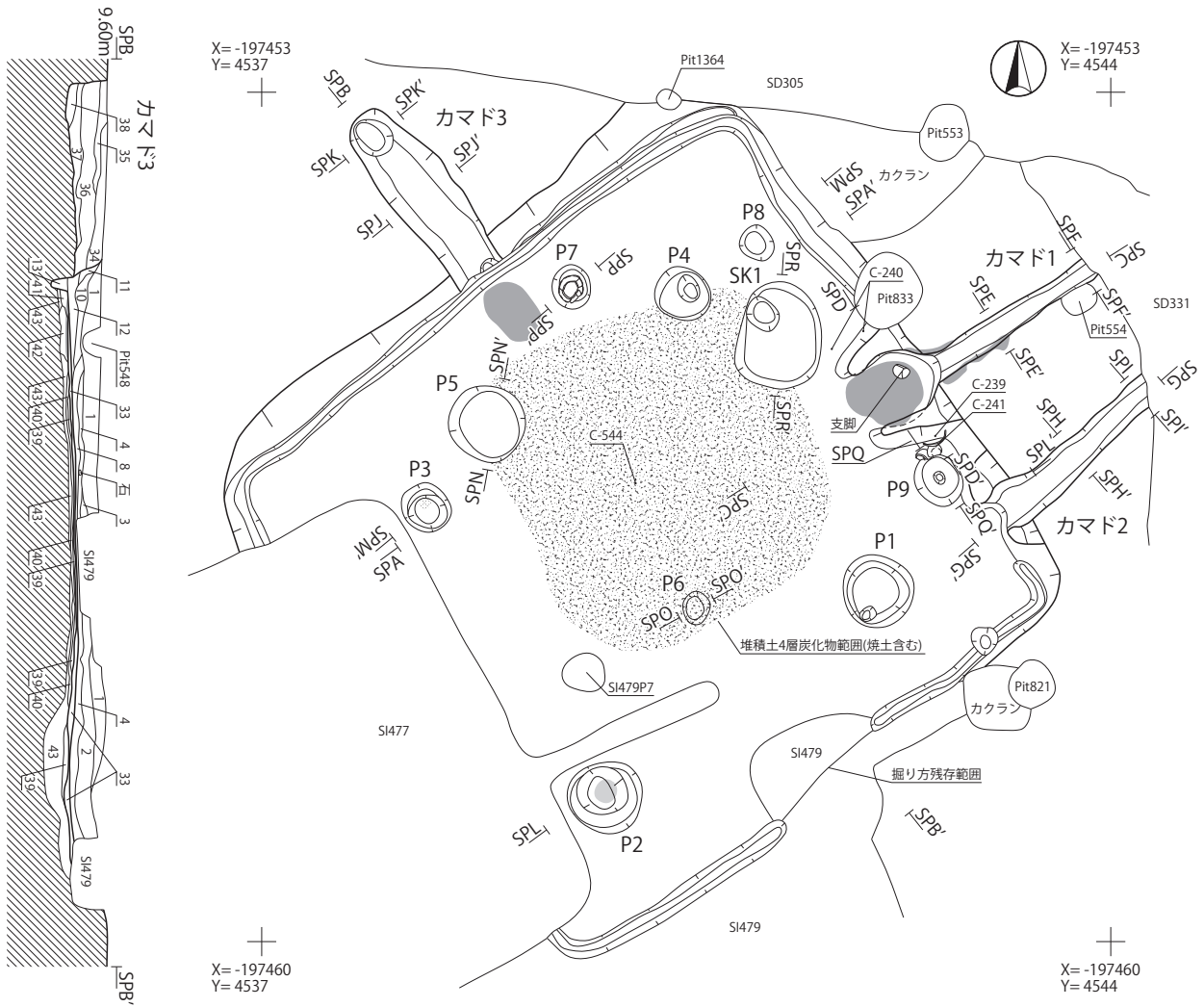
【重複】 SI477・479、SD331より古く、SI512、Pit1363より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸550cm、短軸546cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマド1を基準としてN-57°-Eを測る。

【堆積土】 44層に分層した。1～12層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。13層は周溝堆積土、14～20層はカマド1堆積土である。21～25層はカマド1袖構築土、26～30層はカマド1掘り方埋土である。31・32はカマド2堆積土、33層は新しい貼床で、旧貼床(40層)全体におよぶ貼り直し(補修)が行われたと考えられる。34～38層はカマド3堆積土、39～44層は住居掘り方埋土である。このうち40層上面で硬化がみられた。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で27cmを測る。



SI511 施設観察表

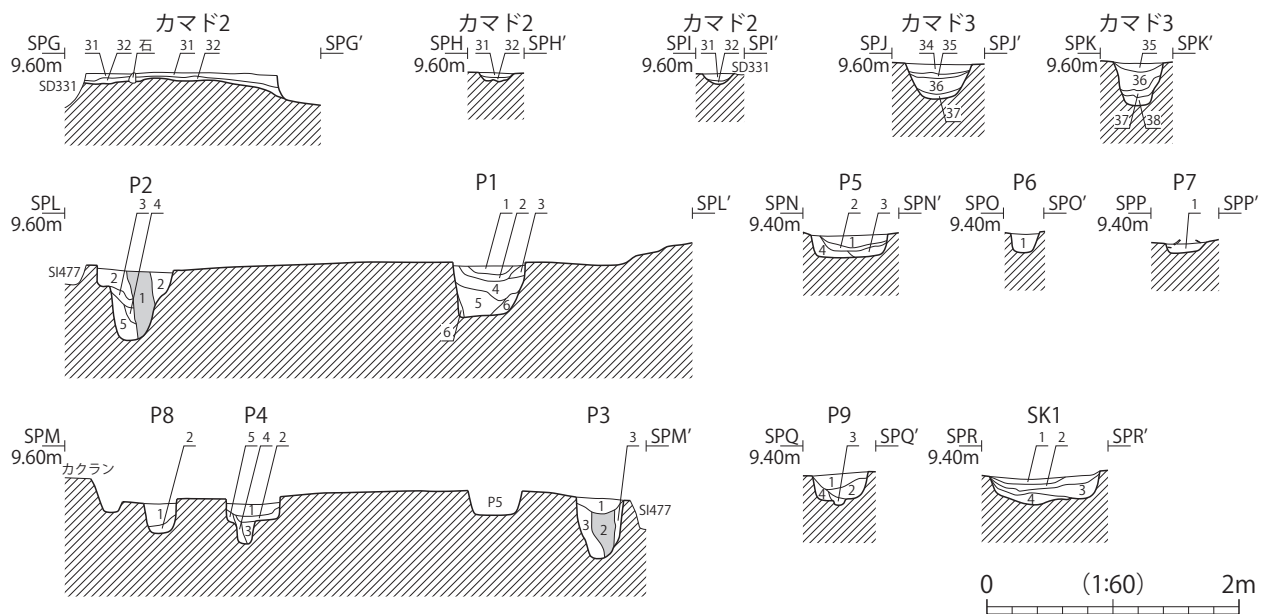
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	61×59	58	主柱穴
P2	円形	61×61	60	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	41×38	50	主柱穴 柱痕跡
P4	円形	47×43	37	主柱穴
P5	円形	64×62	19	貯蔵穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	楕円形	28×23	15	補助柱穴
P7	円形	37×32	11	カマド3 袖芯材埋設穴
P8	円形	30×27	27	補助柱穴
P9	円形	45×38	27	補助柱穴
SK1	楕円形	87×68	35	貯蔵穴

第317図 SI511 竪穴住居跡 (1)

SI511 堆積土註記表

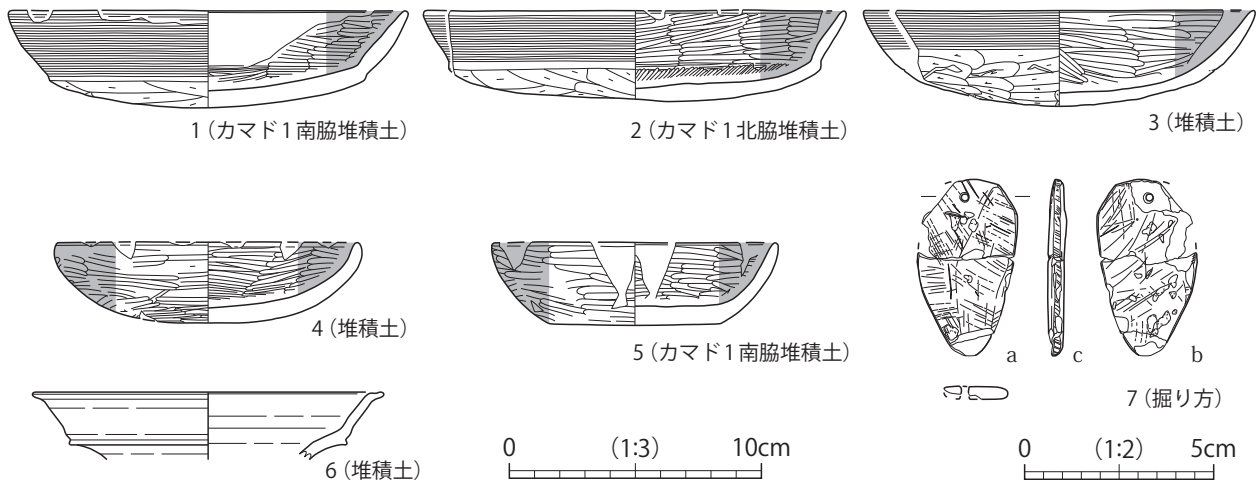
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、焼土ブロック(5～50mm程度)・IV層土粒少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(10～20mm程度)少量含む。下に広い範囲で炭化物が薄く堆積。
	5	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5～50mm程度)微量含む。
	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	13	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド1 堆積土	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5～30mm程度)・炭化物粒微量含む。
	15	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)・IV層土粒・炭化物粒少量含む。 ※天井崩落土
	16	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)少量、IV層土粒・炭化物粒・炭微量含む。
	17	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒・焼土粒微量含む。
	18	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5～30mm程度)・IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	19	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	20	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	21	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド1 袖構築土	22	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	23	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	24	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	25	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
カマド1 掘り方埋土	26	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	27	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	28	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	29	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	30	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
カマド2 堆積土	31	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	32	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
貼床	33	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
カマド3 堆積土	34	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※内面被熱
	35	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	36	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	37	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	38	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、IV層土粒微量含む。
住居掘り方 埋土	39	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※旧貼床上の堆積土
	40	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※旧貼床
	41	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	42	5YR5/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)・IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	43	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	44	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。



第318図 SI511 竪穴住居跡(2)

SI511 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR7/6 明黄褐色	シルト	炭化物粒少量、焼土ブロック(5~30mm程度)・IV層土粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、焼土粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、IV層土粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P7	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
P8	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P9	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)・IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-239	SI511 カド1南脇	堆積土	土師器	環	15.6	—	3.9	口縁:ヨナ 体~底部:ハラズリ	ハラミガキ	内面黒色処理 内外面摩滅 角閃石中量含む	351
2	C-240	SI511 カド1北脇	堆積土	土師器	環	(16.6)	—	3.6	口縁:ハラミガキ 体~底部:ハラズリ	ハラミガキ 体~底部:ハラミガキ(放射状)	内面黒色処理	351
3	C-544	SI511	堆積土	土師器	環	(15.5)	—	3.8	口縁:ヨナ 体~底部:ハラズリ	ハラミガキ	内面黒色処理 角閃石微量含む	351
4	C-243	SI511	堆積土	土師器	環	(11.8)	—	3.2	ハラズリ→ハラミガキ	ハラミガキ	内外面黒色処理	351
5	C-241	SI511 カド1南脇	堆積土	土師器	環	(11.2)	(6.9)	3.3	ハラミガキ	ハラミガキ	内外面黒色処理	351
6	E-046	SI511	堆積土	須恵器	甕	(13.8)	—	(2.7)	叩調整	叩調整	骨針少量含む	351

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
7	Kd-034	SI511	掘り方	石製品	剣形模造品	(4.7)	(2.7)	0.5	7.7	緑色片岩	溝状痕(a・b面) 線条痕(a~c面) 敲打痕(a・b面) 両側穿孔 孔径0.2~0.3cm 端部欠損	351

第319図 SI511 竪穴住居跡出土遺物

【床面】 補修前・後ともに中央部がわずかに高まる。補修後は黒褐色粘土質シルトの貼床上面を、補修前は黒褐色粘土質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。中央部付近から北東部にかけて炭化物範囲がみられる。

【柱穴】 床面で7基(P1～4・6・8・9)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は長軸41～61cm、短軸38～61cm、深さ37～60cmを測る。P2の堆積土とP3の堆積土下半で、径18cm程度の柱痕跡、P1・4で柱の抜き取り痕を確認した。P6・8・9は補助柱穴と考えられ、P6はP1とP2の間からやや北寄り、P8がP3とP4延長上の東壁付近、P9がカマド1とカマド2の中間に配置されている。P9で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド1・2部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅11～29cm、深さ3～13cmを測る。

【カマド】 東壁からカマド1・2が、北壁からカマド3が検出された。新旧関係は、カマド1→カマド2→カマド3の順で古くなる。カマド1は壁の中央部からやや南寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して馬蹄状に延び、南袖の規模は長さ75cm、幅26cm、北袖は長さ64cm、幅29cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き79cm、幅57cmを測る。底面は奥壁に向かって階段状に立ち上がり、底面全体におよぶ長径62cm程度の焼面がみられる。焼面の奥壁側北寄りには棒状の自然礫による支脚が設置されている。奥壁は外傾しながら階段状に12cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道の先端部はSD331の重複により失われているが、残存値で長さ147cm、幅13～23cm、深さ13～51cmを測り、底面は起伏しながら先端部に向かって緩やかに下がる。カマド2はカマド1の南側に位置し、壁面に直交して付設されているが、燃烧部は奥壁付近のみ残存する。燃烧部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き20cm、幅34cmを測る。底面は煙道部に向かって緩やかに立ち上がり、そのまま煙道部へつながる。煙道の先端部はカマド1と同様にSD331の重複により失われている。規模は残存値で長さ155cm、幅22～37cm、深さ7～10cmを測り、底面は中央部まで緩やかに立ち上がり、その後先端部に向かって緩やかに下がる。カマド3は北壁の中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、袖や奥壁が失われ燃烧部底面のみ残存する。燃烧部は壁内に位置し、焼面の範囲から規模は奥行き69cm前後、幅37cm以上と推定される。底面は奥壁に向かって緩やかに立ち上がり、壁面から13cm程度内側に長径55cm程度の焼面がみられる。煙道部は燃烧部底面から5cm程度の比高差が認められ、規模は長さ162cm、幅37～53cm、深さ22～33cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がり、先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑と、2基(P5・7)のピットを検出した。SK1はカマド1の北脇に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸87cm、短軸68cm、深さ35cmを測る。P5はカマド3の南西側至近に位置し、形状からも貯蔵穴と考えられる。P7はカマド3焼面の東側至近に位置し、堆積土上部から土師器甕口縁部が逆位の状態で出土していることから、カマド3東袖の芯材埋設穴であった可能性がある。

【掘り方】 深さ10～16cmを測り、中央部を除く壁際が一段低く掘り込まれている。南壁際にはテラス状の段差を有する。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器坏5点、須恵器甕1点、石製品1点を掲載した(第319図)。1・5はカマド1南脇の堆積土から出土した。これらの残存状態は良好なため、壁上の施設から転落した可能性が考えられる。7は掘り方から出土し、SD307堆積土の出土品と接合した。また、南東部の堆積土から出土した種実1点は、写真のみを掲載した(写真図版351-10)。1～5は土師器坏である。1～3の口縁部と体部の境は、1・2が外面に段、内面に稜を持ち、3は認められない。いずれも浅身で、扁平な丸底を呈する。1の口縁部は直線的に外傾、2は端部がわずかに内湾し、3は内湾気味に外傾する。いずれも内面に黒色処理が施されている。4と5は段を持たない小型の坏で、4は丸底、5は平底を呈し、体部はともに内湾しながら口縁部に至る。内外面にヘラミガキ後黒色処理が施されている。6は須恵器甕の口縁部で

ある。口縁部は直線的に外傾し、端部は水平に開く。口縁部と頸部の境には突帯がめぐる。色調は暗灰色で、胎土はやや粗く、砂粒と少量の海綿骨針を含む。7は剣形の石製模造品で、a・b面に溝状痕、a～c面に線条痕、a・b面には敲打痕がみられる。石材は緑色片岩である。

【時期】 カマド脇から出土した土師器坏(第319図1・2・5)の特徴およびSI512との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性がある。なお、南西部の堆積土3層から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦680～770年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。

SI512 竪穴住居跡(第320図)

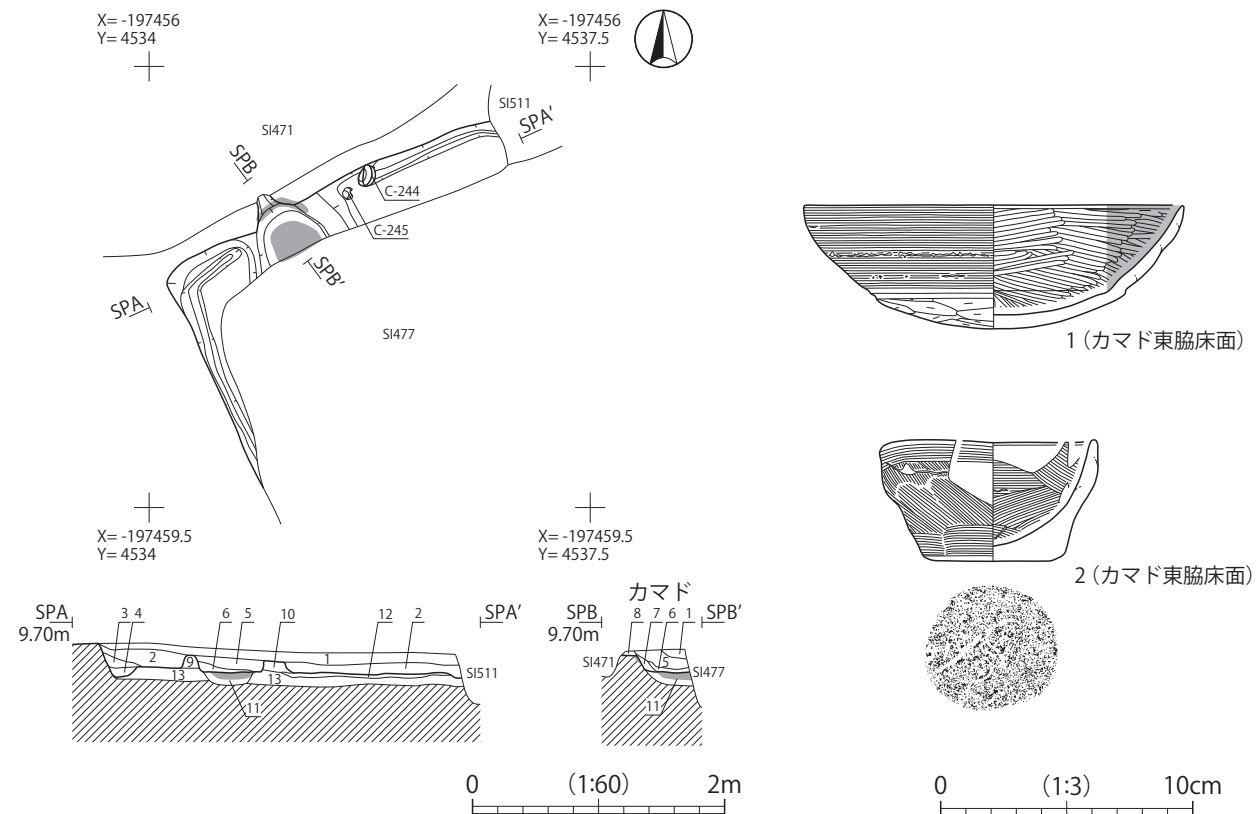
【位置・確認】 調査区中央部の70区に位置する。大部分がSI477・511の重複により失われ、カマド燃焼部を含む北・北西壁際の一部が残存する。カマド煙道部の大部分は、SI471の重複により失われている。残存範囲およびSI477・511の重複範囲内では、柱穴などの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI471・477・511より古く、Pit1399より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸287cm、短軸190cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-35°-Wを測る。

【堆積土】 13層に分層した。1～3層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は周溝堆積土、5～8層はカマド堆積土である。9・10層はカマド袖構築土、11層はカマド掘り方埋土、12・13層は住居掘り方埋土である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-244	SI512 カマド東脇	床面	土師器	坏	14.9	—	4.9	口縁：ヨナ ^テ 体～底部：ハナ ^リ	ハミガキ	内面黒色処理	351
2	C-245	SI512 カマド東脇	床面	土師器	ミナ ^リ 鉢	8.3	4.6	4.8	口縁：ヨナ ^テ 体～底部：北 ^テ	ハナ ^テ	底部木炭痕 角閃石少量含む	351

第320図 SI512 竪穴住居跡・同出土遺物

SI512 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
カマド堆積土	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※灰層
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	8	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量含む。
カマド袖構築土	9	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	11	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	12	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	13	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で19cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、黒褐色粘土質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形を呈し、規模は幅8～18cm、深さ4～6cmを測る。

【カマド】 北壁中央部から西寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、燃烧部の前半と煙道部の大部分が失われている。東袖の規模は残存値で長さ36cm、幅26cm、西袖は長さ34cm、幅15cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き41cm、幅55cmを測る。底面はわずかに起伏し、底面全体におよぶ長径39cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら直線的に12cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は燃烧部との接続部分のみが残存し、残存値で長さ12cm、幅14cm、深さ2cmを測る。

【掘り方】 深さ9～11cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土、カマドから土師器が出土し、カマド東脇の床面から出土した土師器環1点・ミニチュア土器1点を掲載した(第320図)。

1は土師器環で、浅い丸底を呈し、口縁部は長く内湾気味に外傾し、端部で短く直立する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜を持つ。内面に黒色処理が施されている。以上の特徴から東北地方北部の影響を受けたものと考えられる。2は土師器ミニチュアの鉢である。平底から厚みを持って内湾して立ち上がり、口縁部は直立する。

【時期】 床面から出土した土師器環・ミニチュア鉢(第320図1・2)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI513 竪穴住居跡(第321・322図)

【位置・確認】 調査区中央部の88・89・97区に位置する。SI472・476・517・518の重複により大部分が失われ、南部のみ残存する。残存範囲およびSI472・476・517・518の重複範囲内では、柱穴・カマドなどの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI472・476・517・518、SD345より古く、SX51より新しい。

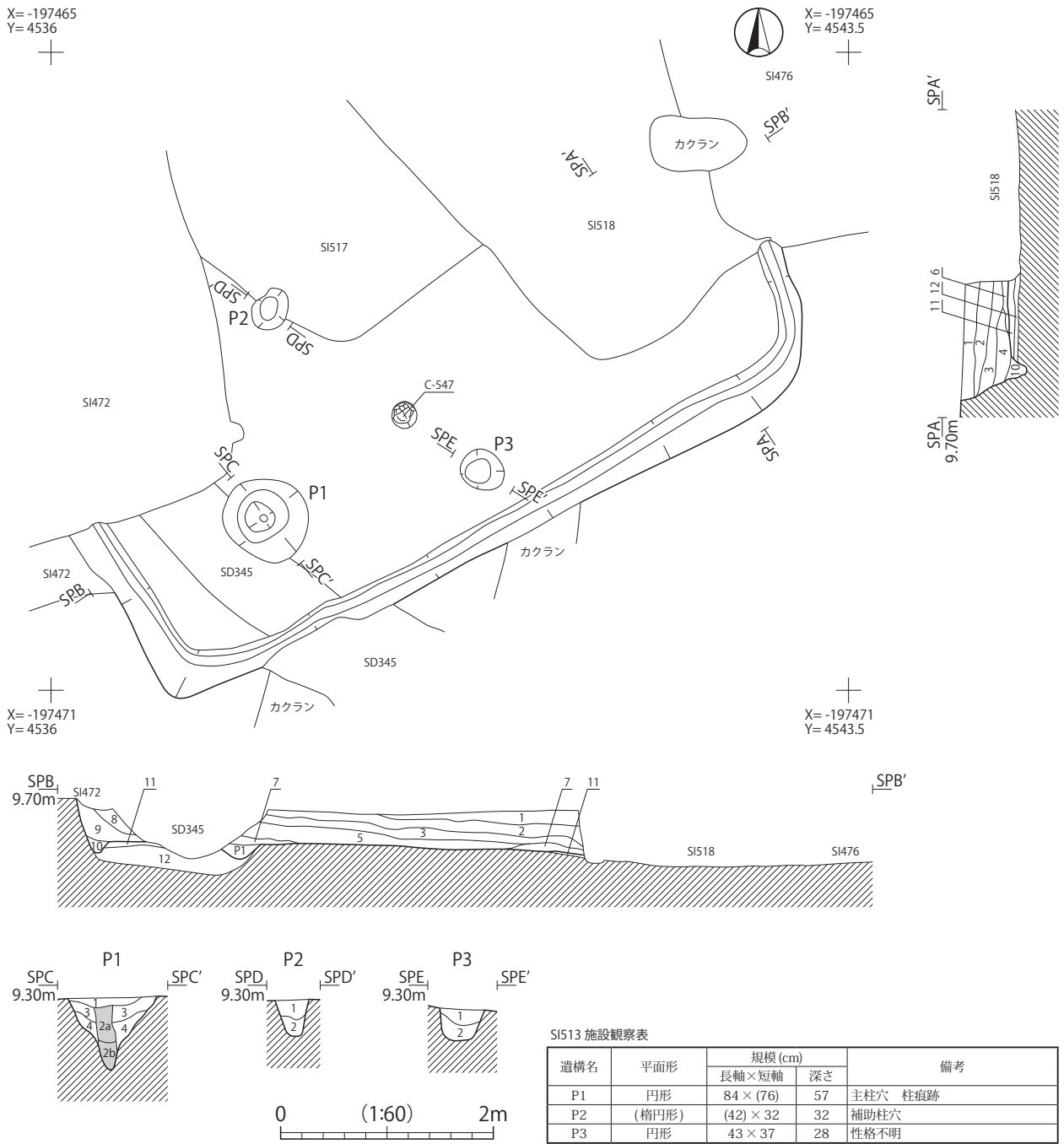
【規模・形態】 確認された規模は長軸699cm、短軸374cmを測り、平面形は方形ないし長方形を呈する。

【方向】 西壁を基準としてN-27°-Wを測る。

【堆積土】 12層に分層した。1～9層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。10層は周溝堆積土、11・12層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で23cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、灰黄褐色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。



SI513 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	6	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	9	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
周溝堆積土	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
住居掘り方埋土	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 多量含む。
	12	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 30mm 程度) 多量含む。

第321図 SI513 竪穴住居跡

S1513 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。

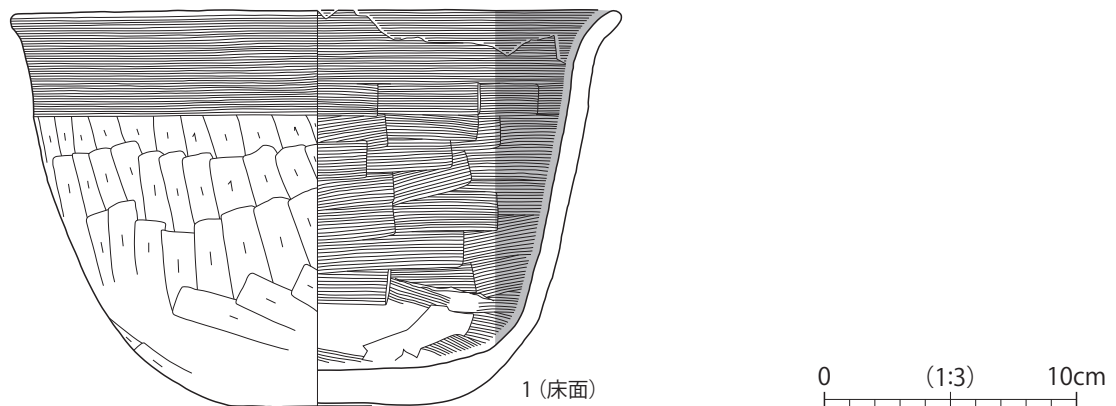
【柱穴】 床面で2基(P1・2)、掘り方で1基(P3)を検出した。P1は規模や位置から主柱穴の可能性があり、規模は残存値で長軸84cm、短軸76cm、深さ57cmを測る。堆積土下半で径18cm程度の柱痕跡を確認した。補助柱穴と考えられるP2は、P1の北側に離れて配置されている。P3の性格は不明である。

【周溝】 残存範囲では、南壁と南東・南西隅の壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅21～45cm、深さ4～12cmを測る。

【掘り方】 深さ4～41cmを測り、南壁を除く壁際が、不規則に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器などが出土し、南部中央の床面から出土した土師器鉢1点を掲載した(第322図)。厚手の丸底風平底を呈する。体部は直線的に直立し、口縁部で短く外反する。外面に弱いヘラケズリが施されている。内面に黒色処理が施されている。

【時期】 床面から出土した土師器鉢(第322図1)の特徴およびSD345との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-547	S1513	床面	土師器	鉢	(23.7)	7.1	15.7	口縁：ヨナテ 体～底部：ヘラケズリ	口縁：ヨナテ 体部：ヘラテ	内面黒色処理	351

第322図 S1513 竪穴住居跡出土遺物

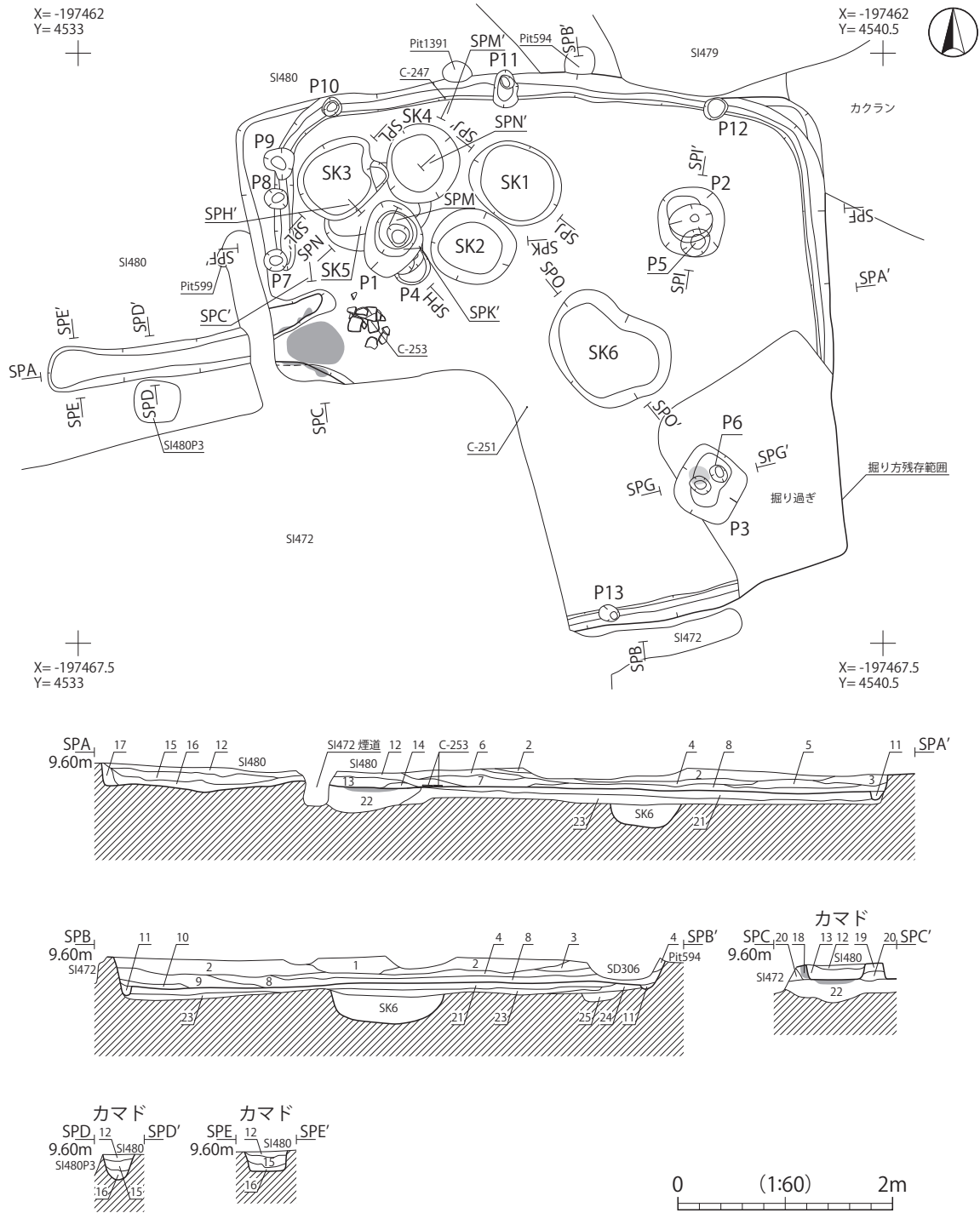
S1514 竪穴住居跡(第323～325図)

【位置・確認】 調査区中央部の79・80・88・89区に位置する。南西部はSI472の重複により失われ、北壁と西壁もSI479・480との重複により上部が失われている。

【重複】 SI472・479・480、SD306、Pit1610より古く、SI516・517・518より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸538cm、短軸525cmを測り、平面形は北側に広がる台形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-96°-Wを測る。



SI514 施設観察表

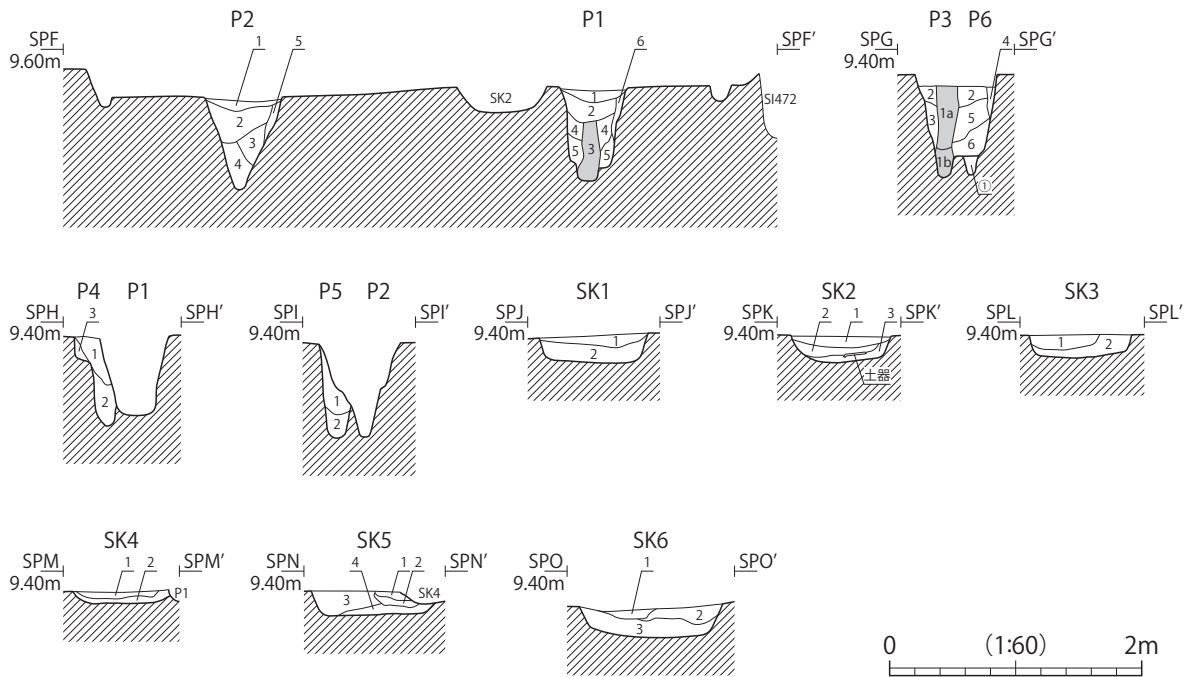
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	71 × 54	75	主柱穴 柱痕跡
P2	楕円形	65 × 62	75	主柱穴
P3	(隅丸方形)	(63) × (60)	83	主柱穴 柱痕跡
P4	(円形)	35 × (34)	82	旧主柱穴
P5	(楕円形)	(29) × (24)	(74)	旧主柱穴
P6	(楕円形)	(18) × (14)	(15)	旧主柱穴
P7	円形	22 × 21	12	壁柱穴
P8	円形	22 × 19	7	壁柱穴
P9	楕円形	30 × 24	23	壁柱穴
P10	円形	19 × 18	12	壁柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P11	楕円形	35 × 22	20	壁柱穴
P12	円形	23 × 20	17	壁柱穴
P13	楕円形	20 × 15	14	壁柱穴
SK1	円形	87 × 74	16	貯蔵穴
SK2	円形	76 × 69	20	貯蔵穴
SK3	円形	82 × 69	18	貯蔵穴
SK4	円形	76 × 67	11	旧貯蔵穴
SK5	(楕円形)	99 × (80)	13	旧貯蔵穴
SK6	楕円形	120 × 90	27	カマド関連土坑

第323図 SI514 竪穴住居跡(1)

SI514 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	12	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※下面一部被熱、天井崩落土
	13	10YR4/1 褐灰色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)斑状、炭化物粒少量含む。
	14	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰・焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※灰層
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	16	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド袖構築土	17	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	18	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土粒少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	19	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	20	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	21	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	22	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	23	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	24	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	25	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。



第324図 SI514 竪穴住居跡(2)

【堆積土】 25層に分層した。1～10層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。11層は周溝堆積土、12～17層はカマド堆積土、18～20層はカマド袖構築土、21～25層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で28cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、褐灰色粘土質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で13基(P1～13)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～3の規模は長軸63～71cm、短軸54～62cm、深さ75～83cmを測る。P1の堆積土下半とP3の堆積土で径10～17cm程度の柱痕跡、

P2で柱の抜き取り痕を確認した。P4～6はP1～3とほぼ同位置で重複し、規模も同様であることから建て替え前の古い主柱穴と考えられる。P7～13は壁柱穴で、P7～9が西壁、P10～12が北壁、P13が南壁にそれぞれ配置されている。

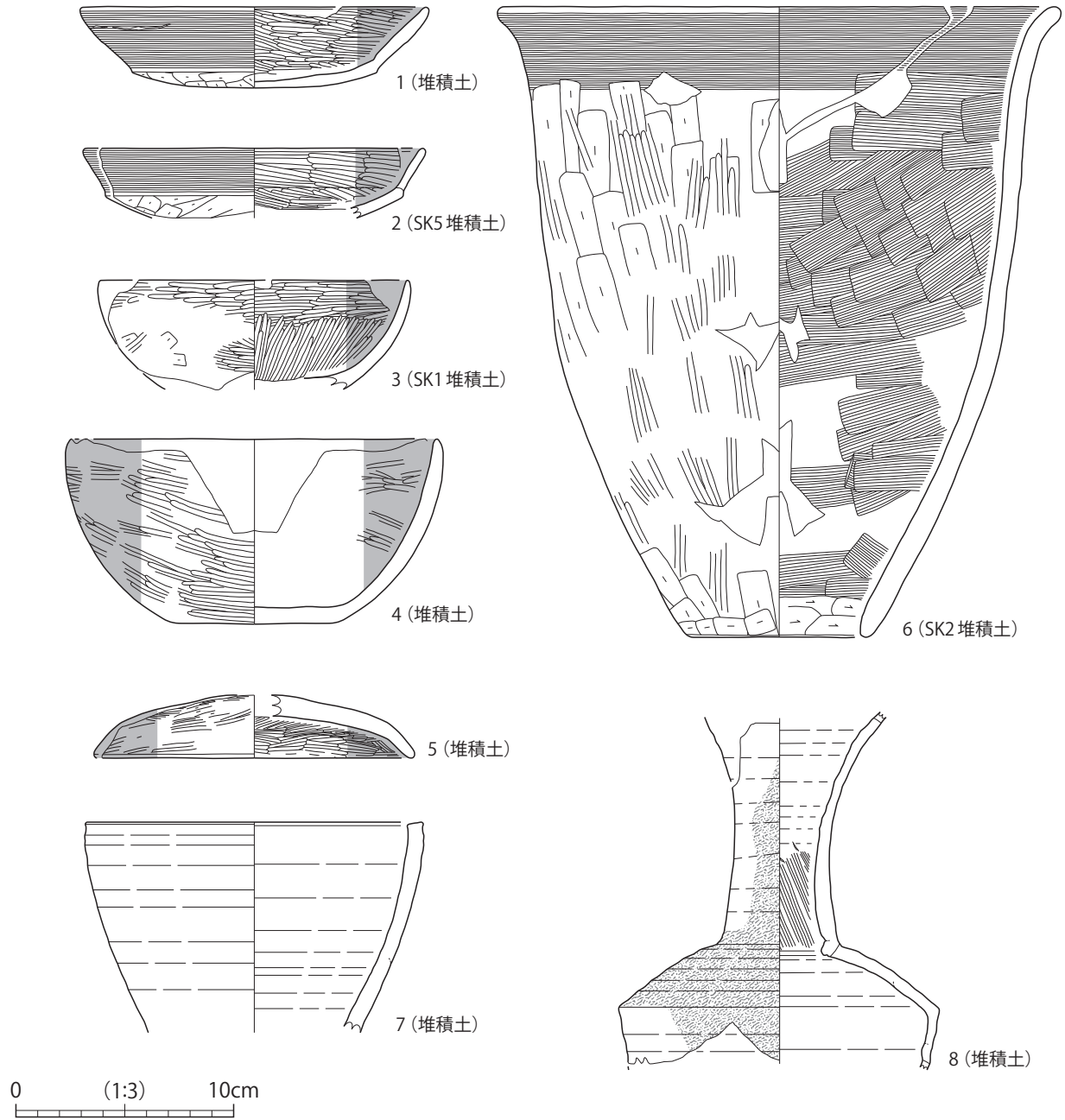
【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形はU字形ないし皿形を呈し、規模は幅14～26cm、深さ3～11cmを測る。

【カマド】 西壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部奥壁と南袖はSI472の重複により失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、南袖の規模は残存値で長さ71cm、幅14cm、北袖は長さ62cm、幅26cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き65cm、幅51cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部から焚口付近にかけて長径53cm程度の焼面がみられる。奥壁は失われているが、燃焼部と煙道部の底面に比高差がみられないため、奥壁を伴わない形態であったと考えられる。煙道部はSI480の重複により上部が失われているが、規模は残存値で長さ191cm、幅30～42cm、深さ12～21cmを測り、底面は中央部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面から3基(SK1～3)、掘り方から3基(SK4～6)の土坑が検出された。SK1～5は北西部に位置し、SK3～5は北西隅で重複する。新旧関係はSK3→SK4→SK5の順で古くなり、SK5はP1にも壊されている。いずれも位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK6は中央部の東寄りに位置し、堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK3の平面形は円形を呈し、規模は長軸82cm、短軸69cm、深さ18cmを測る。SK4の平面形は円形を呈し、規模は長軸76cm、短軸67cm、深さ11cmを測る。SK5の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸99cm、短軸80cm、深さ13cmを測る。SK6の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸120cm、短軸90cm、深さ27cmを測る。

SI514 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P3	1a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P5	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P6	①	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	②	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～20mm程度)・焼土ブロック(5～20mm程度)・IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
SK3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK4	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、IV層土粒・焼土粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
SK6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒多量、IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-247	SI514	堆積土	土師器	環	(15.8)	—	3.7	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内面黒色処理 外面口縁部二次被熱による赤色化 外面口縁～体部線刻か	352
2	C-550	SI514 SK5	堆積土	土師器	環	(15.6)	—	(3.2)	口縁：ヨナデ 体部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内面黒色処理 角閃石微量含む	352
3	C-250	SI514 SK1	堆積土	土師器	環	(14.0)	—	(5.0)	口縁：ヨナデ →ヘラミガキ 体～底部：ヘラス'リ →ヘラミガキ	ヘラミガキ	内面黒色処理 角閃石微量含む 外面やや摩滅	352
4	C-251	SI514	堆積土	土師器	環	(16.8)	7.8	8.5	口縁～体部：ヘラミガキ 底部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内外面黒色処理 内外面摩滅	352
5	C-249	SI514	堆積土	土師器	蓋 or 環	(14.6)	—	(2.9)	ヘラス'リ →ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外面黒色処理 外面摩滅	352
6	C-253	SI514 SK2	堆積土	土師器	甔	(25.4)	孔径 (7.8)	29.0	口縁：ヨナデ 胴～底部：ヘラス'リ →ヘラミガキ	口縁：ヨナデ 胴部：ヘラミガキ 胴下端：ヘラス'リ	単孔	352
7	E-048	SI514	堆積土	須恵器	鉢	(15.4)	—	(9.7)	叩調整	叩調整	口唇部灰かぶり 外面火傷痕骨針少量含む	352
8	E-047	SI514	堆積土	須恵器	長頸瓶	—	—	(15.9)	叩調整	口縁～頸中位：叩調整 頸下位：絞り痕 →北'ナ 体部：叩調整	2段構成 内外面口縁部自然釉付着 口縁部打ち欠きか 湖西窯跡産か	352

第325図 SI514 竪穴住居跡出土遺物

【掘り方】 深さ8～20cmを測る。北西隅周辺が土坑状、北壁際が幅広の溝状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器坏4点・蓋もしくは坏1点・甑1点、須恵器鉢1点・長頸瓶1点を掲載した(第325図)。2はSK5、3はSK1、6はSK2から出土した。また、北西部の堆積土から出土した種子1点は写真のみを掲載した(写真図版352-9)。

1・2は土師器坏で、2は薄手で精巧なつくりである。ともに浅手で扁平な丸底を呈し、1は内面の口縁部と体部の境が明瞭に屈曲する。1の口縁部は内湾気味に外傾、2は直線的に外傾する。ともに内面に黒色処理が施されている。3は深身の土師器坏で、体部が内湾しながら口縁部に至る。内面に黒色処理が施されている。4は碗形の土師器坏である。平底から内湾しながら口縁部に至る。内外面に黒色処理が施されている。5は土師器蓋としたが、器形から坏の可能性もある。扁平な天井部で、口縁部は直線的に外傾する。内面に黒色処理が施されている。6は土師器甑で、器高が30cm近くある大型品である。胴部中位から下端に向かってすぼまり、胴部上半は直線的に直立し、口縁部で緩く外反する。頸部に段は認められない。

7は須恵器鉢である。緩やかに内湾しながら口縁部に至り、端部は面取りされている。色調は灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒と黒色粒子、海綿骨針をいずれも少量含む。8は須恵器長頸瓶で、薄手で精巧なつくりである。肩部は屈曲し、体部上位は内湾気味に内傾する。頸部は外反気味に直立する。体部と頸部の接合は2段構成で、頸部に接合痕が見られるため頸部は別づくりで接合されたと考えられる。また口縁部は、剥離面が整うことから打ち欠かれた可能性が高い。内外面の口縁部から体部にかけて黄緑色の自然釉が付着している。色調は灰白色を呈し、胎土はきめ細かい砂のように精良で、少量の砂粒と多量の微細な黒色粒子を含む。湖西窯跡産と考えられる。

【時期】 SK1・2・5から出土した土師器坏・甑(第325図2・3・6)の特徴から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性はある。

SI515 竪穴住居跡(第326～329図)

【位置・確認】 調査区中央部北の54・55・62・63区に位置する。南半部の大部分がSI405・509、東壁中央部がSI510、SD290の重複により失われ、カマド1・2煙道部や北壁、北東隅が複数のピットの重複により部分的に失われている。

【重複】 SI405・509・510、SK336、Pit1189・1359・1393・1528・1605より古く、Pit1606、SX49より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸691cm、短軸686cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマド1を基準としてN-35°-Wを測る。

【堆積土】 39層に分層した。1～15層は住居堆積土で、黒褐色・暗褐色・灰黄褐色・にぶい黄褐色シルトが互層状を成し、堆積状況からも人為的な埋土とみられる。16層は周溝堆積土、17～31層はカマド1堆積土である。32・33層はカマド1袖構築土、34層はカマド1掘り方埋土、35～39層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、4層に分層した。

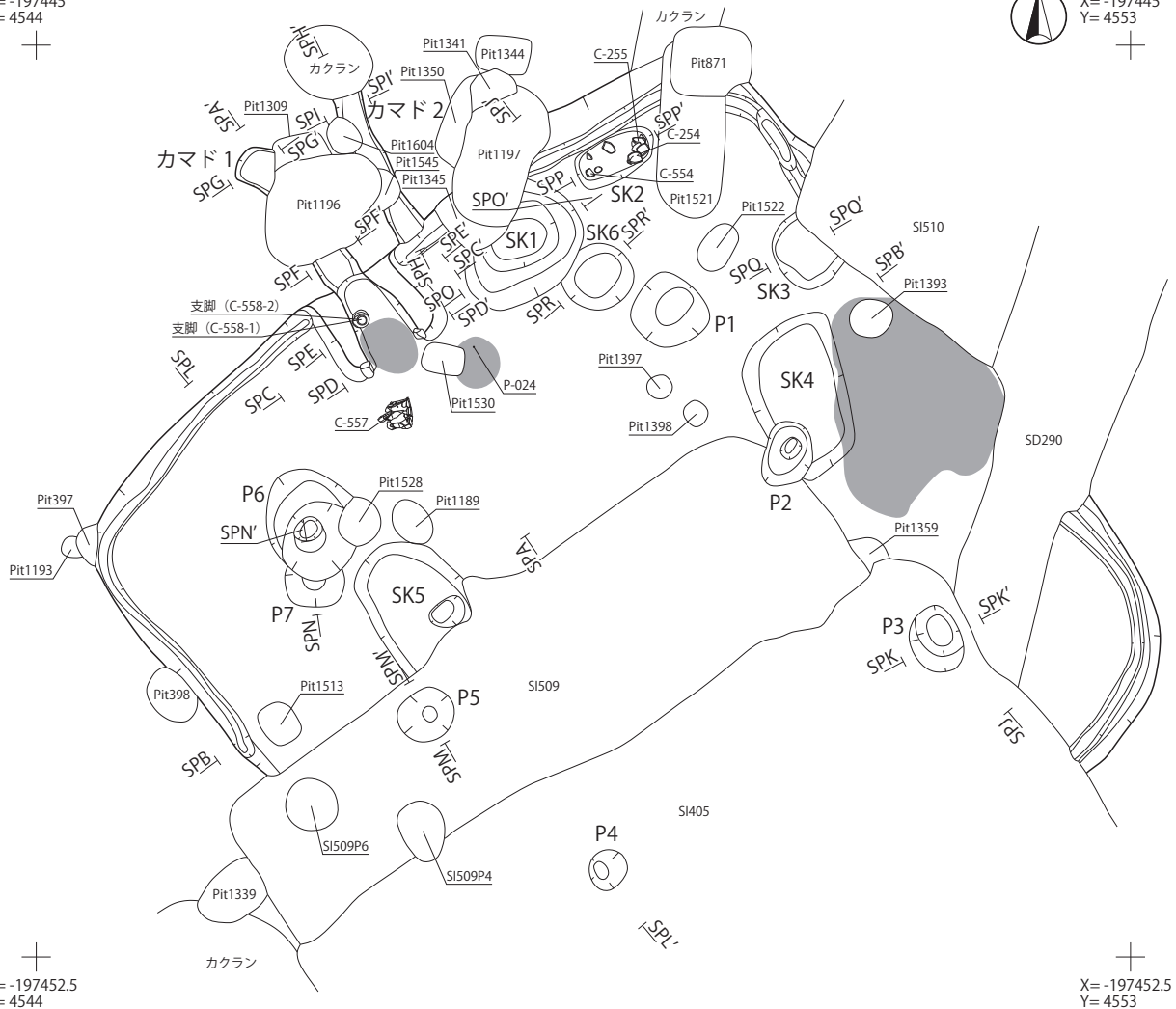
【壁面】 直立気味ないし外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で34cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面およびSI405・509の重複範囲内で6基(P1～6)、掘り方で1基(P7)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1・3・4・6の規模は残存値も含め長軸34～94cm、短軸31～77cm、深さ17～76cmを測る。P3・4は上部がSI405の重複により失われるが、P3で柱痕跡を確認した。P2・5は補助柱穴と考えられ、P2がP1とP3の間、P5がP4とP6の間に配置されている。P2・5の堆積土下半で、径9～13cm程度の柱痕跡を確認した。P7はP1と重複し、検出状況や規模から建て替え前の古い主柱穴と考えられる。堆積土下半で、径14cm

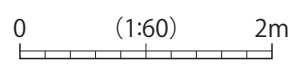
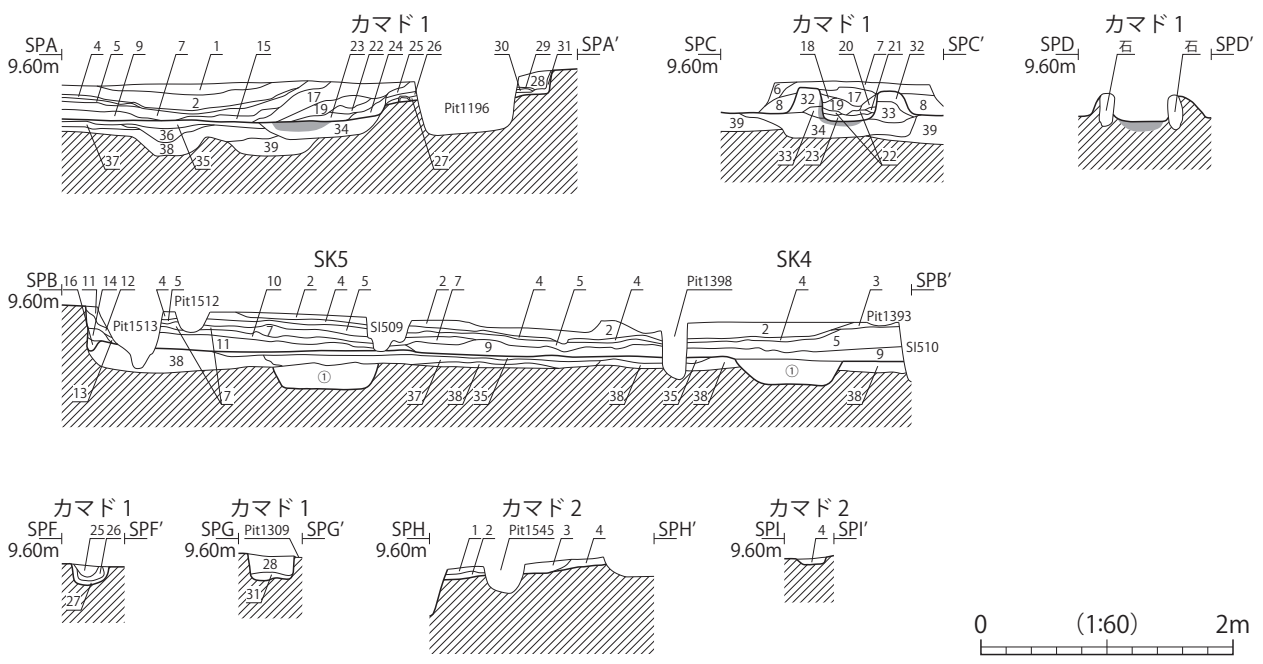
X=-197445
Y= 4544

X=-197445
Y= 4553



X=-197452.5
Y= 4544

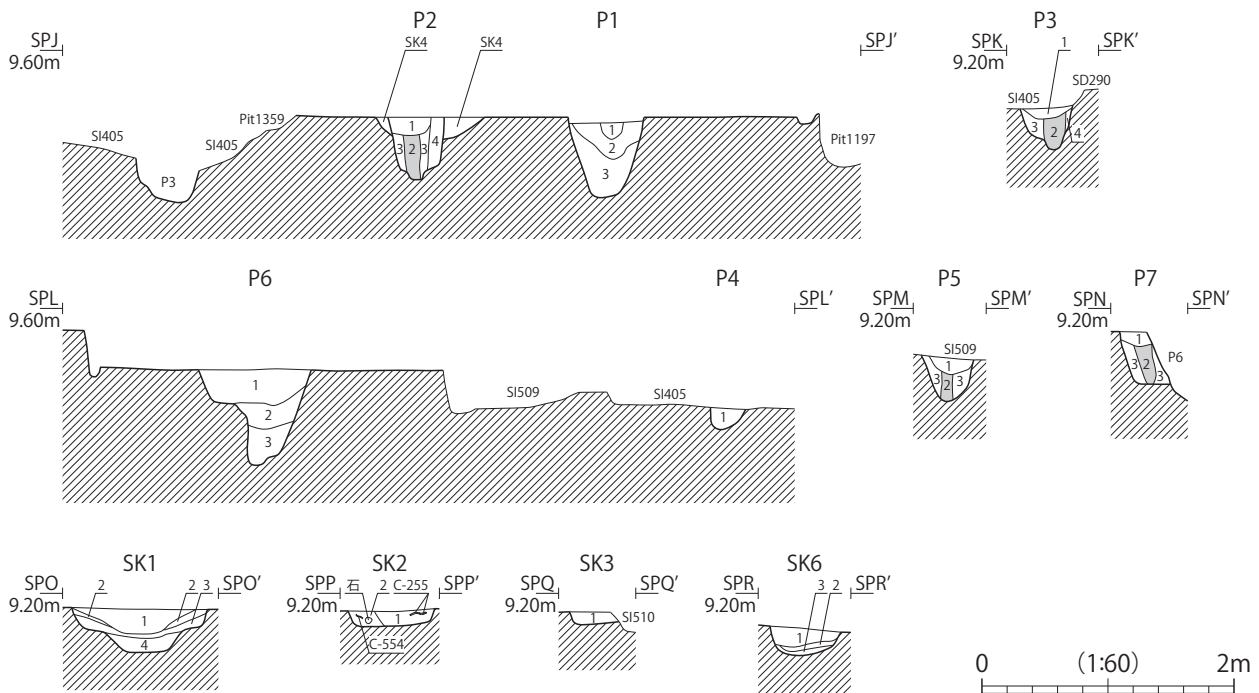
X=-197452.5
Y= 4553



第326図 SI515 竪穴住居跡 (1)

SI515 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。 ※東側に炭化物集中
	5	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量含む。
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(30~40mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(10~20mm程度)少量含む。
	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	12	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	13	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	15	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック(10~20mm程度)多量、IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	16	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド1 堆積土	17	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	18	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	20	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	21	2.5YR5/6 明赤褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)多量含む。
	22	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	23	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※灰層
	24	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物を主体とし、焼土粒少量含む。
	25	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	26	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土粒微量含む。
	27	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒多量、IV層土粒少量含む。
	28	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	29	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	30	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒多量含む。
	31	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	カマド1 袖 構築土	32	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト
33		10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
カマド1 掘り方埋土	34	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)・灰白色ブロック(10~20mm程度)・黒色シルトブロック(20~30mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	35	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	36	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・黒色シルト粒多量含む。
	37	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~40mm程度)・黒色シルトブロック(20~30mm程度)多量含む。
	38	10YR7/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量、黒色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。
	39	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)、炭化物粒微量含む。
カマド2 堆積土	1	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	焼土粒多量、IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、焼土粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒多量、焼土粒少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。



第327図 SI515 竪穴住居跡(2)

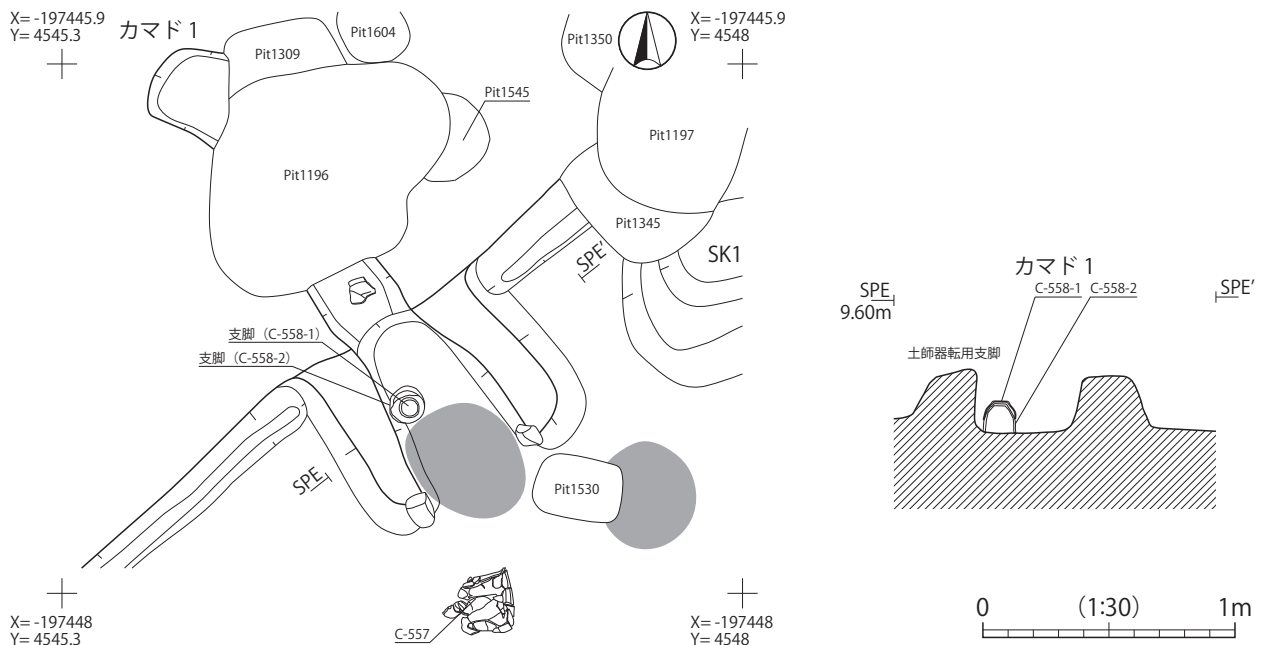
SI515 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・灰白色粘土ブロック(10~20mm程度)・黒色シルトブロック(10~20mm程度)多量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)・黒色シルトブロック(20~30mm程度)多量含む。
P2	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰白色粘土ブロック(10~20mm程度)多量、IV層土ブロック(5~20mm程度)少量含む。
P3	1	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10~15mm程度)多量、焼土粒微量含む。
	2	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P6	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)・灰白色粘土ブロック(10~20mm程度)・黒色シルトブロック(10~20mm程度)多量含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・灰白色粘土ブロック(10~20mm程度)・黒色シルトブロック(10~20mm程度)多量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・黒色シルトブロック(10~20mm程度)少量含む。
P7	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、黒色シルトブロック(10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・黒色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰白色粘土ブロック(10~20mm程度)多量、IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
SK3	1	2.5YR3/2 暗赤褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
SK4	①	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)・黒色シルトブロック(10~20mm程度)少量含む。
SK5	①	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黒色シルトブロック(10~20mm程度)多量、IV層土ブロック(10~30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK6	1	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)多量含む。
	2	10YR7/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量含む。
	3	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。

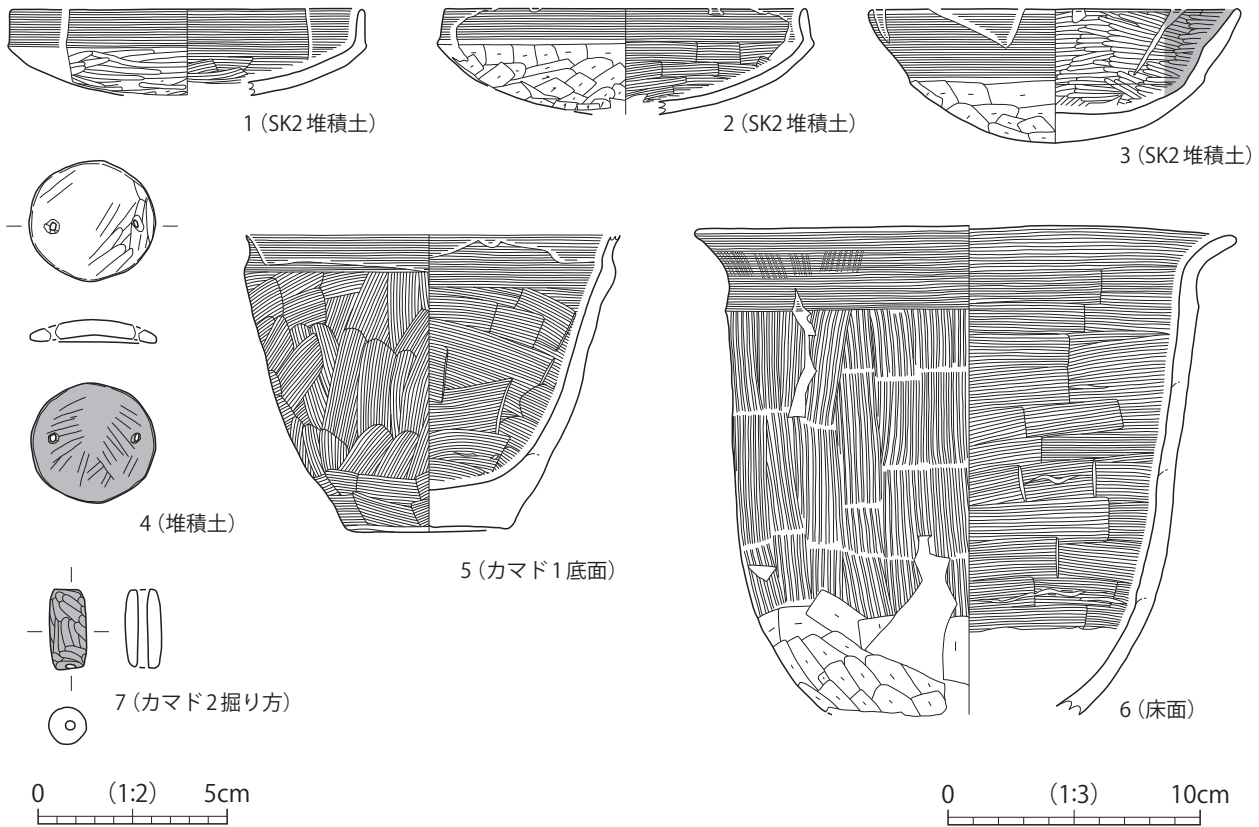
SI515 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	隅丸方形	59×57	61	主柱穴	
P2	(楕円形)	(55)×39	47	補助柱穴 柱痕跡	
P3	(楕円形)	(55)×(43)	(34)	主柱穴 柱痕跡	
P4	(円形)	(34)×(31)	(17)	主柱穴	
P5	(円形)	(47)×(42)	(37)	補助柱穴 柱痕跡	
P6	楕円形	94×(77)	76	主柱穴	
P7	円形	49×(42)	41	旧主柱穴か 柱痕跡	

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
SK1	楕円形	110×(74)	33	貯蔵穴	
SK2	楕円形	70×35	13	貯蔵穴	
SK3	(隅丸方形)	62×(39)	10	性格不明土坑	
SK4	隅丸長方形	120×86	24	性格不明土坑	
SK5	(楕円形)	(104)×84	59	性格不明土坑	
SK6	円形	57×54	22	性格不明土坑	



第328図 SI515 竪穴住居跡(3)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-554	SI515 SK2	堆積土	土師器	环	(13.9)	—	(3.4)	口縁：ヨナデ 体部：ヘラスリ→ヘラミガキ	口縁～体上半：ヨナデ 体下半：ヘラデ	関東系 外面漆仕上げ 角閃石微量含む	352
2	C-255	SI515 SK2	堆積土	土師器	环	(14.2)	—	(4.2)	口縁：ヨナデ 体部：ヘラスリ	口縁：ヨナデ 体部：ヘラデ	関東系 内外面漆仕上げか	352
3	C-254	SI515 SK2	堆積土	土師器	环	14.5	—	5.3	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラスリ	ヘラミガキ	内面黒色処理(淡い) 骨針少量含む	352
4	C-256	SI515	堆積土	土師器	蓋	5.0	—	1.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内面黒色処理 焼成前2箇所穿孔	352
5	C-558-2	SI515 カマド 1	底面	土師器	鉢	—	6.4	(11.8)	頸部：ヨナデ 体部：ヘラデ 底部：ヘラスリ	頸部：ヨナデ 体部：ヘラデ	角閃石少量含む 外面二次被熱による赤色化	352
6	C-557	SI515	床面	土師器	甕	21.0	—	(19.4)	口縁：ハマ→ヨナデ 胴上～中位：ハマ 胴下位：ヘラスリ	口縁：ヨナデ 体部：ヘラデ	角閃石微量含む	352
写真のみ	C-558-1	SI516 カマド 1	C-558-2の上	土師器	甕	—	(6.2)	(6.8)	胴部：ハマ 胴下端～底部：ヘラスリ	ヘラデ	角閃石少量含む 外面二次被熱による赤色化・摩滅	384
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
7	P-024	SI515 カマド 2	掘り方	土製品	管玉	2.1	1.0	1.0	2.2	シギキ黒色処理 孔径0.2cm	352	

第329図 SI515 竪穴住居跡出土遺物

程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド1部分を除き、北西・北東・南東部の壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅10～17cm、深さ1～11cmを測る。

【カマド】 北壁に並んだ状態で、カマド1・2を検出した。カマド1の方が新しい。カマド1は壁の中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ77cm、幅33cm、西袖は長さ77cm、幅28～32cmを測る。両袖の先端部には棒状の自然礫による芯材が埋設されている。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き79cm、幅31～48cmを測る。底面は奥壁に向かって緩やかに立ち上がり、焚口付近に長径49cm程度の焼面がみられる。また燃烧部中央西寄りには、口縁部と上半部を欠いた小型の土師器甕2個体を逆位に伏せて重ねた支脚が設置されている(第329図5・写真図版384-2)。奥壁は外反して8cm程度立ち上がり、煙道部へつな

がる。煙道部は中央部周辺をPit1196・1309の重複により失うが、残存値で長さ133cm、幅30～33cm、深さ14～31cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。カマド2はカマド1の東側に位置し、煙道部のみ残存する。煙道部は壁面から直交して延び、住居床面とは19cm程度の比高差が認められる。中央部周辺と先端部はPit1196・1545・1604の重複や攪乱により失われている。規模は残存値で長さ100cm、幅21～28cm、深さ6～10cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【その他の施設】 床面で4基(SK1～4)、掘り方で2基(SK5・6)の土坑を検出した。SK1はカマド1・2の東側、SK2はSK1と北東隅の間、SK3は東壁際の北寄り、SK4はP1とP3の間、SK5はP4とP6の間、SK6はP1北側の至近に位置する。SK4はP2、SK6はSK1と重複する。SK1・2は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸110cm、短軸74cm、深さ33cmを測る。SK2の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸70cm、短軸35cm、深さ13cmを測る。

【掘り方】 深さ6～20cmを測る。北・西壁側が一段低く掘り込まれ、北壁側では溝状にさらに一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器、土製品などが出土し、土師器坏3点・蓋1点・鉢1点・甕1点、土製品1点を掲載した(第329図)。また5の上に重なって出土し、支脚に転用された土師器甕を写真で掲載した(写真図版384-2)。1～3はSK2から出土した土師器坏である。1・2は鬼高系土師器の特徴を持つ。ともに薄手で精巧なつくりで、扁平な丸底を呈する。1の口縁部は短く直立、2は短く内傾する。ともに口縁部と体部の境に段を持ち、内面はナデ調整が施されている。1は外面に、2は内外面に黒色漆仕上げされている。1の色調は橙色、2は暗褐色～橙色を呈し、ともに胎土は粉のように細かく精良で、細砂と少量の赤色粒子を含む。3は厚手の丸底で、口縁部は内面の中位で膨らみを持って内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境は外面に段、内面に稜を持つ。内面に淡く黒色処理が施されている。色調はにぶい橙色を呈し、胎土は粉のように細かく精良で、砂粒と少量の3mm以下の赤色粒子、海綿骨針を含み、鬼高系土師器の1・2と類似する。4は土師器蓋で、SI440で出土した第185図8のような頸部に穿孔された小型壺とセットになるものと考えられる。潰れた笠形で、口縁部のやや内側を2箇所焼成前に穿孔している。内面に黒色処理が施されている。6は中型品の土師器甕である。口縁部に最大径が位置し、胴部中位から底部に向かってすぼまる。口縁部は緩く外反し、頸部には段を持つ。7は土製の管玉で、外面はミガキ後黒色処理が施されている。写真図版384-2(C-558-1)は土師器甕で、内面底部に横方向のヘラナデが施されている。

【時期】 床面やカマド1、SK2から出土した土師器坏・鉢・甕(第329図1～3・5・6)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI516 竪穴住居跡(第330・331図)

【位置・確認】 調査区中央部の79・88区に位置する。南・南東部がSI472・497・514の重複、北西部が攪乱により失われている。

【重複】 SI472・480・497・514、SD345より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸375cm、短軸251cmを測り、平面形は東西に長い長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-38°-Wを測る。

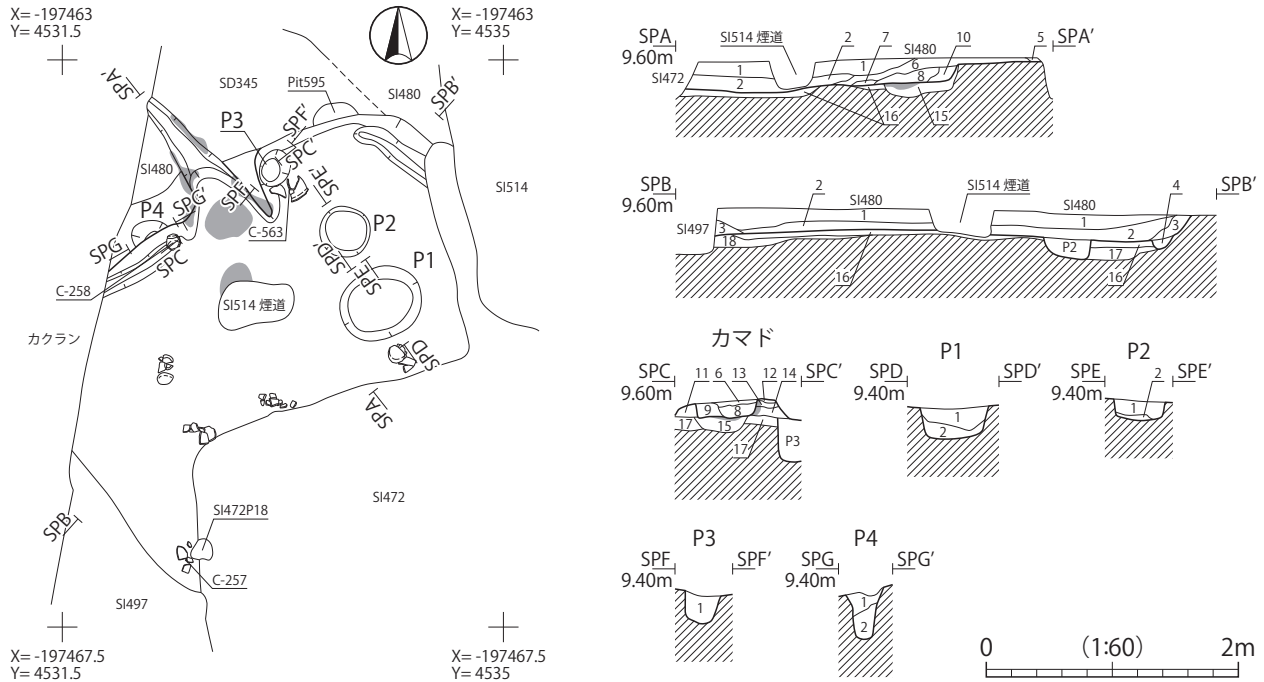
【堆積土】 18層に分層した。1～3層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。4層は周溝堆積土、5～10層はカマド堆積土である。11～14層はカマド袖構築土、15層はカマド掘り方埋土、16～18層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で20cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、暗褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で2基 (P1・2)、掘り方で2基 (P3・4) を検出した。P1・2は土坑状で浅いため、柱穴以外の性格も考えられる。P3・4はカマドの左右に配置されるため、壁上の施設もしくは補助柱穴と考えられる。

【周溝】 残存範囲では、カマド・北壁東半部を除く壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅14～20cm、深さ5～12cmを測る。



SI516 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒・焼土粒微量含む。
カマド堆積土	8	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰・焼土ブロック (5～10mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。 ※灰層
	9	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック (5～20mm程度) 少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド袖構築土	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	13	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	15	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	16	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	17	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～30mm程度) 少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	18	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。

SI516 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～30mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度)・炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。

SI516 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考	遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ				長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	67×56	28	性格不明 (土坑か)	P3	楕円形	30×24	21	補助柱穴か
P2	円形	41×40	16	性格不明 (土坑か)	P4	楕円形	32×26	39	補助柱穴か

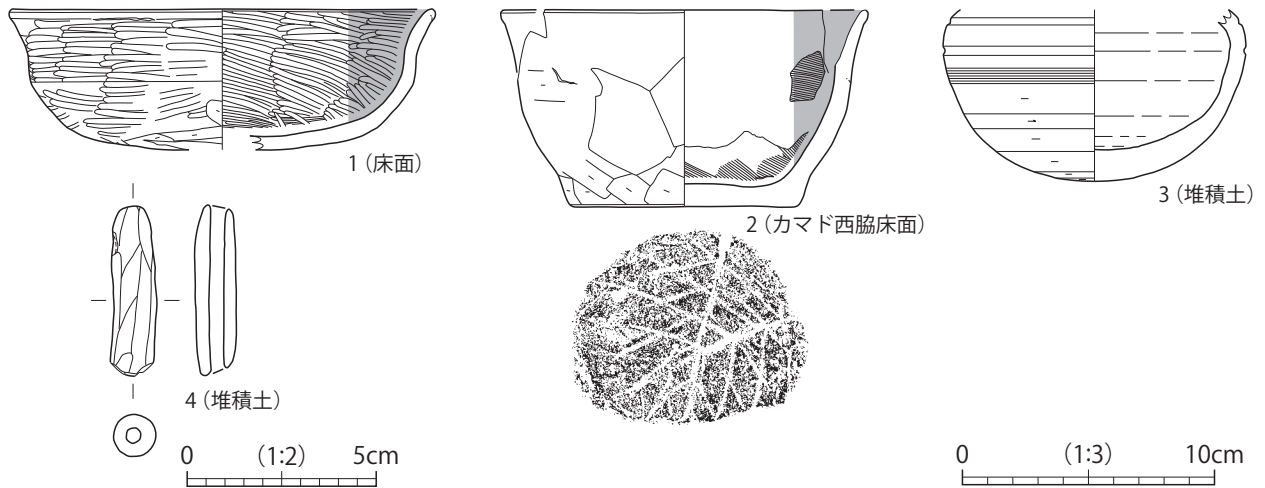
第330図 SI516 竪穴住居跡

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、西袖は基部を除いて失われている。東袖は壁面に対して直交し、規模は長さ59cm、幅29cm、西袖は残存値で長さ15cm、幅13cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き69cmを測り、幅は焼面の範囲から48cm前後と推定される。底面は奥壁に向かってわずかに立ち上がり、中央部から焚口付近にかけて長径35cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら内湾気味に13cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道の先端部は攪乱により失われているが、規模は残存値で長さ67cm、幅13～27cm、深さ2～5cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【掘り方】 深さ8～13cmを測り、各所が不規則に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、土製品などが出土し、土師器坏1点・鉢1点、須恵器壺もしくは甗^{はそう}1点、土製品1点を掲載した(第331図)。2はカマド西脇の床面から出土した。また床面から出土した土師器甕1点を写真で掲載した(写真図版384-3)。1は土師器坏である。平底風丸底で内湾して立ち上がり、口縁部は外反気味に直立し端部で丸く折り返されている。口縁部と体部の境に明瞭な稜を持つ。内面に黒色処理が施されている。2は土師器鉢で、二次被熱による内外面の剥離が著しい。大きめの平底で、体部は内湾し、口縁部で外反気味に直立する。内面に黒色処理が施されている。3は須恵器の壺もしくは甗と考えられる。丸底で、体部は内湾気味に直立し、肩部で丸く屈曲する。沈線が体部上位に2条めぐり、中位にはカキメが施されている。色調は暗灰色で、胎土は精良で、少量の砂粒と多量の黒色粒子が含む。4は管状の土錘で、外面はナデが施されている。写真図版384-3(C-563)は中型の土師器甕で、頸部に段を持ち、口縁部は直立後外反する。外面胴部に幅の細かいハケメが施されている。

【時期】 床面から出土した土師器坏・鉢・甕(第331図1・2、写真図版384-3)の特徴から、2期(6世紀代)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-257	SI516	床面	土師器	坏	(16.6)	—	5.6	口縁～体部：ヘミガキ 底部：ヘラスリ→ヘミガキ	ヘミガキ	内面黒色処理	353
2	C-258	SI516 カマド西脇	床面	土師器	鉢	(14.4)	(8.8)	7.8	口縁：不明 体～底部：ヘラスリ	口縁：不明 体～底部：ヘラテ	底部木葉痕 内面黒色処理 内外面二次被熱による赤色化・剥離	353
3	E-049	SI516	堆積土	須恵器	壺 or 甗	(10.6)	—	(6.8)	体上位：叩調整→沈線 体中位：折メ 体下位：回転ヘラスリ	叩調整	外面体部上半・内面底部灰 かぶり 外面底部火燻痕	353
写真のみ	C-563	SI516	床面	土師器	甕	(18.4)	—	(15.0)	口縁：ヨナテ 胴部：ハケメ→ヘラテ	口縁：ヨナテ 胴部：ヘラテ		384
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
4	P-025	SI516	堆積土	土製品	土錘	4.5	1.2	1.1	5.4	ナ 孔径0.4cm	353	

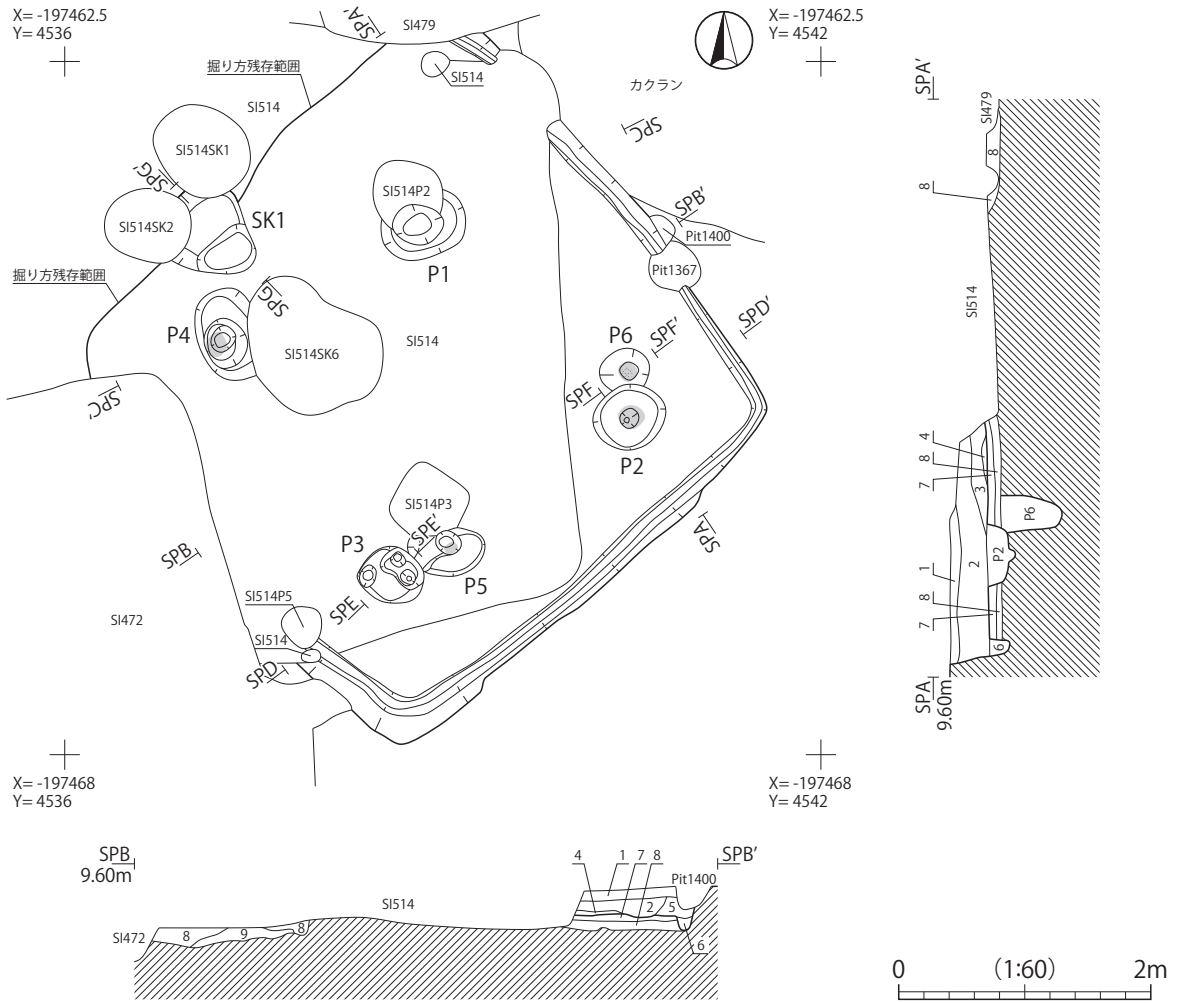
第331図 SI516 竪穴住居跡出土遺物

SI517 竪穴住居跡 (第332・333 図)

【位置・確認】 調査区中央部の79・80・88・89区に位置する。壁・床面の大部分がSI472・479・514の重複により失われ、床面は南東部と南西隅のみ残存する。

【重複】 SI472・479・514より古く、SI513・518より新しい。

【規模・形態】 確認された掘り方の規模は長軸446cm、短軸425cmを測り、平面形は方形を呈する。



SI517 堆積土誌記表

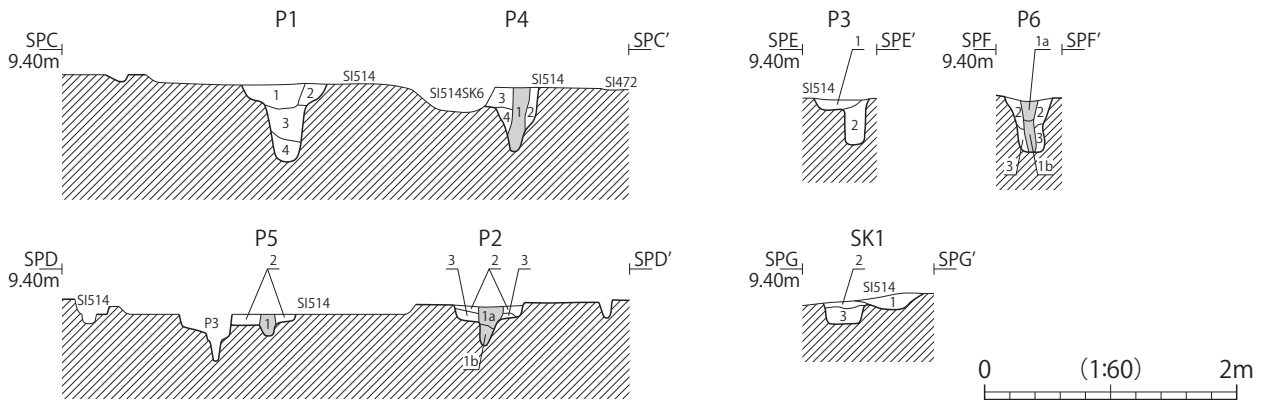
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	7	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度) 多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。

SI517 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(楕円形)	(68)×(44)	(70)	主柱穴
P2	円形	56×50	37	主柱穴 柱痕跡
P3	(円形)	(49)×(44)	(39)	主柱穴
P4	(楕円形)	(74)×(43)	(57)	主柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	(楕円形)	(61)×(38)	(24)	旧主柱穴か 柱痕跡
P6	円形	38×36	43	旧主柱穴か 柱痕跡
SK1	(円形)	79×(72)	(20)	カマド掘り方か

第332 図 SI517 竪穴住居跡 (1)



SI517 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P3	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P6	1a	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒・骨片微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。

第333図 SI517 竪穴住居跡(2)

【方向】 東壁を基準としてN-40°-Wを測る。

【堆積土】 9層に分層した。1～5層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7～9層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で31cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、褐灰色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面およびSI514の重複範囲内で5基(P1～5)、掘り方で1基(P6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は残存値も含め長軸49～74cm、短軸43～50cm、深さ37～70cmを測る。P2・4で径13～19cm程度の柱痕跡を確認した。P3の底面では柱の圧痕とみられるくぼみを3箇所確認しているため、柱の建て替えが行われた可能性がある。P5はP3と、P6はP2と重複し、その状況や規模などから建て替え前の古い主柱穴と考えられる。ともに径11～14cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅10～16cm、深さ5～14cmを測る。

【その他の施設】 掘り方で1基(SK1)の土坑を検出した。掘り方北辺の中央部からやや西寄りに位置する。北側はSI514のSK1・2の重複により失われている。掘り方範囲の外側へ1/2程度が張り出しており、堆積土に少量の焼土ブロック、炭化物粒、骨片が含まれることから、カマド掘り方の可能性がある。平面形は北側に広がる円形と考えられ、規模は残存値で長79cm、短軸72cm、深さ20cmを測る。

【掘り方】 深さ10～27cmを測り、各壁際が幅広の溝状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器などが出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI472・479・513・514・518との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性がある。

SI518 竪穴住居跡 (第334・335 図)

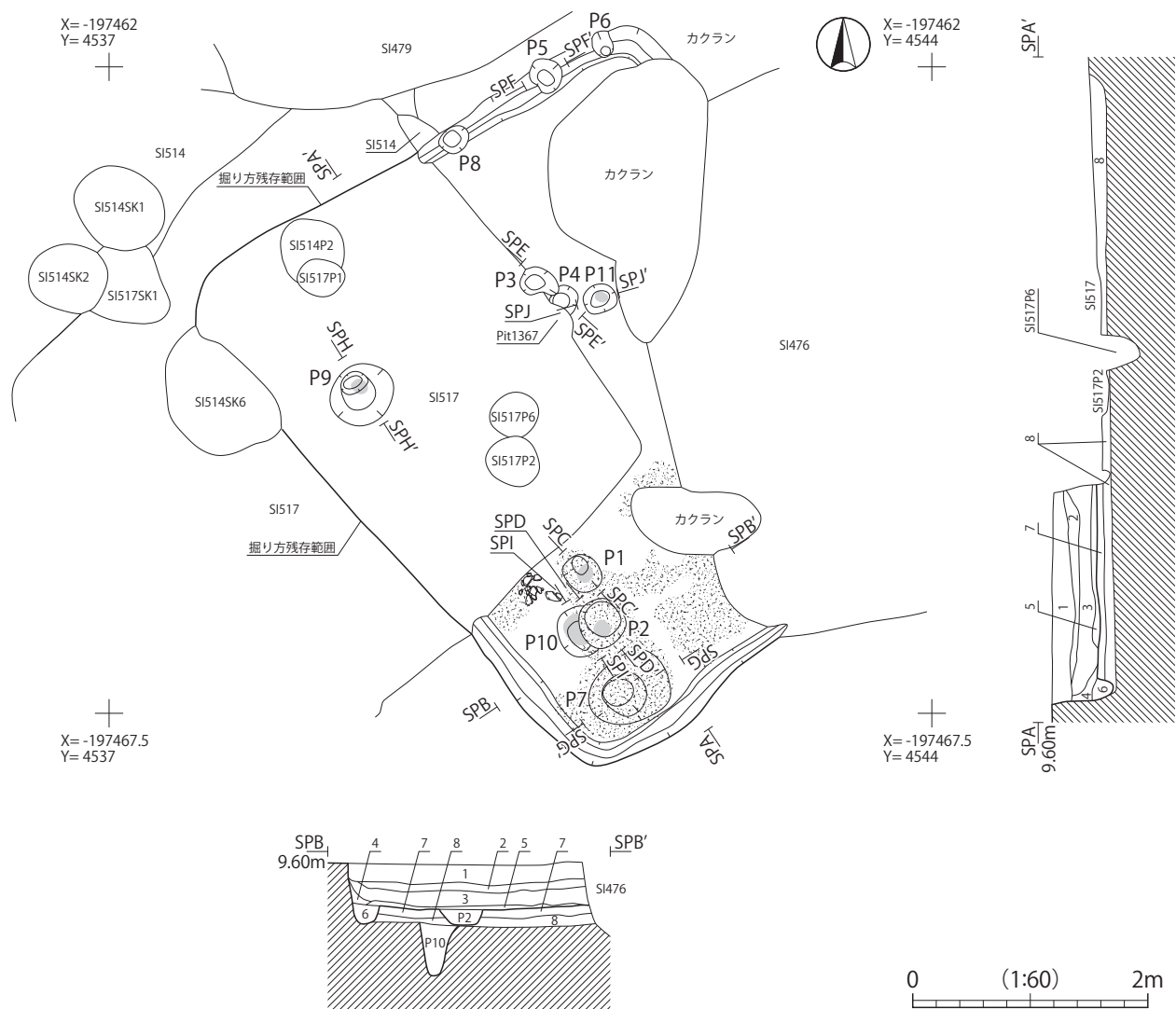
【位置・確認】 調査区中央部の79・80・88・89区に位置する。壁・床面の大部分がSI476・517の重複や攪乱により失われ、北東・南西部が部分的に残存する。

【重複】 SI476・514・517より古く、SI513、SX51より新しい。

【規模・形態】 確認された掘り方の規模は長軸547cm、短軸455cmを測り、平面形はやや南北に長く、かつ西側に広がる台形と考えられる。

【方向】 西壁を基準としてN-42°-Wを測る。

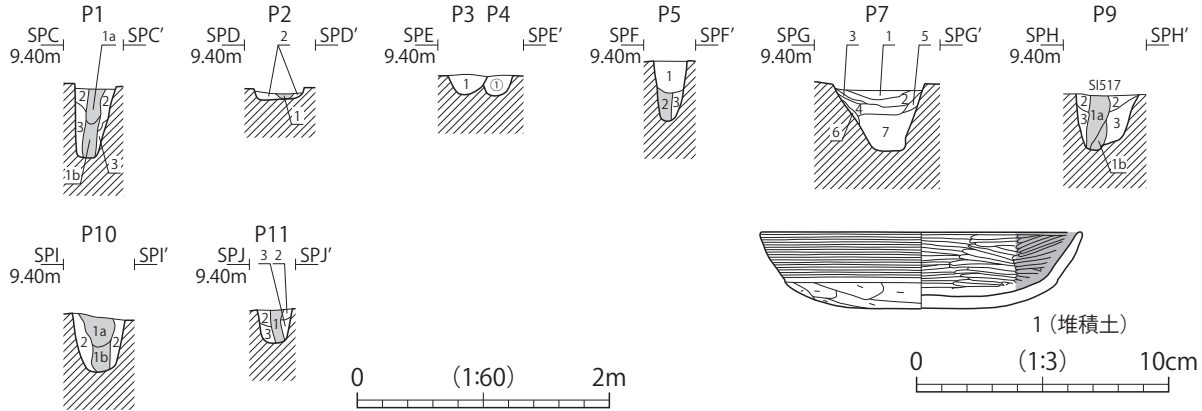
【堆積土】 8層に分層した。1～5層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7・8層は住居掘り方埋土である。



第334 図 SI518 竪穴住居跡 (1)

SI518 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、黒色シルトブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	5	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
周溝堆積土	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
住居掘り方埋土	7	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	8	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-259	SI518	堆積土	土師器	環	(12.6)	—	3.0	口縁: コナテ 体～底部: ヲラズリ	ハミガキ	内面黒色処理 角閃石微量含む	353

SI518 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒少量、焼土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	①	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P6	—	—	—	※註記なし
P7	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	上・下面に炭化物帯状に多量、焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	炭化物帯状に多量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
	7	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P8	—	—	—	※註記なし
P9	1a	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P10	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	1a	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
P11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。

SI518 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考	遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ				長軸×短軸	深さ	
P1	円形	33×29	60	主柱穴 柱痕跡	P7	楕円形	71×56	51	補助柱穴
P2	円形	43×40	11	旧主柱穴か 柱痕跡	P8	楕円形	25×21	32	壁柱穴
P3	(楕円形)	33×(26)	14	補助柱穴	P9	(円形)	(54)×(49)	(43)	主柱穴 柱痕跡
P4	(円形)	(23)×(20)	16	補助柱穴	P10	円形	43×(41)	47	旧主柱穴か 柱痕跡
P5	円形	(30)×27	48	壁柱穴 柱痕跡	P11	円形	27×24	25	性格不明 柱痕跡
P6	円形	(22)×17	33	壁柱穴					

第335図 SI518 竪穴住居跡(2)・同出土遺物

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で45cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、灰黄褐色粘土質シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面およびSI517の重複範囲内で9基(P1～9)、掘り方で2基(P10・11)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1・9の規模は残存値も含め長軸33～54cm、短軸29～49cm、深さ43～60cmを測る。堆積土で径12～14cm程度の柱痕跡を確認した。P2・10は規模や位置から、建て替え前の古い支柱穴であった可能性があり、堆積土で径14～25cm程度の柱痕跡を確認した。ただし、P2は土坑状で浅い。P5・6・8は壁柱穴、P3・4・7は補助柱穴と考えられる。P11の性格は不明である。P5・11の堆積土下半で径11～12cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲では、北東・南西壁に沿って検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅13～27cm、深さ4～18cmを測る。

【掘り方】 深さ5～19cmを測り、西壁際の中央部付近が土坑状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、土師器坏1点を掲載した(第335図)。浅身で、比較的小型品である。扁平な丸底で、口縁部は内湾気味に外傾する。内面に黒色処理が施されている。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI476・513・514・517との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性はある。

SI519 竪穴住居跡(第336・337図)

【位置・確認】 調査区中央部の97・98・105・106区に位置する。北西・南東隅の一部がSD290・322、カマド煙道部の上部がSI474の重複により失われている。

【重複】 SI474、SD317・322・350より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸525cm、短軸509cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-109°-Wを測る。

【堆積土】 25層に分層した。1～11層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。12層は周溝堆積土、13～20層はカマド堆積土である。21・22層はカマド袖構築土、23層はカマド掘り方埋土、24・25層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で47cmを測る。

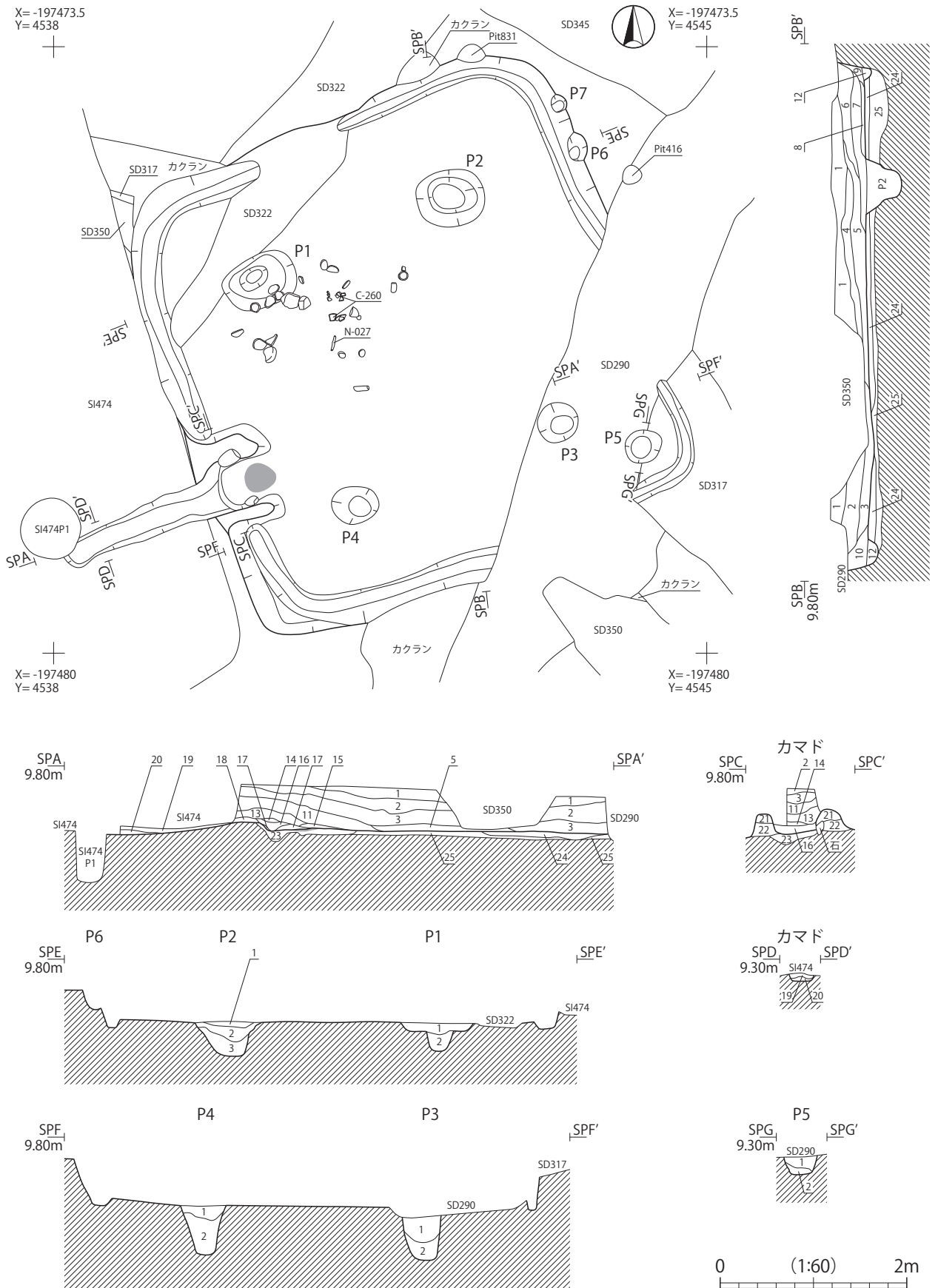
【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で7基(P1～7)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は残存値も含め長軸44～79cm、短軸41～61cm、深さ31～53cmを測る。補助柱穴と考えられるP5は南東隅に配置されている。P6・7は壁柱穴と考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は残存値も含め幅15～36cm、深さ5～10cmを測る。

【カマド】 西壁中央部からやや南寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、南袖の規模は長さ71cm、幅25cm、北袖は長さ87cm、幅38cmを測る。両袖の中央部には自然礫による芯材が埋設されている。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き66cm、幅52cmを測る。底面は奥壁に向かって緩やかに下がり、焚口付近に長径34cm程度の焼面がみられる。奥壁は外反して9cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は残存値で長さ181cm、幅26～38cm、深さ1～9cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【掘り方】 深さ2～23cmを測り、北東隅付近が「L」字状に、西・南壁際の一部が土坑状に一段低く掘り込まれている。



第336図 SI519 竪穴住居跡

SI519 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒・焼土粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR6/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR7/2 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	10	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	12	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
カマド堆積土	13	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	14	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	15	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土粒・灰少量、炭化物粒微量含む。
	16	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量・IV層土ブロック(5～30mm程度)少量含む。
	17	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・灰多量、炭化物粒微量含む。 ※灰層
	18	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	19	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
カマド袖構築土	21	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	22	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド掘り方埋土	23	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	24	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	25	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。

SI519 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P3	1	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P6	—	—	—	※註記なし
P7	—	—	—	※註記なし

SI519 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	79×56	31	主柱穴
P2	楕円形	73×61	38	主柱穴
P3	(円形)	(44)×(42)	(46)	主柱穴
P4	楕円形	51×41	53	主柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	(円形)	(38)×(35)	23	補助柱穴
P6	楕円形	32×20	32	壁柱穴
P7	円形	18×17	19	壁柱穴

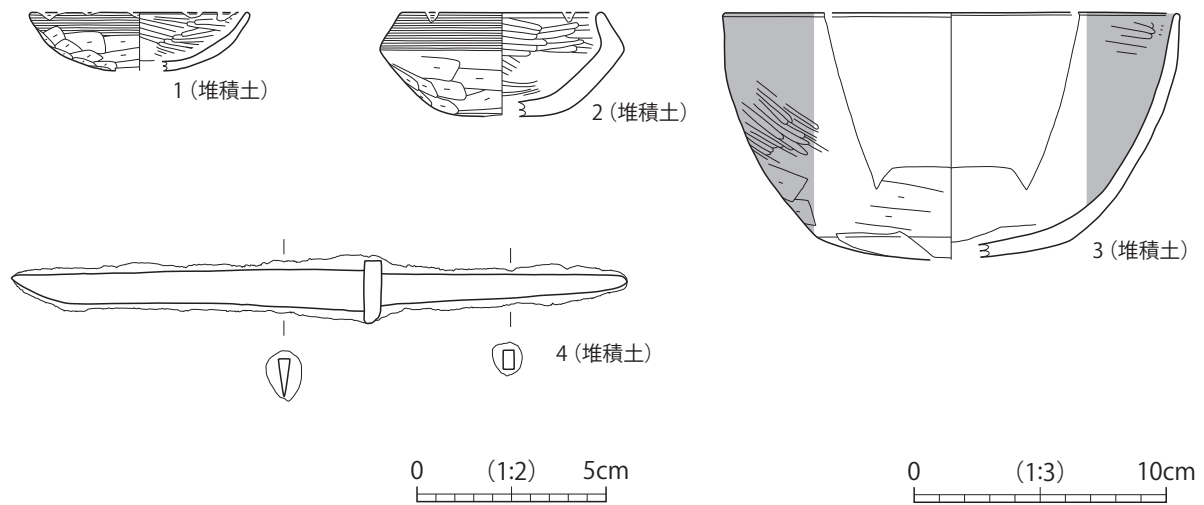
【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓などが出土し、土師器坏2点・鉢1点、金属製品1点を掲載した(第337図)。1・2は小型品の土師器坏である。1は薄手で精巧なつくりである。1の底部は丸底、2は平底風丸底と考えられる。1の口縁部は内湾気味に外傾、2は直線的に内傾する。ともに内面に黒色処理は認められない。3は土師器鉢である。体部は内湾しながら口縁部に至る。内外面に黒色処理が施されているが、外面は摩滅が著しく消失している。4は鉄製刀子である。切先にふくらを持ち、^{なかご}茎部に口金が残存する。^{なかごじり}茎尻は栗尻である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI474、SD322との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。

SI520 竪穴住居跡(第338～341図)

【位置・確認】 調査区南東部の131・132・139・140区に位置する。東壁・床面・西壁の中央部がSD307、カマド燃焼部南側と煙道部がSD300・307の重複により失われている。

【重複】 SD350より古い。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-571	SI519	堆積土	土師器	环	(8.6)	—	(2.3)	口縁：ヨナテ 体部：ハラスリ	ハミガキ		353
2	C-572	SI519	堆積土	土師器	环	(7.8)	—	(4.1)	口縁：ヨナテ 体～底部：ハラスリ	ハミガキ	内外面やや摩滅	353
3	C-260	SI519	堆積土	土師器	鉢	17.9	—	(9.8)	口縁～底部：ハラスリ→ハミガキ	ハミガキ	内面黒色処理 外面黒色処理 か 内外面摩滅	353

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
4	N-027	SI519	堆積土	金属製品	鉄製刀子	16.3	1.1	0.3	27.9	完形 口金残存	353

第337図 SI519 竪穴住居跡出土遺物

【規模・形態】 確認された規模は長軸642cm、短軸635cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-103°-Eを測る。

【堆積土】 大別で19層に分層した。1～7層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～4層は人為的な埋土、5～7層は自然堆積とみられる。8層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。9～11層はカマド堆積土である。12層はカマド袖構築土、13～15層はカマド掘り方埋土、16～19層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直立気味ないし直線的に立ち上がり、壁高は最大で34cmを測る。

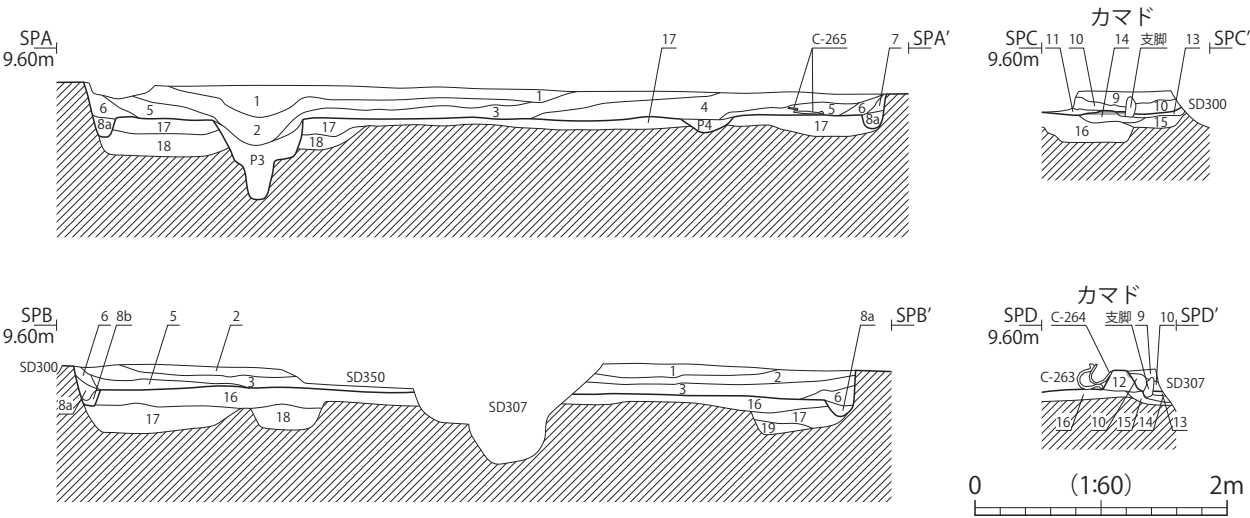
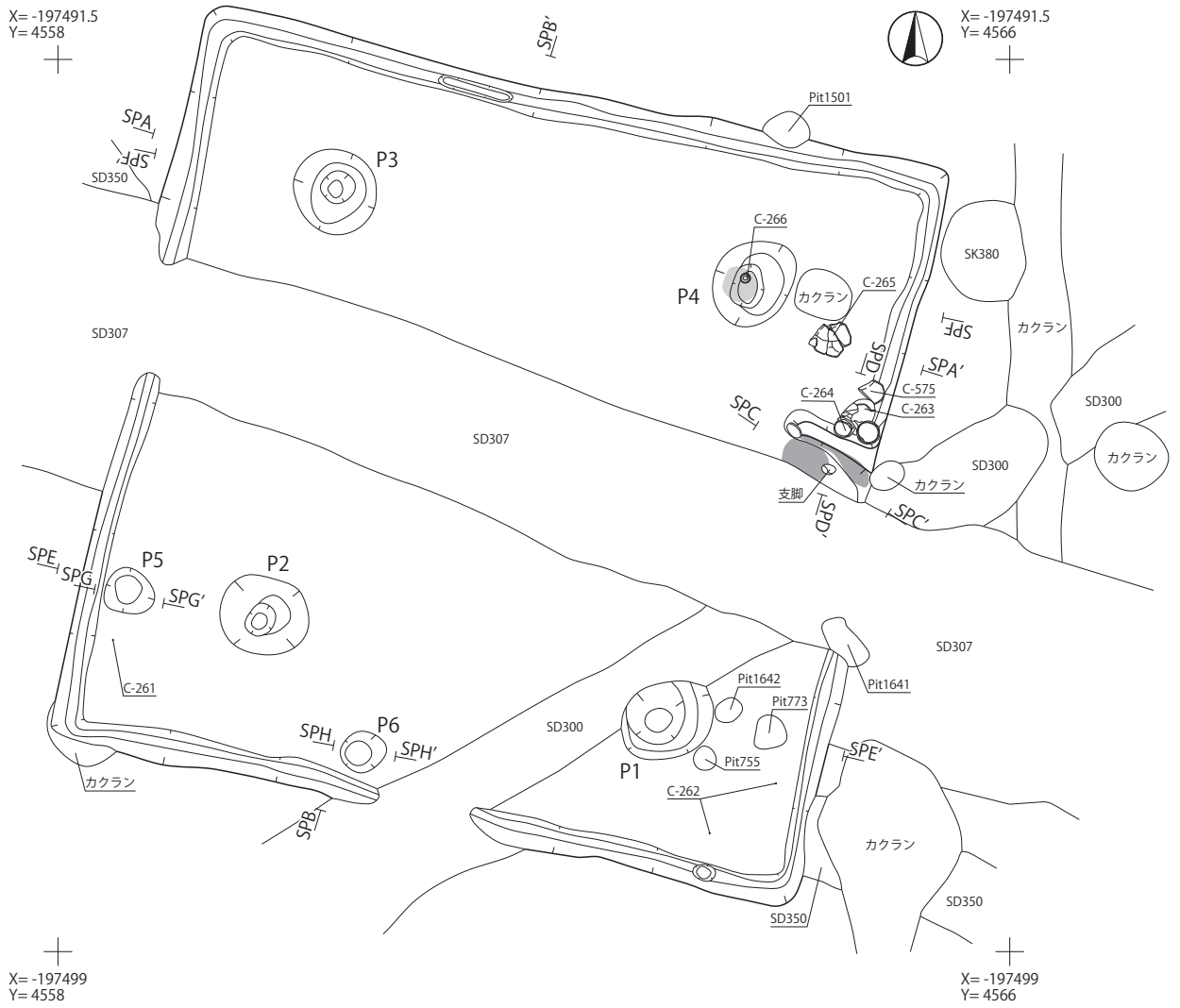
【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は残存値も含め長軸72～81cm、短軸64～70cm、深さ45～67cmを測る。P2・3の堆積土下半とP4の堆積土で、径23～31cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6は補助柱穴と考えられ、P5がP2に近接する西壁際、P6が南壁の中央部付近に配置されている。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅13～23cm、深さ6～21cmを測る。

【カマド】 東壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、奥壁を含む燃烧部の南半部と煙道部の全体が失われている。北袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、規模は長さ81cm、幅23～42cmを測る。袖の先端部には、棒状の自然礫による芯材が埋設されている。燃烧部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き83cm、幅30cmを測る。底面は奥壁に向かってわずかに立ち上がり、中央部から焚口付近にかけて長径42cm程度の焼面がみられる。焼面の奥壁側北寄りには棒状の自然礫による支脚が埋設されている。

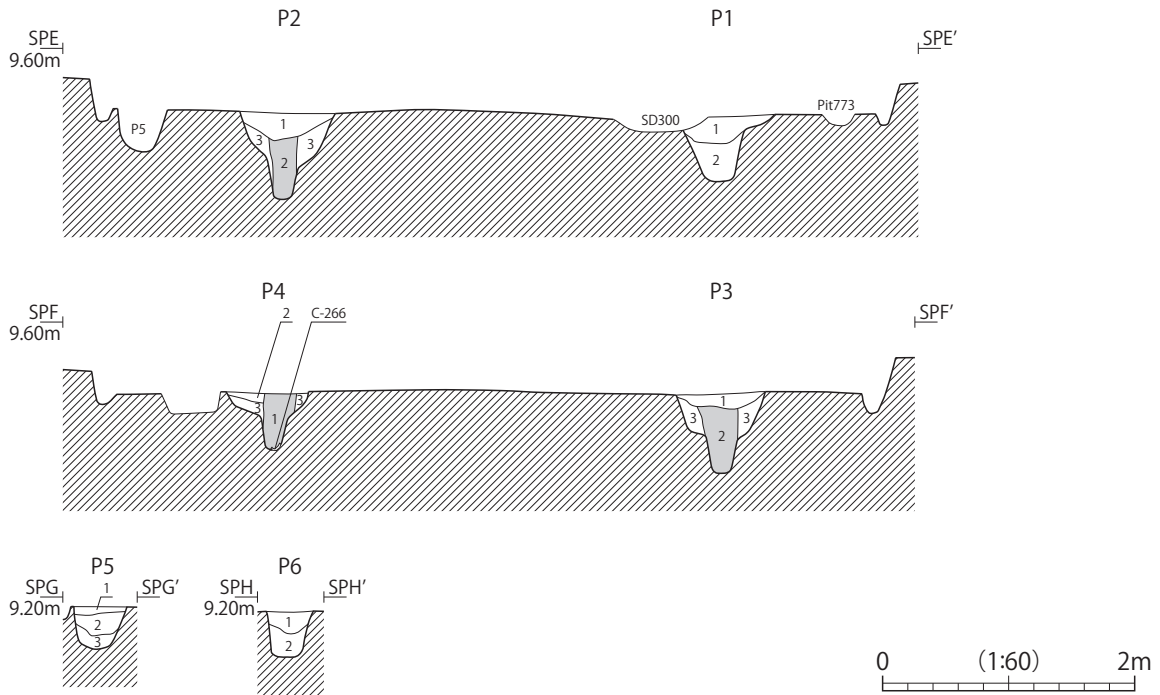
【掘り方】 深さ9～32cmを測り、底面は各壁際が一段低く掘り込まれている。



第338図 SI520 竪穴住居跡(1)

SI520 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、灰白色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
	6	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	8a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
	8b	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
カマド堆積土	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	11	10YR2/1 黒色	シルト	焼土粒少量含む。 ※炭化物層
カマド袖構築土	12	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。
カマド掘り方埋土	13	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	14	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量、IV層土ブロック(10～30mm程度)微量含む。
住居掘り方埋土	16	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	17	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～50mm程度)多量含む。
	18	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	19	10YR6/6 明黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)多量、黒色シルトブロック(10～20mm程度)少量含む。



SI520 施設堆積土註記表

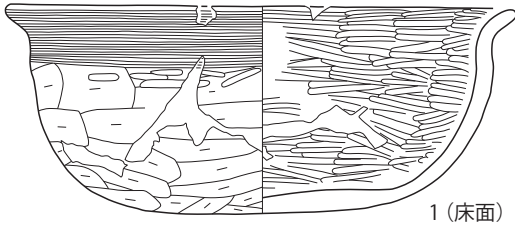
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
P2	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	細砂斑状に少量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
P6	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

第339図 SI520 竪穴住居跡(2)

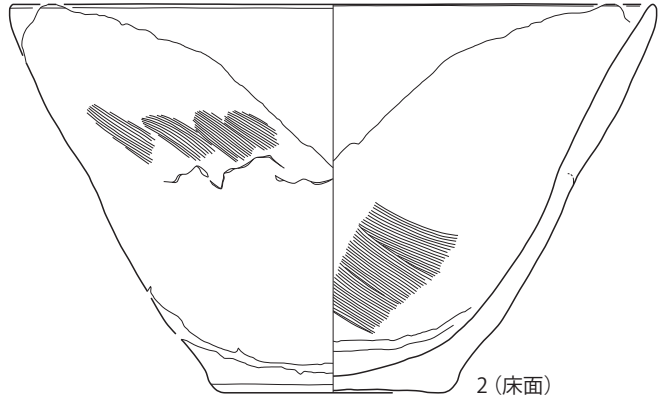
SI520 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(81)×(64)	51	主柱穴
P2	円形	76×65	67	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	72×70	64	主柱穴 柱痕跡

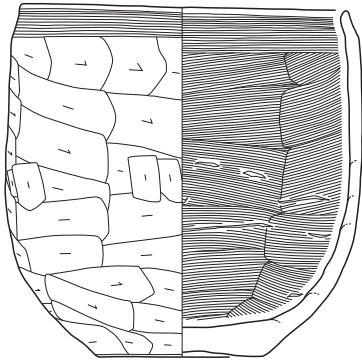
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	楕円形	79×64	45	主柱穴 柱痕跡
P5	円形	42×38	31	補助柱穴
P6	円形	36×34	37	補助柱穴



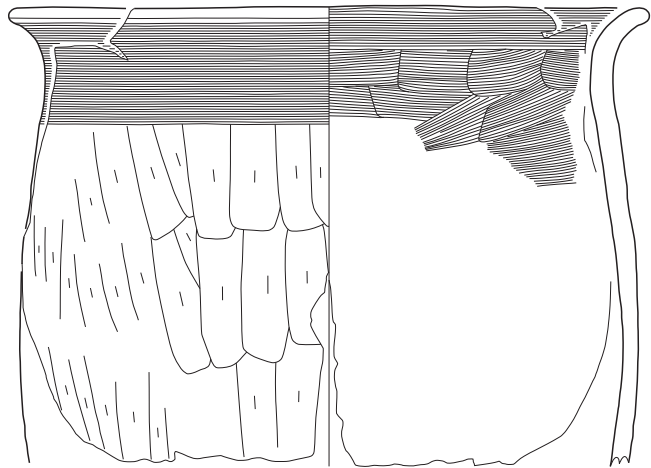
1 (床面)



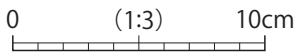
2 (床面)



3 (カマド北脇床面)

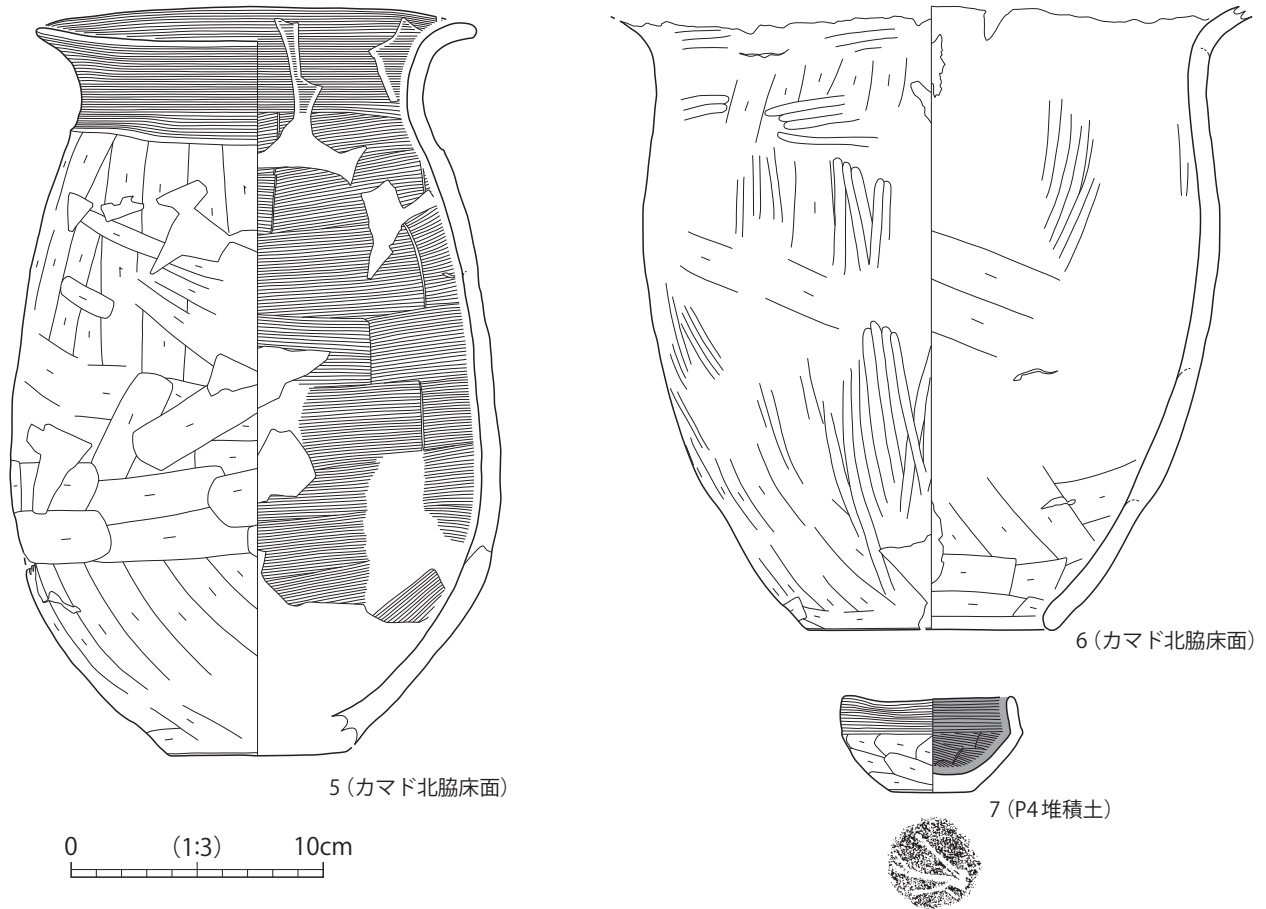


4 (カマド北脇床面)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-261	SI520	床面	土師器	坏	19.8	—	8.3	口縁：ヨナテ 体～底部：アラスリ→アラシキ(一部)	アラシキ	角閃石微量含む	353
2	C-262	SI520	床面	土師器	鉢	(25.4)	(8.9)	(15.4)	口縁：不明 体～底部：エナテ	口縁：不明 体～底部：アラテ	底部木炭痕 角閃石微量含む 内外面摩滅 外面二次被熱による赤色化	353
3	C-264	SI520 カマド北脇	床面	土師器	甕	(12.9)	6.5	14.0	口縁：ヨナテ 胴～底部：アラスリ	口縁：ヨナテ 胴～底部：アラテ	底部木炭痕 角閃石微量含む	353
4	C-575	SI520 カマド北脇	床面	土師器	甕	(24.8)	—	(18.3)	口縁：ヨナテ 胴部：アラスリ	口縁：ヨナテ 胴部：アラテ	内外面やや摩滅 骨針微量含む	353

第340図 SI520 竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
5	C-263	SI520 かまど北脇	床面	土師器	甕	16.9	(7.0)	29.7	口縁：ヨコテ 胴～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 胴～底部：ヘラテ	輪積痕接合面に刻目	354
6	C-265	SI520 かまど北脇	床面	土師器	甕	—	孔径 (9.7)	(24.8)	口縁：ヘラミガキ 胴部：ヘラズリ→ヘラミガキ	口縁：不明 胴上半：ヘラミガキ 胴下半：ヘラズリ	単孔 角閃石微量含む	354
7	C-266	SI520 P4	堆積土	土師器	ミニチュア環	6.5	3.3	3.8	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラテ	底部木葉痕 内面赤彩 角閃石微量含む	354

第341図 SI520 竪穴住居跡出土遺物 (2)

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環1点・鉢1点・甕3点・甕1点・ミニチュア土器1点を掲載した(第340・341図)。3～6はカマド北袖脇から重なりあって出土した。1は土師器環で、平底風丸底の底部から内湾し、口縁部で直立気味に立ち上がった後外反し大きく開く。内面に黒色処理は認められない。2は中型品の土師器鉢で、体部から直線的に外傾しながら口縁部に至る。外面は二次被熱による摩滅が著しい。3～5は土師器甕である。3は中型品で、底部から内湾気味に直立するが、頸部に括れを持たず、口縁部で短く内傾する。4の最大径は外反する口縁部に位置し、胴部は中位がわずかに膨らむ円筒形と考えられる。5は胴部下位に最大径が位置し、口縁部は外反し大きく開く。3は頸部に稜、5は段を持ち、4には認められない。3の外面は横方向のヘラケズリを基本とし、胴部中位には部分的に縦方向に施されている。4・5は縦方向の弱いヘラケズリを基本とするが、5の胴部中位は横方向に施されている。また、5の胴部下位に接合のための刻み目が認められる。3の色調は灰白色～明黄褐色、4は橙色～灰黄褐色、5はにぶい黄橙色を呈する。3の胎土は粗く、多量の2mm以下の砂礫を含む。4・5はやや粗く、4は3mm以下の砂礫と海綿骨針、5は砂粒と赤色粒子を微量含む。6は単孔の土師器甕で、胴部最大径は上位に位置し、そこから下端に向かってすぼまる。口縁部は外反すると考えられる。7は土師器ミニチュアの環である。平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部は直線的に内傾

する。口縁部と体部の境は内外面に稜を持つ。内面をナデ調整後、赤彩が施されている。

【時期】 床面から出土した土師器坏・鉢・甕・甑（第340・341図1～6）の特徴から、3期（6世紀末頃～7世紀前半）と考えられる。

SI521 竪穴住居跡（第342図）

【位置・確認】 調査区南西部の96・104区に位置する。東部を中心とする大部分がSI502・507・508の重複により失われ、西・南・北壁際のみ残存する。

【重複】 SI502・507、SD310・313、Pit1243より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸502cm、短軸336cmを測り、平面形は南北に長く、東側に広がる台形と考えられる。

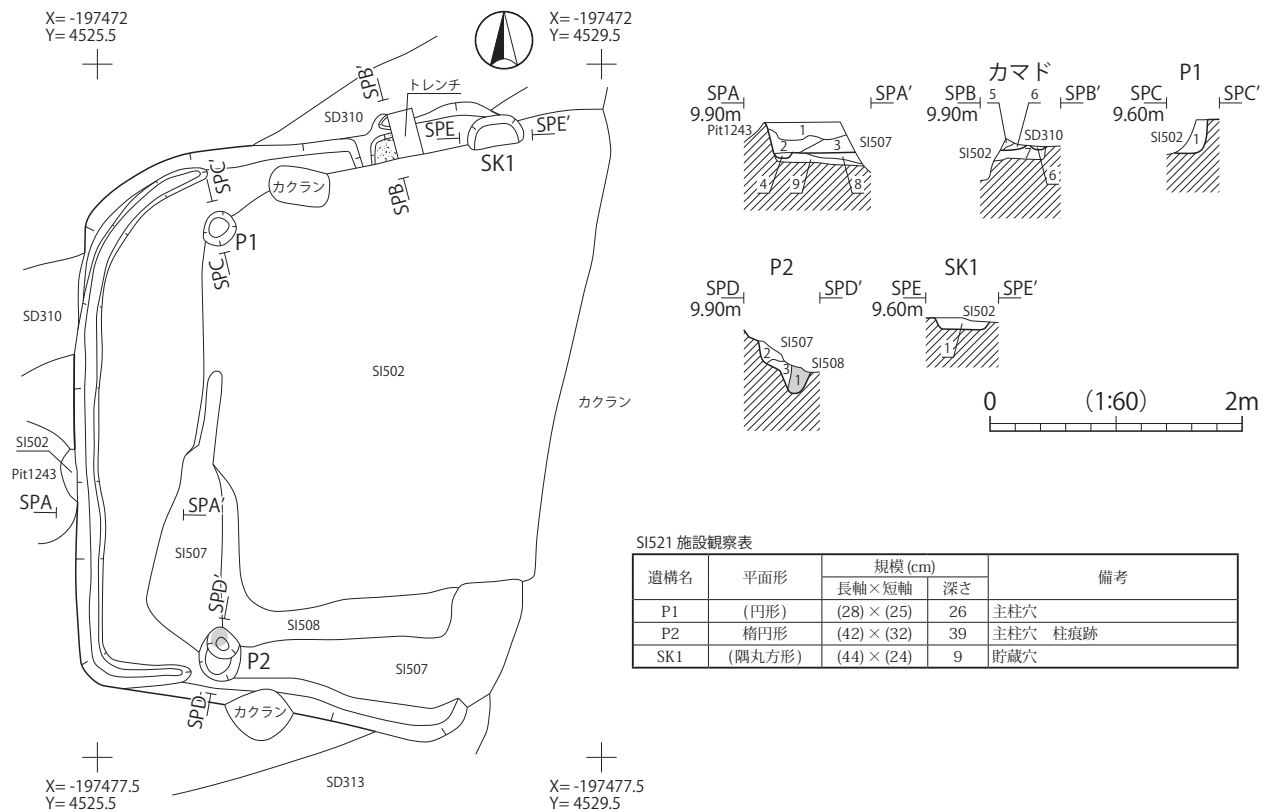
【方向】 西壁を基準としてN-1°-Eを測る。

【堆積土】 9層に分層した。1～3層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は周溝堆積土、5・6層はカマド堆積土である。7層はカマド掘り方埋土、8・9層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で33cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、にぶい黄橙色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面およびSI502の重複範囲内で2基（P1・2）を検出した。規模や位置からともに支柱穴と考えられ、P1は北西部、P2は南西部の壁際に配置されている。規模は残存値で長軸28～42cm、短軸25～32cm、深さ26～39cmを測る。P2で径16cm程度の柱痕跡を確認した。



第342図 SI521 竪穴住居跡

SI521 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	4	7.5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
カマド堆積土	5	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	6	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒斑状に多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
カマド掘り方埋土	7	7.5YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)・酸化鉄少量含む。
住居掘り方埋土	8	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

SI521 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
P2	2	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 ※一部グライ化

【周溝】 残存範囲では、西壁と北西・南西隅の壁面に沿って検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅15～22cm、深さ2～7cmを測る。

【カマド】 北壁中央部から東寄りに位置するが、SI502、SD310の重複により大部分が失われ、燃焼部の北西1/4程度と、煙道部との接続部周辺のみ残存する。西袖は基部付近が残存し、規模は残存値で長さ24cm、幅17cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き21cm、幅21cmを測る。底面の形状は不明で、焼面はみられない。奥壁は大部分が失われ、高さ3cm程度のみ残存する。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマドの東脇に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。南半部がSI502の重複により失われているが、平面形は隅丸方形と考えられ、規模は残存値で長軸44cm、短軸24cm、深さ9cmを測る。

【掘り方】 深さ1～20cmを測り、南壁際が溝状に、北西部が土坑状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI502・507・508との新旧関係から、7期(8世紀中頃～後半)以前と考えられる。

SI523 竪穴住居跡(第343～346図)

【位置・確認】 調査区南部の137・138・145・146に位置する。西・南・南東隅・北の壁と床面が攪乱に、東・北東部壁の一部がSX48により失われている。平成19年度(2007年度)の確認調査(11T内)で発見された住居跡である。

【重複】 SD328、SK497、Pit1588より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸545cm、短軸533cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-25°-Wを測る。

【堆積土】 大別で37層に分層した。1～14層は住居堆積土で、黒褐色・暗褐色・灰黄褐色・にぶい黄褐色などのシルト・粘土質シルトが互層状を成し、堆積状況からも人為的な埋土とみられる。15層は周溝堆積土で、a～cの3層に細別した。16～21層はカマド堆積土である。22～24層はカマド袖構築土、25～30層はカマド掘り方埋土、31～37層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で34cmを測る。

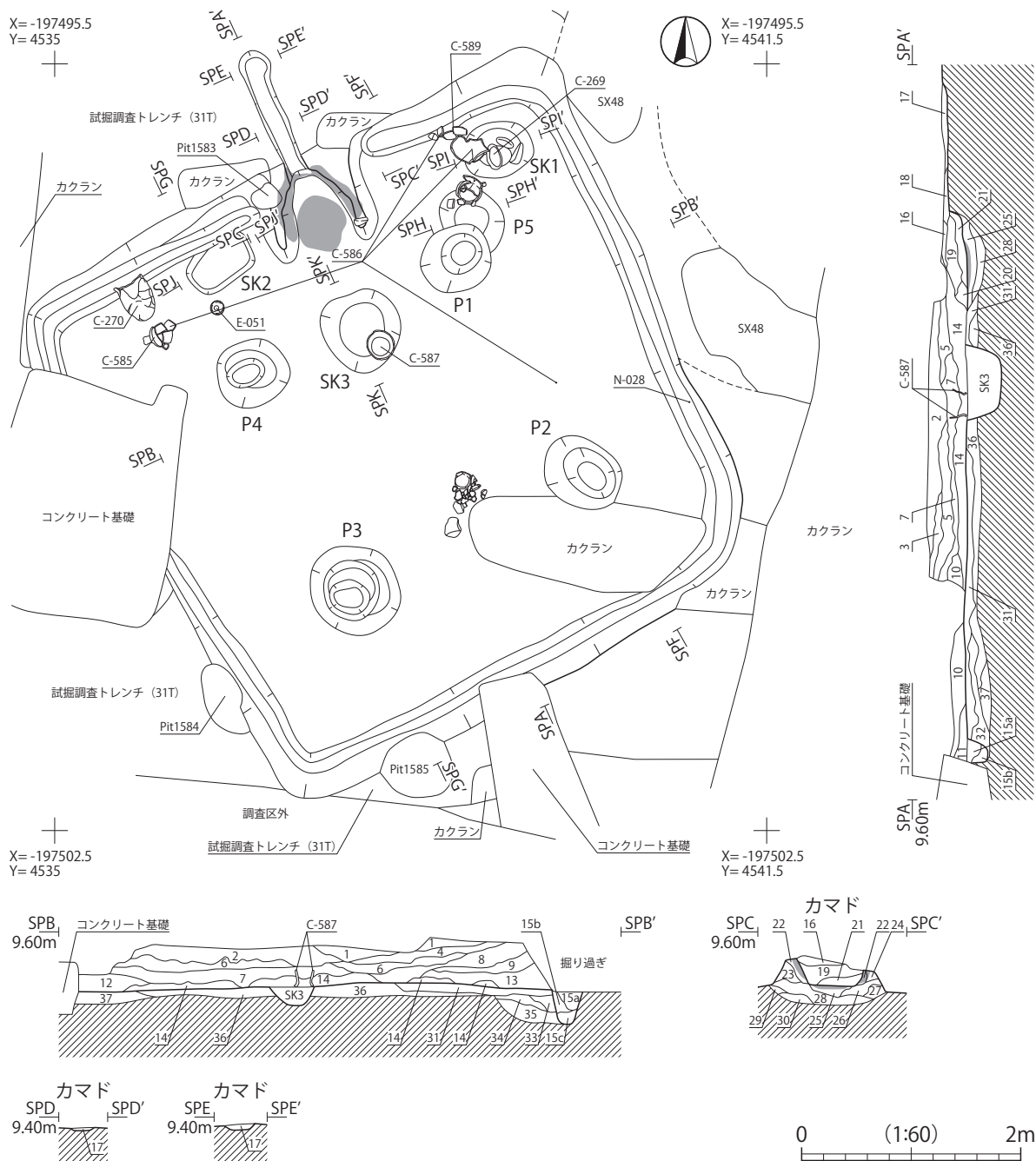
【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で5基(P1～5)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は長軸65～85cm、短軸59～79cm、深さ45～60cmを測る。P4の堆積土下半で径18cm程度の柱痕跡、P1～3で柱の抜き取り痕を

確認した。P3の堆積土中層からは扁平な自然礫が出土した。P5はP1の北東側に重複し、検出状況や規模から古い主柱穴の可能性はある。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅18～27cm、深さ7～25cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ97cm、幅26cm、西袖は長さ88cm、幅32cmを測る。東袖の先端部には扁平な自然礫による芯材が埋設されている。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き79cm、幅72cmを測る。底面は奥壁に向かって緩やかに立ち上がり、中央部から焚口付近にかけて長径54cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら内湾気味に11cm程度立ち上がり、



第343図 SI523 竪穴住居跡(1)

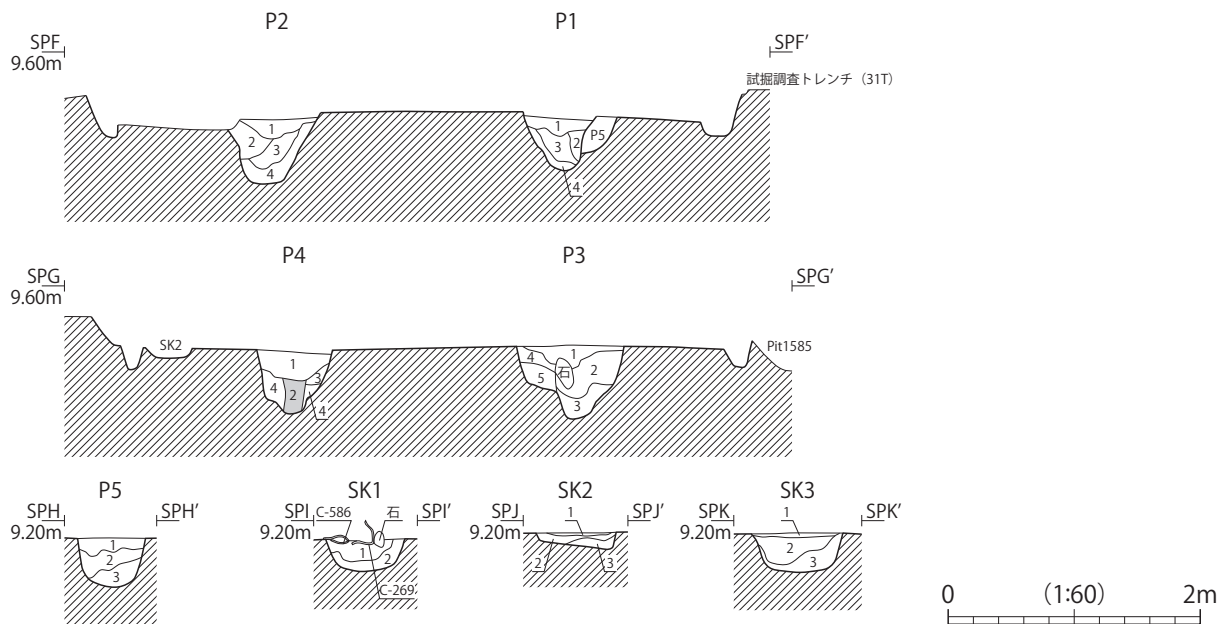
SI523 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	65 × 59	46	主柱穴
P2	楕円形	76 × 60	58	主柱穴
P3	円形	85 × 79	60	主柱穴
P4	円形	65 × 60	45	主柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	楕円形	60 × (33)	38	旧主柱穴か
SK1	楕円形	63 × 51	26	貯蔵穴
SK2	隅丸長方形	63 × (41)	11	貯蔵穴
SK3	円形	75 × 72	32	カマド関連土坑

SI523 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度) 多量、黒褐色シルトブロック (5 ~ 10mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	7	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度)・炭化物粒少量含む。
	8	7.5YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	9	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 30mm程度) 多量、黒褐色シルトブロック (5 ~ 10mm程度) 少量含む。
	10	7.5YR4/3 褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	11	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック (5 ~ 20mm程度) 多量、炭化物ブロック (5mm程度) 少量含む。
	12	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm程度) 多量、炭化物ブロック (5mm程度) 少量含む。
	13	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	14	7.5YR4/3 褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	15a	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	15b	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック (5mm程度) 多量、IV層土ブロック (5mm程度) 少量含む。
	15c	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	細砂多量、IV層土粒少量含む。
カマド堆積土	16	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	粘土質シルト	IV層土粒・骨片微量含む。
	17	5YR3/3 暗赤褐色	粘土質シルト	焼土ブロック斑状に多量、IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量、炭化物ブロック (5 ~ 10mm程度) 微量含む。
	18	5YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 多量、焼土ブロック斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	19	2.5Y4/3 オリーブ褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量、炭化物粒・骨片微量含む。
	20	2.5Y5/3 黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土ブロック (5mm程度)・炭化物粒微量含む。
カマド袖構築土	21	5B4/1 暗青灰色	粘土質シルト	灰・炭化物粒多量、焼土ブロック (5mm程度)・骨片少量含む。
	22	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。 ※被熱
	23	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度) 多量、焼土ブロック (5mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	24	2.5YR4/2 灰赤色	シルト	焼土ブロック (5mm程度) 多量、炭化物粒少量含む。 ※被熱
	25	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	26	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	IV層土粒多量、細砂少量、焼土粒微量含む。
	27	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 20mm程度) 多量、炭化物ブロック (5mm程度) 少量含む。
	28	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度) 多量含む。
	29	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・細砂多量、焼土粒微量含む。
	30	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	住居掘り方埋土	31	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト
32		7.5YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm程度) 多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
33		7.5YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm程度)・黒褐色シルトブロック (5 ~ 10mm程度) 多量含む。
34		10YR6/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm程度)・褐灰色シルトブロック (5 ~ 20mm程度) 多量含む。
35		10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm程度) 多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
36		10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	細砂多量、IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
37		10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度) 多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。



第344図 SI523 竅穴住居跡 (2)

SI523 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	炭化物粒少量、IV層土ブロック(5mm程度)・焼土粒微量含む。
	2	2.5Y5/1 黄灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	7.5YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・細砂多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・細砂少量、炭化物粒微量含む。
	4	7.5YR4/3 褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・細砂多量、炭化物粒微量含む。
P3	1	7.5YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	2	7.5YR4/3 褐色	粘土質シルト	IV層土互層状に多量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR4/4 褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、細砂少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。
	5	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・細砂多量含む。
P4	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	IV層土粒・細砂多量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	2.5Y5/1 黄灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y6/1 黄灰色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・酸化鉄・細砂少量含む。
SK1	1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量、焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	2.5Y6/1 黄灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)多量、IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒・灰少量含む。
	3	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒少量含む。
SK3	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5YR5/3 にぶい赤褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒・灰少量含む。
	3	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・細砂多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

煙道部へつながる。煙道部は確認調査時に上部が失われているが、残存値で長さ118cm、幅17～28cm、深さ5cmを測り、底面は概ね平坦である。

【その他の施設】 床面で3基(SK1～3)の土坑を検出した。SK1は北東隅、SK2はカマドの西脇、SK3はカマドの前方に位置する。SK1・2は位置や形状から貯蔵穴、SK3は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。

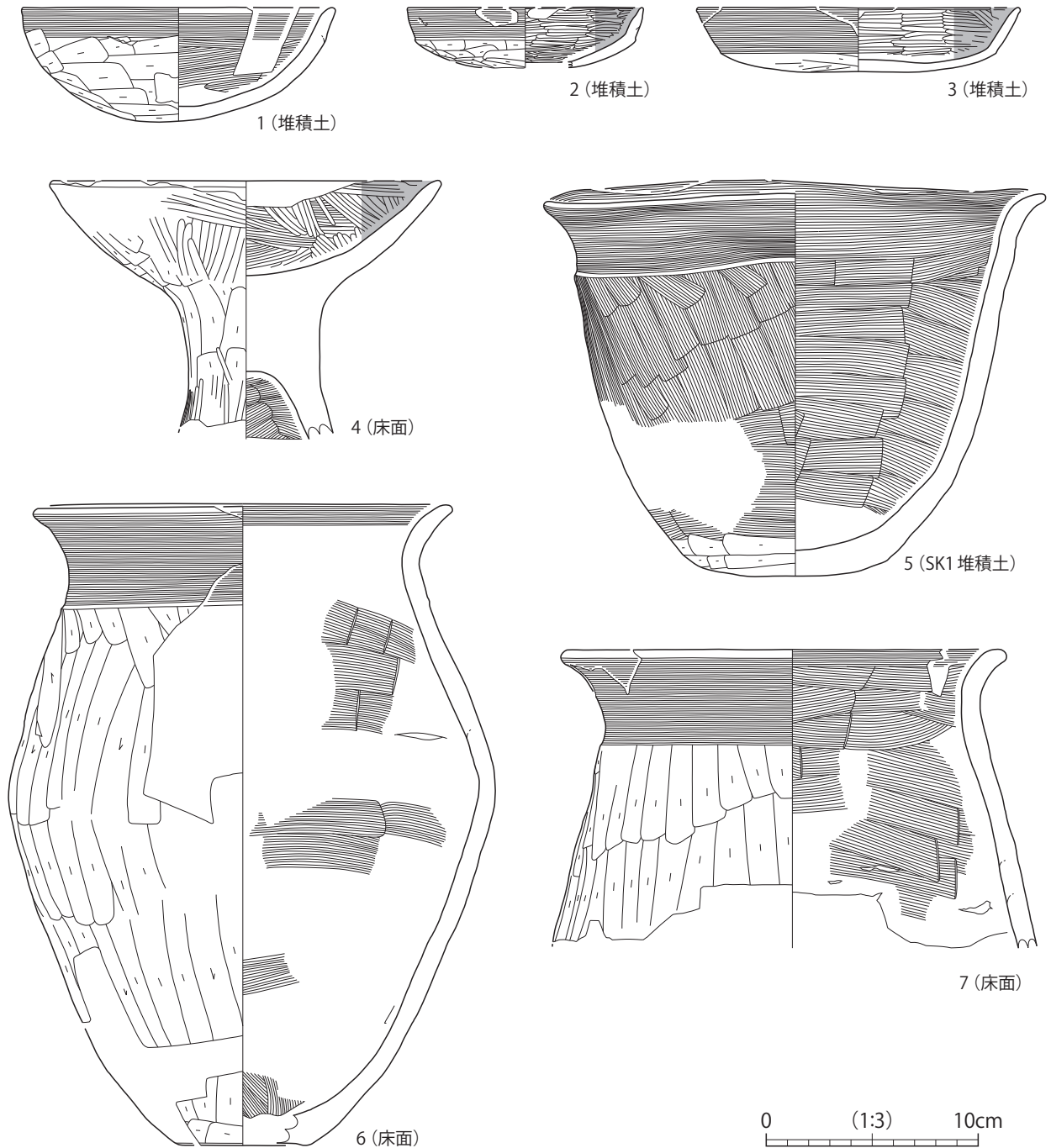
SK1の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸63cm、短軸51cm、深さ26cmを測る。SK2の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は残存値で長軸63cm、短軸41cm、深さ11cmを測る。SK3の平面形は円形を呈し、規模は長軸75cm、短軸72cm、深さ32cmを測る。

【掘り方】 深さ8～28cmを測り、壁際が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環3点・高環1点・甕4点、須恵器蓋1点、金属製品1点、土製品2点を掲載した(第345・346図)。4・8は北西隅、6はSK1周辺、7はカマド前の床面から出土した。

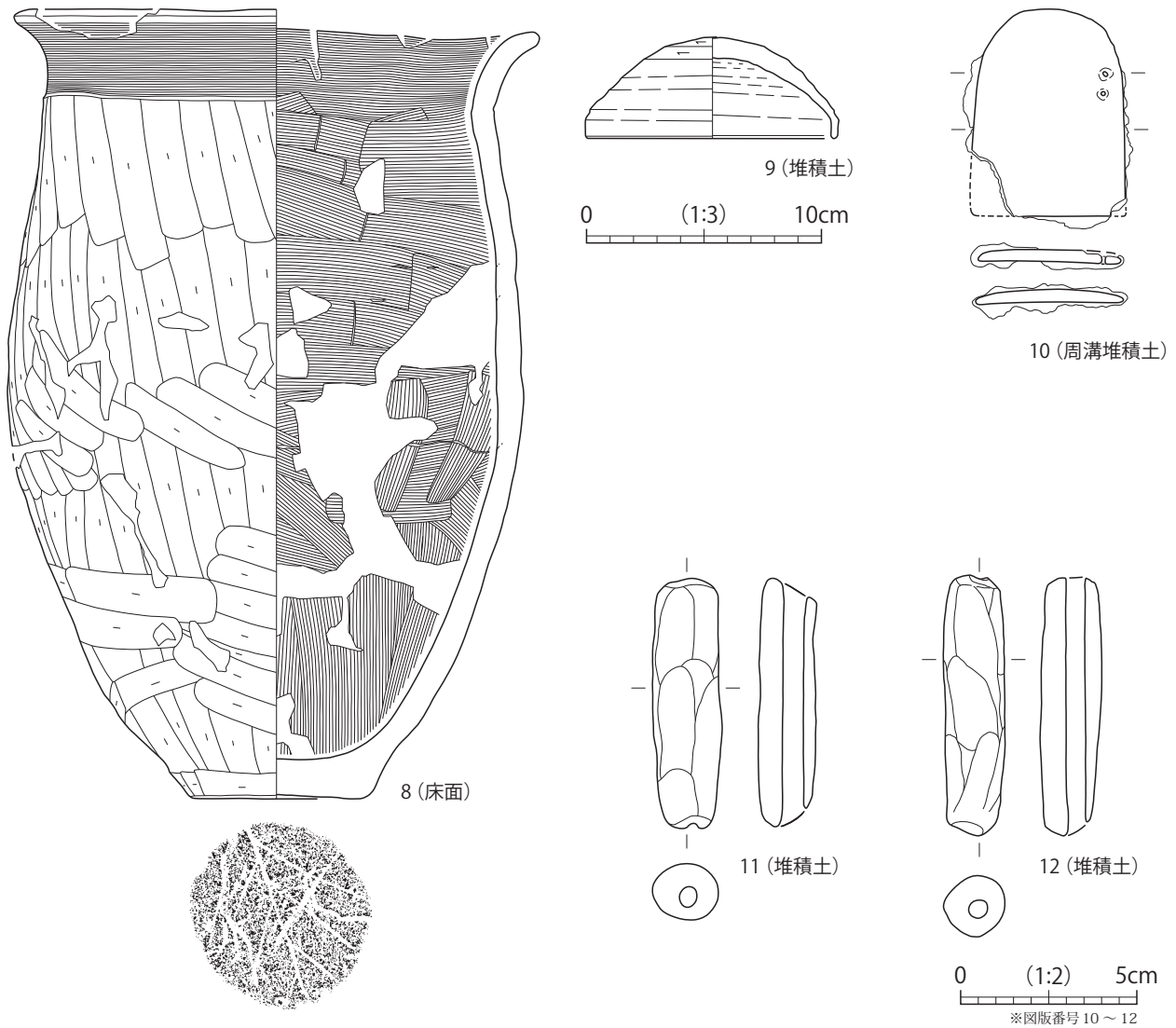
1～3は土師器環である。1は扁平な半球形を呈し、口縁部でわずかに外反する。内面はナデ調整が施されており、黒色処理は認められない。色調は褐色～にぶい赤褐色を呈し、胎土は精良で、砂粒と微量の海绵骨針を含む。関東系土師器と考えられる。2・3は浅身で、2は扁平な丸底、3は平底風丸底を呈する。口縁部はともに直線的に外傾するが、2の端部はわずかに内湾する。ともに内面に黒色処理が施されている。4は土師器高環である。環部は直線的に外傾しながら口縁部に至る。脚部は上半まで中実で、下半は円錐形を呈する。環部内面に黒色処理が施されている。5～8は土師器甕である。5は短胴形、6・8は張りの強い楕円形を呈する。口縁部はいずれも外反する。6・7の外表面は縦方向のヘラケズリ、8は縦方向を基本とするが、中位は斜方向、下位は横方向の弱いヘラケズリが施されている。5～7の色調はにぶい褐色、8はにぶい黄褐色～浅黄褐色を呈する。5・7の胎土は粗く、5mm以下の砂礫、5は少量の海绵骨針、7には赤色粒子を含む。6・8はやや粗く、3mm以下の砂礫と微量の赤色粒子、8は微量の海绵骨針を含む。

9は須恵器蓋である。天井部は半球形を呈し、口縁部で短く垂下する。天井部上位は丁寧に回転ヘラケズリが施されている。色調は暗青灰色～暗紫灰色を呈し、胎土は精良で、少量の砂粒と黒色粒子を含む。



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-267	SI523	堆積土	土師器	環	14.6	—	5.4	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラテ	関東系 骨針微量含む 外面 二次被熱による赤色化	354
2	C-584	SI523	堆積土	土師器	環	(11.0)	—	(2.8)	口縁：ヨコテ 体部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理	354
3	C-268	SI523	堆積土	土師器	環	(15.2)	—	3.0	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 内外面摩滅	354
4	C-585	SI523	床面	土師器	高環	18.2	—	(12.2)	ヘラズリ→ヘラミガキ	口縁～体部：ヘラミガキ 脚部：ヘラテ	環部内面黒色処理 角閃石少 量含む 外面やや摩滅	354
5	C-269	SI523 SK1	堆積土	土師器	甕	23.2	—	18.7	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラテ 胴下端～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 胴～底部：ヘラテ	骨針少量含む 内外面底部や や摩滅	354
6	C-586	SI523	床面	土師器	甕	19.2	(6.0)	(30.3)	口縁：ヨコテ 胴～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラテ	角閃石微量含む	355
7	C-587	SI523	床面	土師器	甕	(20.4)	—	(14.1)	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラテ	角閃石微量含む 内面やや摩 滅	354

第345図 SI523 竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
8	C-270	SI523	床面	土師器	甕	21.8	7.4	33.6	口縁：ヨコテ胴～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ胴～底部：ヘラテ	底部木葉痕 骨針・角閃石微量含む	355
9	E-051	SI523	堆積土	須恵器	蓋	10.5	—	4.3	口縁～体部：叩調整 天井部：回転ヘラズリ	叩調整		355

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
10	N-028	SI523 周溝	堆積土	金属製品	鉄製小札	5.9	4.3	0.4	25.7	ほぼ完形 孔径0.1～0.4cm	355
11	P-030	SI523	堆積土	土製品	土錘	7.1	2.0	1.1	24.0	庁 孔径0.6cm	355
12	P-031	SI523	堆積土	土製品	土錘	7.4	1.7	1.7	24.7	庁 孔径0.5cm	355

第346図 SI523 竪穴住居跡出土遺物 (2)

10は鉄製小札で、穿孔が2ヶ所認められる。11・12は管状の土錘で、外面はナデが施されている。

【時期】 床面から出土した土師器高坏・甕(第345・346図4～8)の特徴から、4期(7世紀中頃～後半)と考えられる。なお、南部の床面から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦610～658年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。

SI524 竪穴住居跡 (第347図)

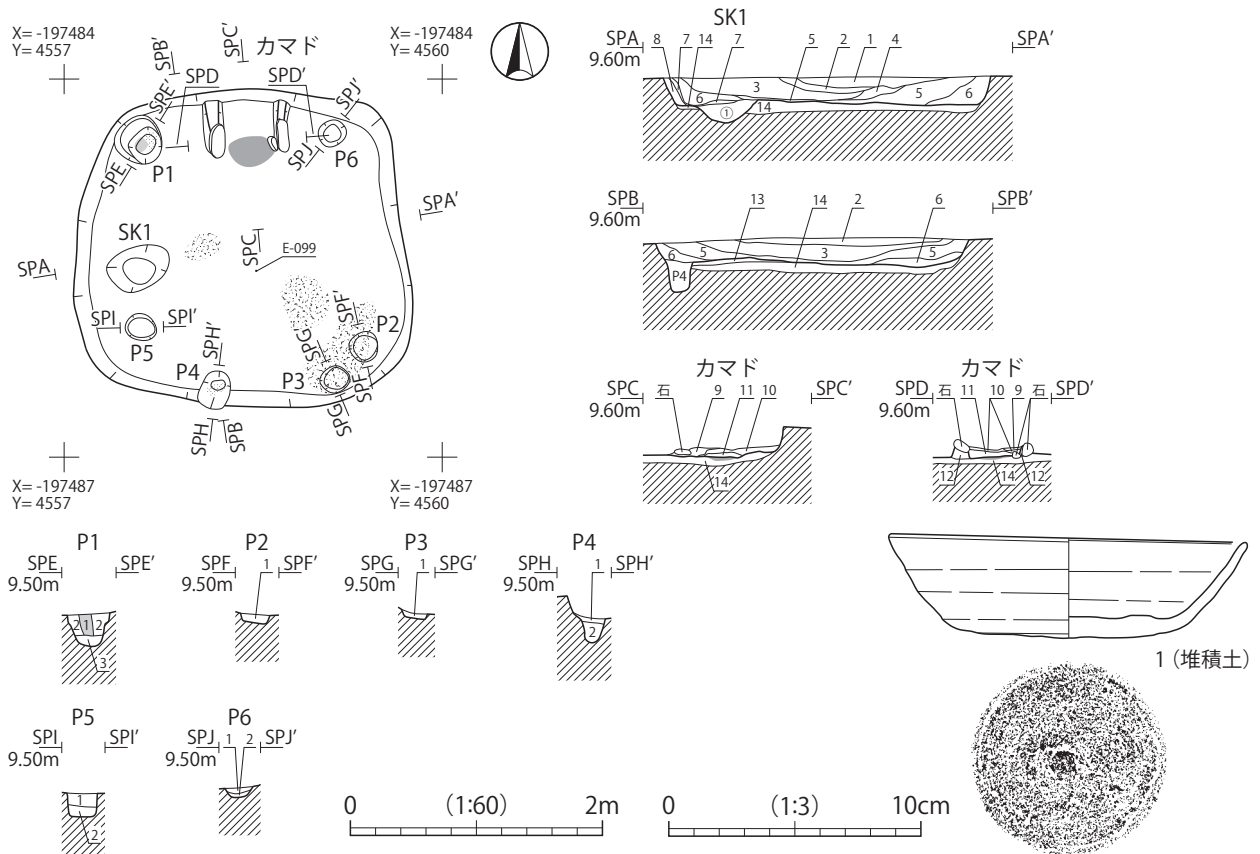
【位置・確認】 調査区南東部の115・123区に位置する。全体的に残存状態が良好な住居跡である。

【重複】 SB49、SD328・362、SX43より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸269cm、短軸252cmを測り、平面形は隅丸方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-0°を測る。

【堆積土】 14層に分層した。1～8層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～6層は人為的な埋土、7・8層は自然堆積とみられる。9～11層はカマド堆積土、12層はカマド袖構築土、13・14層は住居掘り方埋土である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	E-099	SI524	堆積土	須恵器	环	14.0	7.2	4.1	口調整 底部：回転へり切→回転へりスリ	口調整	外面口縁部重ね焼き痕	355

SI524 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)多量に含む。
カマド袖構築土	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰多量、焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	13	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	14	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック斑状に含む。

第347図 SI524 竪穴住居跡・同出土遺物

SI524 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量、炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)・炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
SK1	①	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。

SI524 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	39×37	26	主柱穴 柱痕跡
P2	円形	24×23	5	主柱穴
P3	円形	23×21	7	性格不明(土坑か)
P4	楕円形	30×24	20	壁柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	楕円形	25×21	23	主柱穴
P6	円形	22×21	10	主柱穴
SK1	楕円形	50×34	18	性格不明土坑

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で22cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。中央部付近から南東部にかけて小規模な炭化物範囲が3箇所みられる。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1・2・5・6は、住居四隅の対角線上に配置されている。規模は長軸22～39cm、短軸21～37cm、深さ5～26cmを測る。P2・6は土坑状で浅い。P1で径10cm程度の柱痕跡を確認した。P3は土坑状で浅いため、柱穴以外の性格も考えられる。壁柱穴と考えられるP4の底面からは、長軸16cm程度を測る長楕円形の変色範囲を確認した。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は、削平のため失われた可能性がある。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ41cm、幅12cm、西袖は長さ46cm、幅16cmを測る。両袖の先端部に棒状の自然礫による芯材が埋設されている。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き46cm、幅47cmを測る。底面は奥壁に向かって緩やかに立ち上がり、焚口付近に長径37cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら内湾気味に20cm程度立ち上がる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。西壁寄りの中央部付近に位置するが、性格は不明である。

【掘り方】 深さ3～11cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓、土製品などが出土し、須恵器杯1点を掲載した(第347図)。丸底風平底から丸く屈曲し直線的に外傾、口縁部でわずかに外反する。底部の切り離しは、回転ヘラ切りで、回転ヘラケズリによる再調整が施されている。色調は青灰色を呈し、胎土は粗く、多量の2mm以下の砂礫と白色粒子を含む。

【時期】 人為堆積土から6期の須恵器杯(第347図1)が出土していることや、SB49との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)～6期(8世紀前半)の可能性はある。

SI525 竪穴住居跡(第348図)

【位置・確認】 調査区南東部の124・132・133区に位置する。住居本体はSI431の重複により失われ、カマド煙道部のみ残存する。消失範囲内では、柱穴・周溝などの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI431より古く、SI434より新しい。

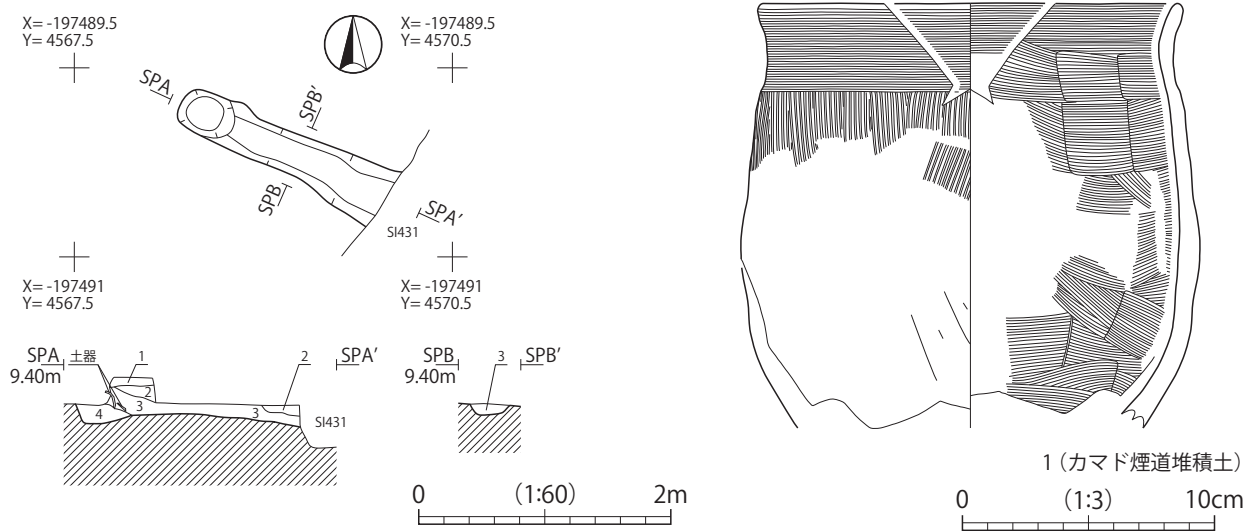
【方向】 N-65°-Wを測る。

【堆積土】 4層に分層した。灰黄褐色シルトを主体とするカマド堆積土で、自然堆積とみられる。

【カマド】 煙道部は残存値で長さ179cm、幅31～48cm、深さ8～34cmを測る。底面は中央部に向かって緩やかに立ち上がり、先端部はピット状を呈する。

【出土遺物】 堆積土から土師器・須恵器が出土し、中型品の土師器甕1点を掲載した(第348図)。胴部中位に最大径が位置する短胴形で、口縁部は外反気味に直立する。頸部は稜を持つ。

【時期】 カマド煙道部から出土した土師器甕(第348図1)の特徴やSI431・434との新旧関係から、4期(7世紀中頃～後半)～6期(8世紀前半)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-591	SI525 カマド煙道	堆積土	土師器	甕	(16.7)	—	(16.9)	口縁：ヨサデ 胴上半：ハサメ 胴下半：ハカズリ	口縁：ヨサデ 胴部：ハサデ	角閃石少量含む 内外面やや 摩滅 外面胴部に二次被熱に よる赤色化	355

SI525 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～30mm程度)少量含む。
	4	10YR2/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。

第348図 SI525 竪穴住居跡・同出土遺物

SI526 竪穴住居跡(第349～351図)

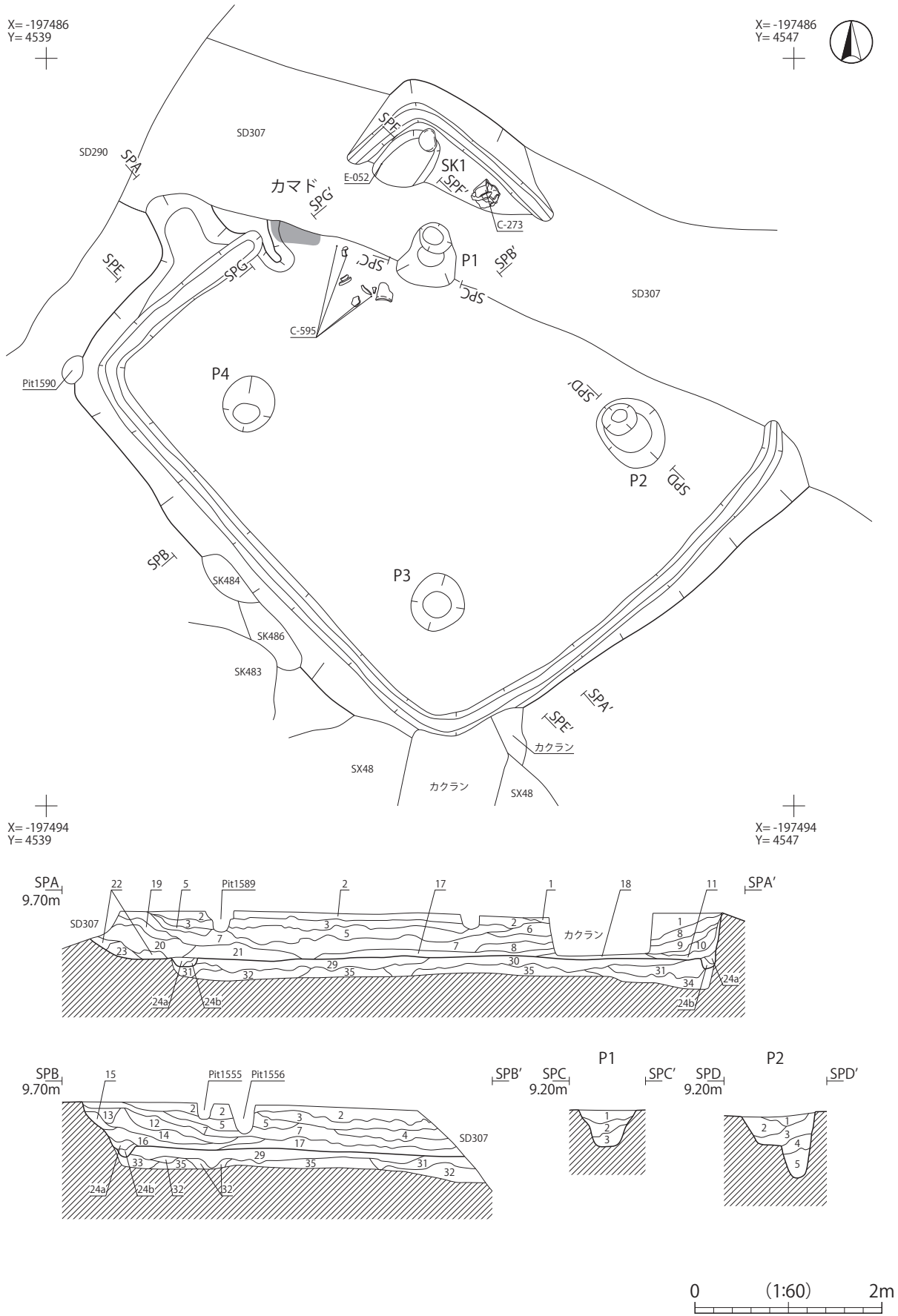
【位置・確認】 調査区南部の121・122・129・130区に位置する。カマドの大部分を含む北東部と東壁が、SD307の重複により失われている。

【重複】 SD328より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸622cm、短軸557cmを測り、平面形はやや南北に長い方形を呈する。カマド西側の壁は奥行き70cm、幅67cm程度張り出す。

【方向】 西壁を基準としてN-44°-Wを測る。

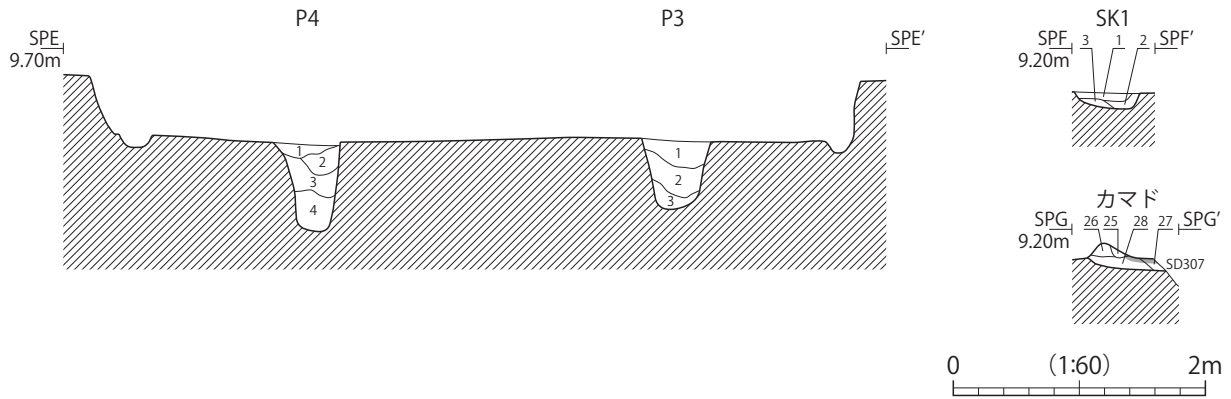
【堆積土】 大別で35層に分層した。1～23層は住居堆積土で、暗灰黄色・にぶい黄褐色・黄褐色などの粘土質シルトが互層状を成し、堆積状況からも人為的な埋土とみられる。24層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。25・26層はカマド袖構築土で、本住居跡ではカマド堆積土の観察ができなかった。27・28層はカマド掘り方埋土、29～35層は住居掘り方埋土である。



第349図 SI526 竪穴住居跡(1)

SI526 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土粒・酸化鉄少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y5/3 黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、酸化鉄・炭化物粒微量含む。
	5	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	IV層土粒・酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	6	2.5Y6/3 にぶい黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、酸化鉄・炭化物粒微量含む。
	7	2.5Y6/1 黄灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	8	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	10	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	12	2.5Y6/4 にぶい黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	13	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
	14	2.5Y6/4 にぶい黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
	15	2.5Y5/4 黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	16	2.5Y6/4 にぶい黄色	粘土質シルト	IV層土粒多量、酸化鉄少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	17	2.5Y5/4 黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	18	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	19	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、酸化鉄・炭化物粒少量含む。
	20	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物粒少量、IV層土ブロック(5~10mm程度)・酸化鉄微量含む。
	21	2.5Y5/3 黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	22	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	23	2.5Y6/3 にぶい黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	24a	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、酸化鉄・炭化物粒微量含む。
	24b	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
カマド袖構築土	25	7.5YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、焼土粒少量含む。
	26	2.5Y4/3 オリーブ褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
カマド掘り方埋土	27	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	粘土質シルト	被熱層。
	28	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	29	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	30	2.5Y6/3 にぶい黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、酸化鉄少量、焼土ブロック(10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	31	7.5YR6/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・黒褐色シルトブロック(5~20mm程度)多量、酸化鉄・炭化物粒少量含む。
	32	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	33	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	IV層土粒多量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	34	7.5YR5/3 にぶい褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、酸化鉄少量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	35	7.5YR6/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、酸化鉄・炭化物粒微量含む。



SI526 施設堆積土註記表

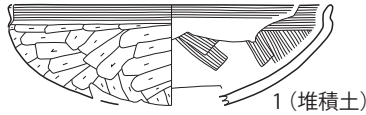
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR5/3 にぶい褐色	砂質シルト	IV層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5	7.5YR4/1 褐灰色	砂質シルト	細砂多量、IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
P3	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~20mm程度)・酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・細砂多量含む。
P4	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、酸化鉄少量含む。
	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、酸化鉄少量、焼土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y4/4 オリーブ褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、灰白色シルト粒少量含む。
	3	7.5YR6/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

第350図 SI526 竪穴住居跡(2)

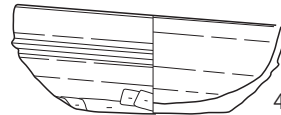
SI526 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(68)×(63)	53	主柱穴
P2	楕円形	80×65	75	主柱穴
P3	円形	62×57	67	主柱穴

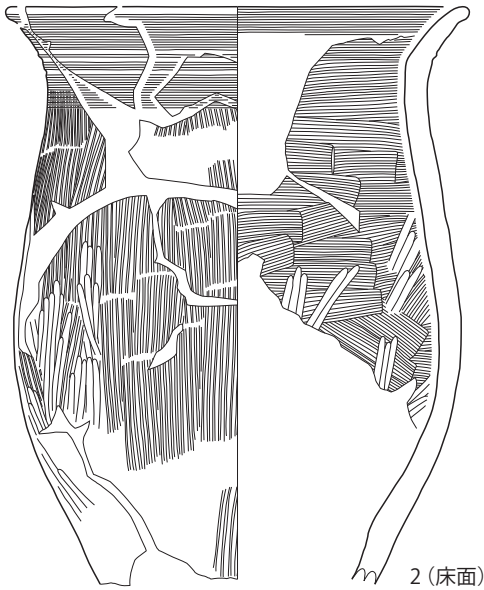
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	60×54	70	主柱穴
SK1	楕円形	(72)×53	18	貯蔵穴



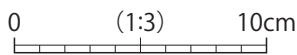
1 (堆積土)



4 (SK1 堆積土)



2 (床面)



3 (堆積土)

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-271	SI526	堆積土	土師器	环	12.7	—	(4.0)	口縁：ヨナデ 体部：ハラスリ	口縁：ヨナデ 体部：ハナデ	関東系内外面漆仕上げ角閃石少量含む	355
2	C-273	SI526	床面	土師器	甃	(18.0)	—	(22.9)	口縁～頸部：ヨナデ→沈線 胴部：ハメ→ハナミガキ	口縁：ヨナデ 頸部：ハナデ 胴部：ハナデ→ハナミガキ		355
3	C-595	SI526	堆積土	土師器	甃	(15.6)	(10.8)	(27.7)	口縁：ヨナデ 胴上半：ハメ 胴下半：ハラスリ	口縁：ヨナデ 胴上～中位：ハナデ 胴下位：ハメ→ハナデ	角閃石少量含む	356
4	E-052	SI526 SK1	堆積土	須恵器	环	10.6	6.1	3.3	口縁～体中位：ハナ調整→突帯貼付 体下位～底部：手持ハラスリ	ハナ調整	骨針多量含む	356

第351図 SI526 竪穴住居跡出土遺物

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で57cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄色粘土質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基 (P1～4) を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は残存値も含め長軸60～80cm、短軸54～65cm、深さ53～75cmを測る。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形は台形を呈し、規模は幅16～28cm、深さ6～20cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、奥壁を含む燃焼部の東半部と煙道部の全体が失われている。西袖は壁面に対して馬蹄状に延び、規模は長さ77cm、幅31cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き57cm、幅49cmを測る。底面は奥壁に向かって緩やかに立ち上がり、長径57cm程度の焼面がみられる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。北東隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。西側はSD307の重複により失われている。平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸72cm、短軸53cm、深さ18cmを測る。

【掘り方】 深さ10～29cmを測り、東壁から南壁際が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品などが出土し、土師器環1点・甕2点、須恵器環1点を掲載した(第351図)。2は北壁際の床面から、4の須恵器環はSK1から出土した。

1は土師器環で、北武蔵型土師器の特徴を持つ。薄手で精巧なつくりで、扁平な半球形を呈し、口縁部で「S」字状に直立する。内面はナデ調整が施されている。色調は橙色～淡橙色を呈し、胎土は粉のように細かく精良で、細砂を含む。2・3は土師器甕である。2は胴部最大径を中位に位置する楕円形、3は張りの強い下膨れを呈する。口縁部はともに外反し、3は端部が丸く折り返されている。ともに頸部に段を持たないが、2は口縁部に沈線が3条めぐり、4は小型品の須恵器環で、精巧なつくりである。平底から屈曲し内湾しながら口縁部に至る。口縁部と体部の境に突帯状の段がめぐり、色調は灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒と多量の海綿骨針を含む。

【時期】 床面とSK1から出土した土師器甕、須恵器環(第351図2・4)の特徴から、4期(7世紀中頃～後半)と考えられる。

SI527 竪穴住居跡(第352～355図)

【位置・確認】 調査区南東部の130・131・139区に位置する。北東部の一部はSD307の重複により失われている。

【重複】 SD356より古く、SX52より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸532cm、短軸528cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-37°-Wを測る。

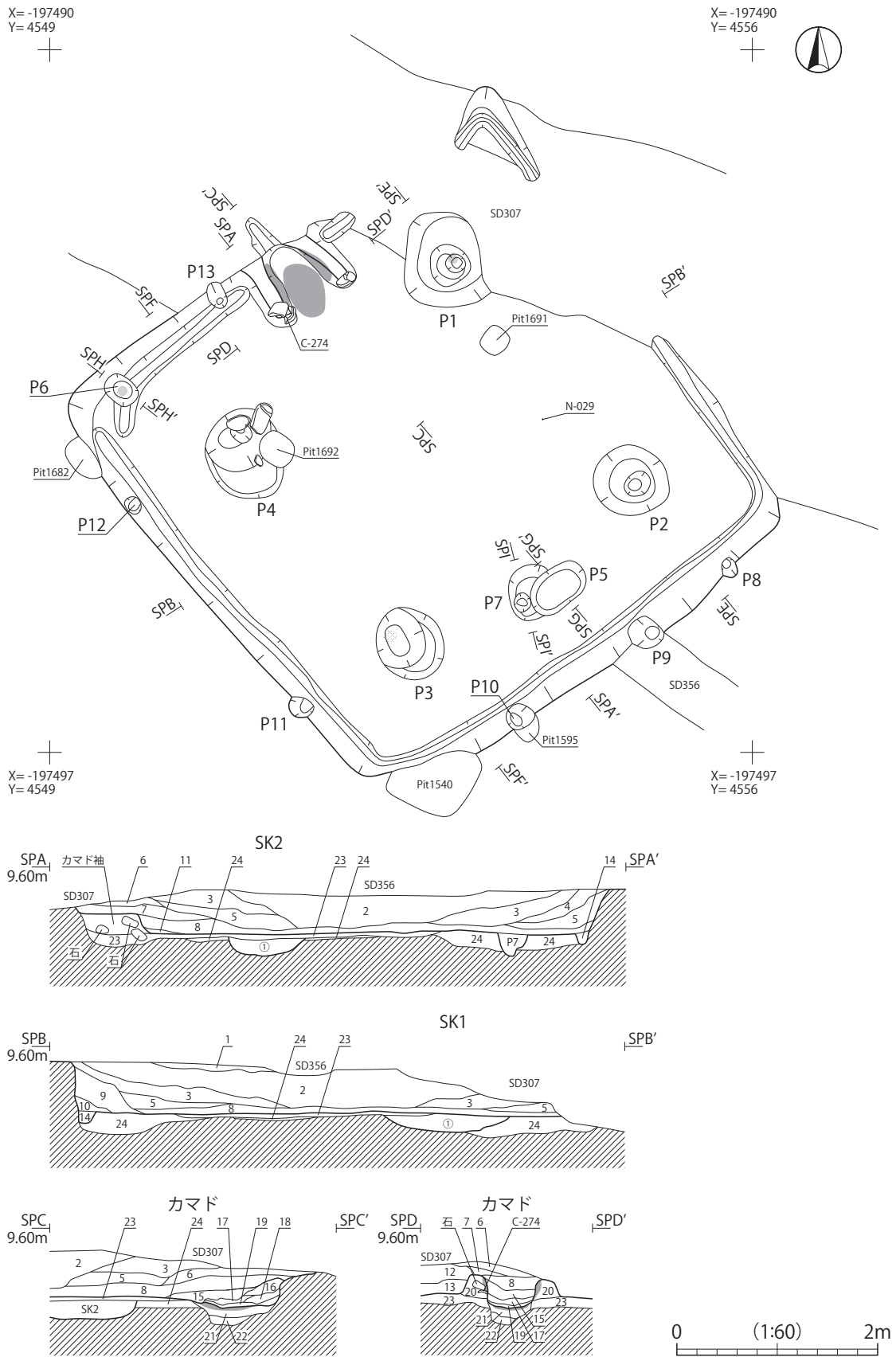
【堆積土】 24層に分層した。1～13層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～5層は人為的な埋土、6～13層は自然堆積とみられる。14層は周溝堆積土、15～19層はカマド堆積土である。20層はカマド袖構築土、21・22層はカマド掘り方埋土、23・24層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味ないし外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で56cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で13基(P1～13)、掘り方で5基(P14～18)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は残存値も含め長軸71～94cm、短軸66～87cm、深さ40～56cmを測る。P1の堆積土とP2・3の堆積土下半で、径11～15cm程度の柱痕跡を確認した。P5は土坑状で浅いため、平面形からも柱穴以外の性格が考えられる。南壁中央部の手前に配置されているP7の堆積土下半で、径18cm程度の柱痕跡を確認した。入口施設に関連する柱穴と考えられる。P6・8～13は壁柱穴と考えられ、東壁を除く各壁に配置されている。P6の堆積土で、径10cm程度の柱痕跡を確認した。P14～18はP1～4の内側に一部重複して配置されており、補助柱穴か建て替え前の古い支柱穴と考えられる。P15の堆積土で径14cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分と北西隅を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形は台形を呈し、規模は幅13～22cm、深さ2～16cmを測る。



第352図 SI527 竪穴住居跡(1)

SIS27 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	7	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・焼土粒微量含む。
	8	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)微量含む。
	12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	13	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	15	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	16	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	17	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰・焼土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	18	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド袖構築土	19	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒主体。
	20	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	21	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・焼土粒多量含む。
	22	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	23	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	24	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量、黒色シルトブロック(20mm程度)微量含む。

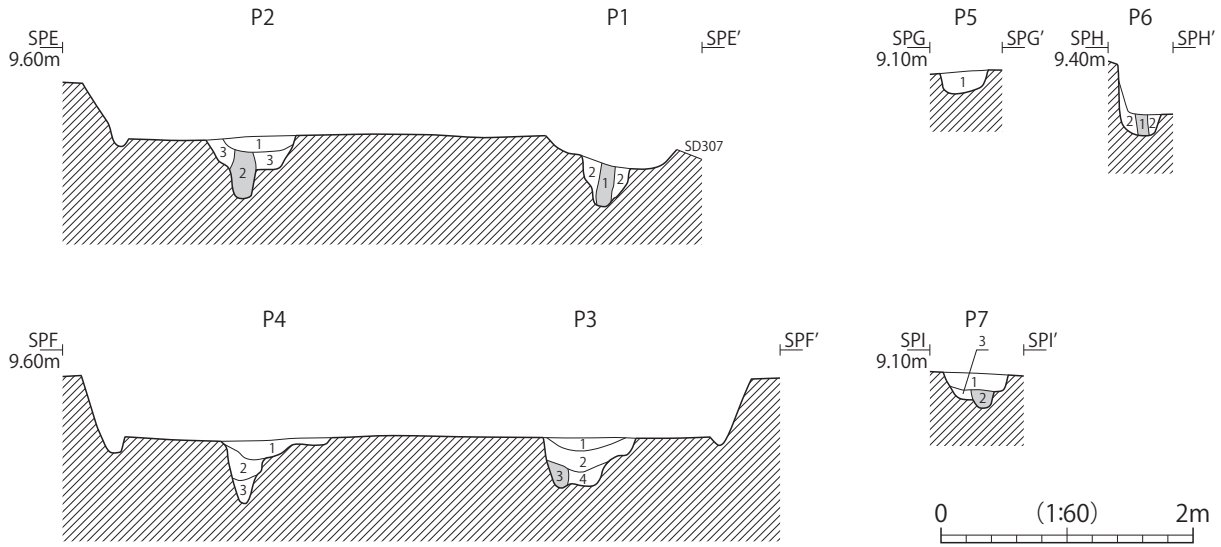
SIS27 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・黒色シルトブロック(10～20mm程度)少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P7	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、黒色シルトブロック(10～20mm程度)少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P8	—	—	—	※註記なし
P9	—	—	—	※註記なし
P10	—	—	—	※註記なし
P11	—	—	—	※註記なし
P12	—	—	—	※註記なし
P13	—	—	—	※註記なし
P14	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。
P15	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P16	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。
P17	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。
P18	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
SK1	①	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・黒色シルトブロック(10～20mm程度)少量含む。
SK2	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

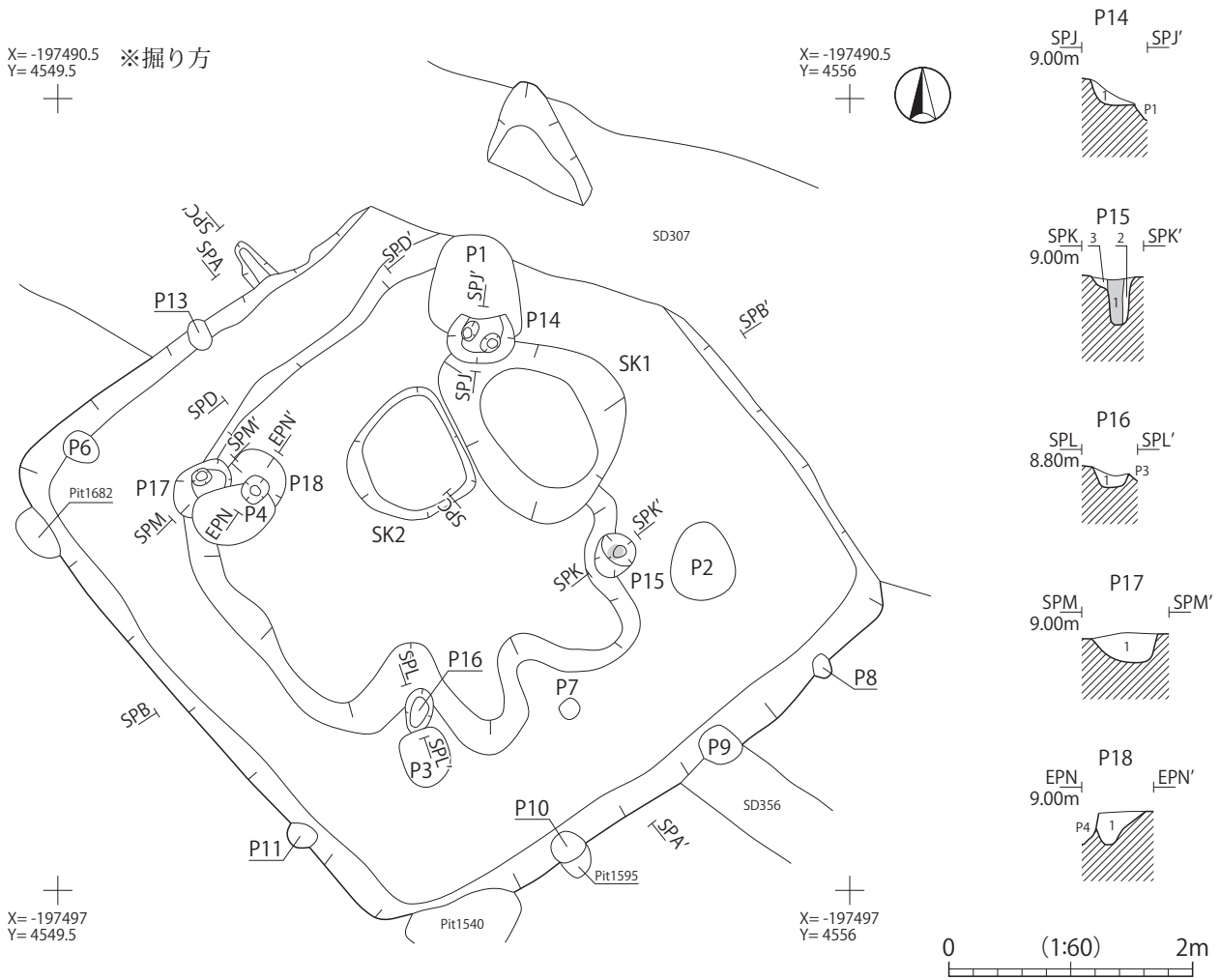
SIS27 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(隅丸方形)	(94)×(87)	56	主柱穴 柱痕跡
P2	円形	71×70	50	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	75×66	40	主柱穴 柱痕跡
P4	円形	90×76	55	主柱穴
P5	楕円形	62×38	18	性格不明(土坑か)
P6	楕円形	35×26	45	壁柱穴 柱痕跡
P7	楕円形	56×(46)	29	補助柱穴(入口施設) 柱痕跡
P8	円形	18×17	27	壁柱穴
P9	(円形)	(33)×31	(40)	壁柱穴
P10	円形	26×(24)	63	壁柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P11	楕円形	25×20	34	壁柱穴
P12	楕円形	18×15	34	壁柱穴
P13	楕円形	27×17	53	壁柱穴
P14	(楕円形)	55×(38)	53	補助柱穴or旧主柱穴
P15	楕円形	37×33	41	補助柱穴or旧主柱穴 柱痕跡
P16	楕円形	(37)×23	19	補助柱穴or旧主柱穴
P17	(円形)	55×(34)	43	補助柱穴or旧主柱穴
P18	(円形)	50×(30)	28	補助柱穴or旧主柱穴
SK1	楕円形	(164)×138	19	性格不明土坑
SK2	隅丸方形	95×94	21	性格不明土坑



第353図 SI527 竪穴住居跡(2)



第354図 SI527 竪穴住居跡(3)

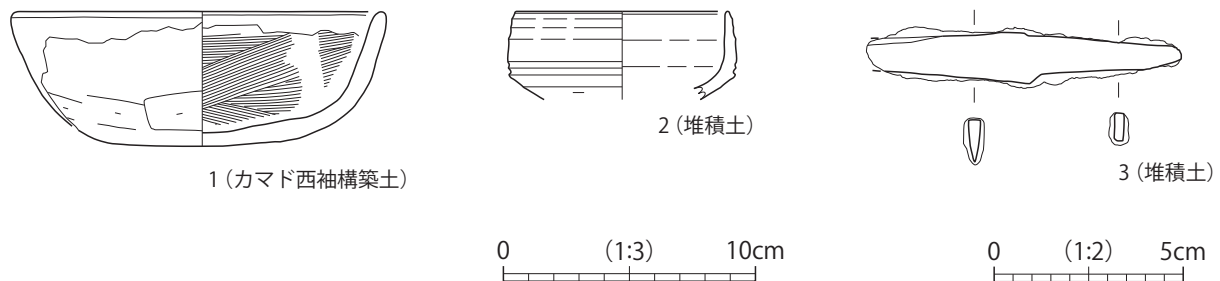
【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、煙道部はSD307の重複により大部分が失われ、燃烧部との接続部付近のみ残存する。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ71cm、幅27～30cm、西袖は長さ74cm、幅29～31cmを測る。両袖の先端には砂岩の加工礫や扁平な自然礫が、西袖には切石とともに土師器坏(第355図1)が芯材として埋設されている。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き77cm、幅32～58cmを測る。底面は弧状にくぼみ、中央部から焚口付近にかけて長径58cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら内湾気味に25cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は残存値で長さ36cm、幅13～23cm、深さ6cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【その他の施設】 掘り方で2基(SK1・2)の土坑を検出した。中央部付近に位置し、東西に隣接して並ぶが、性格は不明である。

【掘り方】 深さ7～20cmを測り、壁際が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器坏1点、須恵器坏1点、金属製品1点を掲載した(第355図)。1は土師器坏で、平底風丸底の底部から内湾して立ち上がり、口縁部で直線的にやや外傾する。内面はナデ調整が施されており、黒色処理は認められない。色調は明灰色を呈し、胎土はやや粗く、多量の2mm以下の砂礫を含む。関東系土師器が在地化したものと考えられる。2は小型品の須恵器坏である。直線的にやや内傾する口縁部で、沈線が口縁部と体部の境に2条めぐり段を形成する。色調はにぶい褐色を呈し、胎土は精良で、砂礫と少量の黒色粒子、多量の海綿骨針を含む。3は鉄製刀子である。関部は両関で形状は斜角関である。茎尻は栗尻である。

【時期】 カマド袖から出土した土師器坏(第355図1)の特徴およびSD356との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)～6期(8世紀前半)の可能性がある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-274	SI527 カマド西袖	構築土	土師器	坏	14.5	—	(5.3)	ハケスリ	ハケデ	内外面摩滅 外面二次被熱による赤色化	356
2	E-053	SI527	堆積土	須恵器	坏	(8.4)	—	(3.5)	口縁：叩調整 体上位：沈線 体中位：回転ハケスリ	叩調整	骨針多量含む	356
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版	
3	N-029	SI527	堆積土	金属製品	鉄製刀子	全長	幅	厚さ				
						(8.3)	1.3	0.3	12.5	刃部欠損 両関	356	

第355図 SI527 竪穴住居跡出土遺物

SI528 竪穴住居跡(第356・357図)

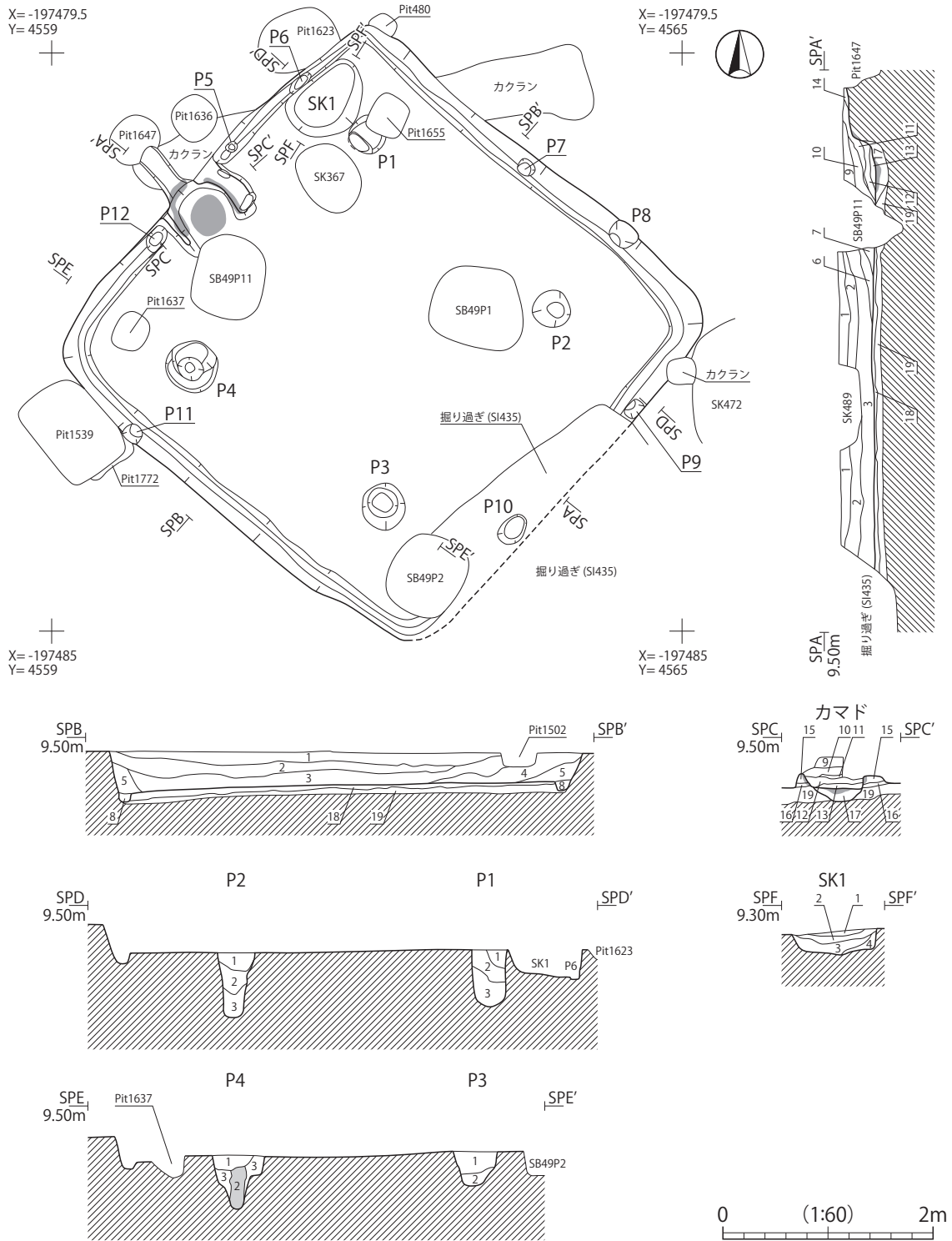
【位置・確認】 調査区南東部の108・115・116・124区に位置する。壁や床面の一部が、SB49などの重複遺構や攪乱により失われている。

【重複】 SB49、SK489より古く、SI435、SD328・362、SK491より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸460cm、短軸451cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-44°-Wを測る。

【堆積土】 19層に分層した。1～7層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～5層は人為的な埋土、6・7層は自然堆積とみられる。8層は周溝堆積土、9～14層はカマド堆積土である。15・16層はカマド袖構築土、17層はカマド掘り方埋土、18・19層は住居掘り方埋土である。



第356図 SI528 竪穴住居跡

S1528 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	8	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
カマド堆積土	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	11	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	12	10YR2/1 黒色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	13	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※灰層
	14	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド袖構築土	15	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土粒・黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)・焼土粒微量含む。
	16	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土粒少量、黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	17	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	18	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	19	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック斑状、炭化物粒微量含む。

S1528 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P6	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P7	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P9	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P10	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
SK1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒・骨片微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

S1528 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	34×(23)	54	主柱穴
P2	円形	36×35	57	主柱穴
P3	円形	42×42	32	主柱穴
P4	円形	49×47	49	主柱穴 柱痕跡
P5	円形	11×9	(9)	壁柱穴
P6	楕円形	26×9	(3)	壁柱穴
P7	円形	17×15	(3)	壁柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	隅丸方形	27×23	42	壁柱穴
P9	隅丸方形	19×13	37	壁柱穴
P10	(楕円形)	(32)×(23)	(19)	壁柱穴
P11	円形	18×17	49	壁柱穴
P12	楕円形	25×16	(11)	壁柱穴
SK1	楕円形	82×61	22	貯蔵穴

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で37cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、にぶい黄褐色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で12基(P1～12)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は残存値も含め長軸34～49cm、短軸23～47cm、深さ32～57cmを測る。P4の堆積土下半で、径14cm程度の柱痕跡を確認した。P5～12は壁柱穴と考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形を呈し、規模は幅14～21cm、深さ7～13cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、煙道部はPit1647の重複により先端部が失われている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ65cm、幅24cm、西袖は長さ51cm、幅17cmを測る。東袖の先端部と基部付近には、自然礫を芯材として埋設している。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥

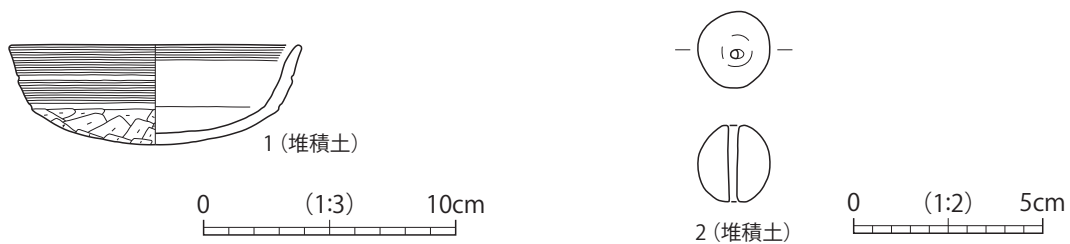
行き67cm、幅57cmを測る。底面は奥壁に向かって緩やかに立ち上がり、長径35cm程度の焼面がみられる。奥壁はわずかに外反して18cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は残存値で長さ50cm、幅21cm、深さ7cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。北東隅付近に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸82cm、短軸61cm、深さ22cmを測る。

【掘り方】 深さ10～26cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環1点、土製品1点を掲載した(第357図)。1は土師器環で、関東地方北西部に分布する有段口縁環の特徴を持つ関東系土師器である。薄手で精巧なつくりである。扁平な丸底で、体部は内湾し、口縁部は内湾気味だが上半で直線的にやや外傾する。口縁部と体部の境と口縁部中位に沈線状の段を持つ。外面底部のヘラケズリは一定方向に施されている。色調は橙色を呈し、胎土は精良で、砂粒と多量の赤色粒子を含む。焼成は良好で硬く締まる。2は球形の土玉である。調整は摩滅のため不明である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI435、SB49との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以降と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-275	SI528	堆積土	土師器	環	(11.4)	—	4.0	口縁：ヨガテ 体～底部：ヘラケズリ	口縁：ヨガテ 体部：不明	関東系 角閃石中量含む 内面摩滅	356
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版	
2	P-032	SI528	堆積土	土製品	土玉	全長	幅	厚さ				
						1.0	1.0	1.0	1.0	摩滅のため調整不明 孔径0.1cm		356

第357図 SI528 竪穴住居跡出土遺物

SI529 竪穴住居跡(第358図)

【位置・確認】 調査区南東部の117・125区に位置する。北西部を除く大部分が調査区外に延びる。西壁はSI432の重複により失われている。

【重複】 SI432より古く、SI430より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸301cm、短軸198cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 北壁を基準としてN-43°-Eを測る。

【堆積土】 3層に分層した。1層は暗褐色シルトの住居堆積土である。2層は周溝堆積土、3層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で12cm程度が残存するが、形状は不明である。

【床面】 全体の形状は不明で、褐色シルトの埋土上面を床面とする。

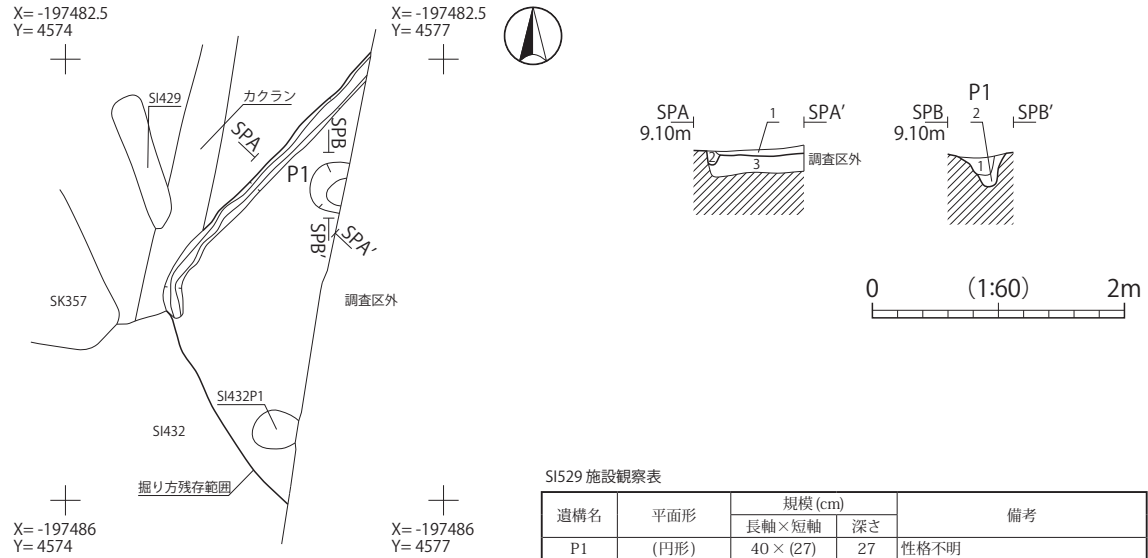
【柱穴】 床面で1基(P1)を検出した。柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 残存範囲では、北壁に沿って検出した。断面形はU字形を呈し規模は幅10～14cm、深さ3～10cmを測る。

【掘り方】 深さ1～17cmを測り、底面の全体形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI430・432との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～4期(7世紀中頃～後半)の可能性がある。



SI529 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
周溝堆積土	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒多量含む。
住居掘り方埋土	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック斑状、焼土ブロック(10mm程度)多量含む。

SI529 施設堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。

第358図 SI529 竪穴住居跡

SI530 竪穴住居跡 (第359図)

【位置・確認】 調査区南東部の117・124・125区に位置する。SI431・432・434の重複により大部分が失われ、カマドと北西隅の壁・床面が部分的に残存する。

【重複】 SI431・432・434より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸341cm、短軸138cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-51°-Wを測る。

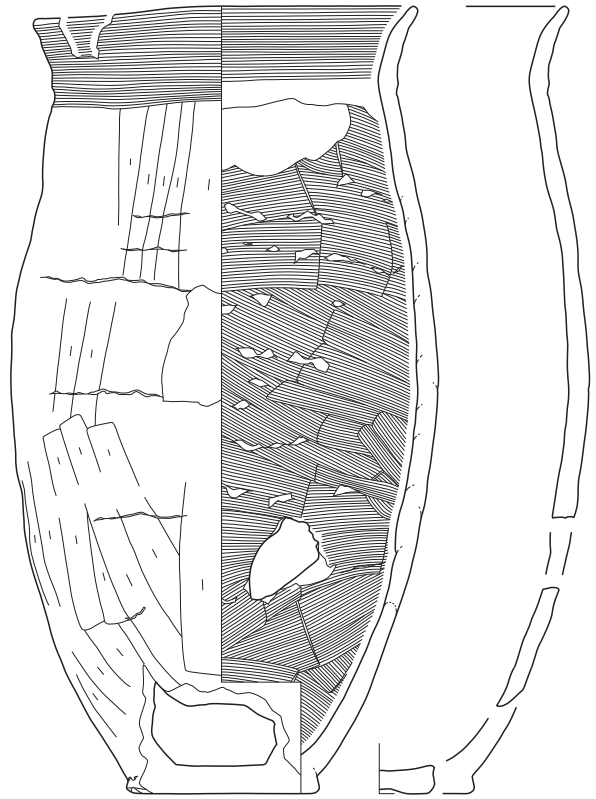
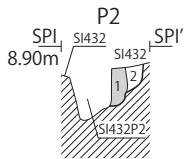
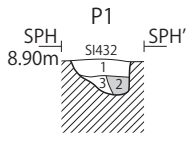
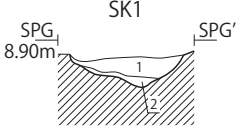
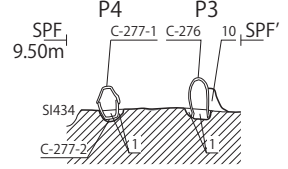
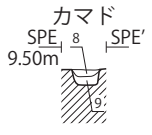
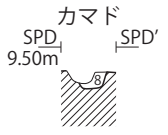
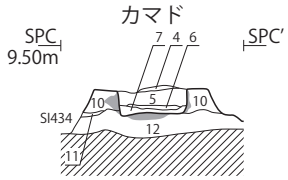
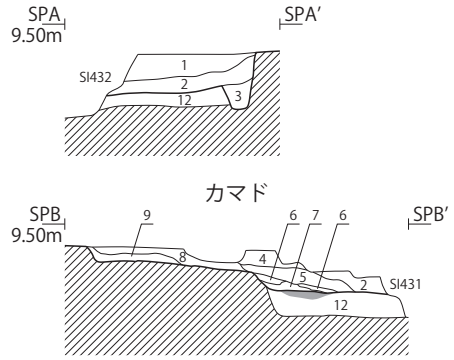
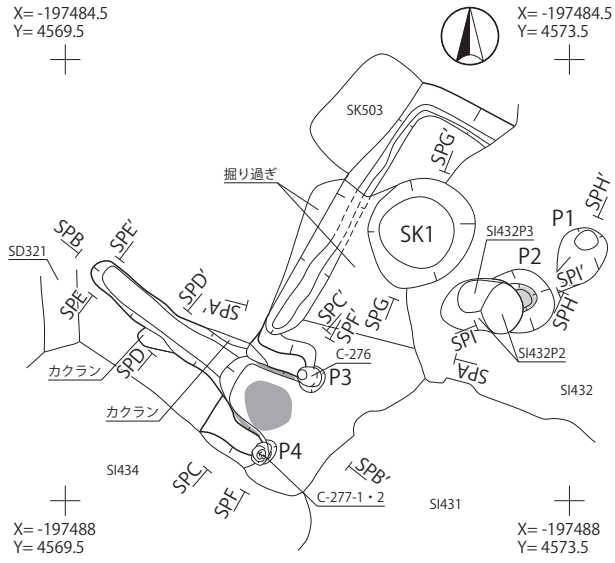
【堆積土】 12層に分層した。1・2層は暗褐色シルトの住居堆積土で、自然堆積とみられる。3層は周溝堆積土、4～9層はカマド堆積土である。10・11層はカマド袖構築土、12層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で36cmを測る。

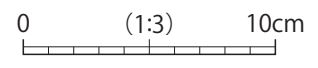
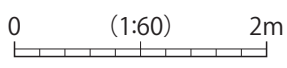
【床面】 全体の形状は不明で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 SI432の重複範囲内で2基(P1・2)を検出した。規模や位置からともに主柱穴の一部と考えられるが、新旧は不明である。規模は残存値で長軸48～50cm、短軸24～37cm、深さ28～33cmを測る。P1の堆積土下半とP2の堆積土で、径18～19cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形はU字形を呈し、規模は幅12～23cm、深さ12～17cmを測る。



1 (カマド北袖構築土)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-276	SI530 かまど北袖	構築土	土師器	甕	(15.0)	7.2	31.2	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラズリ 底部：ヘラテ	口縁：ヨコテ 胴～底部：ヘラテ	骨針少量、角閃石微量含む 胴部下位・底部2箇所に焼成後穿孔	356
写真のみ	C-277-1	SI530 かまど南袖	構築土	土師器	甕	—	7.1	(23.6)	ナメ	ヘラテ	底部木葉痕 外面やや摩滅	384
写真のみ	C-277-2	SI530 かまど南袖	構築土	土師器	甕	—	(7.0)	(6.5)	ヘラズリ	ヘラテ	底部木葉痕	384

第359図 SI530 竪穴住居跡・同出土遺物

SI530 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
周溝堆積土	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
カマド堆積土	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	7	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	灰・焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
カマド袖構築土	9	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。
	10	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
住居掘り方埋土	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物ブロック(10mm程度)多量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。

SI530 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
SK1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。

SI530 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	(48)×(37)	(28)	(旧)主柱穴 柱痕跡
P2	(円形)	(50)×(24)	(33)	(旧)主柱穴 柱痕跡
P3	円形	21×(16)	7	カマド袖芯材埋設穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	楕円形	19×(11)	9	カマド袖芯材埋設穴
SK1	(円形)	(90)×(80)	39	貯蔵穴

【カマド】 西壁に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、南袖の規模は長さ43cm、幅31cm、北袖は長さ47cm、幅29cmを測る。両袖の先端部には土師器甕を転用した芯材が、P3・4の内部に埋設されている。南袖は上部を欠いた甕2個体を重ね、北袖は甕(第359図1)1個体を逆位に伏せて構築されている。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き65cm、幅55cmを測る。底面は概ね平坦で、長径43cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら内湾気味に15cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ132cm、幅21～32cm、深さ15～17cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマドと北西隅の間に位置しており、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形と考えられ、規模は残存値で長軸90cm、短軸80cm、深さ39cmを測る。

【掘り方】 深さ16～19cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設から土師器・須恵器が出土し、カマド北袖の芯材として転用されていた土師器甕1点を掲載した(第359図)。また、南袖の転用芯材の土師器甕2点を写真で掲載した(写真図版384-4・5)。

1の底部の端部は張り出し、胴部は胴部中位に最大径が位置する張り弱い楕円形である。頸部に稜を持ち、口縁部は緩く外反する。外面は頸部の稜の下までヨコナデ、胴部は縦方向に弱いヘラケズリが施されている。胴部下位2箇所が焼成後に内側から穿孔されている。カマドに固定した痕跡と考えられる筋状の粘土痕が、胴部中位に2段認められる。底部には刺突状の不明工具痕がみられる。色調は浅黄橙色～にぶい黄橙色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と少量の海綿骨針を含む。

写真図版384-4・5(C-277-1・2)は土師器甕で、2は底部の破片資料である。写真図版384-4(C-277-1)の、胴部は下膨れを呈し、輪積痕が顕著に残る。外面胴部には幅の細かいハケメが施されている。

【時期】 カマド袖から出土した土師器甕(第359図1、写真図版384-4)の特徴やSI431・432・434との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI531 竪穴住居跡 (第360図)

【位置・確認】 調査区東部中央寄りの83・84・92・93区に位置する。大部分が調査区外へ延び、西壁周辺のみ検出された。壁の一部は攪乱により上部が失われている。柱穴・周溝・カマドなどの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SD328より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸382cm、短軸168cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 西壁を基準としてN-29°-Eを測る。

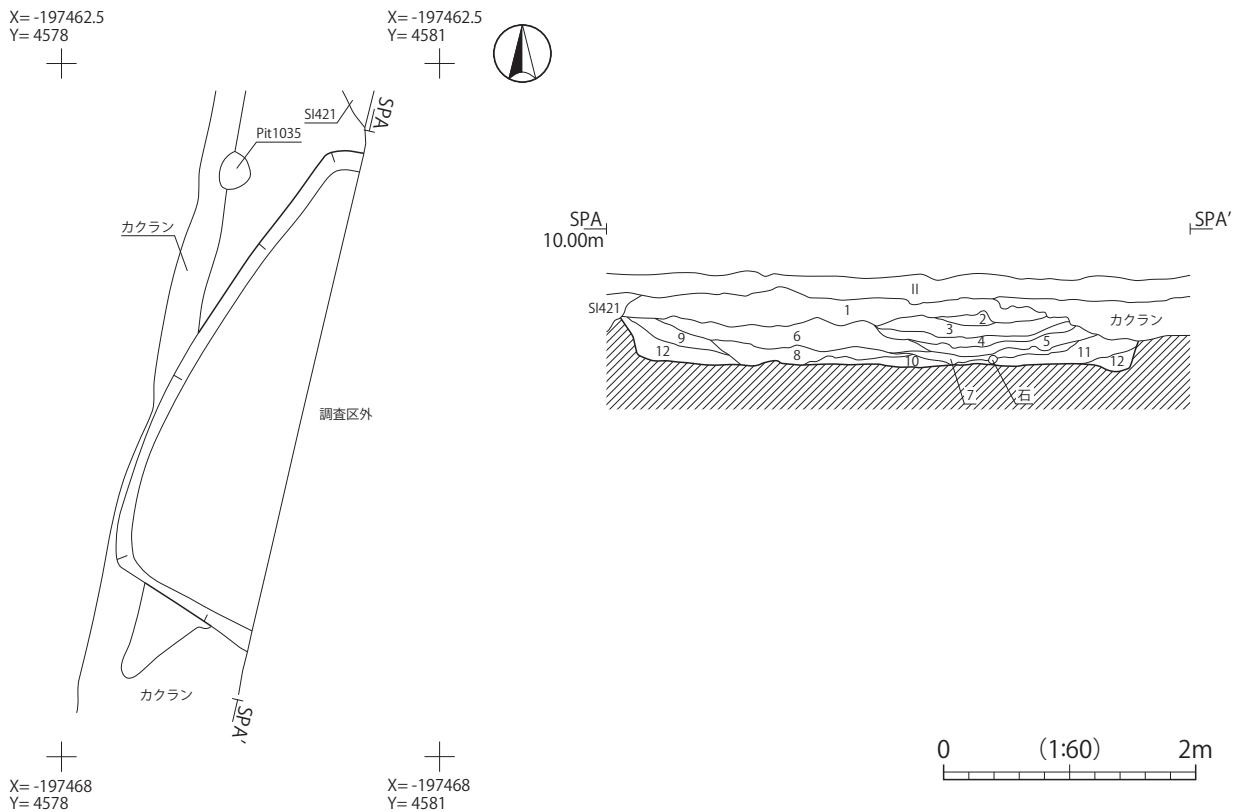
【堆積土】 12層に分層した。にぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で28cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、基本層IV層を直接床面とする。

【出土遺物】 出土しなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。



SI531 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (30 ~ 50mm 程度) 多量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒帯状に少量、焼土ブロック (20 ~ 50mm 程度) 微量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック (30 ~ 40mm 程度) 多量、炭化物粒少量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 50mm 程度) 多量含む。
	7	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 20mm 程度)・炭化物粒少量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 微量含む。
	10	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (30 ~ 50mm 程度) 少量含む。
	11	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (20 ~ 30mm 程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 微量含む。

第360図 SI531 竪穴住居跡

SI532 竪穴住居跡 (第361図)

【位置・確認】 調査区北西部の51・59区に位置する。SI461の重複により大部分が失われ、西壁際のみ残存する。

【重複】 SI461より古く、SI493より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸403cm、短軸51cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 西壁を基準としてN-8°-Wを測る。

【堆積土】 5層に分層した。灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。

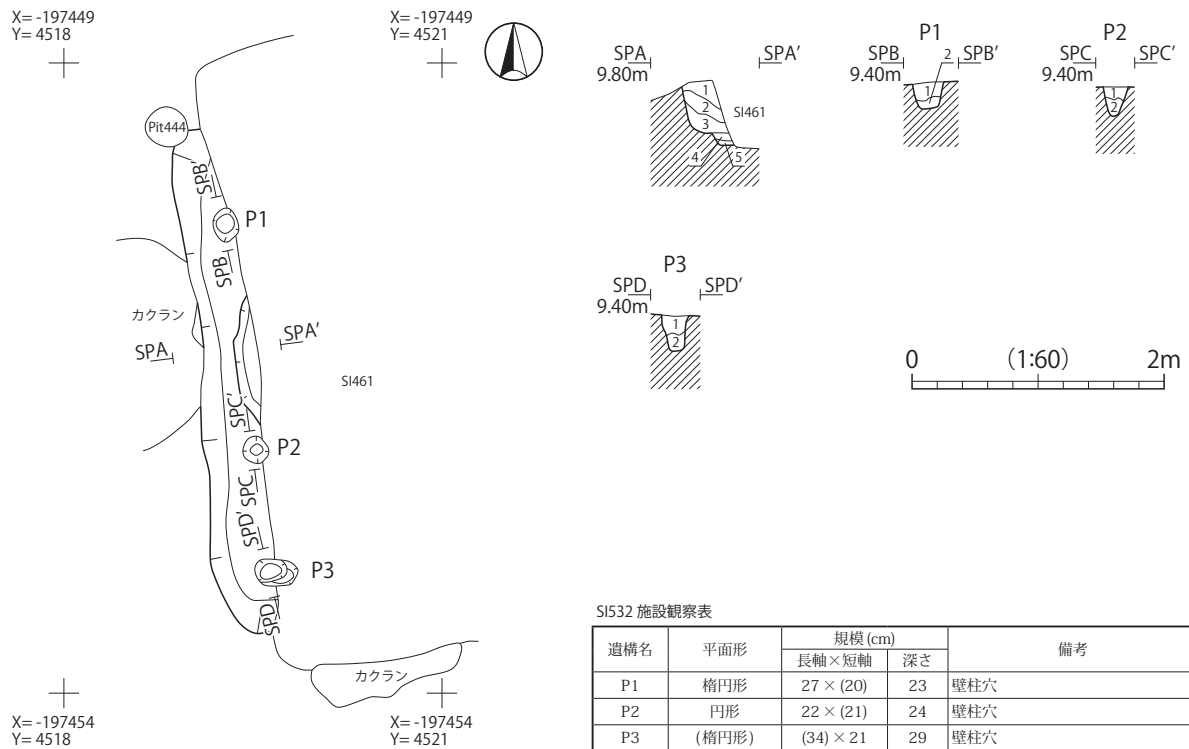
【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で42cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明である。

【柱穴】 西壁際で3基(P1～3)を検出した。いずれも壁柱穴と考えられる。

【出土遺物】 出土しなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI461・SI493との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～6期(8世紀前半)と考えられる。



SI532 堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土粒多量、IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

SI532 施設堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。

第361図 SI532 竪穴住居跡

(2) 鍛冶関連遺構(第45・362～372図、第23・24表)

鍛冶関連遺構は、竪穴状遺構1基(SI522)、土坑7基(SK328・329・355・358・383・461・477)、性格不明遺構7基(SX37・39・42～44・46・47)である。SI522は鍛冶炉を伴う工房と考えられる。土坑・性格不明遺構は被熱痕が認められるものや、多量の焼土・炭化物、鉄滓などが堆積土に含まれるものを鍛冶関連遺構として捉えた。これらの分布は、調査区中央部の竪穴住居跡が密集する範囲を取り囲むようにして点在し、南部ではSI522とSX42・43・46が比較的近くにまとまって位置している。

SI522 竪穴状遺構(第362～367図)

【位置・確認】 調査区南部の106・107・114・115・122・123区に位置する。西側はSD350、南壁はSD299の重複により失われている。

【重複】 SD299・317・350より古く、SK495、Pit1599より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸623cm、短軸399cmを測り、平面形は南北に長い長方形を呈する。東壁の南部には奥行き65cm、幅206cmの張り出し部を伴う。

【方向】 東壁を基準としてN-33°-Wを測る。

【堆積土】 8層に分層した。1～4層は黒褐色シルトを主体とする竪穴堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。5層は貼床で、上面(床面1)の構築土である。下面(床面2)を直接覆っており、床面の貼り直しと考えられる。6～8層は竪穴掘り方埋土で、6・7層上面が床面2に相当する。

【壁面】 内湾気味に外傾しながら立ち上がり、壁高の最大値は床面1で15cm、床面2で26cmを測る。

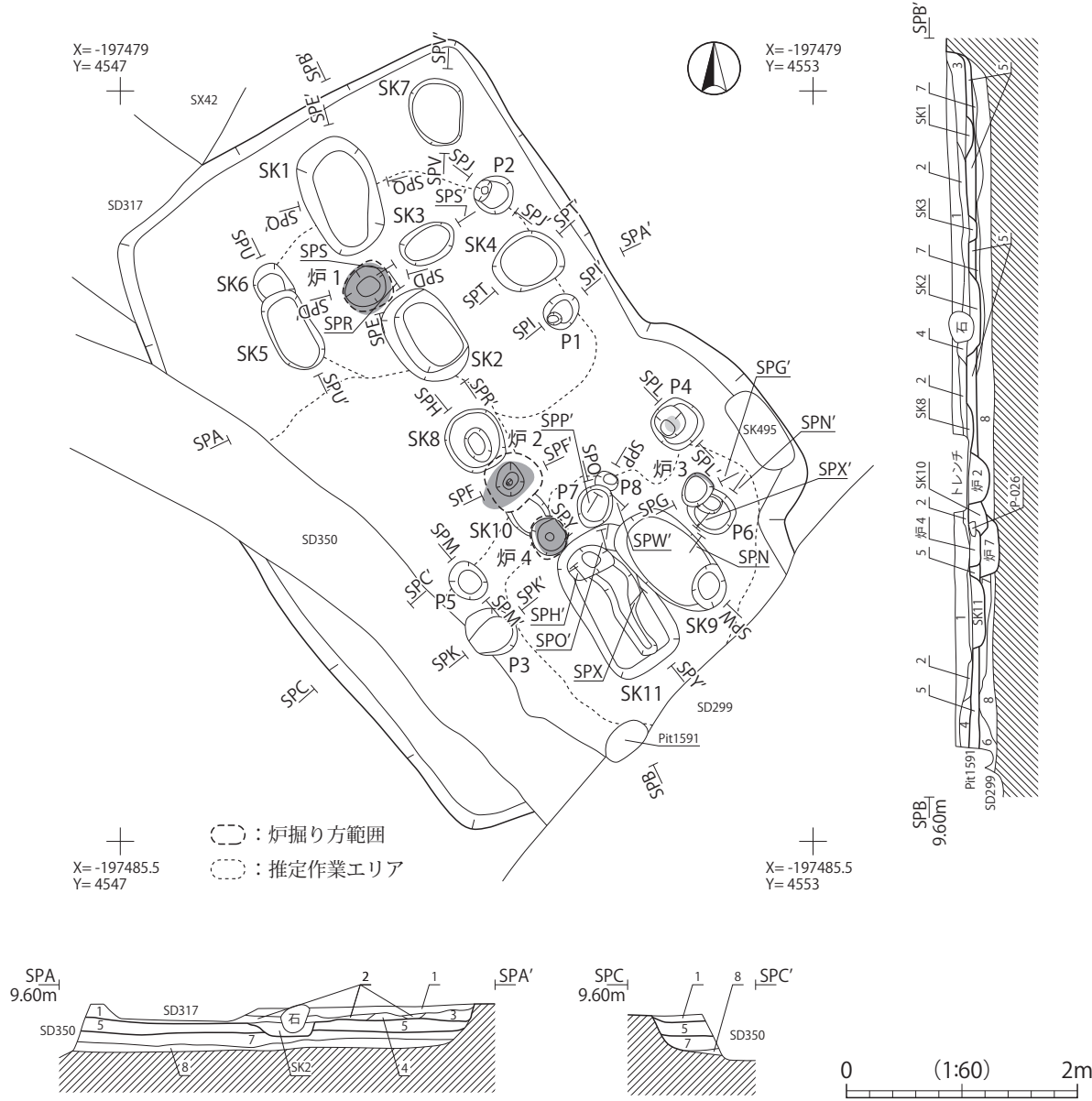
【床面】 床面1はわずかに起伏し、暗褐色シルトの貼床上面を床面とする。床面2は概ね平坦で、にぶい黄褐色砂質シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面1で8基(P1～8)、床面2で12基(P9～20)を検出した。床面1ではP1・2・4・5・7が東から南にかけて「L」字状に並ぶため、これらが支柱穴に相当する可能性がある。規模は長軸33～42cm、短軸27～41cm、深さ9～28cmを測る。P4で径13cm程度の柱痕跡が確認された。このほかは床面2の柱穴も含め、配置・規模・形状などが不規則であり、性格は不明である。P9・12・18で柱の抜き取り痕、P16では底面に径13cm程度の変色範囲が確認された。

【炉】 床面1で4基(炉1～4)、床面2で3基(炉5～7)を検出した。床面1上では炉1・2・4が竪穴本体の中軸上に並び、炉1が北部、炉2・4が中央部南寄りから南部に位置する。炉3は南東部の張り出し部付近に位置する。炉1の平面形は円形を呈し、規模は長軸37cm、短軸31cm、深さ8cmを測る。掘り方は長軸43cm、短軸39cm、深さ15cmを測り、炉体は褐灰色シルトで構築されている。炉2の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸29cm、短軸24cm、深さ12cmを測る。掘り方は長軸47cm、短軸46cm、深さ19cmを測り、炉体は灰黄褐色シルトを主体に構築されている。炉1・2の炉体は強度の被熱による白色化や硬化が全体にみられる。炉3の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸30cm、短軸25cm、深さ8cmを測る。掘り方は伴わず、炉体の被熱は部分的である。炉4の平面形は円形を呈し、規模は長軸33cm、短軸30cm、深さ8cmを測る。掘り方は長軸36cm、短軸33cm、深さ15cmを測り、炉体は灰黄褐色シルトで構築され、北壁には羽口(第367図5)の狭端部が突き出ている。炉体には被熱による白色化や硬化がみられるが、部分的である。

床面2上では炉1と一部重複して炉5が、炉5北西に炉6が、炉4の直下に炉7が位置する。炉5の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値も含め長軸38cm、短軸25cm、深さ12cmを測る。掘り方は長軸47cm、短軸35cm、深さ17cmを測り、炉体は褐灰色シルトで構築されている。炉体には強度の被熱による白色化や硬化が全体にみられる。炉6の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸17cm、短軸14cm、深さ3cmとかなり小型である。掘り方は長軸27cm、

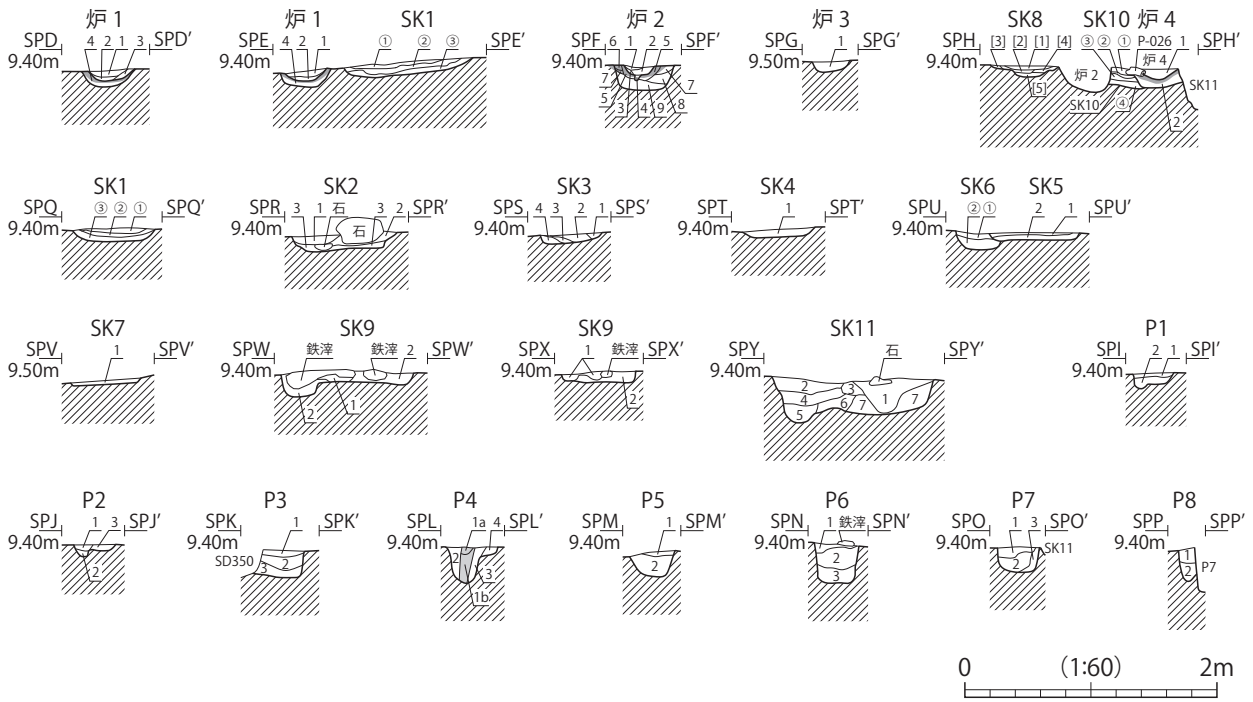
短軸22cm、深さ15cmを測り、炉体は褐灰色シルトを主体に構築されている。炉体には被熱による白色化や硬化がみられるが、部分的である。炉7は炉体の底面と掘り方のみ残存する。掘り方の平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸53cm、短軸51cm、深さ15cmを測る。炉体は灰黄褐色シルトを主体に構築されている。底面の被熱は弱い。



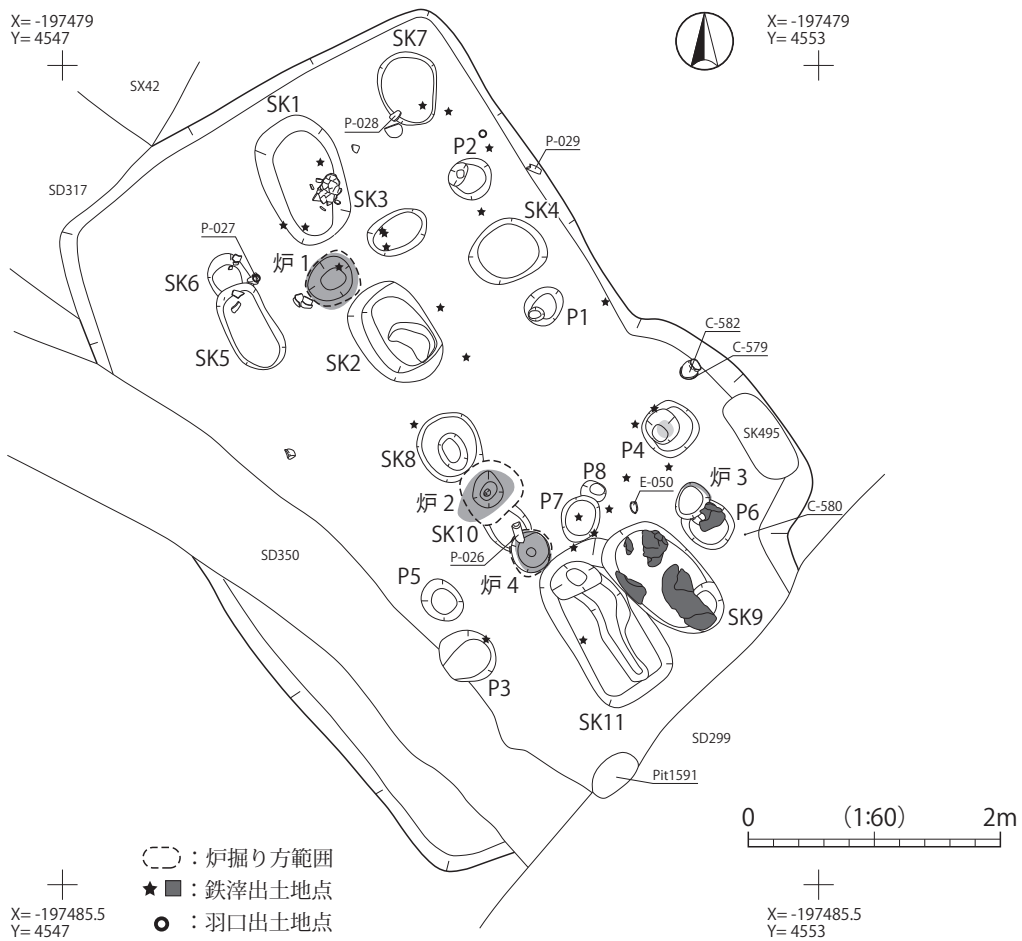
鍛冶関連遺構 SI522 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
竪穴堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒・鉄滓微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	鉄滓多量、IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	鉄滓多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
床面1貼床	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	上面に炭化物ブロック(5～10mm程度)多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
竪穴掘り方埋土	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※床面2
	7	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物粒微量含む。 ※床面2
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	

第362図 SI522 竪穴状遺構—床面1(1)



第363図 SI522 竪穴状遺構—床面1 (2)



第364図 SI522 竪穴状遺構—床面1 (3) および遺物出土状況

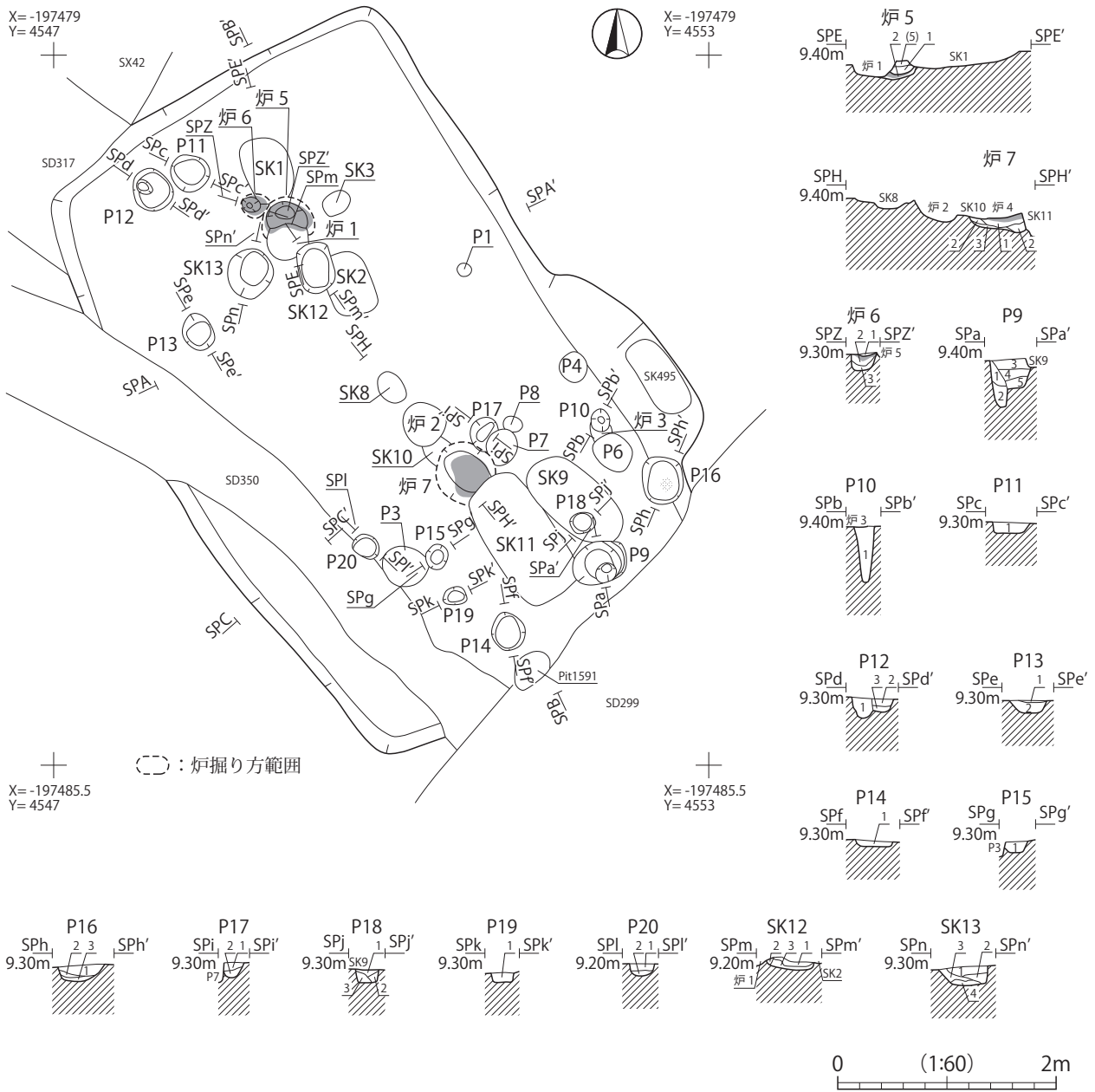
鍛冶関連遺構 S1522(床面1) 施設堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
炉1	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、灰・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・灰・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR6/1 褐灰色	シルト	全体が被熱。上半部白色硬化、下半部赤色化。 ※上面が炉床
炉2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	下部に炭化物帯状、IV層土粒・鉄滓微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)・IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)・IV層土粒少量含む。
	5	10YR6/1 褐灰色	シルト	全体が被熱。上半部白色硬化。 ※上面が炉床
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
炉3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	鉄滓多量、IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
炉4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒・鉄滓微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。上半部赤色化。 ※上面が炉床
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	鉄滓多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量、IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土斑状に含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
P4	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
P5	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	鉄滓多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に含む。
P7	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化物粒微量含む。
SK1	①	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	②	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～20mm程度)多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒・鉄滓微量含む。
	③	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	鉄滓少量、IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、鉄滓微量含む。
SK3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	
	4	5YR3/4 暗赤褐色	シルト	被熱した白色粘土・焼土主体。
SK4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)・焼土粒微量含む。
SK5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
SK6	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	②	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
SK7	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)少量、IV層土粒微量含む。
SK8	[1]	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	[2]	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～20mm程度)多量、IV層土粒・焼土粒微量含む。
	[3]	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	[4]	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	[5]	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
SK9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒・鉄滓微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
SK10	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	②	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
	③	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	鉄滓・炭化物ブロック(5mm程度)・IV層土粒多量含む。
	④	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
SK11	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、鉄滓・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、鉄滓・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、鉄滓少量含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。

鍛冶関連遺構 SI522 (床面1) 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
炉1	円形	37×32	8	鉄滓・羽口出土
炉2	楕円形	29×24	12	鉄滓出土
炉3	楕円形	30×25	8	
炉4	円形	33×30	8	鉄滓・羽口出土
P1	楕円形	33×27	15	主柱穴か
P2	円形	34×33	9	主柱穴か
P3	円形	45×(42)	22	性格不明 鉄滓出土
P4	隅丸方形	42×41	28	主柱穴か 柱痕跡 鉄滓出土
P5	楕円形	36×29	20	主柱穴か
P6	円形	(41)×36	31	鉄滓出土
P7	楕円形	38×31	20	主柱穴か 鉄滓出土
P8	楕円形	20×(14)	26	性格不明

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	楕円形	100×66	11	鉄滓出土
SK2	楕円形	85×58	13	鉄滓出土
SK3	楕円形	50×33	8	鉄滓出土
SK4	楕円形	58×51	6	
SK5	楕円形	72×40	6	
SK6	(円形)	(36)×31	15	
SK7	楕円形	59×48	3	鉄滓出土
SK8	円形	55×49	9	
SK9	楕円形	108×56	19	廃滓土坑 鉄滓出土
SK10	(楕円形)	33×(30)	15	羽口設置坑
SK11	隅丸長方形	130×70	36	鉄滓・羽口出土



第365図 SI522 竪穴状遺構—床面2

鍛冶関連遺構 S1522(床面2) 施設堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
炉5	(5)	10YR3/3 暗褐色	シルト	※A-A'・B-B'の7層に対応
	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	全体が被熱。上半部白色硬化、下半部赤色化。 ※上面が炉床
炉6	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※上面が炉床
	3	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
炉7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。上半部赤色化。 ※上面が炉床
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P9	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒・鉄滓微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒・鉄滓微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P10	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P11	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
P12	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P14	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒・鉄滓微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒・鉄滓微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒・鉄滓微量含む。
P17	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P18	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P19	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P20	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に含む。
SK12	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
SK13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)斑状に含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。

鍛冶関連遺構 S1522(床面2) 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
炉5	楕円形	38×(25)	12	
炉6	楕円形	17×14	3	鉄滓出土
炉7	(円形)	(53)×(51)	15	
P9	(楕円形)	(51)×(38)	43	性格不明
P10	楕円形	(21)×17	51	性格不明
P11	円形	36×34	10	性格不明
P12	円形	39×35	18	性格不明
P13	楕円形	34×27	12	性格不明
P14	円形	35×31	6	性格不明

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P15	円形	23×20	10	性格不明
P16	楕円形	44×37	15	底面変色範囲 性格不明
P17	楕円形	31×(24)	14	性格不明
P18	(楕円形)	(22)×(18)	(12)	性格不明
P19	楕円形	21×17	9	性格不明
P20	楕円形	26×(21)	11	性格不明
SK12	楕円形	46×(32)	14	
SK13	円形	45×41	19	

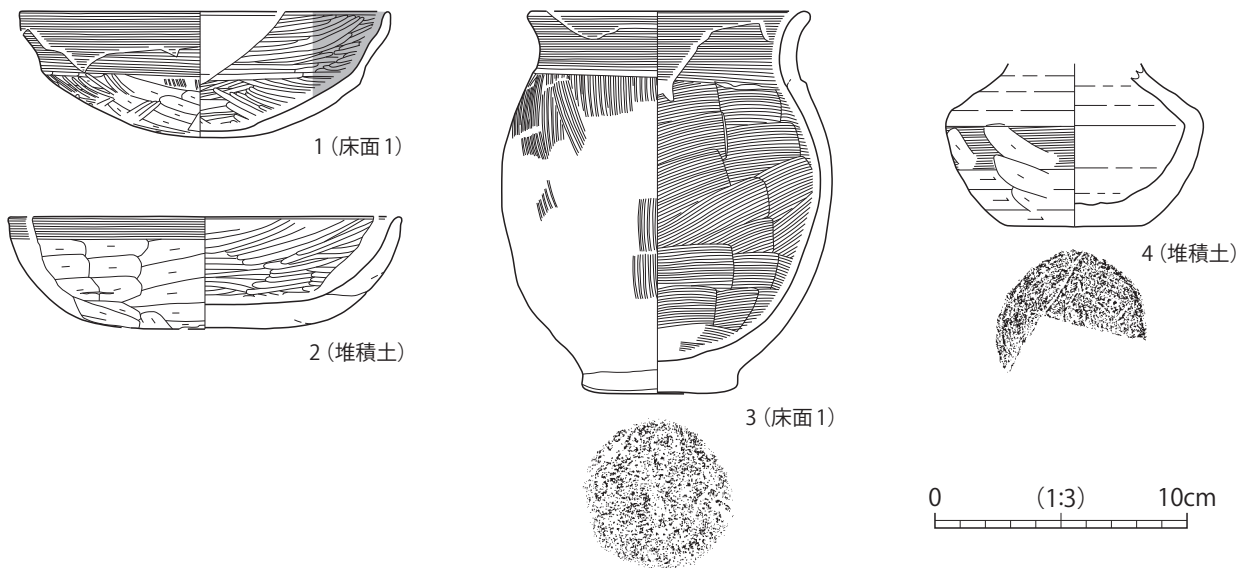
【その他の施設】 床面1で11基(SK1～11)、床面2で2基(SK12・13)の土坑を検出した。床面1上ではSK1・2・8・10・11が竪穴本体の中軸上に並び、このうちSK8・10は炉2・4より古い。SK3～7は北半部に、SK9はSK11を一部壊して東側に重複する。SK1・8は堆積土に多量の焼土・炭化物を含むことから、炉内の廃棄物を処理するための性格が考えられる。SK2からは堆積土上層から長さ37cm、幅21cm、厚さ23cmの礫が出土したため、金床石とその設置穴である可能性も考えられる。SK9からは多量の鉄滓が出土しており、廃滓土坑と考えられる。SK10は炉4に対する羽口の設置坑と考えられる。SK1の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸100cm、短軸66cm、深さ11cmを測る。SK2の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸85cm、短軸58cm、深さ13cmを測る。SK3の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸50cm、短軸33cm、深さ8cmを測る。SK4の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸58cm、短軸51cm、深さ6cmを測る。SK5の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸72cm、短軸40cm、深さ6cmを測る。SK6の平面形は円形と考えられ、規模は残存値で長軸36cm、短軸31cm、深さ15cmを測る。SK7の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸59cm、短軸48cm、深さ3cmを測る。SK8の平面形は円形を呈し、規模は長軸55cm、短軸49cm、

深さ 9cm を測る。SK9 の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸 108cm、短軸 56cm、深さ 19cm を測る。SK10 の平面形は楕円形と考えられ、規模は残存値で長軸 33cm、短軸 30cm、深さ 15cm を測る。SK11 の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸 130cm、短軸 70cm、深さ 36cm を測る。

床面 2 上では SK12・13 とともに炉 5・6 南側に近接し、SK12 は炉 1 の重複により一部が失われている。SK12 の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸 46cm、短軸 32cm、深さ 14cm を測る。SK13 の平面形は円形を呈し、規模は長軸 45cm、短軸 41cm、深さ 19cm を測る。

【掘り方】 深さ 8～13cm を測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓、土製品が出土した。鉄滓の総重量は 11,434g を測り、土製品は全て羽口である。土師器環 2 点・甕 1 点、須恵器壺もしくは甕 1 点、土製品 4 点を掲載した(第 366・367 図)。1・3 は張り出し部の床面 1 から出土し、環の上に甕が置かれた状態で出土した。5 の羽口は、炉 4 から出土した。1・2 は土師器環である。1 は薄手の丸底で、厚みを持った体部は直線的に外傾する。口縁部は下半が外傾し、上半で内湾して直立する。口縁部と体部の境は外面に段、内面に稜を持つ。内面に黒色処理が施されている。以上の特徴から東北地方北部の影響を受けたものと考えられる。2 は厚手の丸底風平底の底部から内湾し、口縁部でわずかに外反する。内面に黒色処理は認められない。色調は橙色を呈し、胎土は精良で、微量の砂粒、微量の海綿骨針を含む。3 は小型の土師器甕である。胴部上位に最大径が位置する張りのある楕円形を呈し、口縁部は外反する。頸部は明瞭な段を持つ。本住居から出土したこれらの土師器には、斑状に黒色の付着物が認められる。4 は須恵器壺もしくは甕と考えられる。厚手のつくりで、肩部は丸く屈曲する。色調は灰色～青灰色を呈し、胎土は精良

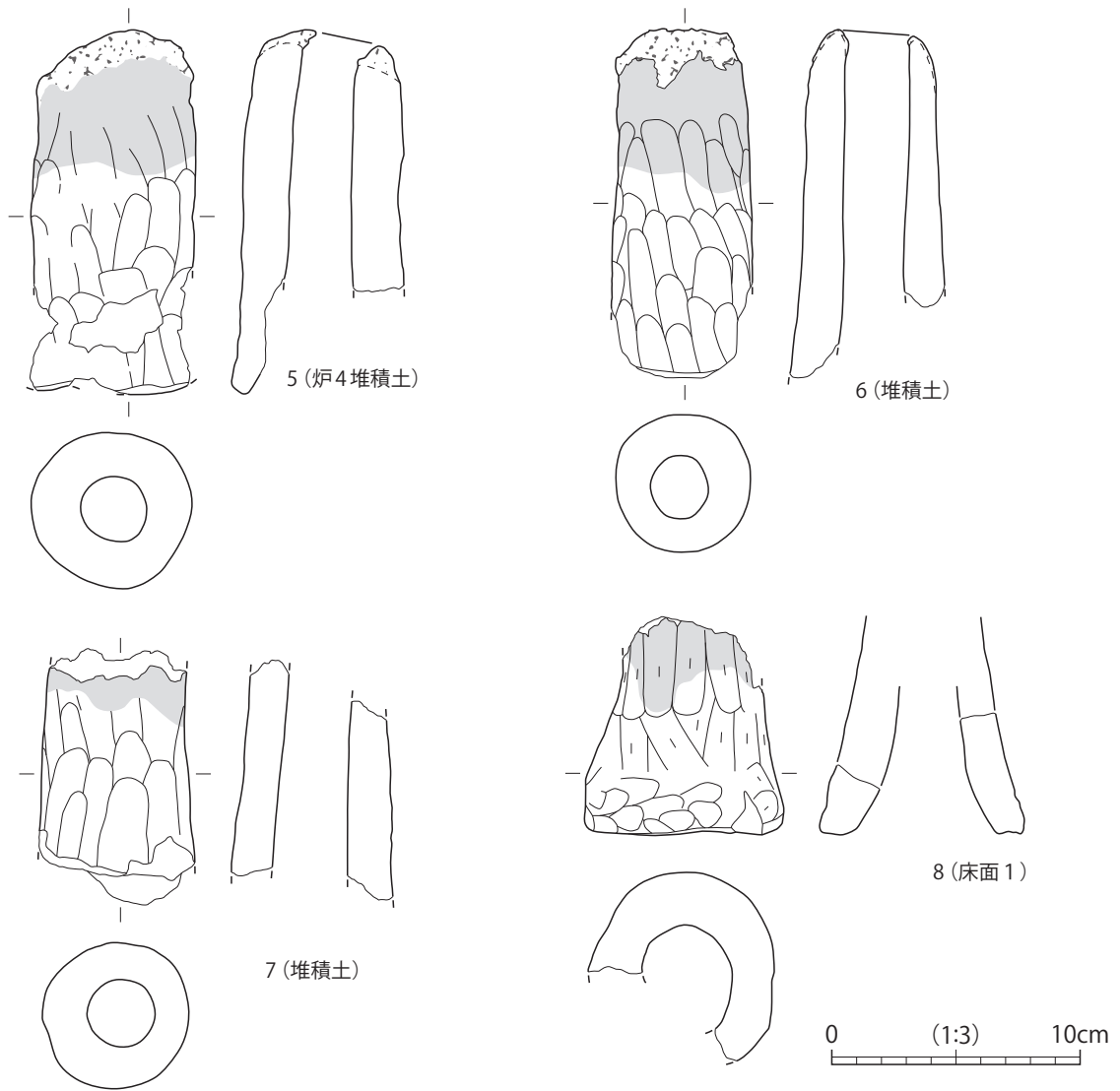


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-579	SI522	床面 1	土師器	環	(14.6)	—	5.0	口縁：ヨコテ 体上位：ハメ→ハカスリ→ヘラミガキ 体下位～底部：ハカスリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 外面僅かに黒色の付着物	356
2	C-580	SI522	堆積土	土師器	環	(15.6)	—	(4.5)	口縁：ヨコテ 体～底部：ハカスリ	ヘラミガキ	内外面に黒色付着物 骨針微量含む	356
3	C-582	SI522	床面 1	土師器	甕	(11.0)	6.1	15.2	口縁：ヨコテ 胴部：ハメ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラテ	底部木葉痕 外面胴下半・内面口縁部摩擦 内外面に黒色付着物	356
4	E-050	SI522	堆積土	須恵器	壺 or 甕	—	5.4	(6.5)	体上位：ワロ調整 体中位：ハメ→手持ちハカスリ 体下位：回転ハカスリ→手持ちハカスリ 底部：回転ハカスリ	ワロ調整	外面体部上位灰かぶり 骨針中量含む	356

第 366 図 SI522 竪穴状遺構出土遺物 (1)

で、砂粒と海綿骨針を含む。5～8は羽口である。いずれも狭端部付近が被熱により変色しており、5・6には融解物が付着している。5～7の外側はナデが施され、内側は芯棒を引き抜き後、未調整である。8の外側はヘラケズリ、吸気部・内側はナデが施されている。

【時期】 床面1から出土した土師器杯・甕(第366図1・3)の特徴から、4期(7世紀中頃～後半)～5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。なお、炉2の炉床から採取した炭化物について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦641～661年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
5	P-026	SI522 炉4	堆積土	土製品	羽口	14.7	6.6	6.3	481.9	外面：ナデ 内面：芯棒引き抜き未調整 狭端部融解物付着あり 被熱による変色あり	356
6	P-029	SI522	堆積土	土製品	羽口	(14.0)	5.7	5.5	348.3	外面：ナデ 内面：芯棒引き抜き未調整 狭端部融解物付着あり 被熱による変色あり	356
7	P-027	SI522	堆積土	土製品	羽口	(10.3)	6.3	5.9	297.7	外面：ナデ 内面：芯棒引き抜き未調整 狭端部側被熱による変色あり	356
8	P-028	SI522	床面1	土製品	羽口	(8.8)	8.0	7.6	226.0	外面：ヘラケズリ吸気部ナデ 内面：ナデ 狭端部側被熱による変色あり	356

第367図 SI522 竪穴状遺構出土遺物(2)

SK328土坑(第368図、第23表)

調査区北西部の45区に位置する。壁の一部は攪乱により上部が失われている。SI437、Pit1266より新しい。平面形は溝状の細長い隅丸長方形を呈し、東西方向へ延びる。南壁は一部が42cm程張り出す。規模は長軸367cm、短

軸71cm、深さ57cmを測る。堆積土は7層に分層した。灰黄褐色シルトを主体とし、多量のIV層土ブロックや焼土・炭化物を含むことから人為的な埋土とみられる。下層には多量の炭化物ブロックを含む。遺物は、堆積土から土師器・須恵器、瓦などが出土したが、図化できるものはなかった。

本土坑は堆積土に焼土・炭化物を多量に含むことから、廃棄土坑と考えられる。時期決定できる遺物はないが、SI437との新旧関係から5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以降と考えられる。

SK329土坑(第368図、第23表)

調査区北西部の44区に位置する。壁の上部は攪乱により一部が失われている。SI438・439より新しい。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸77cm、短軸63cm、深さ15cmを測る。堆積土は2層に分層した。底面直上に11cm程度の厚さで堆積する炭化物層が主体である。遺物は、堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

本土坑は底面における炭化物の堆積状況と、被熱の痕跡がみられないことから、廃棄土坑ないし木炭の貯蔵土坑と考えられる。時期決定できる遺物はないが、SI438・439との新旧関係から、4期(7世紀中頃～後半)以降の可能性がある。

SK355土坑(第368・369図、第23表)

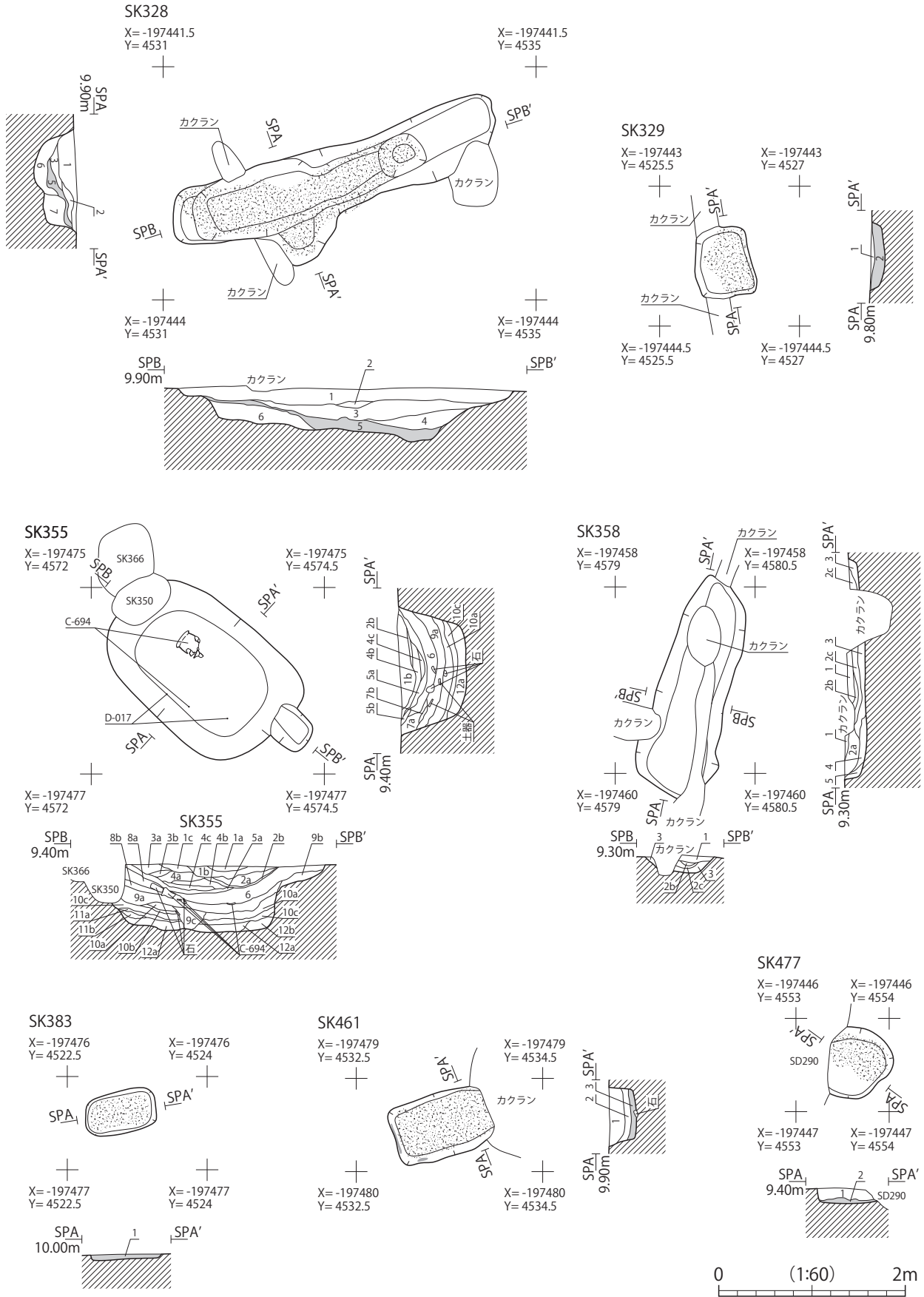
調査区東部の101・109区に位置する。壁上部はSK350の重複により一部が失われている。SK350より古く、SK370、Pit754より新しい。平面形は東西に長い隅丸長方形を呈し、規模は長軸208cm、短軸140cm、深さ71cmを測る。東壁に奥行き44cm、幅40cmを測る張り出し部を伴う。堆積土は大別で12層に分層した。黒褐色・暗褐色シルトやにぶい黄褐色シルト・灰黄褐色シルトなどが互層状を成すことから人為的な埋土とみられ、多量の焼土・炭化物を含む。遺物は、堆積土から土師器・須恵器などが出土し、土師器甕1点・ミニチュア土器1点、ロクロ土師器坏1点、礫石器2点を掲載した(第369図)。1は土師器甕で、胴部最大径が上位に位置し、そこから底部に向かって緩やかにすぼまるものと考えられる。口縁部は直線的に外傾し、端部でつまみ上げられている。2は土師器ミニチュアの鉢である。体部は内湾し、口縁部で短く内傾する。3はロクロ土師器坏である。平底から丸味を持って立ち上がり、内湾しながら口縁部に至る。外面はロクロ調整の稜を消すように軽くヘラミガキが施されている。体部下端から底部は手持ちヘラケズリ後にヘラミガキが施されている。内面に黒色処理が施されている。4は磨敲石である。磨面が2面あり、a面に溝状痕、a～e面に敲打痕がみられる。石材は安山岩である。5は台石である。磨面が2面あり、a・b面に溝状痕、a～c面に敲打痕が認められる。石材は凝灰岩である。4・5ともに溝状痕・線條痕がみられることから、砥石の機能を併せ持つと考えられる。

本土坑は堆積土に焼土・炭化物を多量に含むことから、廃棄土坑と考えられる。時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。

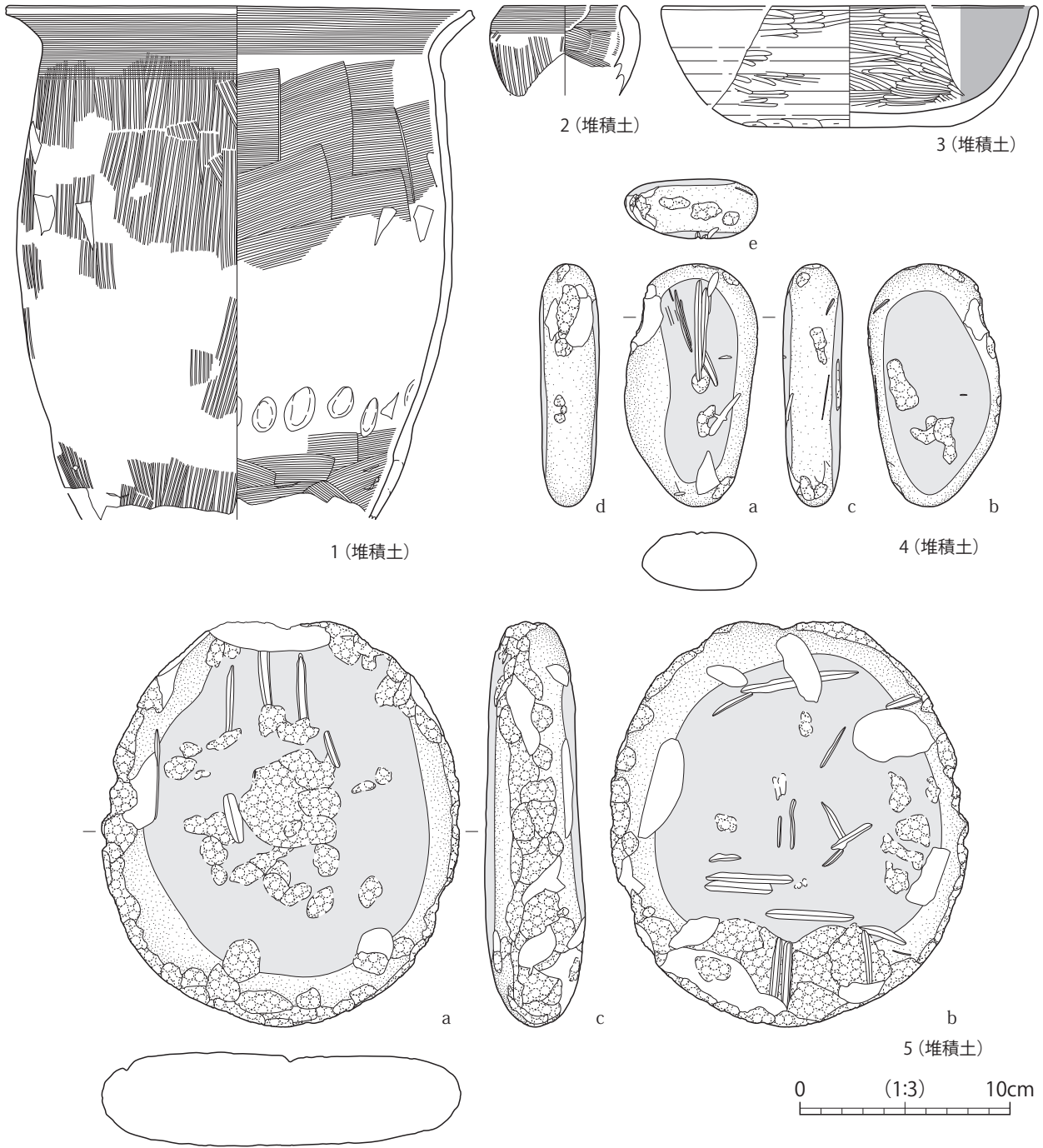
SK358土坑(第368図、第23表)

調査区東部の74・75・83・84区に位置する。壁や底面の一部は攪乱により失われている。SI421、SD299より新しい。平面形は南北に長い隅丸長方形を呈し、規模は長軸237cm、短軸91cm、深さ23cmを測る。堆積土は大別で5層に分層し、2層をa～cに細別した。黒褐色シルトを主体とする。中層に多量の焼土・炭化物を含むことから、人為的な埋土とみられる。遺物は、堆積土から土師器・須恵器が出土したが、図化できるものはなかった。

本土坑は堆積土に焼土・炭化物を多量に含むことから、廃棄土坑と考えられる。時期決定できる遺物はないが、SI421、SD299との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以降と考えられる。



第368図 SK328・329・355・358・383・461・477 鍛冶関連遺構



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-694	SK355	堆積土	土師器	甕	(22.2)	—	(24.5)	口縁：ハメ→ヨサデ 胴部：ハメ	口縁：ヨサデ 胴上位：ハサデ 胴中位：北サデ 胴下位：ハサデ	角閃石少量含む	357
2	C-695	SK355	堆積土	土師器	ミヅアヲ鉢	(5.8)	—	(4.3)	口縁：ヨサデ→ハメ 体部：ハメ	口縁部：ヨサデ 体部：北サデ		357
3	D-017	SK355	堆積土	ロクロ土師器	坏	(17.6)	(9.6)	5.8	口縁～体部：ロウ調整→ハミガキ 体下端～底部：手持ちハラスリ→ハミガキ	ハミガキ	内面黒色処理	357
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
4	Kc-029	SK355	堆積土	礫石器	磨+敲石	11.6	6.4	2.8	274.1	安山岩	磨2面(平坦) 敲(平坦・側面) 溝状痕	357
5	Kc-030	SK355	堆積土	礫石器	台石	19.3	17.1	4.7	1338.5	凝灰岩	磨2面(平坦) 凹1面(浅) 敲(平坦・側面) 溝状痕	357

第369図 SK355 鍛冶関連遺構出土遺物

SK383 土坑 (第368図、第23表)

調査区西部の104区に位置する。SD314より新しい。平面形は東西に長い隅丸長方形を呈し、規模は長軸76cm、短軸47cm、深さ9cmを測る。堆積土は灰黄褐色シルトの単層で、多量の炭化物を含むことから人為的な埋土とみられる。遺物は、堆積土から土師器・須恵器などが出土したが、図化できるものはなかった。

本土坑は堆積土に焼土・炭化物を多量に含むことから、廃棄土坑と考えられる。時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。

第23表 鍛冶関連遺構 (SK) 観察表

遺構名	区割	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SK328	45	隅丸長方形	367×71	57	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5～20mm程度)少量、IV層土粒微量含む。	SI437、Pit1266より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5～20mm程度)少量、骨片微量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					4	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。	
					5	10YR2/1 黒色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～20mm程度)多量含む。	
					6	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。	
					7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
SK329	44	隅丸長方形	77×63	15	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化物斑状・IV層土粒少量、焼土ブロック(30～60mm程度)微量含む。	SI438・439より新しい。
					2	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。	
SK355	101 109	隅丸長方形	208×140	71	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	SK350より古く、SK370、Pit754より新しい。
					1b	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					1c	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	
					2a	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3a	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。	
					3b	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					4a	10YR4/6 褐色	砂質シルト	IV層土主体、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					4b	7.5YR3/4 暗褐色	砂質シルト	被熱したIV層土主体。焼土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					4c	10YR4/6 褐色	砂質シルト	焼土粒微量含む。	
					5a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒少量、IV層土粒・焼土粒微量含む。	
					5b	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～30mm程度)少量含む。	
					6	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					7a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・炭化物粒微量含む。	
					7b	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
					8a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					8b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒微量含む。	
					9a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					9b	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	
					9c	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					10a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					10b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。	
					10c	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
					11a	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
11b	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土主体、炭化物粒微量含む。						
12a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。						
12b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。						
SK358	74・75 83・84	隅丸長方形	237×91	23	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI421、SD299より新しい。
					2a	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5～40mm程度)多量含む。	
					2b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2c	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)部分的に含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	
5	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。						
SK383	104	隅丸長方形	76×47	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物ブロック(30mm程度)多量、焼土粒微量含む。	SD314より新しい。
SK461	105	隅丸長方形	(107)×69	30	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	SI474A、SD349より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
					3	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。	
SK477	55	(円形)	77×(70)	15	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	SD290より古く、SI510、Pit1541より新しい。
					2	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。	

SK461 土坑 (第368図、第23表)

調査区南部の105区に位置する。東部は攪乱により失われている。SI474A、SD349より新しい。平面形は東西に長い隅丸長方形を呈し、規模は残存値で長軸107cm、短軸69cm、深さ30cmを測る。西壁と南壁の一部には被熱範囲がみられる。堆積土は3層に分層した。灰黄褐色シルトを主体とする自然堆積とみられる。底面には炭化物が6cm程度の厚さで堆積する。遺物は、堆積土から土師器・須恵器が出土したが、図化できるものはなかった。

本土坑は壁面の被熱状況や、底面における炭化物の堆積状況から、焼成土坑と考えられる。時期決定できる遺物はないが、SI474A、SD349との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以降の可能性はある。

SK477 土坑 (第368図、第23表)

調査区北部の55区に位置する。西部はSD290の重複により失われている。SD290より古く、SI510、Pit1541より新しい。平面形は円形と考えられ、規模は残存値で長軸77cm、短軸70cm、深さ15cmを測る。堆積土は2層に分層した。灰黄褐色シルトを主体とする自然堆積とみられる。底面には炭化物が6cm程度の厚さで堆積する。遺物は、堆積土から土師器・須恵器、鉄滓が出土したが、図化できるものはなかった。鉄滓は1点出土し、重量は2gを測る。

本土坑は底面における炭化物の堆積状況と、被熱の痕跡がみられないことから、廃棄土坑ないし木炭の貯蔵土坑と考えられる。時期決定できる遺物はないが、SI510との新旧関係から、4期(7世紀中頃～後半)以降と考えられる。

SX37 性格不明遺構 (第370・371図、第24表)

調査区北西端部の16区に位置する。壁は攪乱により上部の大部分が失われている。SI442・444より新しい。浅い土坑状の遺構で、平面形は楕円形と考えられ、規模は残存値で長軸119cm、短軸98cm、深さ17cmを測る。堆積土は3層に分層した。にぶい黄褐色シルトを主体とする。下層に多量の炭化物・焼土を含むことから、人為的な埋土とみられる。遺物は、堆積土から土師器、ロクロ土師器などが出土し、底面から出土したロクロ土師器坏1点を掲載した(第371図1)。平底から緩く内湾して立ち上がり、口縁部で直線的に外傾する。底部の切り離しは、体部下半から底部にかけて手持ちヘラケズリによる再調整が施されており不明である。内面に黒色処理が施されている。内外面に漆と考えられる黒色付着物が認められる。

本遺構は堆積土に焼土・炭化物を多量に含むことから、廃棄土坑と考えられる。時期についてはSI422と重複するため、次年度刊行予定の報告書で記載する。

SX39 性格不明遺構 (第370図、第24表)

調査区東部の73区に位置する。北東部は攪乱により一部が失われている。重複遺構はない。被熱範囲のみ検出した。平面形は円形を呈し、規模は長軸46cm、短軸39cmを測る。被熱は強く、顕著な赤色化や硬化がみられる。一部には灰・炭化物が薄く堆積する。遺物は出土しなかった。

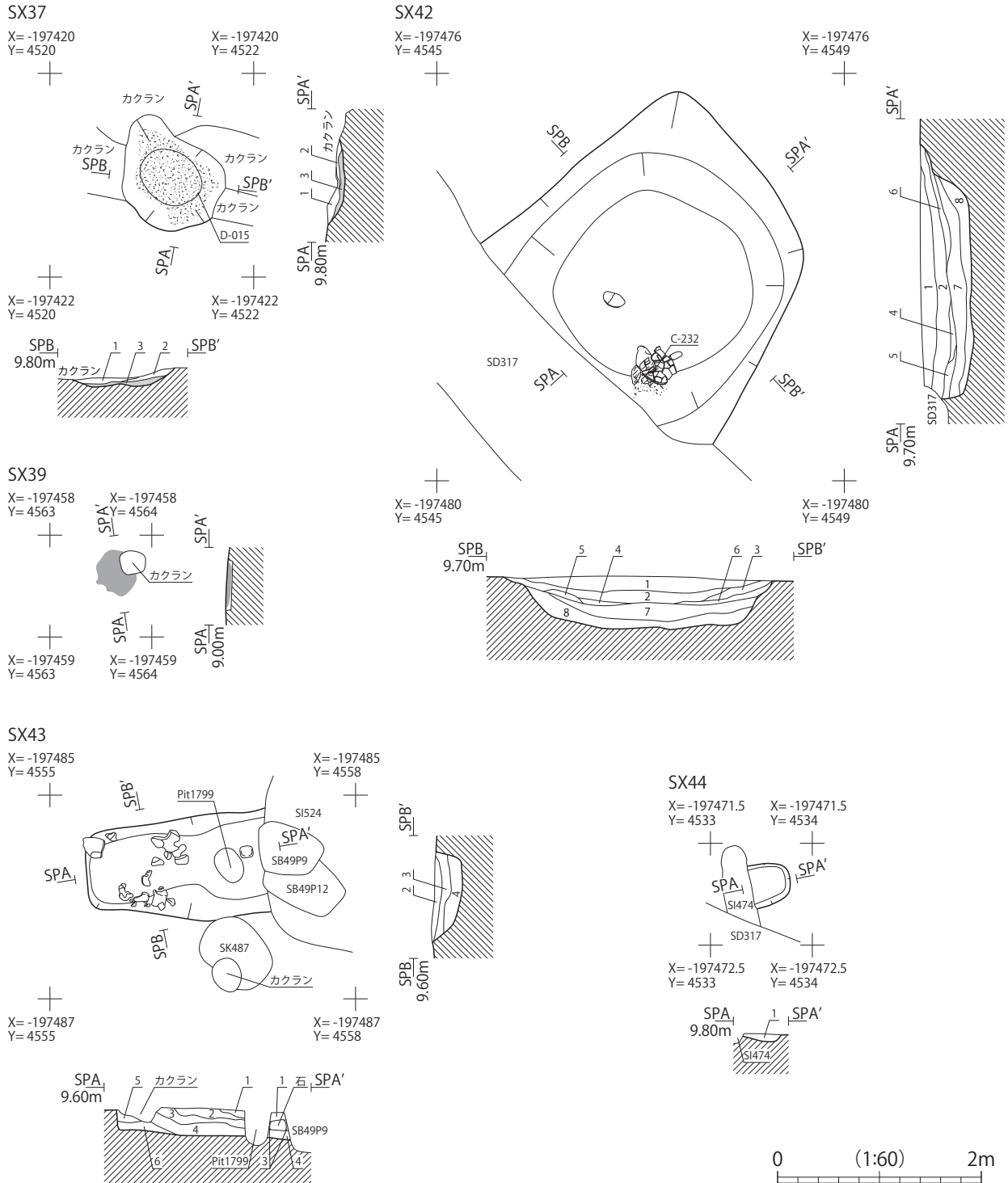
本遺構は被熱状況や灰・炭化物の堆積状況から、焼成遺構と考えられる。時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。

SX42 性格不明遺構 (第370・371図、第24表)

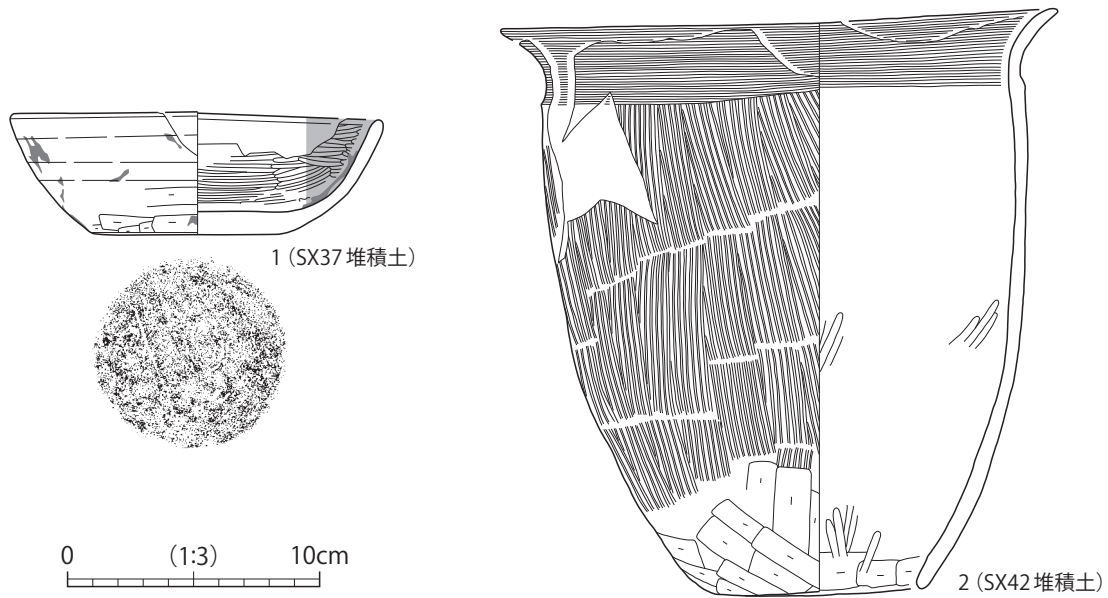
調査区南部の106区に位置する。SI522の北側に近接し、西部はSD317の重複により失われている。SD317より古い。竪穴状の遺構で、平面形は隅丸方形と考えられる。規模は残存値で長軸300cm、短軸255cm、深さ52cmを測る。底面はわずかに起伏し、一部に小規模な炭化物範囲がみられる。堆積土は8層に分層した。上層は黒褐色

シルト、下層はにぶい黄褐色シルトを主体とする。1～6層は自然堆積、7・8層はIV層土ブロックを多量に含むことから人為的な埋土とみられる。遺物は、堆積土から土師器などが出土し、土師器甕1点を掲載した(第371図2)。単孔の土師器甕で、胴部中位から下端にかけて緩くすぼまり、頸部に段を持ち、口縁部は外反する。

本遺構はSI522に近接し、主軸方向も一致することからSI522関連施設の可能性もある。なお、底面から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ西暦436～542年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。



第370図 SX37・39・42～44 鍛冶関連遺構



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	D-015	SX37	堆積土	ロクロ土師器	環	14.5	7.7	4.9	口縁～体上半：凹調整 体下半～底部：手持ちハラスリ	ハミガキ	内面黒色処理 内外面に漆状 付着物	357
2	C-232	SX42	堆積土	土師器	甕	22.0	8.5	23.3	口縁：ヨナデ 胴部：ハマ 胴下端～底部：ハラスリ	口縁：ヨナデ 胴部：ハミガキ 底部：ハラスリ	単孔 角閃石少量含む 内面 摩滅	357

第371図 SX37・42 鍛冶関連遺構出土遺物

SX43 性格不明遺構 (第370図、第24表)

調査区南東部の123区に位置する。東部はSI524、SB49の重複により失われている。SI524、SB49、SK487より古く、SD328、Pit1659より新しい。土坑状の遺構で、平面形は東西に長い隅丸長方形と考えられ、規模は残存値で長軸193cm、短軸104cm、深さ27cmを測る。堆積土は6層に分層した。黒褐色シルトや灰黄色シルトなどが互層状を成すことから人為的な埋土とみられる。堆積土の一部に多量の炭化物を含む。遺物は、堆積土から土師器・須恵器、鉄滓、土製品(羽口1点)などが出土したが、図化できるものはなかった。鉄滓の総重量は6,384gを測る。

本遺構は堆積土に炭化物を多量に含むことや、鉄滓、羽口などの出土遺物から、廃棄土坑と考えられる。なお、堆積土2層から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦685～798年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。

SX44 性格不明遺構 (第370図、第24表)

調査区中央部の97区に位置する。西部はSI474Aの重複により失われている。SI474Aより古い。浅い土坑状の遺構で、平面形は隅丸長方形と考えられ、規模は残存値で長軸43cm、短軸38cm、深さ8cmを測る。堆積土は灰赤色シルトの単層で、多量の灰や焼土・炭化物を含む。遺物は出土しなかった。

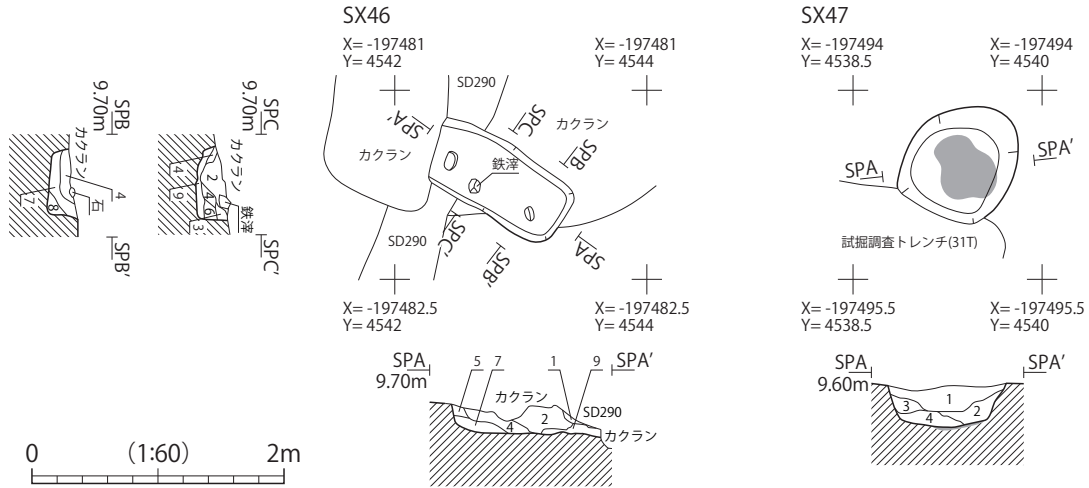
本遺構は堆積土に灰・焼土・炭化物を多量に含むことから、廃棄土坑の可能性もある。時期決定できる遺物はないが、SI474Aとの新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。

SX46 性格不明遺構 (第372図、第24表)

調査区南部の114区に位置する。西部が攪乱、壁上部の大部分がSD290の重複や攪乱により失われている。同時代の重複遺構はない。土坑状の遺構で、平面形は東西に長い長方形と考えられ、規模は残存値で長軸122cm、短軸60cm、深さ24cmを測る。堆積土は9層に分層した。黒褐色シルトを主体とする。全体的に多量の焼土・炭化物を

含むことから、人為的な埋土とみられる。遺物は、堆積土中から土師器・須恵器、鉄滓、土製品（羽口2点）などが出土したが、図化できるものはなかった。鉄滓の総重量は1,974gを測る。

本遺構は堆積土に炭化物を多量に含むことや、鉄滓、羽口などの出土遺物から、廃棄土坑と考えられる。時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。



第372図 SX46・47 鍛冶関連遺構

第24表 鍛冶関連遺構 (SX) 観察表

遺構名	区割	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SX37	16	(楕円形)	(119) × (98)	17	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量含む。	SI442・444 より新しい。
					2	10YR2/1 黒色	砂質シルト	焼土粒多量、炭化物粒少量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度)・炭化物粒多量含む。	
SX39	73	円形	46 × 39	—	※被熱範囲として検出。				
SX42	106	(隅丸方形)	300 × (255)	52	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	SD317 より古い。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
					5	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土斑状に含む。	
					6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					7	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (20 ~ 30mm 程度) 多量、黒褐色シルトブロック (10 ~ 20mm 程度) 少量含む。	
					8	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 多量含む。	
SX43	123	(隅丸長方形)	(193) × 104	27	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。	SI524、SB49、SK487 より古く、SD328、Pit1659 より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度)・炭化物ブロック (5 ~ 20mm 程度) 多量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
					6	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SX44	97	(隅丸長方形)	43 × (38)	8	1	2.5YR4/2 灰赤色	シルト	灰多量、IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度)・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。	SI474A より古い。
SX46	114	(長方形)	(122) × (60)	24	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒・鉄滓微量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒・鉄滓多量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に含む。	
					4	10YR4/1 褐灰色	シルト	鉄滓多量、IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					5	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土斑状、焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。	
					7	10YR4/1 褐灰色	シルト	鉄滓多量、IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					8	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					9	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、灰白色シルト粒・炭化物粒・鉄滓微量含む。	
SX47	129 137	楕円形	(95) × 84	35	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit1632 より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 少量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					4	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5mm 程度)・炭化物ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量、焼土粒微量含む。	

SX47 性格不明遺構 (第372図)

調査区南端部の129・137区に位置する。南壁の上部は平成19年度の確認調査(試掘)で削平されている。Pit1632より新しい。土坑状の遺構で、平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸95cm、短軸84cm、深さ35cmを測る。底面には被熱範囲がみられる。堆積土は4層に分層した。灰黄褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は、堆積土中から土師器・須恵器が出土したが、図化できるものはなかった。

本遺構は底面の被熱状況から、焼成土坑と考えられる。時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。

(3) 掘立柱建物跡 (第45・373～379図)

掘立柱建物跡を、5棟(SB45～49)検出した。SB45～48が調査区北西部に「コ」字状に位置し、このうちSB46・47は重複する。これらの真北を基準とした主軸方位は概ね一致していることから、計画的に配置された一群と考えられる。その北側にはSD287・332が位置し、東西の方位が各建物跡とほぼ一致することから関連施設と考えられる。また、周辺には平面形が隅丸方形ないし隅丸長方形で、一部柱痕跡を伴うピットが点在しており、別の建物が存在した可能性もある。SB49は南東部に単独で位置し、方位がSB45～48と異なる特徴を持つ。

SB45 掘立柱建物跡 (第373・374図)

調査区北西部の45・46・53・54区に位置し、10基の柱穴を確認した。柱穴の残存状態は悪いものが多く、西側梁部のP7および北側桁部のP10は攪乱により上部が失われ、底面付近のみ残存する。SI409・424・437・478、SD331・333、Pit848・1242より新しい。SD304と重複するが、攪乱のため新旧関係は不明である。

南北2間、東西3間の東西棟側柱建物跡で、北側桁行を基準とした主軸方位はN-85°-Eである。規模は桁行総長526cm、梁行総長409cm、床面積約21.5㎡を測る。北側柱列の柱間寸法は東から173cm、177cm、176cm、東側柱列は北から211cm、198cmを測る。柱穴の平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形、円形、楕円形を基調とし、規模は残存値も含め長軸31～112cm、短軸29～100cm、深さ43～76cm(P7・10は除く)を測る。P7を除く各柱穴で柱痕跡や底面の変色範囲、柱の圧痕とみられるくぼみが確認され、P1・4・8・9で確認された柱痕跡の規模は径20～34cm程度を測る。P1で柱痕跡と別の位置に底面の変色範囲を確認したことから、一部で建て替えが行われたと考えられる。

遺物は、P8を除く9基の柱穴から土師器・須恵器、礫石器などが出土し、P3から出土した礫石器1点を掲載した(第373図)。1は磨敲石で、a・b面のほぼ全体を磨面とし、溝状痕・線条痕もみられる。またa・b面の中央やc面には敲打痕が認められる。石材は凝灰岩である。

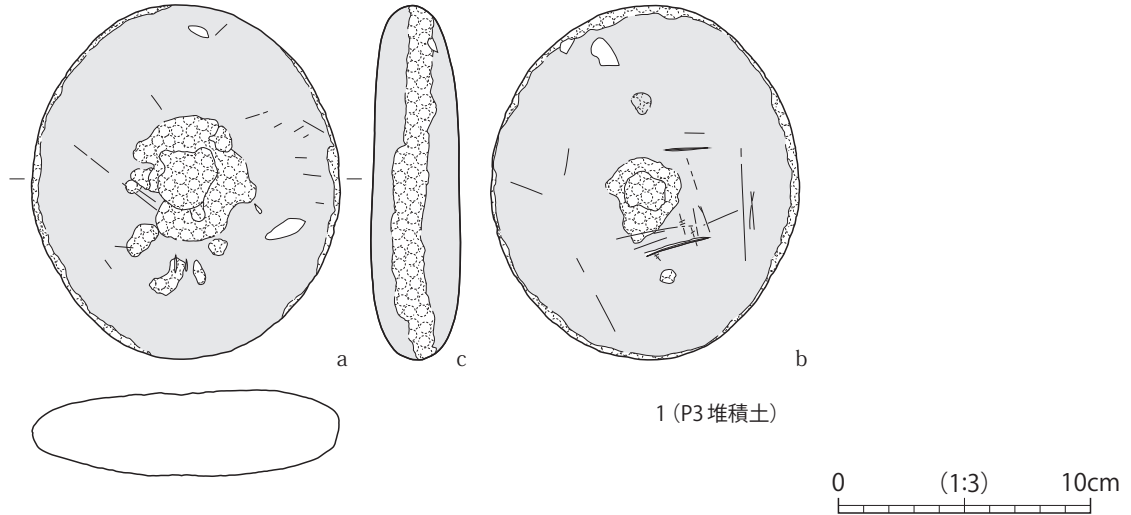
時期決定できる遺物はないが、SI409・424・437・478との新旧関係から、6期(8世紀前半)以降と考えられる。

SB46 掘立柱建物跡 (第375図)

調査区北西部の36・44区に位置し、12基の柱穴を確認した。北西隅のP8は大部分がSB47などとの重複により失われており、P8以外の柱穴も、SI440の先行調査により上部が20～30cm前後失われている。SB47より古く、SI438～440、Pit731・1173・1201・1209・1308より新しい。

南北2間、東西3間のやや不整な方形棟総柱建物跡である。北側桁行を基準とした主軸方位はN-84°-Eである。規模は桁行総長376～400cm、梁行総長371～406cm、床面積約15.0㎡を測る。北側柱列の柱間寸法は東から121cm、120cm、135cm、南側柱列は東から135cm、138cm、127cm、東側柱列が北から217cm、189cm、西側柱列は北から195cm、176cmを測る。柱穴の平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形を基調とし、規模は残存値も含め長軸33～60cm、短軸20～48cmを測り、深さ13～57cmを測る。P1～3・6・7・9～12で柱痕跡や底面

の変色範囲、柱の圧痕とみられるくぼみを確認した。P1～3・6・7・10～12で確認した柱痕跡の規模は径14～17cm程度を測る。P1・2の柱痕跡上部は失われている。

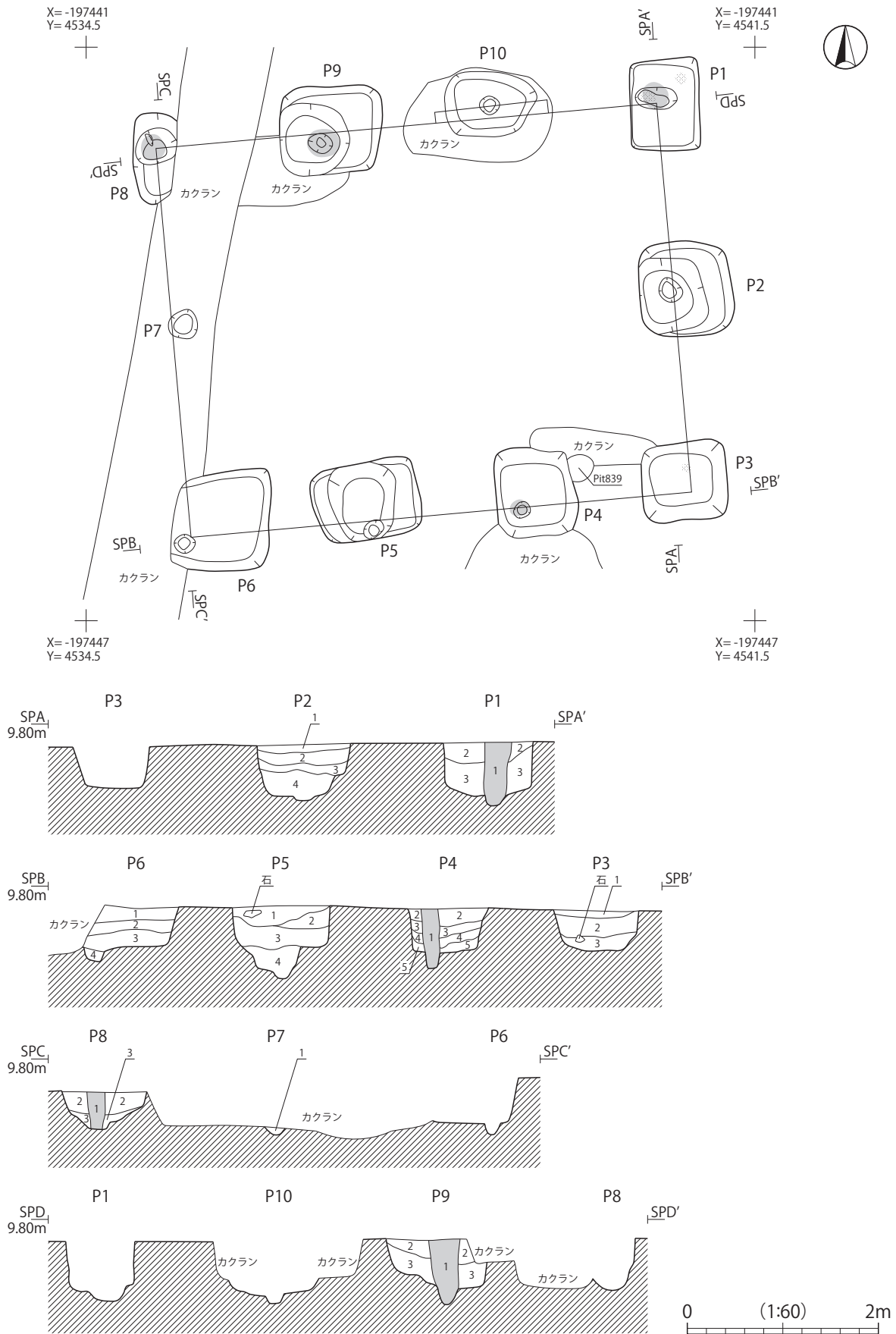


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
1	Kc-031	SB45 P3	堆積土	礫石器	磨+凹+敲石	14.0	12.2	3.5	501.5	凝灰岩	磨2面(平坦) 凹1面(浅) 敲(平坦・側面) 溝状痕 線条痕	358

第373図 SB45 掘立柱建物跡出土遺物

SB45 掘立柱建物跡 観察表

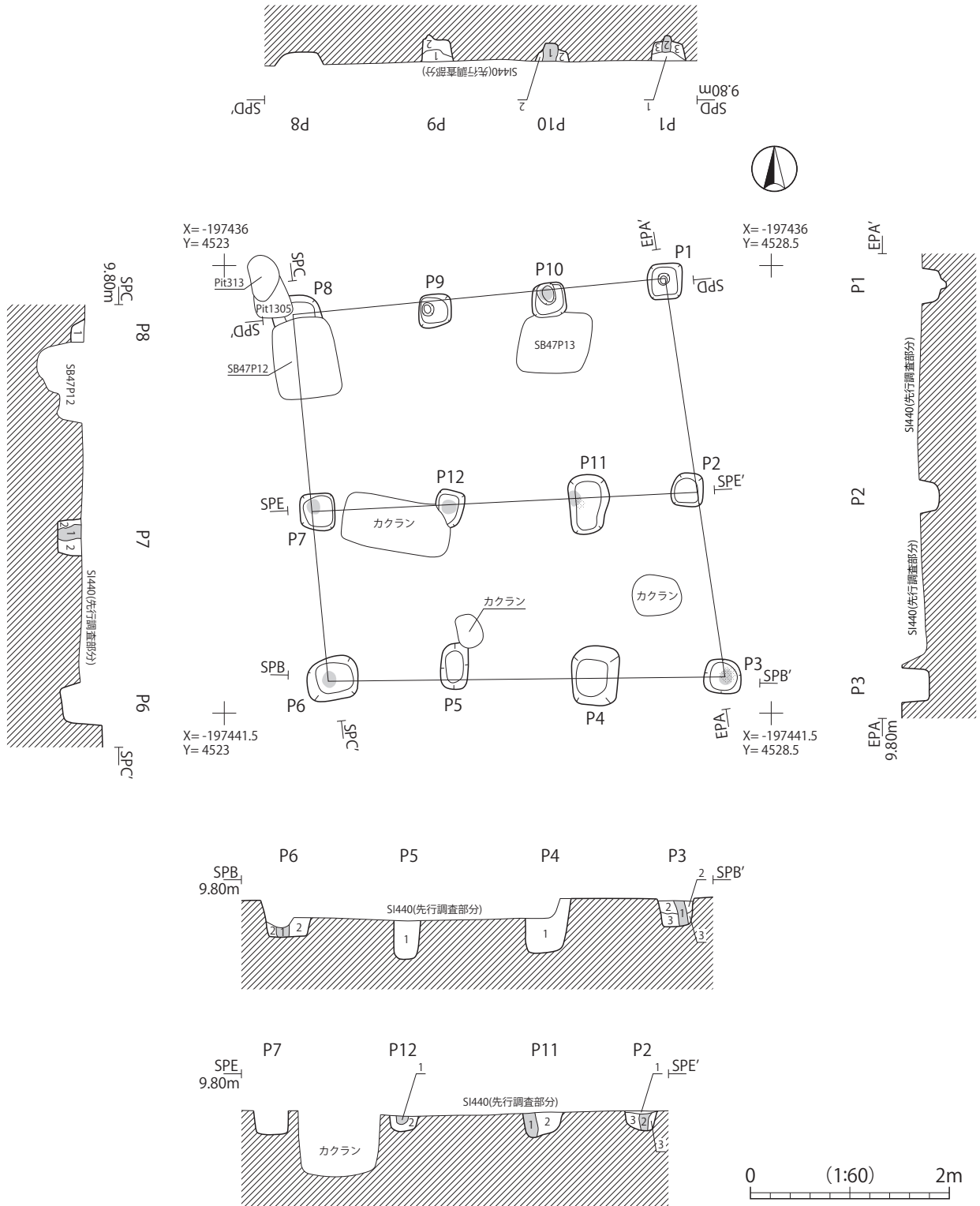
遺構名	区割	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	高さ					
P1	46	長方形	95×73	65	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	SI409より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
P2	46	隅丸方形	99×97	58	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。	SI409、SD331より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(30～40mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	
P3	54	隅丸方形	89×84	44	1	10YR5/6 黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。	SI424、SD331より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
P4	53	(隅丸方形)	(93)×85	62	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト		
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。	
					5	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10～40mm程度)微量含む。	
P5	53	隅丸長方形	112×80	76	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)微量含む。	
P6	53	(方形)	104×(100)	60	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	Pit1242より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。IV層土と黒褐色シルトが混合。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。	
P7	45	(円形)	(31)×(29)	(5)	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	
P8	45	(楕円形)	96×(45)	43	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
P9	45	隅丸方形	107×91	71	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)微量含む。 ※柱痕跡	SI437、Pit848より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)少量含む。	
P10	45	(隅丸長方形)	(97)×(68)	(26)		※注記無し		SI478、SD333より新しい。	



第374図 SB45 掘立柱建物跡

遺物はP1・2・4・7・10から土師器・須恵器などが出土したが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SB45と同一群と捉えられることから6期(8世紀前半)以降とみられ、同時期と考えられるSB47との新旧関係から、それよりもやや古い時期になる。



第375図 SB46 掘立柱建物跡

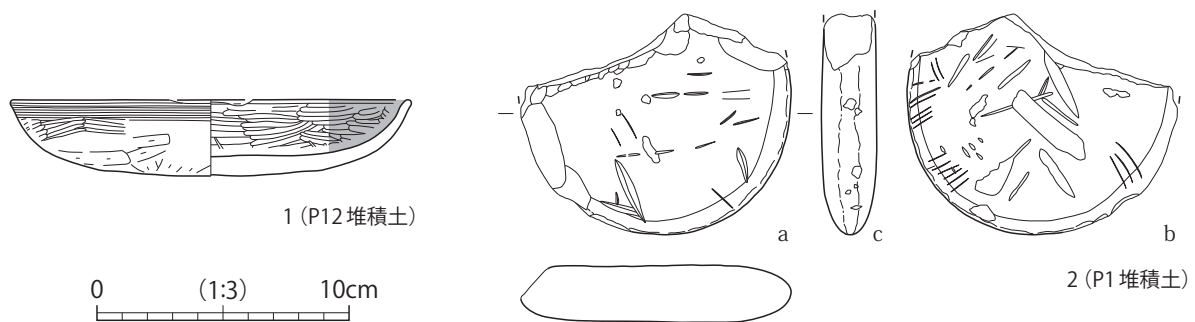
SB46 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	区割	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
P1	36	隅丸方形	36×35	(25)	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (10～30mm程度) 少量含む。	SI440より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	※柱痕跡	
					3	10YR5/6 黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック (10～20mm程度) 微量含む。	
P2	36	隅丸方形	34×32	(20)	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。	SI440より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。 ※柱痕跡	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～30mm程度) 多量含む。	
P3	36 44	隅丸方形	37×33	29	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm程度)・炭化物ブロック (5mm程度) 微量含む。 ※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック (5mm程度) 微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
P4	36 44	隅丸長方形	60×48	57	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (20mm程度) 多量、炭化物ブロック (10mm程度) 少量含む。	SI438・439、Pit1173・1209より新しい。
P5	36 44	隅丸長方形	(45)×(27)	(39)	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 少量、炭化物微量含む。	SI440、Pit1201より新しい。
P6	36 44	隅丸長方形	51×42	41	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	※柱痕跡	SI440より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
P7	36	隅丸方形	38×35	(24)	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10～20mm程度) 微量含む。 ※柱痕跡	SI440より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (10～30mm程度) 多量含む。	
P8	36	(隅丸方形)	50×(20)	(13)	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。	SB47より古く、SI440より新しい。
P9	36	隅丸方形	33×33	(27)	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。	SI440より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。	
P10	36	隅丸方形	(34)×34	(22)	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡	SB47より古く、SI440より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物ブロック (5mm程度) 微量含む。	
P11	36	隅丸長方形	60×41	(25)	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 微量含む。 ※柱痕跡	SI440、Pit731より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。	
P12	36	(隅丸長方形)	(37)×29	(16)	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡	SI440より新しい。
					2	10YR5/6 黄褐色	シルト	黒褐色シルト斑状に少量含む。	

SB47 掘立柱建物跡 (第376・377図)

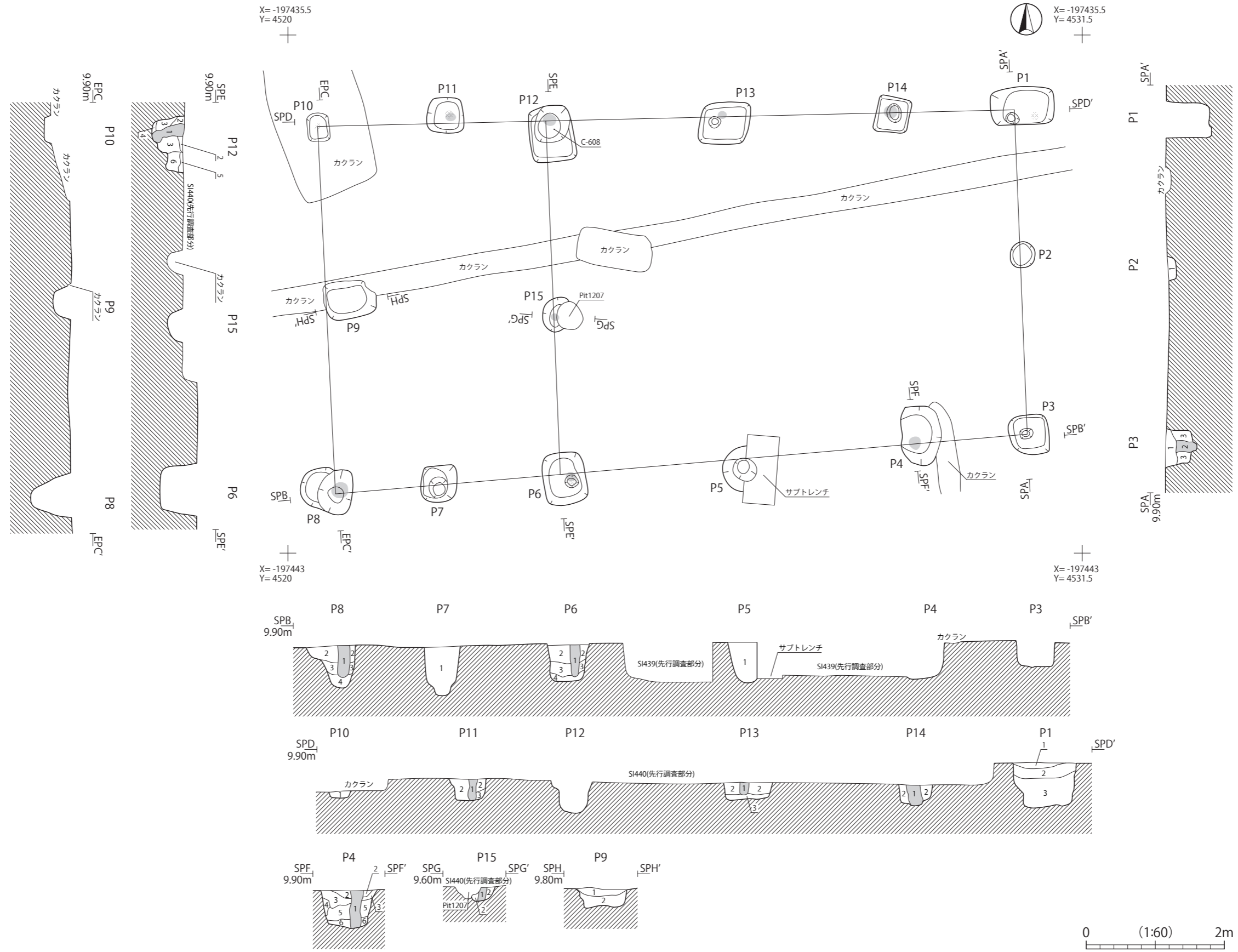
調査区北西部の36・37・44・45区に位置し、15基の柱穴を確認した。北西隅のP10は攪乱により上部が失われており、P11～15もSI440の先行調査により、上部が20～30cm前後失われている。SI438～440・460、SB46、SD301、SK392、Pit25・Pit311・1256・1264・1301より新しい。

南北2間、東西5間の東西棟側柱建物跡で、平面形はわずかに西側へ広がる。間仕切り柱穴のP15があり、建物内を桁行3間・2間に区画している。北側桁行を基準とした主軸方位はN-89°-Eである。規模は桁行総長1009cm、梁行総長470～533cm、床面積約50.5㎡を測る。北側柱列の柱間寸法は東から174cm、249cm、250cm、144cm、192cm、東側柱列は北から211cm、259cm、西側柱列は北から255cm、278cmを測る。柱穴の平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形、円形、楕円形を基調とし、規模は残存値も含め長軸38～92cm、短軸32～



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-608	SB47 P12	堆積土	土師器	环	(15.8)	—	3.0	口縁：コナテ→ハテガキ 体～底部：ハテガキ	ハテガキ	内面黒色処理	358
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
2	Kd-046	SB47 P1	堆積土	石製品	円盤状石製品	10.8	(8.8)	2.3	192.7	凝灰岩	溝状痕 (a・b面) 線条痕 (a・b面) 端部欠損	358

第376図 SB47 掘立柱建物跡出土遺物



第377図 SB47掘立柱建物跡

66cmを測り、深さ14～77cmを測る。東側梁部のP2のみ極端に小型で浅い。P2・9を除く各柱穴で柱痕跡や底面の変色範囲、柱の圧痕とみられるくぼみを確認した。P3・4・6・8・11～15で確認した柱痕跡の規模は径12～25cm程度、P1・10で、底面の変色範囲は径10～12cm程度を測る。P3の柱痕跡上部は失われている。P1では変色範囲と別の位置の底面にくぼみがあることから、一部で建て替えが行われたものと考えられる。

遺物はP1～3・5～8・11～15から土師器・須恵器などが出土し、P12から出土した土師器環1点、P1から出土した石製品1点を掲載した(第376図)。

1は浅身の土師器環で、平底風丸底の底部を呈し、口縁部はわずかに外反する。内面に黒色処理が施されている。

2は円盤状の石製品である。a・b面に溝状痕・線条痕がみられることから、砥石の可能性はある。石材は凝灰岩である。

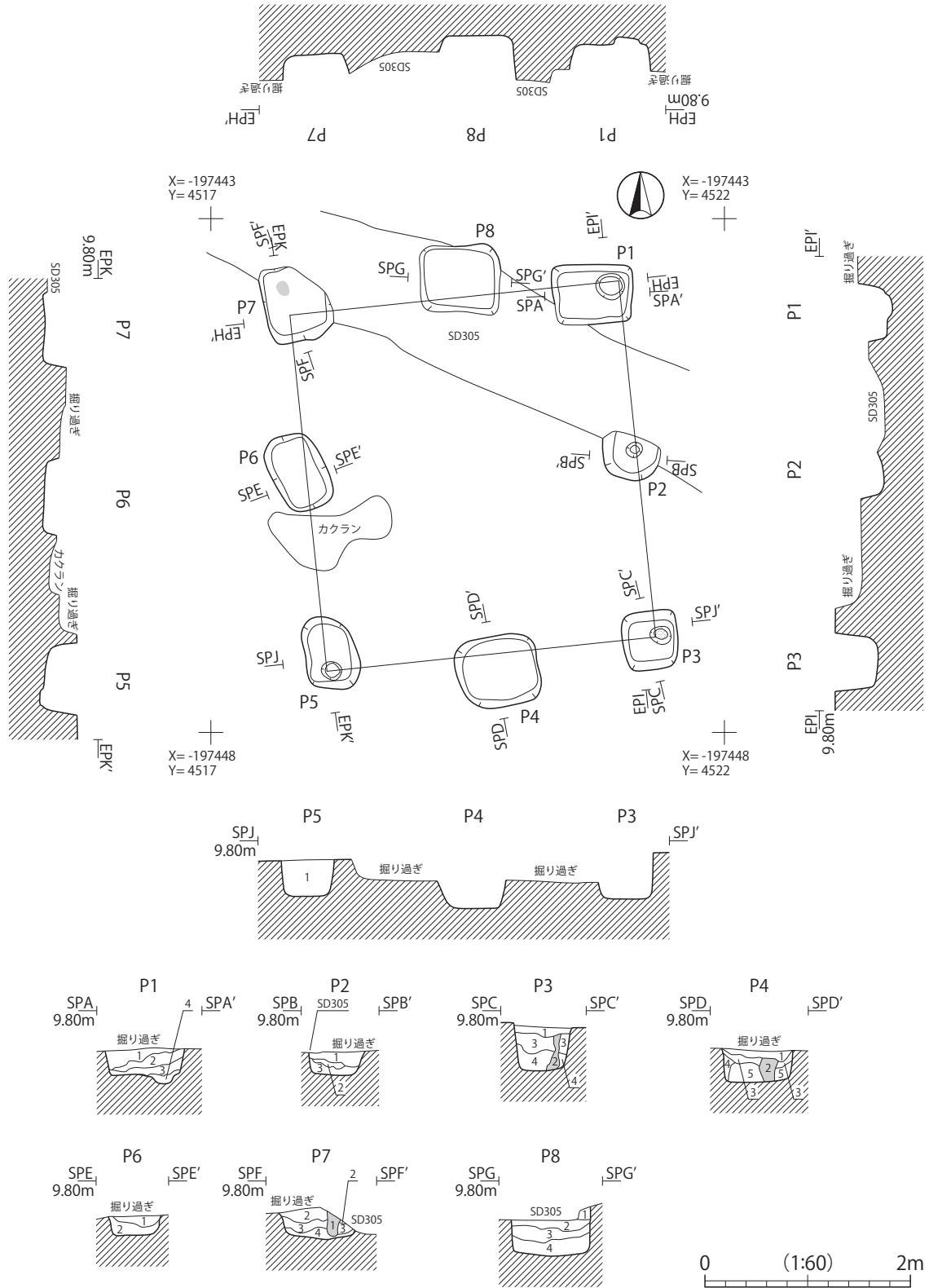
P12から出土した土師器環や、SI438～440との新旧関係から5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以降とみられるが、SB45と同一群と捉えられることから6期(8世紀前半)以降と考えられる。

SB47 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	区割	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
P1	37	隅丸長方形	92×55	71	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒微量含む。	SI440、SD301より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土との混合土。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。	
P2	37	円形	38×36	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	Pit1256より新しい。
P3	45	隅丸方形	58×57	48	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	Pit1264より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	
P4	44	(楕円形)	85×(56)	52	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。 ※柱痕跡	SI438・460より新しい。
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
					4	10YR7/6 明黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
					5	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					6	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
P5	44	(円形)	66×(50)	59	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	SI438より新しい。
P6	44	隅丸方形	76×61	41	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡	Pit25より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～50mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					4	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。	
P7	44	隅丸方形	53×53	77	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	
P8	44	円形	76×66	62	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
P9	36	(隅丸長方形)	75×(56)	30	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	SK392より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
P10	36	(隅丸長方形)	(41)×(32)	(12)	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。	
P11	36	隅丸方形	53×51	(31)	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。 ※柱痕跡	SI440、Pit311・1301より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト		
P12	36	隅丸長方形	82×64	(46)	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)・焼土ブロック(10mm程度)微量含む。 ※柱痕跡	SI440、SB46より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量含む。	
					5	10YR5/6 黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(10mm程度)少量含む。	
					6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)多量含む。	
P13	36	隅丸方形	71×62	(31)	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡	SI440、SB46より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	上面にIV層土少量含む。	
P14	36	方形	53×48	(30)	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱痕跡	SI440より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量含む。	
P15	36	(楕円形)	51×(34)	(43)	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡	SI440より新しい。
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量含む。	

SB48 掘立柱建物跡 (第378図)

調査区北西部の43・44・51・52区に位置し、8基の柱穴を確認した。北半部のP1・2・7・8は、SD305の重複により大部分が失われている。SI461・462・465より新しい。



第378図 SB48 掘立柱建物跡

SB48 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	区割	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	44	隅丸長方形	76×58	33	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	灰白色シルトブロック (5mm 程度) 少量、IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI462・465より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm 程度) 少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	灰白色シルト・酸化鉄互層状に多量、IV層土互層状に少量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度)・炭化物ブロック (5mm 程度) 微量含む。	
P2	52	(隅丸方形)	(59)×(43)	(23)	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。	SI462より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	灰色シルトブロック (5mm 程度) 部分的に集中。酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm 程度) 多量、炭化物粒微量含む。	
P3	52	隅丸方形	57×52	51	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm 程度) 多量、炭化物ブロック (5mm 程度) 少量、焼土粒微量含む。	SI461・462より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	
					3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5～10mm 程度) 少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5～20mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。	
P4	51 52	隅丸方形	(79)×(69)	(33)	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。	SI462より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰白色シルトブロック (5～30mm 程度) 多量、IV層土ブロック (5mm 程度) 少量含む。 ※柱痕跡	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm 程度) 多量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5～20mm 程度)・黒褐色シルトブロック (5～20mm 程度) 少量含む。	
					5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～30mm 程度) 多量含む。	
P5	51	楕円形	71×52	36	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10～20mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。	SI462より新しい。
P6	51	隅丸長方形	(77)×(52)	(20)	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm 程度)・炭化物粒少量含む。	SI462より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5～20mm 程度)・黒褐色シルトブロック (5～10mm 程度) 少量含む。	
P7	43	(隅丸方形)	(74)×(64)	(28)	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度)・灰白色シルトブロック (5mm 程度)・炭化物ブロック (5mm 程度) 少量含む。 ※柱痕跡	SI465より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～30mm 程度) 多量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック (5～10mm 程度)・炭化物粒少量、灰白色シルトブロック (5mm 程度) 微量含む。	
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5～20mm 程度)・炭化物ブロック (5mm 程度) 少量、灰白色シルトブロック (5～10mm 程度) 微量含む。	
P8	43	(隅丸長方形)	(80)×(67)	(48)	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm 程度) 多量、炭化物粒微量含む。	SI465より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土互層状に多量、焼土ブロック (5mm 程度)・炭化物粒微量含む。	
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土互層状に多量、炭化物粒微量含む。	

南北2間、東西2間の南北棟側柱建物跡で、東側桁行を基準とした主軸方位はN-4°-Wである。規模は桁行総長349cm、梁行総長322cm、床面積約11.0㎡を測る。東側柱列の柱間寸法は北から165cm、184cm、北側柱列は東から156cm、166cmを測る。柱穴の平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形、楕円形を基調とし、規模は残存値も含め長軸57～80cm、短軸43～69cmを測り、深さ23～51cmを測る。P1～5・7では柱痕跡や、柱の圧痕とみられるくぼみを確認した。P3・4・7で確認した柱痕跡の規模は径7～16cm程度を測るが、P3・4の柱痕跡上部は失われている。

遺物は、P2を除く7基の柱穴から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はなく、SI461・462・465との新旧関係から5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以降とみられるが、SB45～47と同一群と捉えられることから6期(8世紀前半)以降と考えられる。

SB49 掘立柱建物跡 (第379図)

調査区南東部の115・116・123・124・131・132区に位置し、12基の柱穴を確認した。西側のP9・12は、SI524の重複により上部が失われている。また、調査の途中で建物の存在を確認したため、本来P9とP10の間に位置していたはずの柱穴は、周囲の掘り過ぎにより失われてしまった。SI524より古く、SI435・528、SD328・350・361・362、SK489、Pit1598・1626、SX43より新しい。

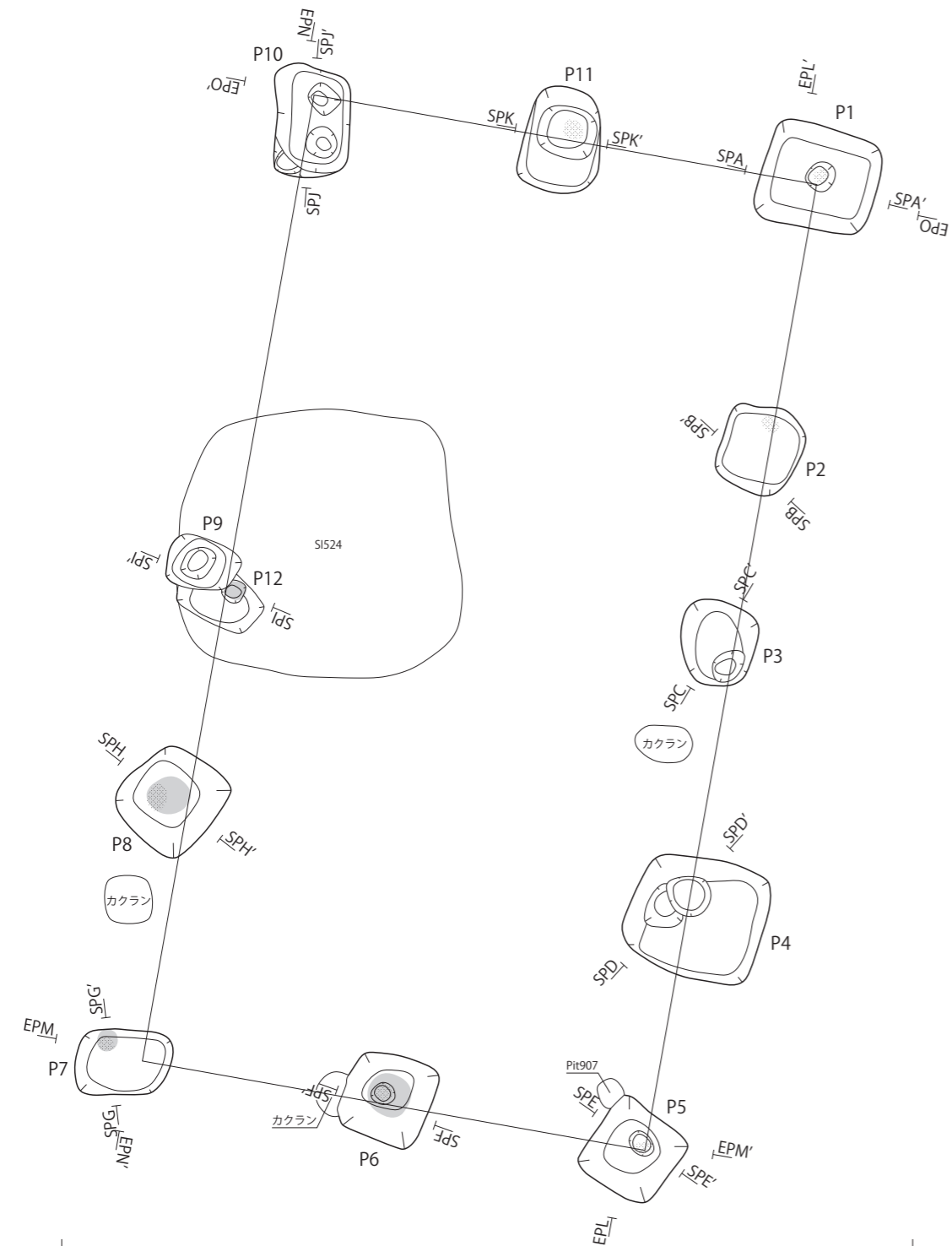
南北4間、東西2間の南北棟側柱建物跡で、東側桁行を基準とした主軸方位はN-10°-Eである。規模は桁行総長922cm、梁行総長480cm、床面積約44.0㎡を測る。東側柱列の柱間寸法は北から251cm、188cm、243cm、240cm、北側柱列は東から238cm、242cmを測る。柱穴の平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形を基調とし、規模は残存値も含め長軸67～126cm、短軸49～113cmを測り、深さ38～95cmを測る。全ての柱穴で柱痕跡や底面

SB49 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	区割	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
P1	116	隅丸方形	109×95	95	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。	SI528、SK489より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	
					4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。	
					5	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。	
					6	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
					7	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
					8	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					9	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
P2	116 124	隅丸方形	84×75	79	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	SI435・528より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
P3	124	隅丸方形	80×71	38	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	SI435より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
P4	124	隅丸方形	(126)×113	74	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	SI435、SD361より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。 ※柱痕跡	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。	
P5	132	隅丸方形	80×80	57	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)斑状に多量、炭化物粒微量含む。	
P6	131	隅丸方形	82×(81)	64	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	
					1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	
					1c	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
					4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
					5	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					6	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・炭化物粒少量含む。	
7	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。						
P7	123 131	隅丸長方形	89×62	42	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	SD350・362、Pit1598より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
P8	123	隅丸方形	93×88	86	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	
					1b	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	礫少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土斑状に含む。	
7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。						
P9	123	(隅丸長方形)	(67)×(49)	(39)	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	SI524より古く、SX43より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。	
P10	115	隅丸長方形	105×70	56	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。	SD328、Pit1626より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、黒色シルトブロック(5～20mm程度)微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～50mm程度)多量、黒色シルトブロック(20～40mm程度)少量含む。	
P11	116	隅丸長方形	99×75	68	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI528より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					5	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量含む。	
					6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	
P12	123	(隅丸長方形)	(77)×(52)	(41)	①a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	SI524より古く、SX43より新しい。
					①b	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡	
					②	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	

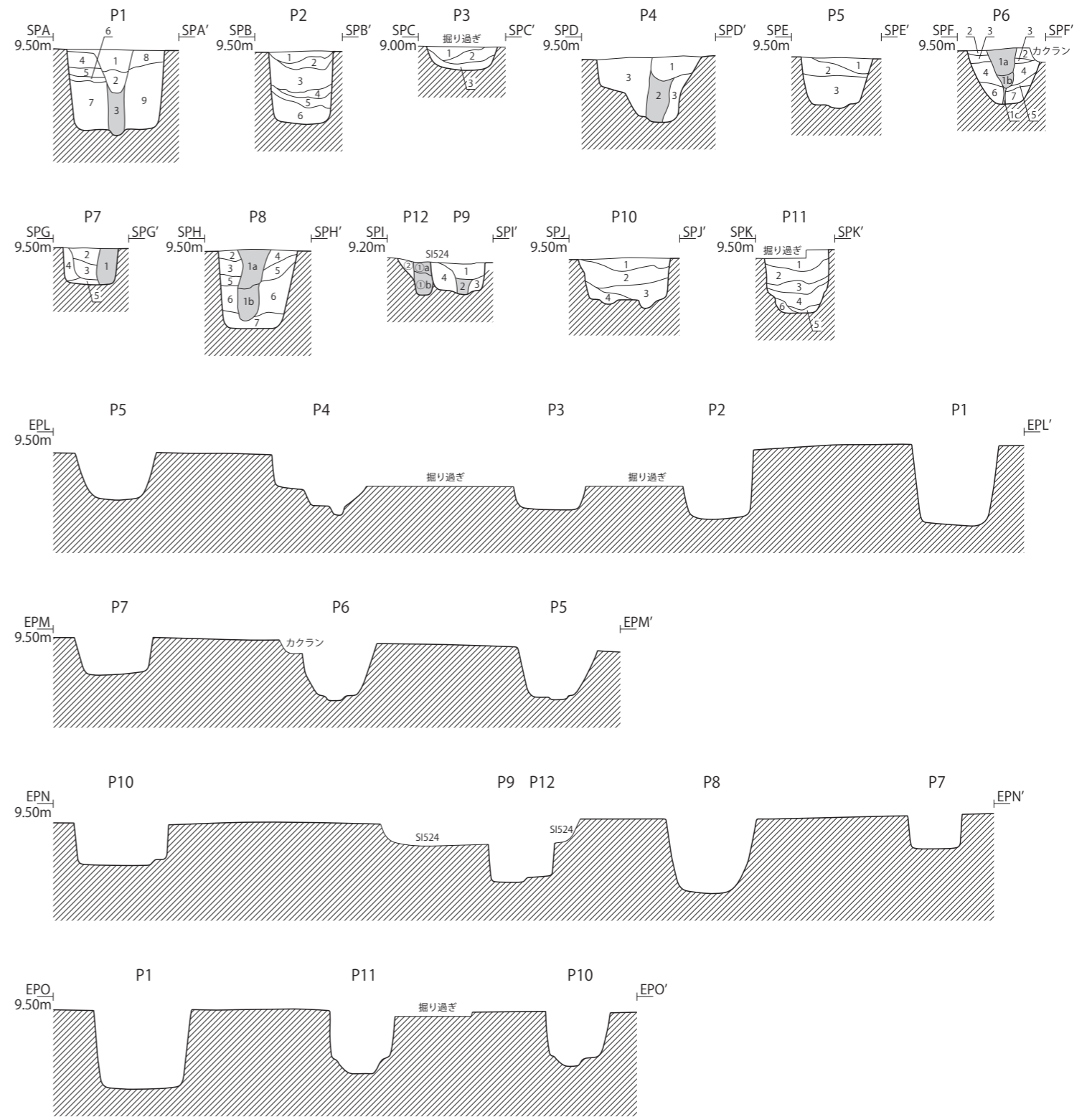
X=-197480
Y=4556

X=-197480
Y=4564



X=-197492
Y=4556

X=-197492
Y=4564



第379図 SB49 掘立柱建物跡

の変色範囲、柱の圧痕とみられるくぼみを確認した。P1・4・6～9・12で確認した柱痕跡の規模は径19～42cm程度を測り、P1・4・9の堆積土下半で柱痕跡を確認した。P4・10でくぼみが2箇所認められることから、一部で建て替えが行われた可能性がある。

遺物はP9を除く各柱穴から土師器・須恵器などが出土したが、図化できるものはなかった。P4・6～8・10からは鉄滓が出土した。

時期決定できる遺物はないが、SD350との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以降の可能性はある。

(4) 溝跡(第380～416図、第25～30表)

溝跡を62条(SD284・286～289・291・296～299・301～304・306・308～315・317～328・330・334・338・340・341・343・345～354・356～362)検出した。平面形が「L」字・「コ」字状を呈するものや間隔を空けて同一線上に位置するもの、並走するものが検出されており、これら溝跡の多くは集落内の区画施設として機能していたと考えられる。また遺物は、小規模な溝からはわずかだが、規模の大きな一部の溝からは土師器、須恵器、石製品、土製品、瓦、石器、鉄滓などがまとまって出土した。

なお古墳時代～奈良時代の溝跡は、特徴的な形態のものとは主要な溝跡のみを報告する。報告外の溝跡は、それぞれの遺構図と観察表を参照されたい。

SD284 溝跡(第381～383図、第25表)

調査区北西部の17～23区に位置する。東部は令和2年度調査区に延びるため、規模や形状は両年度調査成果を併せて記載する。西側の一部は攪乱により失われている。SI455、SK327、Pit32・39・1106～1108より新しい。

方位はN-85～89°-Eで、東西方向に直線的に延びる。確認された規模は長さ40.43m、上端幅73～173cm、下端幅42～130cm、深さ12～41cmを測る。断面形は台形を呈し、壁面は直線的に立ち上がる。底面は西半部では平坦だが、東半部で起伏が顕著となる。また、東端部の底面中央に土手状の高まりが認められるため、堆積土の特徴からも掘り直しの痕跡と考えられる。東に向かって28cm程度傾斜して下がる。堆積土は4層に分層した。1・2層は掘り直し後の堆積土、3・4層は掘り直し前の堆積土である。黒褐色粘土質シルトないし褐灰色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器、礫石器、石製品、土製品などが出土し、ロクロ土師器甕1点、須恵器環1点、礫石器1点、石製品2点、土製品2点を掲載した(第383図)。

1はロクロ土師器甕である。球胴形を呈すると考えられ、頸部で「く」字状に屈曲する。口縁部は直線的に外傾し、端部は内側につまみ出されている。口縁部の外面はハケメ後ヨコナデが施されたのち、中位に回転ハケメが施されている。胴部は縦方向のハケメ後、不連続の回転ハケメが施されている。

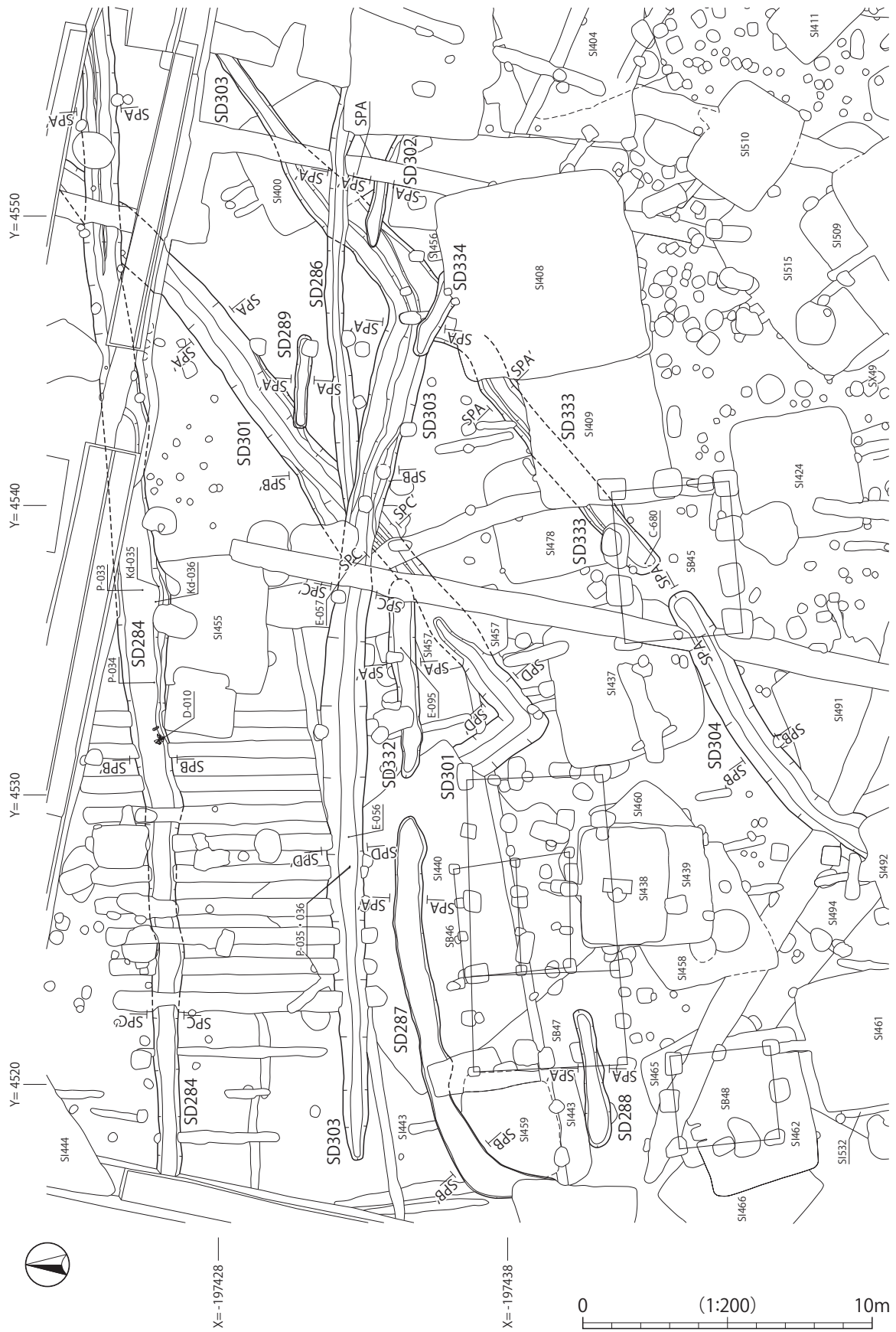
2は須恵器環としたが、器形と内面調整から蓋の可能性も考えられる。厚手の丸底から緩く内湾して立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。体部から底部にかけて藁の痕跡と考えられる筋が数条みられる。色調は灰色を呈し、胎土は精良で砂粒を含む。

3は凹石である。平面形は円形で、中央部がくぼむ皿状を呈する。石材は細粒凝灰岩である。

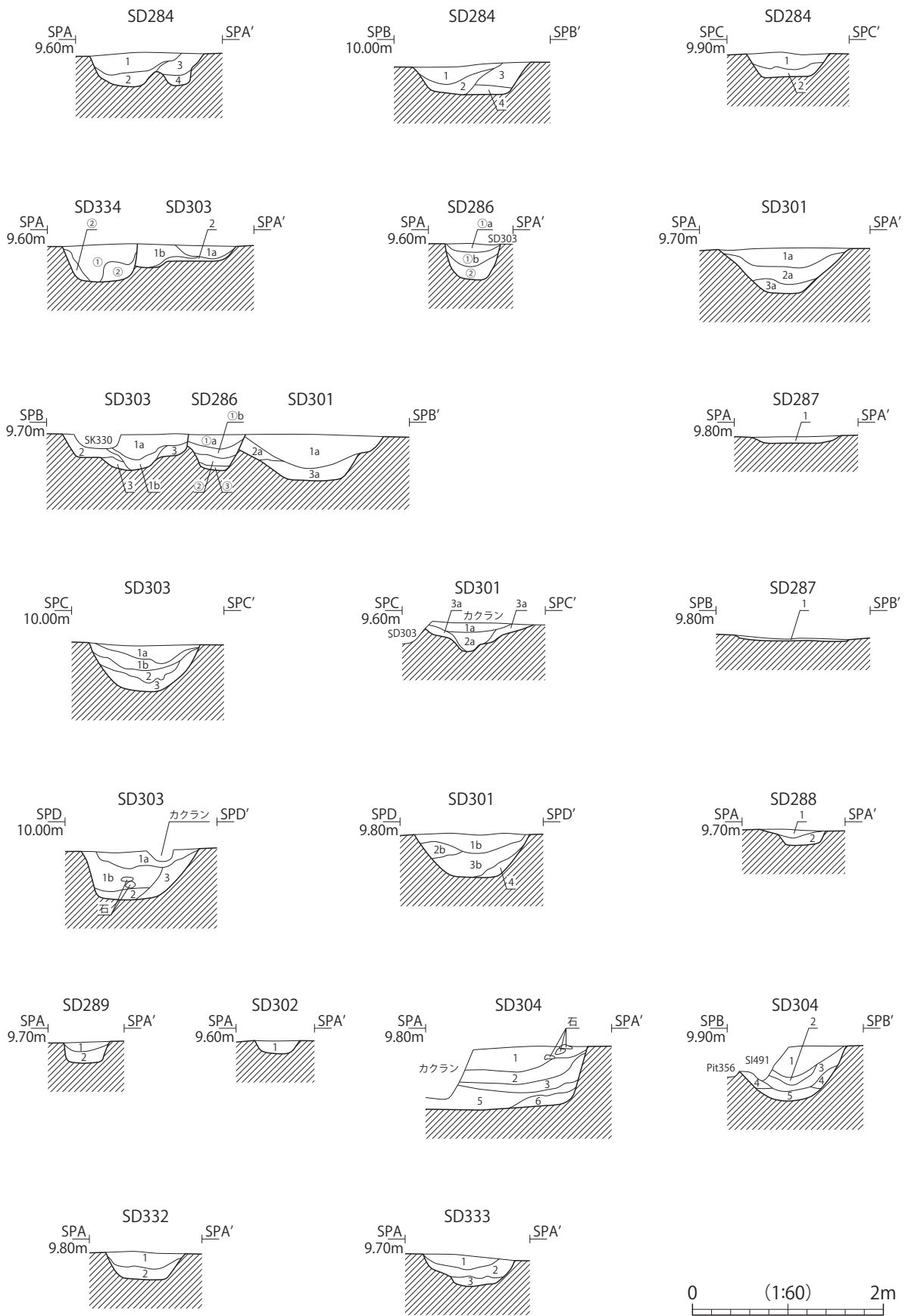
4・5は石製の紡錘車で、断面形はともに台形を呈し、a～c面に溝状痕・線条痕がみられる。石材はともに蛇紋岩である。

6・7は管状の土錘で、外面はともにナデが施されている。

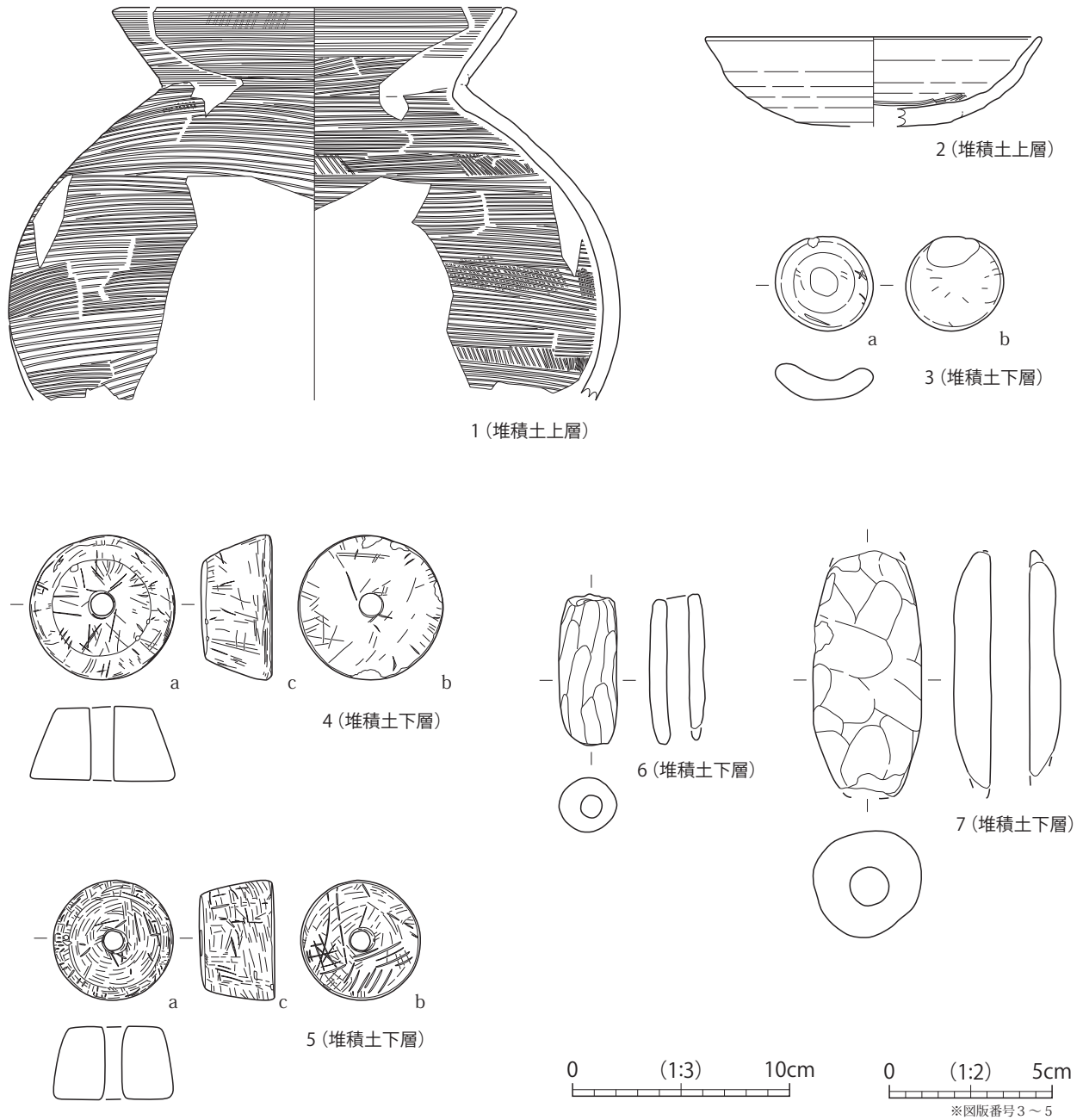
時期決定できる遺物はないが、SI455との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以降と考えられる。



第381図 SD284・286～289・301～304・332～334 溝跡(1)



第382図 SD284・286～289・301～304・332～334 溝跡(2)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	D-010	SD284	堆積土上層	ロクロ土師器	甕	(18.8)	—	(18.1)	口縁：ハメ→ヨコテ→回転ハメ 胴部：ハメ→回転ハメ	口縁上半：ヨコテ→回転ハメ 口縁下半：ハメ 胴部：ハメ→回転ハメ		358
2	E-054	SD284	堆積土上層	須恵器	环 or 蓋	(15.4)	—	(4.2)	叩調整	叩調整 底部：ハテテ	外面に汚痕付着か	358
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
3	Kc-047	SD284	堆積土下層	礫石器	凹石	3.0	2.9	6.39	9.4	細粒凝灰岩	凹1面(深)	358
4	Kd-035	SD284	堆積土下層	石製品	紡錘車	4.4	4.4	2.3	70.9	蛇紋岩(●)	溝状痕(a~c面) 線条痕(a~c面) 片側穿孔孔径0.7~0.9cm	358
5	Kd-036	SD284	堆積土下層	石製品	紡錘車	3.7	3.7	2.3	54.4	蛇紋岩(●)	溝状痕(a~c面) 線条痕(a~c面) 片側穿孔孔径0.5~0.8cm	358
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考		写真図版
						全長	幅	厚さ				
6	P-033	SD284	堆積土下層	土製品	土錘	4.6	1.8	1.7	15.1	テ	孔径0.7cm	358
7	P-034	SD284	堆積土下層	土製品	土錘	(7.6)	3.3	3.3	78.3	テ	孔径1.2cm	358

第383図 SD284 溝跡出土遺物

SD286 溝跡 (第381・382図、第25表)

調査区北部の29・30区に位置する。東端は攪乱に、西端はSD303の重複により失われている。SD303より古く、SI400、SD301、Pit1140より新しい。

方位はN-88°-W ~ 85°-Eで、東西方向へ直線的に延びるが、中央付近でわずかに北へ膨らんで湾曲する。確認された規模は長さ14.72m、上端幅55 ~ 82cm、下端幅17 ~ 38cm、深さ30 ~ 42cmを測る。断面形はU字形を呈し、壁面は下部でわずかに内湾するが、概ね直線的に立ち上がる。底面はわずかに起伏が認められる。中央部付近が高まり、東西に向かって6 ~ 17cm程度傾斜して下がる。堆積土は3層に大別し、このうち①層をa・bに細別した。灰黄褐色砂質シルトないし褐灰色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器、瓦、礫石器などが出土したが、図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI400、SD303との新旧関係から、3期(6世紀末頃~7世紀前半)以降と考えられる。

SD287・332 溝跡 (第381・382・384図、第25・29表)

SD287・332は1m程度の間隔を空けて同一線上にあり、南側はSB46・47が並行した状態で検出されている。建物跡との位置から、両溝は掘立柱建物跡に伴う区画溝と判断した。

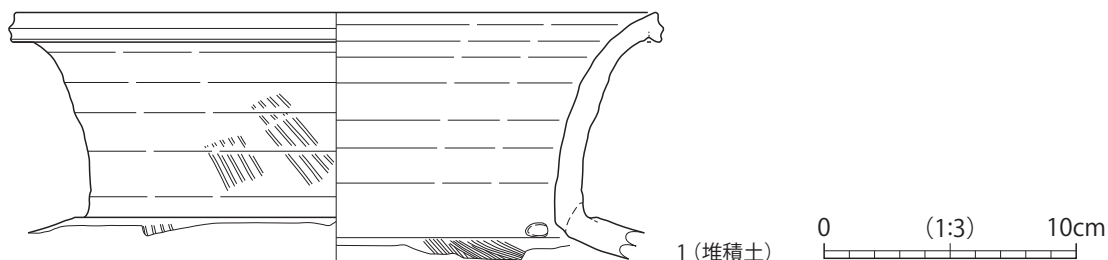
SD287は調査区北西部の28・35・36区に位置する。SI440・443・459、Pit310・875より新しい。西側が攪乱により失われている。

方位は西辺N-11°-E、北辺N-65 ~ 90°-Eで、主体となる北辺は東西方向に延び、西辺の端部で南側へ「L」字状に屈曲する。確認された規模は長さ15.51m、上端幅70 ~ 131cm、下端幅62 ~ 121cm、深さ2 ~ 13cmを測る。断面形は弧状を呈し、壁面は直線的に立ち上がる。底面は概ね平坦である。西に向かって13cm程度傾斜して下がる。堆積土は単層で、灰黄褐色細砂を主体とする。

SD332は調査区北西部、29・37区に位置する。SI440・457、SD301・346、SK454、Pit1120・1253・1261より新しい。東端は攪乱により失われている。方位はN-90°-Eで、東西方向へ直線的に延びる。確認された規模は長さ6.26m、上端幅58 ~ 94cm、下端幅42 ~ 63cm、深さ5 ~ 30cmを測る。断面形は台形を呈し、壁面は直線的に立ち上がる。底面は概ね平坦である。東に向かって11cm程度傾斜して下がる。堆積土は2層に分層した。褐灰色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物はSD287から土師器・須恵器、金属製品が出土したが、図化できるものはなかった。SD332からは土師器・須恵器が出土し、須恵器甕1点を掲載した(第384図)。1の長い口縁部は緩やかに外反し、端部は凸面を持ち下方に垂下する。色調は灰色を呈し、胎土はやや精良で、少量の3mm以下の砂礫を含む。

時期決定できる遺物はないが、掘立柱建物跡との関連性から、6期(8世紀前半)以降の可能性はある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	E-095	SD332	堆積土	須恵器	甕	(25.4)	—	(9.9)	口縁：平行外反→凹調整 胴部：平行外反	口縁：凹調整 頸部：北・斜上、北・斜下		362

第384図 SD332 溝跡出土遺物

SD296・319溝跡(第385図、第25・27表)

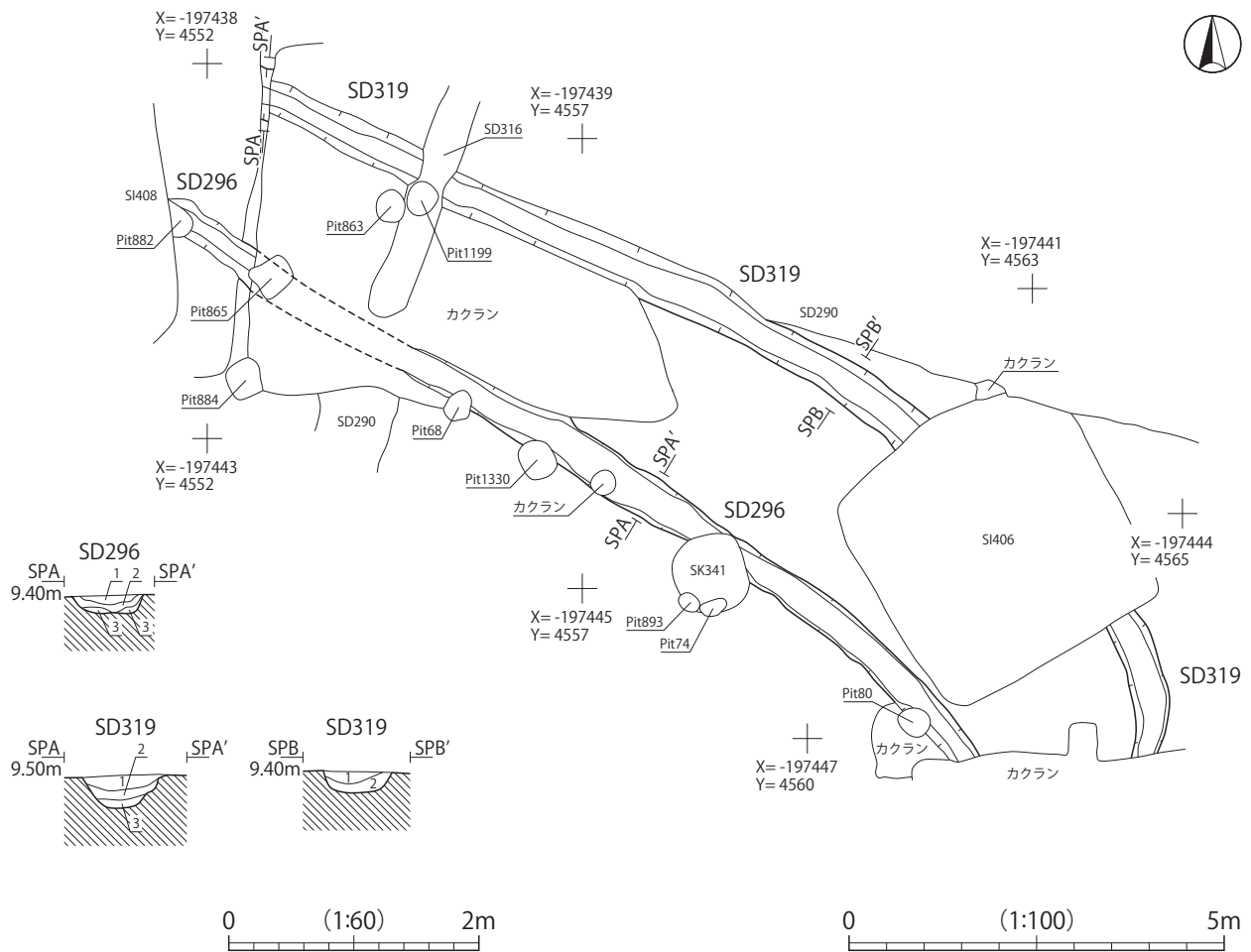
ともに調査区北部東寄りに位置する。SD296・319は南北で並行関係にある。規模と位置から集落に伴う一連の区画溝と判断した。

SD296は調査区北東部の39・47・48・55・56区に位置する。SI408A・B、Pit882より古く、SI404・448、SD330、SK344・402・403・446、Pit180・900・1073・1177・1178より新しい。西端付近がPit882と攪乱に、東端が攪乱により失われている。

方位はN-45°~58°-Wで、北西から南東方に向かって延びる。平面形は概ね直線的だが、東部で南側へ緩やかに湾曲する。確認された規模は長さ13.10m、上端幅37~61cm、下端幅17~51cm、深さ6~25cmを測る。断面形は台形を呈し、壁面は北側が直線的、南側は内湾気味に立ち上がる。底面は全体的に丸底を呈するが、一部に起伏が認められる。中央部付近が高まり、南東・北西両方向へわずかに傾斜し10~22cm程度の比高差が認められる。堆積土は3層に分層した。灰黄褐色シルトないし黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

SD319は39・47・48・56区に位置する。SI406、Pit1199より古く、SI404・448、Pit898・1190・1200・1311より新しい。西・南両端部は攪乱により失われ、東部はSI406の重複で一部失われている。

方位はN-2°~64°-Wで、北西から南東に向かって延びる。西半部は直線的だが、東半部は南側へ緩やかに湾曲する。確認された規模は15.63m、上端幅35~69cm、下端幅18~41cm、深さ7~27cmを測る。断面形は台



第385図 SD296・319溝跡

形を呈し、壁面は内湾気味に立ち上がる。底面は全体的に起伏が認められる。北西に向かってわずかに傾斜して下がる。堆積土は3層に分層した。黒褐色シルトないし暗褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物はSD296から土師器・須恵器、金属製品など、SD319から土師器・須恵器、礫石器などが出土したが、いずれも図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI404・406・408・448との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～6期(8世紀前半)と考えられる。

SD297 溝跡(第386・387図、第25表)

調査区北東部の41・42・49・56・57・64・65・81・82・90・99・107区に位置する。北東端部は調査区外へ延び、南東端部はSD299の重複により失われている。SD299、Pit1038・1039より古く、SI387・392・412・415・488・489、SD345・348、SK400・470、Pit1433・1438、SX41より新しい。

方位は北辺がN-74°-W、西辺がN-21~58°-E、南辺がN-30~51°-Wである。平面形は「コ」字状を呈し、直線的に延びる西辺の南北両端部が東側へ屈曲する。また、西辺北端部は屈曲する手前で枝分かれしており、北辺が二股に分かれたような形状となる。確認された規模は長さ54.91m、上端幅43~127cm、下端幅20~78cm、深さ9~48cmを測る。断面形は台形を呈し、壁面は内湾気味に立ち上がる。底面はわずかに起伏が認められる。西辺は北東に向かって38cm程度傾斜して下がる。北辺と南辺では傾斜は認められない。

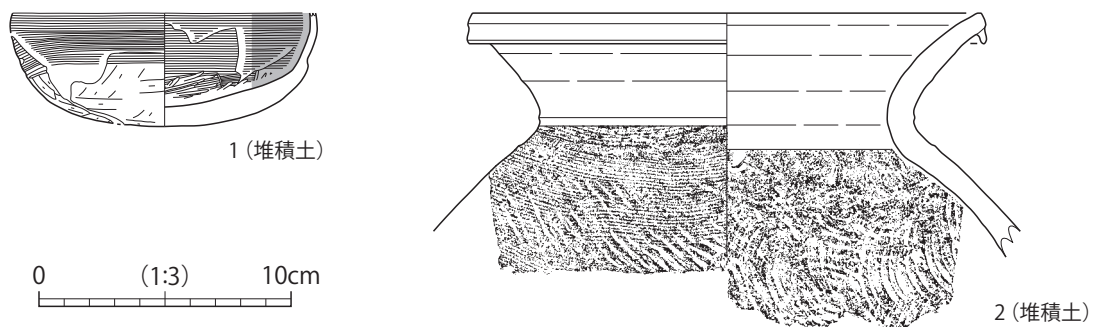
堆積土は4層に大別し、そのうち4層をa・bに細別した。黒褐色シルトないし暗褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器、礫石器、金属製品、鉄滓、土製品、馬歯・骨片が出土し、土師器環1点、須恵器甕1点を掲載した(第386図)。

1は土師器環で、厚手の丸底を呈し、口縁部は内湾気味に直立する。口縁部と体部の境に沈線状の段がめぐるが、粗雑に施されているため段が認められない箇所もある。内面はナデ調整後底部にヘラミガキが施されたのち、黒色処理が施されている。関東系土師器が在地化したものと考えられる。

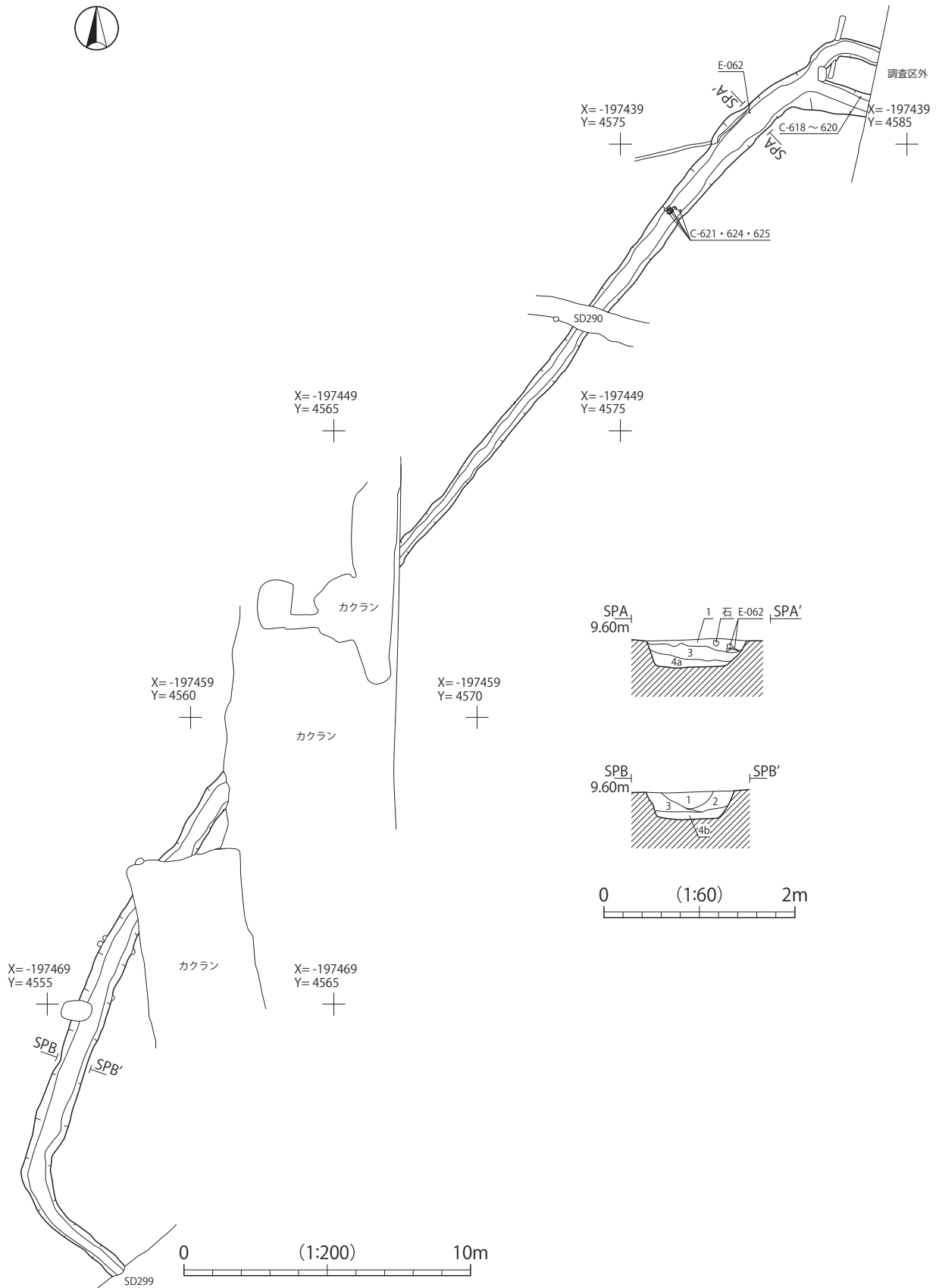
2は須恵器甕で、頸部から口縁部に向かって緩やかに外反する。口縁端部は下方に垂下する。色調は青灰色～暗灰色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と少量の黒色粒子を含む。

時期決定できる遺物はないが、SI387との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀前半)以降の可能性はある。

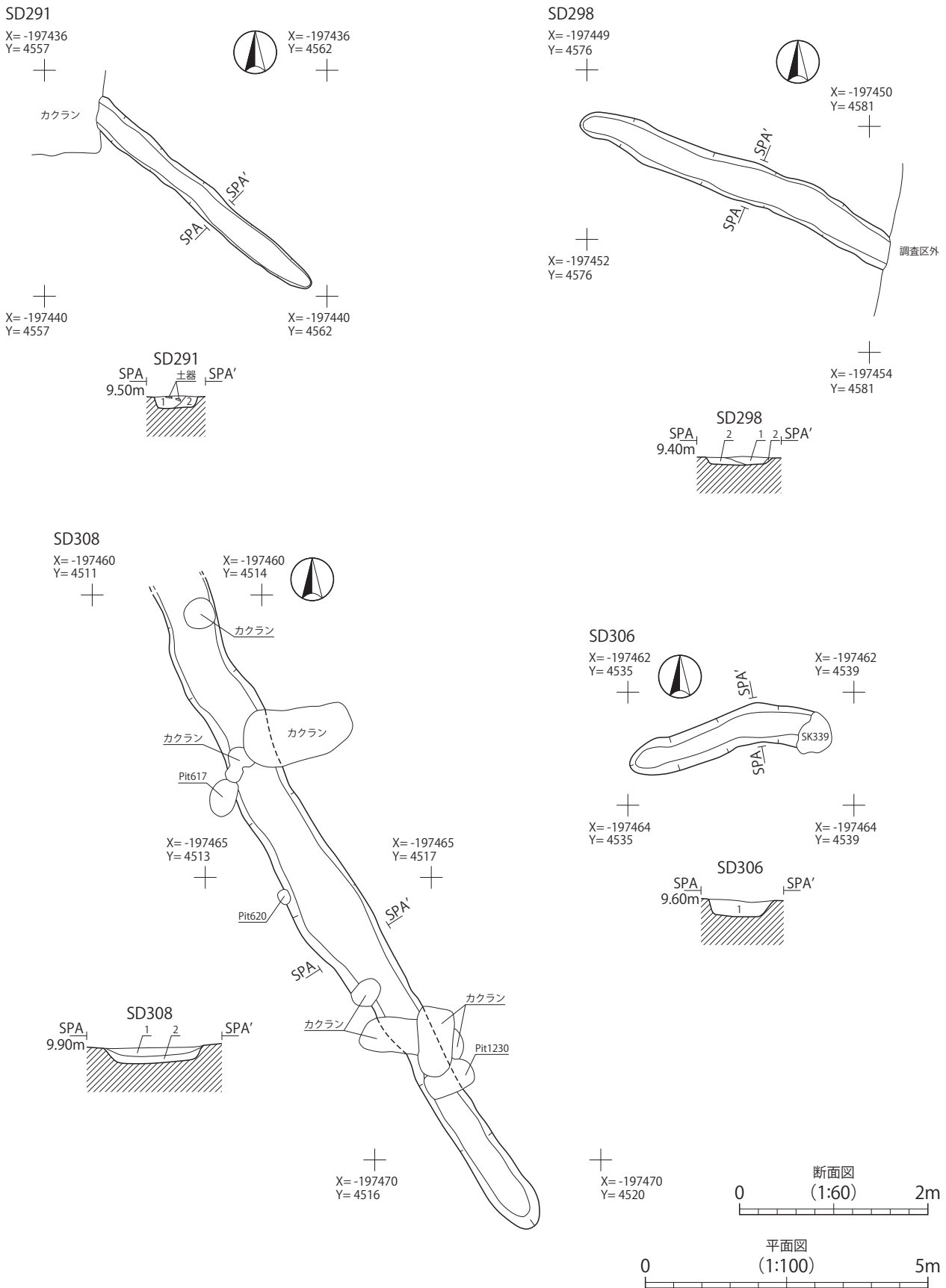


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-618	SD297	堆積土	土師器	環	—	—	(4.5)	口縁：ヨナゲ 体～底部：ヘラミガキ	口縁：ヨナゲ 体部：ヘラミガキ→ヘラミガキ	内面黒色処理 外面やや摩滅	359
2	E-062	SD297	堆積土	須恵器	甕	(20.2)	—	(9.7)	口縁：ヨナゲ調整 胴部：平行斜→斜	口縁：ヨナゲ調整 胴部：青海波77具痕	外面内面口縁部灰かぶり	359

第386図 SD297 溝跡出土遺物



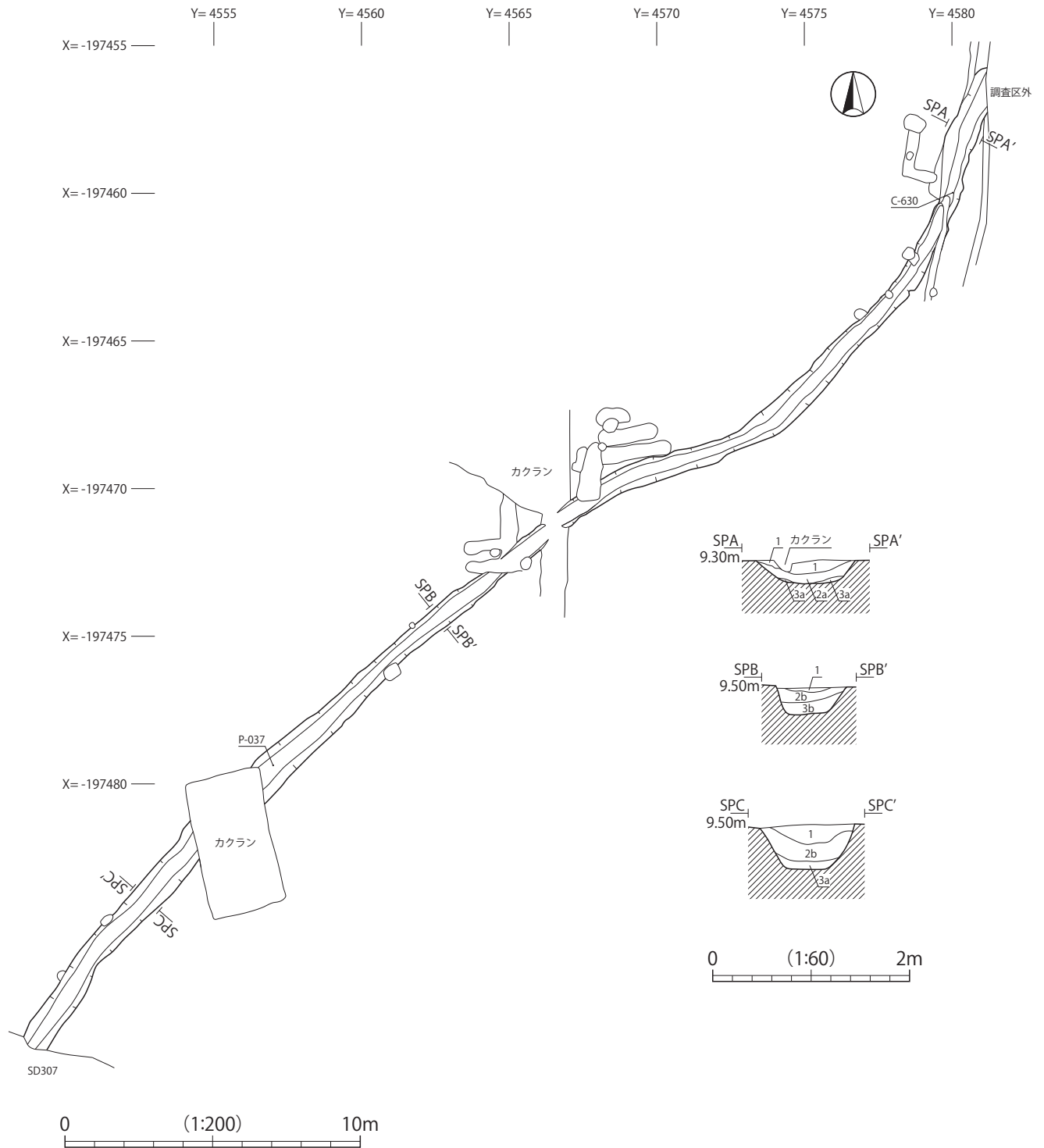
第387図 SD297 溝跡



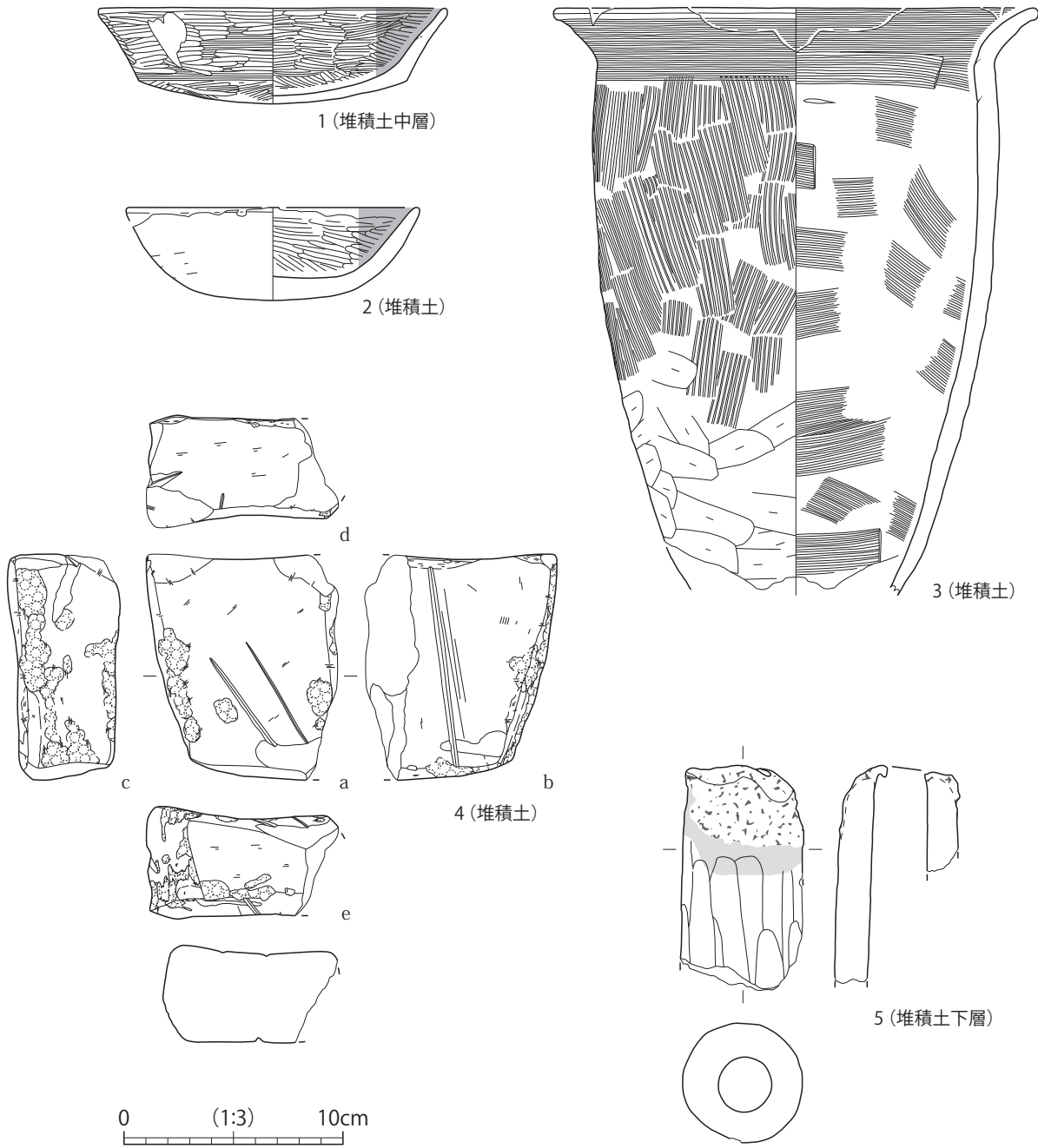
第388図 SD291・298・306・308 溝跡

SD299 溝跡 (第389・390図、第25表)

調査区東部の74・75・83・84・91・92・100・107・108・115・121・123区に位置する。北東端部は調査区外へ延び、南西端部はSD307により失われている。SK358、Pit1048より古く、SI389・397・420・421・423・426・489・522、SD297・317・328・338・350、Pit223・1336・1472・1624・1660より新しい。



第389図 SD299 溝跡



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-626	SD299	堆積土中層	土師器	環	(15.8)	—	4.4	口縁：ヨナテ → アラミガキ 体～底部：アラスリ → アラミガキ	アラミガキ	内面黒色処理	359
2	C-627	SD299	堆積土	土師器	環	(13.3)	—	4.2	アラスリか	アラミガキ	内面黒色処理 外面摩滅	359
3	C-630	SD299	堆積土	土師器	甕	(21.8)	—	(26.6)	口縁：ヨナテ 胴上半：ナメ 胴下半：アラスリ	口縁：ヨナテ 胴部：アラテ	角閃石少量含む 内面摩滅	359
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
4	Kd-038	SD299	堆積土	石製品	砥石	10.3	(8.8)	5.1	616.5	砂岩(●)	砥面3面 溝状痕(a・b・d面) 線条痕(a～c・e面) 端部欠損	359
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
5	P-037	SD299	堆積土下層	土製品	羽口	(10.3)	5.6	5.4	232.7	外面：ナ 内面：芯棒引き抜き未調整 狭端部融解物付着あり 被熱による変色あり	359	

第390図 SD299溝跡出土遺物

方位はN-15°-72°-Eで、北東から南西に向かって延びる。概ね直線的だが、東半部は蛇行する。確認された規模は長さ47.85m、上端幅56～169cm、下端幅28～52cm、深さ4～49cmを測る。断面形は台形を呈し、壁面は概ね直線的で、部分的に内湾気味に立ち上がる箇所も認められる。底面は全体的に起伏が認められる。中央部がわずかに高まり、北東・南西に向かって12～13cm程度傾斜して下がる。堆積土は3層に大別し、そのうち2・3層をそれぞれa・bに細別した。黒褐色ないし褐灰色シルトを主体とする自然堆積である。

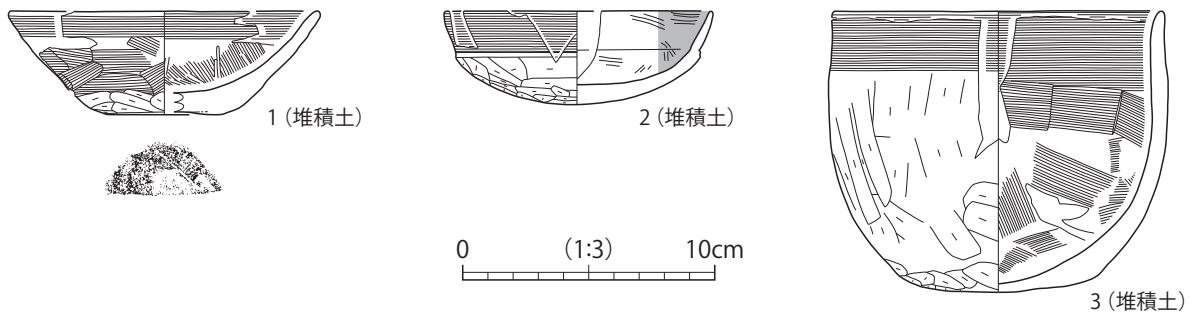
遺物は土師器・須恵器、石製品、金属製品、鉄滓、土製品、馬歯が出土し、土師器坏2点・甕1点、石製品1点、土製品1点を掲載した(第390図)。1・2は土師器坏で、ともに内面に黒色処理が施されている。1は扁平な丸底で、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境に明瞭な稜を持つ。2は丸底風平底の底部で、口縁部は直線的に外傾する。3は土師器甕で、頸部に段は認められない。口縁部に最大径が位置し、胴部は砲弾形を呈すると考えられる。口縁部は外反する。4は砥石で、砥面が3面ある。a・b・d面に溝状痕、a～e面に線条痕、a～c・e面に敲打痕が認められる。石材は砂岩である。5は羽口である。狭端部は被熱により変色しており、融解物が付着する。外面はナデが施され、内面は芯棒を引き抜き後、未調整である。

時期決定できる遺物はないが、SI522、SD317との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以降の可能性はある。

SD301 溝跡(第381・382・391図、第25表)

調査区北西部の18・19・23・29・30・37区に位置する。北東部は令和2年度調査区に延びるため、SD284と同じく両年度調査成果を併せて記載する。西端部はSI440、南辺西側は攪乱やSI457の重複により一部失われている。SI437・440・457、SB47、SD286・289・303・331・332より古く、Pit1271・1272より新しい。

方位は西辺がN-35°-W、南辺がN-52°-Eで、主体となる南辺は北東から南西に向かって延びる。南辺の平面形は直線的で、南西端部で北西側へ「L」字状に屈曲する。確認された規模は長さ27.54m、上端幅110～155cm、下端幅33～57cm、深さ25～50cmを測る。断面形は台形を呈し、南辺の壁面は直線的に、西辺は内湾気味に立ち上がる。南辺中央部の北壁は、一部にテラス状の段差を伴う。底面は全体的に起伏が認められる。北東に向かって24cm程度傾斜して下がる。堆積土は4層に大別し、そのうち1～3層をそれぞれa・bに細別した。灰黄褐色ないし黒褐色粘土質シルトを主体とする自然堆積である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-636	SD301	堆積土	土師器	坏	(12.2)	(4.8)	4.1	口縁：ヨナテ 体上半：ハナテ 体下半～底部：ハナズリ	口縁：ヨナテ 体～底部：ハナテ→ハミガキ	底部輪台状 骨針多量含む	359
2	C-635	SD301	堆積土	土師器	坏	10.6	—	3.7	口縁：ヨナテ 体～底部：ハナズリ	ハミガキ	内面黒色処理 角閃石微量含む 内面摩滅	359
3	C-637	SD301	堆積土	土師器	鉢	(13.0)	—	(11.2)	口縁：ヨナテ 体部：ハナズリ	口縁：ヨナテ 体部：ハナテ	角閃石少量含む 内外面摩滅	359

第391図 SD301 溝跡出土遺物

遺物は土師器・須恵器などが出土し、土師器坏2点・鉢1点を掲載した(第391図)。1・2は土師器坏である。1は厚手の輪台状の底部で、体部は直線的に外傾しながら口縁部に至る。内面はナデ調整後体部から底部に粗いヘラミガキが粗く施されている。内面に黒色処理は認められない。色調は暗褐色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と赤色粒子、多量の海綿骨針を含む。2は小型品で、口縁部と体部の境に段、内面に稜を持つ。丸底で、口縁部は内湾気味に外傾する。内面に黒色処理が施されている。3は土師器鉢で、頸部に段が認められない。薄手の底部から厚みを持って立ち上がり、体部は緩やかに内湾し、口縁部で直立する。

時期決定できる遺物はないが、SI440との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。

SD303 溝跡(第381・382・392・393図、第25表)

調査区北西部の24・27～31・38区に位置する。北東端部は調査区外へ延び、南辺の一部は攪乱により失われ、分断される。SI408A・B、SD302・334より古く、SI400・440、SD286・301・331・346、Pit1137～1139・1252・1257・1260・1276より新しい。

方位は南辺がN-75°-W～89°-E、東辺がN-54°-Eである。主体となる南辺は、東西に向かって延びながら南側へわずかに湾曲し、東部で北東側へ「く」字状に屈曲する。確認された規模は長さ41.00m、上端幅82～184cm、下端幅22～70cm、深さ16～55cmを測る。断面形は台形を呈し、壁面は概ね直線的、一部は内湾気味に立ち上がる。東部の屈曲部付近では、北壁の一部にテラス状の段差を伴う。底面は全体的に起伏が認められる。底面の一部には、工具痕が認められる。傾斜は認められない。堆積土は3層に大別し、そのうち1層をa・bに細別した。暗褐色シルトないし粘土質シルトを主体とする自然堆積である。

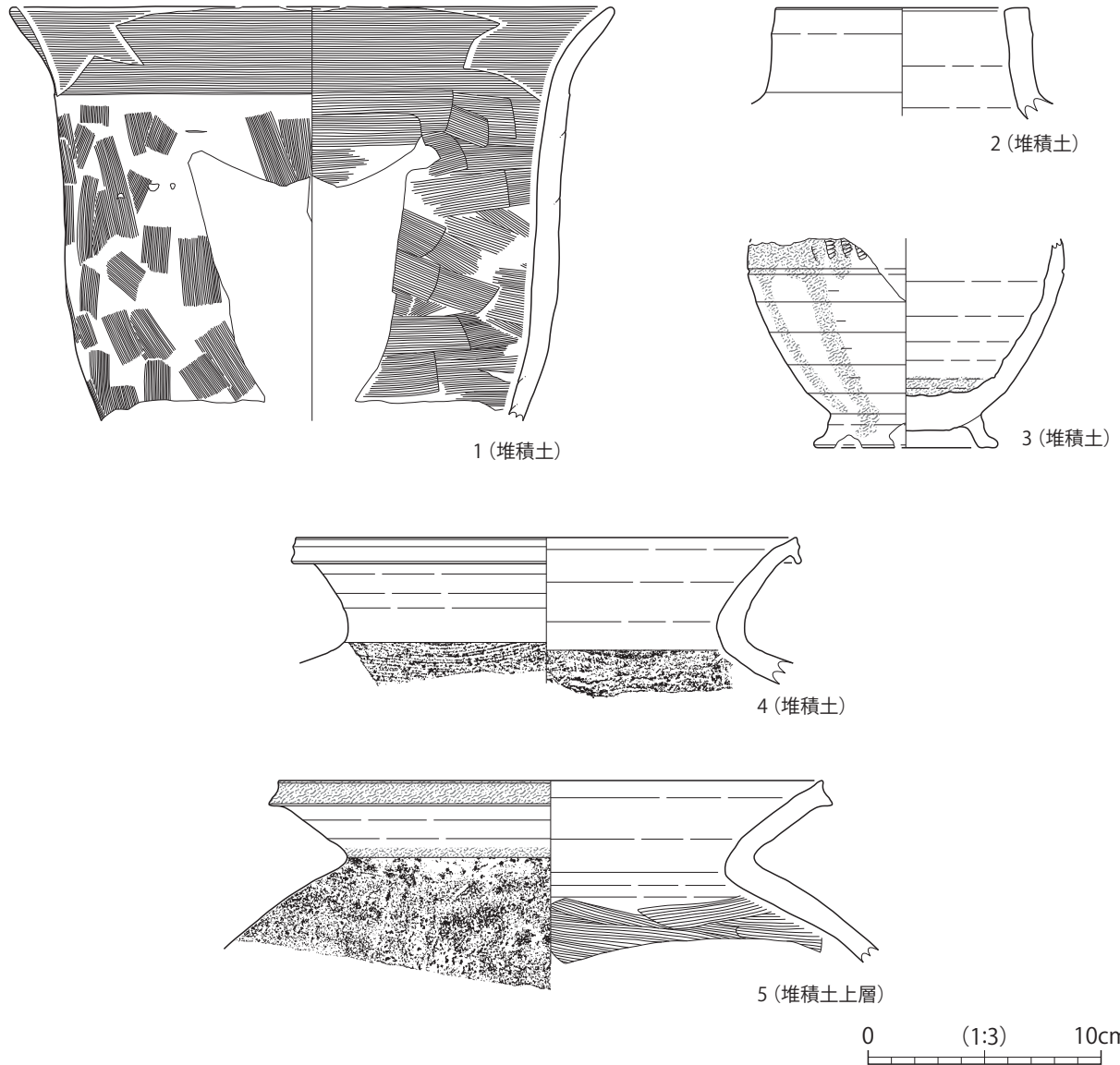
遺物は土師器・須恵器、礫石器、石製品、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器甕1点、須恵器壺もしくは瓶類2点・甕2点、礫石器4点、土製品2点を掲載した(第392・393図)。1は土師器甕で、口縁部に最大径が位置し、胴部は砲弾形を呈するものと考えられる。頸部に段を持ち、口縁部で緩やかに外反する。2は須恵器短頸壺で、口径から中型品と考えられる。口縁部が内湾気味に直立する。色調は青灰色を呈し、胎土はやや精良で、少量の砂粒と白色粒子、少量の海綿骨針を含む。3は瓶類の体部で、器形などから水瓶の可能性がある。長めの高台が厚手の丸底に付されている。体部中位には沈線後に櫛歯状の刺突文が施されている。色調は暗灰色～青灰色を呈し、胎土は精良で、少量の砂粒と多量の黒色粒子を含む。外面胴部と内面の底部には黄緑色の自然釉が付着している。4・5は須恵器甕である。4の口縁部は緩やかに外反、5は「く」字状に屈曲し直線的に外傾する。口縁端部は4が凸面を持ち下方に垂下、5は緩やかな凹面を持つ。色調は4が灰色、5が明灰色～灰色を呈する。胎土はともにやや精良で、4は砂粒、5は少量の砂粒と多量の黒色粒子を含む。5の口唇部と胴部には黄緑色の自然釉が付着している。6は磨礫石で、磨面が2面あり、a面には比較的強い敲打による凹痕がみられる。石材は凝灰岩である。7は敲石で、d・e面に敲打痕がみられる。石材は安山岩である。8・9は凹石である。いずれも中央部がくぼむ皿状を呈する。8は研磨によって表面が平滑に仕上げられており、SI497やSD284の礫石器(第294図11・第383図3)に類似する。a・b面には線条痕がみられる。石材は細粒凝灰岩である。9は自然礫を素材とし、凹部内の周縁と上端部に敲打痕がみられる。石材は花崗岩である。10・11は管状の土錘であり、外面はともにナデが施されている。

時期決定できる遺物はないが、SI408A・B、SD331との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)～6期(8世紀前半)の可能性がある。

SD304・333 溝跡(第381・382・394図、第25・29表)

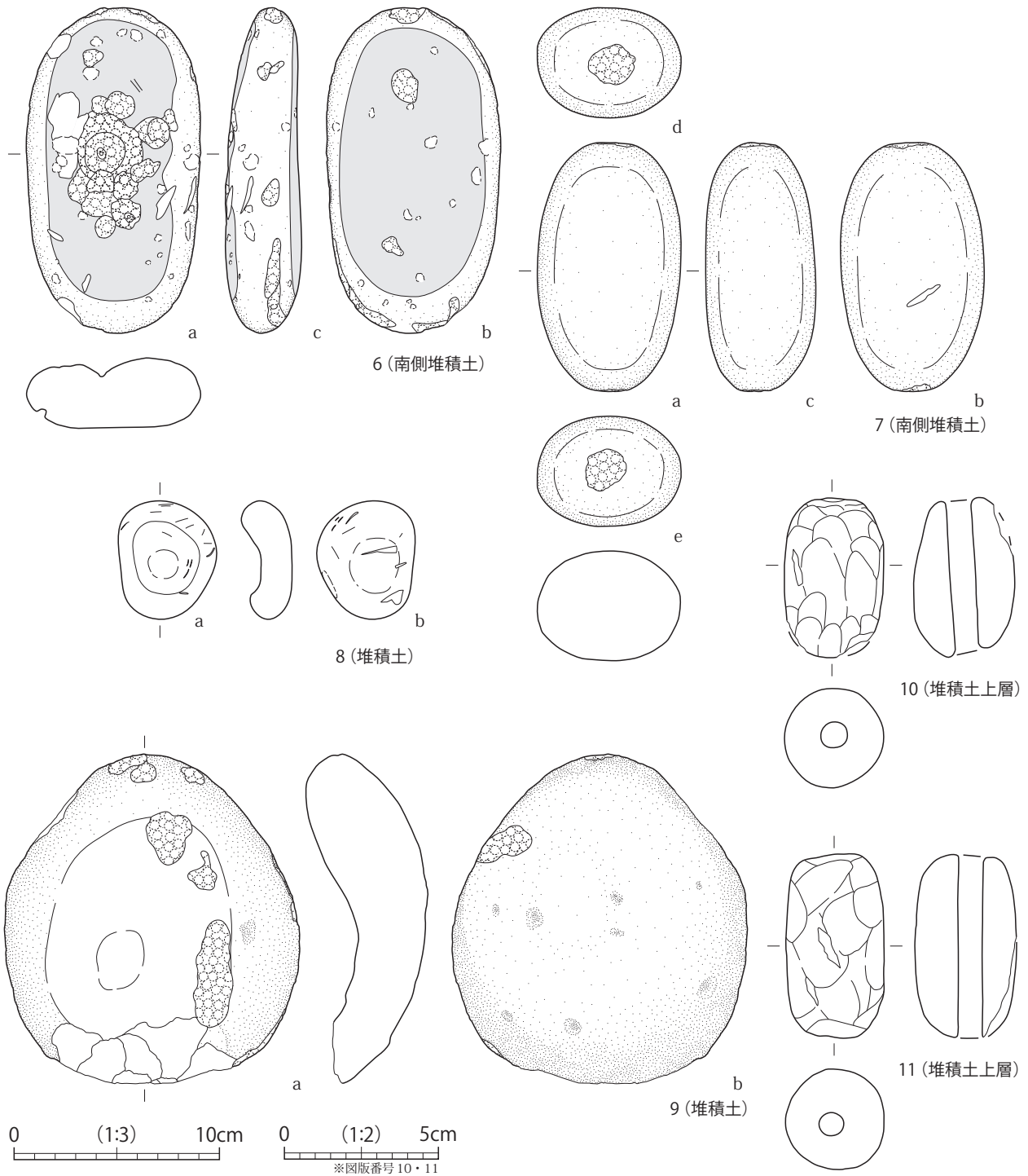
SD304・333は、1m程度の間隔を空けて同一線上に位置する。規模と位置から、両溝を一連の区画溝と判断した。SD304の南側同一線上にはSD314が延びるが、堆積土の特徴から別遺構と判断した。

SD304は調査区北西部の45・52・53・61区に位置する。SI491・492、Pit356より古く、SI437、Pit366より新しい。西端部はSI492の重複により失われている。方位はN-30°~64°-Eで、南西から北東に向かって延びる。概ね直線的だが、南西部で南側へわずかに湾曲する。確認された規模は長さ11.35m、上端幅104~129cm、下端幅32~62cm、深さ51~75cmを測る。断面形は浅いU字形を呈し、壁面は内湾気味に立ち上がる。底面は全体的に起伏が認められる。中央部がわずかに高まり、南西・北東に向かって13~19cm程度傾斜して下がる。堆積土は6層に分層した。灰黄褐色シルトないしにぶい黄橙色シルトを主体とする自然堆積である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-639	SD303	堆積土	土師器	甕	(25.8)	—	(17.8)	口縁：ヨナデ 胴部：Mメ	口縁：ヨナデ 胴部：ヘナデ		359
2	E-055	SD303	堆積土	須恵器	短頸壺	(10.8)	—	(4.6)	叩調整	叩調整	外面口縁部灰かぶり 骨針少量含む	360
3	E-056	SD303	堆積土	須恵器	水瓶か	—	(7.7)	(9.0)	体上半：櫛歯状刺突文 体下半：回転ヘカスリ 底部：叩調整による高台貼付	叩調整	外面体部・内面底部自然袖付着 角閃石微量含む	360
4	E-057	SD303	堆積土	須恵器	甕	(21.4)	—	(6.3)	口縁：叩調整 胴部：舛メ	口縁：叩調整 胴部：青海波77具痕	外面胴部・内面口縁部灰かぶり	360
5	E-058	SD303	堆積土上層	須恵器	甕	(23.4)	—	(7.9)	口縁：叩調整 胴部：不明	口縁：叩調整 胴部：ヘナデ	外面口唇部・胴部に自然袖付着	360

第392図 SD303 溝跡出土遺物 (1)



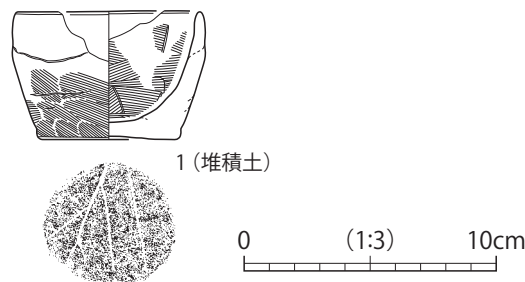
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
6	Kc-017	SD303 南側	堆積土	礫石器	磨+凹+敲石	15.7	8.5	3.7	434.0	凝灰岩	磨2面(平坦・やや凸)凹1面(深)敲(平坦・側面)	360
7	Kc-018	SD303 南側	堆積土	礫石器	敲石	12.1	7.0	5.4	702.5	安山岩	敲(先端面)	360
8	Kc-014	SD303	堆積土	礫石器	凹石	5.8	4.8	2.5	81.9	細粒凝灰岩	凹1面(深) 線条痕	360
9	Kc-015	SD303	堆積土	礫石器	凹石	16.0	14.3	6.1	1087.3	花崗岩	凹1面(深) 敲(凹凸面)	360
10	P-035	SD303	堆積土上層	土製品	土錘	5.2	3.2	3.2	55.2	珩	孔径0.8cm	360
11	P-036	SD303	堆積土上層	土製品	土錘	6.0	3.2	3.2	67.3	珩	孔径0.8cm	360

第393図 SD303 溝跡出土遺物(2)

SD333は調査区北西部の38・45区に位置する。SI408A・B・409、SB45、SD334より古く、SI478、Pit1134より新しい。東端部はSI408とSD334、中央部はSI409、西端部付近はSB45の柱穴により失われている。方位はN-19°-57°-Eで、南西から北東に向かって延びる。平面形は概ね直線的だが、北東端部付近で北側へ湾曲する。確認された規模は長さ11.37m、上端幅98~102cm、下端幅42~67cm、深さ14~36cmを測る。断面形は浅いU字形を呈し、壁面は内湾気味に立ち上がる。底面は全体的に起伏が認められる。北東に向かって9cm程度傾斜して下がる。堆積土は3層に分層した。黒褐色シルトないし灰黄褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物はSD304から土師器・須恵器、礫石器、鉄滓などのほか、ミニチュア土器4点が出土したが図化していない。SD333からは土師器が出土し、ミニチュアの鉢1点を掲載した(第394図)。平底から直立しながら内湾気味に口縁部に至る。外面はユビナデ、内面にヘラナデが施されている。

時期決定できる遺物はないが、SI408・409・491・437との新旧関係から、5期(7世紀末頃~8世紀初頭)~6期(8世紀前半)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-680	SD333	堆積土	土師器	ミニチュア鉢	(7.1)	5.3	5.1	北'ナ'	ヘラナ'	底部木葉痕 角閃石微量含む 内外面やや摩滅	362

第394図 SD333 溝跡出土遺物

SD312 溝跡(第395・396図、第26表)

調査区南西部の112区に位置し、東端部は攪乱により失われている。SD314、SK382、Pit817・819・1379・1389より新しい。周辺にはSD309・310など同規模の溝が確認されているため、集落に伴う区画溝であった可能性がある。

確認された規模は長さ6.55m、上端幅60~80cm、下端幅34~58cm、深さ10~25cmを測る。方位はN-56°-Wで、北西から南東に向かって直線的に延びる。断面形は浅いU字形を呈し、壁面は内湾気味に立ち上がる。底面は全体的に起伏が認められる。北西に向かって31cm程度傾斜して下がる。堆積土は3層に分層した。灰黄褐色ないし黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器、礫石器などが出土し、礫石器1点を掲載した(第395図)。1は台石で、a面の中央には比較的強い敲打による深い凹痕、b面には比較的弱い敲打痕が認められる。石材は凝灰岩である。

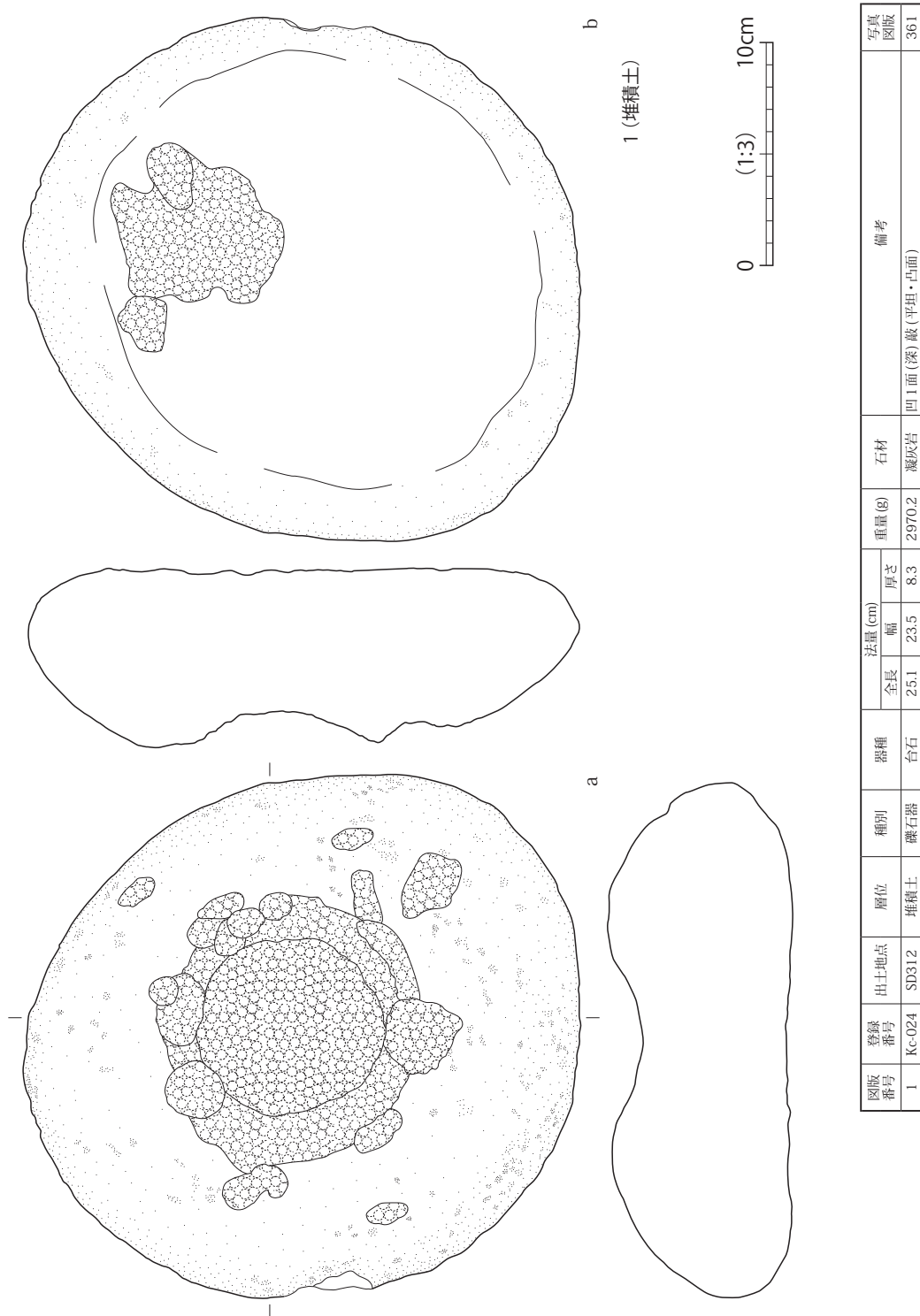
時期決定できる遺物はなく、SD314(6期以前)よりも新しいが、詳細な時期は不明である。

SD314 溝跡(第397・398図、第26表)

調査区西部~南部の78・87・96・104・112・120区に位置する。壁上部は攪乱や別遺構によって数箇所が、南端部および北端部は攪乱により失われている。SD309・310・312・313・317、SK383より古く、SI501、SK453・460、Pit1228・1243より新しい。

方位はN-44°-W~10°-Eで、北から南に向かって延び、南部で東側に緩やかに湾曲する。確認された規模は長さ25.78m、上端幅102~204cm、下端幅22~56cm、深さ35~59cmを測る。断面形は台形を呈し、壁面

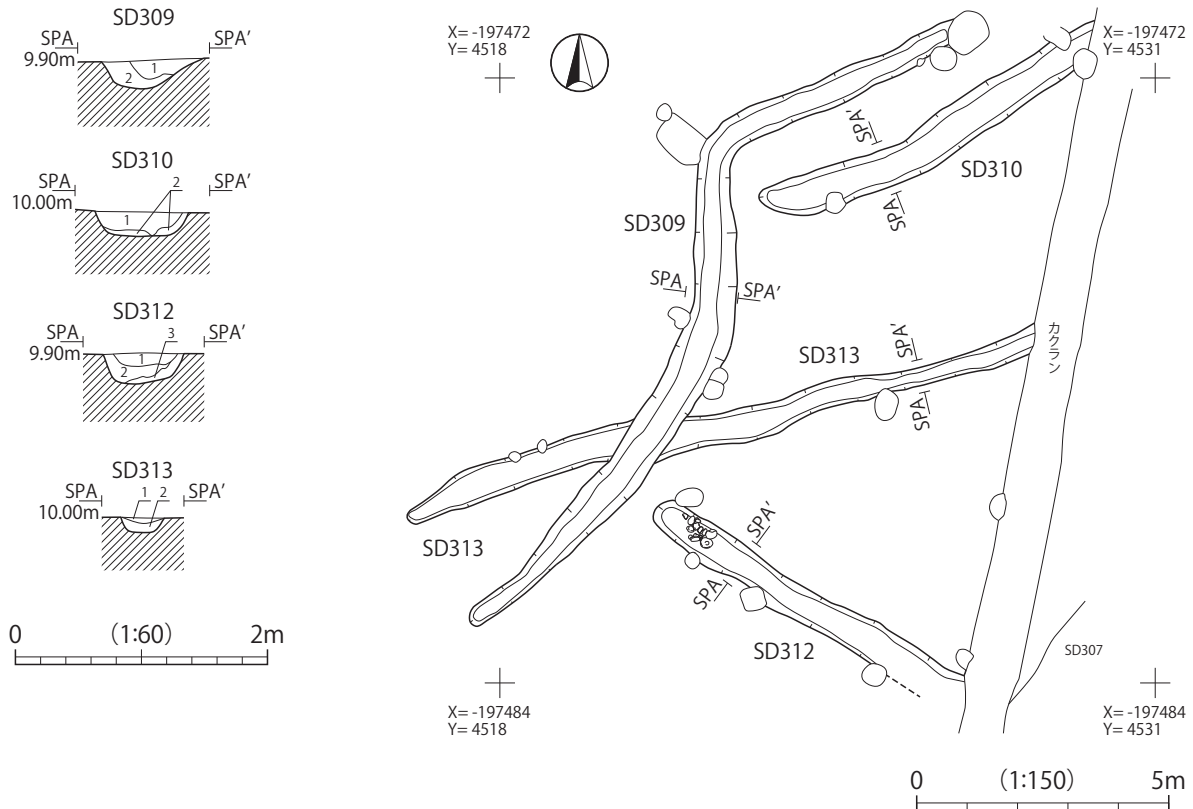
は直線的に立ち上がる。東西の両壁面にはテラス状の段差を伴うが、幅は東側が狭く、西側が広い。底面は概ね平坦だが、わずかに起伏が認められる。傾斜は認められない。堆積土は大別で6層に分層し、このうち6層をa・bに細別した。上層は黒褐色シルト、下層は灰黄褐色砂質シルトを主体とする自然堆積である。全体的に掘り直しの痕跡がみられ、6層は掘り直し前の堆積土である。



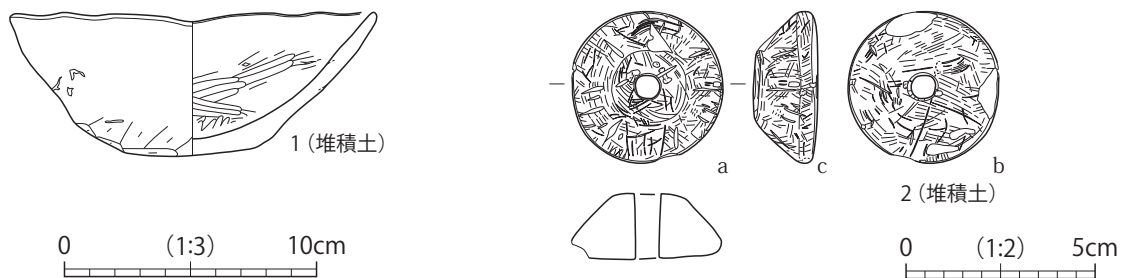
第395図 SD312 溝跡出土遺物

遺物は土師器・須恵器、礫石器、石製品などが出土し、土師器坏1点、石製品1点を掲載した(第397図)。1は土師器坏で、口縁部が波状となっており粗雑な作りである。丸底状を呈し、体部から口縁部に向かって直線的に外傾する。内面に黒色処理は認められない。色調は橙色～浅黄橙色を呈し、胎土はやや粗く、多量の砂粒、少量の海绵骨針を含む。2は石製の紡錘車である。断面形は台形を呈し、a～c面に溝状痕・線条痕、部分的に敲打痕が認められる。石材は滑石である。

時期決定できる遺物はないが、SD317との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前の可能性がある。

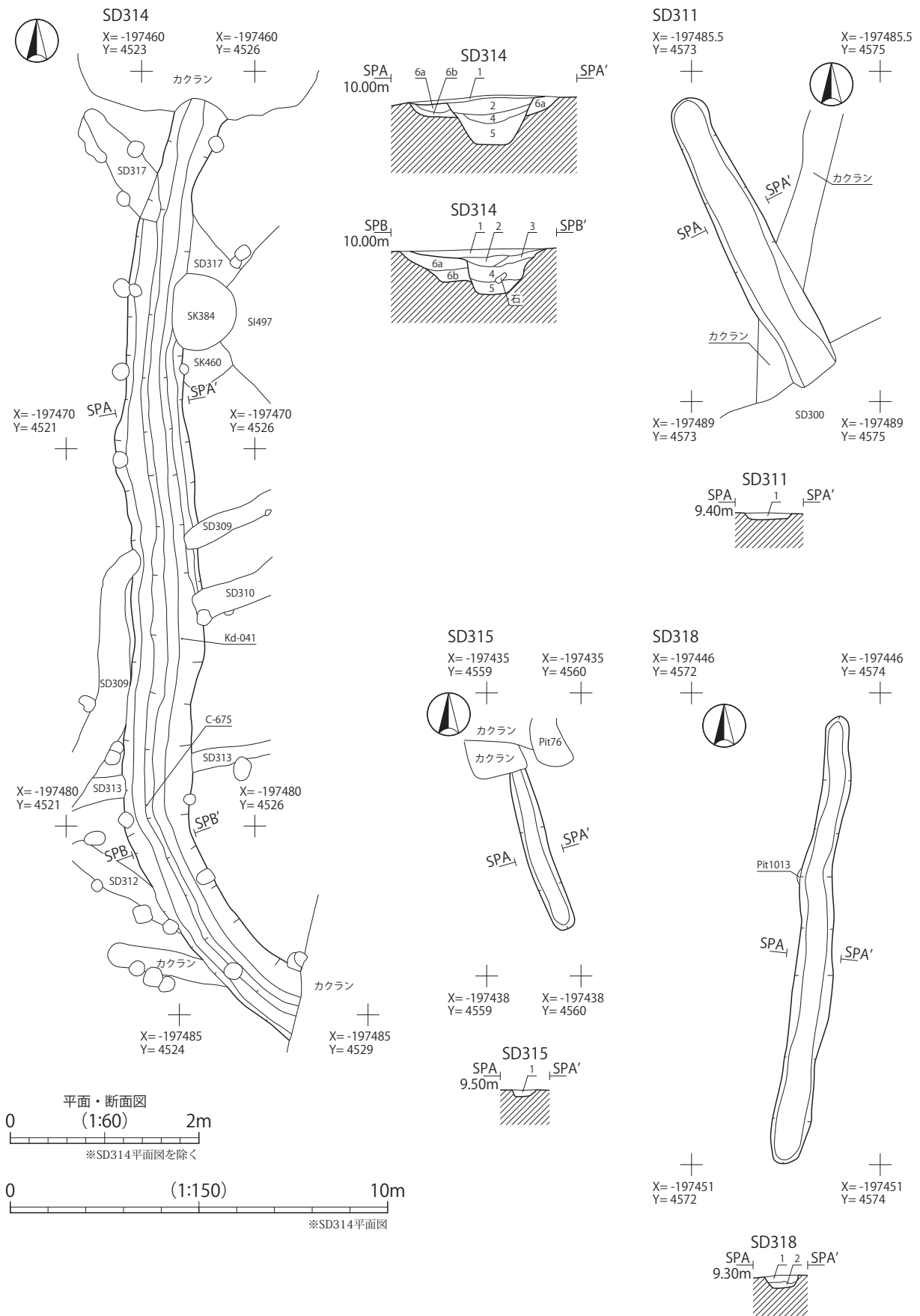


第396図 SD309・310・312・313 溝跡



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-675	SD314	堆積土	土師器	坏	14.3	—	5.7	口縁：不明 体部：ヘラカキ	ヘラカキ	骨針少量、角閃石微量含む 内外面摩滅	360
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
2	Kd-041	SD314	堆積土	石製品	紡錘車	4.0	4.0	1.8	37.9	滑石(●)	溝状痕(a～c面) 線条痕(a～c面) 敲打痕(a～c面) 片側穿孔 孔径0.6～0.8cm	360

第397図 SD314 溝跡出土遺物



第398図 SD311・314・315・318 溝跡

第25表 溝跡(古墳時代~奈良時代) 観察表(1)

遺構名	区割	方向(N°)	規模(cm)				層位	土色	土性	備考	重複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD284	17~23	85~89E	(4043)	73~173	42~130	12~41	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。	SI455、SK327より新しい。
							2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量含む。	
							3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	灰白色シルト粒多量、炭化物粒微量含む。	
							4	10YR6/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)多量含む。	
SD285	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番		
SD286	29・30	88W~85E	(1472)	55~82	17~38	30~42	①a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	礫多量、IV層土粒微量含む。	SD303より古く、SI400、SD301より新しい。
							①b	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・灰白色シルトブロック(10~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
							②	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)・褐灰色シルトブロック(10~20mm程度)少量含む。	
							③	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)多量含む。	
SD287	28・35 36	西辺11E 北辺65 ~90E	(1551)	70~131	62~121	2~13	1	10YR6/2 灰黄褐色	細砂	IV層土粒微量含む。	SI440・443・459より新しい。
SD288	43・44	82E	481	56~88	34~72	6~24	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	SI443より新しい。
							2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。	
SD289	30	87W	323	44~52	26~37	20~27	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	SD301より新しい。
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SD291	39・40	51W	(499)	41~51	26~43	10~19	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	SI402・403より新しい。
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
SD292	—	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
SD293	—	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
SD294	—	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
SD295	—	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
SD296	39・47 48・55 56	45~58W	(1310)	37~61	17~51	6~25	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	SI408より古く、SI404・448、SD330、SK344・402・403・446より新しい。
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
							3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	
SD297	41・42 49・56 57・64 65・81 82・90 99・107	北辺74W 西辺21 ~58E 南辺30 ~51W	(5491)	43~127	20~78	9~48	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・褐灰色シルトブロック(10~20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SD299より古く、SI387・392・412・415・488・489、SD345・348、SK400・470、SX41より新しい。
							2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土をラミナ状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
							3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
							4a	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SD298	57・65 66	58~61W	(595)	47~73	30~60	4~10	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	SI413より新しい。
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。	
SD299	74・75 83・84 91・92 100・107 108・115 121・123	15~72E	(4785)	56~169	28~52	4~49	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒・鉄滓微量含む。	SK358より古く、SI389・397・420・421・423・426・489・522、SD297・317・328・338・350より新しい。
							2a	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
							2b	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量含む。	
							3a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)・炭化物粒微量含む。	
							3b	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土斑状に含む。	
SD301	18・19 23・29 30・37	西辺35W 南辺52E	(2754)	110~155	33~57	25~50	1a	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	SI437・440・457、SB47、SD286・289・303・331・332より古い。
							1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
							2a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土斑状に少量含む。	
							2b	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
							3a	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量含む。	
							3b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
							4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。	
SD302	30・31	64~81W	(408)	42~56	28~43	7~17	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	SI400、SD303より新しい。
SD303	24・27 ~31・38	南辺75W ~89E 東辺54E	(4100)	82~184	22~70	16~55	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI408A・B、SD302・334より古く、SI400・440、SD286・301・331・346より新しい。
							1b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
							2	10YR6/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
							3	10YR7/6 明黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック主体。褐灰色シルトとの混土。	
SD304	45・52 53・61	30~64E	(1135)	104~129	32~62	51~75	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。	SI491・492より古く、SI437より新しい。
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。	
							3	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~50mm程度)多量含む。	
							4	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	
							5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。	
							6	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。	
SD306	79	81W~71E	336	62~71	25~45	7~19	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。	SI479・480・514より新しい。
SD308	68・77 86・95	22~32W	(1292)	62~129	44~109	8~21	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。	SI463・464より新しい。
							2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	
SD309	96・103 104・111	北辺64E 西辺3 ~44E	(1646)	38~102	17~48	6~30	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に含む。	SI470、SD313・314、SK453より新しい。
							2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。	
SD310	96	57~73E	(766)	63~84	39~55	19~24	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	SI502・521、SD314、SK453より新しい。
							2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。	
SD311	125	25W	(327)	40~57	27~40	2~12	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	SI431・432、SK479より新しい。

第26表 溝跡(古墳時代~奈良時代)観察表(2)

遺構名	区割	方向(N°)	規模(cm)				層位	土色	土性	備考	重複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD312	112	56-W	(655)	60~80	34~58	10~25	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に含む。	SD314, SK382より新しい。
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
							3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	
SD313	103・104 111	66~80-E	(1312)	32~70	21~53	2~16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。	SD309より古く、SI507・521, SD314より新しい。
							2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
SD314	78・87 96・104 112・120	44W~10E	(2578)	102~204	22~56	35~59	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	SD309・310・312・313・317, SK383より古く、SI501, SK453・460より新しい。
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。遺物を多量含む。	
							3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。	
							4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
							5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。	
							6a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。 ※掘り直し前の堆積土	
6b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。 ※掘り直し前の堆積土								
SD315	39	14~23W	(176)	17~26	10~17	4~7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。	SI402・403より新しい。
SD317	78・87 96・97 106・114 115	43~72W	(3888)	67~144	29~119	13~36	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。	SI473・497, SD299より古く、SI474・519・522, SD314・350, SX42より新しい。
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量含む。	

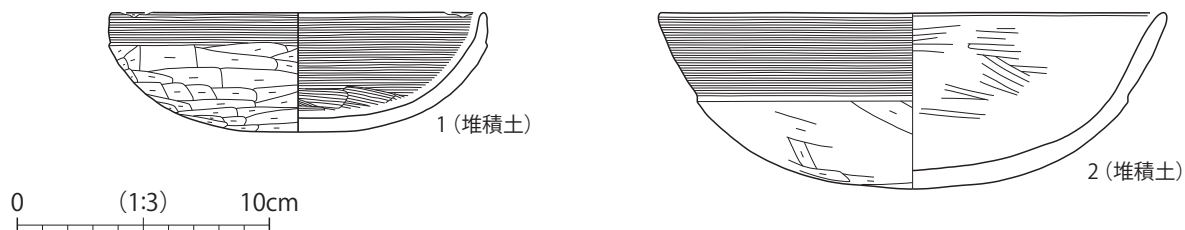
SD317 溝跡(第399・400図、第26表)

調査区西部から南部の78・87・96・97・106・114・115区に位置する。南東端部はSD299の、それ以外も攪乱と別遺構の重複によって失われている。SI473・497、SD299より古く、SI474・519・522、SD314・350、Pit1228・1249、SX42より新しい。

方位はN-43~72°-Wで、北西から南東に向かって緩やかに蛇行しながら延びる。確認された規模は長さ38.88m、上端幅67~144cm、下端幅29~119cm、深さ13~36cmを測る。断面形は台形もしくは浅いU字形を呈する。壁面の立ち上がりは場所によって異なり、北東端部付近では直線的、中央部では内湾気味、南東部では直線的だが南壁にテラス状の段差を伴う。底面は概ね平坦だが、わずかに起伏が認められる。南東に向かって50cm程度傾斜して下がる。堆積土は2層に分層した。灰黄褐色シルトないし黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

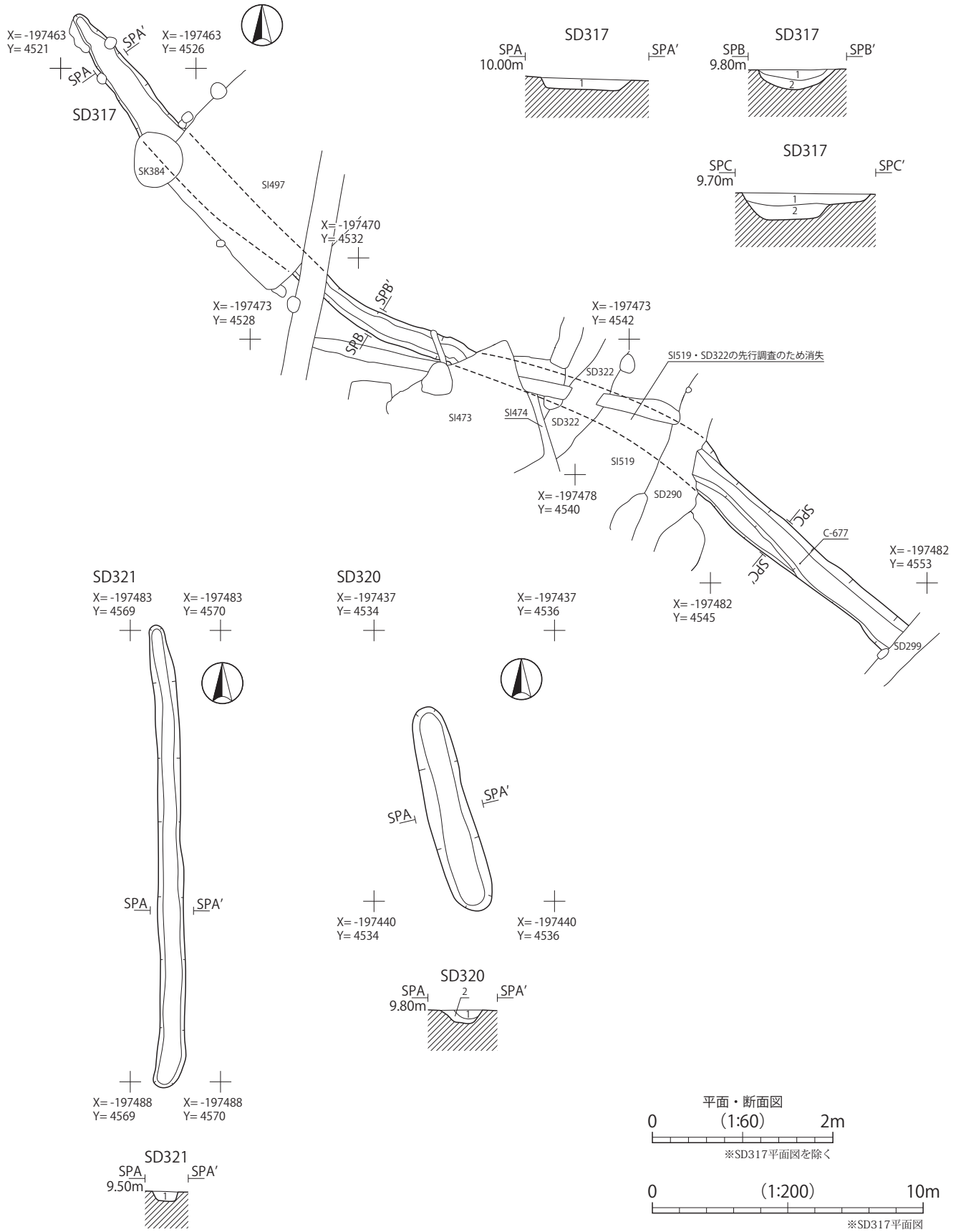
遺物は土師器・須恵器、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環2点を掲載した(第399図)。1・2は土師器環で、1は鬼高系土師器の特徴を持つ。丸底から緩やかに内湾し、口縁部は短く直立する。内面は口縁部から体部にかけてヨコナデ、底部にはヘラナデが施されている。内外面は黒色漆仕上げされている。色調は橙色を呈し、胎土は粉のように細かく精良で、細砂と少量の赤色粒子を含む。2は口径が20cmある大型品ある。深身で、丸底から内湾し、口縁部は直線的に外傾する。摩滅により内面の黒色処理は消失したと考えられる。

時期決定できる遺物はないが、SI497・522、SD350との新旧関係から、5期(7世紀末頃~8世紀初頭)~6期(8世紀前半)の可能性がある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-678	SD317	堆積土	土師器	環	(14.9)	—	4.7	口縁:ヨコナデ 体~底部:ヘラナリ	口縁:ヘラナデ→ヨコナデ 体~底部:ヘラナリ	関東系内外面漆仕上げ	361
2	C-677	SD317	堆積土	土師器	環	(20.0)	—	7.0	口縁:ヨコナデ 体部:ヘラナリ	ヘラナギ	内外面摩滅	361

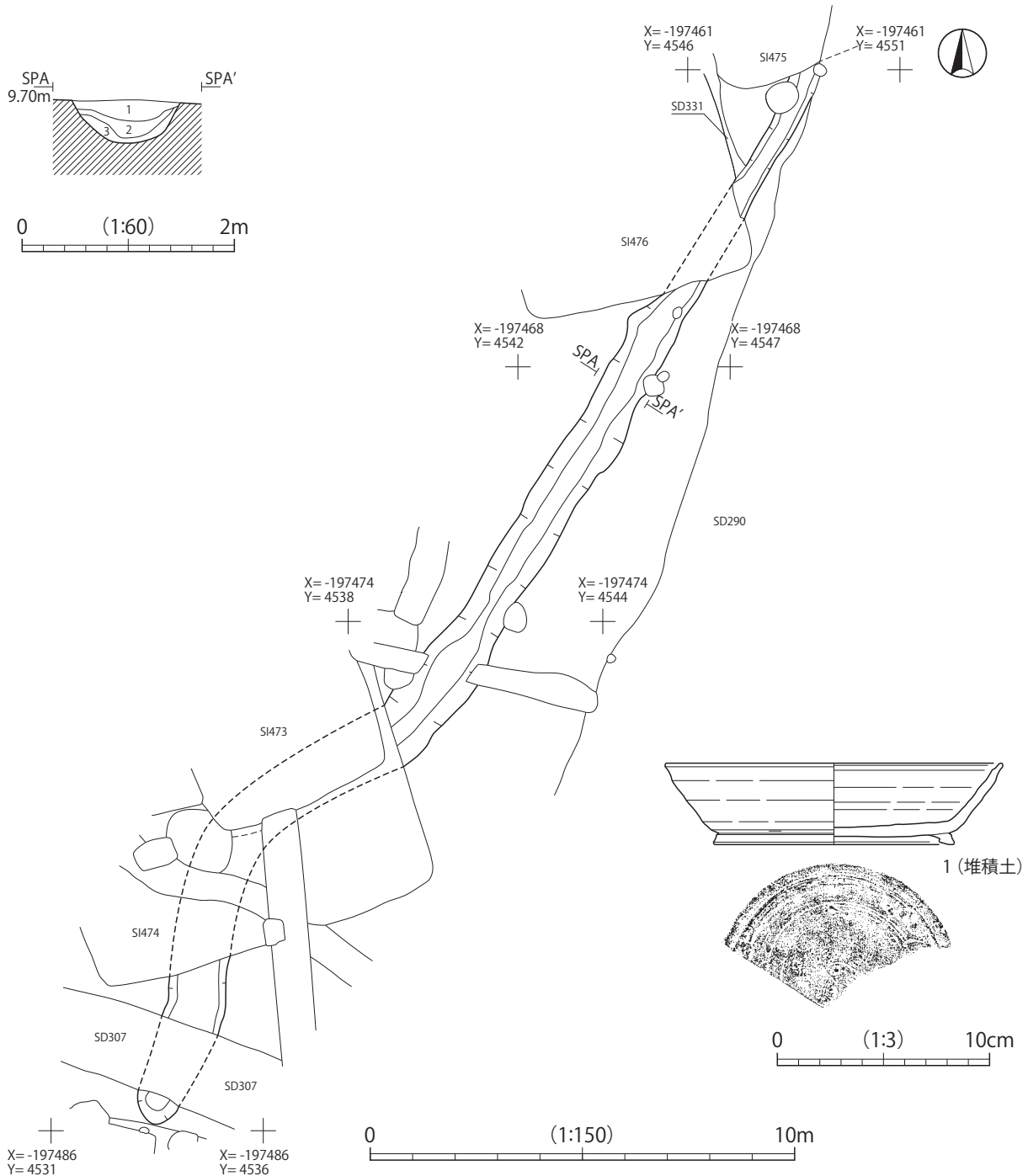
第399図 SD317 溝跡出土遺物



第400図 SD317・320・321 溝跡

SD322 溝跡 (第401図、第27表)

調査区中央から南部、80・89・97・98・105・106・113・121区に位置する。北端部はSI475、SD290に、南部はSI473・474、SD307などにより失われている。SI473～476、SD331より古く、SI485・519、SD345・354、SK469より新しい。なお、SD331との新旧関係は調査時点では不明であったが、それぞれ重複する住居跡の時期を検討した結果、SD331の方が新しいと判断した。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	E-091	SD322	堆積土	須恵器	高台付環	(15.8)	(11.2)	3.8	口調整 体下端～底部：回転ハカスリ→口調整による高台貼付	口調整		361

第401図 SD322 溝跡・同出土遺物

方位はN-22~37°-Eで、南北に延びる。北半部は直線的な平面形を呈する。南半部は、残存部分の位置から蛇行すると考えられる。確認された規模は長さ30.10m、上端幅56~147cm、下端幅17~111cm、深さ9~48cmを測る。断面形は浅いU字形を呈し、壁面は内湾気味に立ち上がる。底面は全体的に起伏が著しい。北に向かって36cm程度傾斜して下がる。堆積土は3層に分層した。黒褐色シルトないし灰黄褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器、鉄滓などが出土し、須恵器高台付坏1点を掲載した(第401図)。1は平底から屈曲して立ち上がり、体部は直線的に外傾し、口縁部でわずかに外反する。断面台形の高台が底部の端部に「ハ」字状に付されている。沈線が内面口縁部にめぐる。色調は灰色~橙色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と黒色粒子を含む。

時期決定できる遺物はないが、SI474、SD345との新旧関係から、3期(6世紀末頃~7世紀前半)と考えられる。

SD325~327溝跡(第402図、第27表)

それぞれ調査区中央部東寄りに位置する。SD325の西側延長上にSD326が、SD326の南側にSD327が位置する。規模と位置から、これらを一連の遺構と判断した。

SD325は、73・81・82・90区に位置する。SD324より古く、SI451、SD348、SK399、Pit959~961・992より新しい。東端部は攪乱により失われている。

方位はN-39~56°-Eで、東西方向へ延びる。平面形は概ね直線的である。確認された規模は長さ10.92m、上端幅38~64cm、下端幅18~33cm、深さ12~27cmを測る。断面形は浅いU字形を呈し、壁面は内湾気味に開いて立ち上がる。底面には起伏が認められ、東に向かってわずかに傾斜して下がり、25cm程度の比高差が認められる。堆積土は3層に分層した。黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

SD326は、89・90区に位置する。SI451、Pit968・1423より新しい。

方位はN-68~88°-Eで、東西方向へ延びる。平面形は概ね直線的である。確認された規模は長さ4.23m、上端幅23~42cm、下端幅15~35cm、深さ6~12cmを測る。断面形は台形を呈し、壁面は内湾気味に開いて立ち上がる。底面は西半部では平坦だが、東半部では起伏が認められる。また東に向かってわずかに傾斜して下がり、5cm程度の比高差が認められる。堆積土は2層に分層した。暗褐色シルトを主体とする自然堆積である。

SD327は、89・90・98区に位置する。SI451・485、Pit981より新しい。

方位はN-59~71°-Eで、東西方向へ延びる。平面形は概ね直線的である。確認された規模は5.86m、上端幅19~34cm、下端幅8~22cm、深さ2~7cmを測る。断面形は弧状を呈し、壁面は内湾気味に大きく開いて立ち上がる。底面は全体的に起伏が認められる。また西に向かってわずかに傾斜して下がり、4cm程度の比高差が認められる。堆積土は黒褐色シルトの単層で、自然堆積である。

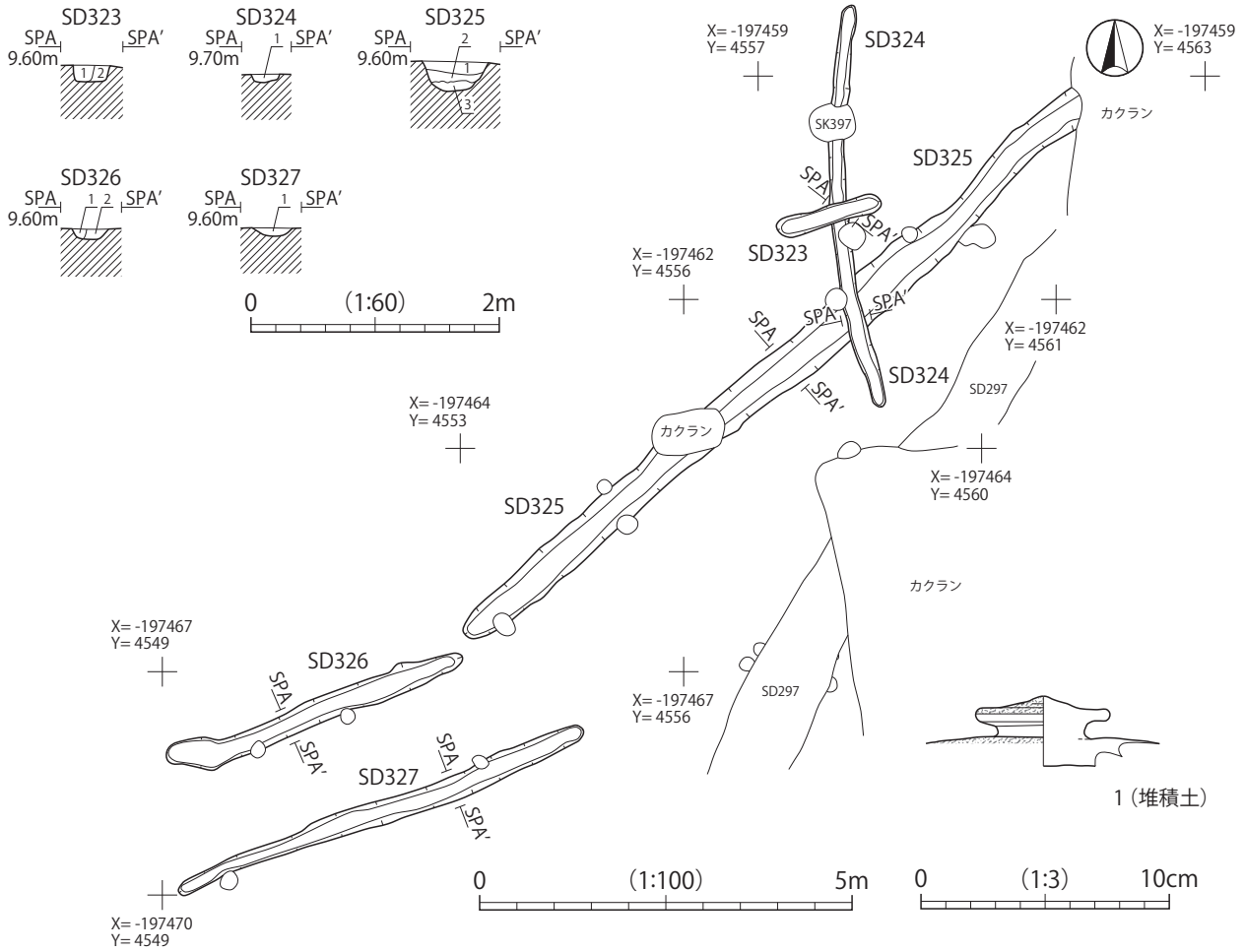
遺物はSD325から土師器・須恵器、鉄滓などが出土し、須恵器蓋1点を掲載した(第402図)。扁平な擬宝珠形のツマミで、ツマミ径5.4cmの大型品である。色調は灰色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と黒色粒子を含む。

時期決定できる遺物はないが、SI451との新旧関係から、6期(8世紀前半)以降と考えられる。

SD328溝跡(第403・404図、第28表)

調査区南東部の83・84・91・92・93・100・101・107・108・115・122・123・129・130・137・138・146区に位置する。北東端部は調査区外へ延び、南西端部は攪乱により失われている。また、数箇所が攪乱と他遺構の重複によって失われるため、断続的に残存する。SI389・420・423・426・451・523・524・526・528・531、SB49、SD299・338・350、Pit1438・1659、SX43より古く、SI498、Pit1791より新しい。

方位は西辺がN-25°-W、北辺がN-42~60°-Eで、主体となる北辺は北東から南西に向かって緩やかに

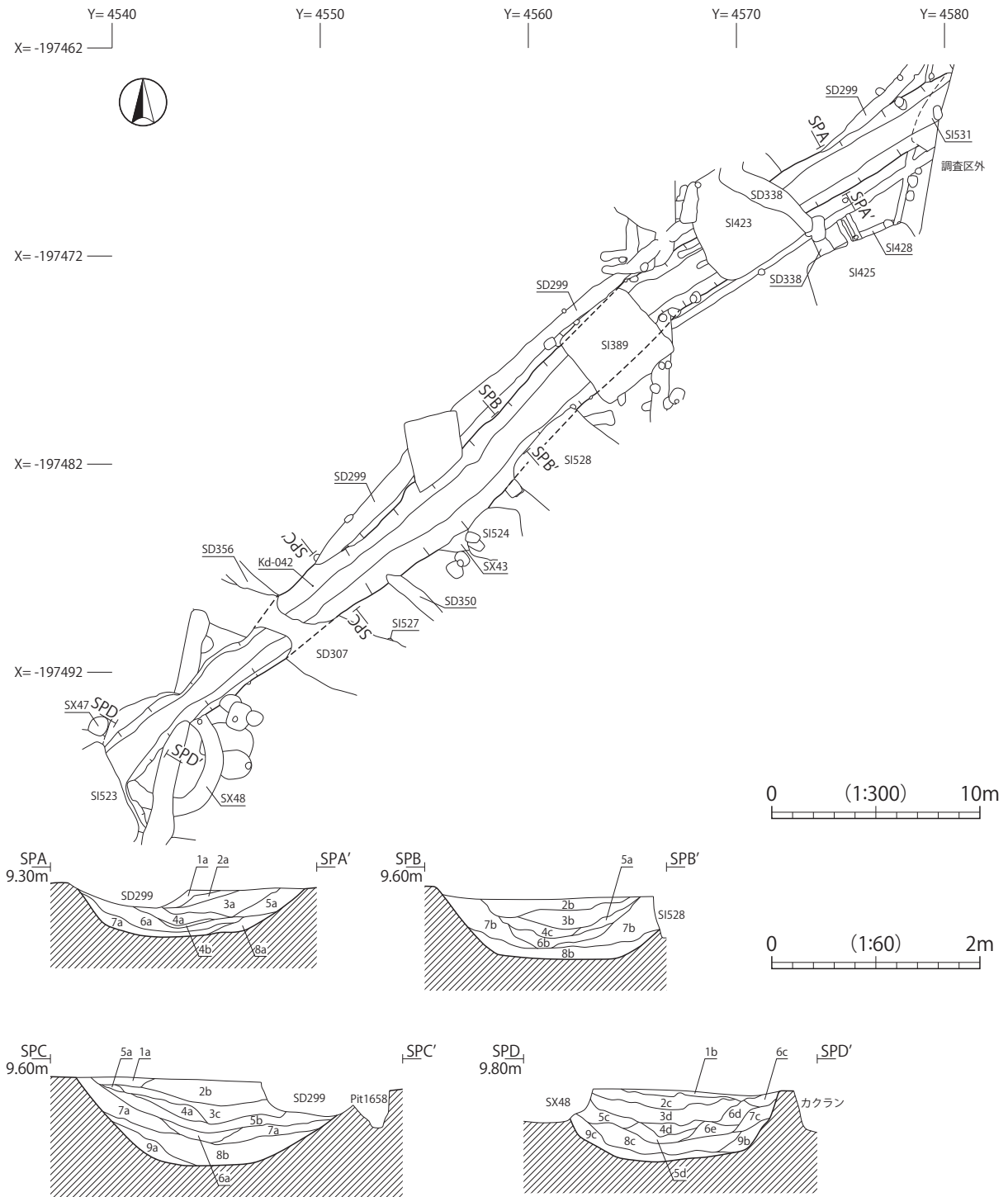


第402図 SD323～327溝跡・SD325溝跡出土遺物

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						ツマミ径	底径	器高				
1	E-092	SD325	堆積土	須恵器	蓋	5.4	—	(2.8)	叩調整	叩調整	外面自然剥付着	361

第27表 溝跡(古墳時代～奈良時代)観察表(3)

遺構名	区割	方向 (N°)	規模 (cm)				層位	土色	土性	備考	重複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD318	57・65	4～12W	476	25～42	15～29	4～19	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI412、SK400より新しい。
							2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。	
SD319	39・47 48・56	2～64W	(1563)	35～69	18～41	7～27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	SI406より古く、SI404・448より新しい。
							2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)微量含む。	
							3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	
SD320	37・45	15W	233	39～48	23～30	11～18	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	SI437、SD347より新しい。
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
SD321	116・124	1～15W	515	18～32	10～22	6～12	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI434・436より新しい。
SD322	80・89 97・98 105・106 113・121	22～37E	(3010)	56～147	17～111	9～48	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。	SI473～476、SD331より古く、SI485・519、SD345・354、SK469より新しい。
							2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
							3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	
SD323	81	73E	143	23～28	16～19	10～13	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	SD324より新しい。
							2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	
SD324	72・81	19W～7E	547	17～25	10～18	1～14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	SD323より古く、SI483、SD325・348より新しい。
SD325	73・81 82・90	39～56E	(1092)	38～64	18～33	12～27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒斑状に少量含む。	SD324より古く、SI451、SD348、SK399より新しい。
							2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
							3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。	
SD326	89・90	68～88E	423	23～42	15～35	6～12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	SI451より新しい。
							2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SD327	89・90 98	59～71E	586	19～34	8～22	7	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	SI451・485より新しい。



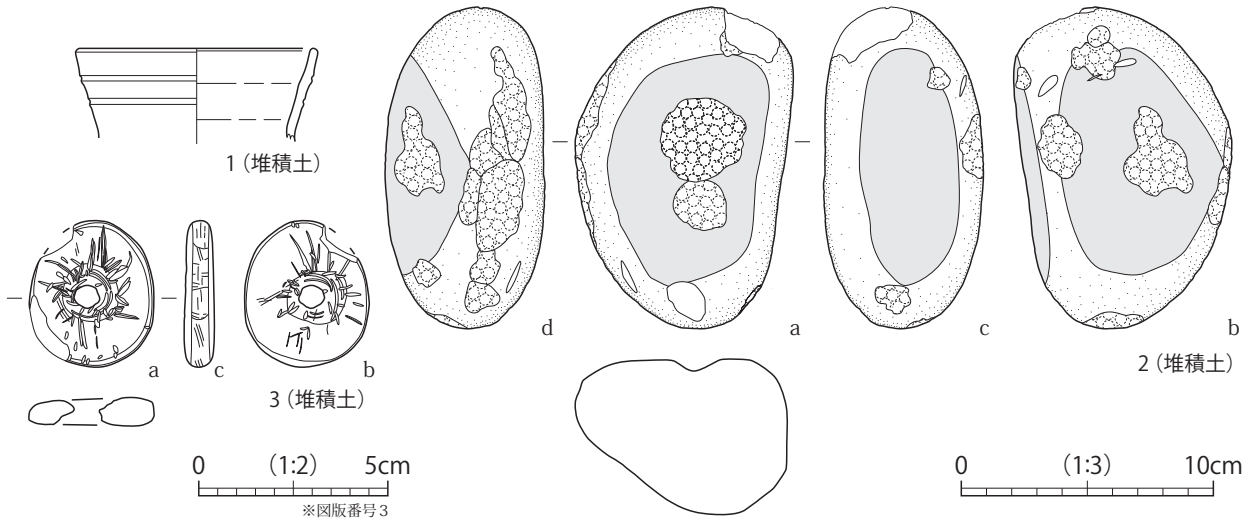
第403図 SD328 溝跡

蛇行しながら延びる。南西部で南に向かって「L」字状に屈曲する。確認された規模は長さ 55.83m、上端幅 226 ~ 311cm、下端幅 56 ~ 166cm、深さ 40 ~ 91cm を測る。断面形は台形もしくは浅いU字形を呈し、壁面は内湾気味に立ち上がる。底面は概ね平坦だが、わずかに起伏が認められる。北東に向かって 31cm 程度傾斜して下がる。堆積土は 9 層に大別し、そのうち 1 層を a・b、2・7 ~ 9 層を a ~ c、3 ~ 5 層を a ~ d、6 層を a ~ e に細別した。黒褐色ないし灰黄褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器、礫石器・石製品、鉄滓、土製品などが出土し、須恵器壺 1 点、礫石器 1 点、石製品 1 点を

第28表 溝跡(古墳時代~奈良時代)観察表(4)

遺構名	区割	方向(N°)	規模(cm)				層位	土色	土性	備考	重複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD328	83・84 91・92 93・100 101・107 108・115 122・123 129・130 137・138 146	西辺 25W 北辺42 ~60E	(5583)	226 ~ 311	56~ 166	40~ 91	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	S1389・420・423・ 426・523・524・ 526・528・531・ SB49、SD299・ 338・350、SX43 より古く、S1498 より新しい。
							1b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。	
							2a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
							2b	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
							2c	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
							3a	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
							3b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
							3c	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)多量含む。	
							3d	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
							4a	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
							4b	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。	
							4c	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
							4d	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、酸化鉄・炭化物粒微量含む。	
							5a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
							5b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。	
							5c	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰白色シルトブロック(5mm程度)多量、酸化鉄・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
							5d	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、酸化鉄微量含む。	
							6a	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。	
							6b	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	灰色シルトブロック(5~30mm程度)少量、IV層土粒・炭化物粒微量、褐鉄鉱含む。	
							6c	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	IV層土ラミナ状に多量、焼土粒微量含む。	
							6d	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、酸化鉄微量含む。	
							6e	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、酸化鉄微量含む。	
							7a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土斑状に多量含む。	
							7b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
							7c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
							8a	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。	
							8b	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
							8c	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。	
9a	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。								
9b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に多量含む。								
9c	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に多量含む。								



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	E-093	SD328	堆積土	須恵器	壺	(9.2)	—	(3.7)	叩調整→沈線	叩調整	内外面灰かぶり	361

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
2	Kc-025	SD328	堆積土	礫石器	磨+凹+敲石	12.7	8.6	6.4	837.6	安山岩	磨3面(平坦)凹1面(深)敲(平坦・側面)	361
3	Kd-042	SD328	堆積土	石製品	有孔石製品	3.9	3.3	0.7	7.4	凝灰岩	溝状痕(a・b面)線条痕(a~c面)両側穿孔孔径0.6~1.7cm	361

第404図 SD328 溝跡出土遺物

掲載した(第404図)。1は須恵器壺と考えられる。口縁部は直線的に外傾し、端部でわずかに内湾する。浅い沈線が2条めぐる。色調は暗灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒と黑色粒子を含む。

2は磨敲石である。磨面が3面あり、a～d面に敲打痕がみられる。また、a面には比較的強い敲打による凹痕が認められる。石材は安山岩である。3は有孔石製品である。中央には両側から穿孔された貫通孔がある。a・b面に溝状痕、a～c面に線条痕がみられる。石材は凝灰岩である。

時期決定できる遺物はないが、SI389・420・423・426・523・524・526・528・531との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。

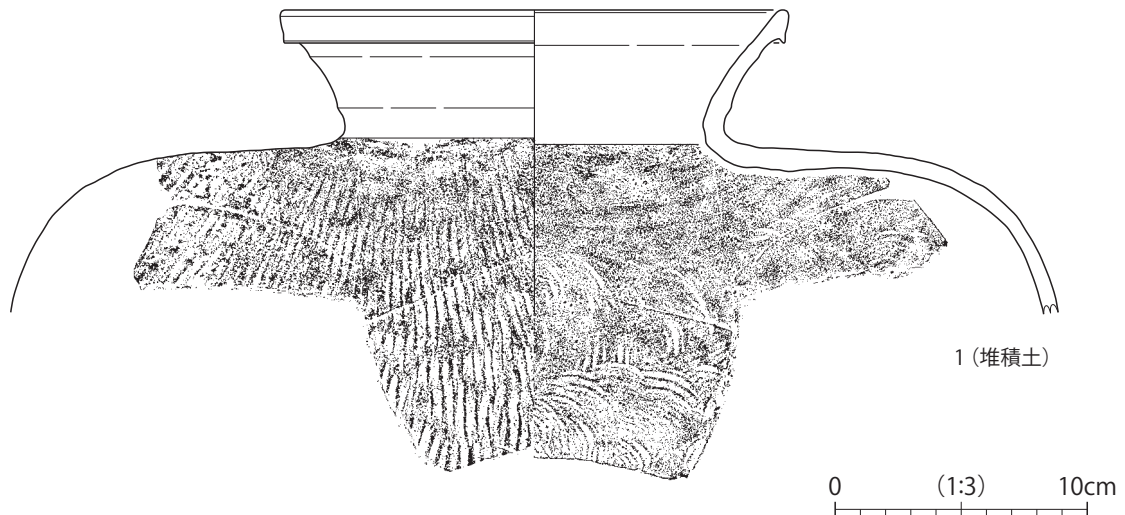
SD331 溝跡(第405・406図、第29表)

調査区北部から中央部の29・37・38・46・54・62・71・80区に位置する。北端部はSD303、南端部はSD322により失われる。また、数箇所が別遺構との重複によって部分的に失われるため、断続的に残存する。SI409・424・476、SB45、SD303より古く、SI410・475・478・511、SD301・322、Pit1117・1362より新しい。なお、SD332との新旧関係は調査時点では不明であったが、それぞれ重複する住居跡の時期を検討した結果、SD332の方が古いと判断した。

方位はN-0～32°-Wで、緩やかに蛇行しながら南北に向かって延びる。確認された規模は長さ32.22m、上端幅28～82cm、下端幅16～49cm、深さ13～33cmを測る。断面形は台形を呈し、壁面は内湾気味に立ち上がる。底面は全体的に起伏が認められる。傾斜は認められない。堆積土は3層に分層した。灰黄褐色シルトないし黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

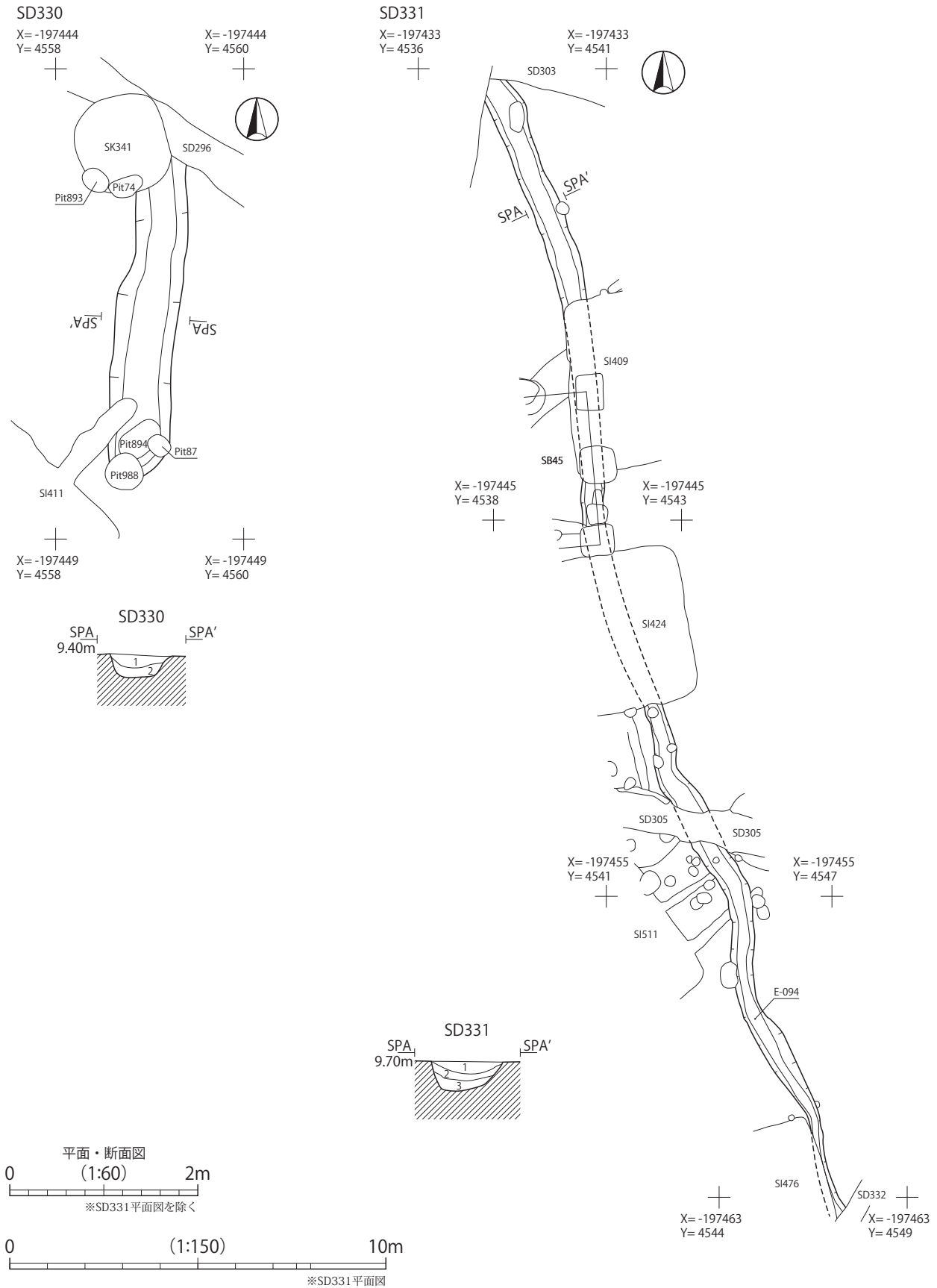
遺物は土師器・須恵器、土製品などが出土し、須恵器甕1点を掲載した(第405図)。肩部は水平に張り、口縁部は直線的に外傾し、その端部は垂下する。色調は暗灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒と黑色粒子を含む。

時期決定できる遺物はないが、SI409・410・424・475・476・478・511との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性はある。

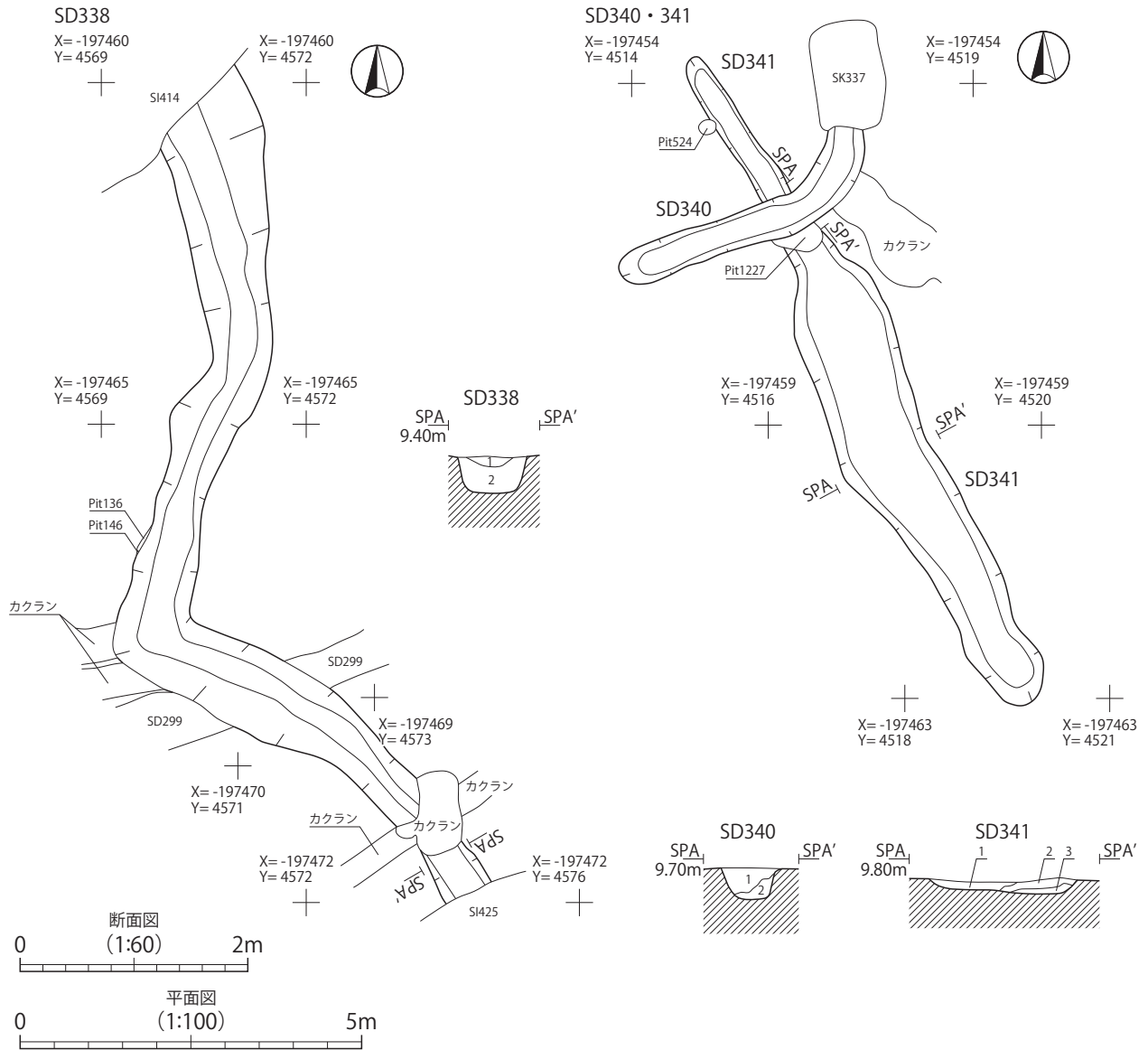


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	E-094	SD331	堆積土	須恵器	甕	(20.0)	—	(12.1)	口縁：叩調整 胴部：平行舂	口縁：叩調整 胴上位：青海波77具痕→ 叩調整 胴中位：青海波77具痕	外面胴部・内面口縁部に自然釉付着	362

第405図 SD331 溝跡出土遺物



第406図 SD330・331 溝跡



第407図 SD338・340・341 溝跡

SD343 溝跡 (第408・409図、第29表)

調査区中央部の72区に位置する。北東端部はSI445により失われている。SI445・446より古く、SI452・482・483、SK464、Pit1324・1425より新しい。

方位はN-46°~57°-Eで、北東から南西に向かって直線的に延びる。確認された規模は長さ4.84m、上端幅40~76cm、下端幅10~52cm、深さ12~34cmを測る。断面形は浅いU字形を呈し、壁面は直線的に立ち上がる。底面は概ね平坦だが、起伏が認められる。北東に向かって17cm程度傾斜して下がる。堆積土は2層に分層した。灰黄褐色ないしにぶい黄褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器、鉄滓などが出土し、須恵器甕1点を掲載した(第409図)。底部の形状から多孔式と考えられる。色調は暗灰色~灰白色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と少量の海绵骨針を含む。焼成はやや不良で、軟質である。

時期決定できる遺物はないが、SI446・482との新旧関係から、5期(7世紀末頃~8世紀初頭)~6期(8世紀前半)と考えられる。

SD345 溝跡 (第408・410図、第29表)

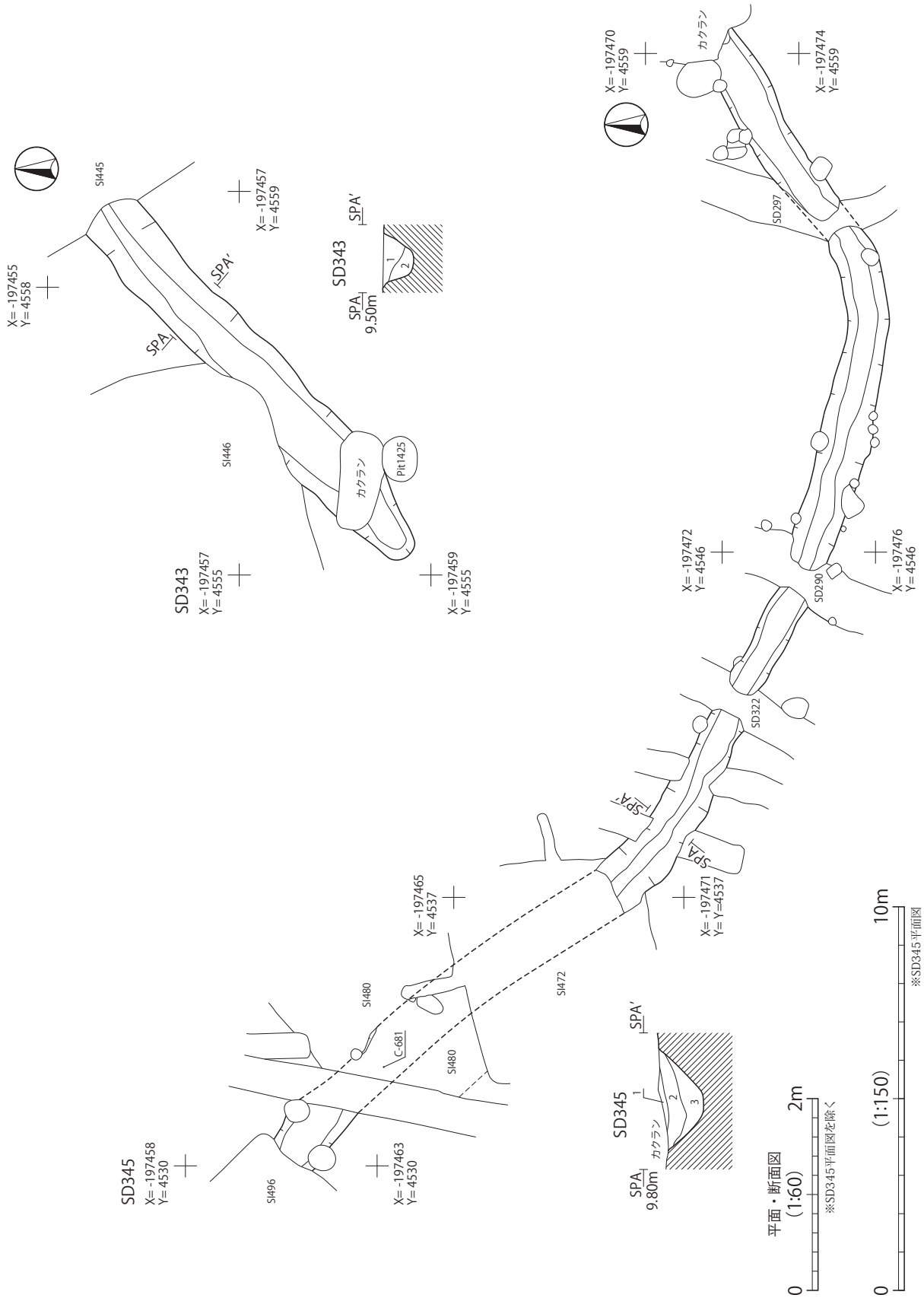
調査区西～中央部の79・88・97・98・99・106・107区に位置する。東端部は攪乱に、西端部はSI496により失われる。また、数箇所が攪乱や別遺構の重複によって部分的に失われるため、断続的に残存する。SI472・480・496、SD297・322より古く、SI487・513・516、SD354、SK468、Pit1352・1495・1505、SX41より新しい。

方位は東辺がN-59°-E、南辺がN-33~77°-Wで、南東から北西に向かって直線的に伸び、東部で北側へ「く」字状に屈曲する。確認された規模は長さ36.05m、上端幅94~137cm、下端幅21~91cm、深さ20~47cmを測る。断面形は概ね台形を呈するが、西部では下端幅が狭まりV字形に近い形状を呈する。壁面は直線的に立ち上がる。底面は概ね平坦だが、わずかに起伏が認められる。堆積土は3層に分層した。黒褐色粘土質シルトないし灰黄褐色シルトを主体とする自然堆積である。遺物は土師器・須恵器、礫石器、鉄滓などが出土し、土師器坏1点、礫石器1点を掲載した(第410図)。1は土師器坏で、口縁部と体部の境に段を持つ。平底風丸底の底部で、口縁部は直線的に外傾する。内面に黒色処理が施されている。外面底部には細かい筋があり、ヘラケズリ調整前のハケメまたは静止糸切り痕の可能性はある。2は磨敲石である。磨面が2面あり、a~f面に溝状痕・敲打痕がみられ、b面には比較的強い敲打による凹痕が認められる。石材は凝灰岩である。

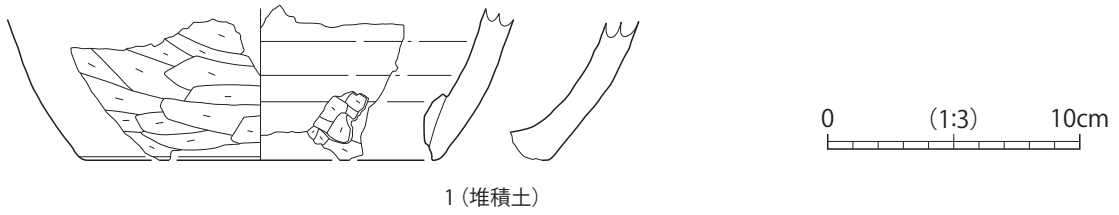
時期決定できる遺物はないが、SI513、SD322との新旧関係から、3期(6世紀末頃~7世紀前半)と考えられる。

第29表 溝跡(古墳時代~奈良時代)観察表(5)

遺構名	区割	方向(N.°)	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	重複
			全長	上端幅	下端幅					
SD329	—	—	—	—	—	—	—	※欠番		
SD330	47・55	0~9E	(344)	53~66	26~46	17~29	1 10YR4/3 にぶい黄褐色 2 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。 IV層土ブロック(10~20mm程度)多量含む。	SI411、SD296より古い。
SD331	29・37 38・46 54・62 71・80	0~32W	(3222)	28~82	16~49	13~33	1 10YR4/2 灰黄褐色 2 10YR3/2 黒褐色 3 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 IV層土粒微量含む。 IV層土粒少量含む。	SI409・424・476、SB45、SD303より古く、SI410・475・478・511、SD301・322より新しい。
SD332	29・37	90E	(626)	58~94	42~63	5~30	1 10YR4/1 褐灰色 2 10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。 IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。	SI440・457、SD301・346、SK454より新しい。
SD333	38・45	19~57E	(1137)	98~102	42~67	14~36	1 10YR3/2 黒褐色 2 10YR4/2 灰黄褐色 3 10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。 IV層土ブロック(20~50mm程度)多量含む。	SI408・409、SB45、SD334より古く、SI478より新しい。
SD334	30・38	65W	(305)	55~73	27~47	33~38	① 10YR5/3 にぶい黄褐色 ② 10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)・炭化物粒微量含む。 IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。	SI408より古く、SD303・333より新しい。
SD335	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
SD336	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
SD337	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
SD338	74・82 83・91 92・101	西辺19E ~14W 南辺44 ~67W	(1440)	62~151	16~62	16~26	1 10YR3/4 暗褐色 2 10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 IV層土粒多量含む。	SI414・425、SD299より古く、SI416・418・419・423・427、SD328より新しい。
SD339	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
SD340	59・68	25~68E	(425)	48~64	25~36	6~28	1 10YR4/1 褐灰色 2 10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。 IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	SD341より新しい。
SD341	59・68 77・78	16~34W	(1071)	37~141	26~107	4~16	1 10YR3/4 暗褐色 2 10YR4/2 灰黄褐色 3 10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	SD340より古い。
SD342	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
SD343	72	46~57E	(484)	40~76	10~52	12~34	1 10YR4/2 灰黄褐色 2 10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	SI445・446より古く、SI452・482・483、SK464より新しい。
SD344	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
SD345	79・88 97・98 99・106 107	東辺59E 南辺33 ~77W	(3605)	94~137	21~91	20~47	1 10YR3/3 暗褐色 2 10YR3/2 黒褐色 3 10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。 IV層土ブロック(10~15mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。	SI472・480・496、SD297・322より古く、SI487・513、516、SD354、SK468、SX41より新しい。
SD346	22・29	0	(425)	125~154	86~124	20~30	1 10YR5/2 灰黄褐色 2 10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。	SI455、SD303・332、SK454より古い。
SD347	37・45	15W	(153)	(25) ~(49)	12~26	15~20	1 10YR4/2 灰黄褐色 2 10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。 IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。	SI437、SD320より古い。
SD348	81・82	83W~88E	(208)	30~36	13~25	10~11	1 10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)多量含む。	SD297・324・325より古い。



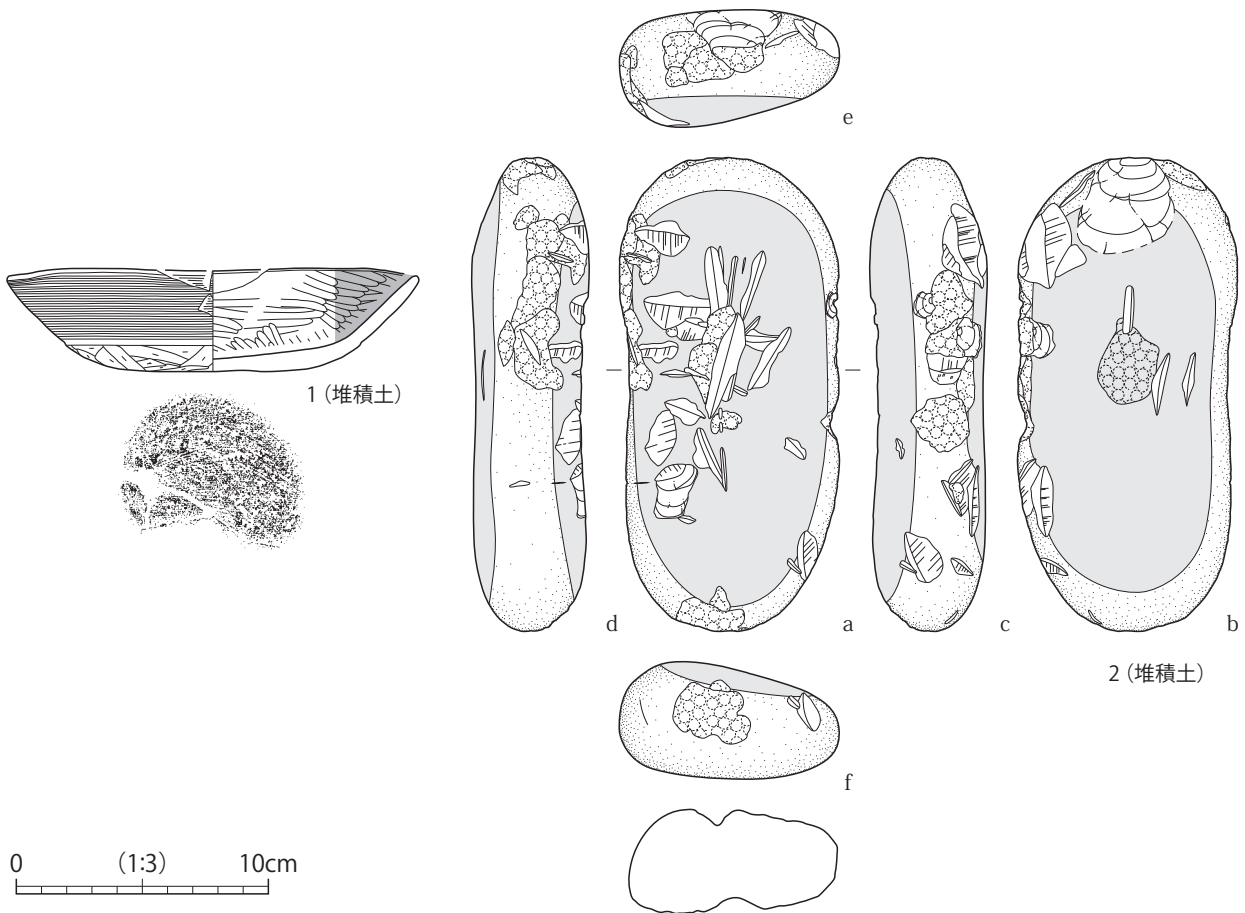
第408図 SD343・345 溝跡



1 (堆積土)

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	E-096	SD343	堆積土	須恵器	甑	—	(13.6)	(6.1)	ヘラスリ	体部：叩調整 底部：ヘラスリ	多孔式か 骨針少量含む	362

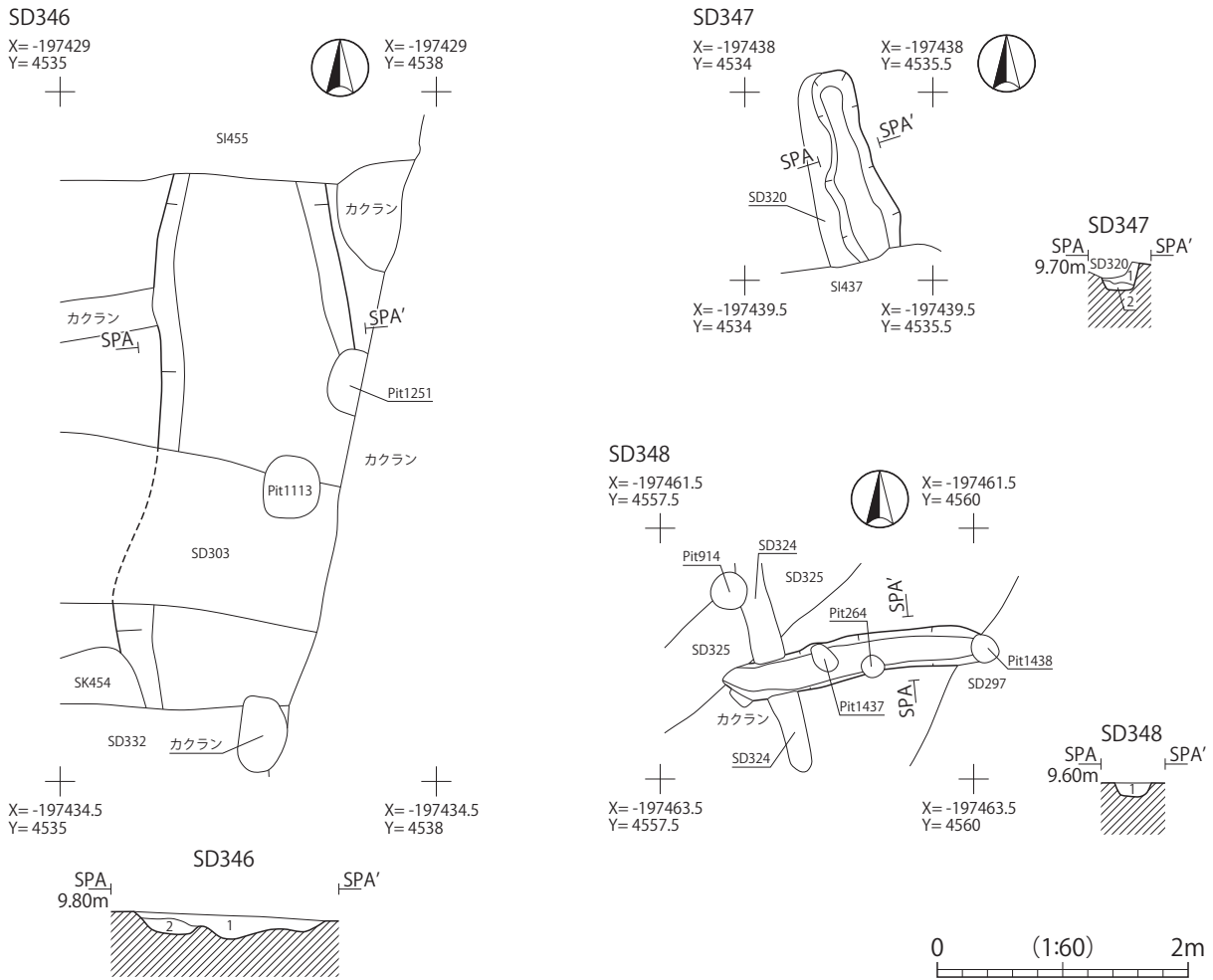
第409図 SD343 溝跡出土遺物



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-681	SD345	堆積土	土師器	环	(16.2)	—	(4.1)	口縁：コガ 体部：ヘラスリ 底部：ワメ→ヘラスリ	ヘミガキ	内面黒色処理	362

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
2	Kc-026	SD345	堆積土	礫石器	磨+凹+敲石	18.8	8.7	4.7	610.7	凝灰岩	磨2面(平坦) 凹2面(深・浅) 敲(平坦・側面) 溝状痕	362

第410図 SD345 溝跡出土遺物



第411図 SD346～348 溝跡

SD349・350・356 溝跡 (第412・413図、第30表)

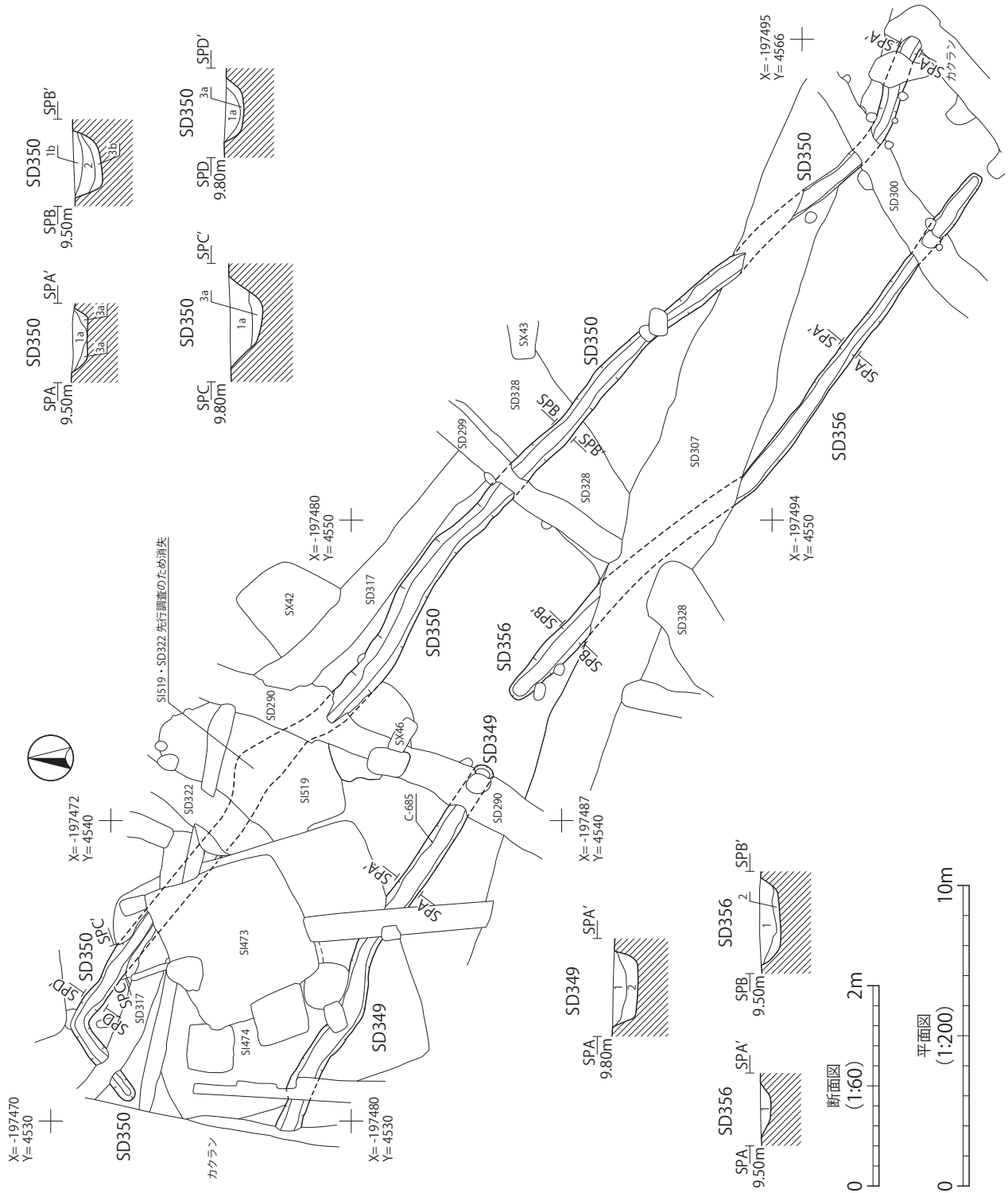
SD349・350・356は、いずれも北西から南東に向かって延びる溝で、SD350の南側にSD349・356が並行する。SD356は、2.3m程度の間隔を空けてSD349の南東側延長線上に位置しており、平断面の形状や堆積土の特徴も類似することから、一連の区画溝と判断した。

SD349は調査区南部、104・105・113・114区に位置する。西端部は攪乱に、東端部付近はSD290により失われている。SD351、SK461より古く、SI474、Pit1365より新しい。方位はN-56～82°-Wで、わずかに蛇行しながら北西から南東に向かって延びる。確認された規模は長さ13.97m、上端幅65～86cm、下端幅29～64cm、深さ12～28cmを測る。断面形は台形を呈し、壁面は直線的に立ち上がる。底面は概ね平坦だが、わずかに起伏が認められる。北西から南東に向かってわずかに傾斜して下がる。堆積土は2層に分層した。褐灰色シルト、灰黄褐色シルトを主体とする自然堆積である。

SD350は調査区南部、97・106・114・115・123・131・132・140区に位置する。南東端部は攪乱により失われている。また、数箇所が攪乱や別遺構の重複によって部分的に失われているため、断続的に残存する。SI473、SB49、SD299・317より古く、SI474・519・520・522、SD328・362、Pit1656より新しい。方位は西辺がN-53°-E、北辺がN-44～70°-Wで、主体となる北辺は北西から南東に向かって延びる。北辺は概ね直線的な平面形を呈するが、わずかに蛇行し南東部で東側へ「し」字状に湾曲する。西辺は短く、直線的な平面形を呈する。

確認された規模は長さ46.69m、上端幅50～106cm、下端幅15～53cm、深さ11～53cmを測る。断面形は台形を呈し、壁面は概ね直線的に立ち上がり、一部内湾気味である。底面は概ね平坦だが、わずかに起伏が認められる。傾斜は認められない。堆積土は3層に大別し、そのうち1・3層をa・bに細別した。灰黄褐色ないしにぶい黄褐色シルトを主体とする自然堆積で、黒褐色シルトを主体とする2層については中央部のみで堆積が認められた。

SD356は調査区南部の122・131・139・140・147・148区に位置する。北西部がSD307に、南東部がSD300により失われている。SI527、SK509、Pit1645・1648より新しい。



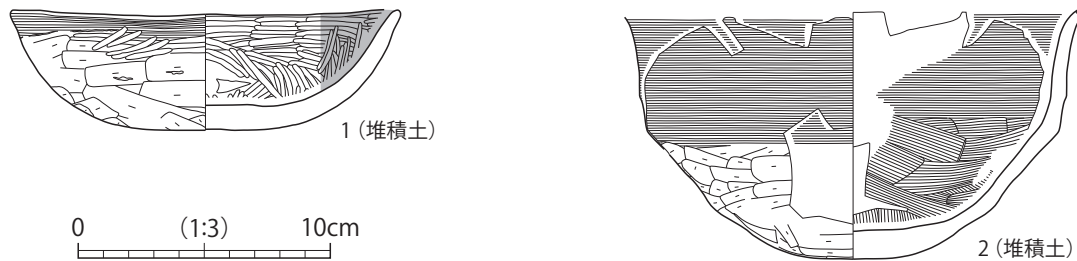
第412図 SD349・350・356 溝跡

方位はN-47°-54°-Wで、北西から南東に向かって直線的に延びる。確認された規模は長さ23.40mで、上端幅45~92cm、下端幅20~54cm、深さ4~25cmを測る。断面形は台形を呈し、壁面は直線的に立ち上がる。底面は概ね平坦で、わずかに起伏が認められる。東半部は北西から南東に向かって5cm程度傾斜して下がる。堆積土は2層に分層した。黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物はSD349から土師器・須恵器、鉄滓などが出土し、土師器坏1点・鉢1点を掲載した(第413図)。1は土師器坏で、厚手で重量感のあるつくりである。平底風丸底の底部から緩やかに内湾し、口縁部でわずかに外反する。内面に黒色処理が施されている。2は土師器鉢で、口縁部と体部の境に稜を持つ。厚手の丸底から直線的に外傾し、口縁部は直立し、端部が外反する。外面には強いヘラケズリが粗く施されている。

SD350・356から土師器・須恵器、鉄滓、土製品などが出土したが、いずれも図化できるものはなかった。

時期決定できる遺物はないが、SI522・527、SD317との新旧関係から、5期(7世紀末頃~8世紀初頭)~6期(8世紀前半)の可能性はある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-685	SD349	堆積土	土師器	坏	(15.3)	—	4.8	口縁：ヨコテ→ヘラミガキ 体~底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理	362
2	C-686	SD349	堆積土	土師器	鉢	—	—	(9.8)	口縁：ヨコテ 体~底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 体~底部：ヘラテ		362

第413図 SD349 溝跡出土遺物

SD351 溝跡(第414図、第30表)

調査区南西部の96・97・104・105・112・113区に位置する。南端部はSD307、北端部は攪乱によって失われている。SI474、SD349より新しい。

方位はN-10°-W~9°-Eで、緩やかに蛇行しながら南北に向かって延びる。確認された規模は長さ8.20m、上端幅66~89cm、下端幅28~44cm、深さ18~35cmを測る。断面形は台形を呈し、壁面は内湾気味に立ち上がる。底面は概ね平坦だが、わずかに起伏が認められる。傾斜は認められない。堆積土は2層に分層した。灰黄褐色ないしにぶい黄褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器が出土し、須恵器蓋1点を掲載した(第414図)。口径が20cmを超える大型品である。扁平な天井部から緩やかに屈曲し、口縁部は垂下する。天井部は回転ヘラケズリによる再調整が施されている。色調は灰色を呈し、胎土は精良で、少量の砂粒と多量の海綿骨針含む。

時期決定できる遺物はないが、SD349との新旧関係から、5期(7世紀末頃~8世紀初頭)以降の可能性はある。

SD352 溝跡(第414図、第30表)

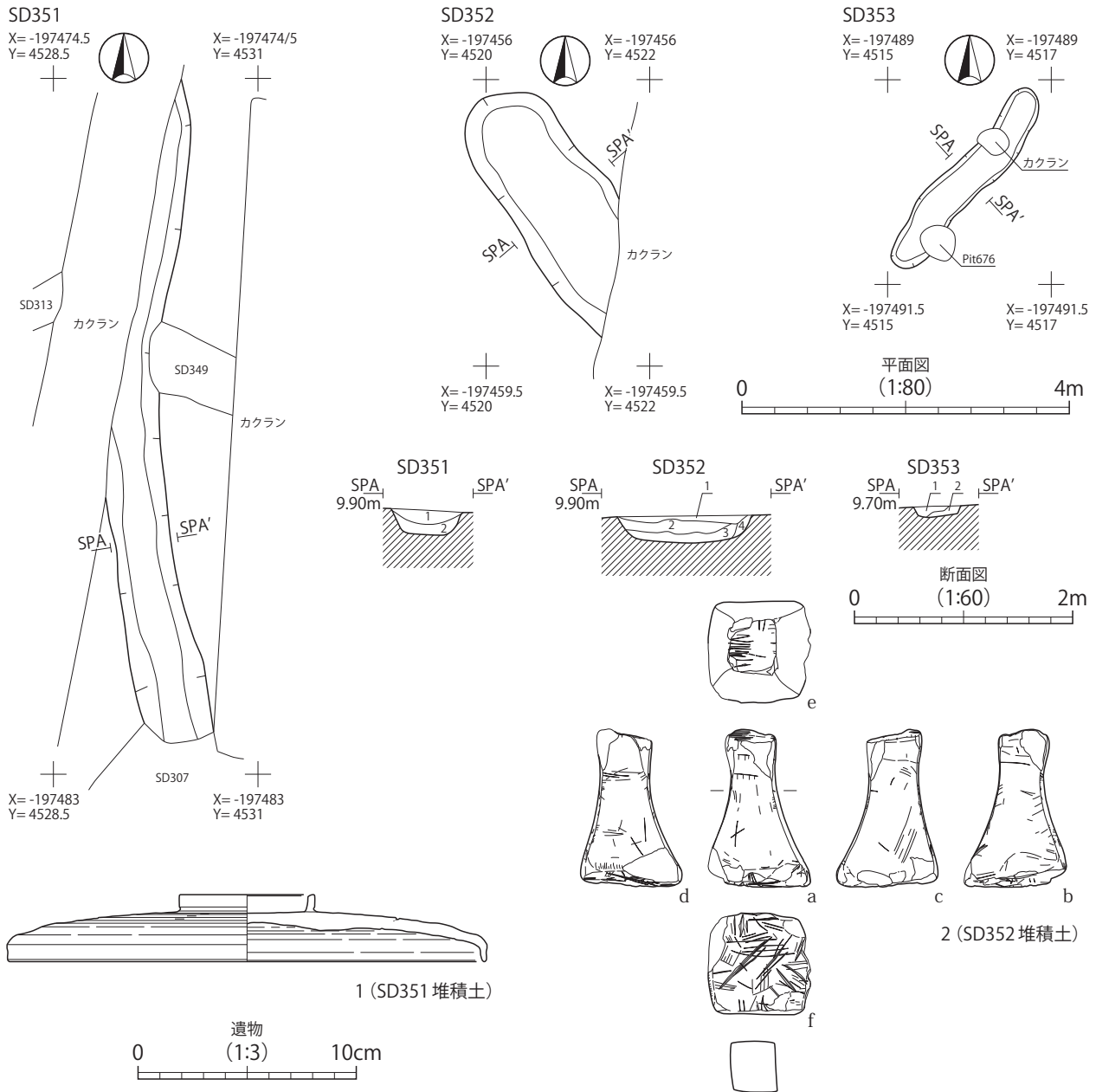
調査区南西部の68・69区に位置する。南側は攪乱により失われ、北端部付近のみ残存する。重複遺構はない。

方位はN-37°-Wで、南北に向かって延びる。確認された規模は長さ3.12m、上端幅115~130cm、下端幅77~96cm、深さ18~25cmを測る。断面形は浅いU字形を呈し、壁面は内湾気味に立ち上がる。底面は、わずか

に起伏が認められる。傾斜は認められない。堆積土は4層に分層した。灰褐色砂質シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器、石製品が出土し、石製品1点を掲載した(第414図)。2は砥石で、砥面が5面ある。a～f面に溝状痕・線条痕がみられ、特にf面には溝状痕が顕著に刻まれている。石材は片岩である。

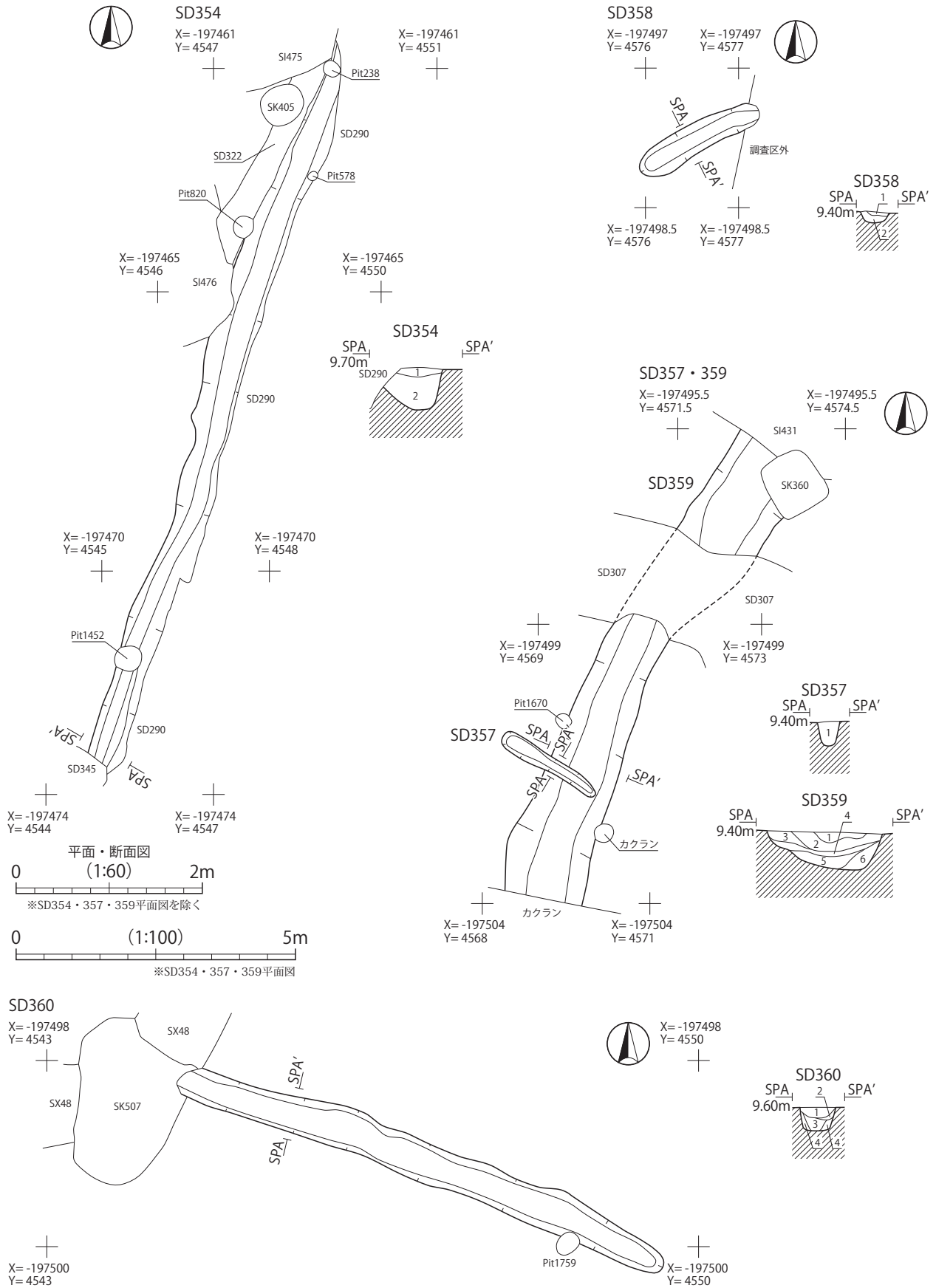
時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。



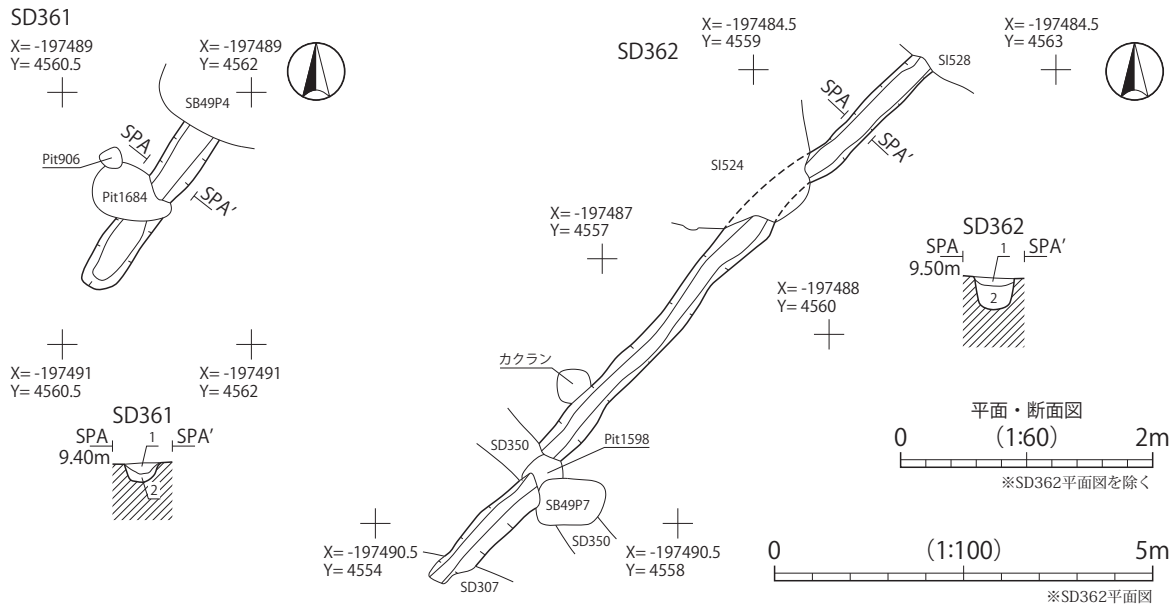
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	ツマミ径	器高				
1	E-097	SD351	堆積土	須恵器	蓋	(21.8)	(6.2)	3.1	口縁～天井下位: 叩調整 天井中位～上位: 回転ハカズリ ツマミ部: 叩調整によるツマミ貼付	叩調整	骨針多量に含む	363

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
2	Kd-043	SD352	堆積土	石製品	砥石	7.2	4.7	4.7	139.4	片岩	砥面5面 溝状痕(a～f面) 線条痕(a～f面)	363

第414図 SD351～353 溝跡・SD351・352 溝跡出土遺物



第415図 SD354・357～360 溝跡



第416図 SD361・362 溝跡

第30表 溝跡(古墳時代~奈良時代) 観察表(6)

遺構名	区割	方向 (N.°)	規模(cm)				層位	土色	土性	備考	重複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD349	104・105 113・114	56 ~ 82W	(1397)	65 ~ 86	29 ~ 64	12 ~ 28	1 10YR4/1 褐灰色 2 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 IV層土ブロック(5 ~ 10mm程度)少量含む。	SD351、SK461より古く、SI474より新しい。	
SD350	97・106 114・115 123・131 132・140	北辺44 ~70W 西辺53E	(4669)	50 ~ 106	15 ~ 53	11 ~ 53	1a 10YR4/2 灰黄褐色 1b 10YR3/2 黒褐色 2 10YR3/1 黒褐色 3a 10YR5/3 にぶい黄褐色 3b 10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。 IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。 IV層土ブロック(10 ~ 20mm程度)少量含む。 IV層土ブロック(10 ~ 20mm程度)多量含む。	SI473、SB49、SD299・317より古く、SI474・519・520・522、SD328・362より新しい。	
SD351	96・97 104・105 112・113	10W ~ 9E	(820)	66 ~ 89	28 ~ 44	18 ~ 35	1 10YR4/2 灰黄褐色 2 10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 IV層土ブロック(5 ~ 15mm程度)少量含む。	SI474、SD349より新しい。	
SD352	68・69	37W	(312)	115 ~ 130	77 ~ 96	18 ~ 25	1 10YR4/3 にぶい黄褐色 2 7.5YR5/2 灰褐色 3 10YR5/3 にぶい黄褐色 4 10YR4/2 灰黄褐色	シルト 砂質シルト 砂質シルト 砂質シルト	IV層土ブロック(5 ~ 10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 IV層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。 IV層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 IV層土ブロック(5 ~ 10mm程度)少量含む。		
SD353	119・127	26 ~ 49E	274	40 ~ 48	29 ~ 40	4 ~ 11	1 10YR5/2 灰黄褐色 2 10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5 ~ 10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 IV層土ブロック(5 ~ 20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	SK471より新しい。	
SD354	80・89 98・106 114	14 ~ 29E	(1340)	(51) ~ (77)	21 ~ 38	46	1 10YR4/1 褐灰色 2 10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 IV層土ブロック(5 ~ 10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	SI475・476、SD322・345より古く、SI485、SK469より新しい。	
SD355	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番		
SD356	122・131 139・140 147・148	47 ~ 54W	2340	45 ~ 92	20 ~ 54	4 ~ 25	1 10YR3/2 黒褐色 2 10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10 ~ 30mm程度)多量含む。 IV層土ブロック(5 ~ 10mm程度)少量含む。	SI527、SK509より新しい。	
SD357	148・149	58W	195	20 ~ 35	10 ~ 24	24 ~ 29	1 10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	SD359より新しい。	
SD358	141	58W	(143)	26 ~ 34	9 ~ 17	9 ~ 13	1 10YR5/1 褐灰色 2 10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 褐灰色シルトブロック(5 ~ 30mm程度)少量含む。		
SD359	140・141 148・149	16 ~ 29E	(910)	98 ~ 152	42 ~ 92	25 ~ 45	1 10YR6/6 明黄褐色 2 10YR3/2 黒褐色 3 10YR4/3 にぶい黄褐色 4 10YR4/4 褐色 5 10YR5/4 にぶい黄褐色 6 10YR5/8 黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。 IV層土ブロック(5 ~ 20mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。 IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 IV層土ブロック(5 ~ 30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 IV層土粒微量含む。	SD357より古く、SI431より新しい。	
SD360	138・146	70W	(561)	31 ~ 46	19 ~ 34	14 ~ 26	1 10YR4/2 灰黄褐色 2 10YR3/1 黒褐色 3 10YR4/3 にぶい黄褐色 4 10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト シルト シルト 砂質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。 IV層土粒少量含む。 IV層土ブロック(5 ~ 20mm程度)多量含む。 IV層土ブロック(5 ~ 10mm程度)多量含む。	SK507より新しい。	
SD361	124・132	35E	(151)	27 ~ 31	15 ~ 21	13 ~ 15	1 10YR4/1 褐灰色 2 10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 IV層土粒・炭化物粒微量含む。	SB49より古い。	
SD362	116・123 124・131	31 ~ 46E	(948)	32 ~ 45	12 ~ 25	13 ~ 28	1 10YR4/2 灰黄褐色 2 10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	SI524・528、SB49、SD350より古く、SI435Aより新しい。	
SD363	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番		

(5) 土坑(第380・417～422図、第31～33表)

土坑を40基(SK327・336・344・346・350・370・382・392・399・400・402～404・446・449～455・459・460・464・465・468～471・479・489・491・494・495・497・498・501・502・507・509)検出した。調査区全体に分布するが、北部と南東部は点在する傾向がみられる。

平面形は円形、楕円形、隅丸方形、隅丸長方形などがあるが、円形基調の土坑が多い。規模は長軸66cmのSK350が最小、243cmのSK346が最大で、全体では長軸100～150cm前後の土坑が主体である。

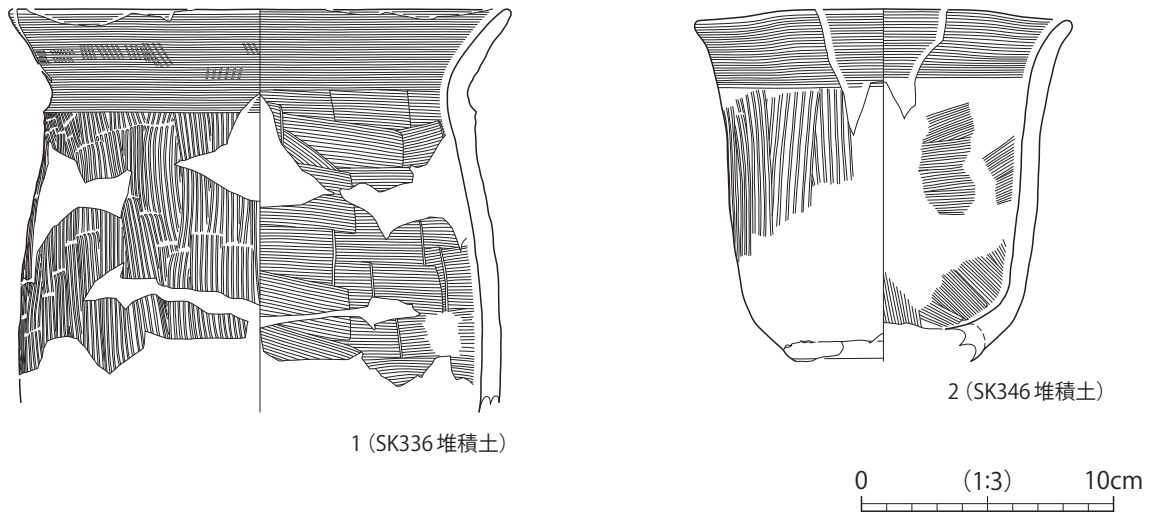
堆積土はシルトを主体とし、堆積土の一部に粘土質シルトや砂質シルトを含むものもみられる。また、灰黄褐色ないし黒褐色を主体とする土坑が多く、大半が自然堆積とみられる。なお、いずれの土坑も性格は不明である。

遺物は32基の土坑から出土した。土師器・須恵器の小片が主体で、それぞれの出土量は少ない。SK485からはカマド材に使用されたとみられる砂岩切石が2点、底面から出土した。SK346・350・403・495からは、わずかに鉄滓などの鍛冶関連遺物が出土した。

これら土坑の出土遺物のうち、SK336とSK346の土師器甕各1点を掲載した(第417図)。

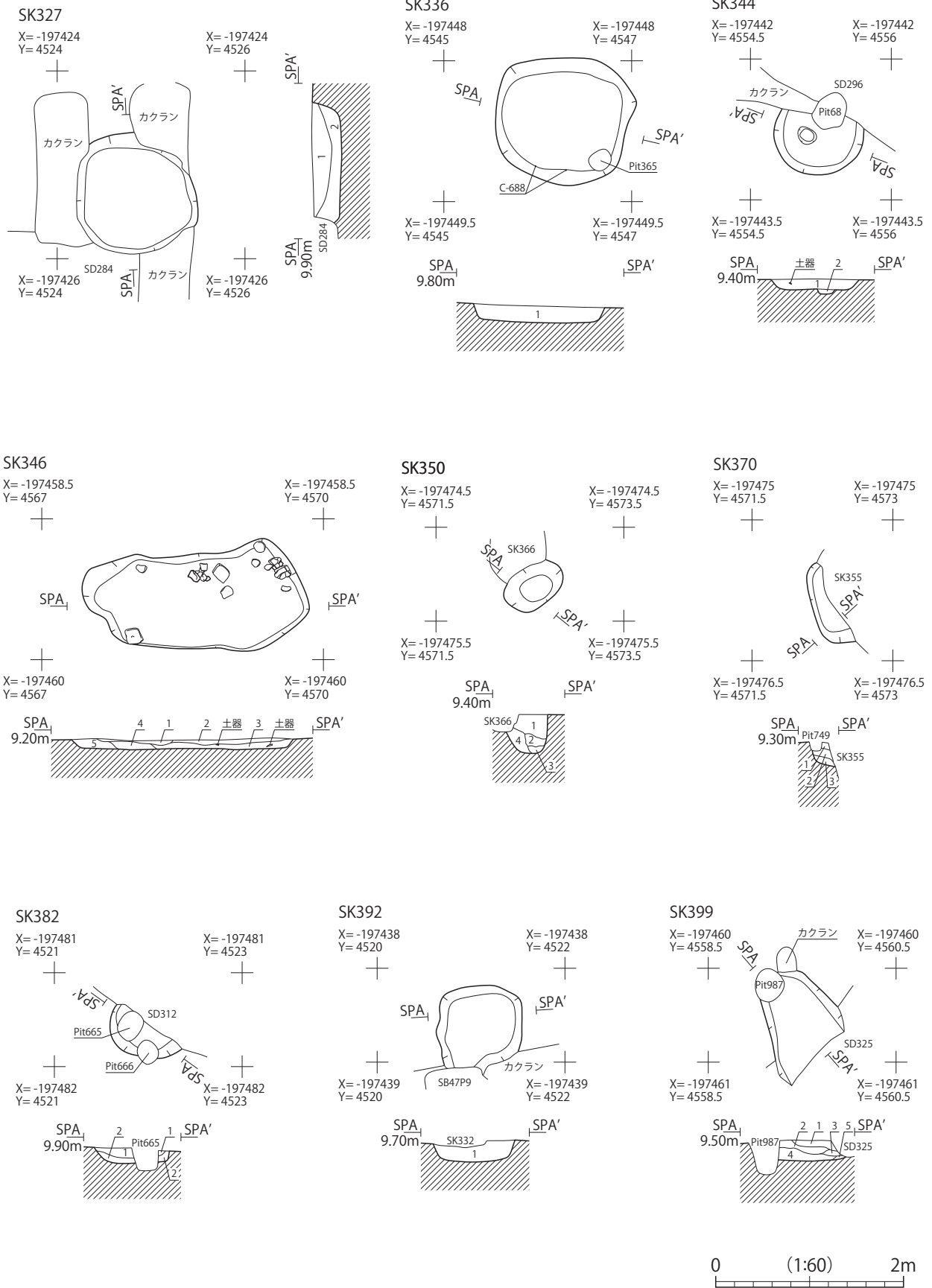
1・2は土師器甕で、2は小型品である。ともに口縁部に最大径が位置し、胴部は1が張りの弱い楕円形と考えられ、2は砲弾形を呈する。1の口縁部は直線的に外傾、2は緩やかに外反する。1の頸部は明瞭な段を持つが、2は認められない。

各土坑の詳細は、それぞれの観察表を参照されたい。

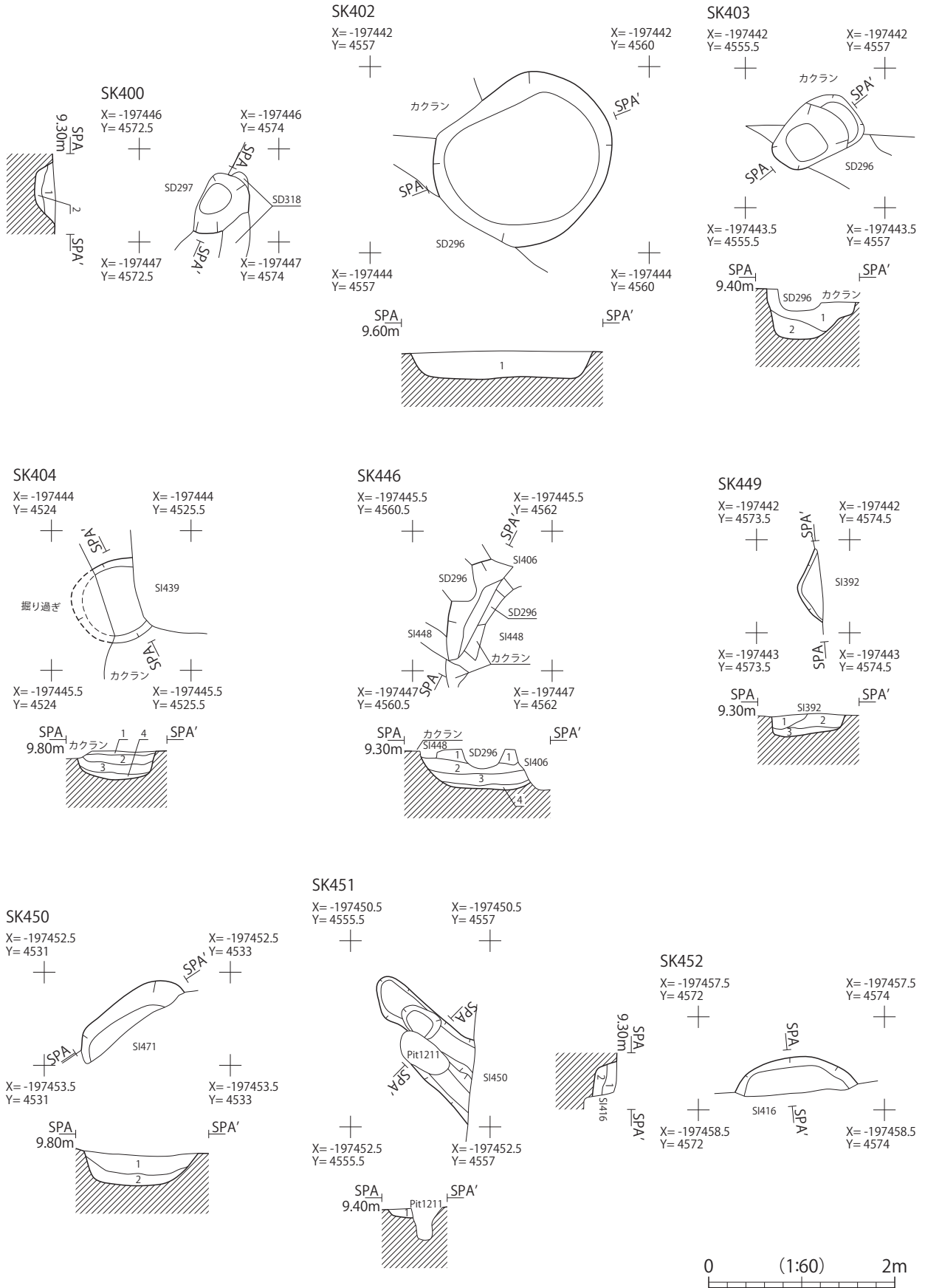


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-688	SK336	堆積土	土師器	甕	(19.6)	—	(16.0)	口縁：ハメ→ヨサデ 胴部：ハメ	口縁：ヨサデ 胴部：ハサデ	角閃石少量含む	363
2	C-691	SK346	堆積土	土師器	甕	(14.6)	—	(14.0)	口縁：ヨサデ 胴上半：ハメ 胴下半：不明	口縁：ヨサデ 胴部：ハサデ	角閃石少量含む 内面やや摩滅 外面胴部下半二次被熱による赤色化	363

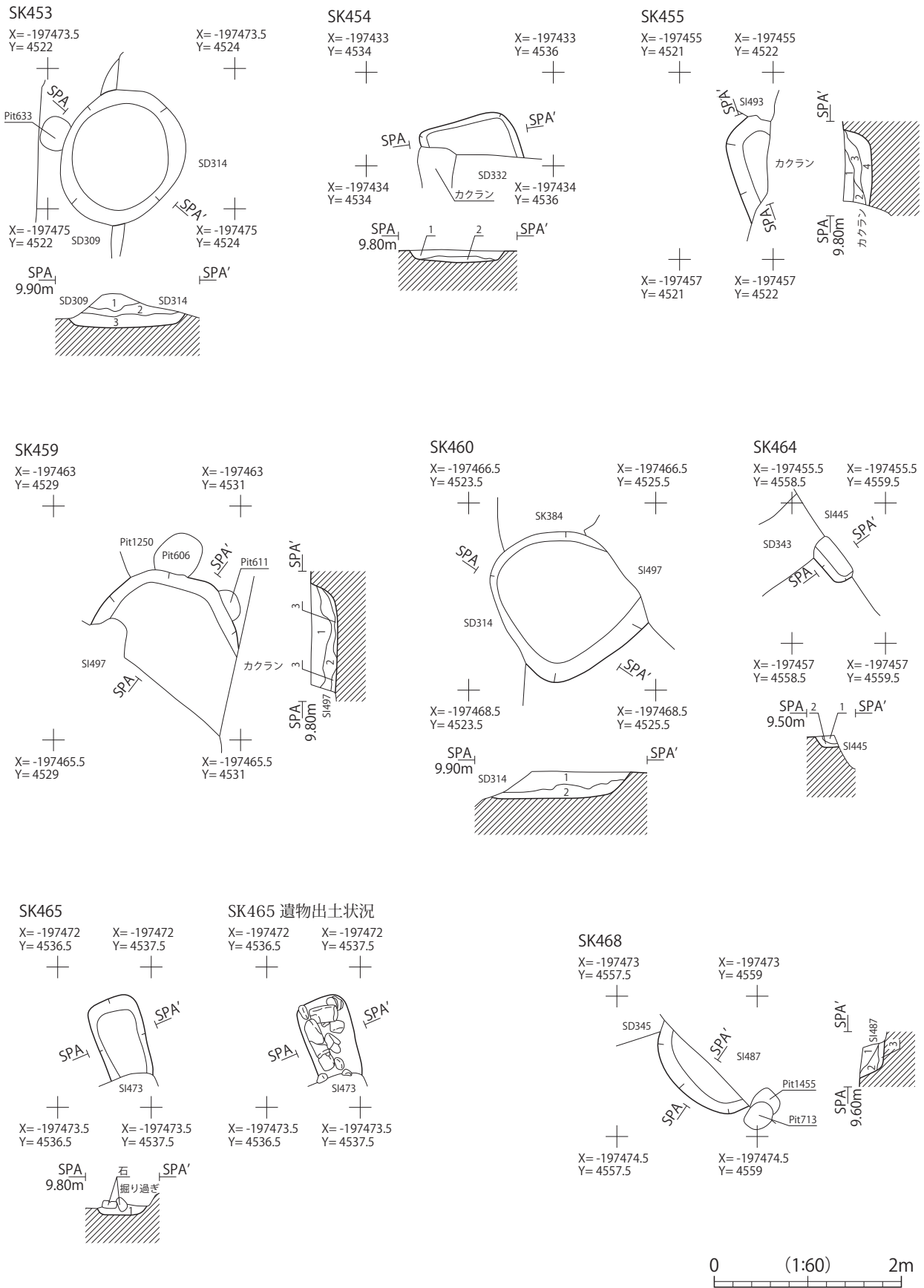
第417図 SK336・346 土坑出土遺物



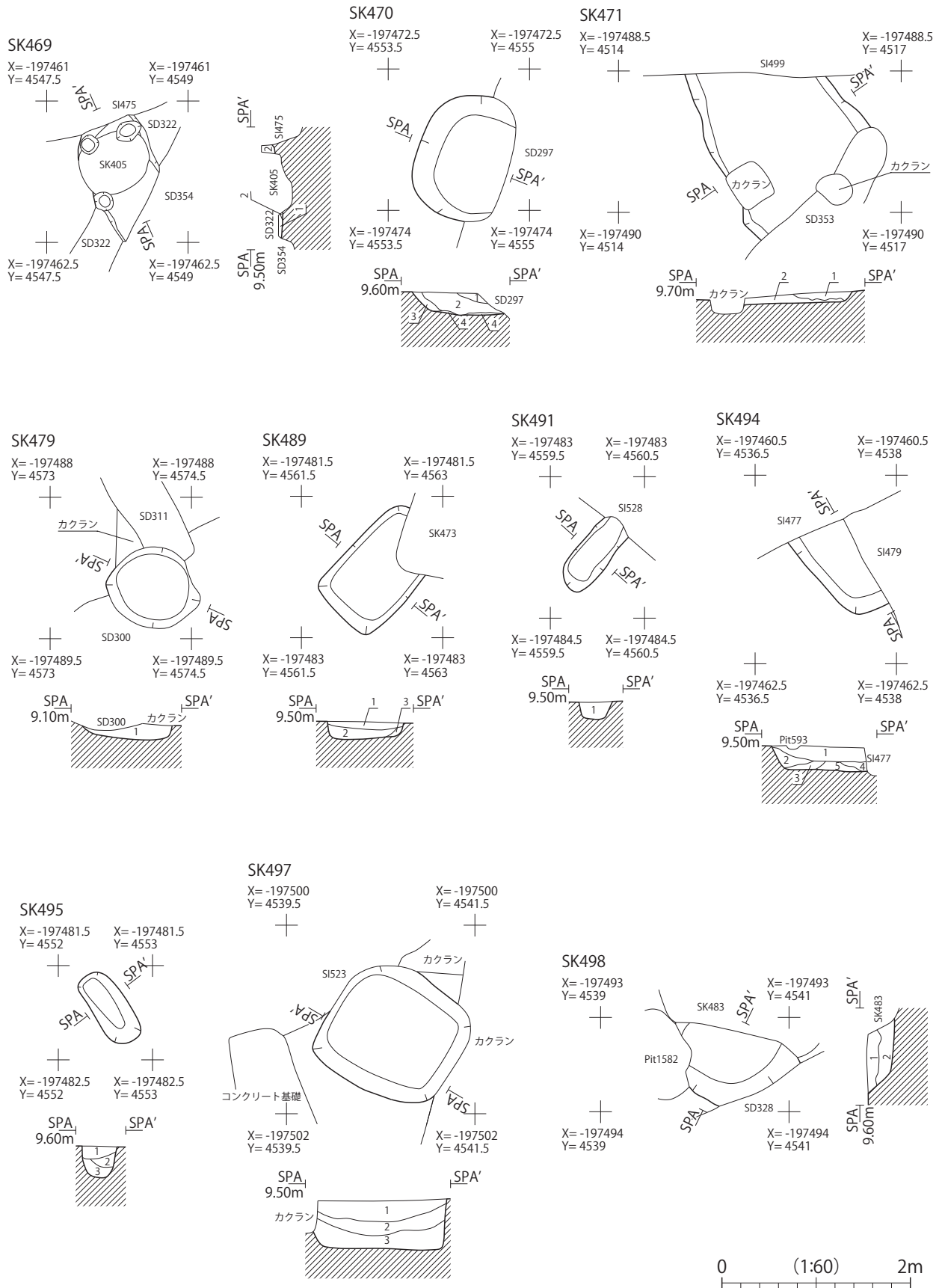
第418図 古墳時代～奈良時代土坑(1)



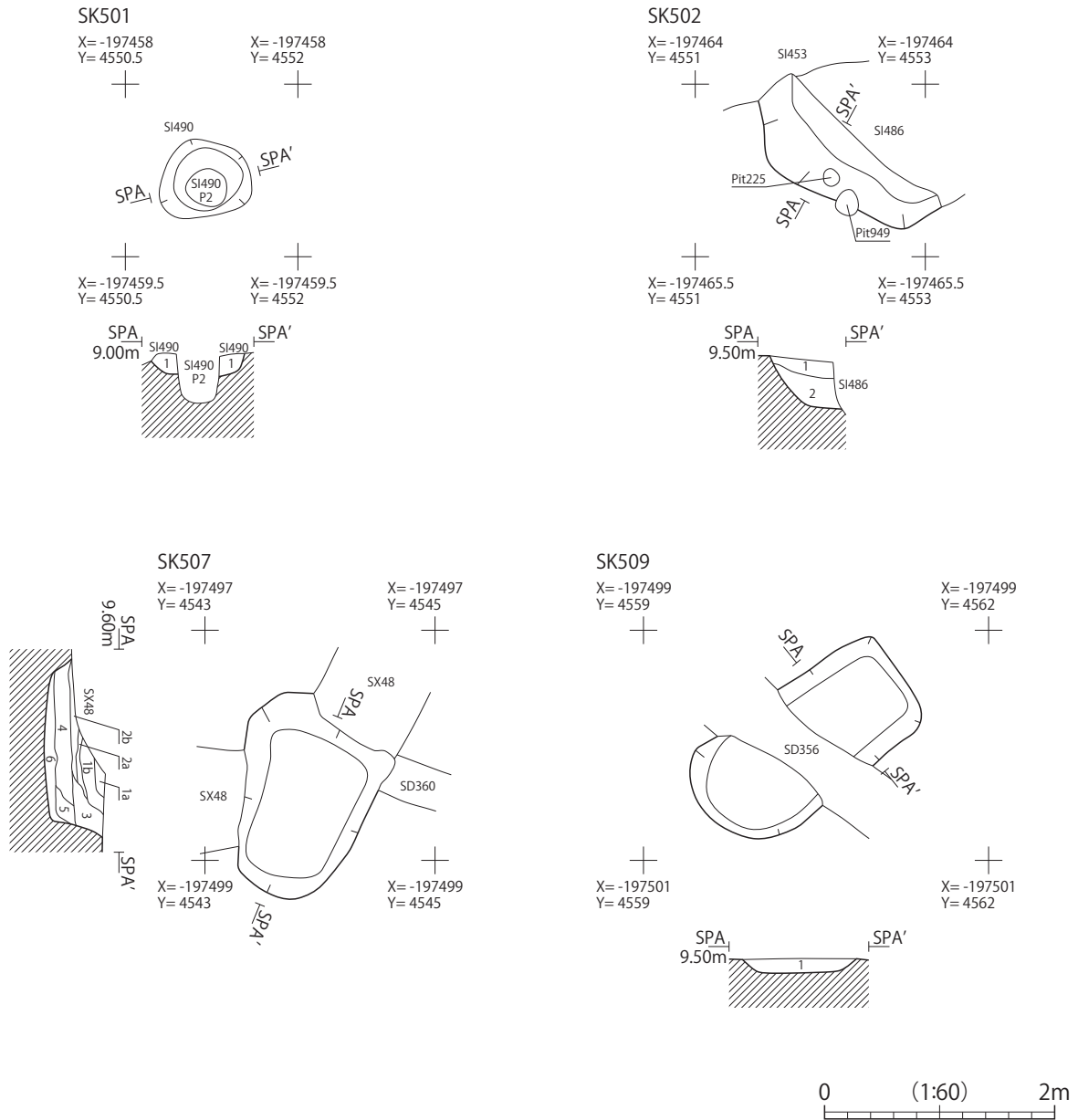
第419図 古墳時代～奈良時代土坑(2)



第420図 古墳時代～奈良時代土坑(3)



第421図 古墳時代～奈良時代土坑(4)



第422図 古墳時代～奈良時代土坑(5)

第31表 土坑(古墳時代～奈良時代)観察表(1)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SK327	16・21	(円形)	(129)×(129)	32	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	SD284より古く、Pit38より新しい。
					2	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
SK333	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB45の柱穴へ変更)		
SK336	54	円形	147×135	17	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒微量含む。	SI509・515、Pit1189・1528より新しい。
SK344	47	(円形)	95×(64)	16	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。	SD296より古く、SI404、Pit137より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
SK346	73	不整形	243×117	10	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物を带状に少量、焼土ブロック(10～20mm程度)・灰微量含む。	SI414より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒微量含む。	
					4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。	
					5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	

第32表 土坑(古墳時代~奈良時代) 観察表(2)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SK350	101 109	楕円形	66×(43)	41	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物微量含む。	SK355より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。	
SK370	109	(隅丸方形)	(89)×(31)	(25)	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	SK355より古く、 Pit754より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
SK382	112	(円形)	(84)×(40)	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	SD312より古く、 Pit1389より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。	
SK392	36	(隅丸方形)	(96)×93	24	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	SB47より古い。
SK393	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB47のP9へ変更)	
SK399	81	(不整形)	(102)×(90)	21	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒斑状に少量、炭化物粒微量含む。	SD325より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒斑状に少量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒微量含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	
					5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK400	57	(楕円形)	(70)×(52)	22	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	SD297・318より古い。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SK402	47	(円形)	(194)×(165)	30	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・黒褐色シルトブロック(10~30mm程度)多量含む。	SD296より古く、 SI404、Pit900・ 1176より新しい。
SK403	47	(楕円形)	(97)×(65)	53	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SD296より古く、 SI404より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土斑状に多量含む。	
SK404	44・52	(円形)	(88)×(36)	32	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。	SI439より古く、 SI458より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。	
					4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
SK446	56	不明	(118)×(37)	37	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	SI406・448、SD296 より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	
SK449	49	(隅丸方形)	(82)×(26)	24	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	SI392より古く、 Pit1100より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)多量含む。	
SK450	61	(隅丸方形)	(131)×(33)	(39)	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(10~15mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	SI471より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)炭化物粒少量含む。	
SK451	63	(不整形)	(177)×62	26	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)少量含む。	SI450、Pit1211より 古く、SI482より 新しい。
SK452	74	(円形)	(132)×(39)	(27)	1	10YR4/6 褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。	SI416より古く、 Pit1429より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。	
SK453	96 104	(円形)	(144)×(125)	36	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	SD309・310・314 より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
SK454	29	(隅丸方形)	97×(57)	13	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	SD332より古く、 SD346より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、黒褐色シルトブ ロック(5~20mm程度)少量含む。	
SK455	69	(楕円形)	(108)×(55)	29	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI493より古い。
					2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
SK459	78・79	(楕円形)	(160)×(78)	28	1	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒 微量含む。	SI497より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
SK460	87	(隅丸方形)	(155)×(142)	29	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI497、SD314より 古い。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
SK464	72	(隅丸方形)	(51)×(26)	13	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	SI445、SD343より 古く、SI482より 新しい。
SK465	97	隅丸長方形	(88)×54	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	SI473より古く、 SI474より新しい。
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
SK468	99	(円形)	(127)×(40)	(23)	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	SI487、SD345より 古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)、炭化物ブロック(5~ 20mm程度)多量含む。	
SK469	80	(楕円形)	(122)×(79)	(24)	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量、焼土粒・炭化物 粒微量含む。	SI475、SD322・354 より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(10mm程度)多量、焼土粒少量、IV層土粒 微量含む。	
SK470	99	(円形)	136×(98)	24	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	SD297より古く、 SX41、Pit1498より 新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	
SK471	119 127	(不整形)	(194)×169	11	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒 微量含む。	SI499、SD353より 古い。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	

第33表 土坑(古墳時代~奈良時代) 観察表(3)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SK479	125	(円形)	(100)×(86)	(17)	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。	SD311より古く、 SI431より新しい。
SK480	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB49のP5へ変更)	
SK489	116	隅丸長方形	(134)×82	19	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物ブロック(5~10mm程度)多量、IV層土粒微量含む。	SB49より古く、 SI528より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物ブロック(10mm程度)多量、IV層土粒少量含む。	
SK491	115 116	(楕円形)	(88)×(37)	19	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI528より古い。
SK494	79	(隅丸方形)	(103)×(53)	26	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI477・479より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰白色粘土ブロック(5~20mm程度)、IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。	
					5	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK495	115	楕円形	84×38	36	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	SI522より古い。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
SK497	145 146	(隅丸方形)	(143)×(137)	(53)	1	7.5YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI523より古い。
					2	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5~10mm程度)少量含む。	
					3	7.5YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK498	129 130	(円形)	(137)×(82)	28	1	7.5YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量、酸化鉄微量含む。	SD328より古い。
					2	2.5Y6/2 灰黄色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、細砂少量、酸化鉄・炭化物粒微量含む。	
SK501	72	楕円形	(82)×(68)	(17)	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量・炭化物粒微量含む。	SI475・490より古い。
SK502	81・90	(円形)	(178)×(70)	(55)	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。	SI453・486より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。	
SK507	138	(楕円形)	(175)×(131)	53	1a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。	SD360より古い。
					1b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					2a	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。	
					2b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~40mm程度)少量、炭化物粒を微量含む。	
					5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)微量含む。	
6	10YR6/6 明黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5~40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。						
SK509	147 148	楕円形	207×105	13	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	SD356より古い。

(6) ピット(第423~428図、第34~37表)

ピットを215基検出した。調査区北西部から北部にかけて集中する傾向がみられる。

平面形は円形、楕円形、(隅丸)方形、(隅丸)長方形などがあるが、円形と隅丸方形が多い。規模は、長軸30~40cm前後が主体である。

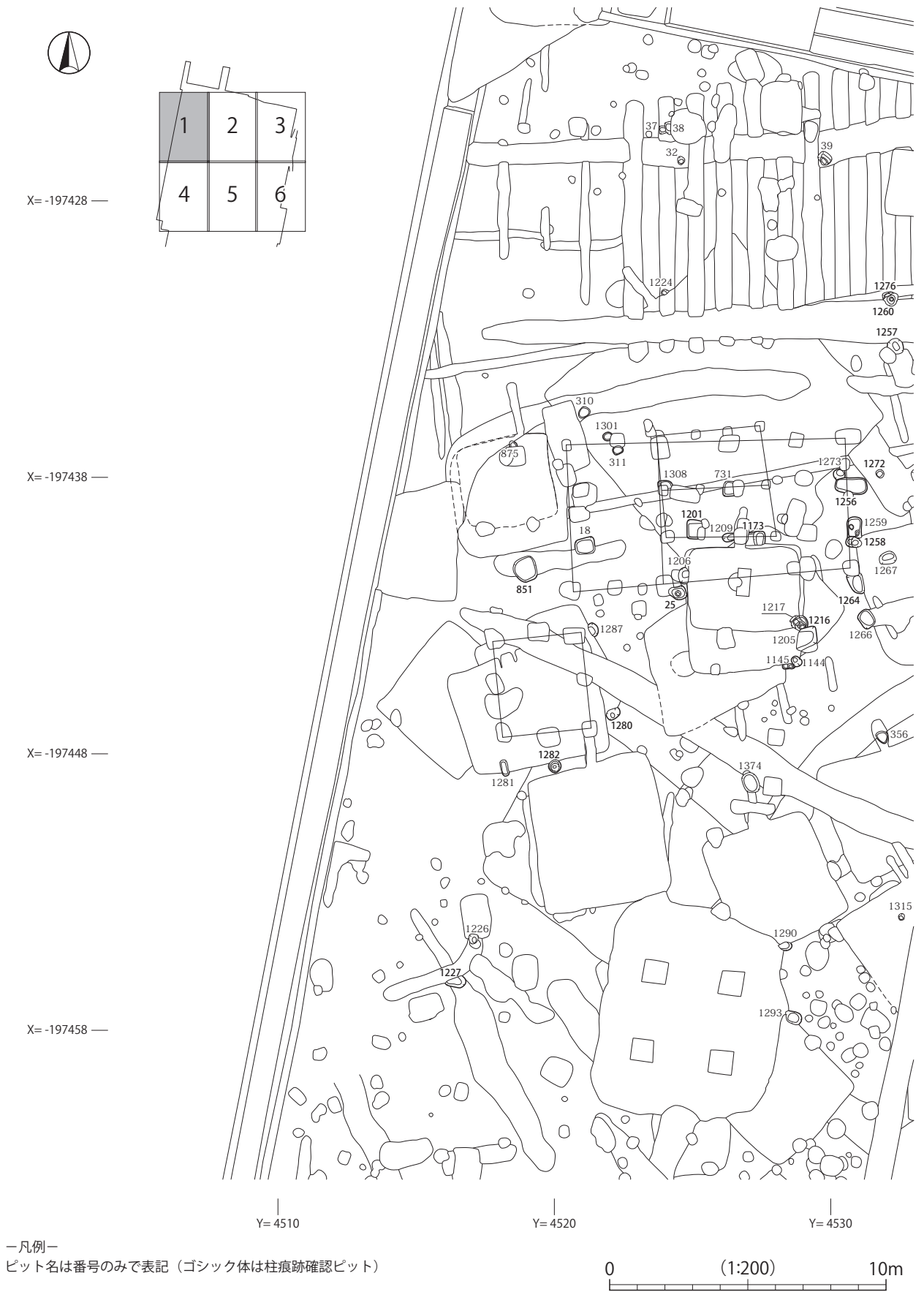
柱痕跡は58基のピットで確認した。柱痕跡を伴うピットは北西部に集中する傾向があり、SB45~48の分布域と重複する。ほかの掘立柱建物跡や柵列跡などの存在も考えられるが、組み合うピットは確認できなかった。

遺物は81基のピットから出土した。土師器・須恵器の小片が主体で、Pit1131・1199・1660からわずかに鉄滓が出土したが、いずれも図化できるものはなかった。

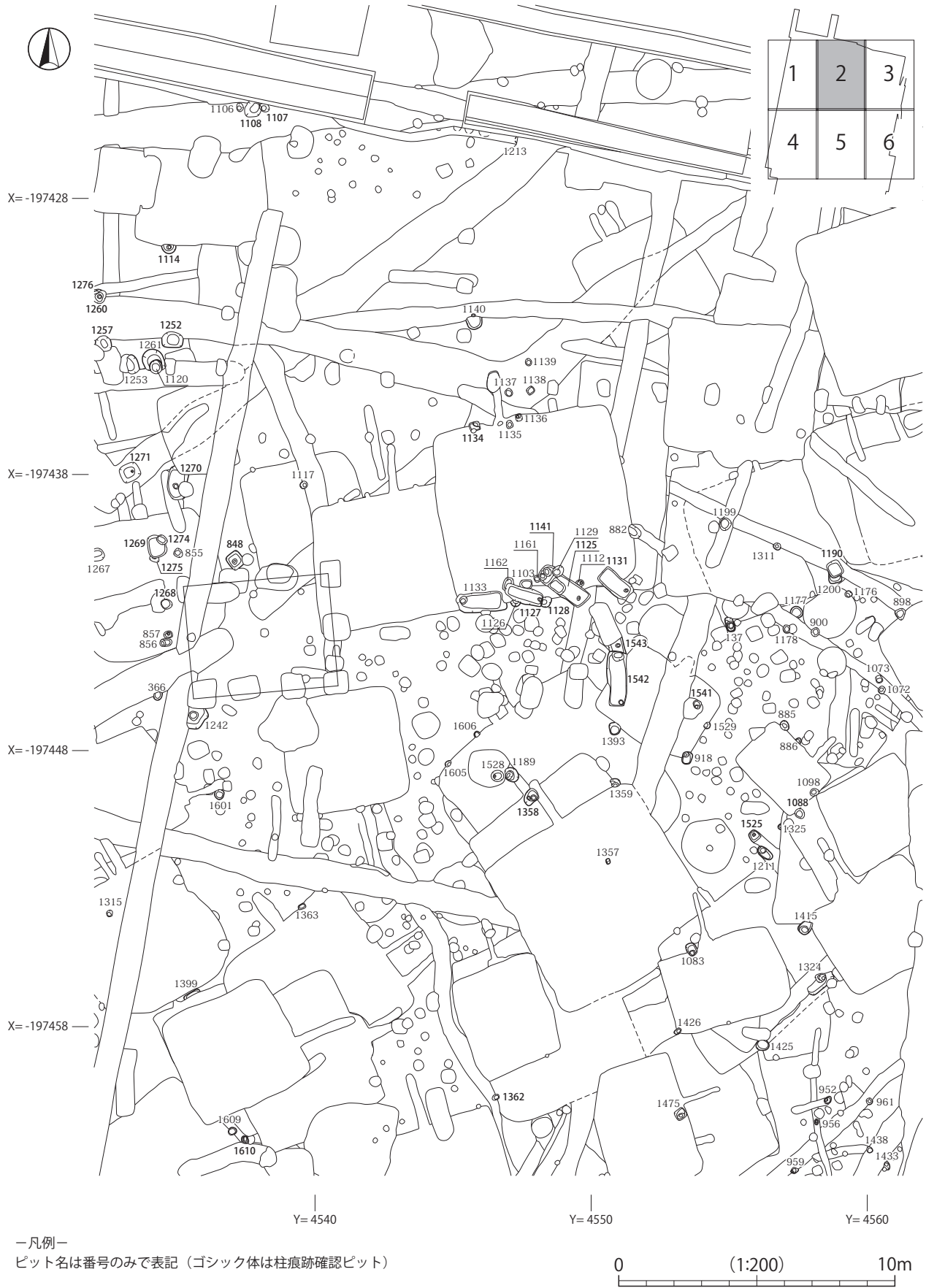
各ピットの詳細は、それぞれの観察表を参照されたい。

(7) 性格不明遺構(第380・429図、第38表)

性格不明遺構を5基(SX41・49・50・51・52)検出した。いずれも土坑状の遺構と考えられるが、他遺構の重複により部分的な確認となったため、性格不明遺構として扱った。規模は長軸180cmのSX41が最小、435cmのSX51が最大で、SX41・50・52は竪穴住居跡もしくは竪穴状遺構の一部であった可能性もある。



第423図 古墳時代～奈良時代ピット配置図(1)



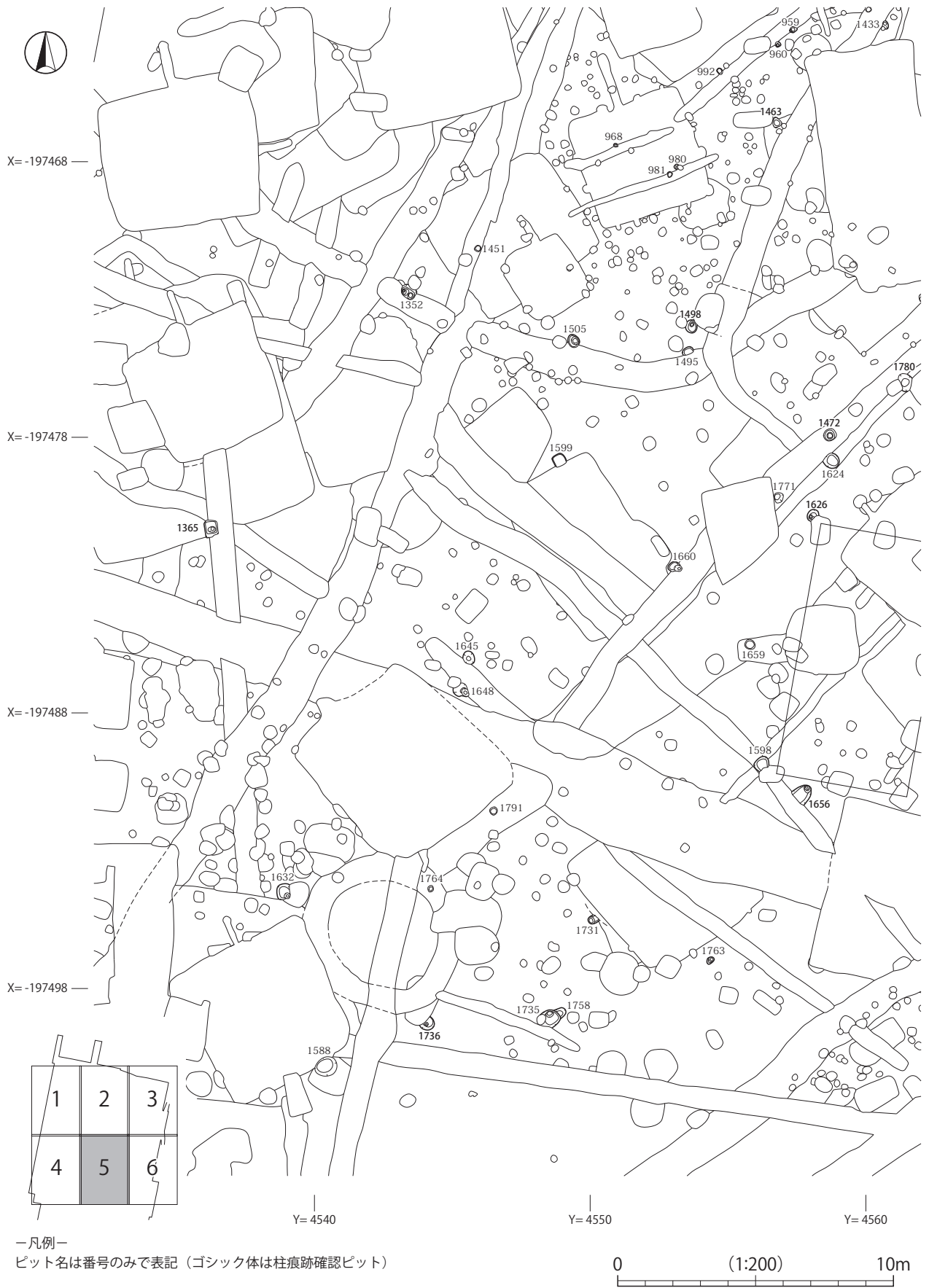
第424図 古墳時代～奈良時代ビット配置図(2)



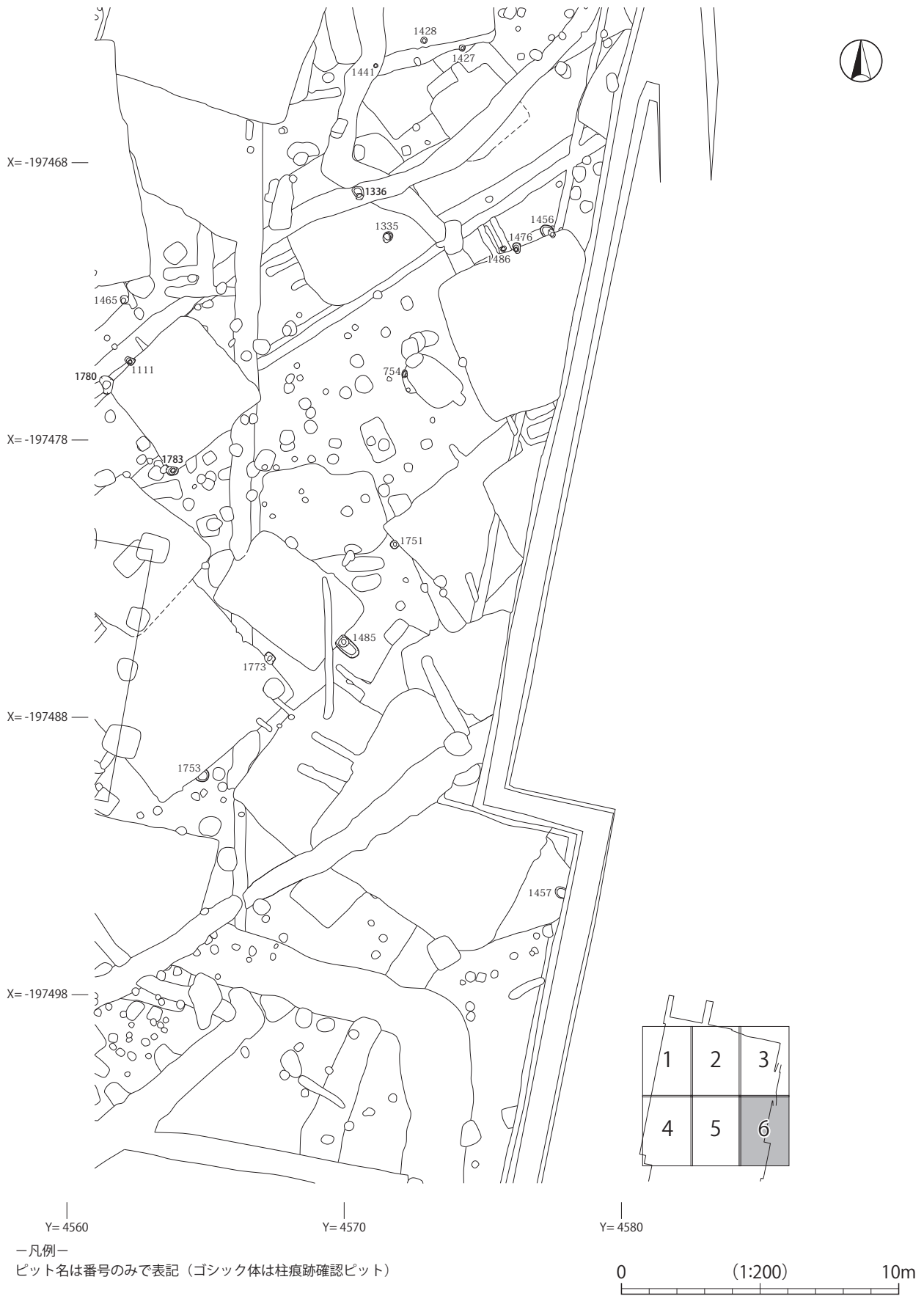
第425図 古墳時代～奈良時代ピット配置図(3)



第426図 古墳時代～奈良時代ビット配置図(4)



第427図 古墳時代～奈良時代ピット配置図(5)



第428図 古墳時代～奈良時代ピット配置図(6)

第34表 ビット(古墳時代~奈良時代) 観察表(1)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考
			長軸×短軸	高さ									長軸×短軸	高さ					
Pit18	44	隅丸方形	72×(60)	40		1	灰黄褐	シ	IV△	Pit1037	49	(円形)	(35)×(30)	28	1	黒褐	粘シ	IVB◎	
Pit21	—	—	—	—	—	2	灰黄褐	シ	IVB△						2	暗褐	粘シ	IV△	
Pit25	44	隅丸方形	(60)×(53)	52		1	に黄褐	シ	IVB・炭× ※柱	Pit1038	49	(隅丸方形)	(31)×(26)	15	1	黒褐	粘シ	IV×	
Pit26	—	—	—	—	—	2	に黄褐	砂シ	IV△炭×						2	黒褐	粘シ	IV×	
Pit32	21	(円形)	(30)×(26)	(22)		1	に黄褐	シ	IVB◎	Pit1039	49	(楕円形)	(38)×(28)	11	1	黒褐	シ	IV×	
Pit37	21	(隅丸方形)	(29)×(25)	(7)		1	灰黄褐	シ	IV×						2	黒褐	シ	IV△	
Pit38	21	(隅丸方形)	(46)×(24)	(9)		1	灰黄褐	シ	IV×	Pit1040	49	(円形)	(38)×(35)	47	1	灰黄褐	シ	IVB△	
Pit39	21	(隅丸方形)	(50)×(44)	(23)		1	灰黄褐	シ	IVB△						2	黒褐	シ	IVB◎	
Pit96	65	(円形)	48×(43)	(13)		1	黒褐	シ	IVB△炭×	3	黒褐	シ	IV×						
Pit137	47	隅丸長方形	53×31	57		1	灰黄褐	シ	IV△	Pit1048	83	(楕円形)	(30)×(22)	47	1	黒褐	シ	IV△	
						2	黒褐	粘シ	IV×						2	黒褐	粘シ	IV×	
Pit140	65	円形	28×(22)	19		1	黒褐	シ	IV△	Pit1064	56	(円形)	46×(36)	24	1	黒褐	シ	IV△	
Pit178	65	(方形)	(73)×(68)	(41)		1	黒褐	シ	IV△						Pit1072	56	(円形)	(26)×(24)	37
						2	黒褐	シ	IV× ※柱	Pit1073	56	(隅丸方形)	(27)×(24)	45					
						3	黒褐	シ	IVB◎						※註記なし				
						4	灰黄褐	シ	IVB◎	1	暗褐	シ	IV・焼・炭×						
Pit179	66	(方形)	(53)×(50)	(7)		1	黒褐	シ	IV×	Pit1083	72	隅丸長方形	(47)×37	38	2	に黄褐	シ	焼・炭△	
Pit180	66	(方形)	(62)×(54)	(13)		1	黒褐	シ	IV△						3	暗褐	シ	IV△	
Pit223	83	(楕円形)	47×(25)	24		1	黒褐	シ	IV×	Pit1088	63	(円形)	(38)×(33)	40	1	暗褐	シ	IV× ※柱	
Pit309	—	—	—	—	—	2	に黄褐	シ	IV△						2	に黄褐	シ	IV△	
Pit310	36	(楕円形)	(45)×(36)	(23)		1	褐灰	シ	IVB△	Pit1098	55	(楕円形)	(33)×(26)	(45)	1	黒褐	シ	IV・炭×	
Pit311	36	楕円形	38×31	16		1	灰黄褐	粘シ	IVB△						2	黒褐	粘シ	IV×	
Pit318	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB47の柱穴へ変更)	Pit1100	49	(楕円形)	(29)×(10)	24	1	褐	シ	IV◎	
Pit333	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB47の柱穴へ変更)						2	に黄褐	シ	暗褐シ△	
Pit336	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB45の柱穴へ変更)	3	暗褐	シ	IV・炭×						
Pit340	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB45の柱穴へ変更)	Pit1103	46	(隅丸長方形)	(44)×(35)	17	1	に黄褐	シ	IVB△	
Pit356	53	楕円形	47×41	13		1	に黄褐	砂シ	IV△	Pit1106	17	(楕円形)	(32)×(24)	(24)	1	灰黄褐	シ	IVB△炭×	
Pit366	53	(楕円形)	(31)×(30)	13		1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit1107	17	(楕円形)	(38)×(30)	(14)	1	褐灰	シ	IV・炭× ※柱	
Pit377	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB47の柱穴へ変更)						2	灰黄褐	シ	IV△ ※柱	
Pit399	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB48の柱穴へ変更)	3	灰白	シ							
Pit731	36	(隅丸方形)	55×(38)	(25)		1	暗褐	シ	IVB◎	Pit1108	17	(円形)	(66)×(57)	(46)	1	黒褐	シ	IV△	
Pit754	109	(円形)	(23)×(19)	39		1	黒褐	シ	IV△						2	黒褐	シ	IV△炭× ※柱	
Pit816	96	(円形)	(27)×(27)	22		1	灰黄褐	シ	IV△	3	灰黄褐	シ	IV◎						
Pit817	112	(円形)	(38)×(38)	48		1	灰黄褐	シ	IV・炭×	Pit1111	108	隅丸長方形	(35)×24	54	1	に黄褐	シ		
Pit819	112	(円形)	(43)×(38)	37		1	黒褐	シ	IV・炭B× ※柱	Pit1112	46	(円形)	(26)×(24)	(15)	1	黒褐	シ	IV・炭×	
						2	灰黄褐	シ	IV◎						1	灰黄褐	粘シ	褐灰シ・炭△ ※柱	
Pit841	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB45の柱穴へ変更)	Pit1114	22	(円形)	52×(33)	29	2	灰白	粘シ	IV・褐灰シ△ ※柱	
Pit842	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB47の柱穴へ変更)						3	に黄褐	シ	灰黄褐シ△	
Pit847	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB45の柱穴へ変更)	4	に黄褐	シ	IVB◎						
Pit848	45	方形	59×55	59		1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit1117	37	(円形)	(26)×(25)	42	1	黒褐	シ	IV△炭×	
						2	黒褐	シ	IV× ※柱	Pit1120	29	(円形)	(50)×(47)	54	1	灰黄褐	シ	IV△焼×	
						3	黒褐	シ	IVB△	2	灰黄褐	シ	IVB◎	Pit1124	—	—	—	※欠番(SB46の柱穴へ変更)	
						4	暗褐	シ	IVB◎	1	灰黄褐	シ	IV× ※柱						
						5	黒褐	シ	IV×	2	に黄褐	シ	IVB△						
Pit849	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB46の柱穴へ変更)	Pit1125	46	(長方形)	(142)×(71)	64	3	灰黄褐	シ	IVB◎	
Pit851	43	(隅丸方形)	(87)×(84)	18		1	灰黄褐	シ	IV× ※柱	4	黒褐	シ	IVB△						
Pit852	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB47の柱穴へ変更)	Pit1126	46	(円形)	(35)×(24)	10	1	灰黄褐	シ	IV×	
Pit855	45	(円形)	(32)×(29)	15		1	に黄褐	シ	IVB×	1	に黄褐	シ	IV× ※柱						
Pit856	45	(楕円形)	(43)×(28)	15		1	灰黄褐	シ	IVB×	2	に黄褐	シ	IVB△ ※柱						
Pit857	45	(楕円形)	(32)×(25)	14		1	灰黄褐	シ	IVB△	3	灰黄褐	シ	IVB△						
Pit869	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB45の柱穴へ変更)	Pit1127	46	(長方形)	(140)×(54)	78	4	灰黄褐	シ	IVB◎	
Pit875	35	(楕円形)	26×(22)	19		1	に黄褐	シ	灰黄褐シ△						5	灰黄褐	シ	IVB◎	
Pit876	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB45の柱穴へ変更)	6	褐灰	シ	IVB◎						
Pit877	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB45の柱穴へ変更)	7	に黄橙	シ	IVB◎						
Pit878	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB45の柱穴へ変更)	1	灰黄褐	シ	IV×						
Pit879	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB45の柱穴へ変更)	Pit1128	46	(円形)	(36)×(32)	78	2	黒褐	シ	IV× ※柱	
Pit882	47	(楕円形)	(49)×39	16		1	灰黄褐	シ	IVB◎						3	灰黄褐	シ	IVB△	
Pit885	55	円形	36×(29)	30		1	黒褐	シ	IV×	Pit1129	46	(楕円形)	(43)×(36)	32	1	に黄褐	シ	IVB×	
Pit886	55	(楕円形)	21×(15)	17		1	暗褐	シ	IV×						2	に黄褐	粘シ	IVB・炭×	
Pit898	48	(円形)	(39)×(37)	47		1	暗褐	シ	IVB◎	Pit1131	47	(長方形)	(132)×(67)	56	1	灰黄褐	シ	IVB△ ※柱	
Pit900	47	(円形)	(32)×(30)	(46)		1	暗褐	シ	IVB△炭B×						2	に黄褐	シ	IVB×	
Pit918	55	隅丸長方形	(45)×(34)	31		1	黒褐	シ	IV△	3	に黄褐	シ	IVB◎						
Pit952	81	(楕円形)	(30)×22	29		1	黒褐	シ	IV×	4	に黄褐	シ	IVB△						
Pit956	81	(楕円形)	(22)×(16)	12		1	黒褐	シ	IV△	5	に黄橙	粘シ	IVB◎						
Pit959	81	(隅丸方形)	(23)×(22)	30		1	黒褐	シ	IV△	Pit1133	46	(長方形)	(173)×(72)	56	1	に黄褐	シ	IVB△	
Pit960	81	円形	(18)×18	25		1	黒褐	シ	IV△						2	に黄褐	シ	IVB◎	
Pit961	82	(円形)	(23)×(21)	21		1	黒褐	シ	IV・焼・炭×	3	に黄橙	シ	IVB◎						
Pit968	90	(楕円形)	(16)×(12)	24		1	黒褐	シ	IV×	4	灰黄褐	シ	IVB△						
Pit980	90	(円形)	18×(17)	11		1	黒褐	シ	IV×	Pit1134	38	(長方形)	(38)×(32)	(60)	1	灰黄褐	シ	IVB×	
Pit981	90	(円形)	(20)×(18)	20		1	黒褐	シ	IV△						2	黒褐	シ	IV× ※柱	
Pit992	81	楕円形	(23)×18	12		1	褐灰	シ	IV△	3	灰黄褐	シ	IVB◎						
Pit1024	57	(円形)	(36)×(35)	13		1	に黄褐	シ	IV△	Pit1135	38	(円形)	(28)×(24)	19	1	褐灰	シ	IV・炭×	
										Pit1136	38	隅丸方形	(26)×(23)	33	1	褐灰	シ	IV・焼・炭×	

凡例 色調：に=にぶい オ=オリブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰 粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ◎=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第35表 ビット(古墳時代~奈良時代) 観察表(2)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考			
			長軸×短軸	深さ								長軸×短軸	深さ								
Pit1137	38	(円形)	(27) × (26)	19	1	黒褐	粘シ	IVB × 炭△						1	暗褐	シ	IVB△炭×				
Pit1138	30	(隅丸方形)	(28) × (25)	14	1	褐灰	シ	IVB△	Pit1243	104	(楕円形)	(137) × 94	36	1	に黄褐	シ	IVB△炭×				
Pit1139	30	(円形)	(27) × (23)	18	1	褐灰	シ	IVB ×					2	に黄褐	シ	IVB△炭×					
Pit1140	30	(円形)	(59) × 56	23	1	黒褐	シ	IVB ×	Pit1249	78	(隅丸方形)	(57) × (56)	35	1	灰黄褐	シ	IVB△炭×				
					2	黒褐	シ	IVB ×						2	に黄褐	シ	IVB△炭×				
Pit1141	46	(隅丸方形)	(75) × (59)	(34)	1	灰黄褐	シ	IVB◎ ※柱	Pit1252	29	(隅丸方形)	77 × (57)	58	1	褐灰	粘シ	IV△炭× ※柱				
					2	黒褐	シ	IVB△						2	に黄褐	粘シ	IVB◎褐灰シB◎				
					3	褐灰	粘シ	IVB ×						3	灰黄褐	粘シ	IVB◎炭×				
					4	褐灰	粘シ	IVB ×						4	灰黄褐	粘シ	IV◎黒褐シB△				
Pit1144	44	(円形)	(39) × 32	55	1	褐	シ	IV斑◎					1	褐灰	粘シ	IV◎					
Pit1145	44	(隅丸方形)	(45) × (18)	33	1	に黄褐	シ	IVB△					1	褐灰	粘シ	IV◎					
Pit1161	46	(円形)	(26) × (18)	(13)	1	褐灰	シ	IVB△	Pit1253	29	(楕円形)	(68) × (42)	37	1	灰黄褐	粘シ	IVB◎				
Pit1162	46	(隅丸長方形)	(48) × (38)	(27)	1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit1256	37	隅丸長方形	115 × 60	41	1	褐灰	粘シ	灰シB△炭×				
					2	に黄褐	シ	IV△						2	に黄褐	粘シ	IV△焼・炭×				
					3	黒褐	粘シ	IV△						2	灰黄褐	粘シ	IVB◎焼・炭× ※柱				
					4	明黄褐	粘シ	IVB◎褐シB ×						3	灰黄褐	粘シ	IV△炭×				
Pit1171	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB47の柱穴へ変更)					4	に黄褐	粘シ	IVB◎					
Pit1173	44	(隅丸方形)	(70) × (50)	21	1	に黄褐	シ	IV◎焼・炭× ※柱	Pit1257	29	(円形)	59 × (57)	43	1	灰黄褐	シ	IVB△				
					2	暗褐	シ	IVB◎						2	灰黄褐	シ	IVB△ ※柱				
Pit1176	47	(円形)	(24) × (22)	29	1	暗褐	シ	IV ×					3	に黄褐	シ	IVB◎					
Pit1177	47	(円形)	44 × (35)	19	1	に黄橙	シ	IVB◎					1	灰黄褐	シ	IVB△					
Pit1178	47	(円形)	(29) × (23)	28	1	灰黄褐	シ	IVB△炭×	Pit1258	45	(楕円形)	(57) × 38	26	1	灰黄褐	シ	IV△炭×				
Pit1189	54	楕円形	(57) × 47	58	1	に黄褐	シ	IV△	Pit1259	37	(隅丸長方形)	(78) × 54	31	1	灰黄褐	粘シ	IV◎炭×				
					2	に黄褐	シ	IV ×						2	灰黄褐	粘シ	IVB◎				
					3	黒褐	シ	IV△						3	灰黄褐	粘シ	IVB△炭×				
Pit1190	47	(方形)	(58) × (52)	(37)	1	に黄褐	シ	IVB・焼・炭×	Pit1260	29	(円形)	(49) × (49)	(57)	1	暗褐	粘シ	IVB△炭×				
					2	黒褐	シ	IV × ※柱						2	黒褐	粘シ	IVB◎				
					3	灰黄褐	シ	IVB ×						3	灰黄褐	粘シ	IVB△炭×				
					4	に黄褐	シ	IVB△						4	灰黄褐	粘シ	IVB◎				
Pit1199	39	(円形)	(45) × (39)	31	1	灰黄褐	シ	IV ×					1	灰黄褐	シ	IVB△					
Pit1200	47	(方形)	(49) × 47	25	1	黒褐	粘シ	IVB ×	Pit1261	29	(円形)	(81) × 74	36	1	に黄褐	シ	IVB◎炭×				
					2	灰黄褐	粘シ	IVB△						2	灰黄褐	シ	IVB△炭×				
Pit1201	36	方形	69 × 65	37	1	に黄褐	シ	IVB◎炭×	Pit1264	45	隅丸長方形	(77) × 54	38	1	に黄褐	シ	IVB◎褐灰シ◎				
					2	灰黄褐	シ	IVB△炭× ※柱						2	灰黄褐	シ	IVB△炭×				
					3	灰黄褐	シ	IVB△炭×						3	に黄橙	シ	IVB◎黒褐シ△				
					4	に黄褐	シ	IVB◎炭×						1	灰黄褐	粘シ	IVB・焼×				
Pit1204	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB47の柱穴へ変更)					2	黒褐	粘シ	IVB・炭× ※柱					
Pit1205	44	(方形)	(77) × (71)	45	1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit1266	45	隅丸長方形	65 × (53)	27	1	灰黄褐	シ	IVB◎炭×				
					2	に黄褐	シ	IVB◎焼×						2	に黄褐	砂シ	IVB◎炭×				
					3	に黄橙	シ	IVB△炭×						3	に黄褐	シ	IVB△炭×				
Pit1206	44	(円形)	(60) × (39)	49	1	灰黄褐	シ	IVB◎炭△	Pit1267	45	(楕円形)	(62) × (46)	(25)	1	黄灰	シ	灰白シB◎炭×				
					2	灰黄褐	シ	IVB△炭×						2	暗褐	シ	IV△炭×				
					3	褐灰	シ	IVB◎炭△						3	灰黄褐	シ	IV△炭× ※柱				
Pit1208	—	—	—	—	—	—	—	—	Pit1268	45	(円形)	(42) × (36)	(31)	1	灰黄褐	シ	IVB◎				
														2	黒褐	粘シ	IVB・炭× ※柱	2	暗褐	シ	IV△炭× ※柱
														3	灰褐	粘シ	IV△焼・炭×	3	灰黄褐	シ	IVB◎
														4	褐灰	粘シ	IV△	1	灰黄褐	シ	IVB◎焼・炭×
														5	黒褐	粘シ	灰白シB△	2	に黄褐	シ	IVB◎炭×
														6	褐灰	シ	IVB・黒褐シB◎焼△	3	に黄褐	シ	IVB△炭×
														7	に黄橙	シ	IV◎	1	灰黄褐	シ	IVB◎炭×
Pit1209	44	(楕円形)	(47) × 31	23	1	灰黄褐	シ	IVB◎炭×					2	に黄褐	シ	IVB◎炭×					
Pit1210	—	—	—	—	—	—	—	—	Pit1269	45	(隅丸長方形)	(83) × (64)	(14)	1	灰黄褐	シ	IVB◎炭×				
														1	暗褐	シ	IV△炭×	2	に黄褐	シ	IVB◎炭×
														2	黒褐	粘シ	IV△炭×	3	灰黄褐	砂シ	IVB△炭×
Pit1211	63	(楕円形)	61 × (34)	40	1	黒褐	粘シ	IV△炭×					4	に黄褐	砂シ	IVB◎炭×					
Pit1212	23	不明	(25) × 不明	50	1	黒褐	シ	IV◎ ※調査区壁で確認	Pit1270	37	(隅丸長方形)	(121) × (74)	38	1	灰黄褐	シ	IVB◎炭×				
					2	に黄褐	シ	IVB◎						2	灰黄褐	シ	IVB◎ ※柱				
					3	灰黄褐	砂シ	IVB△炭×						3	灰黄褐	シ	IVB◎炭×				
					4	に黄褐	砂シ	IVB◎炭×						4	に黄褐	シ	IV◎				
Pit1216	44	(円形)	(58) × (57)	38	1	褐灰	シ	IVB・灰白シB△炭× ※柱					1	灰黄褐	シ	IVB△炭×					
Pit1217	44	(隅丸方形)	(38) × (36)	28	1	に黄褐	シ	IVB◎	Pit1271	37	(方形)	(36) × (32)	(55)	1	灰黄褐	シ	IVB△炭×				
					2	に黄褐	シ	IVB◎						2	黒褐	シ	IVB◎ ※柱				
					3	灰黄褐	砂シ	IVB△炭×						3	に黄褐	シ	IVB◎炭×				
					4	に黄褐	砂シ	IVB◎炭×						1	暗褐	シ	IV△ ※柱				
Pit1218	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB48の柱穴へ変更)					2	灰黄褐	粘シ	IV△炭× ※柱					
Pit1219	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB48の柱穴へ変更)					3	に黄褐	シ	IVB◎					
Pit1220	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB48の柱穴へ変更)					1	灰黄褐	シ	IVB△炭×					
Pit1224	28	(円形)	(26) × (18)	25	1	灰黄褐	シ	IVB ×					2	黒褐	粘シ	IV△ ※柱					
Pit1226	59	(隅丸方形)	(36) × (34)	(40)	1	暗褐	シ	IVB◎炭×	Pit1272	37	(円形)	(31) × (28)	(30)	1	黒褐	粘シ	灰白シB◎				
					2	灰黄褐	砂シ	IV互◎						2	灰褐	粘シ	灰白シ ×				
Pit1227	68	(楕円形)	(73) × (45)	26	1	暗褐	シ	IVB△焼・炭× ※柱	Pit1273	37	(円形)	(55) × 44	29	1	灰黄褐	粘シ	IV・焼△炭×				
					2	灰黄褐	シ	IVB◎炭△						2	暗褐	粘シ	IVB・焼×				
					3	に黄褐	砂シ	IVB△炭×						3	褐灰	粘シ	暗褐シB◎炭△				
Pit1228	78	(隅丸方形)	(47) × (41)	(33)	1	灰黄褐	シ	IVB◎炭×					4	灰黄褐	粘シ	IVB◎					
Pit1229	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB48の柱穴へ変更)					1	灰褐	粘シ	IVB△焼× ※柱					
Pit1231	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB48の柱穴へ変更)					2	灰褐	粘シ	IVB◎炭×					
Pit1232	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB48の柱穴へ変更)					1	灰褐	粘シ	IVB◎炭× ※柱					
Pit1233	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB48の柱穴へ変更)					2	褐	粘シ	IVB◎炭×					
Pit1242	53	(隅丸方形)	(73) × (72)	37	1	灰黄褐	シ	IVB◎焼・炭×	Pit1276	29	(隅丸方形)	(40) × (24)	(54)	1	黒褐	粘シ	IV◎炭× ※柱				
					2	黄褐	砂シ	IVB◎焼・炭×						2	灰褐	粘シ	IVB◎				
					3	に黄橙	砂シ	IV斑◎炭×						3	に褐	粘シ	IVB◎炭×				

凡例 色調：に=にぶい オ=オリーブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰 粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ◎=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第36表 ビット(古墳時代~奈良時代) 観察表(3)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	
			長軸×短軸	深さ								長軸×短軸	深さ					
Pit1280	52	(楕円形)	52×(37)	35	1	褐灰	シ	IV B○炭△	Pit1424	—	—	—	—	—	※欠番(SI451)のP16へ変更)			
					2	灰黄褐	シ	IV△炭× ※柱	Pit1425	72	円形	46×(36)	29	1	黒褐	シ	IV・焼・炭×	
					3	に黄褐	シ	IV○	Pit1426	72	(楕円形)	(26)×(17)	30	1	黒褐	シ	IV○焼・炭×	
Pit1281	51	(楕円形)	(60)×(27)	41	1	灰黄褐	シ	IV△炭×	Pit1427	83	(円形)	(22)×(22)	31	1	暗褐	シ	IV△	
					2	に黄褐	シ	IV B○炭×	Pit1428	83	(円形)	(24)×(23)	22	1	に黄褐	シ	IV B○	
					3	灰黄褐	砂シ	IV B○炭×	Pit1429	74	(円形)	(34)×(20)	22	1	に黄褐	シ	IV○	
Pit1282	51・52	円形	(46)×45	77	1	褐灰	シ	IV B△炭×	Pit1430	83	(円形)	(45)×(26)	24	1	暗褐	シ	IV○焼・炭×	
					2	黒褐	粘シ	IV B・炭× ※柱	Pit1433	82	(楕円形)	31×(21)	16	1	黒褐	シ	IV・焼・炭×	
					3	灰黄褐	シ	IV B△炭×	Pit1438	82	(円形)	(23)×(20)	(23)	1	黒褐	シ	IV×	
					4	暗灰黄	シ	IV B△	Pit1441	83	(円形)	(15)×(14)	(11)	※註記なし				
Pit1287	44	(円形)	49×(33)	20	1	灰黄褐	シ	IV○炭×	Pit1451	98	(隅丸方形)	(22)×(22)	(15)	1	黒褐	シ	IV B△	
					2	灰黄褐	砂シ	IV B○	Pit1456	101	(楕円形)	(55)×(41)	43	1	暗褐	シ	IV×	
					3	灰黄褐	砂シ	IV B○	Pit1457	133	(楕円形)	(39)×(37)	(21)	1	暗褐	シ	IV△	
Pit1290	60・69	(楕円形)	(42)×(31)	21	1	灰黄褐	シ	IV B○炭×	Pit1463	90	(円形)	(36)×(32)	53	1	黒褐	シ	IV・炭× ※柱	
					2	灰黄褐	砂シ	IV B○						2	黒褐	シ	IV△	
Pit1293	69	(楕円形)	(60)×(44)	26	1	灰黄褐	シ	IV△炭×	Pit1465	100	(円形)	(32)×(30)	(24)	1	暗褐	シ	IV△	
					2	に黄褐	シ	IV△炭×						3	暗褐	シ	IV×	
Pit1301	36	円形	34×30	14	1	灰黄褐	シ	IV B×	Pit1472	107	(円形)	(46)×(43)	(25)	1	黒褐	シ	IV・炭× ※柱	
					2	灰黄褐	シ	IV B△						2	暗褐	シ	IV△	
Pit1306	—	—	—	—	※欠番(SB46)の柱穴へ変更)													
Pit1307	—	—	—	—	※欠番(SB46)の柱穴へ変更)													
Pit1308	36	(隅丸方形)	(50)×(30)	20	1	灰黄褐	シ	IV B△炭×	Pit1475	81	(方形)	(40)×(39)	(32)	1	暗褐	シ	IV斑○	
					2	に黄褐	シ	IV B○炭×	Pit1476	101	(楕円形)	(38)×27	46	※註記なし				
Pit1311	47	(円形)	27×(24)	67	1	に黄褐	シ	IV B△	Pit1485	125	(隅丸長方形)	(91)×51	18	1	暗褐	シ	IV B×	
					2	に黄褐	シ	IV・炭×	Pit1486	101	(楕円形)	(21)×16	35	1	暗褐	シ	IV斑○	
Pit1315	61	(円形)	(24)×(22)	23	1	褐灰	砂シ	IV×	Pit1495	99	(円形)	41×(23)	20	1	黒褐	シ	IV△炭×	
					1	暗褐	粘シ	IV・炭×	Pit1498	99	円形	48×42	37	1	黒褐	シ	IV○ ※柱	
Pit1324	72	(隅丸方形)	108×(50)	79	2	黒褐	シ	IV・炭×	Pit1500	—	—	—	—	2	黒褐	シ	IV× ※柱	
					3	黒褐	シ	IV B△						3	黒褐	シ	IV・炭×	
					4	に黄褐	砂シ							4	暗褐	シ	IV△炭×	
					5	暗褐	シ	IV・炭×						※欠番(SB49)の柱穴へ変更)				
					1	黒褐	シ	IV×						Pit1505	98	(楕円形)	49×40	17
Pit1325	63	(円形)	(21)×(10)	17	1	黒褐	シ	IV×	Pit1525	63	(方形)	39×39	46	1	灰黄褐	シ	IV× ※柱	
Pit1335	101	(楕円形)	(41)×(33)	(29)	1	に黄褐	シ	IV B△炭×					2	灰黄褐	シ	IV B×		
Pit1336	92	(隅丸長方形)	(50)×(37)	(34)	1	黒褐	シ	IV B△炭× ※柱	Pit1528	54	(円形)	(43)×(43)	(51)	1	灰黄褐	シ	IV○	
					2	灰黄褐	砂シ	IV B○	2	灰黄褐	シ	IV B△						
Pit1352	98	(隅丸長方形)	(57)×(42)	(56)	1	灰黄褐	シ	IV B△	Pit1529	55	(円形)	25×(20)	26	※註記なし				
					2	黒褐	シ	IV B×	Pit1537	—	—	—	※欠番(SB49)の柱穴へ変更)					
					3	に黄褐	シ	IV B○	Pit1538	—	—	—	※欠番(SB49)の柱穴へ変更)					
Pit1357	63	隅丸方形	19×15	36	1	灰黄褐	シ	IV B△炭×	Pit1541	55	(円形)	(30)×(30)	(15)	1	暗褐	シ	IV× ※柱	
Pit1358	54	隅丸方形	(54)×49	39	1	灰黄褐	シ	IV× ※柱	Pit1542	55	(長方形)	(199)×(73)	54	2	褐灰	シ	IV B△	
					2	灰黄褐	シ	IV B×						1	灰黄褐	シ	IV B△	
Pit1359	55	(円形)	(37)×(30)	43	1	に黄褐	シ	IV B△	Pit1598	123	(円形)	57×(41)	36	2	に黄褐	シ	IV B○	
					2	に黄褐	砂シ	IV B△						3	灰黄褐	シ	IV B△炭×	
Pit1362	80	(楕円形)	(27)×(19)	(40)	1	黒褐	シ	IV△炭× ※柱	Pit1599	106	(隅丸方形)	45×(40)	4	4	暗褐	シ	IV B△炭×	
					2	褐灰	砂シ	IV△						5	に黄褐	シ	IV B○	
Pit1363	61	(隅丸長方形)	(29)×(18)	24	1	黒褐	粘シ	IV・炭×	Pit1543	47	(長方形)	(65)×55	32	1	黒褐	シ	IV B△ ※柱	
					2	に黄褐	シ		2	灰黄褐	シ	IV B○						
Pit1365	113	(長方形)	(63)×(47)	71	1	灰黄褐	シ	IV B△炭×	Pit1588	146	(楕円形)	(82)×(68)	(44)	1	に黄褐	粘シ	IV B○炭△炭×	
					2	黒褐	シ	IV× ※柱	2	灰黄褐	粘シ	IV B○黒褐シ B×						
					3	灰黄褐	シ	IV B× ※柱	3	暗褐	粘シ	IV B△炭△炭×						
					4	灰黄褐	シ	IV B△	Pit1597	—	—	—	※欠番(SB49)の柱穴へ変更)					
Pit1374	52	(楕円形)	(76)×(56)	(12)	1	灰褐	シ	IV B△炭×	Pit1598	123	(円形)	57×(41)	36	1	黒褐	シ	IV B・炭×	
					2	に黄褐	砂シ	IV B○灰白シ○	2	黒褐	シ	IV B○						
Pit1379	112	楕円形	(55)×(35)	24	1	に黄褐	シ	IV B○炭×	Pit1600	—	—	—	※欠番(SB49)の柱穴へ変更)					
					2	灰黄褐	砂シ	IV B○炭×	Pit1601	53	円形	36×35	23	1	灰黄褐	シ	IV B○	
Pit1389	112	(方形)	(64)×(55)	(26)	1	灰黄褐	シ	IV B○炭△炭×	Pit1605	54	(円形)	(26)×(18)	26	1	灰黄褐	シ	IV B×	
					2	に黄褐	砂シ	IV B△炭×	Pit1606	54	(円形)	(23)×(18)	33	1	に黄褐	シ	IV B○	
Pit1393	55	隅丸方形	44×(40)	38	1	に黄褐	シ	IV B△炭×	Pit1609	79	円形	31×27	14	1	暗褐	シ	IV×	
					2	灰黄褐	シ	IV△炭×						2	に黄褐	シ	IV○	
Pit1399	70	(方形)	(63)×(13)	16	1	暗褐	シ	IV×	Pit1610	79	(円形)	(27)×26	26	3	に黄褐	シ	IV△	
					2	灰黄褐	シ	IV△炭×						1	褐灰	シ	IV△炭×	
Pit1403	65	(円形)	(41)×(38)	(41)	1	黒褐	シ	IV×	Pit1611	—	—	—	※欠番(SB49)の柱穴へ変更)					
Pit1405	65	(楕円形)	(40)×(34)	49	1	暗褐	シ	※柱	Pit1622	—	—	—	—	※欠番(SB49)の柱穴へ変更)				
					2	に黄褐	シ	IV B○						Pit1624	107	(円形)	(55)×53	20
Pit1412	74	(円形)	25×(11)	42	※註記なし													
Pit1413	65	隅丸長方形	68×39	64	1	暗褐	シ	IV B△	Pit1611	—	—	—	—	※欠番(SB49)の柱穴へ変更)				
					1	暗褐	シ	IV△	Pit1622	—	—	—	※欠番(SB49)の柱穴へ変更)					
					2	黒褐	シ	IV・炭×	Pit1624	107	(円形)	(55)×53	20	1	灰黄褐	シ	IV B△	
Pit1415	63	(隅丸長方形)	(54)×43	29	3	暗褐	シ	IV×	Pit1626	115	(円形)	(44)×(39)	37	2	黒褐	シ	IV B△ ※柱	
					1	黒褐	シ	IV B×						3	黒褐	シ	IV B×	
Pit1416	—	—	—	—	※欠番(SI451)のP12へ変更)													
Pit1417	—	—	—	—	※欠番(SI451)のP13へ変更)													
Pit1418	—	—	—	—	※欠番(SI451)のP14へ変更)													
Pit1419	—	—	—	—	※欠番(SI451)のP15へ変更)													
Pit1420	—	—	—	—	※欠番(SI451)のP18へ変更)													
Pit1421	—	—	—	—	※欠番(SI451)のP19へ変更)													
Pit1422	—	—	—	—	※欠番(SI451)のP20へ変更)													
Pit1423	—	—	—	—	※欠番(SI451)のP21へ変更)													

凡例 色調：に=にぶい オ=オリーブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰 粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ○=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第37表 ビット(古墳時代~奈良時代) 観察表(4)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考					
			長軸×短軸	深さ								長軸×短軸	深さ									
Pit1648	122	(円形)	52×(51)	30	1	灰黄褐	シ	IV△炭×	Pit1736	138	(円形)	51×(34)	32	1	黒褐	シ	IV△炭×					
					2	褐灰	シ	IV◎炭×						2	灰黄褐	シ	IV◎※柱					
Pit1649	—	—	—	—	※欠番(SB49)の柱穴へ変更			Pit1751	117	(隅丸方形)	(27)×27	26	※註記なし									
Pit1650	—	—	—	—	※欠番(SB49)の柱穴へ変更								Pit1753	132	(円形)	49×(30)	23	※註記なし				
Pit1656	131	(楕円形)	(67)×66	42	1	黒褐	シ	IV△※柱	Pit1758	138	(楕円形)	39×(34)	31	1	黒褐	シ	IVB△炭×					
					2	に黄褐	砂シ	IV×※柱						2	黒褐	シ	IVB◎					
					3	黒褐	シ	IVB×						1	灰黄褐	シ	IVB△					
					4	暗褐	シ	IVB△炭×						2	黒褐	シ	IV△					
Pit1659	123	(円形)	(38)×(35)	8	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit1763	139	楕円形	30×22	30	1	灰黄褐	シ	IV△					
					2	に黄褐	シ	IV△						2	黒褐	シ	IV△					
Pit1660	115	(隅丸方形)	(46)×39	32	1	暗褐	シ	IV・焼×	Pit1764	130	(円形)	(25)×(21)	(12)	1	暗褐	シ	IV×					
					2	に黄褐	砂シ	IVB◎						2	に黄褐	シ	IV△					
					3	灰黄褐	シ	IVB△焼・炭×						Pit1771	115	(隅丸方形)	(37)×(34)	(29)	1	黒褐	シ	IV△炭×
					4	に黄褐	シ	IV△											2	灰黄褐	シ	IV・炭×
					5	灰黄褐	砂シ	IV主体炭×											Pit1773	124	(方形)	39×(33)
Pit1664	—	—	—	—	※欠番(SB49)の柱穴へ変更			Pit1780	108	(円形)	(66)×(50)	60	1	に黄褐	シ	IVB×						
Pit1681	—	—	—	—	※欠番(SB49)の柱穴へ変更								2	褐	シ	IVB◎						
Pit1731	139	(楕円形)	(38)×31	25	1	黒褐	シ	IV◎	Pit1783	108	(楕円形)	44×(31)	35	1	褐	シ	IV×※柱					
					2	灰黄褐	シ	IV◎						2	に黄褐	シ	IV△※柱					
					3	に黄褐	シ	黒褐シ×						1	黒褐	シ	IVB×					
Pit1735	138	(楕円形)	(74)×62	41	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit1791	130	(円形)	(28)×(28)	(21)	1	黒褐	シ	IV×					

凡例 色調：に=にふい オ=オリーブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰
 粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ◎=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

SX41 性格不明遺構(第429図、第38表)

調査区中央部の99区に位置する。大部分がSD297・345、SK470の重複によって失われており、北西・南西隅と北東部のみ残存する。SD297・345、SK470より古い。

確認された規模は長軸180cm、短軸175cm、深さ23cmを測る。平面形は北西・南西隅の形状から隅丸方形と考えられる。断面形は台形と考えられ、残存する壁面は直線的に立ち上がる。

堆積土は単層で、暗褐色シルトを主体とする。

遺物は土師器が少量出土したが、図化できるものはなかった。

SX49 性格不明遺構(第429図、第38表)

調査区中央部北寄りの54・62区に位置する。西壁際の一部のみ残存しており、SI509・515より古い。

確認された規模は長軸199cm、短軸56cm、深さ39cmを測る。平面形は円形ないし楕円形と考えられる。断面形は不明で、壁面は内湾気味に立ち上がる。

堆積土は3層に分層した。褐灰色シルトを主体とする。

遺物は土師器が少量出土したが、図化できるものはなかった。

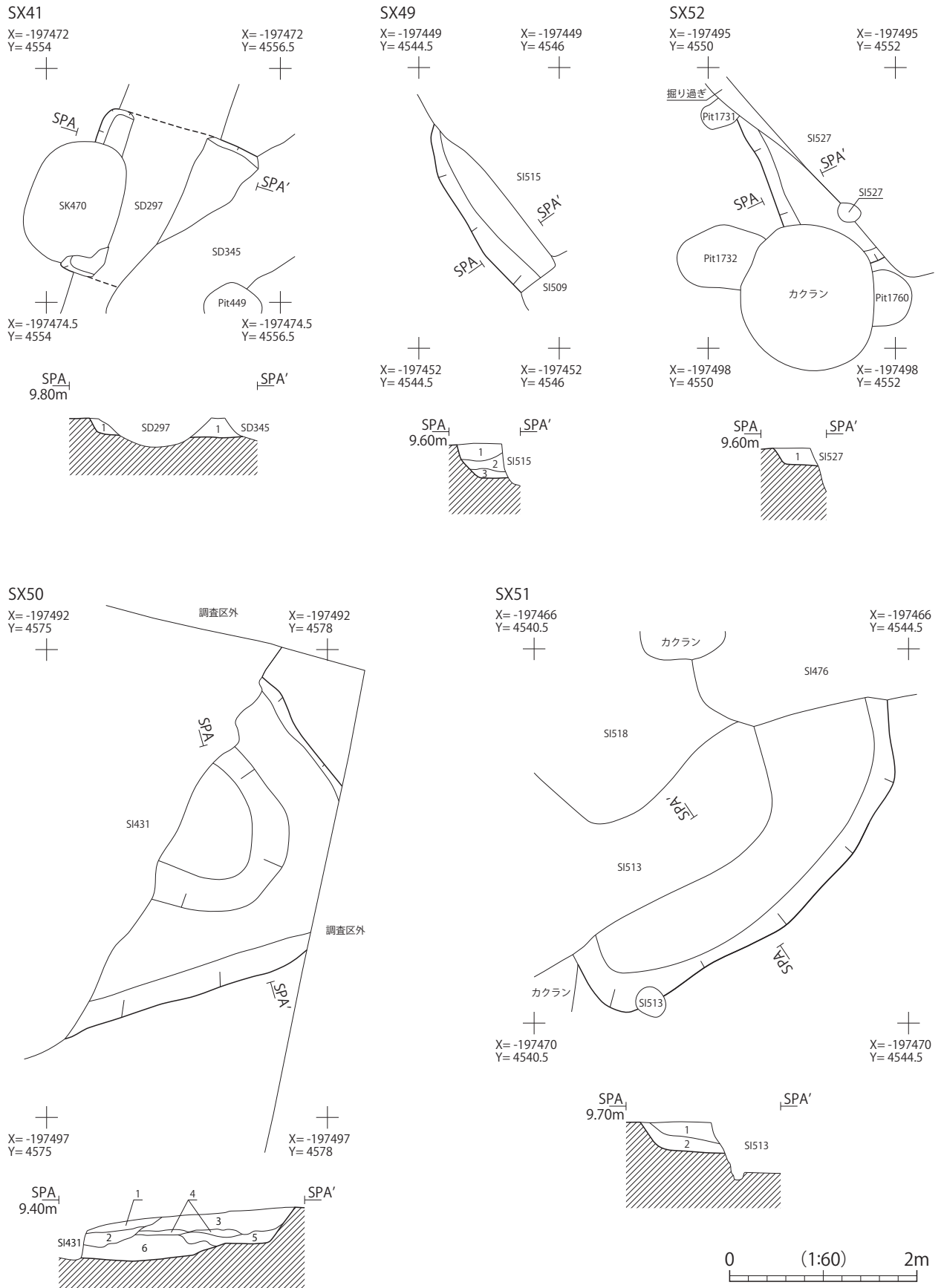
SX50 性格不明遺構(第429図、第38表)

調査区南東部の133・141区に位置する。遺構の大半はSI431の重複により失われており、東端部は調査区外へと続く。SI431より古く、Pit1457より新しい。

確認された規模は長軸367cm、短軸363cm、深さ58cmを測る。平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形、断面形は台形と考えられ、壁面は直線的に立ち上がる。壁面から60～70cm程度内側の底面は、土坑状に落ち込んでいる。

堆積土は6層に分層した。灰黄褐色ないし暗オリーブ褐色砂質シルトを主体とする。

遺物は土師器・須恵器が少量出土したが、図化できるものはなかった。



第29図 SX41・49・50～52 性格不明遺構

SX51 性格不明遺構 (第429図、第38表)

調査区中央部の89区に位置する。大部分がSI476・513・518の重複により失われており、南東辺と南西隅のみ残存する。SI476・513・518より古い。

確認された規模は長軸435cm、短軸173cm、深さ32cmを測る。平面形は楕円形と考えられ、断面形は不明である。壁面は直線的に立ち上がる。

堆積土は2層に分層した。黒褐色ないし灰黄褐色シルトを主体とする。

遺物は土師器が少量出土したが、図化できるものはなかった。

SX52 性格不明遺構 (第429図、第38表)

調査区南部の139区に位置する。大部分が攪乱やSI527の重複により失われており、南西隅の一部のみ残存する。SI527、Pit1731より古い。

確認された規模は長軸202cm、短軸86cm、深さ21cmを測る。平面形は隅丸方形と考えられる。断面形は不明で、壁面は直線的に立ち上がる。

堆積土は単層で、暗灰黄色シルトを主体とする。

遺物は出土しなかった。

第38表 性格不明遺構(古墳時代～奈良時代)観察表

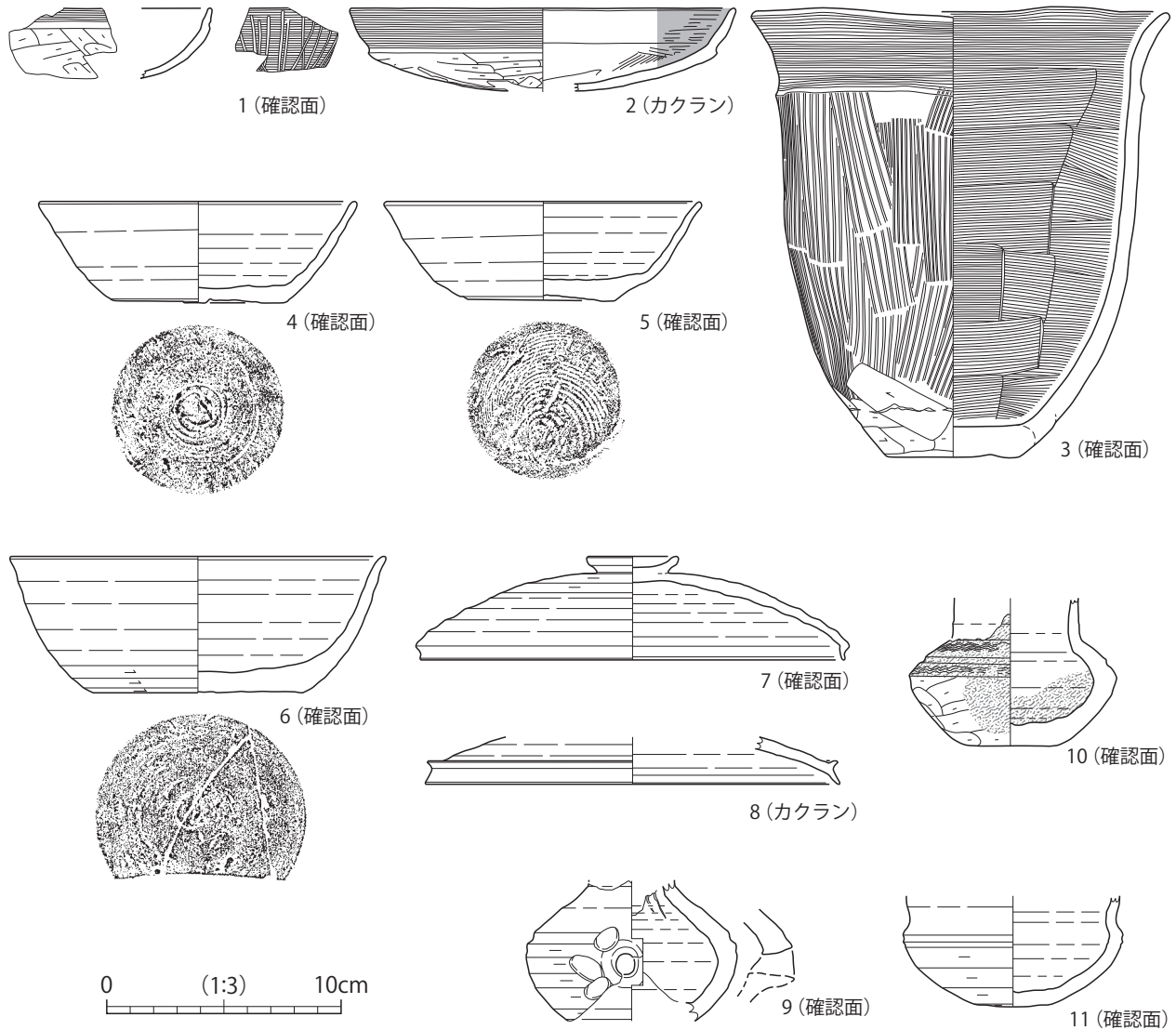
遺構名	区割	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SX41	99	(隅丸方形)	180×(175)	23	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	SD297・345、SK470より古い。
SX49	54 62	(円形)	(199)×(56)	39	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm)少量含む。	SI509・515より古い。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm)多量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	
SX50	133 141	(隅丸方形)	(367)×(363)	58	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。	SI431より古く、Pit1457より新しい。
					2	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm)多量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	
					4	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm)多量含む。	
					5	7.5Y4/2 灰オリーブ色	砂質シルト	細砂斑状に含む。	
					6	2.5GY3/1 暗オリーブ灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm)多量含む。	
SX51	89	(楕円形)	(435)×(173)	32	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。	SI476・513・518より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
SX52	139	(隅丸方形)	(202)×(86)	21	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	SI527、Pit1731より古い。

(8) 遺構外出土遺物 (第430～433図)

遺構確認時や攪乱、側溝掘削などで出土した遺物について記載する。いずれも本来の帰属遺構は不明だが、土師器環2点・甕1点、須恵器環3点・蓋2点・鉢1点・壺1点・壺もしくは瓶類4点・甕1点・円面硯2点、礫石器4点、石製品4点、土製品2点を掲載した(第430～433図)。

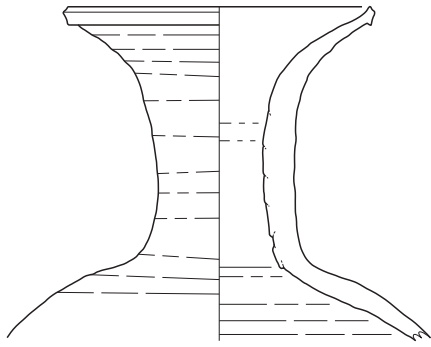
1・2は土師器環で、1は北武蔵型暗文環の特徴を持つ。薄手で精巧なつくりである。扁平な半球形を呈すると考えられ、口縁部は沈線状の段を持ち、短く直立する。内面はヨコナデ後、暗文とみられる幅の狭いヘラミガキが放射状に施されている。色調は橙色を呈し、胎土は精良で、黒色粒が混じる砂粒を含む。焼成は良好で締まる。2は浅身で薄手である。扁平な丸底を呈し、口縁部は内湾気味に外反する。口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜を持つ。内面に黒色処理が施されている。3は土師器甕で、砲弾形を呈し、頸部に段を持ち、口縁部は緩やかに外反する。

4～6は須恵器環で、6は深身である。4は台形、5は体部下位で外反し、中位から口縁部に向かって直線的に外傾、6は緩やかに内湾する。5・6の口縁部はわずかに外反する。4の底部の切り離しは回転ヘラ切り、5は回転糸切りで、ともに再調整は認められない。6は、体部下位から底部にかけて回転ヘラケズリによる再調整が施されているため、底部の切り離しは不明である。4・6の色調は灰色、5は灰色～にぶい橙色を呈する。4・6の胎土はやや精良で、ともに砂粒と黒色粒子、白色粒子を含む。5は粗く、3mm以下の砂礫と赤色粒子、白色粒子を含む。

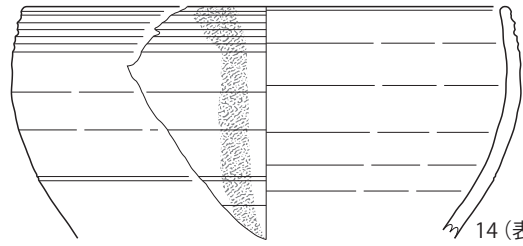


図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-739	調査区 北東	確認面	土師器	环	—	—	(3.0)	口縁部：ヨコテ 体部：ヘラズリ	ヨコテ→ヘラミギキ(放射状)	関東系 角閃石微量含む	363
2	C-740	調査区 中央北	カクラン	土師器	环	(16.5)	—	(3.6)	口縁：ヨコテ 体部：ヘラズリ	ヘラミギキ	内面黒色処理 内外面やや摩滅	363
3	C-201	調査区	確認面	土師器	甕	(17.5)	5.8	14.2	口縁：ヨコテ 胴上位～中位：ハマ 胴下位～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラテ		363
4	E-101	調査区 南東	確認面	須恵器	环	13.4	7.3	4.3	口調整 底部：回転ヘラ切	口調整	外面口縁部重ね焼き痕	363
5	E-102	調査区 南東	確認面	須恵器	环	13.4	6.3	4.2	口調整 底部：回転糸切	口調整		363
6	E-103	調査区 中央南壁	確認面	須恵器	环	(16.0)	(9.0)	(5.8)	口縁～体中位：口調整 体下位～底部：回転ヘラズリ	口調整	外面口縁部重ね焼き痕	363
7	E-105	調査区 中央	確認面	須恵器	蓋	(18.0)	ツマミ 径 3.7	4.4	口縁～天井下半：口調整 天井上半：回転ヘラズリ ツマミ部：口調整によるツマミ貼付	口調整	骨針中量含む 外面天井部下位重ね焼き痕	363
8	E-110	調査区 北東	カクラン	須恵器	蓋	(17.6)	—	(2.0)	口調整	口調整	骨針中量含む	363
9	E-107	調査区 中央北	確認面	須恵器	甕	—	—	(5.8)	体上位：口調整→沈線 体下位：回転ヘラズリ 注口部：エドシ	頸部：絞り込み痕 体部：口調整	注口径(1.3)cm 外面体部上・内面底部に灰かぶり	363
10	E-111	調査区	確認面	須恵器	壺	—	4.0	(6.3)	頸部：口調整 体上位：柳描波状文→沈線 体下位～底部：手持ヘラズリ	口調整	外面体部・体部内面下半自然釉付着	363
11	E-104	調査区	確認面	須恵器	短頸壺	—	—	(4.5)	口縁：口調整 体部：回転ヘラズリ	口調整	角閃石微量含む 外面火傷痕	364

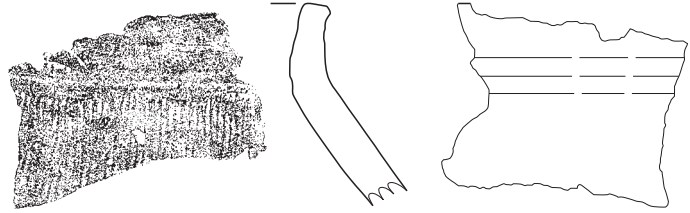
第430図 遺構外出土遺物(1)



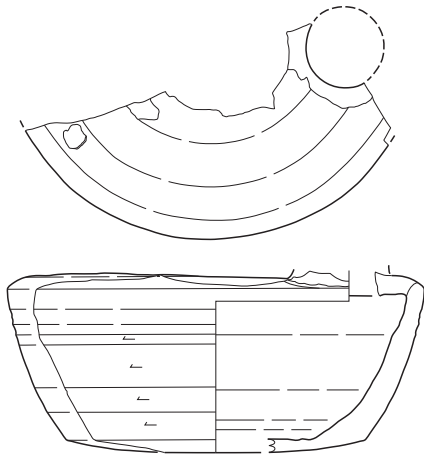
12 (確認面)



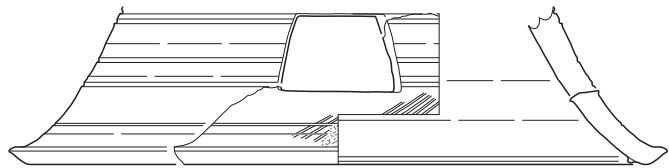
14 (表土)



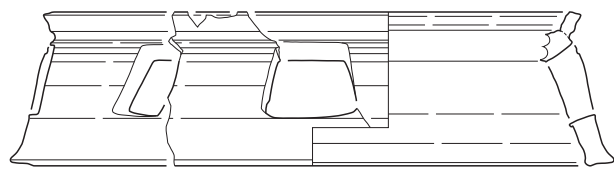
15 (確認面)



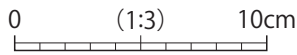
13 (確認面)



16 (確認面)



17 (確認面)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
12	E-108	調査区	確認面	須恵器	長頸瓶	(12.0)	—	(13.2)	口縁：㊦調整 体部：不明	㊦調整	2段構成 外面体部上位・内面口縁部灰かぶり 骨針少量、角閃石微量含む	364
13	E-109	調査区南東端	確認面	須恵器	平瓶	—	(12.0)	(7.2)	体上位：㊦調整 体下位～底部：回転ヘラスリ	㊦調整	外面体部灰かぶり 焼きぶくれ	364
14	E-106	調査区中央南	表土	須恵器	鉢	(19.0)	—	(9.2)	口縁：㊦調整→沈線 体上位：㊦調整 体下位：回転ヘラスリ	㊦調整	外面自然袖付着 骨針微量含む	364
15	E-100	調査区中央西	確認面	須恵器	甃	—	—	(8.1)	口縁：㊦調整 胴部：平行斜	㊦調整		364
16	E-112	調査区南東	確認面	須恵器	円面硯	—	(24.4)	(6.0)	平行斜→㊦調整→沈線	㊦調整	透孔1箇所 内外面に自然袖付着	364
17	E-113	調査区南東	確認面	須恵器	円面硯	—	(22.0)	(6.0)	㊦調整→沈線	㊦調整	透孔8方向か 内外面脚部灰かぶり	364

第431図 遺構外出土遺物(2)

7・8は須恵器蓋で、7にはリング状のツマミが付されている。扁平なドーム状を呈し、口縁部は外反気味に垂下する。8も扁平なドーム状と考えられ、口縁部は外傾し、口縁部上位に突帯がめぐる。7の色調は浅黄色～橙色、8は暗赤灰色を呈する。7の胎土はやや粗く、2mm以下の砂礫と赤色粒子、海綿骨針を含む。8はやや精良で、少量の砂粒、白色粒子と海綿骨針を含む。

9は須恵器甕で、注口部が突出している。内湾する体部で、肩部には太めの沈線が1条めぐる。色調は灰色を呈し、胎土は精良で、少量の砂粒と多量の黒色粒子を含み、黒色粒子の吹き出しが目立つ。

10は須恵器壺で、厚手で重量感のあるつくりである。肩部が角張って屈曲し、口縁部は直立する。沈線で区画された3～5条の波状文が外面の肩部に2段施されている。色調は暗灰色～灰色を呈し、胎土は精良で、少量の砂粒と白色粒子を含む。11は須恵器短頸壺で、体部は内湾し、頸部でくびれ、口縁部は外反気味に直立すると考えられる。浅い沈線が体部上位に2条めぐる。色調は明灰色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と黒色粒子を含む。焼成はやや不良で軟質である。

12は須恵器長頸瓶で、口縁端部に凸面を持つ。体部と頸部の内面に接合痕が見られるため、それぞれ別づくりで接合されたと考えられる。色調は暗灰色～灰色を呈し、砂粒と黒色粒子を多量、白色粒子と海綿骨針を少量含む。13は須恵器平瓶で、肩部は強く屈曲し、上部は膨らまず水平である。色調は灰色～明紫灰色を呈し、胎土はやや精良で、少量の砂粒と黒色粒子を含み、黒色粒子の吹き出しが目立つ。また、焼膨れが目立ち、断面に亀裂が生じている。

14は須恵器鉢で、体部は緩やかに内湾し口縁部に至る。沈線が体部に1条、口縁部に3条めぐる。色調は灰色～青灰色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と多量の黒色粒子、微量の海綿骨針を含む。口縁部に釉だまりがあることから逆位で焼成されたと考えられる。

15は須恵器甕で、口縁部は短く直立し、端部がわずかに外面側に肥厚する。色調は灰色～暗灰色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と白色粒子を含む。

16・17は須恵器円面硯である。16の脚部は「ハ」字状に広がり、端部は強く外反する。また内面側に細い突帯がめぐる。外面は平行タタキ後に細い沈線が5条認められる。台形と考えられる透かし孔が1箇所認められる。17は硯面から脚部にかけての破片資料である。直線的に外傾する脚部で、裾端部はわずかに肥厚する。外縁部は斜め上方に付されている。沈線が外面の脚部上位に1条めぐる。台形と考えられる透かし孔が2方向認められ、復元すると8方向にあったと考えられる。16の色調は明灰色を呈し、17は灰色～暗灰色を呈する。胎土はともに精良で、砂粒と黒色粒子、白色粒子を含む。

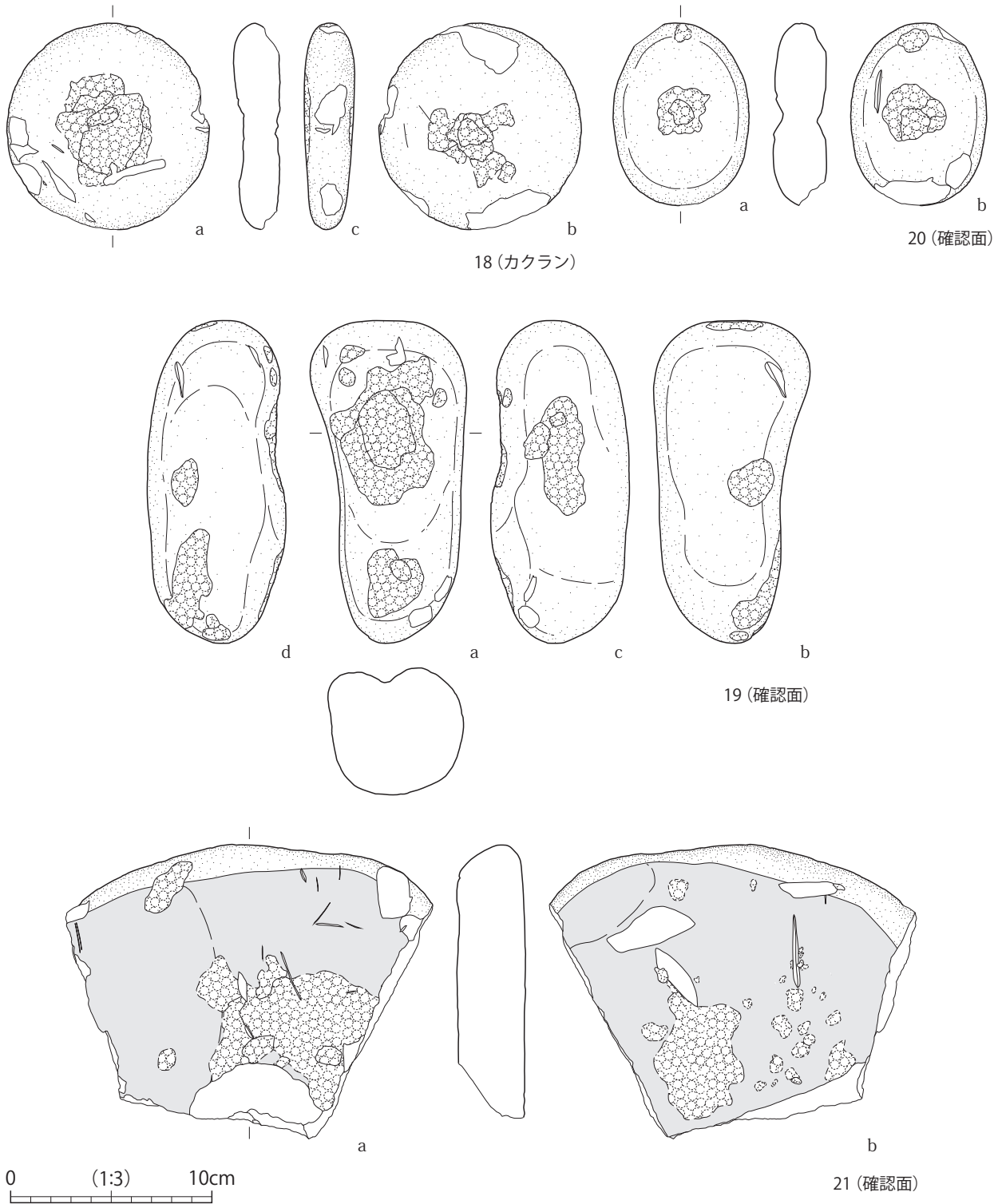
18～20は凹石である。19・20は敲石の機能も持つ。18はa面に深い、b面には浅い凹部が形成されている。19はa面に深い凹部が形成され、a～d面には敲打痕がみられる。20はa・b面に深い凹部、敲打痕が認められる。b面には溝状痕がみられる。石材は18が凝灰岩、19が花崗岩、20が細粒凝灰岩である。21は台石である。磨面が2面あり、a・b面に溝状痕・線条痕、a面には敲打痕が認められる。石材は流紋岩である。

22～24は砥石である。22は砥面が7面あり、a・b・d面に溝状痕、a～e面に線条痕・敲打痕がみられる。23は砥面が4面あり、c・e面に溝状痕、a～e面に線条痕が認められる。上部には、2箇所の貫通孔があり、ともに片側から穿孔されている。24は砥面が3面あり、a～c面に溝状痕・線条痕がみられる。石材は22が砂岩、23が片岩、24がホルンフェルスである。

25は石製の小玉である。短い円筒状を呈している。石材は緑色凝灰岩である。

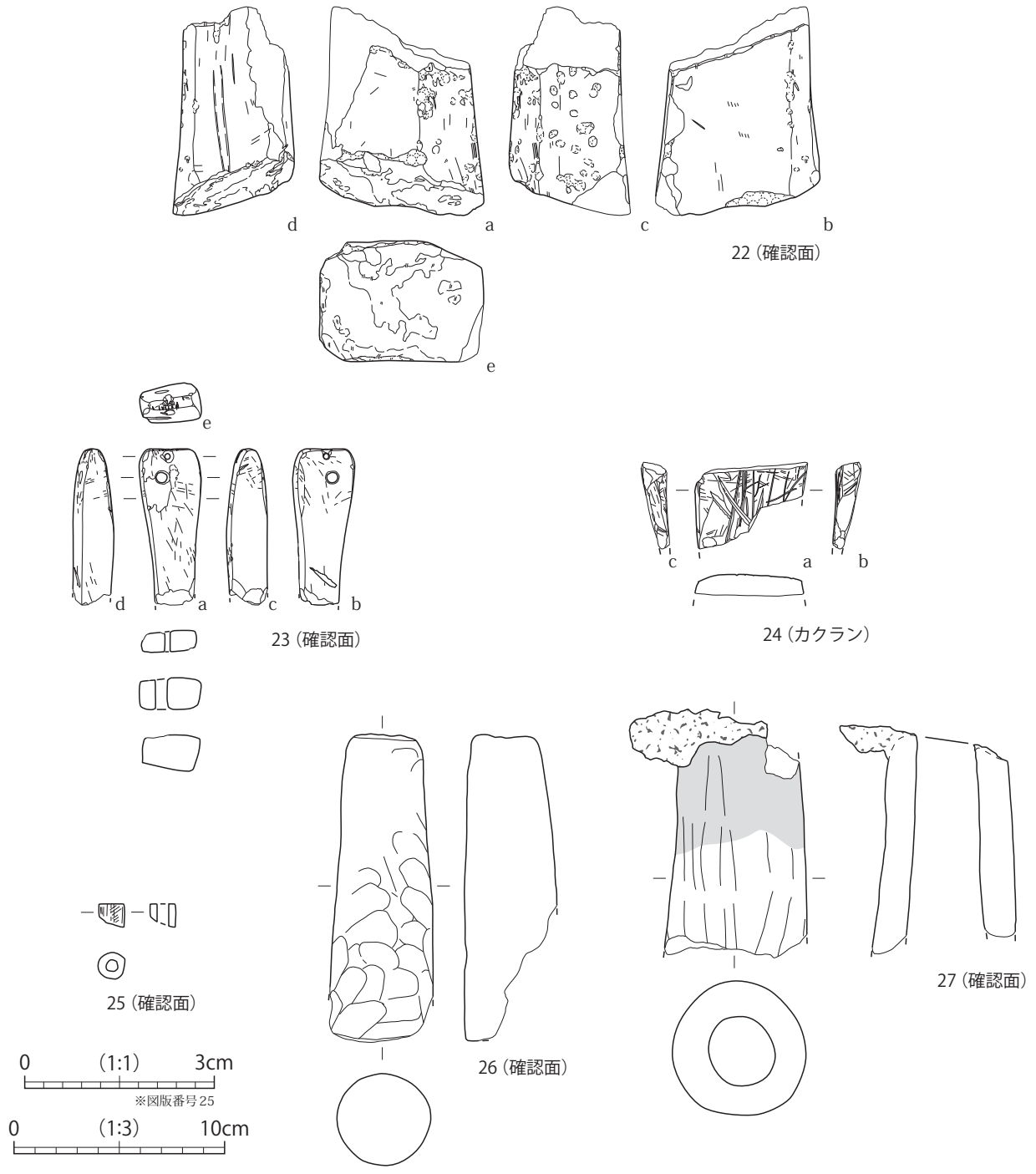
26は土製の支脚である。円柱状を呈し、全体をナデで粗く仕上げている。

27は羽口である。狭端部付近が被熱により変色しており、融解物が付着している。外面にはナデが施され、内面は芯棒を引き抜き後、未調整である。



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真 図版
						全長	幅	厚さ				
18	Kc-040	調査区	カクラン	礫石器	凹石	10.2	9.4	2.5	217.6	凝灰岩	凹2面(深・浅) 敲(平坦)	364
19	Kc-035	調査区北 中央	確認面	礫石器	凹+敲石	16.1	6.7	6.3	874.5	花崗岩	凹1面(深) 敲(平坦・側面)	364
20	Kc-042	調査区	確認面	礫石器	凹+敲石	9.1	6.7	2.6	127.4	細粒凝灰岩	凹2面(深) 敲(平坦) 溝状痕	364
21	Kc-037	調査区 中央南	確認面	礫石器	台石	(18.3)	(14.7)	3.4	866.2	黒雲母 流紋岩(●)	磨2面(平坦) 敲(平坦) 溝状痕 线条痕	365

第432図 遺構外出土遺物(3)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
22	Kd-050	調査区南中央南	確認面	石製品	砥石	9.9	7.7	5.7	589.6	砂岩	砥面7面 溝状痕(a・b・d面) 線条痕(a~e面) 敲打痕(a~e面) 端部欠損	365
23	Kd-052	調査区	確認面	石製品	砥石	7.4	5.2	1.7	59.4	片岩	砥面4面 溝状痕(c・e面) 線条痕(a~e面) 穿孔2ヶ所 片側穿孔 孔径0.3~0.6cm・0.5~0.7cm 端部欠損	365
24	Kd-055	調査区	カクラン	石製品	砥石	5.3	(4.1)	1.0	27.9	ホルンフェルス(●)	砥面3面 溝状痕(a~c面) 線条痕(a~c面) 裏面・端部欠損	365
25	Kd-053	調査区	確認面	石製品	小玉	0.4	0.4	0.4	0.2	緑色凝灰岩	片側穿孔 孔径0.2cm	365
26	P-043	調査区	確認面	土製品	支脚	(14.6)	4.9	4.4	318.4	埴		365
27	P-046	調査区	確認面	土製品	羽口	(11.7)	6.8	6.4	372.6		外面：埴 内面：芯棒引き抜き未調整 狭端部融解物付着あり 被熱による変色あり	365

第433図 遺構外出土遺物(4)

第3節 弥生時代以前の遺構と遺物(第434～476図)

(1) 弥生時代包含層調査の概要(第434～438図)

古墳時代～古代の遺構検出および遺構調査時に弥生土器や石器、石製品などが出土したため、周辺調査区と同様に弥生時代の遺構や遺物包含層の存在が想定されたことから、基本層IV層以下の調査を行った。なお古墳時代～古代の遺構は重複が著しく、また基本層IV・V層を削平しているため、基本層IV層が残存している地点を任意の調査区とし、便宜的に弥生A～E区と呼称した(第434図)。

遺物は各調査区から、弥生土器・打製石器・礫石器などコンテナ2箱程度が出土している。出土遺物はA区、D区中央南側、E区西側に集中しているが、調査区毎による時期差や組成に大きな違いは認められない。出土層位はいずれもIV層を中心とするが、本来は部分的に残存するV層に帰属するものと考えられ、別次調査においてもV層が弥生時代の遺物包含層と捉えられている。

このため、本報告では弥生時代の遺物のうちA～E区の出土遺物をIV・V層出土遺物として一括して記載し、合わせて古墳時代～古代の遺構堆積土出土遺物などを包含層外出土遺物として報告する。



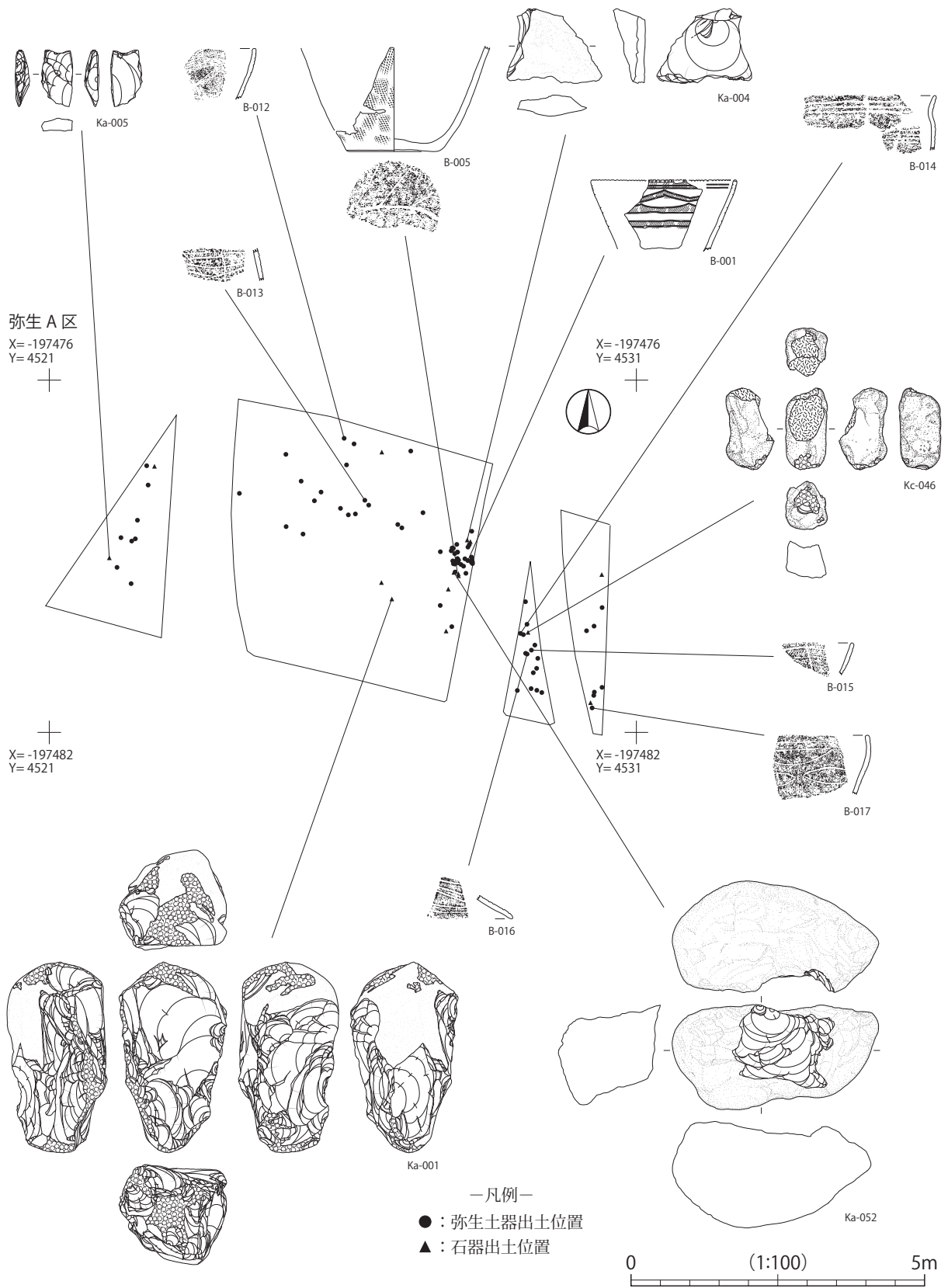
第434図 弥生時代調査区配置図

(2) IV・V層出土遺物(第439～445図)

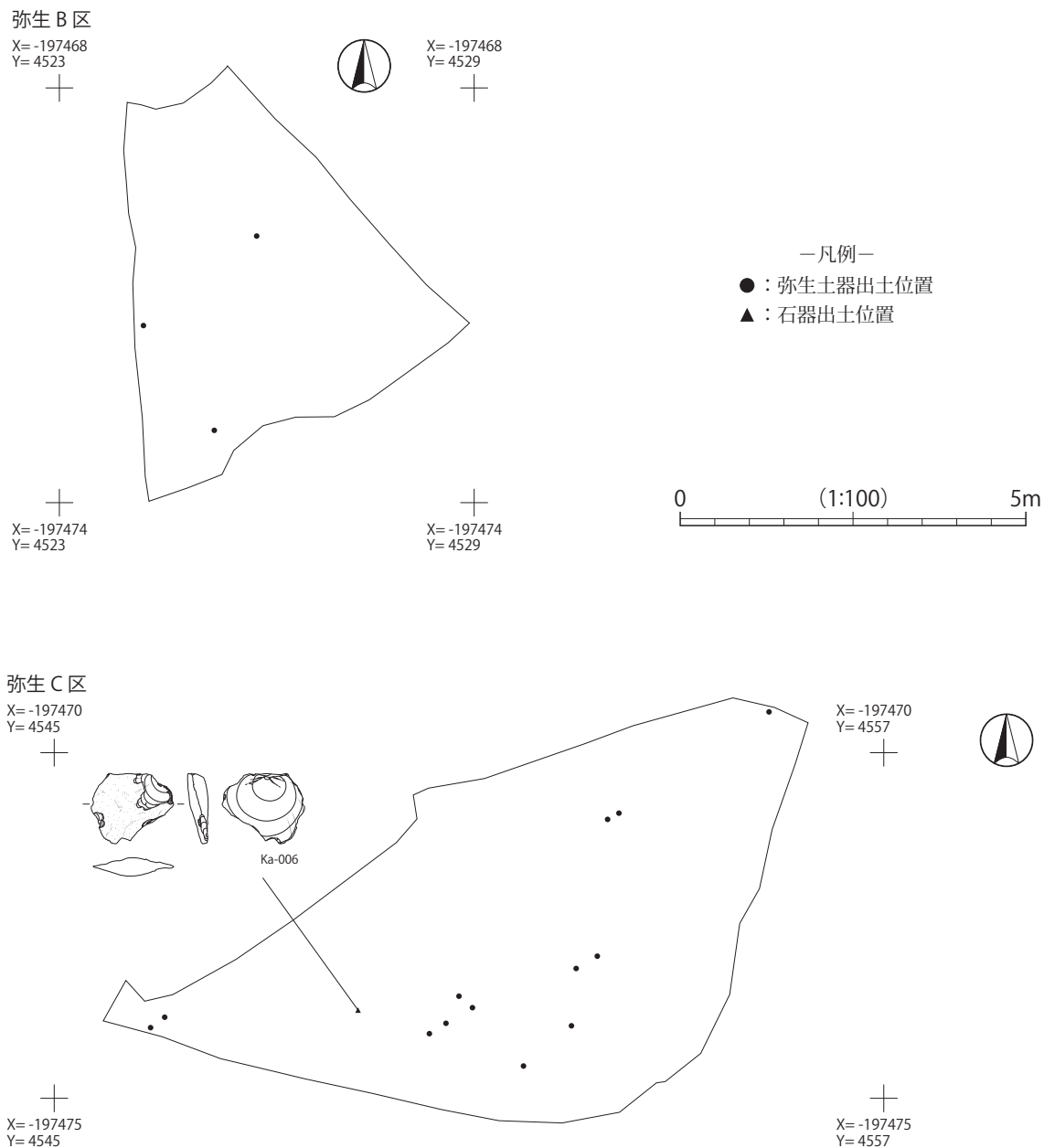
本層の出土遺物は弥生土器と石器類で、コンテナ2箱分出土した。弥生土器は壺・鉢・蓋・高坏・深鉢・甕の器種が認められ、特に甕の出土量が多い。いずれも弥生時代中期中葉に属するものと考えられる。

石器類は定形的な製品がほとんどみられず、剥片が主体である。これらには二次加工が施されているものも少量含まれる。

また、石核も3点出土したが、接合関係が確認されたものは1点のみであった。



第435図 弥生A区IV・V層遺物出土状況図



第436図 弥生B・C区 IV・V層遺物出土状況図

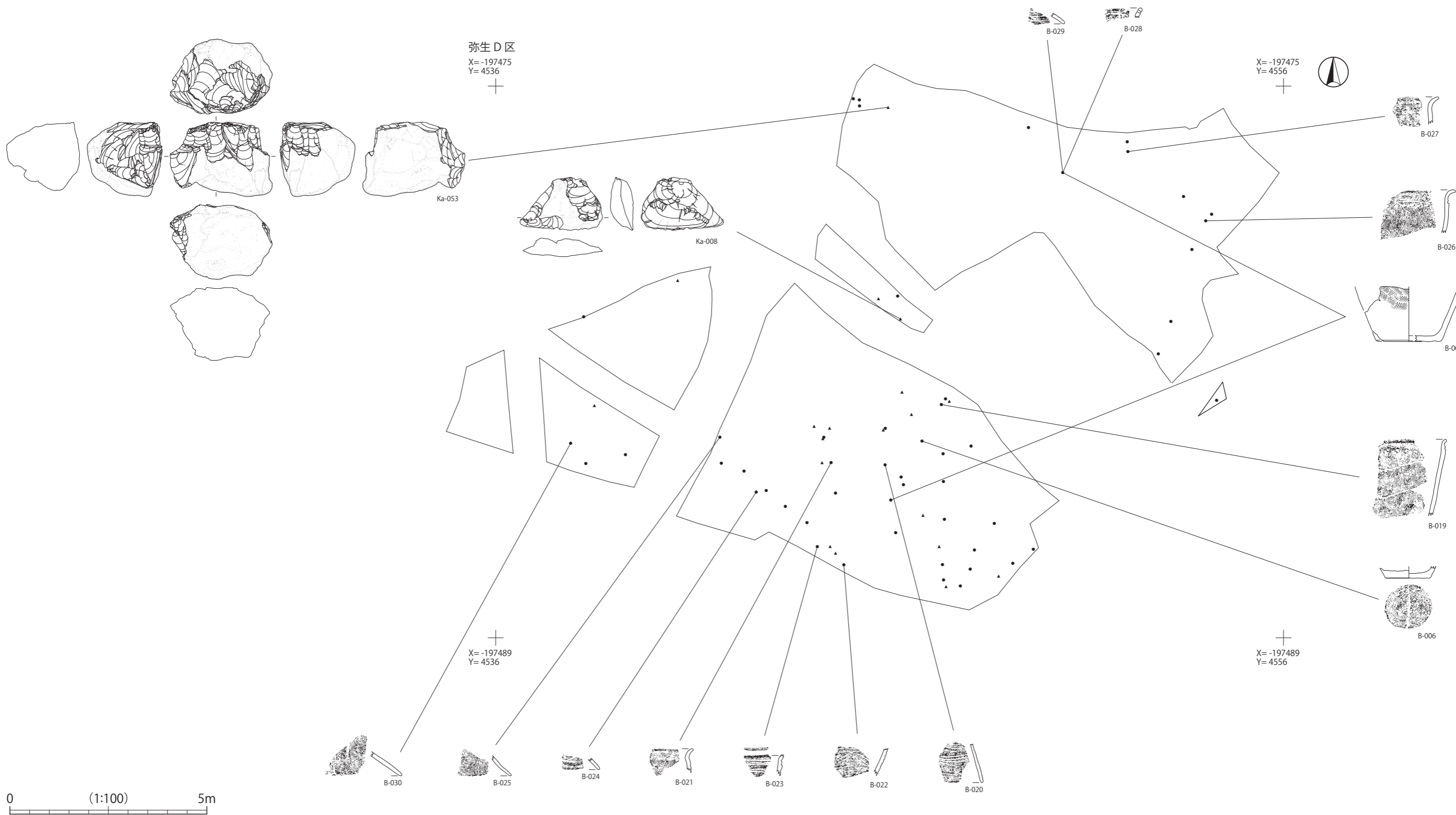
a. 弥生土器 (第439～442図)

基本層IV・V層から出土した弥生土器は、弥生時代中期中葉の榊形式(高田B式)～中在家南式を主体とし、壺5点、鉢9点、蓋7点、高坏4点、甕11点を掲載した(別器種の可能性があるものを含む)。いずれも破片で、器形を復元できる資料はない。以下、器種毎に詳細を記載する。

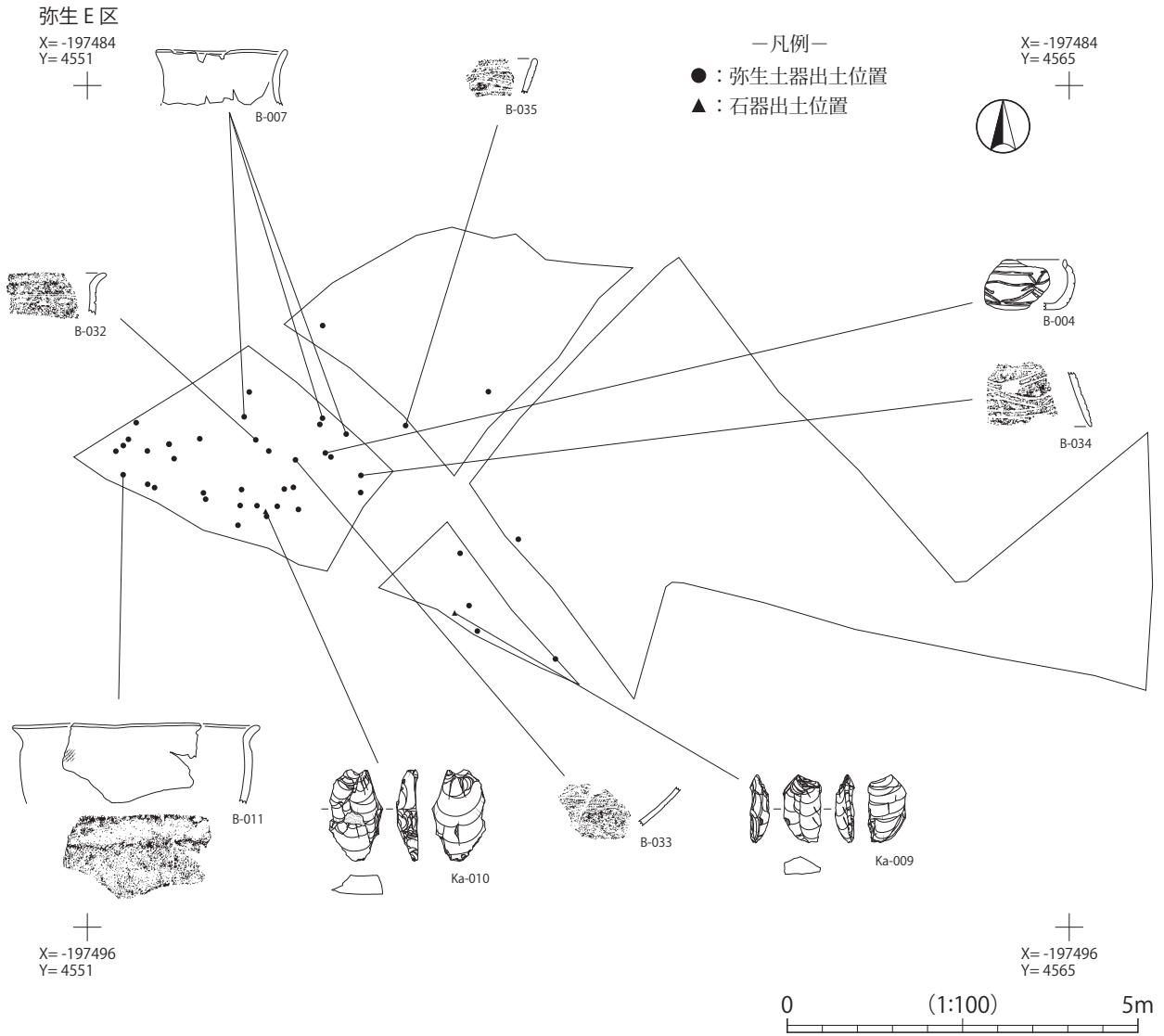
壺(第439図1～5)

1は器高4.3cmの小型品である。1の器形は、丸底状平底の底部から内湾しながら立ち上がり、口縁部と体部の境が屈曲して口縁部が短く直立する。2～5は頸部が直立気味に立ち上がるもので、口縁部が緩やかに外反するもの(2)、短く外傾するもの(3)、大きく外反するもの(4)がみられる。口縁部は平坦口縁のものが多いが、3は口唇部に緩やかな傾斜がみられるため、波状口縁または突起をもつと考えられる。

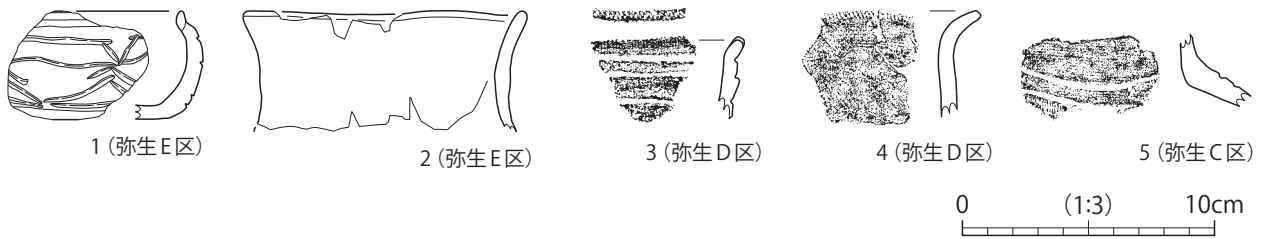
—凡例—
 ●：弥生土器出土位置
 ▲：石器出土位置



第437図 弥生D区IV・V層遺物出土状況図



第438図 弥生E区 IV・V層遺物出土状況図



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真 図版
1	B-004	弥生E区	IV・V層	弥生 土器	壺	口縁～ 底部	体部：ナナ→沈線(横位+斜位直線文)→無文部軽い ミガキ・ナナ	体上半：ナナ 体下半：横位ミガキ	器高4.3cm	366
2	B-007	弥生E区	IV・V層	弥生 土器	壺	口縁～ 頸部	口縁：ミガキ	ミガキ	口径(11.0)cm 内外面やや摩滅	366
3	B-023	弥生D区	IV・V層	弥生 土器	壺	口縁～ 頸部	口唇：LR 縄文横位回転 頸部：横位隆帯貼付→ヨコナデ→沈線(横位直線文)	ヨコナデ→口縁上端ミガキ	口縁部突起	366
4	B-027	弥生D区	IV・V層	弥生 土器	壺	口縁～ 頸部	口唇：植物茎回転文 口縁：ヨコナデ 頸部：斜位ミガキ	横位ミガキ		366
5	B-018	弥生C区	IV・V層	弥生 土器	壺	頸部～ 体上端	頸部：ミガキ 体部：植物茎回転文→沈線(横位直線文)→無文部 ミガキ(磨消)	軽い横位ミガキ		366

第439図 IV・V層出土弥生土器(1)

装飾文様は1本引き沈線で施文されている。1は体部上半に台形、下半に三角形の文様が施されている。2～5は、口縁部に地文が施文されているもの(3・4)、頸～体部上端に平行沈線が施文されているものがある(3・5)。沈線幅はいずれも2.0mm前後で、断面形はU字形とV字形がある。また、横位隆帯が3の頸部に貼り付けられている。内面にはナデやミガキが施されている。

地文は単節LR縄文、植物茎回転文がみられる。これらのうち、地文を施した後に沈線を施文し、平行沈線間が磨消されているもの(5)がある。

鉢(第440図6～14)

器形は、体部から口縁部に向かって緩やかに内湾しながら立ち上がるもの(6・7・13)、体部が外反気味に立ち上がり口縁部でやや内湾しながら開くもの(8)、直線的に外傾するもの(9～11・14)、口縁部と体部の境で屈曲して口縁部が短く外傾するもの(12)がある。口縁部はいずれも平坦口縁である。また、焼成前に外側から穿孔されているもの(8・9・12)がある。

装飾文様は口縁～体部上半に1本引き沈線で施文されている。連続山形文が施文されているもの(6～11・13)がほとんどで、これらは斜線2条を一組とするもの(7・9・11)、1条の斜線・弧線を組み合わせて複線化するもの(6)、3条を一組とするもの(8)がある。文様の交点には1条の垂線が施文されているもの(8)もみられる。11は施文が粗雑で、交点に隙間がみられる。沈線幅は1.5～2.0mm前後のものが多いが、6・9は1.0mm前後と細い。沈線断面形はU字形とV字形がある。内面にはヨコナデやミガキが施され、口縁部に1条または2条の横位直線文が施文されているもの(6・8・9)がある。

地文は単節LR縄文、植物茎回転文がみられる。これらのうち、地文を施した後に沈線を施文し、区画外が磨消されているもの(6・7)と、沈線施文後、地文が区画内に充填されているもの(11・13)がある。底面には木葉痕(14)が認められる。

蓋(第440図15～21)

天井部にはツマミが付くものがあり、その形態は低いツマミ(15)と台形(16)がみられる。

体部から口縁部は、直線的に開くもの(17～19)と口縁部付近がわずかに屈曲して内湾気味に開くもの(20・21)がある。

装飾文様は体部下半～口縁部に1本引き沈線で施文され、連続山形文・平行沈線が施文されている。沈線幅は1.5mm前後で、断面形はU字形を呈する。内面にはミガキが施されている。

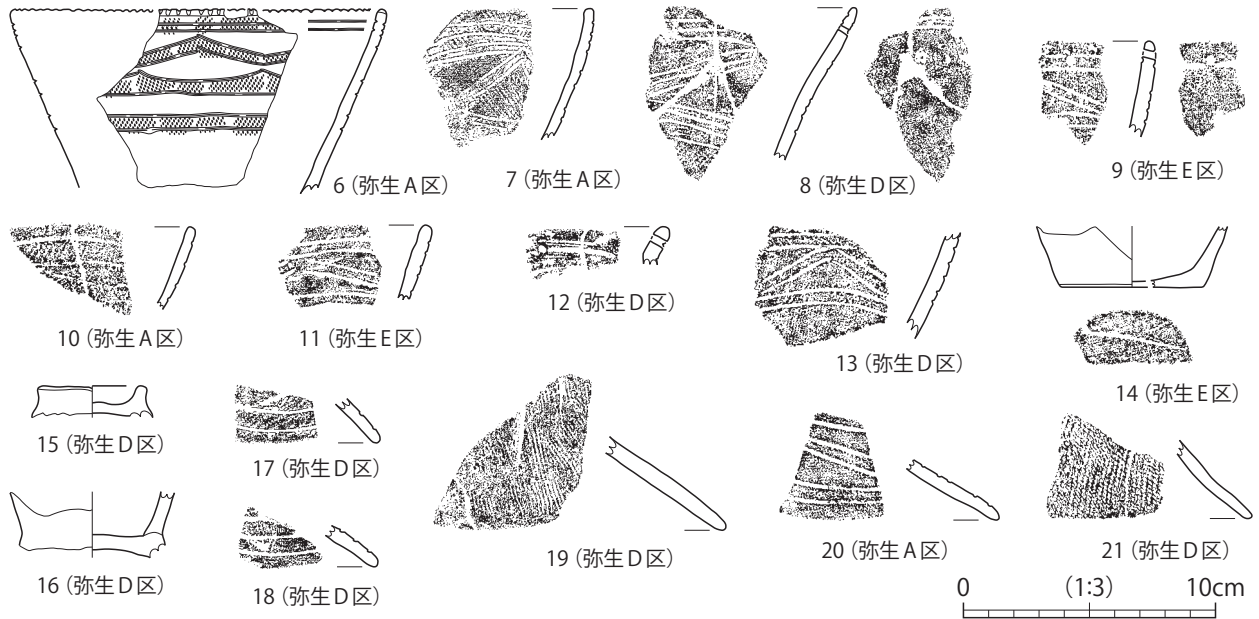
地文は単節LR縄文、植物茎回転文がみられる。20は摩滅のため地文の有無が不明だが、地文を施した後に沈線を施文し、口縁部が磨消されているもの(17・18)がある。

高坏(第441図22～25)

体部の器形は直線的に開くもの(22)、脚部は直線的に外傾するもの(23～25)がある。

装飾文様は体部上半または脚部に1本引き沈線で連続山形文が施文されている。これらは1条の斜線・弧線を組み合わせて複線化するもの(23・24)、斜線3条を一組とするもの(25)がある。いずれも沈線幅は1.5mm前後で、断面形はU字形を呈する。内面にはナデやミガキが施されている。

地文は単節LR縄文、植物茎回転文がみられる。これらのうち、地文を施した後に沈線を施文し、区画外が磨消されるもの(22・24)と、沈線施文後、地文が区画内に充填されるもの(23)がある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真 図版
6	B-001	弥生A区	IV・V層	弥生 土器	鉢	口縁～ 体部	口唇：刻目 口縁：LR縄文横位回転文→沈線(横位直線文) 体部：LR縄文横位回転文→沈線(連続山形文)→無文部ミガキ(磨消)	口縁：沈線(横位直線文) ミガキ	口径(14.6)cm	366
7	B-012	弥生A区	IV・V層	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文)→無文部ミガキ(磨消) 体部：植物茎回転文→沈線(連続山形文)→無文部ミガキ(磨消)	横位ミガキ		366
8	B-031	弥生D区	IV・V層	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文) 体上半：疋→沈線(連続山形文)→無文部ミガキ 体下半：LR縄文横位回転	口縁：沈線(横位直線文) 体部：横位・斜位ミガキ	口縁部焼成前穿孔 孔径(0.3)cm 1本引き沈線3本一組 内外面や摩滅	366
9	B-036	弥生E区	IV・V層	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文) 体部：沈線(連続山形文)	口縁：沈線(横位直線文)	口縁部焼成前穿孔 孔径(0.3)cm 内外面摩滅	366
10	B-015	弥生A区	IV・V層	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：LR縄文横位回転→沈線(横位直線文) 体部：LR縄文横位回転→沈線(連続山形文)	不明	内外面摩滅	366
11	B-035	弥生E区	IV・V層	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁～体部：沈線(連続山形文・横位直線文) →植物茎回転文(充填)→沈線→無文部ミガキ	ヨコ疋→軽いミガキ	外面やや摩滅	366
12	B-028	弥生D区	IV・V層	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上端	口縁～体部：横位ハケ状工具痕→沈線(横位直線文)	横位ミガキ	口縁部焼成前穿孔 孔径0.3cm	366
13	B-022	弥生D区	IV・V層	弥生 土器	鉢	体上半	体部：沈線(連続山形文・横位直線文)→LR縄文(充填) →沈線→無文部ミガキ	横位ミガキ		366
14	B-008	弥生E区	IV・V層	弥生 土器	鉢	体下半 ～底部	体部：不明 底面：木葉痕	不明	底径(5.6)cm 内外面摩滅	366
15	B-010	弥生D区	IV・V層	弥生 土器	蓋	ツマミ ～ 体上端	天井：疋 ツマミ～体上端：疋	ミガキ	ツマミ部径(4.2)cm	366
16	B-009	弥生D区	IV・V層	弥生 土器	蓋	ツマミ ～ 体上端	天井：疋 ツマミ～体上端：疋	疋か		366
17	B-024	弥生D区	IV・V層	弥生 土器	蓋	体下半 ～口縁	口縁：LR縄文横位回転→沈線(横位直線文) →無文部軽いミガキ(磨消)	斜位ミガキ		366
18	B-029	弥生D区	IV・V層	弥生 土器	蓋	体下半 ～口縁	体部～口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文) →無文部軽いミガキ(磨消)	体部：斜位ミガキ 口縁：横位ミガキ		366
19	B-030	弥生D区	IV・V層	弥生 土器	蓋	体下半 ～口縁	体部～口縁：植物茎回転文	ミガキ	外面口縁～内面炭化物付着	366
20	B-016	弥生A区	IV・V層	弥生 土器	蓋	体下半 ～口縁	体部：沈線(連続山形文) 口縁部：沈線(横位直線文)	不明	内外面摩滅	366
21	B-025	弥生D区	IV・V層	弥生 土器	蓋	体下半 ～口縁	口縁～体部：LR縄文横位回転	ミガキ		366

第440図 IV・V層出土弥生土器(2)

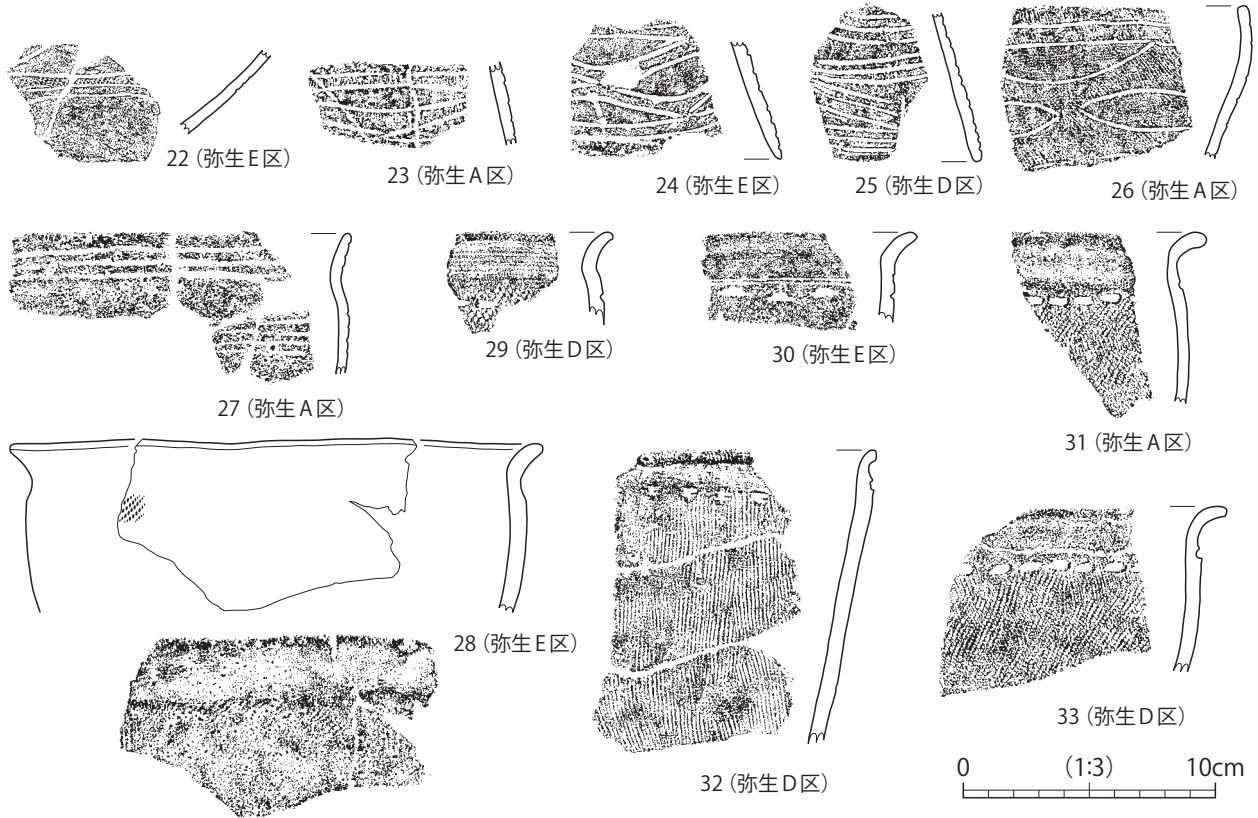
甕(第441・442図26～36)

器形は、大きく分けて①体部から口縁部が内湾しながら立ち上がり、口縁端部まで至るもの、②口縁部と体部の境が屈曲し、口縁部が外傾しながら立ち上がるもの、③内湾しながら立ち上がる体部から口縁部が外反するものがある。口縁部はいずれも平坦口縁である。

①は1点(26)で、装飾文様は口縁～体部上半に1本引き沈線でレンズ形文が施文される。

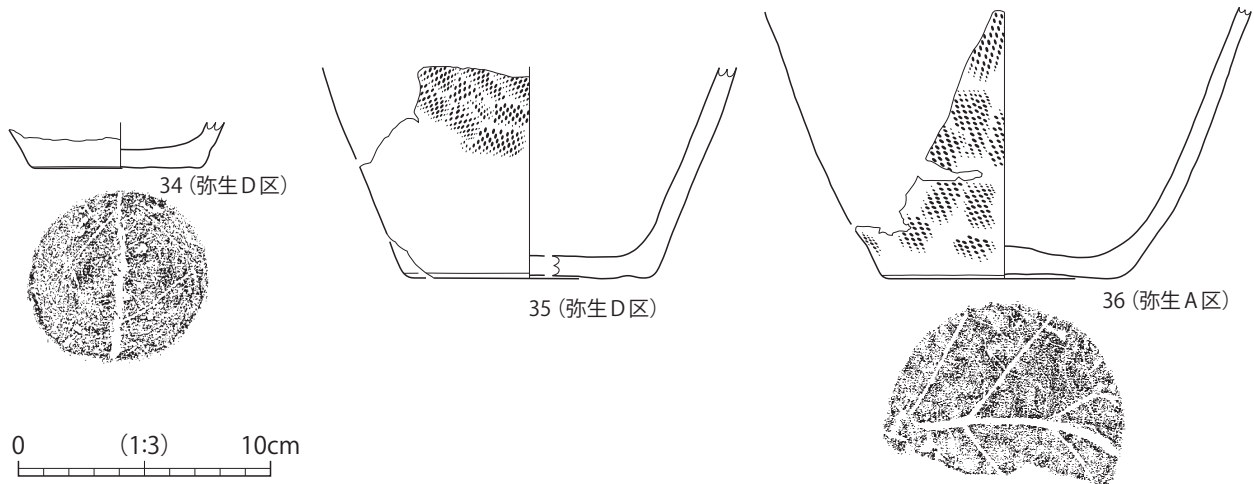
②は1点(27)で、装飾文様は口縁部と体部上半に1本引き沈線で平行沈線が施文され、屈曲部は無文帯になる。ともに沈線幅は1.5mm前後で、断面形はU字形を呈する。内面にはミガキが施されている。

26の地文は植物茎回転文がみられるが、27は摩滅のため不明である。地文を施した後に沈線を施文し、区画内が磨消されるもの(26)がある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真 図版
22	B-033	弥生E区	IV・V層	弥生土器	高環	体部	体部: LR縄文横位回転→沈線(連続山形文) →無文部ミガキ(磨消)	ミガキ	下描き沈線残存 内面やや摩滅	366
23	B-013	弥生A区	IV・V層	弥生土器	高環	脚部	脚部: ㄠ →沈線(連続山形文)→植物茎回転文(充填) →沈線 →無文部軽いミガキ	縦位ミガキ		366
24	B-034	弥生E区	IV・V層	弥生土器	高環	脚部	裾部: LR縄文横位回転→沈線(横位直線文)→無文部ミガキ(磨消) 脚部: LR縄文横位回転→沈線(連続山形文)→無文部ミガキ(磨消)	裾部: ヲㄠ 脚部: ㄠ		366
25	B-020	弥生D区	IV・V層	弥生土器	高環	脚部	脚部: ㄠ →沈線(連続山形文)	ㄠ	1本引き沈線3本一組	366
26	B-017	弥生A区	IV・V層	弥生土器	甕	口縁～ 体上半	口縁: 植物茎回転文→沈線(横位直線文) 体部: 植物茎回転文→沈線(レンズ形文)→無文部ミガキ(磨消)	口縁: 横位ミガキ 体部: 斜位ミガキ	外面口縁～内面炭化物付着	366
27	B-014	弥生A区	IV・V層	弥生土器	甕	口縁～ 体上半	口縁～体上端: 沈線(横位直線文)	不明	内外面摩滅	366
28	B-011	弥生E区	IV・V層	弥生土器	甕	口縁～ 体上半	口縁: ヲㄠ 体部: LR縄文横位回転	口縁～体部: 横位ミガキ	口径(21.2cm) 外面摩滅	366
29	B-021	弥生D区	IV・V層	弥生土器	甕	口縁～ 体上半	口唇: LR縄文横位回転 口縁: ヲㄠ 体上端: 列点刺突(角・右→左) 体部: LR縄文横位回転→ミガキ	口縁: ヲㄠ →一部ミガキ 体部: 横位ミガキ		366
30	B-032	弥生E区	IV・V層	弥生土器	甕	口縁～ 体上半	口唇: 不明 口縁: ヲㄠ 体上端: 沈線(横位直線文)、列点刺突(角・右→左) 体部: 植物茎回転文か	口縁～体部: 横位ミガキ	内外面摩滅	366
31	B-002	弥生A区	IV・V層	弥生土器	甕	口縁～ 体上半	口縁: ヲㄠ 体上端: 列点刺突(角・左→右) 体部: LR縄文横位回転、一部ハケ状工具痕	口縁～体部: 横位ミガキ		366
32	B-019	弥生D区	IV・V層	弥生土器	甕	口縁～ 体部	口唇: 植物茎回転文 口縁: ヲㄠ 体上端: 列点刺突(半截竹管・右→左) 体部: 植物茎回転文	口縁～体部: ㄠ		366
33	B-026	弥生D区	IV・V層	弥生土器	甕	口縁～ 体上半	口縁: ヲㄠ 体上端: 列点刺突(円形・左→右) 体部: LR縄文横位回転→一部ハケ状工具痕	口縁～体部: 横位ミガキ		366

第441図 IV・V層出土弥生土器(3)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真 図版
34	B-006	弥生D区	IV・V層	弥生土器	甕	体下端～底部	体部：ケスリ→軽いミガキ 底面：木葉痕	ナ	底径6.5cm	366
35	B-003	弥生D区	IV・V層	弥生土器	甕	体下半～底部	体部：LR縄文横位+斜位回転 底面：軽いミガキ	体下端：軽いミガキ 口縁～体部：軽いミガキ	底径(10.0)cm	367
36	B-005	弥生A区	IV・V層	弥生土器	甕	体下半～底部	体部：LR縄文縦位+斜位回転 底面：木葉痕	体下端：ナ 横位ミガキ	底径(9.2)cm	367

第442図 IV・V層出土弥生土器(4)

③は6点(28～33)で、口縁部と体部の境にくびれをもつものが多い。

口縁部はヨコナデが施され、口唇部に地文がみられるもの(29・32)がある。装飾文様は、体部上端に列点刺突と平行沈線がみられるが、列点刺突(29～33)が圧倒的に多い。刺突の方向は左右の別があり、先端が角・円形の棒状工具で施文されているものと半截竹管が用いられているもの(32)がある。また、半截竹管で平行沈線が施文されているものもある(30)。内面にはナデやミガキが施されている。

地文は単節LR縄文・植物茎回転文がみられる。底面には木葉痕(34・36)がみられる。

b. 石器(第443～445図)

打製石器は削器1点、二次加工のある剥片7点、石核2点、礫石器は敲石1点、凹石1点を掲載した。石核のうち接合関係が確認できた1点については、「接合資料1」として第471図に掲載した。打製石器は図化できなかった資料を含め、大小剥片が大部分を占める。これらの出土状況は散在的で、石器製作ブロックのような一定の集中範囲は確認できなかった。石材は流紋岩が主体で、わずかに珪質頁岩や頁岩、凝灰岩などが認められた。

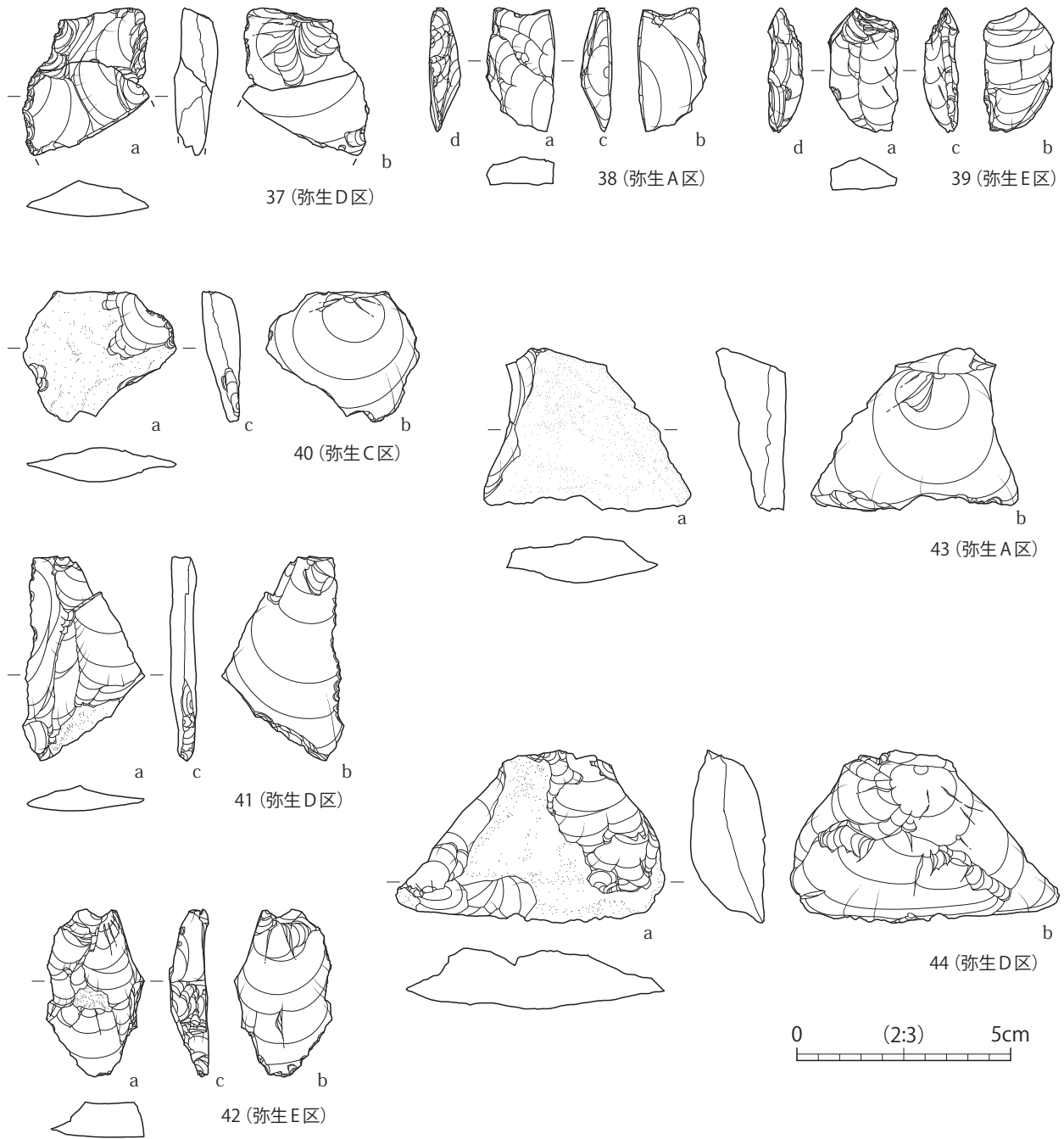
1) 打製石器

削器(第443図)

37は削器である。a面の側縁部に二次加工が施されている。下端部が欠損している。石材は流紋岩である。

二次加工のある剥片(第443図)

38～44は二次加工のある剥片である。38はa面の側縁の一部に二次加工が施されている。39はa・b面の側縁の一部に二次加工が施されている。40は、自然面を残すa面の側縁の一部に二次加工が施されている。41はb面の下縁から右縁部にかけて二次加工が施されている。a面の一部に自然面を残す。42はa・b面の下縁部に二次加工が施されている。a面の中央部に一部自然面を残す。43はb面の下縁に二次加工が施されている。a面に自然面を残す。44は自然面を残すa面の側縁部に二次加工が施されている。石材は41が珪質頁岩で、それ以外は流紋岩である。

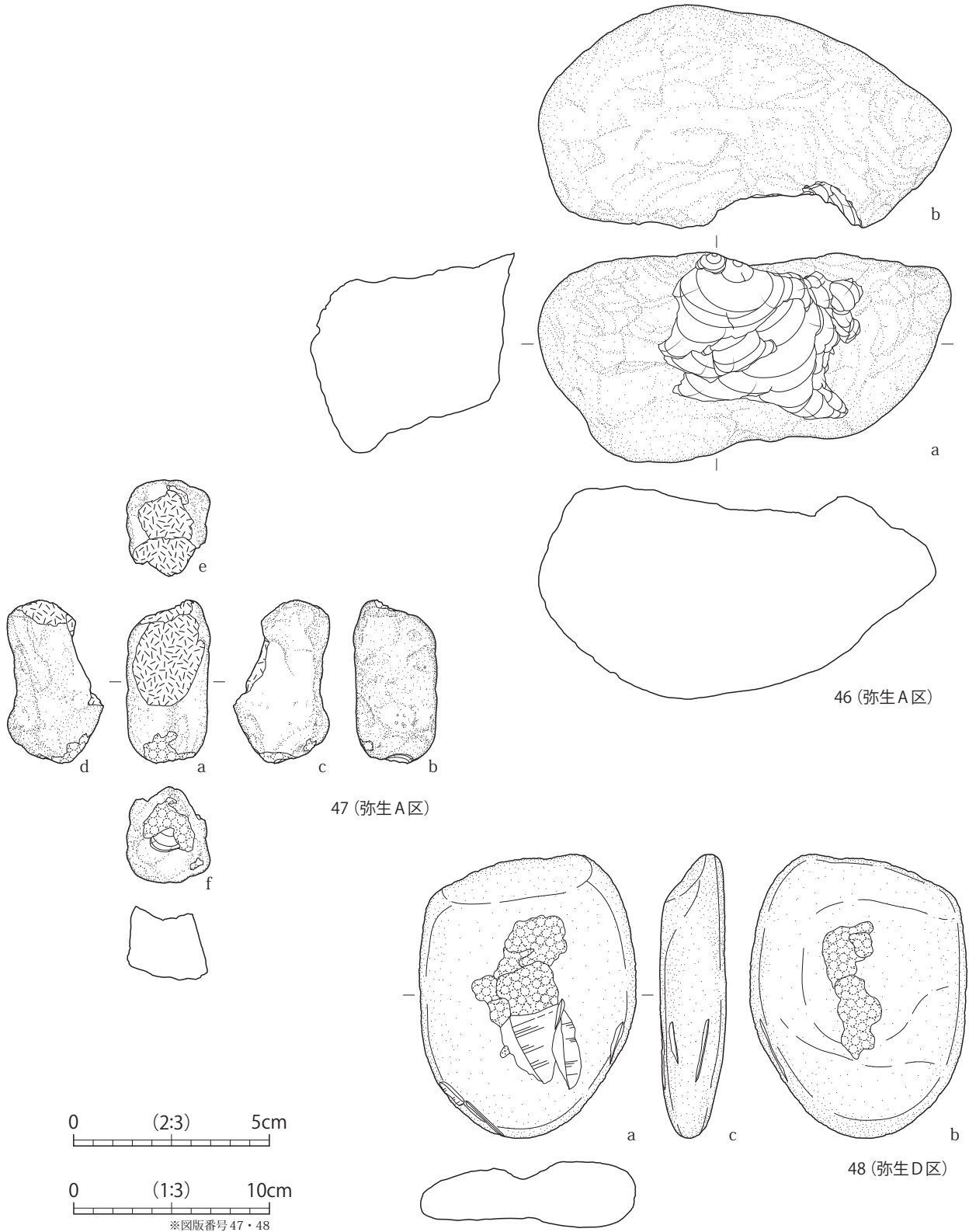


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
37	Ka-003	弥生D区	IV・V層	打製石器	削器	3.5	3.0	1.0	8.6	流紋岩	下端部欠損 二次加工(a面)	367
38	Ka-005	弥生A区	IV・V層	打製石器	二次加工のある剥片	2.9	1.6	0.7	3.3	流紋岩	二次加工(a面)	367
39	Ka-009	弥生E区	IV・V層	打製石器	二次加工のある剥片	2.9	1.6	0.8	3.3	流紋岩	二次加工(a・b面)	367
40	Ka-006	弥生C区	IV・V層	打製石器	二次加工のある剥片	3.6	3.0	0.8	7.3	流紋岩	二次加工(a面) 自然面あり	367
41	Ka-007	弥生D区	IV・V層	打製石器	二次加工のある剥片	4.8	2.9	0.6	6.6	珪質頁岩(●)	二次加工(b面) 自然面あり	367
42	Ka-010	弥生E区	IV・V層	打製石器	二次加工のある剥片	3.9	2.3	0.9	7.0	流紋岩	二次加工(a・b面) 自然面あり	367
43	Ka-004	弥生A区	IV・V層	打製石器	二次加工のある剥片	3.8	4.8	1.6	16.7	流紋岩	二次加工(b面) 自然面あり	367
44	Ka-008	弥生D区	IV・V層	打製石器	二次加工のある剥片	6.3	4.0	1.7	34.7	流紋岩	二次加工(a面) 自然面あり	367

第443図 IV・V層出土石器(1)



第444図 IV・V層出土石器(2)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
46	Ka-052	彌生A区	IV・V層	打製石器	石核	10.6	5.7	5.4	342.5	流紋岩	礫素材 打面転移あり 自然面あり	368
47	Kc-046	彌生A区	IV・V層	礫石器	敲石	8.3	4.9	4.3	178.7	流紋岩	敲(先端・側面) 火の痕あり	368
48	Kc-033	彌生D区	IV・V層	礫石器	凹+敲石	14.5	11.1	3.4	436.0	凝灰岩	凹二面(深・浅) 敲(平坦) 溝状痕	368

第445図 IV・V層出土石器(3)

石核(第444・445図)

45・46は石核である。45は打面転移させながら剥離作業を行っている。a面では打面をある程度固定して同じ方向に剥離作業をくり返している。下面(f面)に自然面を残す。46は礫を素材とし、a面の中央部のみで剥離作業を行っており、作業回数は少ない。このためa面から下面にかけて自然面を残す。石材は45・46ともに流紋岩である。

2) 礫石器

敲石(第445図)

47・48は敲石である。47は小型の礫を素材とし、下面(f面)に敲打痕がみられる。またa・e面に火ハネ痕が観察される。48は扁平な円礫を素材とし、a・b面の中央部に敲打痕がみられ凹部も観察される。a面と側面(c面)に溝状痕がみられる。石材は47が流紋岩、48が凝灰岩である。

(3) 包含層外出土遺物(第446～470図)

遺構確認時や攪乱および遺構堆積土中から出土した弥生時代の遺物を、包含層外の出土遺物として扱う。遺物は基本層V層と同様に弥生土器と石器類があり、コンテナ6箱分が出土した。弥生土器は壺・鉢・蓋・高坏・深鉢・甕の器種が認められ、特に鉢・甕の出土頻度が高い。石器類は打製石器を中心に磨製石器、礫石器、石製品が出土した。打製石器には石鏃・石錐といった製品のほか、接合資料も6点確認した。石庖丁2点、独鈷石1点の出土は特筆される。

a. 弥生土器(第446～458図)

壺18点、鉢41点(蓋の可能性のあるものを1点含む)、蓋27点(鉢の可能性のあるものを2点含む)、高坏12点、深鉢1点、甕61点を掲載した。破片もしくは一部の部位が残存する資料が多いが、第448図19・20の鉢や第451図60の蓋、第453図87の高坏坏部など、ある程度器形がわかる資料も少量ある。出土した弥生土器はいずれも基本層V層からの流れ込みとみられ、器形や文様の特徴からも大半が弥生時代中期中葉・榊形式(高田B式)～中在家南式期に属するものと考えられる。

壺(第446・447図1～18)

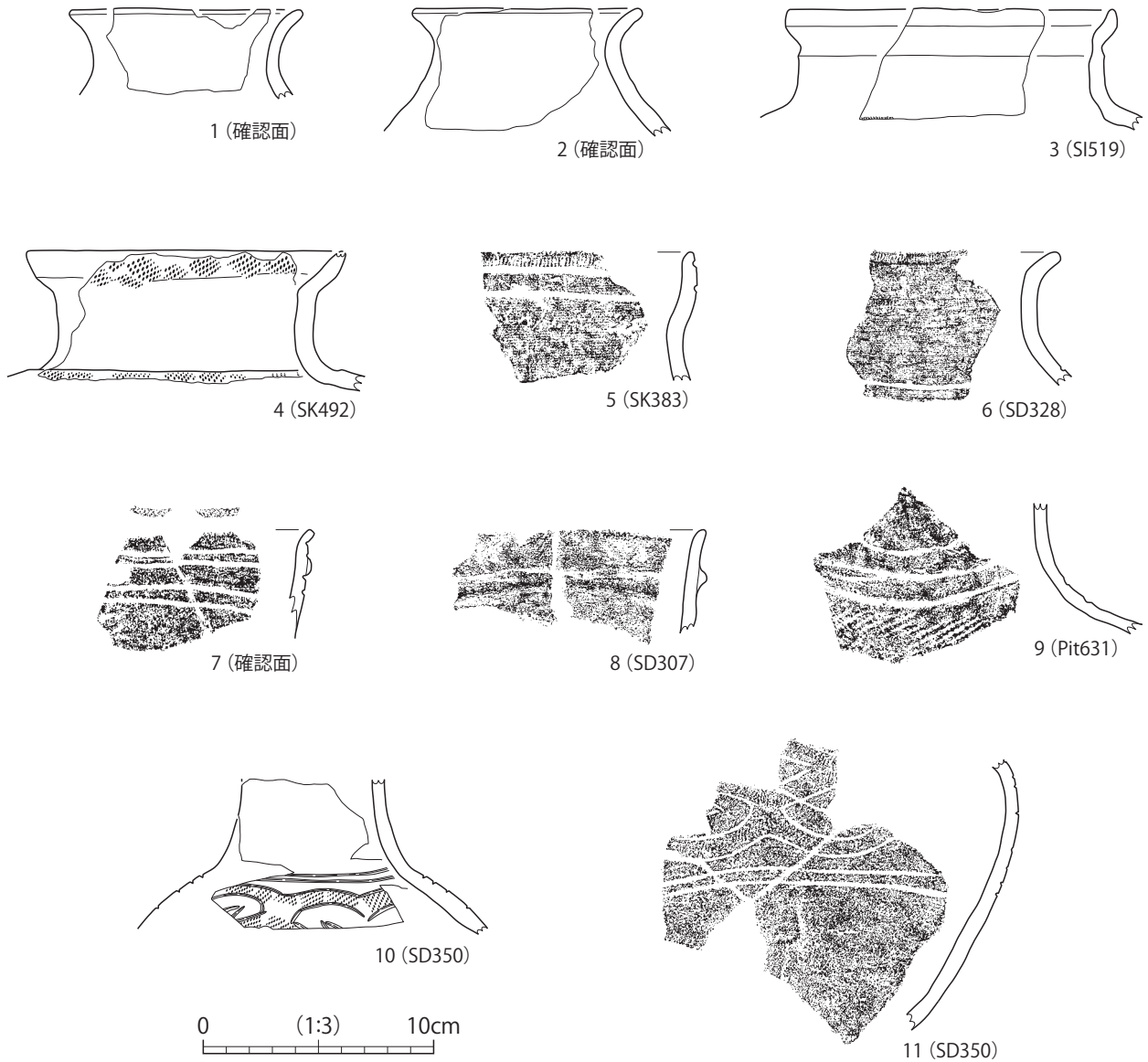
壺は18点掲載した。いずれも破片で、器形全体を復元できる資料はない。10・11は同一個体である。

口縁～頸部の器形は、頸部から口縁部が外反し、口縁端部まで至るもの(1)、内傾する体部から口縁部が外反するもの(2)、頸部が直立しながら立ち上がるもの(3～10)がある。頸部が直立するものは、口縁部が受け口状に開くもの(3～5)、短く外傾するもの(6・7)、直立したまま口縁端部まで至るもの(8)がみられる。口縁部はいずれも平坦口縁である。

体部は、肩が張り体部上半に最大径をもつと考えられるもの(3・4・9・10・11)、肩がなだらかで体部中位に最大径をもつと考えられるもの(2)がある。

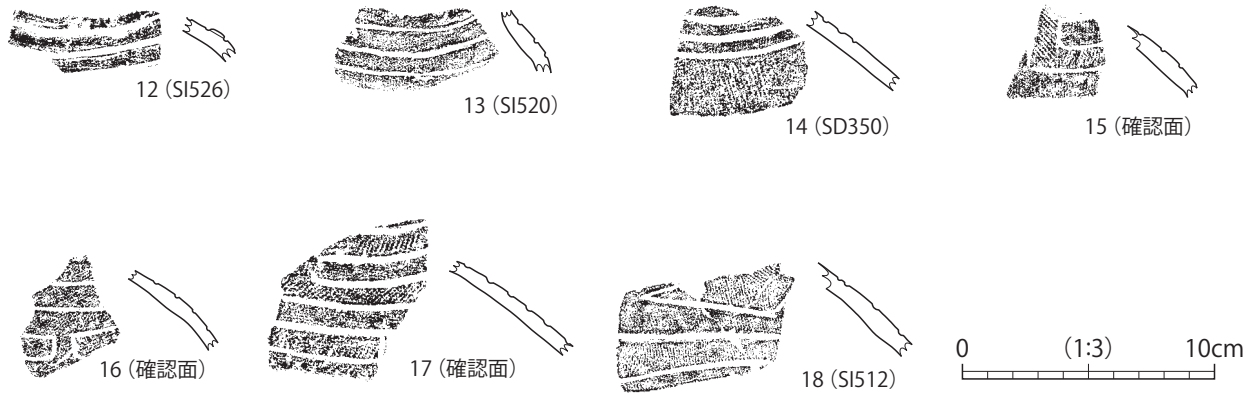
装飾文様は口縁部～体部上半に1本引き沈線で錨形文・四角形文・幾何学文・平行沈線が施文されている。沈線幅は1.5～2.0mm程度が多いが、5・7・9・12・17は2.5mm以上と太い。沈線断面形はU字形とV字形がある。また、横位隆帯が7・8の頸部、12の体部上半に貼り付けられている。内面にはナデやミガキ、ユビオサエが施されている。

地文は単節LR縄文、植物茎回転文がみられる。これらのうち、沈線施文後、地文が区画内に充填されているもの(10・11・15～18)がある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真図版
1	B-192	調査区	確認面	弥生土器	壺	口縁～頸部	口縁～頸部：ミガキ	不明	口径(10.0)cm 内外面摩滅	368
2	B-158	調査区	確認面	弥生土器	壺	口縁～体上端	口縁：ヨジテ→ミガキ 体部：横位ミガキ	口縁：ヨジテ→ミガキ 体部：横位ミガキ	口径(10.0)cm	368
3	B-187	SI519	堆積土	弥生土器	壺	口縁～体上端	口縁：ヨジテ 頸部：横位ミガキ 体部：植物茎回転文	不明	口径(14.2)cm 内面剥離・摩滅	368
4	B-143	SK492	堆積土	弥生土器	壺	口縁～体上端	口縁：LR縄文斜位回転 頸部：横位ミガキ 体部：LR縄文横位回転	横位ミガキ	口径(13.6)cm	368
5	B-142	SK383	堆積土	弥生土器	壺	口縁～頸部	口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文)→軽いミガキ 頸部：横位ミガキ	横位ミガキ		368
6	B-131	SD328	堆積土	弥生土器	壺	口縁～体上端	口唇：植物茎回転文 口縁：横位ミガキ 体上端：沈線(横位直線文)→横位ミガキ	横位ミガキ		368
7	B-170	調査区	確認面	弥生土器	壺	口縁～頸部	口唇：LR縄文横位回転 頸部：横位隆帯貼付+沈線(横位直線文)	不明	内外面摩滅	368
8	B-110	SD307	堆積土	弥生土器	壺	口縁～頸部	口縁：ヨジテ→横位隆帯(断面三角形)貼付→テ→一部ミガキ	不明	内面摩滅	368
9	B-155	Pit631	堆積土	弥生土器	壺	頸部～体上端	頸部：ミガキ 体上端：沈線(横位直線文) 体部：LR縄文横位回転	頸部：ミガキ 体部：テ		368
10	B-134	SD350	堆積土	弥生土器	壺	頸部～体上半	頸部：ミガキ 体部：沈線(横位+斜位直線文+孤線文+錨形文) →LR縄文(充填)→沈線→無文部ミガキ	北' 杯江・テ	B-133と同一個体 内外面や摩滅	368
11	B-133	SD350	堆積土	弥生土器	壺	体部	体上半：沈線(錨形文)→LR縄文(充填)→沈線→無文部ミガキ 体下半：ミガキ	不明	B-134と同一個体 外面や摩滅 内面摩滅	368

第446図 包含層外出土弥生土器(1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考	写真図版
12	B-092	SI526	掘り方	弥生土器	壺	体上半	体部：横位隆帯貼付→沈線(横位直線文)→ナ	ナ		368
13	B-074	SI520	堆積土	弥生土器	壺	体上半	体部：ナ→沈線(横位直線文)	軽い横位ミガキ		368
14	B-135	SD350	堆積土	弥生土器	壺	体上半	体部：植物茎回転文→沈線(横位直線文)	ミガキ	外面やや摩滅	368
15	B-157	調査区中央南	確認面	弥生土器	壺	体上半	体部：沈線(四角形文)→LR縄文(充填)→沈線→無文部ナ	ナ→ミガキ		368
16	B-173	調査区西	確認面	弥生土器	壺	体上半	体部：ナ→沈線(四角形文)→LR縄文(充填)	軽いミガキ		369
17	B-169	調査区	確認面	弥生土器	壺	体上半	体部：ナ→沈線(四角形文)→LR縄文(充填)→無文部ナ	ナ	内外面摩滅	369
18	B-064	SI512	堆積土	弥生土器	壺	体上半	体部：沈線(幾何学文)→植物茎回転文(充填)→沈線→無文部ミガキ	ナ		369

第447図 包含層外出土弥生土器(2)

鉢(第448～450図19～59)

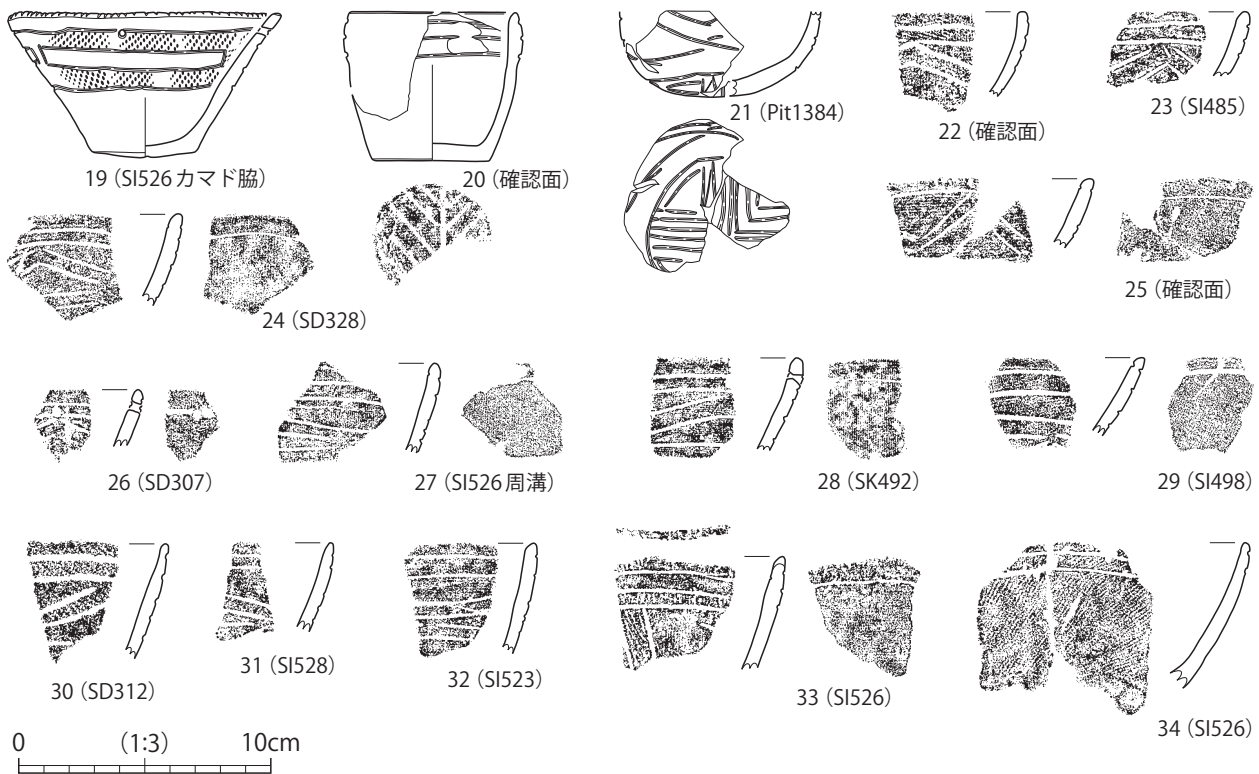
鉢もしくは鉢と考えられる器種は、41点掲載した。器形を復元できる資料は19・20で、19は口径10.6cm、底径4.1cm、器高5.7cm、20は推定口径6.6cm、底径4.6cm、器高5.9cmを測る。56は蓋の天井部である可能性も考えられる。

器形は、体部から口縁部に向かって緩やかに内湾しながら立ち上がるもの(20・22～36・55・57)、直線的に外傾するもの(37～50・56・58・59)が多く、ほかにはやや外反気味に立ち上がるもの(19・51・52)、丸底の底部から体部が内湾しながら立ち上がるもの(21)、体部から口縁部にかけてわずかに屈曲し、口縁部がやや内湾して開くもの(53)、直立気味に立ち上がる体部から口縁部が外傾すると考えられるもの(54)がみられる。

口縁部は平坦口縁のものがほとんどだが、33・50・53は低い山形突起がつく。また、焼成前に外側から穿孔されているもの(19・26・47)、盲孔がみられるもの(47)がある。

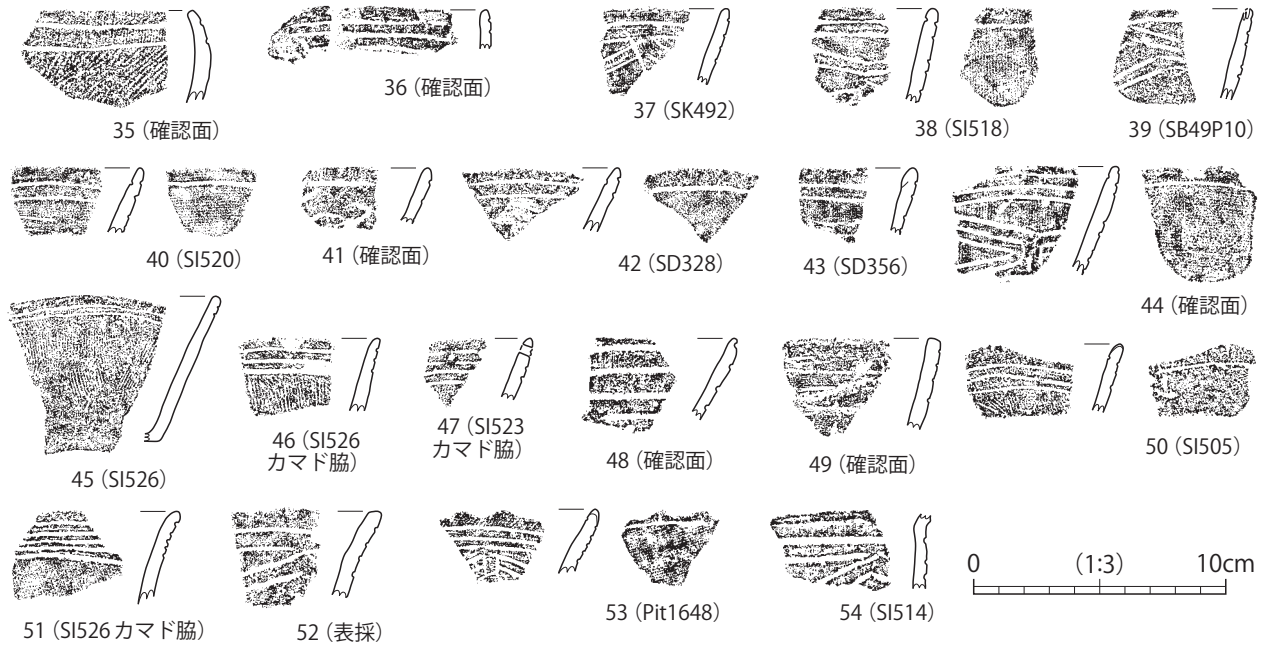
装飾文様は口縁～体部上半または底部(21)に1本引き沈線で施文されている。文様は連続山形文が主体で、そのほか連弧文、変形工字文、四角形文、横位・斜位直線文、平行沈線、重三角形文が施文されている。連続山形文・連弧文・変形工字文の斜線・弧線は2条を一組とするもの(22～26・32・37～40・52・54)、1条の斜線・弧線を組み合わせて複線化するもの(27・28・41)、3条を一組とするもの(53)がある。文様の交点には2条の垂線が施されているもの(53)がみられる。沈線幅は1.5～2.0mm程度が多いが、25・55は1.0mm以下と細く、48は2.5mm前後と太い。沈線断面形はU字形とV字形がある。内面にはナデやミガキが施され、口縁部に沈線が施文されているもの(24～29・33・38・40・42・44・50・53)がみられる。

地文は単節LR・RL縄文、植物茎回転文がみられる。これらのうち、地文を施した後に沈線を施文し、区画外や平行沈線間が磨消されているもの(19・30・33・35・37・42・43・46・48)と、地文が区画内に充填されているもの(22・52)がある。底面には網代痕(56)、木葉痕(20・57～59)がみられる。



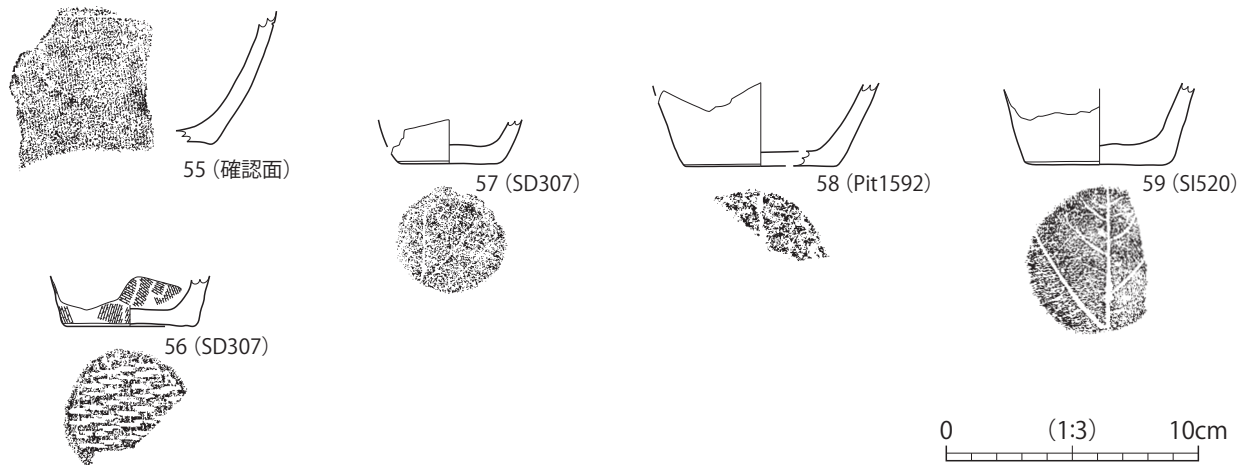
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真 図版
19	B-078	SI526 ホド 脇	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 底部	口唇：縦位刻み 口縁：沈線(横位直線文)・無文部 ^ナ (磨消) 体部：沈線(四角形文)→LR縄文(充填)→沈線・無 文部 ^ナ (磨消)	^ナ	口径10.6cm 底径4.1cm 器高5.7cm 口縁部焼成前穿孔 孔径0.3cm 下描き沈線残存 内外面摩滅	369
20	B-159	調査区	確認面	弥生 土器	鉢	口縁～ 底部	口縁：沈線(横位直線文)→ ^ナ キ 体部： ^ナ キ 底部：木葉痕	横位 ^ナ キ 底部付近 ^ナ	口径(6.6)cm 底径4.6cm 器高5.9cm	369
21	B-146	Pit1384	堆積土	弥生 土器	鉢	体下半 ～底部	体部： ^ナ →沈線(斜位直線文) 底部： ^ナ →沈線(縦位+横位直線文・重三角形文 ^カ)	横位 ^ナ キ		369
22	B-176	調査区 中央北西	確認面	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文) 体部：沈線(連続山形文)→LR縄文(充填)→無文 部 ^ナ ^カ	不明	外面やや摩滅 内面摩滅	369
23	B-053	SI485	掘り方	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁： ^ナ →沈線(横位直線文) 体部： ^ナ →沈線(連続山形文)	軽い ^ナ キ		369
24	B-126	SD328	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文) 体部：沈線(連続山形文)	口縁：沈線(横位直線文) →横位 ^ナ キ	外面摩滅	369
25	B-193	調査区	確認面	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文) 体部：沈線(連続山形文)→無文部 ^ナ ^ナ キ	口縁：沈線(横位直線文) ^ナ ^ナ キ	下描き沈線残存	369
26	B-118	SD307	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁： ^ナ →沈線(横位直線文)→無文部 ^ナ ^ナ キ 体部： ^ナ →沈線(連続山形文)→無文部 ^ナ ^ナ キ	口縁：沈線(横位直線文) ^ナ ^カ	口縁部焼成前穿孔 孔径(0.3)cm 内外面摩滅	369
27	B-090	SI526 周溝	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文)→無文部 ^ナ ^ナ ^カ 体部：沈線(連続山形文)→無文部 ^ナ ^ナ ^カ	口縁：沈線(横位直線文) 体部： ^ナ ^ナ キ	下描き沈線残存 外面やや摩滅	369
28	B-144	SK492	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文) 体部：沈線(連続山形文)→無文部 ^ナ	口縁：沈線(横位直線文) 横位 ^ナ ^ナ キ		369
29	B-056	SI498	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文)→無文部 ^ナ ^ナ ^カ (磨消) 体部：沈線(連続山形文)→無文部 ^ナ ^ナ ^カ (磨消)	口縁：沈線(横位直線文) 横位・斜位 ^ナ ^ナ キ	沈線内に赤彩残存 外面やや摩滅	369
30	B-122	SD312	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：RL縄文横位回転→沈線(横位直線文) →無文部 ^ナ ^ナ ^カ (磨消) 体部：RL縄文横位回転→沈線(連続山形文)→無文 部 ^ナ ^ナ ^カ (磨消)	口縁： ^ナ ^ナ キ		369
31	B-107	SI528	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文) 体部：沈線(連続山形文)	不明	内外面摩滅	369
32	B-077	SI523	掘り方	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁： ^ナ →沈線(横位直線文) 体部： ^ナ →沈線(連弧文)	口縁：横位 ^ナ ^ナ キ 体部：斜位 ^ナ ^ナ キ	外面やや摩滅	369
33	B-102	SI526	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口唇：植物茎回転文 口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文)→無文部 ^ナ ^ナ ^カ (磨消) 体部：植物茎回転文→沈線(縦位直線文)→無文部 ^ナ ^ナ ^カ (磨消)	口縁：沈線(横位直線文) 横位 ^ナ ^ナ キ	口縁山形突起	369
34	B-080	SI526	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体部	口縁：LR縄文横位回転→沈線(横位直線文) 体部：LR縄文横位回転	^ナ ^ナ キ		369

第448図 包含層外出土弥生土器(3)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真 図版
35	B-165	調査区	確認面	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：LR縄文横位回転→沈線(横位直線文)→無文部ミガキ(磨消) 体部：LR縄文横位回転	軽いミガキ		369
36	B-194	調査区	確認面	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文)→無文部ミガキ	横位ミガキ	内外面やや磨滅	369
37	B-145	SK492	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文) 体部：植物茎回転文→沈線(連続山形文)→無文部ミガキ(磨消)	ミガキ		369
38	B-067	SI518	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：ミガキ→沈線(横位直線文) 体部：ミガキ→沈線(連続山形文)→無文部ミガキ	口縁：沈線(横位直線文) 横位・斜位ミガキ		369
39	B-151	SB49 P10	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文) 体部：沈線(連続山形文)	不明	内外面磨滅	369
40	B-069	SI520	床面	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：ミガキ→沈線(横位直線文) 体部：ミガキ→沈線(連続山形文)	口縁：沈線(横位直線文) 横位ミガキ		369
41	B-177	調査区 中央西	確認面	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文)→植物茎回転文 体部：沈線(連続山形文)→無文部ミガキ	横位ミガキ	外面磨滅	369
42	B-128	SD328	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：LR縄文横位回転→沈線(横位直線文)→無文部ミガキ(磨消) 体部：LR縄文横位回転→沈線(連続山形文)→無文部ミガキ(磨消)	口縁：沈線(横位直線文) ミガキ		369
43	B-140	SD356	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文) 体部：植物茎回転文→沈線(連弧文)→無文部ミガキ(磨消)	軽いミガキ	外面やや磨滅	369
44	B-163	調査区	確認面	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文) 体部：沈線(変形工字文)→ミガキ	口縁：沈線(横位直線文) 横位ミガキ	1本引き沈線3本一組	369
45	B-085	SI526	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 底部	口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文) 体部：植物茎回転文 底部付近：ミガキ	ミガキ		369
46	B-098	SI526 カマド脇	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文)→軽いミガキ(磨消) 体部：植物茎回転文	横位ミガキ		369
47	B-076	SI523 カマド脇	掘り方	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文)→無文部ミガキ	ミガキ	口縁部焼成前穿孔・盲孔 穿孔径(0.4)cm 盲孔径0.3cm	369
48	B-172	調査区	確認面	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁～体上端：植物茎回転文→沈線(横位直線文)→無文部ミガキ(磨消)	軽いミガキ	内外面磨滅	369
49	B-186	調査区 南東	確認面	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁～体部：沈線(横位直線文)	ミガキ	外面磨滅	369
50	B-058	SI505	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文) 体部：植物茎回転文→沈線(横位+斜位直線文)	口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文+突起部垂線)	口縁山形突起 内外面磨滅	369
51	B-099	SI526 カマド脇	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：ミガキ→沈線(横位直線文) 体部：ミガキ	横位ミガキ	内外面やや磨滅	369
52	B-199	調査区	表採	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：ミガキ→沈線(横位直線文) 体部：ミガキ→沈線(連続山形文)→LR縄文(充填)→沈線	ミガキ		369
53	B-154	Pit1648	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文)・縄文(不明) 体部沈線(連続山形文)	口縁：沈線(横位直線文+突起部垂線)	口縁部山形突起 (2個1対) 1本引き沈線3本一組 内外面磨滅	369
54	B-066	SI514	堆積土	弥生 土器	鉢	口縁～ 体部	体部：ミガキ→沈線(連続山形文・横位直線文)→ミガキ	ミガキ	内面剥離	370

第449図 包含層外出土弥生土器(4)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真 図版
55	B-181	調査区 南	確認面	弥生 土器	鉢	体下半 ~ 底部	体部：沈線(横位直線文)→縦位・斜位ミガキ	軽いミガキ		370
56	B-117	SD307	堆積土	弥生 土器	鉢 or 蓋	体下端 ~ 底部	体部：植物茎回転文 底面：網代痕	ナデ	底径 5.2cm	370
57	B-119	SD307	堆積土	弥生 土器	鉢	体下端 ~ 底部	体部：ミガキか 底面：木葉痕	ミガキ	底径 4.0cm 内外面やや摩滅	370
58	B-149	Pit1592	堆積土	弥生 土器	鉢	体下半 ~ 底部	体部：横位ミガキ 底面：木葉痕	横位ミガキ	底径 (6.0)cm	370
59	B-071	SI520	堆積土	弥生 土器	鉢	体下半 ~ 底部	体部：横位ミガキ 底面：木葉痕	横位ミガキ 輪積痕	底径 5.6cm	370

第450図 包含層外出土弥生土器(5)

蓋(第451・452図60～86)

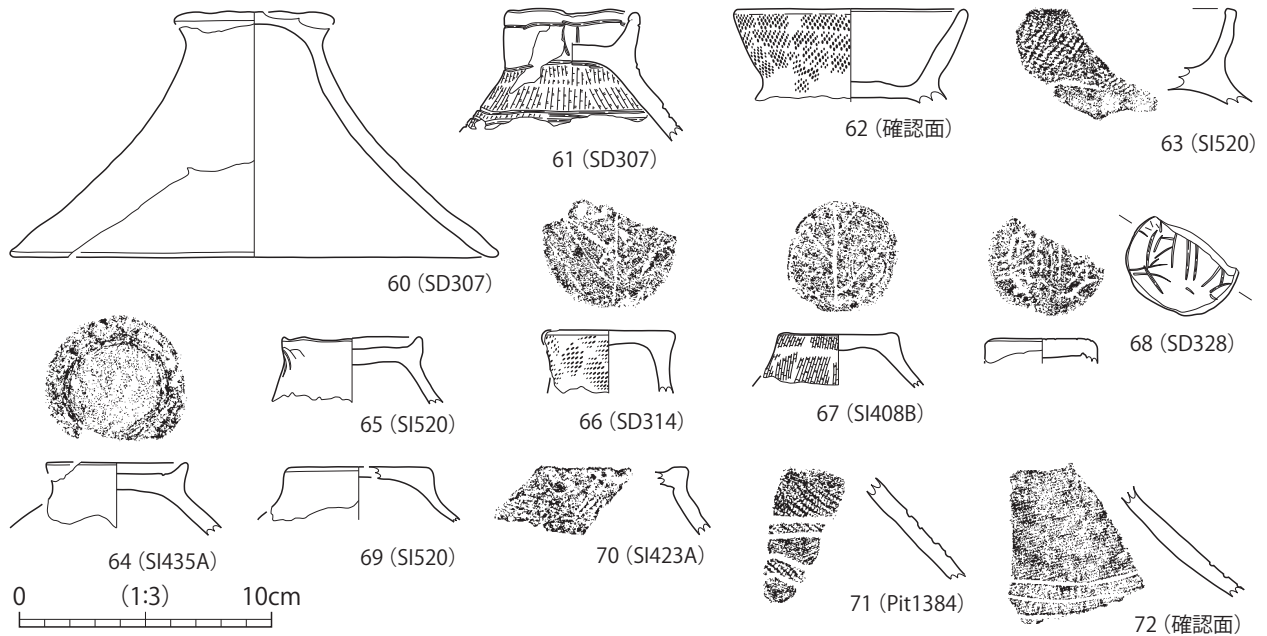
蓋もしくは蓋と考えられる器種は、27点掲載した。器形を復元できる資料は60のみで、推定天井部径6.4cm、口径19.4cm、器高9.8cmを測る。

天井部にはツマミが付くもの(61～65)と付かないもの(60・66～70)がみられる。ツマミの形態は筒形(61)、台形(62・63)、低いツマミ(64・65)がある。ツマミが付かないものには、天井部側縁が外側に向かってわずかに張り出すもの(60・66)と上方に向かってわずかに盛り上がるもの(67・70)がある。

体部から口縁部は直線的に開くもの(61・64・65・67・69・71～81)が多く、外反しながら開くもの(60)、直線的に開く体部からわずかに屈曲し、口縁部が内湾気味に開くもの(82・83)、体部下端から口縁部が緩やかに内湾しながら開くもの(84～86)がある。口唇部には、縦位刻みが85・86に施されており、これらは鉢の可能性も考えられる。

装飾文様は1本引き沈線で施文されている。ツマミには1条の横位直線文と2条一組3単位の縦位直線文の組み合わせ(61)、天井部に円文(64)や横位直線文と弧線文の組み合わせ(68)が施文されているものがある。体部下半～口縁部には、連続山形文・平行沈線が施文されているものが多い。連続山形文は斜線2条を一組とするもの(71・73)、1条の斜線・弧線を組み合わせて複線化するもの(74・75)がある。そのほかには弧線文が施文されているもの(76～78・86)がみられる。また、沈線内に赤彩が残存するもの(71)も認められる。沈線幅は1.5～2.0mm程度がほとんどだが、68・86は1.0mm前後と細い。沈線断面形はU字形とV字形がある。内面にはナデやミガキが施され、口縁部に1条の横位直線文が施文されているもの(73～79・82・85)が多い。

地文は単節LR・RL縄文、植物茎回転文がみられる。これらのうち、地文を施した後に沈線を施文し、区画外が磨消されているもの(71・74・77・80)と、地文が平行沈線間に充填されているもの(78)がある。



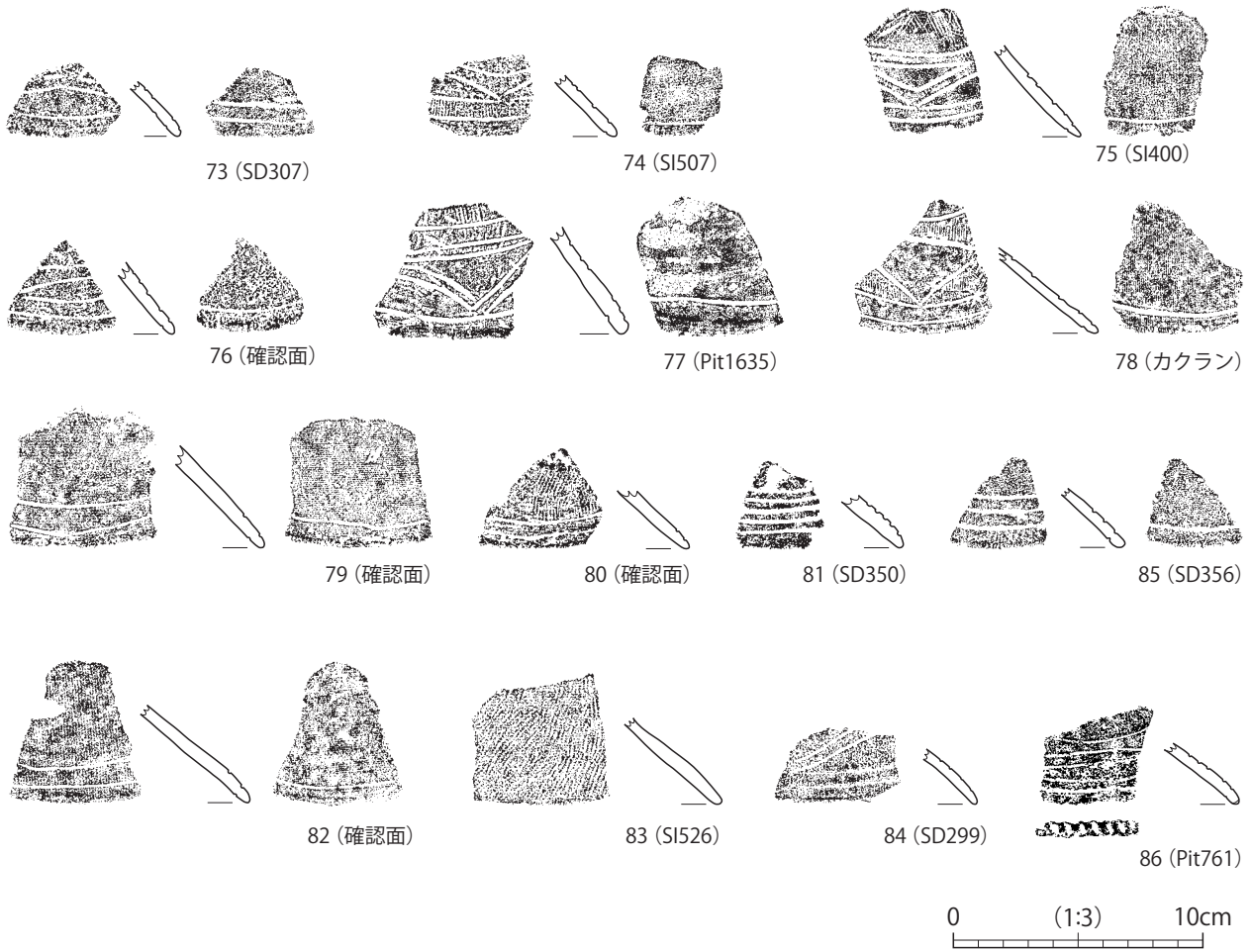
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真 図版
60	B-109	SD307	堆積土	弥生 土器	蓋	天井～ 口縁	天井：ナ 口縁～体部：横位ミガキ	横位ミガキ	天井部径(6.4)cm 口縁部径(19.4)cm 器高(9.8)cm 内面口縁8mm前後幅で摩 滅	370
61	B-116	SD307	堆積土	弥生 土器	蓋	ツمامミ ～ 体上半	ツمامミ：ナ→沈線(横位+縦位直線文・2条一組3 単位) 体部：植物茎回転文→沈線(横位直線文)	ツمامミ：ナ 体部：横位ミガキ	ツمامミ部径5.0cm	370
62	B-160	調査区	確認面	弥生 土器	蓋	ツمامミ ～ 体上端	ツمامミ：LR縄文横位回転 体部：不明	ツمامミ：ナ 体部：ミガキ	ツمامミ部径(9.0)cm	370
63	B-075	SI520	堆積土	弥生 土器	蓋	ツمامミ ～ 体上端	ツمامミ：RL縄文縦位回転 体部：ナ	ツمامミ：ナ 体部：ミガキ		370
64	B-043	SI435A	堆積土	弥生 土器	蓋	ツمامミ ～ 体上半	ツمامミ：横位ミガキ 天井：ナ→沈線(円文)	横位ミガキ	ツمامミ部径5.6cm	370
65	B-072	SI520	堆積土	弥生 土器	蓋	ツمامミ ～ 体上半	ツمامミ：円状工具痕か 天井～体部：不明	不明	ツمامミ部径5.4cm 内外面摩滅	370
66	B-123	SD314	堆積土	弥生 土器	蓋	天井～ 体上半	天井：木葉痕 体部：LR縄文斜位回転	軽い横位ミガキ	天井部径(5.0)cm	370
67	B-040	SI408B	掘り方	弥生 土器	蓋	天井～ 体上半	天井：木葉痕 体部：植物茎回転文	横位ミガキ	天井部径4.4cm	370
68	B-130	SD328	堆積土	弥生 土器	蓋	天井～ 体上端	天井：ナ→沈線(直線文+弧線文) 体部：ナ	ミガキ	天井部径(4.2)cm	370
69	B-070	SI520	堆積土	弥生 土器	蓋	天井～ 体上半	不明	不明	天井部径(5.6)cm 内外面摩滅	370
70	B-042	SI423A	堆積土	弥生 土器	蓋	天井～ 体上半	天井：ミガキ 体部：ナ・LR縄文横位回転	天井：ナ 体部：横位ミガキ		370
71	B-147	Pit1384	堆積土	弥生 土器	蓋	体下半	体部：RL縄文横位回転→沈線(連続山形文・横位 直線文) →無文部ミガキ(磨消)	ミガキ	沈線内に赤彩残存	370
72	B-190	調査区 南東端	確認面	弥生 土器	蓋	体部～ 口縁付 近	体部：ミガキ 口縁：沈線(横位直線文)→軽いミガキ	体上半：縦位・斜位ミガキ 体下端：横位ミガキ		370

第451図 包含層外出土弥生土器(6)

高坏(第453・454図87～98)

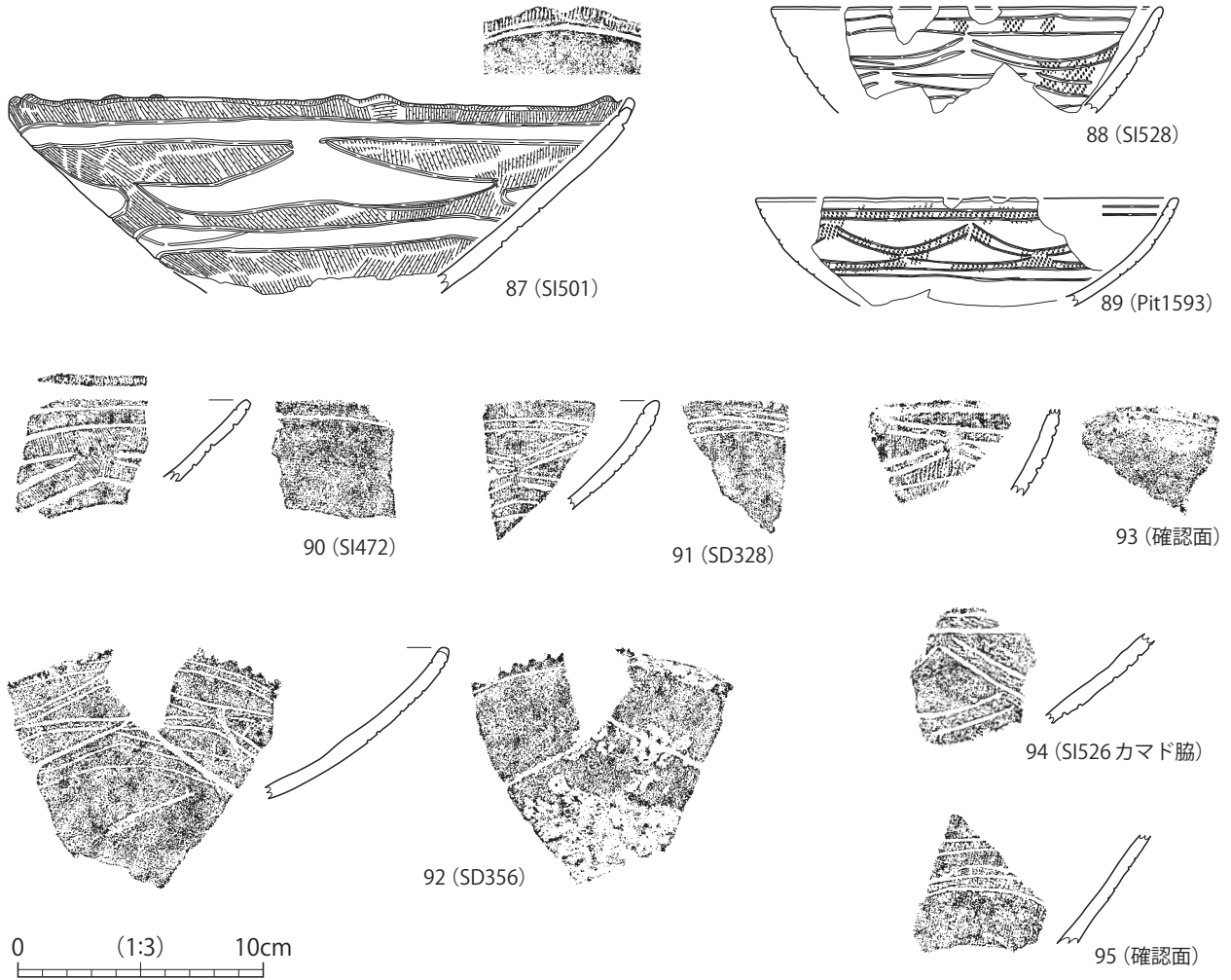
高坏は12点掲載した。坏部の器形が復元できる87は口径25.4cm、88は推定口径16.0cm、89は推定口径17.2cmを測る。

器形は、体部から口縁部が緩やかに内湾するもの(88・89・91～94)が多く、体部が直線的に開き、口縁部で内湾するもの(87)、体部が直線的に開き口縁部まで至ると考えられるもの(90・95)がみられる。口縁部は、平坦口縁のものがほとんどだが、87は2個一対の山形突起が推定5単位つく。92の口唇部には縦位刻みが施されている。脚部は直線的に外傾する(96～98)。



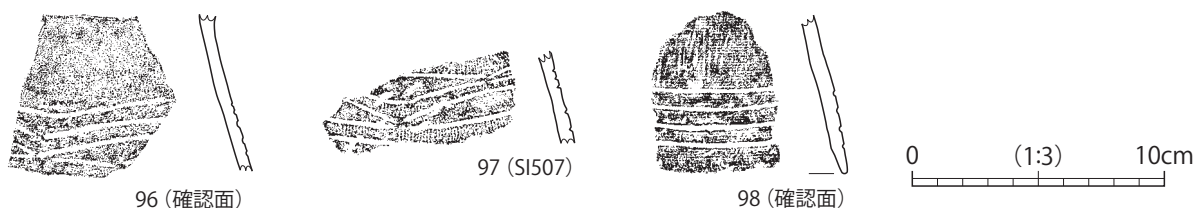
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真図版
73	B-112	SD307	堆積土	弥生土器	蓋	体下半～口縁	体部：沈線(連続山形文) 口縁：沈線(横位直線文)	口縁：沈線(横位直線文)	内外面摩滅	370
74	B-061	SI507	堆積土	弥生土器	蓋	体下半～口縁	体部：植物茎回転文→沈線(連続山形文)→無文部ミガキ(磨消) 口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文)→無文部ミガキ(磨消)	口縁：沈線(横位直線文) ミガキ	外面やや摩滅	370
75	B-038	SI400	掘り方	弥生土器	蓋	体下半～口縁	体部：植物茎回転文→沈線(連続山形文)→部分的にミガキ 口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文)→無文部ミガキか	口縁：沈線(横位直線文) 縦位ミガキ	内外面やや摩滅	370
76	B-168	調査区	確認面	弥生土器	蓋	体下半～口縁	体部：沈線(連続山形文) 口縁：沈線(弧線文)	口縁：沈線(横位直線文)	内外面摩滅	370
77	B-152	Pit1635	堆積土	弥生土器	蓋	体下半～口縁	体部：植物茎回転文→沈線(斜位直線文+弧線文)→無文部ミガキ(磨消) 口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文)→無文部ミガキ(磨消)	口縁：沈線(横位直線文) 軽いミガキ	下描き沈線残存	370
78	B-198	調査区中央西	カクラン	弥生土器	蓋	体下半～口縁	体部：沈線(弧線文)→植物茎回転文(充填)→沈線→無文部ミガキ 口縁：沈線(横位直線文) 口唇：植物茎回転文	口縁：沈線(横位直線文) 横位・斜位ミガキ	外面口縁～内面炭化物付着	370
79	B-178	調査区南壁中央	確認面	弥生土器	蓋	体下半～口縁	体部～口縁：ミガキ 口縁：沈線(横位直線文)	口縁：沈線(横位直線文) 横位ミガキ	外面口縁～内面炭化物付着	370
80	B-188	調査区南東	確認面	弥生土器	蓋	体下半～口縁	体部：植物茎回転文 口縁：沈線(横位直線文)→無文部ミガキ(磨消)	体部：斜位ミガキ 口縁：横位ミガキ		370
81	B-136	SD350	堆積土	弥生土器	蓋	体下半～口縁	体部：ミガキ 口縁：ミガキ→沈線(横位直線文)	軽いミガキ	外面やや摩滅	370
82	B-167	調査区	確認面	弥生土器	蓋	体下半～口縁	体部：ミガキ 口縁：沈線(横位直線文)→無文部ミガキ	口縁：沈線(横位直線文) 横位ミガキ	外面口縁～内面炭化物付着	370
83	B-091	SI526	掘り方	弥生土器	蓋	体下半～口縁	体部～口縁：LR細文横位回転	不明	内面摩滅	370
84	B-037	SD299	堆積土	弥生土器	蓋	体下半～口縁	体部：沈線(連続山形文) 口縁：沈線(横位直線文)	ミガキか	内外面摩滅	370
85	B-138	SD356	堆積土	弥生土器	蓋 or 鉢	体下半～口縁	口縁：LR細文斜位回転→沈線(横位直線文)→無文部ミガキ 口唇：縦位刻み	口縁：沈線(横位直線文) ミガキ	内外面摩滅	370
86	B-156	Pit761	堆積土	弥生土器	蓋 or 鉢	体下半～口縁	体部：沈線(弧線文) 口縁：沈線(横位直線文) 口唇：縦位刻み	不明	内外面摩滅	370

第452図 包含層外出土弥生土器(7)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真 図版
87	B-057	SI501	堆積土	弥生 土器	高環	口縁～ 体部	口唇：植物茎回転文 口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文) 体部：植物茎回転文→沈線(流水型変形工字文風) →無文部(磨消)	口縁：植物茎回転文 →沈線(横位直線文) 横位(磨消)	口縁山形突起(2個一對推定 5単位) 口径25.4cm 下描き沈線残存	370
88	B-106	SI528	堆積土	弥生 土器	高環	口縁～ 体部	口縁：LR縄文横位回転→沈線(横位直線文)→無文部(磨消) 体部：LR縄文横位回転→沈線(連続山形文)→無文部(磨消)	不明	口径(16.0)cm 下描き沈線残存 内外面摩滅	371
89	B-150	Pit1593	堆積土	弥生 土器	高環	口縁～ 体部	口縁：LR縄文横位回転→沈線(横位直線文)→無文部(磨消) 体部：LR縄文横位回転→沈線(連続山形文)→無文部(磨消)	口縁：沈線(横位直線文) (磨消)	口径(17.2)cm	371
90	B-046	SI472	堆積土	弥生 土器	高環	口縁～ 体上半	口唇：植物茎回転文 口縁：沈線(横位直線文)→植物茎回転文(充填)→ 沈線→無文部(磨消) 体部：沈線(連続山形文)→植物茎回転文(充填)→ 沈線→無文部(磨消)	口縁：沈線(横位直線文) 横位(磨消)		371
91	B-127	SD328	堆積土	弥生 土器	高環	口縁～ 体上半	口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文)→無文部(磨消) 体部：植物茎回転文→沈線(連続山形文)→無文部(磨消)	口縁：コナ →沈線(横位直線文) 体部：横位(磨消)		371
92	B-137	SD356	堆積土	弥生 土器	高環	口縁～ 体上半	口唇：縦位刻み 口縁：LR縄文横位回転→沈線(横位直線文)→無文部(磨消) 体部：LR縄文横位回転→沈線(連続山形文)→無文部(磨消)	口縁：沈線(横位直線文) (磨消)	外面やや摩滅	371
93	B-175	調査区 中央	確認面	弥生 土器	高環	口縁付 近～ 体上半	口縁：沈線(横位直線文) 体部：沈線(連続山形文)→植物茎回転文(充填)→ 沈線→無文部(磨消)	口縁：沈線(横位直線文)	外面口縁摩滅 内面摩滅	371
94	B-100	SI526 カマド脇	堆積土	弥生 土器	高環	体上半	体部：R縄文横位回転→沈線(連続山形文) →無文部(磨消)	磨消	他の土器より混入する砂礫 がやや大	371
95	B-162	調査区	確認面	弥生 土器	高環	体部	体部：沈線(横位直線文)→LR縄文(充填)→沈線 →無文部(磨消)	体上半：縦位(磨消) 体下半：横位(磨消)		371

第453図 包含層外出土弥生土器(8)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真 図版
96	B-189	調査区 南東端	確認面	弥生 土器	高環	脚部	脚上半：植物茎回転文か 脚下半：植物茎回転文か・沈線(連弧文)	不明	1本引き沈線3本一組内外 面摩擦	371
97	B-060	SI507	堆積土	弥生 土器	高環	脚部	脚部：植物茎回転文→沈線(連続山形文)→無文部ミ ガキ(磨消)	縦位ミガキ		371
98	B-183	調査区 南東	確認面	弥生 土器	高環	脚部	脚上半：ミガキ→一部ミガキ 脚下半：沈線(横位直線文)→縦位ミガキ	脚部：斜位ミガキ 脚口縁：横位ミガキ		371

第454図 包含層外出土弥生土器(9)

装飾文様は、口縁～体部上半または脚部下半に1本引き沈線で施文され、連続山形文・連弧文が施文されているものが多い。これらは斜線2条を一組とするもの(88・89・91・93・94・96)、1条の斜線・弧線を組み合わせて複線化するもの(90・92・97)がある。88・89は施文が粗雑で、文様の交点に隙間がみられる。そのほか、流水型変形工字文風(87)、平行沈線が施文されているもの(98)がある。沈線幅は1.5～2.0mm程度がほとんどだが、89は1.0mm前後と細い。沈線断面形はU字形とV字形がある。内面にはナデやミガキが施され、口縁部に1条または2条の横位直線文が施文されているもの(87・89～93)が多い。

地文は単節LR・RL縄文、無節R縄文、植物茎回転文がみられる。これらのうち、地文を施した後に沈線を施文し、区画外が磨消されているもの(87～89・91・92・97)と区画内に地文が充填されているもの(90・93・95)がある。88・89・93は施文が粗雑で区画外にはみ出した地文が残っている。

深鉢(第455図99)

深鉢は口縁部破片1点のみで、口縁部が直線的に外傾し、平坦口縁をもつ。地文は単節LR縄文がみられる。内面にはミガキがみられる。

甕(第455～458図100～160)

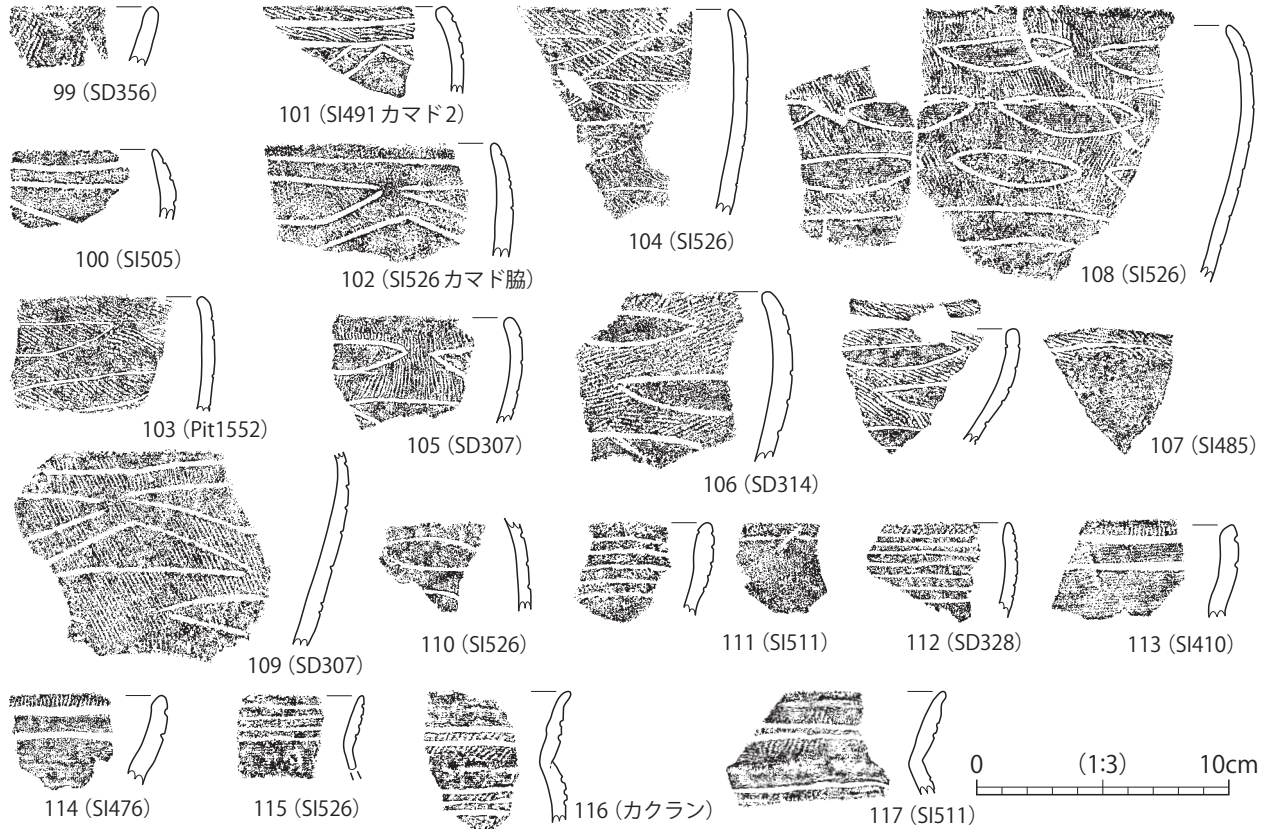
甕は61点掲載した。いずれも破片のため、器形を復元できる資料はない。

器形は、大きく分けて①体部から口縁部が内湾しながら立ち上がり、口縁端部まで至るもの、②口縁部と体部の境が屈曲し、口縁部がやや内湾しながら立ち上がるもの、③内湾しながら立ち上がる体部から口縁部が外反または外傾するものがある。口縁部はいずれも平坦口縁である。

①は11点(100～110)で、装飾文様は口縁～体部上半に1本引き沈線で施文され、レンズ形文・三角形文がみられる。沈線幅は1.5～2.0mm程度がほとんどだが、103は1.0mm前後と細い。沈線断面形はU字形とV字形がある。内面にはミガキが施され、口縁部に1条の横位直線文が施文されているもの(107)がある。

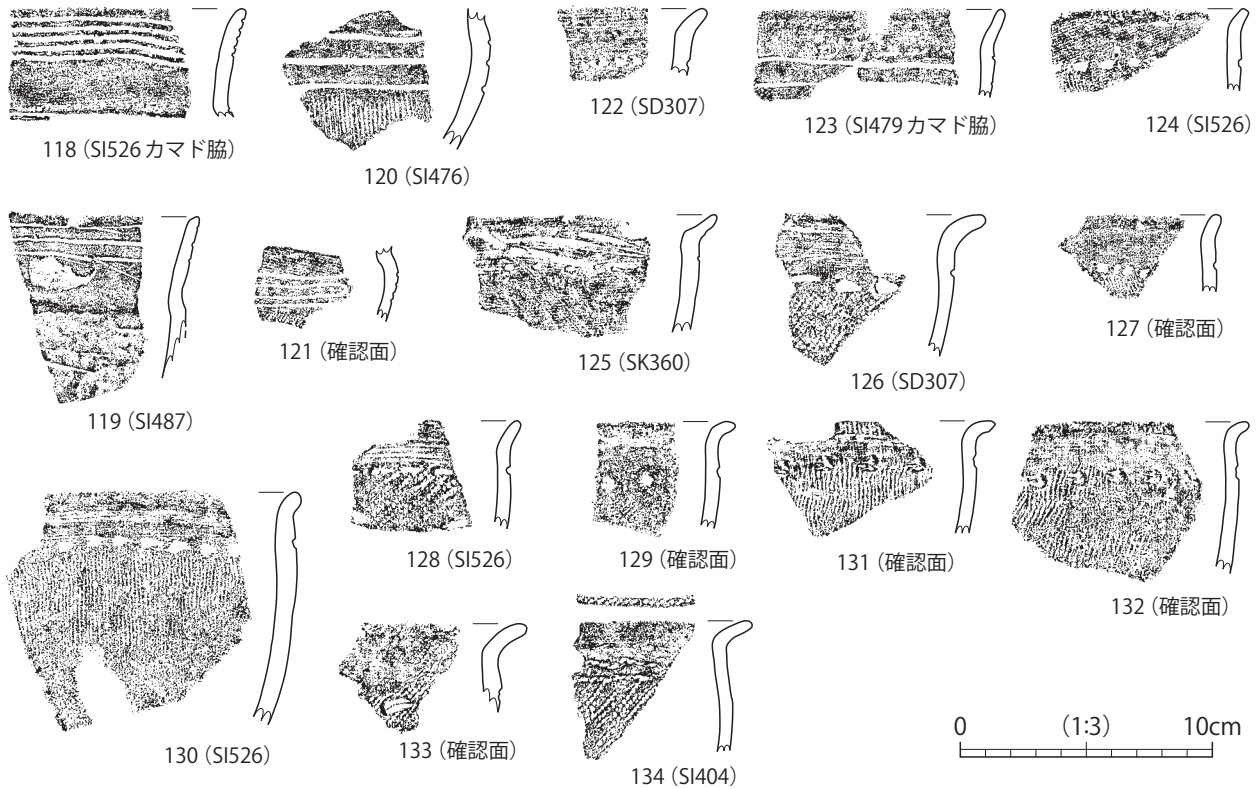
地文は単節LR・RL縄文、無節R縄文、植物茎回転文がみられる。これらのなかには、地文を施した後に沈線を施文し、区画外が磨消されているもの(101・105～108・110)がある。磨消されず、区画外にも地文が残るもの(102～104・109)もあり、この器形のみでみられる。

②は11点(111～121)で、口縁部が内湾し、口縁端部まで至るものがほとんどだが、口縁端部が短く外傾するもの(116・117)もみられる。屈曲部が残存していないもの(111～114)や、口縁部が内湾せず外反・外傾気味に立ち上がるもの(118・119)もあるが、文様の特徴から②に分類した。



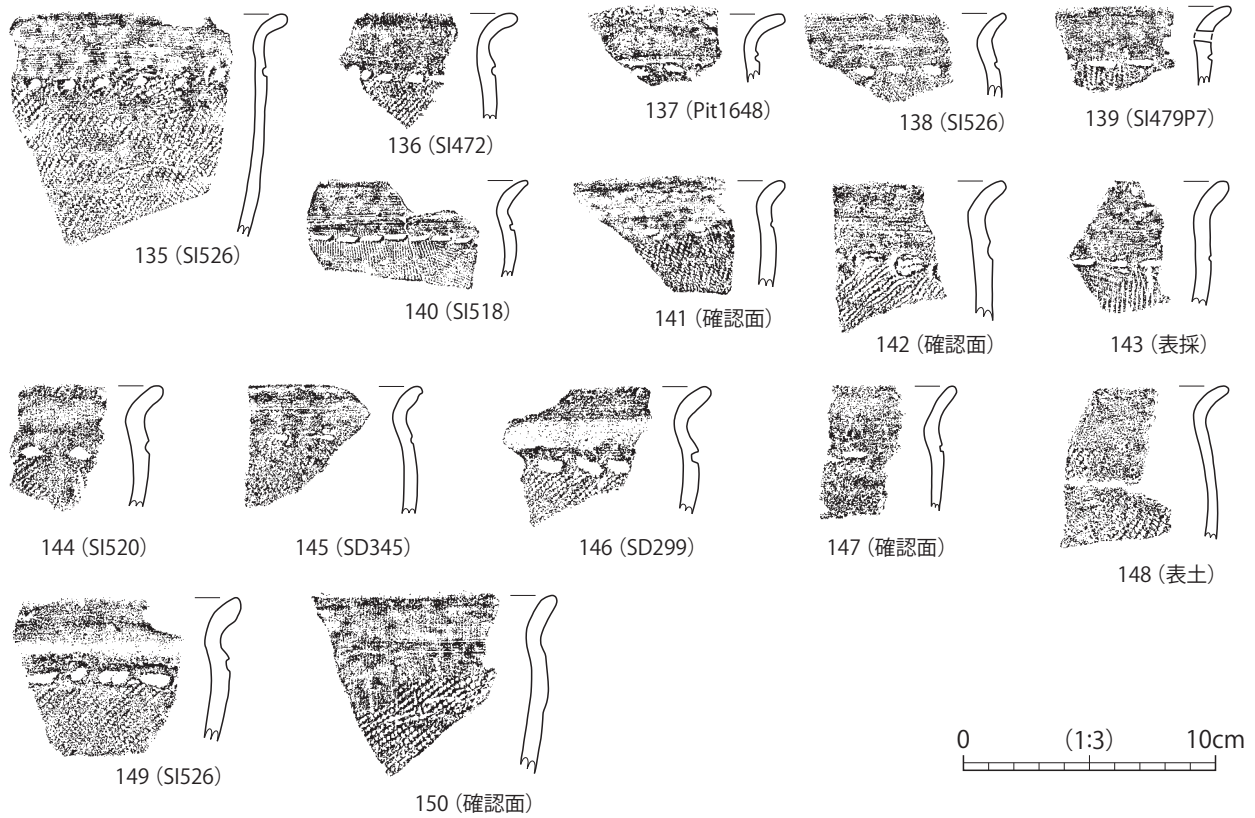
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真図版
99	B-139	SD356	堆積土	弥生土器	深鉢	口縁	口縁：LR縄文横位回転	横位ミガキ		371
100	B-059	SI505	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：沈線(横位直線文) 体部：沈線(斜位直線文)	ミガキ	突起が付く可能性有 内外面摩滅	371
101	B-055	SI491 がた2	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：R縄文横位回転→沈線(横位直線文)→無文部ミガキ(磨消) 体部：R縄文横位回転→沈線(斜位直線文)→無文部ミガキ(磨消)	軽いミガキ		371
102	B-096	SI526 がた 脇	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文) 体部：植物茎回転文→沈線(三角形文か)	不明	区画内外に地文 外面摩滅 内面著しい摩滅	371
103	B-148	Pit1552	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁～体部：RL縄文横位回転→沈線(レンズ形文)	軽いミガキ	区画内外に地文	371
104	B-101	SI526	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁～体部：R縄文横位回転→沈線(レンズ形文)	横位ミガキ	区画内外に地文	371
105	B-121	SD307	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁～体部：植物茎回転文→沈線(レンズ形文) →無文部ミガキ(磨消)	横位ミガキ	下描き沈線残存	371
106	B-124	SD314	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁～体部：LR縄文縦位回転→沈線(レンズ形文) →無文部ミガキ(磨消)	横位ミガキ		371
107	B-052	SI485	掘り方	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：R縄文横位回転 口縁～体部：R縄文横位回転→沈線(レンズ形文) →無文部ミガキ(磨消)	口縁：R縄文横位回転 →沈線(横位直線文) ミガキ		371
108	B-103	SI526	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁～体上半：植物茎回転文→沈線(レンズ形文・横位直線文)→無文部ミガキ(磨消)	横位ミガキ		371
109	B-115	SD307	堆積土	弥生土器	甕	体上半	体部：植物茎回転文→沈線(三角形文)	ミガキ	区画内外に地文	371
110	B-084	SI526	堆積土	弥生土器	甕	体部	体部：植物茎回転文→沈線(レンズ形文)→無文部ミガキ(磨消)	ミガキ		371
111	B-063	SI511	堆積土	弥生土器	甕	口縁	口縁：沈線(横位直線文)	沈線(横位直線文)	内外面摩滅	371
112	B-129	SD328	堆積土	弥生土器	甕	口縁	口縁：LR縄文横位回転→沈線(横位直線文)→無文部ミガキ(磨消)	横位ミガキ		371
113	B-041	SI410	堆積土	弥生土器	甕	口縁	口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文) →無文部ミガキ(磨消)	横位ミガキ		371
114	B-048	SI476	堆積土	弥生土器	甕	口縁	口縁：植物茎回転文→沈線(横位直線文)→無文部ミガキ(磨消)	横位ミガキ		371
115	B-083	SI526	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上端	口縁：フダカ→沈線(横位直線文) 体上端：ミガキ	ミガキ	沈線内に赤彩残存	371
116	B-197	調査区 中央西	カクラン	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁～体部：ヨコガテ→RL縄文(0段多条)横位回転 →沈線(横位直線文)→無文部軽いミガキ(磨消)	軽いミガキ		371
117	B-062	SI511	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨコガテ→LR縄文横位回転→沈線(横位直線文) 体上端：LR縄文横位回転→沈線(横位直線文)→ミガキ(磨消)	フダカ→軽いミガキ		371

第455図 包含層外出土弥生土器(10)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真図版
118	B-097	SI526 かマド 脇	堆積土	弥生 土器	甕	口縁～ 体上端	口縁：ナテ→沈線(横位直線文)→下半横位ミガキ 体上端：沈線(横位直線文)	ミガキ	内外面やや摩滅	371
119	B-054	SI487	掘り方	弥生 土器	甕	口縁～ 体上半	口縁：ナテ→沈線(横位直線文)→下半ミガキ 体部：ナテ→沈線(斜位直線文)	ナテ	下描き沈線残存 外面下半剥離	371
120	B-047	SI476	堆積土	弥生 土器	甕	体上半	体上半：沈線(横位直線文)→無文部ミガキ 体下半：植物茎回転文	横位ミガキ		371
121	B-164	調査区	確認面	弥生 土器	甕	体上半	体部：LR縄文横位回転→沈線(工字文風)→無文部 ミガキ(磨消)	横位ミガキ		372
122	B-113	SD307	堆積土	弥生 土器	甕	口縁～ 体上端	口縁：ヨコナテ 体上端：列点刺突(角・右→左)	ミガキ		372
123	B-051	SI479 かマド 脇	掘り方	弥生 土器	甕	口縁～ 体上半	口縁：ヨコナテ 体上端：ナテ→沈線(横位直線文) 体部：LR縄文横位回転	口縁：ヨコナテ 体部：ナテ		372
124	B-093	SI526	堆積土	弥生 土器	甕	口縁～ 体上半	口縁：ヨコナテ 体上端：列点刺突(角・右→左) 体部：植物茎回転文	不明	内面摩滅	372
125	B-141	SK360	堆積土	弥生 土器	甕	口縁～ 体上半	口縁：ヨコナテ→ハナ(ハナテ)状 頸部：列点刺突(円形・右→左) 体部：ハナ(ハナテ)状	口縁：ヨコナテ 体部：ハナ(ハナテ)状		372
126	B-120	SD307	堆積土	弥生 土器	甕	口縁～ 体上半	口唇：LR縄文横位回転 口縁：ヨコナテ 体上端：列点刺突(円形・右→左) 体部：LR縄文横位回転	横位ミガキ		372
127	B-171	調査区	確認面	弥生 土器	甕	口縁～ 体上半	口縁：ヨコナテ 体上端：列点刺突(角・右→左) 体部：LR縄文横位回転	ミガキ	内面やや摩滅	372
128	B-082	SI526	堆積土	弥生 土器	甕	口縁～ 体上半	口縁：ヨコナテ 体上端：列点刺突(円形・右→左) 体部：LR縄文横位回転	ミガキ		372
129	B-179	調査区 南	確認面	弥生 土器	甕	口縁～ 体上半	口縁：ヨコナテ 体上端：列点刺突(円形・左→右) 体部：植物茎回転文か	横位ミガキ	外面やや摩滅	372
130	B-081	SI526	堆積土	弥生 土器	甕	口縁～ 体上半	口縁：ヨコナテ 体上端：列点刺突(角・右→左) 体部：植物茎回転文	不明	外面やや摩滅 内面摩滅	372
131	B-191	調査区 東壁南	確認面	弥生 土器	甕	口縁～ 体上半	口唇：植物茎回転文 口縁：ヨコナテ 体上端：列点刺突(角・左→右) 体部：植物茎回転文	横位ミガキ		372
132	B-166	調査区	確認面	弥生 土器	甕	口縁～ 体上半	口唇：植物茎回転文 口縁：ヨコナテ 体上端：列点刺突(角・左→右) 体部：植物茎回転文	横位ミガキ		372
133	B-180	調査区 南	確認面	弥生 土器	甕	口縁～ 体上半	口縁：ヨコナテ→LR縄文横位回転 体上端：列点刺突(角・右→左) 体部：LR縄文横位回転	横位ミガキ		372
134	B-039	SI404	堆積土	弥生 土器	甕	口縁～ 体上半	口唇：LR縄文横位回転 口縁：ヨコナテ 体上端：綾線文(2列) 体部：LR+2R附加条縄文横位回転	口縁：ミガキ 体部：ナテ		372

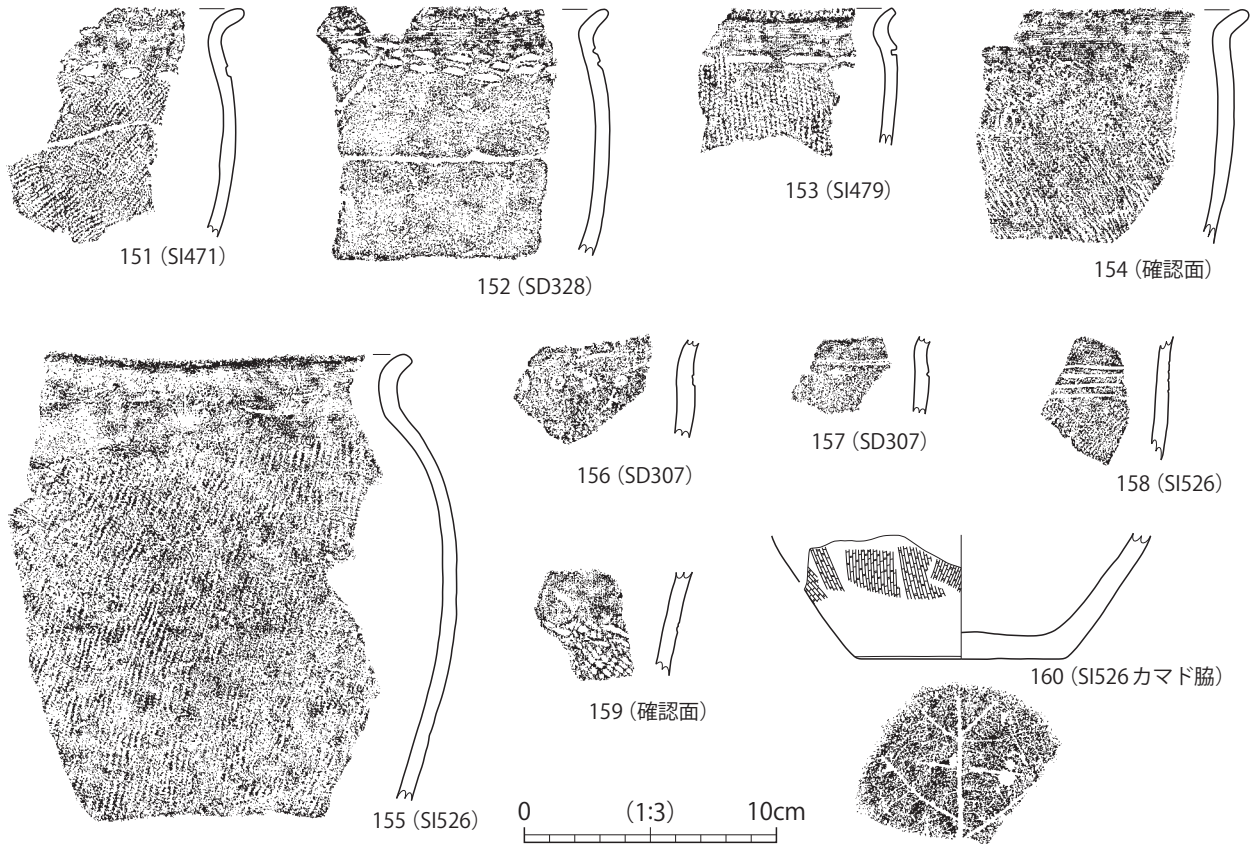
第456図 包含層外出土弥生土器(11)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考	写真 図版
135	B-088	SI526	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨナナ 体上端：列点刺突(角・右→左) 体部：LR縄文横位回転	口縁：ヨナナ→横位シギキ 体部：横位シギキ		372
136	B-045	SI472	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨナナ 体上端：列点刺突(円形・左→右) 体部：LR縄文横位回転	口縁～体部：横位シギキ		372
137	B-153	Pit1648	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇：LR縄文横位回転 口縁：ヨナナ 頸部：列点刺突(角・右→左)	横位シギキ		372
138	B-104	SI526	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨナナ 体上端：列点刺突(角・左→右)	口縁：ヨナナ	内外面摩滅	372
139	B-050	SI479 P7	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨナナ 体上端：列点刺突(角・左→右) 体部：LR縄文斜位回転	口縁～体部：シギキ	口縁補修孔	372
140	B-068	SI518	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇：植物茎回転文 口縁：ヨナナ、一部植物茎回転文 体上端：列点刺突(短沈線・角・左→右) 体部：植物茎回転文	口縁：横位シギキ 体部：横位・斜位シギキ		372
141	B-174	調査区西	確認面	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨナナ 体上端：列点刺突(円形・左→右) 体部：LR縄文横位回転	横位シギキ		372
142	B-195	調査区	確認面	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨナナ 体上端：列点刺突(角・右→左) 体部：LR + R附加条縄文横位回転	横位シギキ		372
143	B-200	調査区	表探	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨナナ 体上端：列点刺突(円形・左→右) 体部：植物茎回転文	横位シギキ		372
144	B-073	SI520	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨナナ 体上端：列点刺突(円形・右→左) 体部：LR縄文横位回転	横位シギキ		372
145	B-132	SD345	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨナナ 体上端：列点刺突(円形・左→右) 体部：LR縄文横位回転	横位シギキ	内面やや摩滅	372
146	B-108	SD299	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨナナ 体上端：列点刺突(角・左→右) 体部：LR縄文横位回転	シギキ	内面やや摩滅	372
147	B-196	調査区	確認面	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨナナ 体上端：列点刺突(角・左→右)	シギキ	外面やや摩滅	372
148	B-201	調査区	表土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨナナ 体部：LR縄文横位回転	内外面摩滅		372
149	B-105	SI526	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨナナ 体上端：列点刺突(角・左→右+右→左) 体部：LR縄文横位回転	口縁：ヨナナ 体部：不明	内外面摩滅	372
150	B-185	調査区南東	確認面	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨナナ 体部：LR縄文横位回転	シギキ	内面やや摩滅	372

第457図 包含層外出土弥生土器(12)

装飾文様は口縁部または体部上半に1本引き沈線で施文され、屈曲部は無文帯となる。口縁部の文様は口縁直下に施文されているものが多いが、116・117は口縁部中位に施されている。平行沈線が施文されているものがほとんどだが、体部上半に斜位直線文(119)、工字文風の文様(121)が施文されているものもみられる。また、沈線内に赤彩が残存するもの(115)がある。沈線幅は1.5～2.0mm程度が多いが、113・114・120は3mm前後と太い。沈線断面形はU字形とV字形がある。内面にはナデやミガキが施され、口縁部に1条の横位直線文が施文されているもの(111)がある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考	写真図版
151	B-044	SI471	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨコジギ 体上端：列点刺突(角・左→右) 体部：LR縄文横位回転	口縁～体部：ミガキ		373
152	B-125	SD328	堆積土上層	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨコジギ 体上端：列点刺突(半截竹管・左→右) 体部：横位・斜位ミガキ	口縁：ミガキ 頸部：ナデ 体部：横位ミガキ		373
153	B-049	SI479	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体上半	口唇：LR縄文横位回転 口縁：ヨコジギ 体上端：列点刺突(短沈線・角・左→右) 体部：LR縄文斜位回転	口縁：ヨコジギ 体部：横位ミガキ	外面炭化物付着	373
154	B-161	調査区	確認面	弥生土器	甕	口縁～体上半	口縁：ヨコジギ 体部：植物茎回転文	口縁～体部：ミガキ		373
155	B-079	SI526	堆積土	弥生土器	甕	口縁～体部	口唇：LR縄文横位回転 口縁：ヨコジギ 体部：LR縄文横位回転	口縁：ヨコジギ→ミガキ 体部：ミガキ	内外面やや摩滅	373
156	B-111	SD307	堆積土	弥生土器	甕	口縁付近～体上半	口縁：ヨコジギ 体上端：列点刺突(円形竹管) 体部：LR縄文横位回転	軽いミガキ		373
157	B-114	SD307	堆積土	弥生土器	甕	口縁付近～体上半	口縁：ヨコジギ 体上端：列点刺突(短沈線・丸・右→左) 体部：LR縄文横位回転か	不明	内外面摩滅	373
158	B-086	SI526	堆積土	弥生土器	甕	口縁付近～体上半	口縁：沈線(横位直線文)→ミガキ 体部：LR縄文横位回転	ミガキ		373
159	B-184	調査区南東	確認面	弥生土器	甕	口縁付近～体上半	口縁：軽いミガキ 体上端：綾織文(2列) 体部：LR縄文横位回転	軽いミガキ		373
160	B-094	SI526カマド脇	堆積土	弥生土器	甕	体下半～底部	体部：植物茎回転文 体下端：ミガキ 底面：木葉痕	ミガキ	口径(8.4)cm	373

第458図 包含層外出土弥生土器(13)

地文は単節LR縄文、0段多条RL縄文、植物茎回転文がみられる。これらのなかには、地文を施した後に沈線を施文し、沈線間が磨消されるもの(112～114・121)がある。これに対し、口縁端部が短く外傾する116・117は沈線間外が磨消されるが、磨消処理は粗雑である。

③は38点(122～159)で、口縁部と体部の境にくびれをもつものが多い。体部から口縁部が直線的に外傾するもの(159)も、文様の施文位置や特徴から③に分類した。

口縁部はヨコナデが施され、口唇部に地文がみられるもの(126・131・132・134・137・140・154・155)がある。装飾文様は、体部上端に列点刺突・平行沈線・綾線文がみられるが、列点刺突(122・124～133・135～147・149・151～153・156・157)が圧倒的に多い。刺突の方向は左右の別があり、先端が角・円形の棒状工具で施文されているものと、円形竹管を器面に対して垂直方向に刺突するもの(156)がみられる。また、列点刺突が短沈線形を呈するもの(140・153・157)もある。平行沈線が施されているものは123・158で、それぞれ2条、4条施文される。123の沈線幅は1.5mm、158は1.0mm前後で、断面形はともにV字形を呈する。綾線文が施されているものは134・159で、ともにZ字形が連続する形態をとり、2列平行に施文されている。地文のみのものは148・150・154・155である。内面にはナデやミガキが施されている。

地文は単節LR・RL縄文、LR+2R附加条縄文、無節R縄文、植物茎回転文がみられる。底面には木葉痕(160)がみられる。

b. 石器(第459～470図)

打製石器は石鏃4点、削器7点、搔器3点、二次加工のある剥片11点、微細剥離のある剥片2点、両極剥片1点、石核4点、板状石器2点、磨製石器は石庖丁2点、ノミ状石器2点、片刃石斧1点、石製品は独鈷石^{どっごいし}1点を掲載した。また、石核や剥片同士で接合関係が確認できたものは6点あり、それぞれ「接合資料」として第471～475図に掲載した。これら石器の石材は流紋岩が主体で、わずかに黒曜石、頁岩、石英などが認められた。

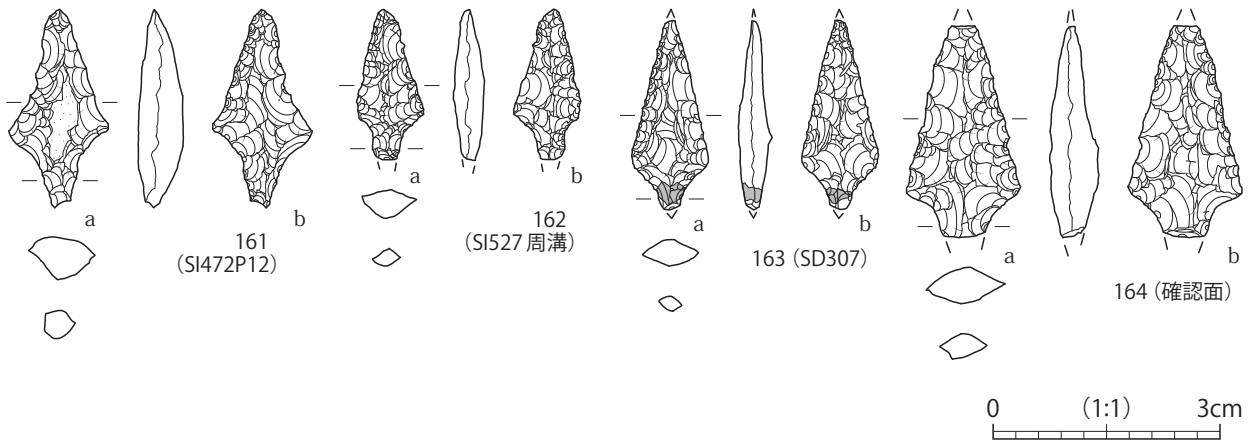
1) 打製石器

石鏃(第459図)

161～164は有茎の石鏃である。161は他の石鏃よりも調整が粗く、a面に自然面を残す。162～164はa・b面の大半に二次加工や調整が比較的に念に施されており、自然面や素材面を残さない。162は基部を欠損しており、163・164は基部・先端部を欠損する。163は基部にアスファルトが付着している。石材は161が流紋岩質凝灰岩、162が石英、163が風化頁岩、164が玉髓を伴う珪化流紋岩である。

削器(第460図)

165～171は削器である。165はa・b面の周縁を除く周縁部に二次加工が施されている。上下端部が欠損している。166は自然面を残すa面の周縁部、b面の側縁部の一部に二次加工が施されている。167はa面の周縁の一部に二次加工が施されている。168は自然面を残すa面の下縁から右側縁部にかけて、b面の側縁部に二次加工が施されている。169はa・b面の周縁部に二次加工が施されている。b面の一部に自然面を残す。下端が欠損している。170はa・b面の下縁のみに二次加工が施されている。a面に自然面を残す。171はa・b面の一側縁部のみに二次加工が施され、a～c面に黒色付着物がみられる。a～c面に自然面を残す。石材は165・166が頁岩、167・168・170・171が流紋岩、169が黒色頁岩である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
161	Ka-025	SI472 P12	堆積土	打製石器	石鏃	2.6	1.3	0.6	1.0	流紋岩質凝灰岩 (●)	有茎石鏃 先端角90° 厚幅比0.45 自然面あり	373
162	Ka-026	SI527 周溝	堆積土	打製石器	石鏃	(2.0)	0.9	0.4	0.5	石英	有茎石鏃 基部欠損 先端角112° 厚幅比0.48	373
163	Ka-027	SD307	堆積土	打製石器	石鏃	(2.5)	1.0	0.4	0.7	風化頁岩 (●)	有茎石鏃 先端・基部欠損 アスファルト付着	373
164	Ka-028	調査区	確認面	打製石器	石鏃	(2.8)	1.5	0.6	1.9	玉髄を伴う珪化流紋岩 (●)	有茎石鏃 先端・基部欠損	373

第459図 包含層外出土石器 (1)

搔器 (第461図)

172～174は搔器である。172はa・b面の周縁部に二次加工が施され、a面に自然面を残す。173はa・b面の下縁に二次加工が施され、b面に自然面を残す。174はa・b面の側縁の一部に二次加工が施され、b面に自然面を残す。石材は172が珪質頁岩、173が流紋岩、174が黒曜石である。

二次加工のある剥片 (第462・463図)

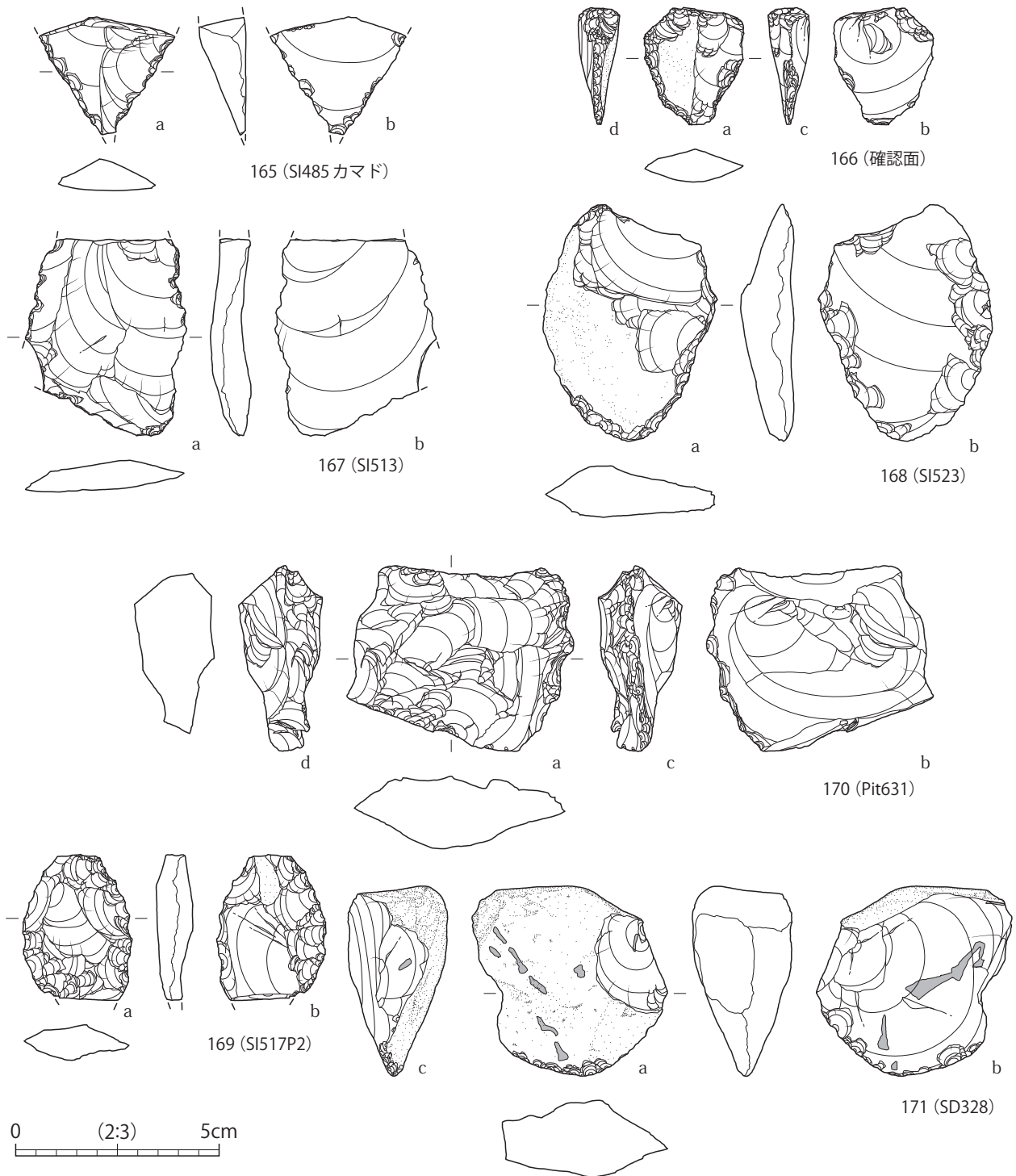
175～185は二次加工のある剥片である。175はa・b面の側縁部に二次加工が施され、b面の一部に自然面を残す。176はa・b面の側縁の一部に二次加工が施され、b面に一部自然面を残す。177はa・b面の下縁一部に二次加工が施されている。178はa・b面の一側縁部に二次加工が施され、b面に自然面を残す。179はa・b面の周縁部の一部に二次加工が施され、上面 (e面) に自然面を残す。180はa面の一部、b面の上縁に二次加工が施されている。181はa・b面の下縁一部に二次加工が施され、a面に自然面・節理面を残す。182はb面の一部に二次加工が施されている。183はa・b面上縁に二次加工が施されている。a・b面の大半に節理面を残し、c面に自然面を残す。184・185は二次加工のほかに微細剥離のある剥片である。184はb面の下縁に二次加工が施され、a面の下縁に微細剥離が認められる。a面に自然面を残す。185はa・b面の周縁部に二次加工が施され、a面の右側上縁部を除く周縁部に微細剥離がみられる。石材は175・177・178・180～182・185が流紋岩、176が頁岩、179が黒曜石、183が安山岩、184がホルンフェルスである。

微細剥離のある剥片 (第463図)

186・187は複数縁辺に微細剥離のある剥片である。186はa面の一部に節理面を残す。石材はいずれも流紋岩である。

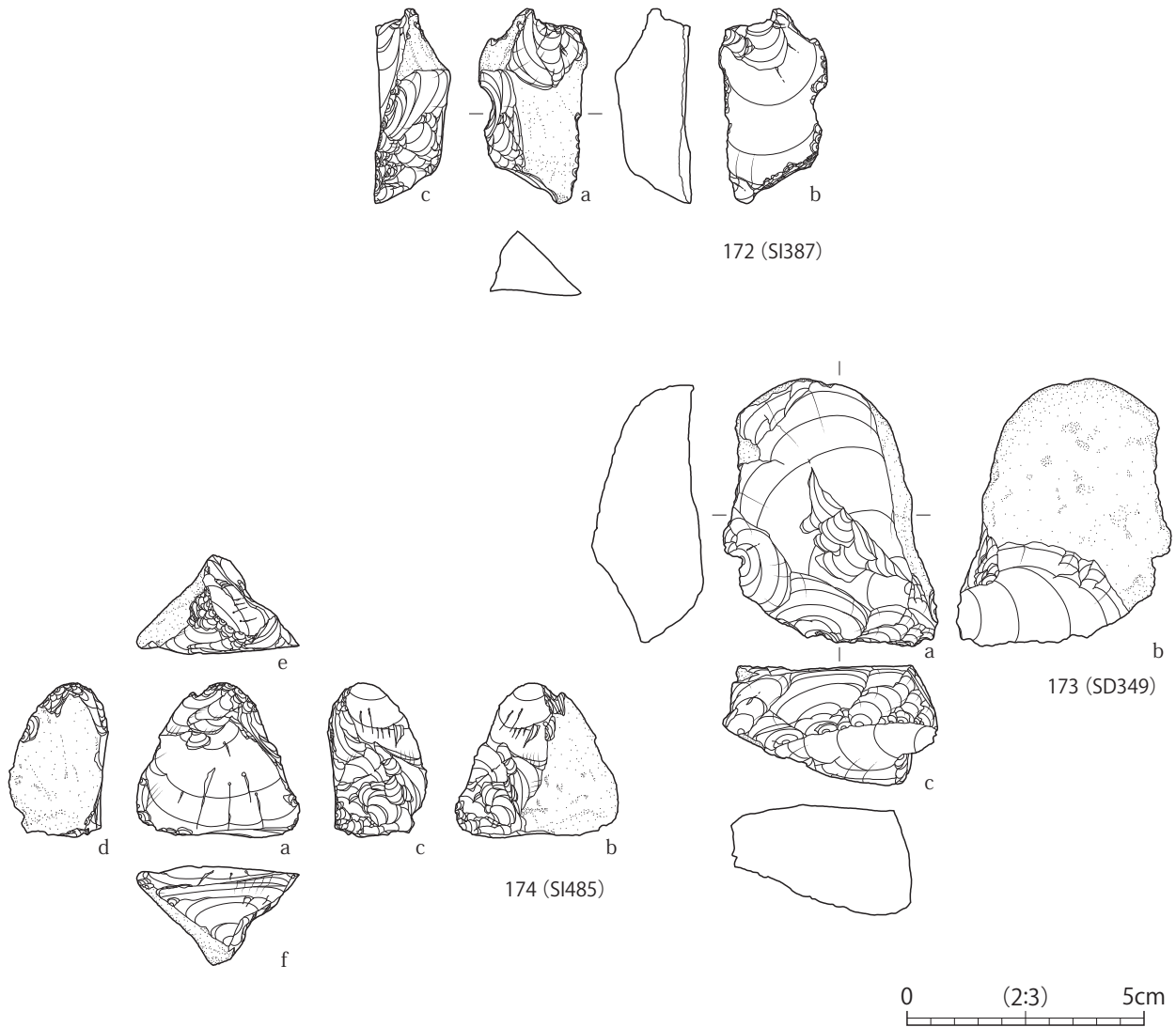
両極剥片 (第463図)

188はa・b面に二次加工が施されている。a・c面に自然面を残す。石材は流紋岩である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
165	Ka-024	SI485 カマド	堆積土	打製石器	削器	(3.3)	(2.9)	1.1	6.1	頁岩	上下端部欠損 二次加工(a・b面)	373
166	Ka-036	調査区 中央南	確認面	打製石器	削器	2.9	2.5	1.0	5.7	頁岩	二次加工(a・b面) 自然面あり	373
167	Ka-031	SI513	堆積土	打製石器	削器	(4.8)	(4.0)	1.0	15.9	流紋岩	上端・下端の一部欠損 二次加工(a面)	373
168	Ka-032	SI523	堆積土	打製石器	削器	5.8	4.3	1.1	25.7	流紋岩	二次加工(a・b面) 自然面あり	373
169	Ka-038	SI517 P2	堆積土	打製石器	削器	(3.6)	2.7	0.9	8.5	黒色頁岩	下端欠損 二次加工(a・b面) 自然面あり	373
170	Ka-056	Pit631	堆積土	打製石器	削器	5.6	4.6	2.1	41.0	流紋岩	二次加工(a・b面) 自然面あり	374
171	Ka-051	SD328	堆積土	打製石器	削器	4.8	4.7	2.4	53.9	流紋岩	二次加工(a・b面) 自然面あり 黒色付着物あり	374

第460図 包含層外出土石器(2)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
172	Ka-029	SI387	堆積土	打製石器	搔器	4.1	2.3	1.6	10.5	珪質頁岩(●)	二次加工(a・b面)自然面あり	374
173	Ka-054	SD349	堆積土	打製石器	搔器	5.6	4.5	2.5	65.0	流紋岩	二次加工(a・b面)自然面あり	374
174	Ka-030	SI485	堆積土	打製石器	搔器	3.3	3.4	2.1	17.0	黒曜石	二次加工(a・b面)自然面あり	374

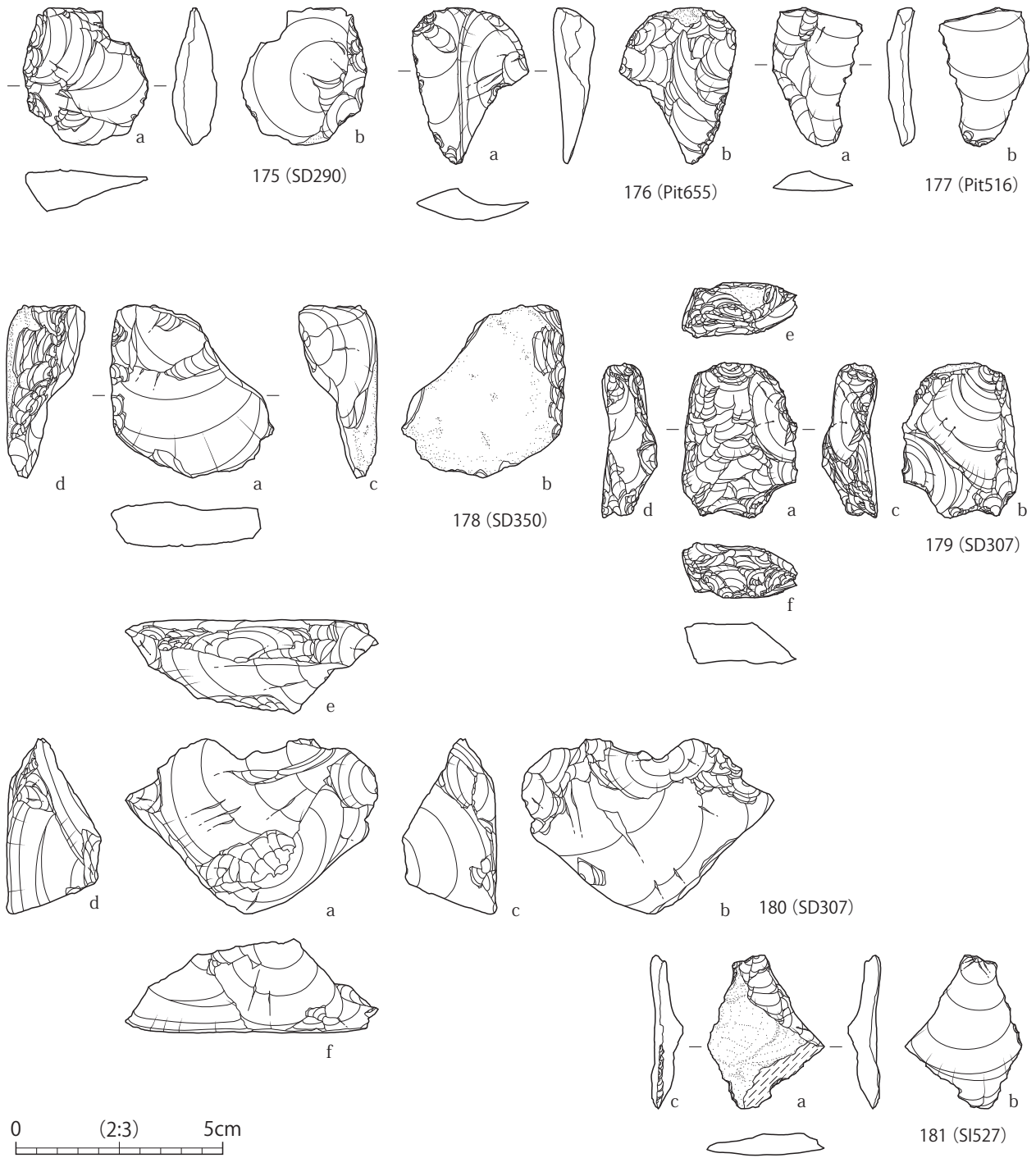
第461図 包含層外出土石器(3)

石核(第464・465図)

189～192は石核である。189は剥片素材を用い、a・b面を作業面として剥離作業を行う。190は礫を素材として、打面転移をくり返しながらか剥離作業を行う。またa・d面に敲打痕がみられる。191は分割した礫の自然面(a面)から側面にかけて剥離作業を行う。189・191・192は打面転移をしながら剥離作業を行う。石材は189・190・192が流紋岩、191が黒色片岩である。

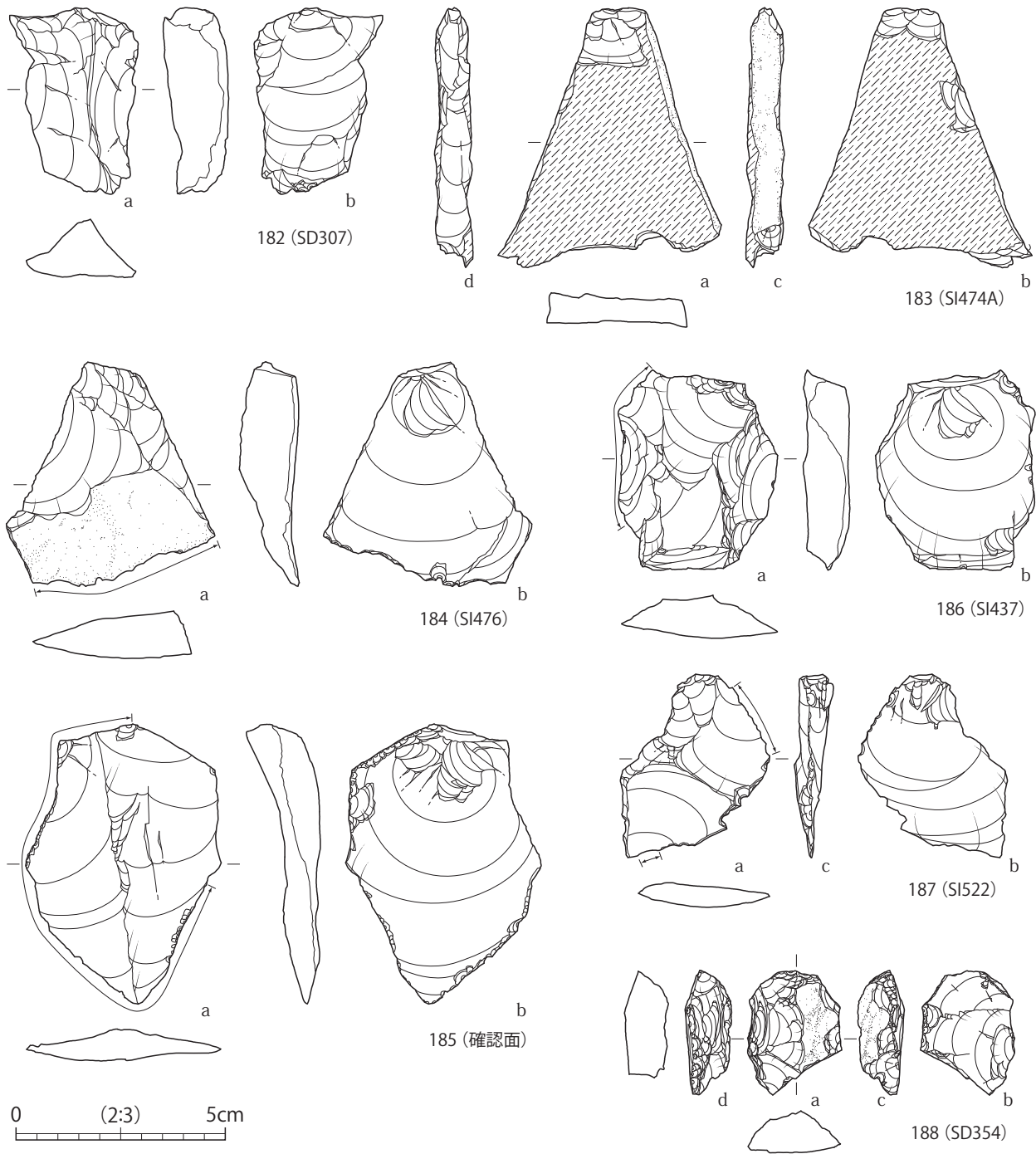
板状石器(第466・467図)

193・194は板状石器である。193はa・b面の下縁の一部に二次加工が施されている。またa面に自然面、b面に節理面を残す。194はa・b面の下縁に二次加工や調整が施され、刃部を形成する。またa面に自然面、b面に節理面を残す。石材はともに安山岩である。



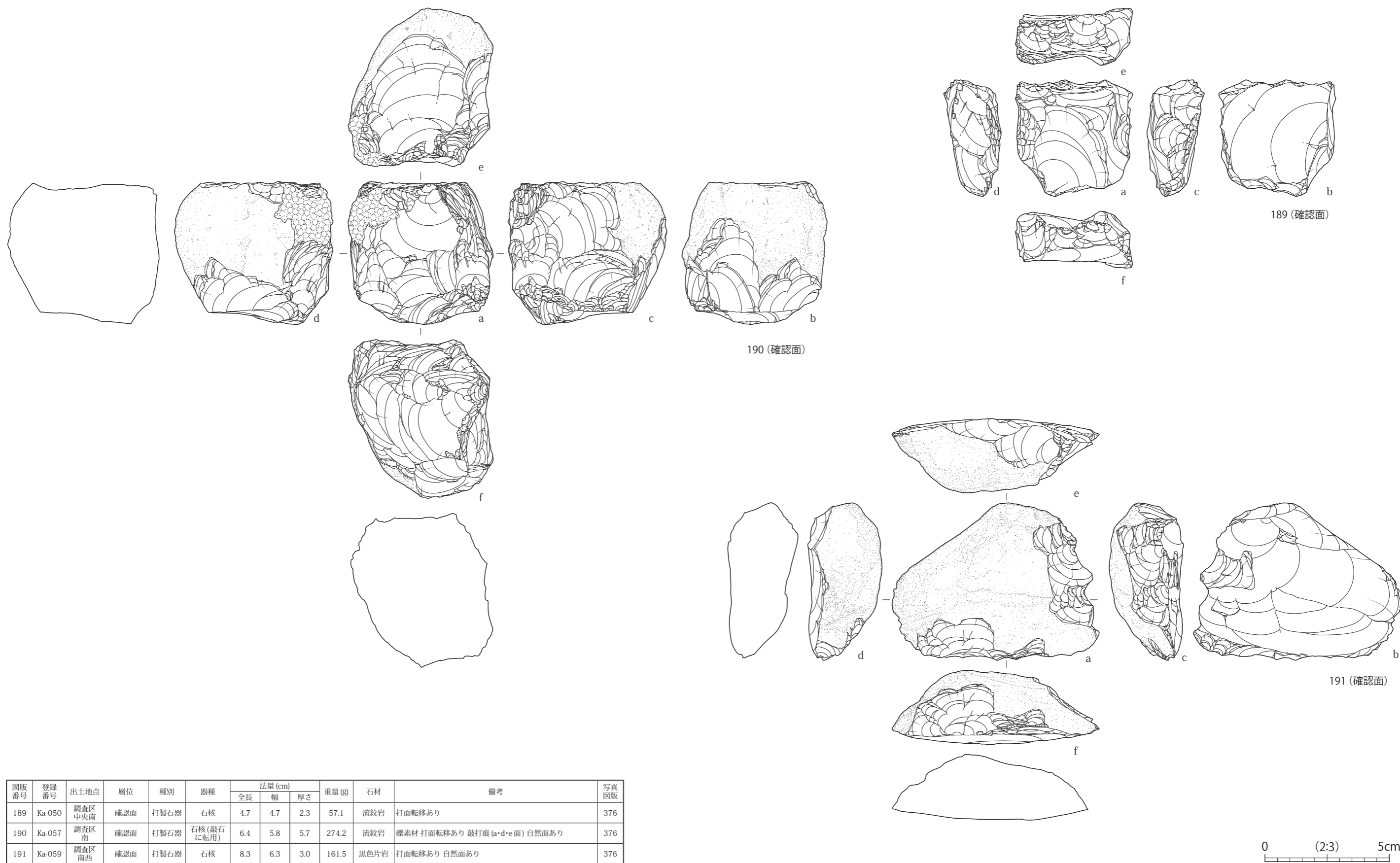
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
175	Ka-033	SD290	堆積土上層	打製石器	二次加工のある剥片	3.3	3.0	1.1	7.8	流紋岩	二次加工 (a・b 面) 自然面あり	374
176	Ka-035	Pit655	堆積土	打製石器	二次加工のある剥片	3.8	2.8	1.0	6.0	頁岩	二次加工 (a・b 面) 自然面あり	374
177	Ka-034	Pit516	堆積土	打製石器	二次加工のある剥片	3.3	2.2	0.7	3.1	流紋岩	二次加工 (a・b 面)	374
178	Ka-044	SD350	堆積土	打製石器	二次加工のある剥片	4.2	4.0	1.9	23.4	流紋岩	二次加工 (a・b 面) 自然面あり	374
179	Ka-041	SD307	堆積土	打製石器	二次加工のある剥片	3.7	2.8	1.3	14.1	黒曜石	二次加工 (a・b 面) 自然面あり	375
180	Ka-042	SD307	堆積土	打製石器	二次加工のある剥片	6.1	4.3	2.3	43.4	流紋岩	二次加工 (a・b 面)	375
181	Ka-040	SI527	堆積土	打製石器	二次加工のある剥片	3.7	2.8	0.8	4.3	流紋岩	二次加工 (a・b 面) 自然面あり 節理あり	374

第462図 包含層外出土石器 (4)

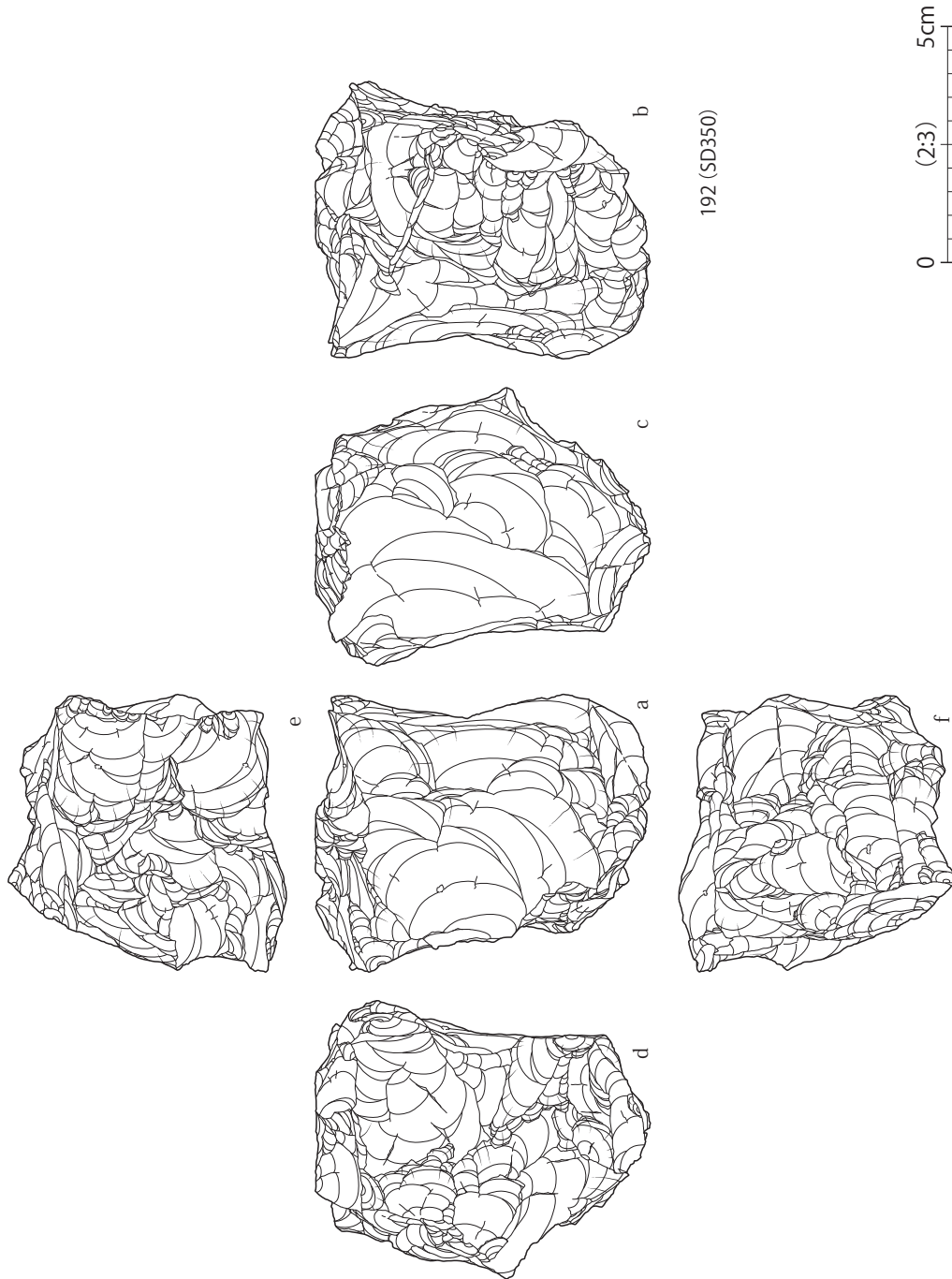


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
182	Ka-043	SD307	堆積土	打製石器	二次加工のある剥片	4.5	3.1	1.6	16.8	流紋岩	二次加工(b面)	375
183	Ka-046	SI474A	床面	打製石器	二次加工のある剥片	6.2	5.3	0.9	25.6	安山岩	二次加工(a・b面) 自然面あり 節理あり	375
184	Ka-039	SI476	掘り方	打製石器	二次加工+微細剥離のある剥片	5.3	5.00	1.4	23.2	ホルンフェルス(●)	二次加工(b面) 一縁辺に微細剥離痕 自然面あり	375
185	Ka-037	調査区南東	確認面	打製石器	二次加工+微細剥離のある剥片	6.7	4.7	1.8	25.0	流紋岩	二次加工(a・b面) 複数縁辺に微細剥離痕	375
186	Ka-045	SI437	掘り方	打製石器	微細剥離のある剥片	4.8	3.8	1.1	21.7	流紋岩	複数縁辺に微細剥離痕 節理あり	375
187	Ka-047	SI522	堆積土	打製石器	微細剥離のある剥片	4.4	3.6	0.9	7.2	流紋岩	複数縁辺に微細剥離痕	375
188	Ka-055	SD354	堆積土	打製石器	両極剥片	3.0	2.2	1.1	6.5	流紋岩	二次加工(a・b面) 自然面あり	376

第463図 包含層外出土石器(5)

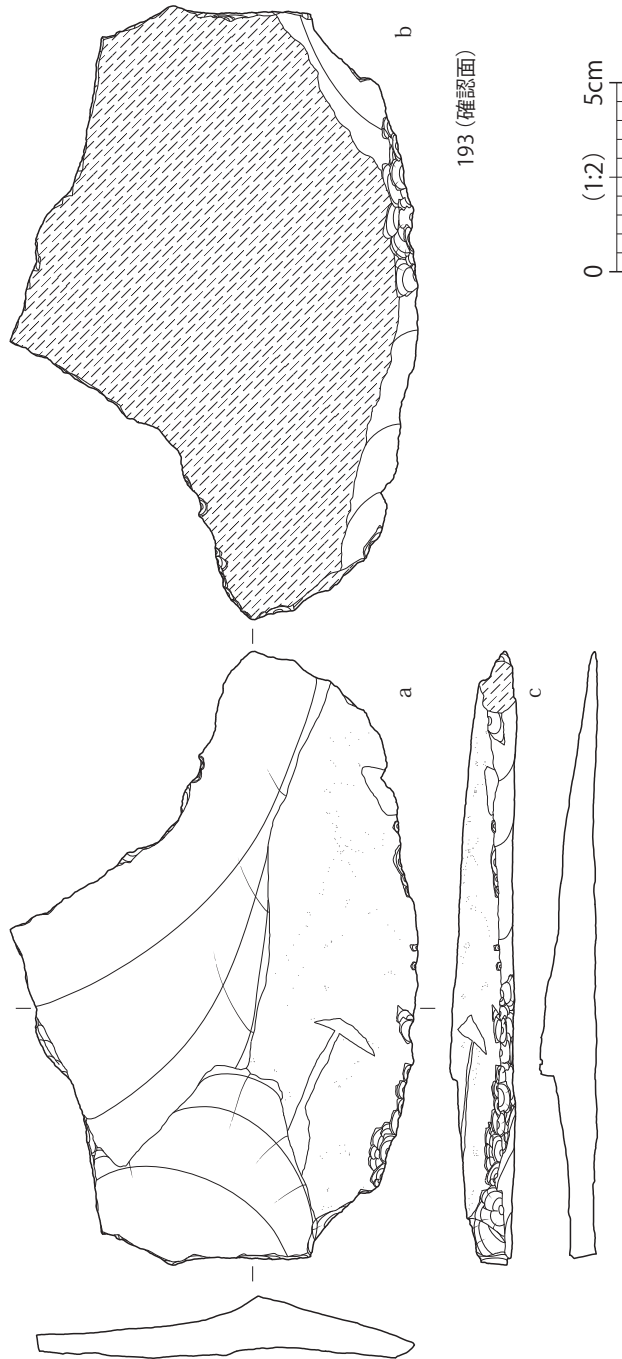


第464図 包含層外出土石器(6)



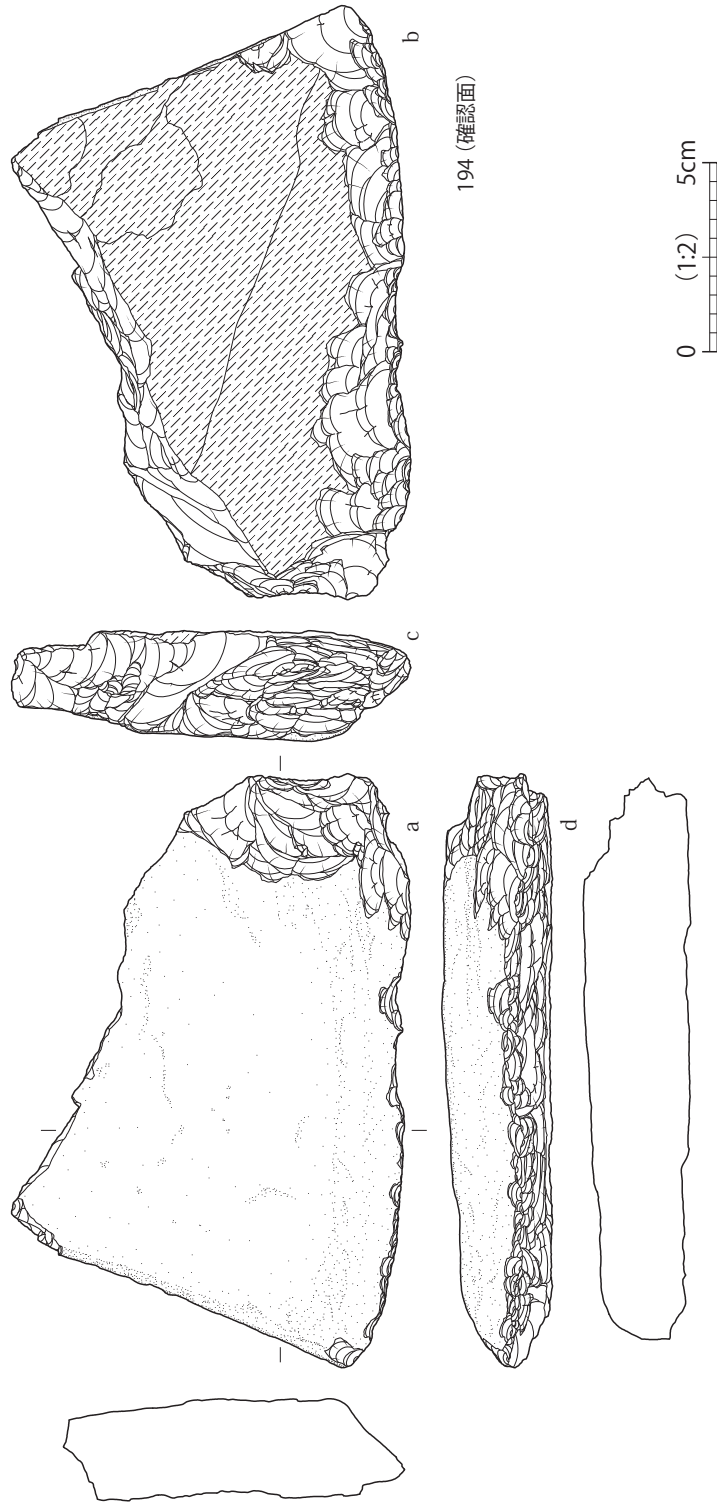
第465図 包含層外出土石器(7)

図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)		重量(g)	石材	備考	写真 図版
192	Ka-049	SD350	堆積土	打製石器	石核	全長 7.1	幅 5.9	厚さ 5.9	261.6	流紋岩 打面転移あり	377



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
193	Ka-058	調査区南	確認面	打製石器	板状石器	16.3	10.7	1.7	230.3	安山岩	二次加工(a・b面) 自然面あり 筋理あり	377

第466図 包含層外出土石器(8)



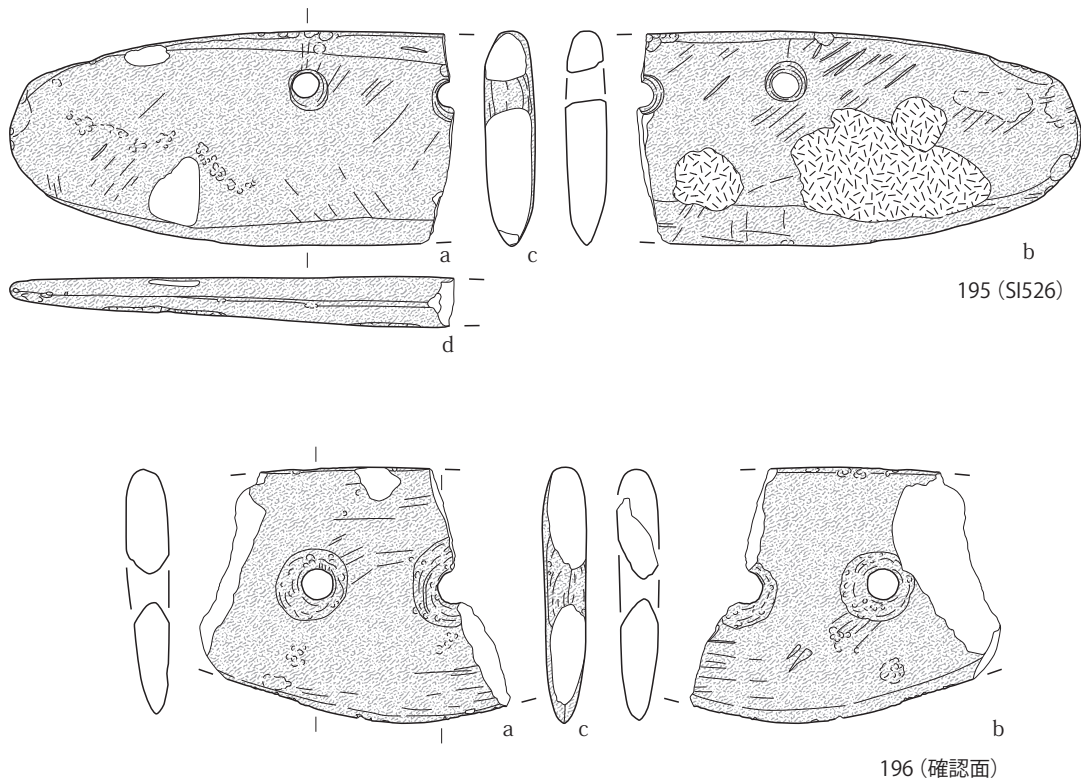
第467図 包含層外出土石器(9)

図版番号	登録番号	出土地点 調査区 中央南	層位 確認面	種別 打製石器	器種 板状石器	法量(cm)		重量(g)	石材 安山岩	備考 二次加工(a・b面)自然面あり 節理あり	写真 図版 377
						全長	幅 厚さ				
194	Ka-060					15.7	10.5 2.9	568.0			

2) 磨製石器

石庖丁 (第468図)

195・196は石庖丁の欠損品である。平面形状は、195は扁平な長楕円形状を呈し、196は下辺が「く」字状に内湾する半月状を呈すると考えられる。それぞれ2箇所の紐孔が認められる。195はほぼ中央部に孔が認められ、孔内径が0.6cmで、孔の間隔が2.4cmである。196は中央部上辺寄りに孔が認められ、孔内径が0.4cmで、孔の間隔が2.0cmである。195・196のいずれも全面が被熱により変色しており、195はb面に火ハネの痕跡がみられる。製作の際の敲打痕や研磨痕は顕著に認められなかった。石材は195が黒色片岩、196が砂岩である。



0 (2:3) 5cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
195	Kb-002	SI526	堆積土	磨製石器	石庖丁	(8.8)	4.3	1.0	49.3	黒色片岩	欠損品 刃部角 77-100° 孔内径 0.6cm 孔外径 0.8cm 孔間隔 2.4cm b面火ハネ痕あり a・b面被熱による変色あり	378
196	Kb-005	調査区	確認面	磨製石器	石庖丁	(6.2)	(5.1)	0.9	34.6	砂岩	欠損品 刃部角 85-113° 孔内径 0.4cm 孔外径 1.7cm 孔間隔 2.0cm a・b面被熱による変色あり	378

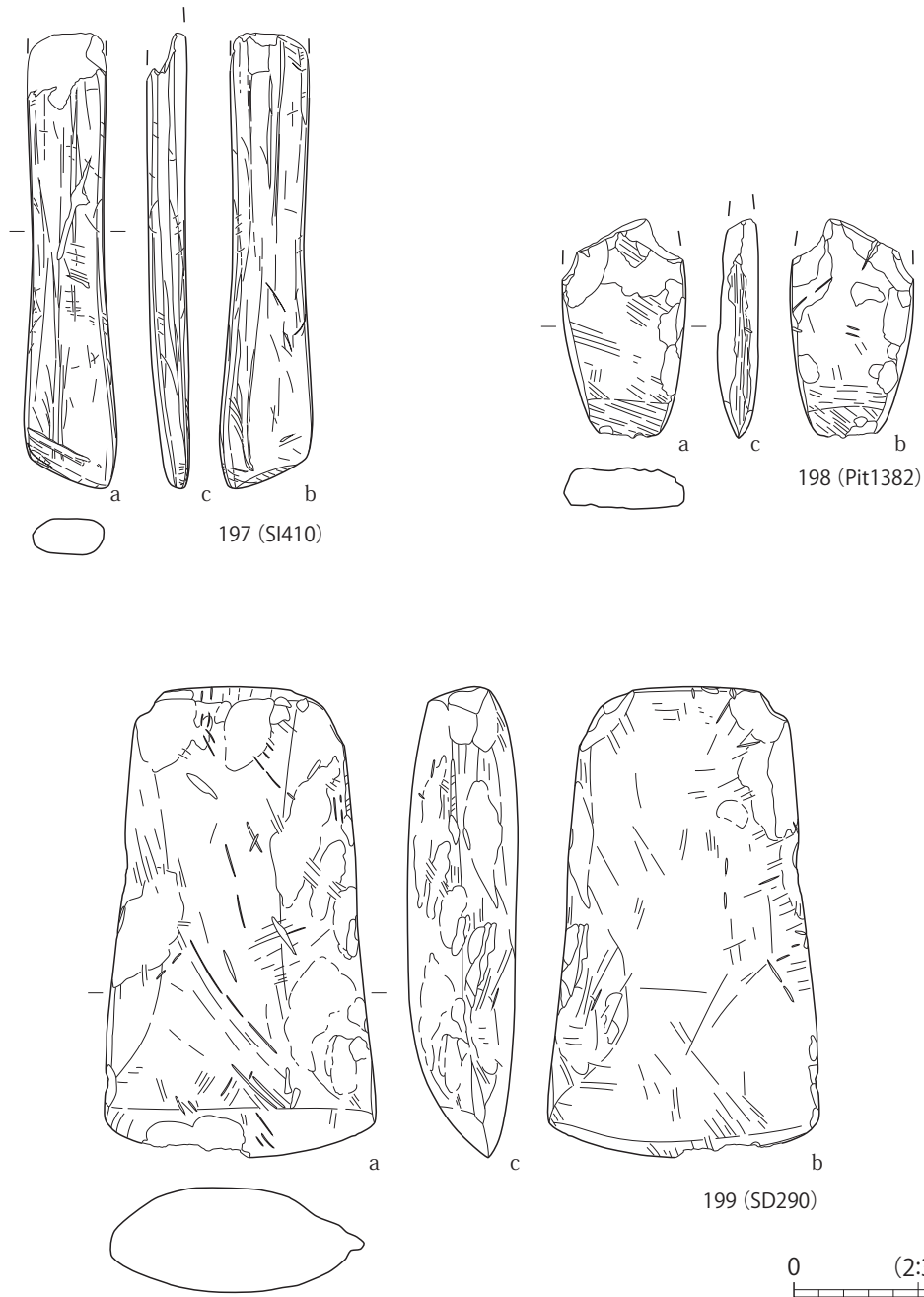
第468図 包含層外出土石器 (10)

ノミ状石器 (第469図)

197・198は形状がノミ状を呈するため、ノミ状石器とした。197は上端部が、198は上部が欠損している。197はa・b面に線条痕のほか溝状痕が認められ、研磨も著しいことから砥石としての機能があった可能性がある。198はa・b面の下端部に刃部が形成される。石材は197が黒色片岩、198が風化砂質粘板岩である。

磨製石斧 (第469図)

199は扁平片刃石斧である。最大幅は刃部にあり、断面形状は凸レンズ状を呈する。刃部は弧状を呈する。石材は風化粘板岩である。



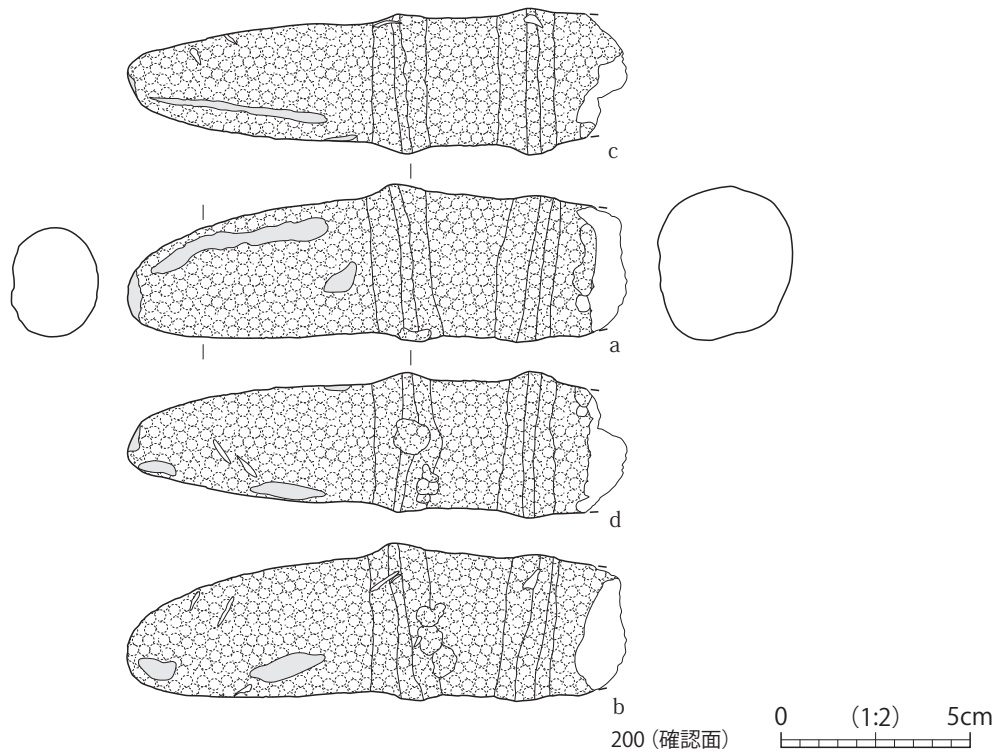
図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真 図版
						全長	幅	厚さ				
197	Kb-001	SI410	堆積土	磨製石器	ノミ状石器	(9.2)	1.9	0.7	21.5	黒色片岩	欠損品 刃部角 80°	378
198	Kb-004	Pit1382	堆積土	磨製石器	ノミ状石器	(4.4)	2.5	0.8	11.0	風化砂質 粘板岩(●)	欠損品 刃部角 67°	378
199	Kb-003	SD290	堆積土上層	磨製石器	片刃石斧	9.4	5.4	2.1	171.7	風化粘板岩 (●)	刃部欠損 刃部角 80°	378

第469図 包含層外出土石器(11)

3) 石製品

独鈷石(第470図)

200は独鈷石である。全面を敲打で整形し、a～d面に部分的な磨面がみられる。石材は安山岩である。



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真 図版
						全長	幅	厚さ				
200	Kd-048	調査区 中央	確認面	石製品	独鈷石	(13.2)	4.2	3.6	286.1	安山岩	敲打痕(a-d面) 磨面(a-d面) 端部欠損	378

第470図 包含層外出土石器(12)

(4) 接合資料(第471～475図)

接合資料を7点確認した。基本層IV・V層出土の資料は1点(接合資料1)のみで、他は層位不明である。いずれも2～3点の石器が接合した程度であり、このうち石核を中心に接合したのは接合資料1・4で、接合資料2・3・5～7は剥片同士の接合であった。

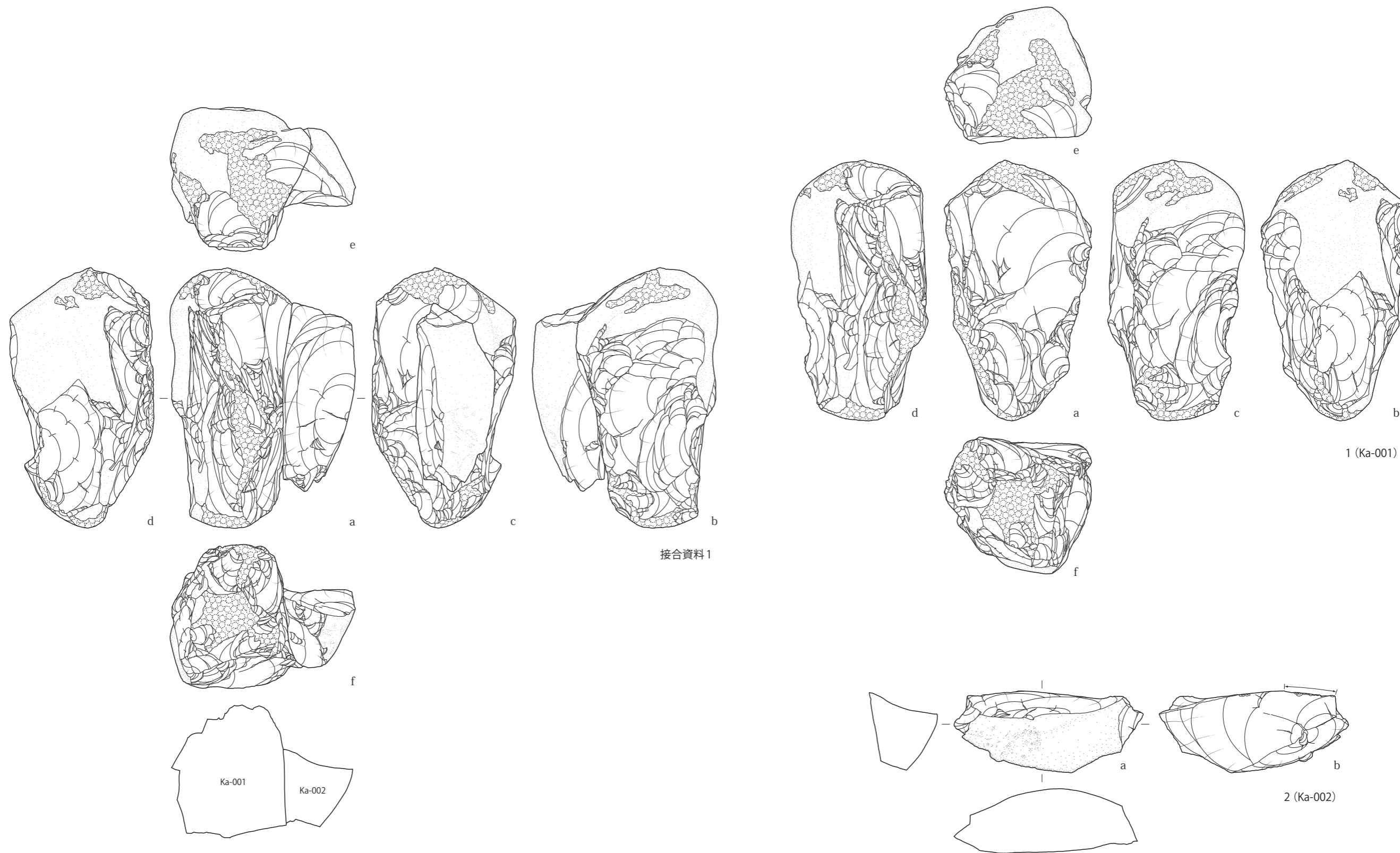
石材は接合資料1が頁岩、接合資料2が黒色頁岩、接合資料4がメノウ、接合資料3・5～7が流紋岩である。

接合資料1(第471図)

石核1点と微細剥離のある剥片1点の接合資料である。1(Ka-001)は弥生A区、2(Ka-002)はSD290堆積土からの出土である。同一方向から剥離される。1は2の剥離後、打面転移をくり返しながら剥離作業を行い、a～f面に敲打痕がみられる。2は上縁の一部に微細剥離が認められる。1・2ともに自然面を残す。石材は頁岩である。

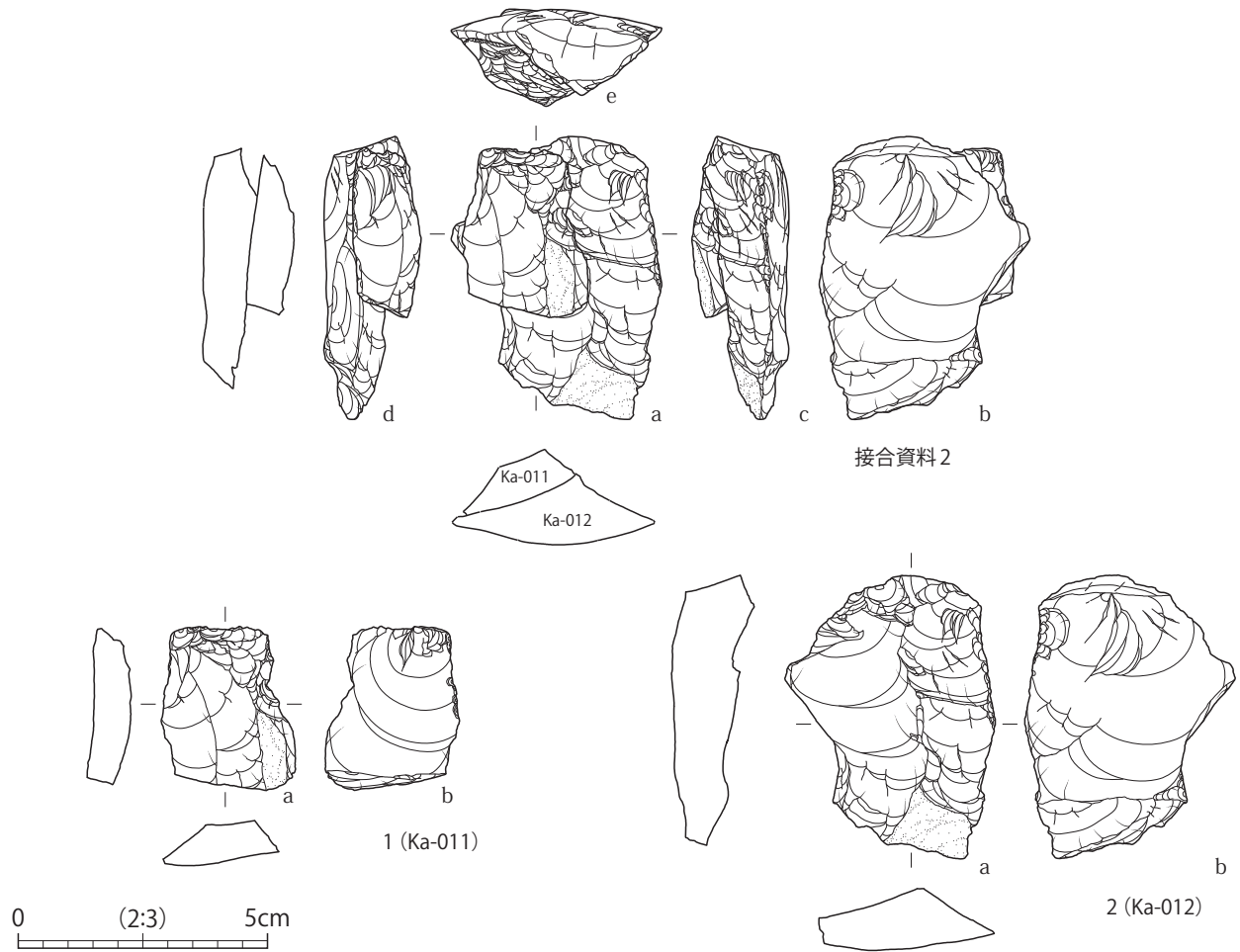
接合資料2(第472図)

剥片1点と二次加工のある剥片1点の接合資料である。1(Ka-011)は調査区中央南確認面、2(Ka-012)はSD350堆積土からの出土である。同一方向から剥離される。2はa・b面の側縁部に二次加工が施されている。1・2ともに自然面を残す。石材は黒色頁岩である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
1	Ka-001	弥生A区	IV・V層	打製石器	石核(敲石に転用)	9.7	5.5	5.1	319.0	頁岩	接合資料1 礫素材 打面転移あり 敲打痕(a-f面) 自然面あり	379
2	Ka-002	SD290	堆積土	打製石器	微細剥離のある剥片	7.0	3.1	2.5	51.3	頁岩	接合資料1 一縁辺に微細剥離痕 自然面あり	379

第471図 接合資料1



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
1	Ka-011	調査区中央南	確認面	打製石器	剥片	3.3	2.7	0.8	8.6	黒色頁岩	接合資料2 自然面あり	380
2	Ka-012	SD350	堆積土	打製石器	二次加工のある剥片	5.7	4.2	1.2	28.9	黒色頁岩	接合資料2 二次加工(a・b面) 自然面あり	380

第472図 接合資料2

接合資料3 (第473図)

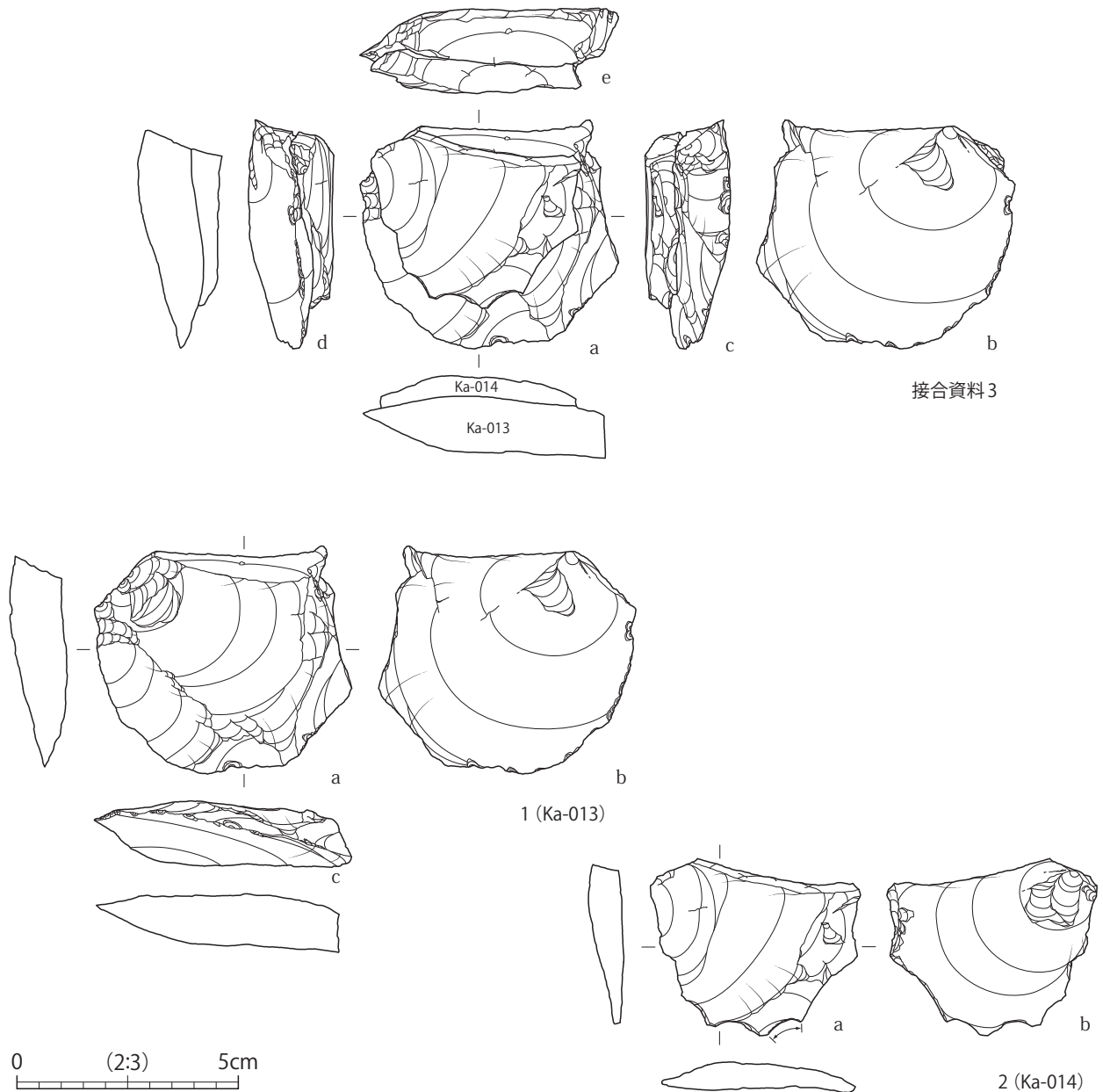
二次加工のある破片2点の接合資料である。1 (Ka-013) は調査区南中央確認面、2 (Ka-014) はSD307堆積土からの出土である。同一方向から剥離される。1はa面の側縁部に二次加工が施されている。2はb面の側縁部に二次加工が施され、下縁の一部に微細剥離が認められる。石材は流紋岩である。

接合資料4 (第475図)

微細剥離のある剥片1点と石核1点の接合資料である。1 (Ka-015) はSI453床面、2 (Ka-016) はSI490掘り方からの出土である。1は下縁から左側縁部にかけて微細剥離がみられる。2は礫を素材とし打面転移をしながら剥離作業が行われる。石材はメノウである。

接合資料5 (第475図)

剥片1点と二次加工のある剥片1点の接合資料である。3 (Ka-017) はSD307堆積土、4 (Ka-018) は調査区南西確認面からの出土である。同一方向から剥離される。4はa面の側縁部に二次加工が施されている。石材は流紋岩である。



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真 図版
						全長	幅	厚さ				
1	Ka-013	調査区 中央南	確認面	打製石器	二次加工の ある剥片	5.8	5.1	1.4	41.0	流紋岩	接合資料3 二次加工(a面)	380
2	Ka-014	SD307	堆積土	打製石器	二次加工+ 微細剥離の ある剥片	4.7	4.0	0.8	13.5	流紋岩	接合資料3 二次加工(b面) 一縁辺に微細剥離痕	380

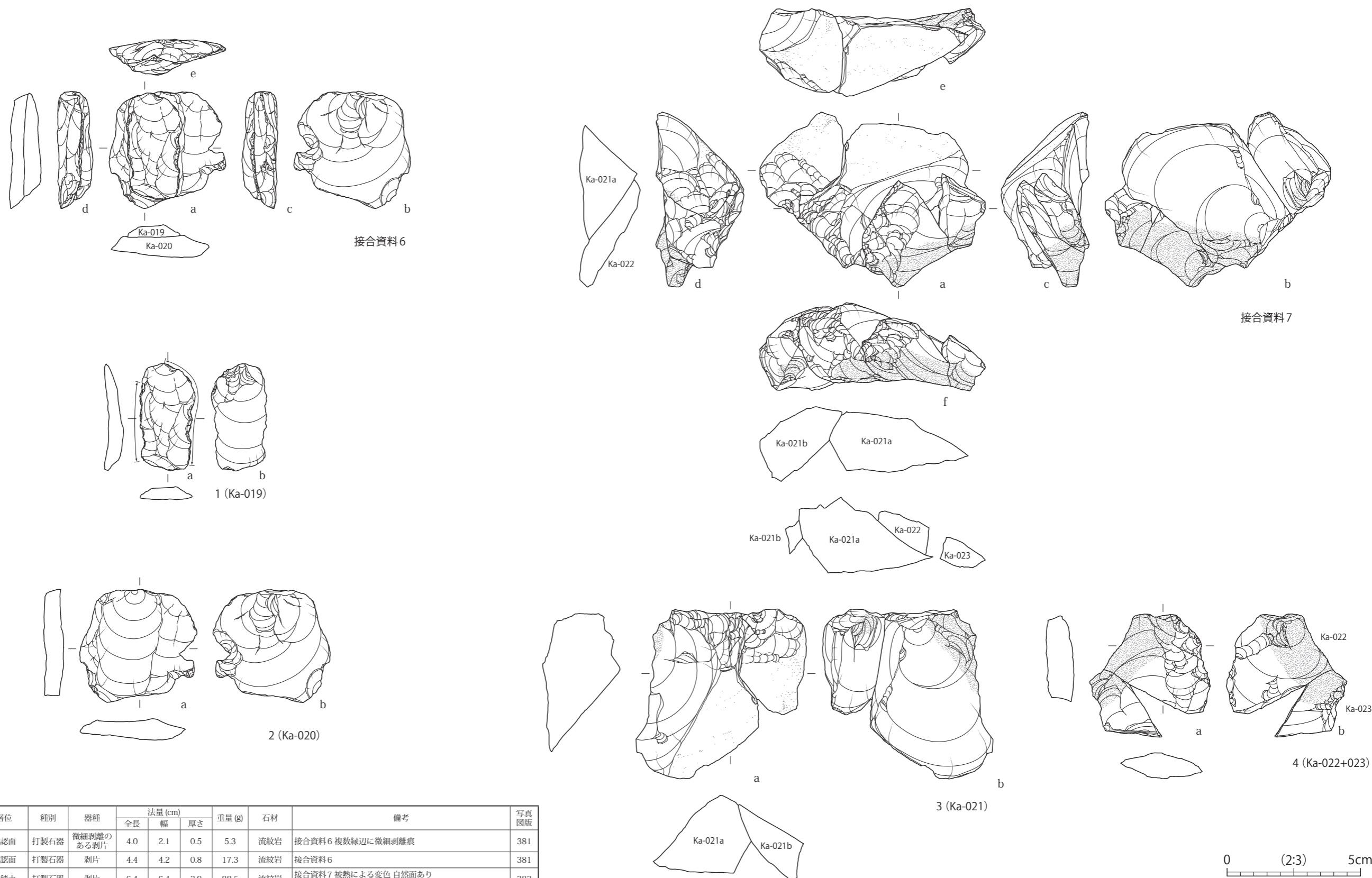
第473図 接合資料3

接合資料6 (第474図)

微細剥離のある剥片1点と剥片1点の接合資料である。1 (Ka-019)・2 (Ka-020) はいずれも確認面からの出土である。同一方向から剥離される。1は下縁を除く周縁部に微細剥離がみられる。石材は流紋岩である。

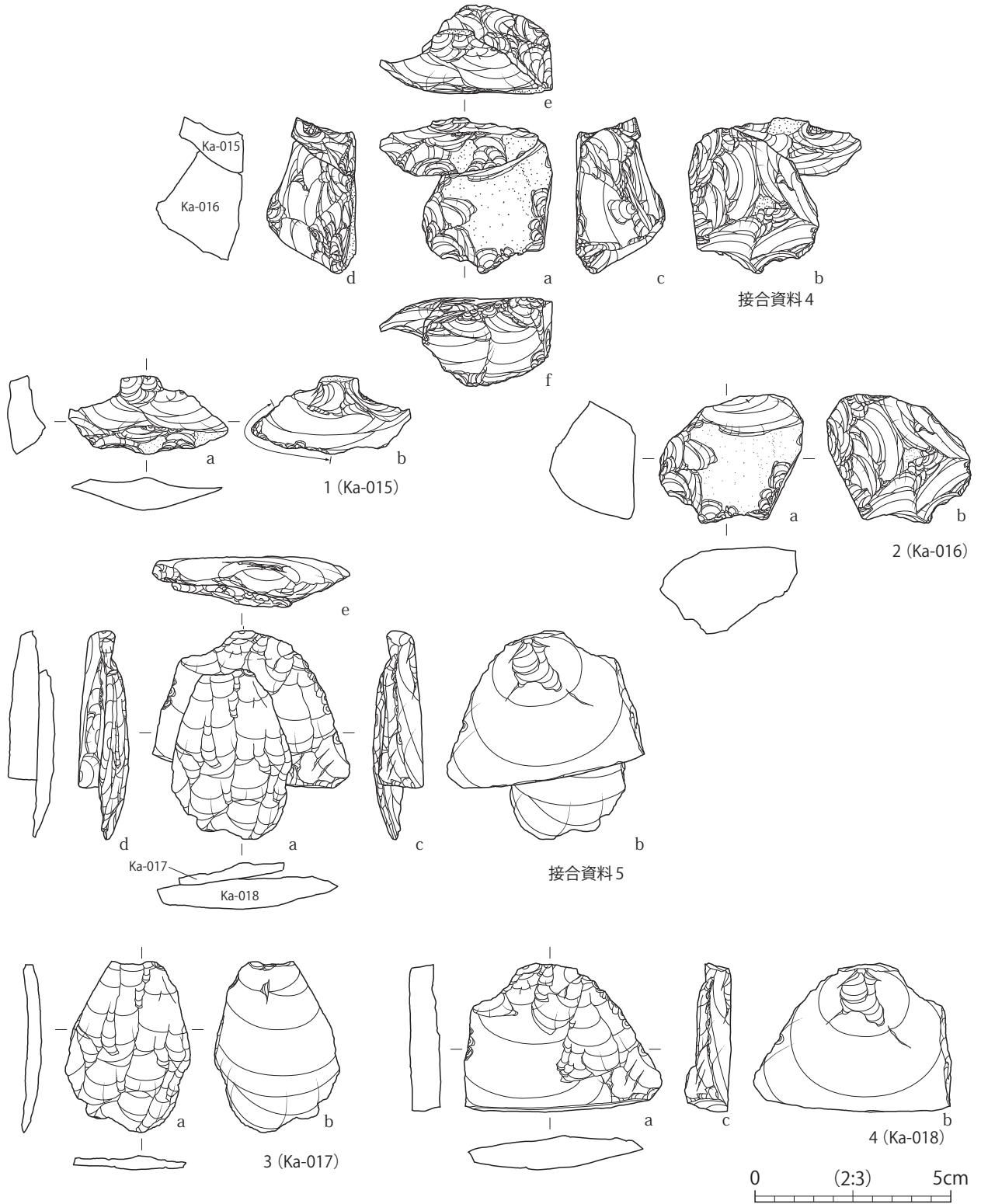
接合資料7 (第474図)

剥片3点の接合資料である。3 (Ka-021) はSD307の堆積土、4 (Ka-022・023) はSI527とSD328の堆積土からの出土である。接合資料の下部は被熱により変色している。石材は流紋岩である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
1	Ka-019	調査区	確認面	打製石器	微細剥離のある剥片	4.0	2.1	0.5	5.3	流紋岩	接合資料6 複数縁辺に微細剥離痕	381
2	Ka-020	調査区	確認面	打製石器	剥片	4.4	4.2	0.8	17.3	流紋岩	接合資料6	381
3	Ka-021	SD307	堆積土	打製石器	剥片	6.4	6.4	2.9	88.5	流紋岩	接合資料7 被熱による変色 自然面あり 同時割れによるKa-021a・bあり	382
4	Ka-022 Ka-023	SI527 SD328	堆積土 堆積土	打製石器	剥片	4.6	4.5	1.0	18.8	流紋岩	接合資料7 被熱による変色	382

第474図 接合資料6・7

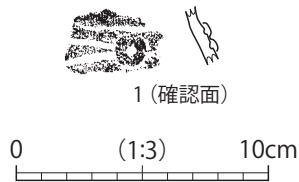


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
1	Ka-015	SI453	床面	打製石器	微細剥離のある剥片	4.1	2.0	1.0	4.9	メノウ	接合資料4 一縁辺に微細剥離痕 自然面あり	381
2	Ka-016	SI490	掘り方	打製石器	石核	3.7	3.3	2.1	24.6	メノウ	接合資料4 礫素材 打面転移あり 自然面あり	381
3	Ka-017	SD307	堆積土	打製石器	剥片	4.4	3.2	0.4	5.8	流紋岩	接合資料5	381
4	Ka-018	調査区南西	確認面	打製石器	二次加工のある剥片	5.0	3.8	1.2	18.6	流紋岩	接合資料5 二次加工 (a面)	381

第475図 接合資料4・5

(5) 縄文土器 (第476図)

古代遺構確認面から出土した1点を掲載した。深鉢の破片で、内傾する体部から体部上端が緩やかに屈曲する。装飾文様は体部上位に横位・斜位直線文が施文され、文様の交点にボタン状貼付文が付される。沈線幅は2.0mm前後で、断面形はコ字形を呈する。内面は摩滅気味だが、ナデが施されていると考えられる。器形や文様の特徴から縄文時代後期前葉に比定される。



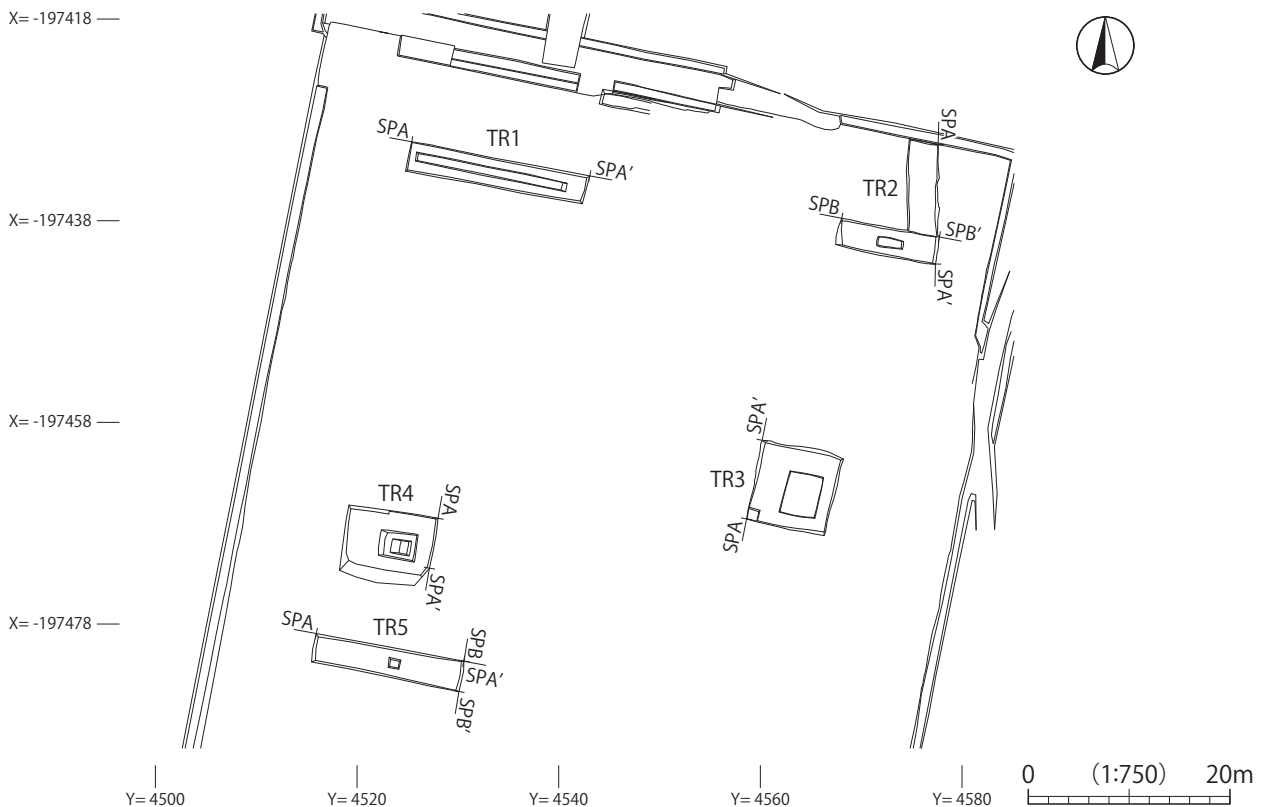
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考	写真図版
1	A-001	調査区南	確認面	縄文土器	深鉢	体部上位	体部：横位+斜位直線文・ボタン状貼付文	ナデ		382

第476図 包含層外出土縄文土器

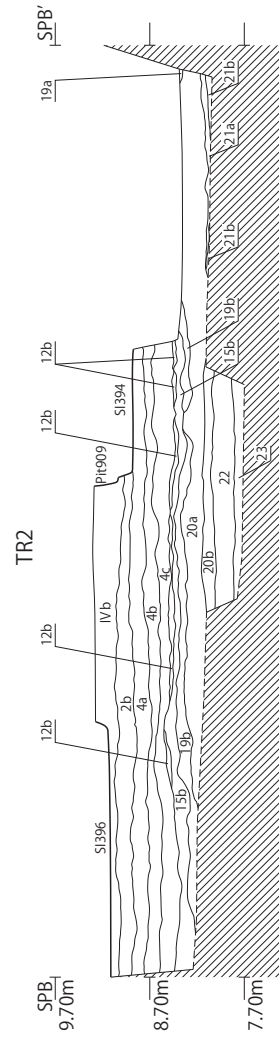
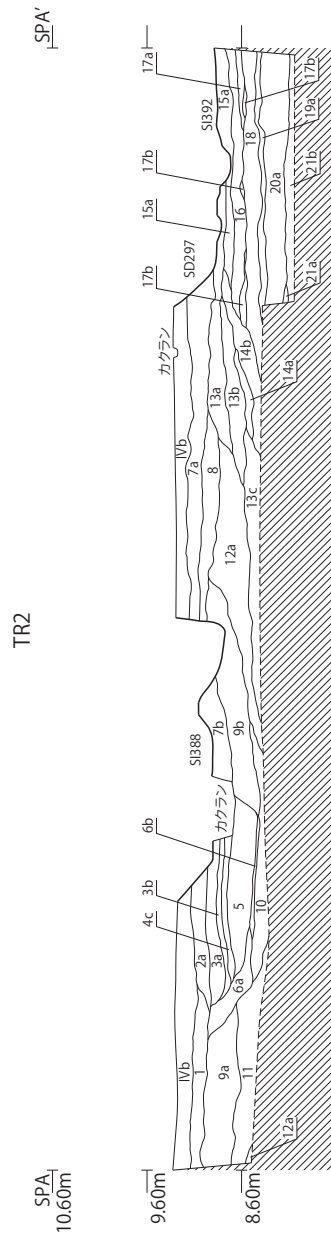
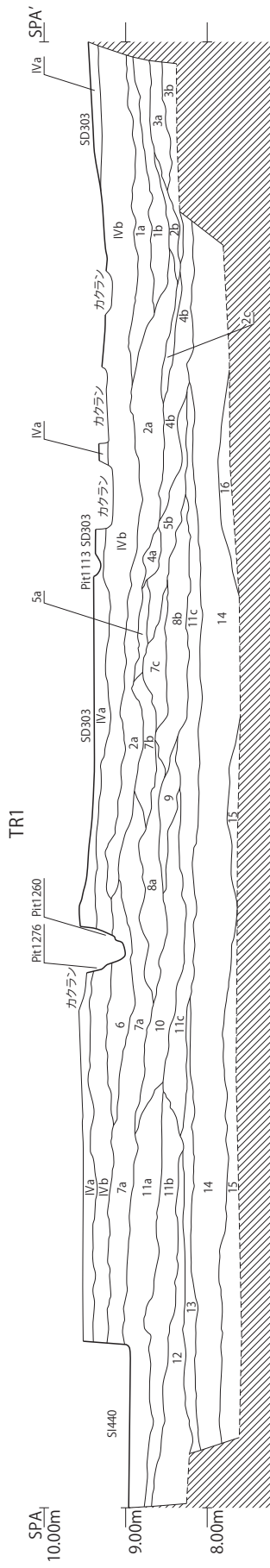
(6) 下層トレンチ調査 (第477～479図)

弥生時代の包含層調査と並行して、包含層下の状況を確認するためのトレンチ調査を実施した。トレンチはTR1～5の5箇所を任意で設定し、バックホウ(バケツ容量0.4m³)を使用して掘削した。なお、TR1は北西部、TR2は北東部、TR3は東部、TR4・5は西部にそれぞれ設定した。

各トレンチは、深掘り部分も含め1.5～2.5m程度の深さで掘削したが、いずれも基本層IV層もしくはVI層より下層は砂・礫といった河川堆積物が厚く堆積しており、遺構・遺物などは確認できなかった。



第477図 下層トレンチ配置図



第478図 図 TR1・2断面図

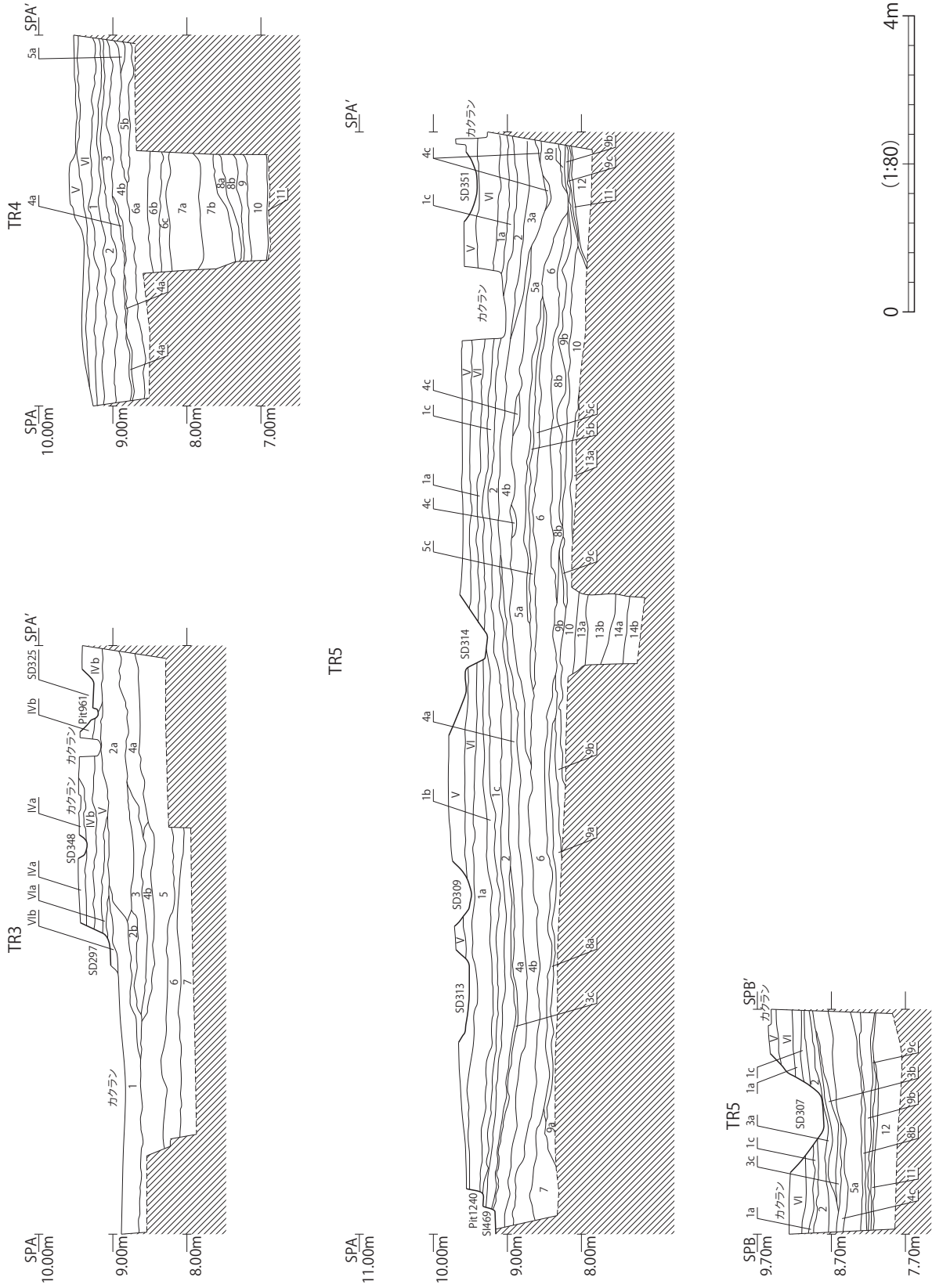
第5章 検出遺構と出土遺物

TR1 註記表

層位		土色	土性	備考	
基本土層	IV	a	10YR4/6 褐色	シルト	植物痕・虫生痕多量入り込む。
		b	10YR4/4 褐色～ 10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	植物痕・虫生痕多量入り込む。
河川堆積層	1	a	10YR4/4 褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト斑状に含む。
		b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト斑状に含む。
	2	a	10YR4/4 褐色	細砂	にぶい黄褐色砂質シルト部分的に、酸化鉄帯状に含む。
		b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂斑状に含む。
		c	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
	3	a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	細砂斑状に含む。
		b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト・酸化鉄斑状に含む。
	4	a	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト・酸化鉄斑状に含む。
		b	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。
	5	a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト・酸化鉄斑状に含む。
		b	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト・酸化鉄斑状に含む。
	6	a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黄褐色シルト斑状に含む。
	7	a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	細砂・粗砂帯状に含む。
		b	10YR5/6 黄褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト・酸化鉄斑状に含む。
		c	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト・酸化鉄斑状に含む。
	8	a	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	酸化鉄斑状に、マンガン粒含む。
		b	10YR4/4 褐色	シルト	細砂・酸化鉄斑状に含む。
	9	a	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂を帯状に、酸化鉄斑状に含む。
	10	a	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト・酸化鉄斑状に含む。
	11	a	10YR4/6 褐色	砂質シルト	細砂斑状に含む。
b		10YR4/6 褐色	砂質シルト	細砂・酸化鉄斑状に含む。	
c		10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂・酸化鉄斑状に含む。	
12	a	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト・酸化鉄斑状に含む。	
13	a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	上位にマンガン粒含む、下位に酸化鉄沈着。	
14	a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	細砂・粗砂との互層。酸化鉄帯状に含む。	
15	a	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	粗砂部分的に含む。	
16	a	2.5Y4/3 オリーブ褐色	粗砂		

TR2 註記表

層位		土色	土性	備考	
基本土層	IV	b	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	植物痕多量、白色粒子微量含む。植物痕・虫生痕多量入り込む。
		1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルト斑状に含む。
河川堆積層	2	a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
		b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐色砂質シルト部分的に含む。
	3	a	10YR5/4 にぶい黄褐色	細砂	
		b	10YR4/4 褐色	細砂	
	4	a	10YR4/6 褐色	砂質シルト	
		b	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
		c	10YR4/6 褐色	砂質シルト	細砂部分的に含む、酸化鉄斑状に含む。
	5	a	10YR6/2 灰黄褐色	粗砂	酸化鉄部分的に含む。
	6	a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
		b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。
	7	a	10YR6/2 灰黄褐色	粗砂	酸化鉄斑状に含む。
		b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粗砂	黄褐色シルト斑状に含む。
	8	a	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。
	9	a	10YR4/6 褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。
		b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂・酸化鉄斑状に含む。
	10	a	10YR6/2 灰黄褐色	細砂	酸化鉄斑状に含む。
	11	a	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。
	12	a	10YR5/4 にぶい黄褐色	細砂	酸化鉄斑状に含む。
		b	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	
	13	a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。
b		10YR4/4 褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。	
c		10YR5/6 黄褐色	砂質シルト		
14	a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	細砂斑状に含む。	
	b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂斑状に含む。	
15	a	10YR4/4 褐色	砂質シルト		
	b	10YR4/6 褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。	
16	a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂斑・酸化鉄斑状に含む。	
17	a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。	
	b	10YR4/4 褐色	細砂	酸化鉄斑状に含む。	
18	a	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂・酸化鉄斑状に含む。	
19	a	10YR4/4 褐色	細砂	酸化鉄斑状に含む。	
	b	10YR5/2 灰黄褐色	粗砂		
20	a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	細砂部分的に含む、マンガン粒・酸化鉄斑状に含む。	
	b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	酸化鉄斑状に含む。	
21	a	10YR6/2 灰黄褐色	シルト		
	b	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト		
22	a	10YR5/2 灰黄褐色	細砂	酸化鉄帯状に含む。	
23	a	10YR6/1 褐灰色	シルト		



第479図 TR3～5断面図

第5章 検出遺構と出土遺物

TR3 註記表

層位		土色	土性	備考	
基本土層	IV	a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	植物痕・虫生痕多量入り込む。
		b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック含む。植物痕・虫生痕多量入り込む。
	V	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色シルト斑状に含む。	
	VI	a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黄褐色シルト粒少量含む。
b		10YR4/4 褐色	シルト		
河川堆積層	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂部分的に含み、酸化鉄斑状に含む。	
	2	a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黄褐色シルト斑状に含む。
		b	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	黒褐色細砂部分的に含み、酸化鉄斑状に含む。	
	4	a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄部分的に含む。
		b	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	
	5	10YR5/2 灰黄褐色	粗砂		
	6	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	細砂部分的に含み、マンガン粒・酸化鉄斑状に含む。	
7	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	上位にマンガン沈着。酸化鉄斑状に含む。		

TR4 註記表

層位		土色	土性	備考	
基本土層	V	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒含む。	
	VI	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐色シルトブロック含む。	
河川堆積層	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。	
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト		
	3	10YR5/1 褐灰色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。	
	4	a	5PB5/1 青灰色	シルト	
		b	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。
	5	a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
		b	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	
	6	a	10YR5/2 灰黄褐色	細砂	
		b	10YR6/1 褐灰色	細砂	粗砂・礫含む。
		c	5YR4/4 にぶい赤褐色	細砂	粗砂・礫含む。
	7	a	N7/0 灰白色	砂礫	
		b	N5/0 灰色	砂礫	シルト含む。
	8	a	5B7/1 明青灰色	粘土質シルト	砂質シルトラミナ状に含む。
		b	5B7/1 明青灰色	粘土質シルト	
9	5P6/1 紫灰色	粘土質シルト			
10	5B7/1 明青灰色	粘土質シルト			
11	5PB4/1 暗青灰色	粘土質シルト			

TR5 註記表

層位		土色	土性	備考	
基本土層	V	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒含む。	
	VI	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐色シルトブロック含む。	
河川堆積層	1	a	10YR5/1 褐灰色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。
		b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。
		c	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。	
	3	a	10YR7/4 にぶい黄褐色	シルト	
		b	10YR5/1 褐灰色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。
		c	10YR7/4 にぶい黄褐色	シルト	
	4	a	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。
		b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。
		c	10YR4/1 褐灰色	シルト	
	5	a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。
		b	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。
		c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。
	6	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。	
	7	5YR4/2 灰褐色	シルト	砂礫含む。	
	8	a	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	
		b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	
	9	a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。
		b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。
		c	10YR4/1 褐灰色	シルト	砂質シルトラミナ状に含む。
10	10YR7/1 灰白色	シルト			
11	5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト			
12	7.5YR8/3 浅黄褐色	シルト			
13	a	10YR7/1 灰白色	砂礫		
	b	10YR5/1 褐灰色	砂礫		
14	a	N/7 灰白色	粘性シルト		
	b	N4/ 灰色	粘性シルト		

第6章 自然科学分析

第1節 長町駅東遺跡第14次調査の花粉分析(第480～482図、第39表)

パリノ・サーヴェイ株式会社

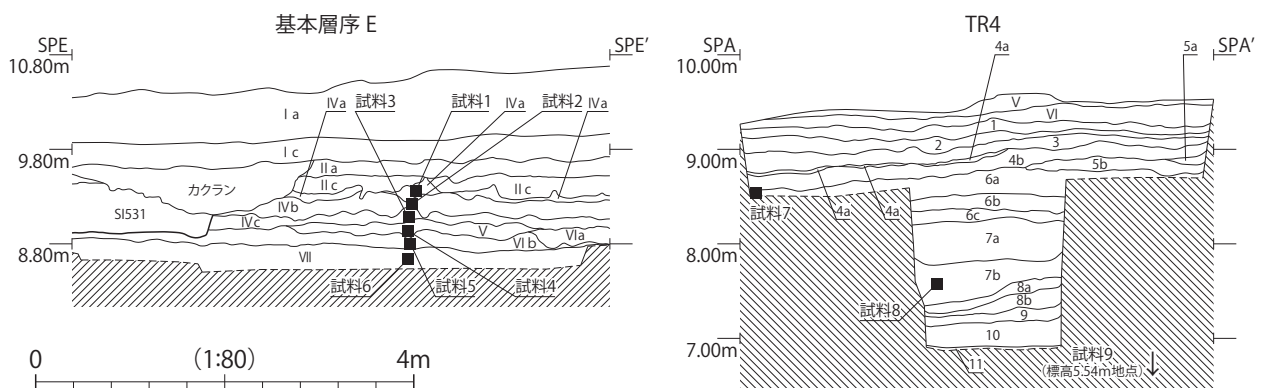
はじめに

長町駅東遺跡は、仙台市太白区長町に所在し、JR長町駅の東側に隣接する。広瀬川と名取川に挟まれた郡山低地の東側に位置し、標高10m前後の自然堤防上に立地する。これまでの発掘調査から6世紀末～8世紀初頭にかけての大規模な集落跡であることが判明している。

本報告では、令和元年度の調査で採取された土壌試料を対象に、古植生に関する情報を得ることを目的として、花粉分析を実施する。

(1) 試料

令和元年度の試料は、基本土層EのIVa層～VII層(試料1～6)、TR4の北壁6a層、7b層(試料7・8)、TR4深掘坑内のXIV層相当(試料9)の9点である。なお、TR4の6a層、8a層は、調査所見から河川堆積層とされている。この9点全点について花粉分析を実施する。



第480図 花粉分析試料採取位置

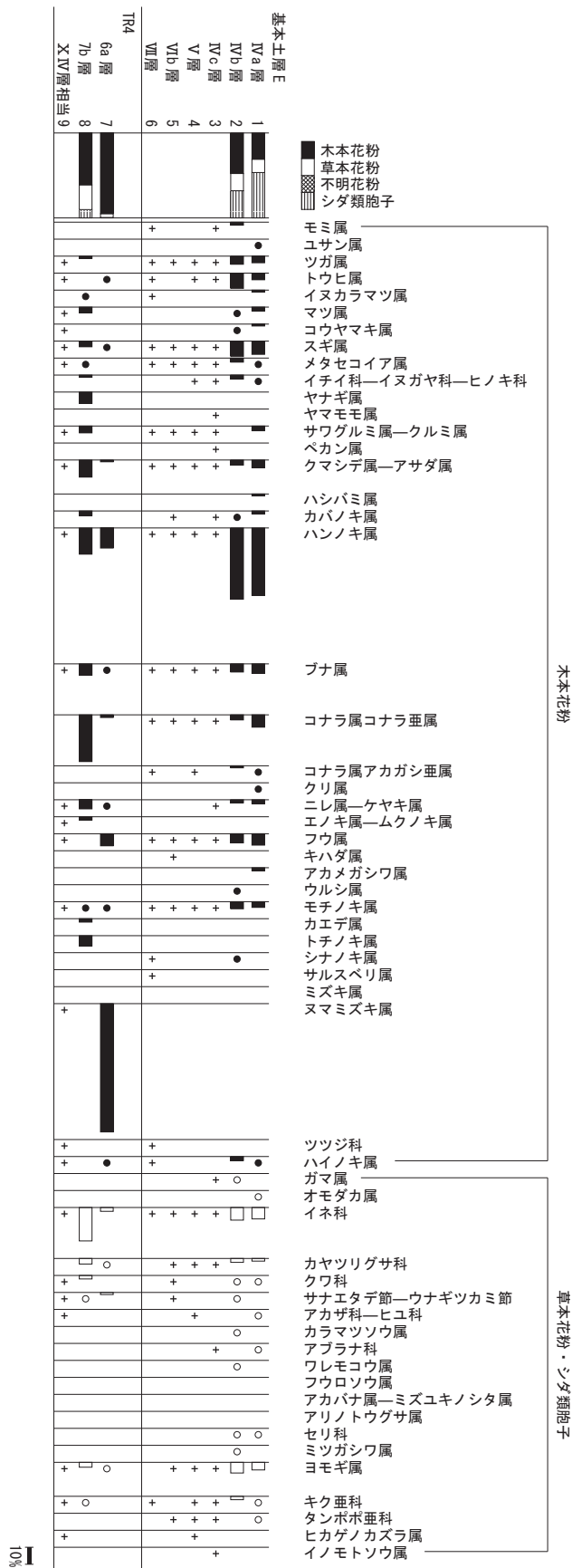
(2) 分析方法

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛、比重2.2)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9:濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンゼリーで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉(1973)、中村(1980)、藤木・小澤(2007)、三好ほか(2011)等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の分布図として表示する。図表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。なお、木本花粉総数が100個未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するにとどめておく。

第39表 花粉分析結果

種 類	基本土層E						TR4		XIV層 相当
	IV a層	IV b層	IV c層	V層	VI b層	VII	6a層	7b層	
	1	2	3	4	5	6	7	8	
木本花粉									
モミ属	-	3	2	-	-	3	-	-	-
ユサン属	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ツガ属	7	8	4	2	5	5	-	2	1
トウヒ属	7	15	5	2	-	5	1	-	1
イヌカラマツ属	2	-	-	-	-	4	-	1	-
マツ属(単維管束亜属)	-	-	-	-	-	-	-	1	-
マツ属(複維管束亜属)	4	1	-	-	-	-	-	4	1
コウヤマキ属	2	1	-	-	-	-	-	-	2
スギ属	14	15	12	11	2	2	2	5	1
メタセコイア属	1	4	7	6	2	1	-	1	1
イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科	1	4	2	4	-	-	-	2	-
ヤナギ属	-	-	-	-	-	-	-	10	-
ヤマモモ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-
サワグルミ属—クルミ属	5	-	3	3	2	1	-	6	2
ペカン属	-	-	1	-	-	-	-	-	-
クマシラ属—アサダ属	8	5	4	2	5	5	4	15	2
ハシバミ属	2	-	-	-	-	-	-	-	-
カバノキ属	3	1	1	-	1	-	-	4	-
ハンノキ属	71	70	32	17	21	42	45	23	29
ブナ属	10	8	4	2	3	1	3	10	15
コナラ属コナラ亜属	13	5	2	1	4	2	6	41	-
コナラ属アカガシ亜属	1	2	-	1	-	1	-	-	-
クリ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ニレ属—ケヤキ属	4	3	1	-	-	-	3	8	1
エノキ属—ムクノキ属	-	-	-	-	-	-	-	3	2
フウ属	12	9	4	3	6	5	27	-	7
キハダ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-
アカメガンシ属	3	-	-	-	-	-	-	-	-
ウルシ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-
モチノキ属	6	7	3	1	3	4	1	1	1
カエデ属	-	-	-	-	-	-	-	3	-
トチノキ属	-	-	-	-	-	-	-	9	-
シナノキ属	-	1	-	-	-	2	-	-	-
サルスベリ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ミズキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヌマミズキ属	-	-	-	-	-	-	287	-	8
ツツジ科	-	-	-	-	-	1	-	-	2
ハイノキ属	1	4	-	-	-	2	1	-	1
草本花粉									
ガマ属	-	2	1	-	-	-	-	-	-
オモダカ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ科	39	26	13	3	6	5	9	48	20
カヤツリグサ科	9	8	2	3	2	-	2	8	-
クワ科	4	1	-	-	1	-	-	5	1
サナエタデ節—ウナギツカミ節	-	1	-	-	1	-	5	2	3
アカザ科—ヒユ科	3	-	-	1	-	-	-	-	1
カラマツソウ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-
アブラナ科	2	-	1	-	-	-	-	-	-
ワレモコウ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-
フウロソウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカバナ属—ミズユキノシタ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アリノトウグサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科	1	1	-	-	-	-	-	-	-
ミツガンシ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	26	22	4	2	4	-	2	7	3
キク亜科	5	7	2	2	-	1	-	1	2
タンポポ亜科	1	-	1	1	1	-	-	-	-
シダ類胞子									
ヒカゲノカズラ属	-	-	-	1	-	-	-	-	2
イノモトソウ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-
その他のシダ類胞子	310	112	37	19	27	66	2	24	190
合 計									
木本花粉	179	167	88	55	55	87	380	149	77
草本花粉	91	71	24	12	15	6	18	71	30
シダ類胞子	310	112	38	20	27	66	2	24	192
合計	580	350	150	87	97	159	400	244	299



第481図 花粉化石群集

(3) 結果

結果を第39表および、第481図に示す。全体的に花粉化石の産出状況が悪く、保存状態もやや悪い～悪い。

令和元年度の基本土層Eでは、試料1・2から定量解析が行える程度の産出が認められた。花粉化石群集は、いずれも木本花粉の割合が高く、ハンノキ属が最も多く産出し、ツガ属、トウヒ属、スギ属、クマシデ属—アサダ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、モチノキ属などを伴う。消滅種はフウ属の他、ユサン属、メタセコイア属、ペカン属が確認された。草本花粉ではイネ科、ヨモギ属が多く認められ、カヤツリグサ科、キク亜科などを伴う。

花粉化石の産出が少ない試料3～6は、基本的に試料1・2と同様の種類が認められる。

同じく令和元年度のTR4をみると、試料7では木本花粉が優勢し、消滅種のヌマミズキ属が顕著に多産する。その他ではハンノキ属、フウ属などを伴う。草本花粉ではイネ科、サナエタデ節—ウナギツカミ節などが認められる。

試料8では木本花粉の割合が高く、コナラ亜属が最も多く産出する。その他ではヤナギ属、クマシデ属—アサダ属、ハンノキ属、ブナ属、ニレ属—ケヤキ属、トチノキ属などを伴う。草本花粉ではイネ科が最も多く、カヤツリグサ科、クワ科、ヨモギ属などが認められる。

試料9は定量解析が行えなかったが、木本花粉ではハンノキ属、ブナ属、フウ属、ヌマミズキ属などが、草本花粉ではイネ科、サナエタデ節—ウナギツカミ節、ヨモギ属などが確認された。

定量解析が行えなかった試料1～4・6でも、基本的には試料2・5・7で多く認められる種類が産出する。

(4) 考察

令和元年度の基本土層Eについてみると、周辺植生を反映する木本類の群集組成は類似しており、ハンノキ属が最も多く産出し、ツガ属、トウヒ属などの針葉樹、クマシデ属—アサダ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属などを伴う。多産するハンノキ属は河畔などに湿地林を形成する種類であることから、ヤナギ属、サワグルミ属—クルミ属、クマシデ属—アサダ属、ニレ属—ケヤキ属などとともに広瀬川や名取川沿いに分布していたと思われる。また、ブナ属、コナラ亜属は、冷温帯性落葉広葉樹林の主要構成要素であることから、周囲の丘陵や山地部に分布し、部分的にツガ属、トウヒ属などの針葉樹も生育していたと考えられる。これらが基本土層のいずれにおいても大きく変化していないことから、IV層が堆積した当時の本地域周辺で、同様の森林植生が続いていた可能性がある。

なお、検出された花粉化石のうち、ユサン属、メタセコイア属、ペカン属、フウ属、ヌマミズキ属は消滅種である。サルスベリ属は南西諸島の一部に分布するが、本土では消滅しているため消滅種といえる。微化石における消滅種の消長は、再堆積の影響もあるため厳密決めることは難しいが、古谷・田井(1993)、大井(2007)、大井・北田(2008)、本郷(2009)等を参考にすれば、フウ属は新第三紀からMa5(MIS17)あたりまで多く検出され(中期更新世まで)、メタセコイア属は新第三紀からMa2(MIS25)付近まで多く検出される(前期更新世まで)。ユサン属、ペカン属、ヌマミズキ属は、新第三紀で検出される種類であるが、鮮新世末～前期更新世頃を境として花粉化石はみられなくなる。また、これまで各地で行われた花粉分析結果を概観すると、サルスベリ属は下末吉海進(MIS5)頃までの検出が確認される。本地域では、広瀬川や名取川の上流域に新第三紀中新世の名取層群、鮮新世の仙台層群などの古い地層が分布している。これらの種類がほとんどの試料から確認されたことから、消滅種のほとんどが、上流域の新第三紀層からの再堆積であると考えられる。

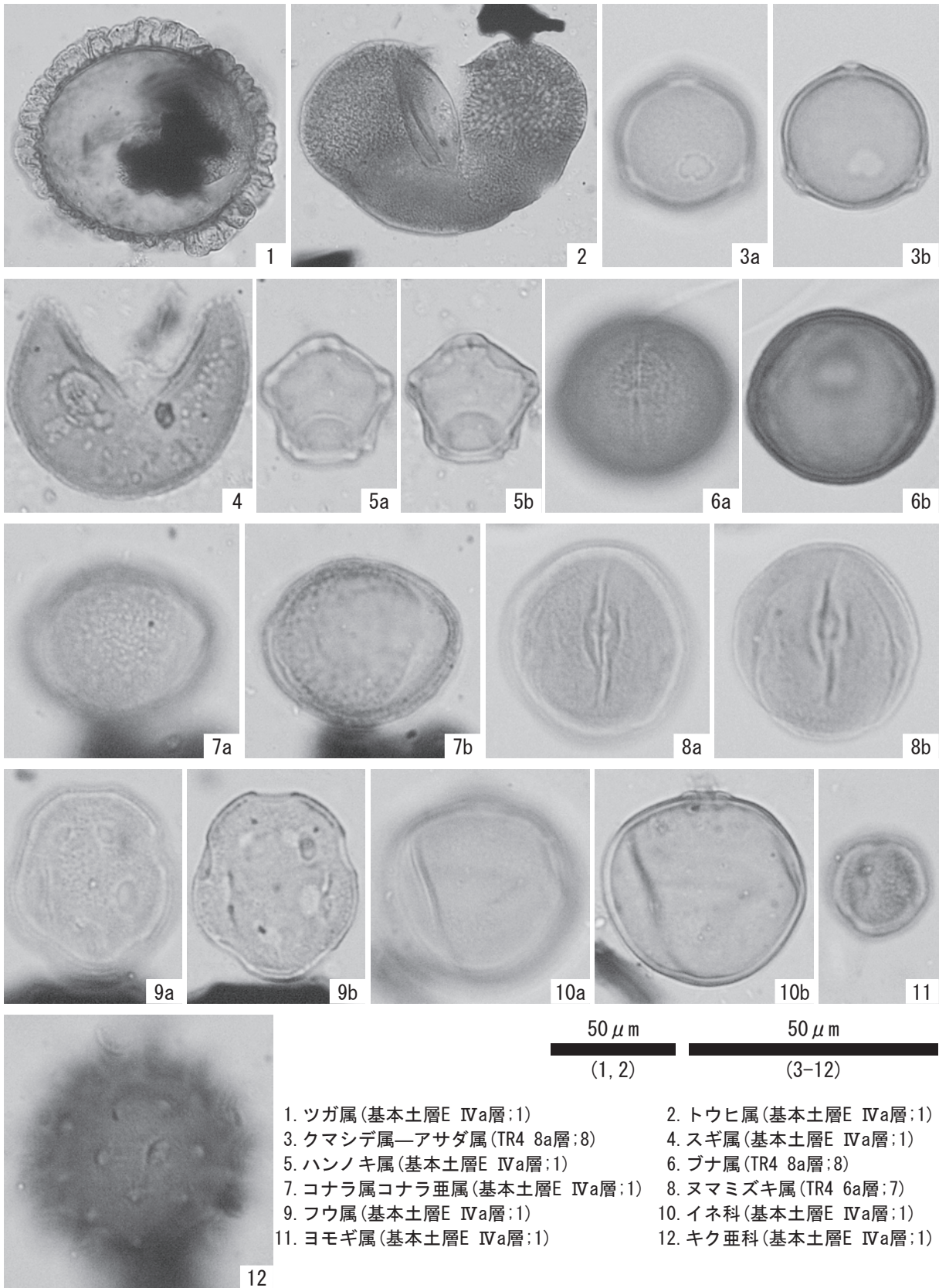
一方、河川堆積層とされる6a層(試料7)、7b層(試料8)についてみると、6a層で消滅種のヌマミズキ属が顕著に多産する。河川堆積層であることを考慮すると、6a層は集水域の新第三紀層からの再堆積を多く含んでいると考えられる。再堆積花粉を除くと、ハンノキ属、ブナ属、コナラ亜属など、基本土層で多く認められた種類が確認されたことから、同様の森林植生を反映していると思われる。7b層はハンノキ属、ブナ属も多いが、基本土層と比較するとコナラ亜属の割合が高い。コナラ亜属にはミズナラなど河畔に生育する種が含まれており、その他にもヤナギ

属、クマシデ属—アサダ属、ニレ属—ケヤキ属、トチノキ属など、河畔林要素の割合も高い。よって、基本土層の試料と比較して、より河川沿いの植生を強く反映していると言える。

草本類は、全試料を通じてイネ科、ヨモギ属が多く産出し、カヤツリグサ科、クワ科、キク亜科などを伴う。これらはいずれも開けた明るい場所を好む「人里植物」を多く含む分類群である。その他にも同様の生育環境を示す種類が認められることから、調査区内の草地や周辺の林縁などに由来すると思われる。また、ガマ属、オモダカ属、ミツガシワ属などの水湿地に生育する種類が認められることから、調査地周辺にこれらが生育する水湿地も存在したことがうかがえる。

引用文献

- 藤木利之・小澤智生, 2007, 琉球列島産植物花粉図鑑. アクアコーラル企画, 155p.
- 古谷 正和・田井 昭子, 1993, 大阪層群と段丘堆積層・沖積層の花粉化石. 大阪層群. 市原 実編著, 創元社, 247-255.
- 本郷美佐緒, 2009, 大阪堆積盆地における中部更新統の花粉生層序と古環境変遷. 地質学雑誌, 115, 64-79.
- 三好教夫・藤木利之・木村裕子, 2011, 日本産花粉図鑑. 北海道大学出版会, 824p.
- 中村 純, 1980, 日本産花粉の標徴 I II (図版). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12, 13集, 91p.
- 大井信夫, 2007, 100万年の植生史 大阪湾海成粘土層と周辺地域の化石花粉群をもとに. 日本植生史学会第22回大会講演要旨集, S-1
- 大井信夫・北田奈緒子, 2008, 中期更新統大阪層群上部層 Ma4 以降の海成層の花粉分析から見た環境変遷とブナ属の消長. 日本植生史学会第23回大会講演要旨集, 32.
- 島倉巳三郎, 1973, 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集, 60p.



第482図 花粉化石

第2節 長町駅東遺跡第14次調査における放射性炭素年代 (AMS測定) (第483～486図、第40・41表)

株式会社 加速器分析研究所

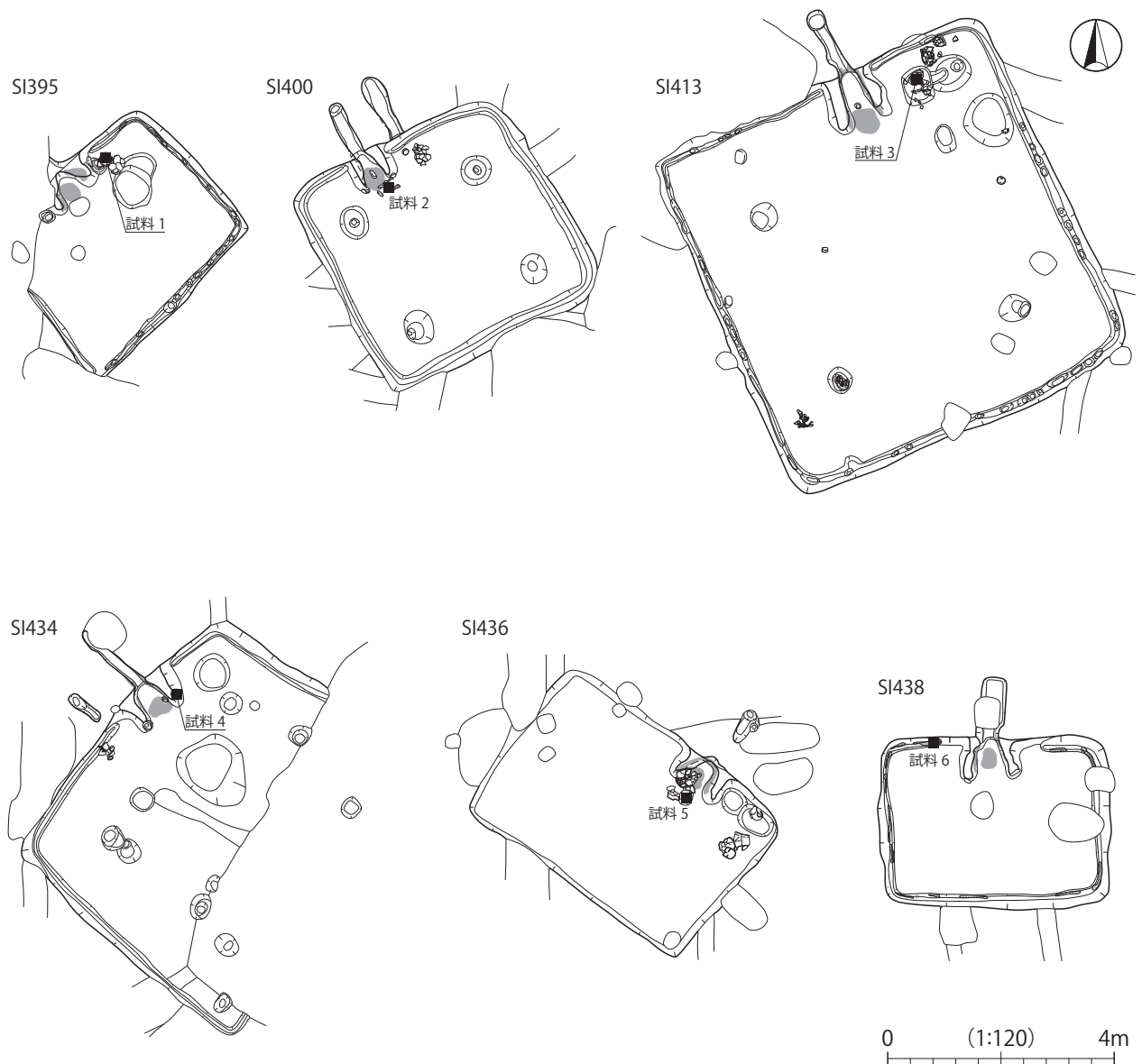
(1) 測定対象試料

長町駅東遺跡(第14次・令和元年度調査)は、宮城県仙台市太白区あすと長町3丁目1-2(北緯38°13′15″、東経140°53′7″)に所在し、広瀬川右岸に形成された自然堤防上に立地する。測定対象試料は、遺構から出土した木炭と炭化物の合計15点である(表1)。

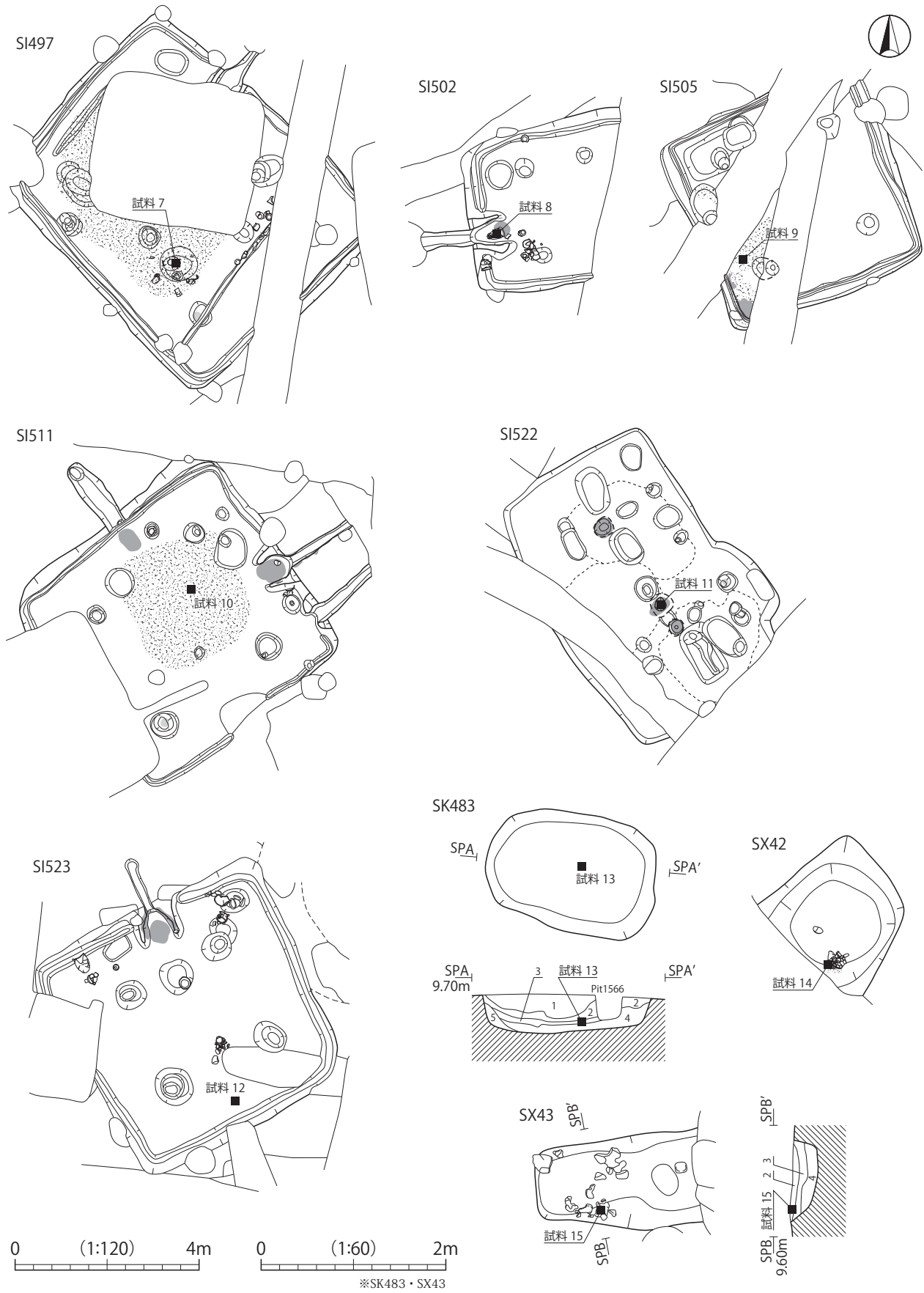
遺跡は7世紀中頃～8世紀初頭を主体とする。

(2) 測定の意義

各遺構の具体的な時期を決定する。



第483図 炭化物試料採取位置(1)



第484図 炭化物試料採取位置(2)

(3) 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

(4) 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS専用装置 (NEC社製) を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

(5) 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.3\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20較正曲線 (Reimer et al. 2020) を用い、OxCalv4.4較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定の較正曲線、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

(6) 測定結果

測定結果を第40・41表に示す。

試料15点の¹⁴C年代は、1580 ± 20yrBP (試料14) から1240 ± 20yrBP (試料1、6～8)の間にある。暦年較正年代(1σ)は、最も古い試料14が436～542cal ADの間に4つの範囲、最も新しい試料1が705～828cal ADの間に2つの範囲で示される。遺跡の主体となる時期やその前後の年代値が認められる。

今回測定された試料15点のうち、11点は木炭で、大きさや保存状態から明確に判断できず、炭化物とした4点も木炭の可能性がある。このため、次に記す古木効果を考慮する必要がある。

樹木は外側に年輪を形成しながら成長するため、その木が伐採等で死んだ年代を示す試料は最外年輪から得られ、内側の試料は年輪数の分だけ古い年代値を示す(古木効果)。今回測定された試料はいずれも樹皮が残存せず、本来の最外年輪を確認できないことから、測定された年代値は、その木が死んだ年代よりも古い可能性がある。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51 (1), 337-360

Reimer, P. J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP), Radiocarbon 62 (4), 725-757

Stuiver, M. and Polach, H. A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, Radiocarbon 19 (3), 355-363

第40表 放射性炭素年代測定結果 (δ¹³C補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ¹³ C (‰) (AMS)	δ ¹³ C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-211739	試料1	SI395 カマド脇 土器内 No.7	木炭	AAA	-26.28 ± 0.19	1,240 ± 20	85.74 ± 0.24
IAAA-211740	試料2	SI400 カマド1前方 床面直上	木炭	AAA	-25.41 ± 0.19	1,480 ± 20	83.14 ± 0.23
IAAA-211741	試料3	SI413 SK1 土器内 No.17	木炭	AAA	-24.75 ± 0.20	1,430 ± 20	83.67 ± 0.23
IAAA-211742	試料4	SI434 カマド1袖 土器内 No.2	炭化物	AAA	-24.14 ± 0.19	1,430 ± 20	83.70 ± 0.23
IAAA-211743	試料5	SI436 土器内 No.5	木炭	AAA	-28.43 ± 0.19	1,450 ± 20	83.44 ± 0.23
IAAA-211744	試料6	SI438 周溝内 堰板部分	木炭	AAA	-26.64 ± 0.20	1,240 ± 20	85.68 ± 0.23
IAAA-211745	試料7	SI497 P2 2層	炭化物	AAA	-29.57 ± 0.19	1,240 ± 20	85.69 ± 0.24
IAAA-211746	試料8	SI502 土器内 No.8	木炭	AAA	-23.09 ± 0.19	1,240 ± 20	85.71 ± 0.23
IAAA-211747	試料9	SI505 床面直上	炭化物	AAA	-26.51 ± 0.22	1,450 ± 20	83.51 ± 0.23
IAAA-211748	試料10	SI511 b区 3層	木炭	AAA	-25.53 ± 0.19	1,280 ± 20	85.27 ± 0.24
IAAA-211749	試料11	SI522 炉2 炉床	炭化物	AAA	-26.59 ± 0.19	1,390 ± 20	84.08 ± 0.24
IAAA-211750	試料12	SI523 床面直上	木炭	AAA	-24.22 ± 0.19	1,400 ± 20	84.01 ± 0.23
IAAA-211751	試料13	SK483 3層	木炭	AAA	-27.83 ± 0.19	1,490 ± 20	83.08 ± 0.23
IAAA-211752	試料14	SX42 底面直上	木炭	AAA	-26.20 ± 0.18	1,580 ± 20	82.17 ± 0.23
IAAA-211753	試料15	SX43 2層	木炭	AAA	-26.19 ± 0.19	1,260 ± 20	85.53 ± 0.23

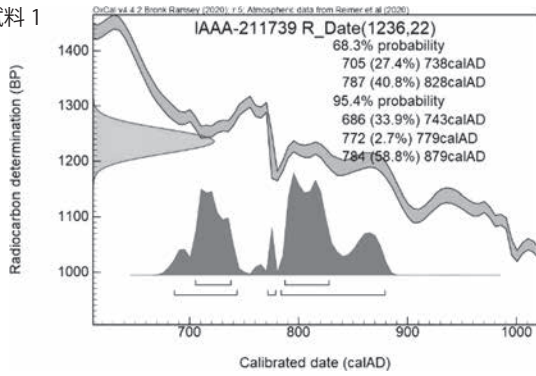
[IAA登録番号: #B073]

第41表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年代較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

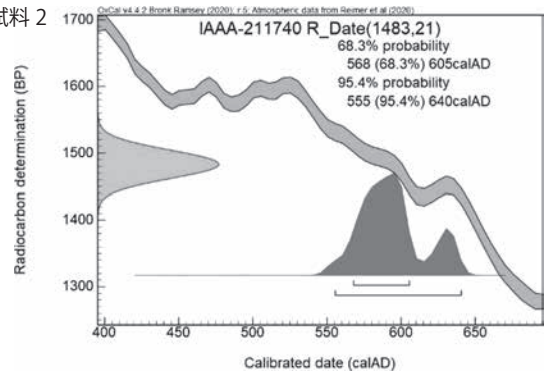
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年代較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-211739	1,260 \pm 20	85.51 \pm 0.24	1,236 \pm 22	705calAD - 738calAD (27.4%) 787calAD - 828calAD (40.8%)	686calAD - 743calAD (33.9%) 772calAD - 779calAD (2.7%) 784calAD - 879calAD (58.8%)
IAAA-211740	1,490 \pm 20	83.07 \pm 0.22	1,483 \pm 21	568calAD - 605calAD (68.3%)	555calAD - 640calAD (95.4%)
IAAA-211741	1,430 \pm 20	83.71 \pm 0.23	1,432 \pm 21	606calAD - 627calAD (45.3%) 635calAD - 646calAD (23.0%)	598calAD - 652calAD (95.4%)
IAAA-211742	1,420 \pm 20	83.85 \pm 0.23	1,429 \pm 22	606calAD - 628calAD (43.2%) 634calAD - 647calAD (25.1%)	597calAD - 654calAD (95.4%)
IAAA-211743	1,510 \pm 20	82.85 \pm 0.23	1,454 \pm 22	599calAD - 640calAD (68.3%)	578calAD - 648calAD (95.4%)
IAAA-211744	1,270 \pm 20	85.39 \pm 0.23	1,241 \pm 21	704calAD - 739calAD (34.9%) 788calAD - 825calAD (33.4%)	681calAD - 745calAD (43.7%) 761calAD - 779calAD (3.8%) 785calAD - 878calAD (48.0%)
IAAA-211745	1,320 \pm 20	84.89 \pm 0.23	1,240 \pm 22	704calAD - 739calAD (33.4%) 788calAD - 825calAD (34.9%)	682calAD - 745calAD (41.7%) 763calAD - 766calAD (0.4%) 771calAD - 779calAD (2.7%) 785calAD - 878calAD (50.6%)
IAAA-211746	1,210 \pm 20	86.04 \pm 0.23	1,239 \pm 21	705calAD - 738calAD (31.8%) 788calAD - 825calAD (36.5%)	683calAD - 744calAD (40.0%) 771calAD - 779calAD (2.8%) 785calAD - 878calAD (52.7%)
IAAA-211747	1,470 \pm 20	83.25 \pm 0.22	1,448 \pm 21	603calAD - 641calAD (68.3%)	583calAD - 649calAD (95.4%)
IAAA-211748	1,290 \pm 20	85.18 \pm 0.23	1,280 \pm 22	680calAD - 707calAD (31.5%) 726calAD - 748calAD (23.5%) 758calAD - 770calAD (13.3%)	668calAD - 775calAD (95.4%)
IAAA-211749	1,420 \pm 20	83.81 \pm 0.23	1,392 \pm 22	641calAD - 661calAD (68.3%)	605calAD - 629calAD (20.2%) 634calAD - 666calAD (75.2%)
IAAA-211750	1,390 \pm 20	84.14 \pm 0.23	1,400 \pm 22	610calAD - 618calAD (12.9%) 640calAD - 658calAD (55.3%)	605calAD - 662calAD (95.4%)
IAAA-211751	1,540 \pm 20	82.59 \pm 0.23	1,489 \pm 22	565calAD - 603calAD (68.3%)	548calAD - 610calAD (84.0%) 618calAD - 640calAD (11.4%)
IAAA-211752	1,600 \pm 20	81.97 \pm 0.22	1,577 \pm 22	436calAD - 465calAD (27.0%) 475calAD - 502calAD (24.5%) 508calAD - 516calAD (6.5%) 530calAD - 542calAD (10.3%)	426calAD - 551calAD (95.4%)
IAAA-211753	1,280 \pm 20	85.32 \pm 0.23	1,255 \pm 21	685calAD - 744calAD (65.7%) 794calAD - 798calAD (2.5%)	674calAD - 779calAD (77.7%) 787calAD - 829calAD (17.3%) 860calAD - 864calAD (0.4%)

[参考値]

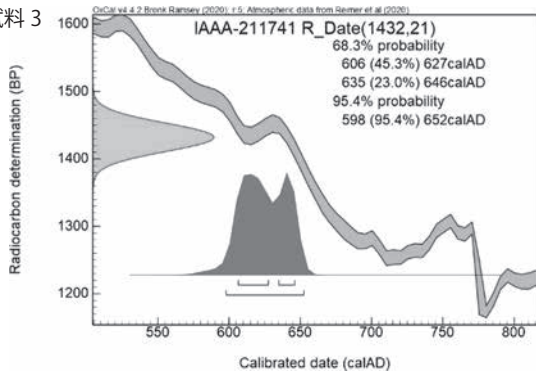
試料 1



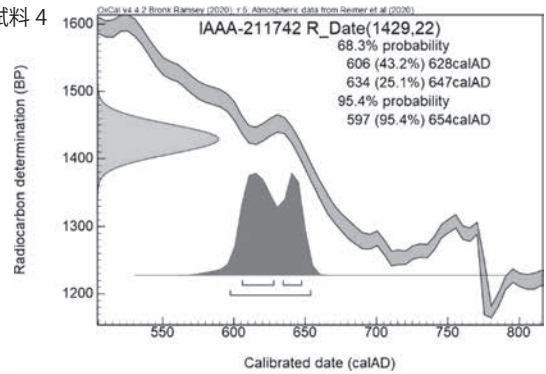
試料 2



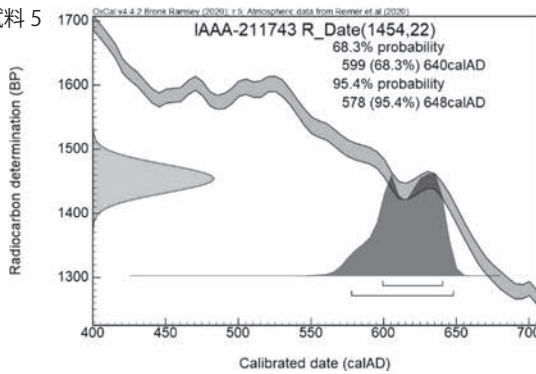
試料 3



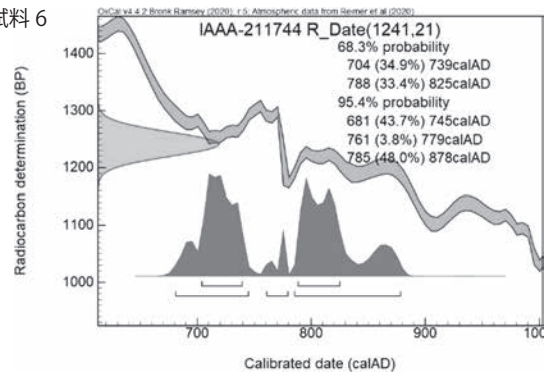
試料 4



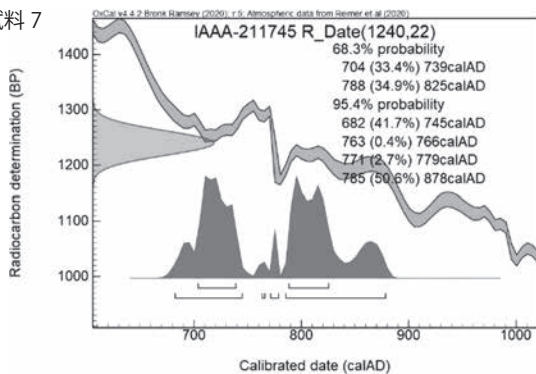
試料 5



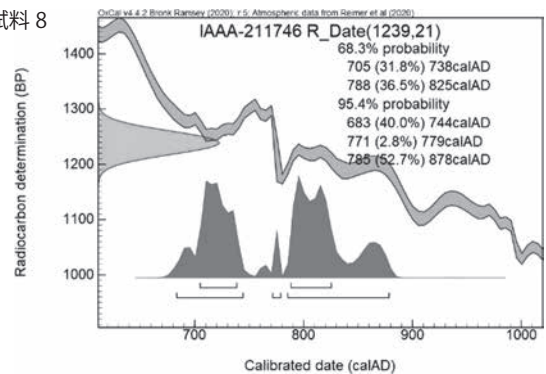
試料 6



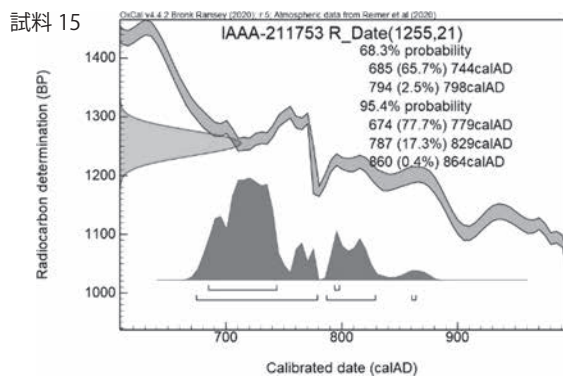
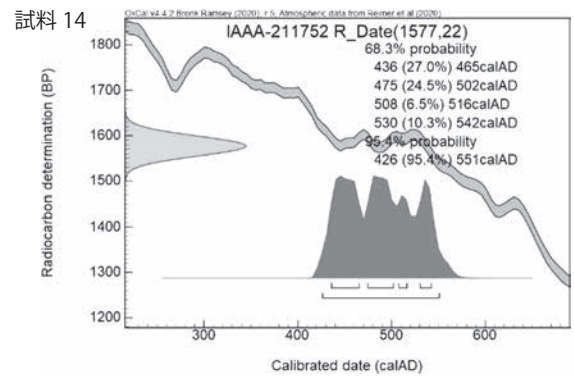
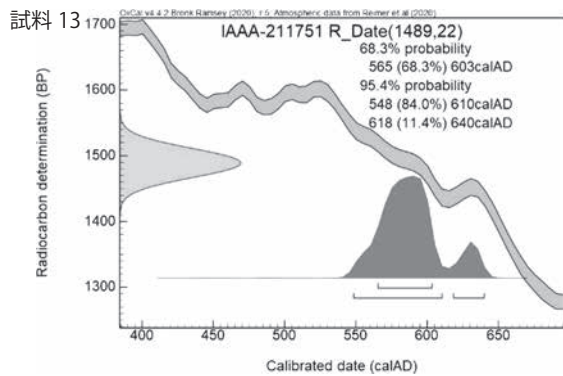
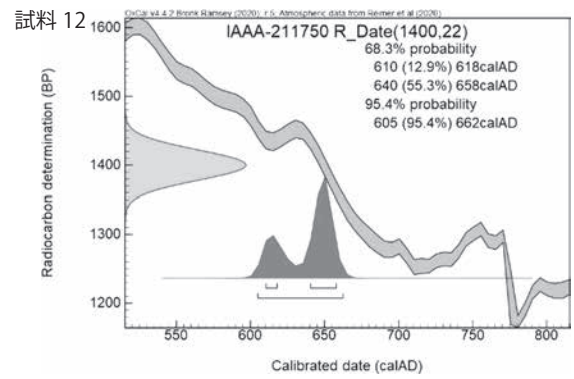
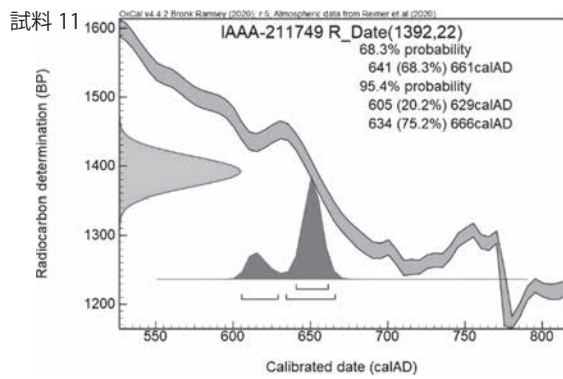
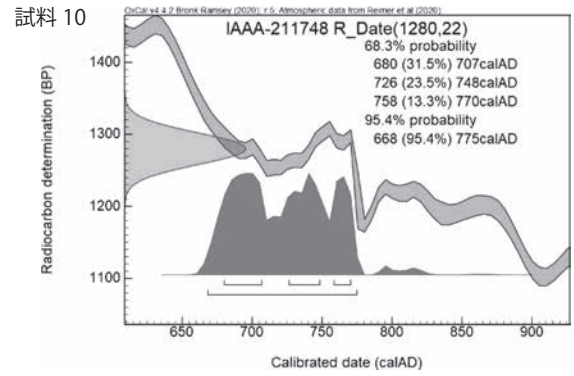
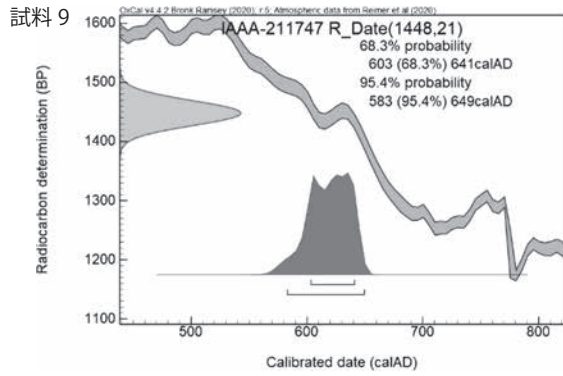
試料 7



試料 8



第 485 図 暦年較正年代グラフ (参考) (1)



第486図 暦年較正年代グラフ(参考)(2)

第7章 まとめ

今回の調査では、平安時代以降の可能性のある遺構と古墳時代～奈良時代の2時期の遺構を検出した。また、弥生時代の包含層を確認し、土器や石器などの遺物が出土した。

本章では、これら令和元年度の調査成果について簡潔にまとめる。なお、遺構・遺物の考察などは、次年度刊行予定『長町駅東遺跡第14次調査(2)』の「総括」で触れることとする。

縄文時代

- (1) 後期前葉の縄文土器が1点出土した。出土層位は基本層Ⅳ層上面である。下層観察のためのトレンチを5箇所掘削(TR1～5)したが、基本層Ⅳ層上面から2m程の深度においても当該期の包含層を検出できなかった。基本層Ⅳ～Ⅶ層下には河川堆積物が厚く堆積しているため、今回出土した土器はⅣ層中に混入したものと考えられる。

弥生時代

- (1) A～E区の5箇所では包含層を調査したが、遺構は検出されなかった。弥生時代の包含層は基本層Ⅳ・Ⅴ層が該当するが、今回の調査区内では古墳時代以降の遺構が密集していたため地点的にしか確認できなかった。一方で、Ⅳ層から出土した遺物も多い。また、古墳時代以降の遺構堆積土中に弥生土器、石器類の混入がみられた。
- (2) 弥生土器(壺・鉢・蓋・高坏・深鉢・甕)、打製石器(石鏃・削器・搔器・二次加工のある剥片・微細剥離のある剥片・両極剥片・石核・板状石器)、磨製石器(石庖丁・ノミ状石器・石斧)、礫石器(敲石)、石製品(独鈷石)がコンテナで10箱程度出土した。
- (3) 弥生土器は中期中葉の榊形式(高田B式)～中在家南式を主体とし、ほとんどが破片資料である。北東～東側に位置する第1～4・10次調査区では、当該期の竪穴状遺構や焼土遺構、土坑、土器棺墓、水田跡などが検出されており、生活拠点となっていたと考えられる。今回出土した遺物は、これらの遺構との関連性がうかがわれる。

古墳時代～奈良時代

- (1) 竪穴住居跡152軒、竪穴状遺構1基、掘立柱建物跡5棟、溝跡62条、土坑47基、ピット215基、性格不明遺構12基を検出した。このうち竪穴状遺構1基、土坑7基、性格不明遺構7基は、後述の通り鍛冶関連の遺構と考えられる。
- (2) 竪穴住居跡の帰属時期は、出土した土器の特徴から下記の7期に区分した。
 - 1期：5世紀後半(古墳時代中期)
 - 2期：6世紀代(古墳時代後期)
 - 3期：6世紀末頃～7世紀前半(冨郭集落出現期)
 - 4期：7世紀中頃～後半(郡山Ⅰ期官衙期)
 - 5期：7世紀末頃～8世紀初頭(郡山Ⅱ期官衙期)
 - 6期：8世紀前半(多賀城創建期)
 - 7期：8世紀中頃～後半

時期不明の住居跡も一定数あるが、今回の調査では3期から5期(6世紀末頃～8世紀初頭)、特に7世紀代を中心とする住居跡を最も多く検出した。

- (3) 古い段階の竪穴住居跡として、1期(5世紀後半)のSI464、2期(6世紀代)のSI516を確認した。当該期の住居跡は長町駅東遺跡内でも少数しか発見されておらず、新たな事例追加となった。
- (4) 竪穴住居跡のうち、SI440は長軸約9mを測り、長町駅東遺跡では現時点で最大級の住居跡である。南壁には張り出し部を伴い、規模・形態ともに遺跡内でも注目される。
- (5) 竪穴状遺構のSI522は、新旧併せて7基の炉を伴うことや鉄滓、羽口が多量に出土していることから、鍛冶施設と考えられる。時期は、床面から出土した土師器杯・甕の特徴から、4期～5期(7世紀中頃～8世紀初頭)に比定される。このほか、土坑7基(SK328・329・355・358・383・461・477)、性格不明遺構7基(SX37・39・42～44・46・47)も、内壁ないし底面の被熱痕や、堆積土に炭化物・鉄滓を含むことから、鍛冶関連の遺構と考えられる。
- (6) 掘立柱建物跡は、5棟のうち4棟(SB45～48)が調査区の北西部にまとまって構築されている。建物跡の方位もほぼ一致し、コ字形に配置されていることから、同時期に構築された可能性が考えられる。このうちSB46・47は重複関係にあり、建て替えが行われたと考えられる。これらの時期は、SB45が6期(8世紀前半)のSI424より新しいことから、8世紀前半以降に比定される。
- (7) 土師器・須恵器、礫石器・石製品、金属製品、土製品、自然遺物などがコンテナで240箱程度出土した。
- (8) 土器類のうち土師器は、非ロクロとロクロ使用のものがあり、前者が主体である。器種は杯・蓋・高杯・器台・鉢・壺・甕・甑・ミニチュアなどがあり、いわゆる関東系土師器(鬼高系土師器・北武蔵型土師器・その他)が含まれる。須恵器の器種は、(高台付)杯・蓋・高杯・(高台付)盤・鉢・壺(瓶)類・甕・甑・円面硯が出土した。これらのうち特筆すべき資料として、「名大」の文字が刻書された土師器杯、湖西窯跡産の須恵器長頸瓶がある。
- (9) 土器以外の出土遺物では、礫石器が磨石・敲石・凹石・台石、石製品が砥石・紡錘車・玉類・模造品などの器種がある。金属製品は全て鉄製品で、鏃・刀子・鎌・鋤・斧・紡錘車・釘・鉄製小札などを確認した。土製品は土錘・紡錘車・玉類・支脚・羽口、自然遺物は種子・骨片などが出土した。

平安時代以降

- (1) 円形周溝状遺構2基、溝跡5条、土坑92基、ピット1,506基、性格不明遺構2基を検出した。当該期に比定される竪穴住居跡や掘立柱建物跡は検出できなかった。
- (2) ロクロ土師器や須恵器の一部は9世紀代であることを確認したほか、SD305からは10世紀前半の灰釉陶器が1点出土した。また、近世の陶器・磁器、瓦、土製品、金属製品などもコンテナで1箱程度出土したが、これらのほとんどは遺構に伴わず、表土や攪乱からの出土である。中世の遺物は、搬入陶器とみられる破片がわずかに出土した程度で、他の遺物については不明である。
- (3) SD307は区画施設と考えられる大型の溝跡である。コ字形の平面形をもち、一部では掘り直しの痕跡を確認した。今回の調査区内では東西約45mの区画範囲を形成しており、南側は令和2年度の調査区へ延びている。土器や礫など多量の遺物が、堆積土の上層部に炭化物とともに廃棄されている地点が認められた。
- (4) 時期が比定できる遺構はごくわずかであるが、SD290・305は堆積土上層に十和田a火山灰(To-a:推定915年降下)とみられる灰白色火山灰の混入を確認したことから、その降下以前の溝跡と考えられる。また、SK362からは煙管の一部が、SX40からは磁器の破片が、Pit526からは燻瓦の破片が出土したことから近世の遺構と考えられる。

引用・参考文献

- 吾妻俊典 2004「多賀城とその周辺におけるロクロ土師器の普及開始年代」『宮城考古学』第6号 宮城県考古学会
- 石本弘 1995「福島県における律令制成立以前の土器様相とその背景」『東国土器研究』第4号 東国土器研究会
- 加藤道男 1983「宮城県における土師器研究の現状」『考古学論叢』 芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会
- 北見一弘 2003「刀子小考Ⅰ」『市原市文化財センター 研究紀要』Ⅳ 市原市埋蔵文化財調査センター
- 公益財団法人茨城県教育財団 2002『熊野山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告190集
- 公益財団法人茨城県教育財団 2022『塔ノ内南遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第462集
- 国土館大学考古学会 2009『古代社会と地域間交流—土師器から見た関東と東北の様相—』 六一書房
- 古庄浩明 1994「古代における鉄製農工具の所有形態—6世紀から10世紀の南関東を中心として—」
『考古学雑誌』第79巻 第3号 日本考古学会
- 櫻井友梓 2011「古墳時代終末期から多賀城創建前後の須恵器生産の展開」『宮城考古学』第13号 宮城県考古学会
- 佐藤敏幸 2006「律令国家形成期の陸奥国牡鹿半島(1)—古代牡鹿半島の土器様式—」『宮城考古学』第5号 宮城県考古学会
- 佐藤敏幸 2006「東北地方における7世紀から8世紀前半の土器研究史—関東系土師器研究の現状と新たな研究視点の模
索—」『宮城考古学』第8号 宮城県考古学会
- 佐藤敏幸 2007「vi. 宮城県北部・沿岸部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』 東北学院大学文学部
- 佐藤敏幸 2010「東北地方における7～8世紀の東海産須恵器の研究」『北杜—辻秀人先生還暦記念論集—』 辻秀人先生還暦
記念論集刊行会
- 集落遺跡検討会 2004『岩手県土師器集成(4～8世紀)』 集落遺跡検討会
- 菅原祥夫 2007「ii. 福島県中通り中部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』 東北学院大学文学部
- 菅原祥夫 2013「陸奥南部の国造域における大化前後の在地社会変化と歴史的意義」『日本考古学』第35号 一般社団法人日
本考古学協会
- 鈴木雅 2016「律令国家成立期の陸奥国柴田・刈田地方—蔵王町円田盆地の遺跡群の検討を中心に—」『宮城考古学』第18
号 宮城県考古学会
- 関口功一 1991「律令国家の東北政策と東国」『史苑』第50巻第2号 立教大学史学会
- 仙台市教育委員会 1994『南小泉遺跡—第22・23次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第192集
- 仙台市教育委員会 2004『鴻ノ巣遺跡第7次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第280集
- 仙台市教育委員会 2005『郡山遺跡発掘調査報告書—総括編—』仙台市文化財調査報告書第283集
- 仙台市教育委員会 2007『長町駅東遺跡第4次調査』仙台市文化財調査報告書第315集
- 仙台市教育委員会 2008『長町駅東遺跡第1・2次調査』仙台市文化財調査報告書第324集
- 仙台市教育委員会 2009『長町駅東遺跡第3次調査』仙台市文化財調査報告書第340集
- 仙台市教育委員会 2010『西台畑遺跡第1・2次調査』仙台市文化財調査報告書第359集
- 仙台市教育委員会 2010『沼向遺跡第4～34次調査(第9分冊)』仙台市文化財調査報告書第360集
- 仙台市教育委員会 2011『西台畑遺跡第3次調査』仙台市文化財調査報告書第388集
- 仙台市教育委員会 2011『郡山遺跡第200次調査』仙台市文化財調査報告書第391集
- 仙台市教育委員会 2013『西台畑遺跡第8次調査』仙台市文化財調査報告書第409集
- 仙台市教育委員会 2013『西台畑遺跡第4・5・7次調査』仙台市文化財調査報告書第411集
- 仙台市教育委員会 2013『郡山遺跡第167・180・196次調査』仙台市文化財調査報告書第412集
- 仙台市教育委員会 2014『長町駅東遺跡第5・6・8・9次調査』仙台市文化財調査報告書第421集
- 仙台市教育委員会 2014『長町駅東遺跡第10・11次調査』仙台市文化財調査報告書第422集
- 仙台市教育委員会 2014『長町駅東遺跡第13次調査』仙台市文化財調査報告書第423集
- 仙台市教育委員会 2015『西台畑遺跡第12次調査』仙台市文化財調査報告書第433集
- 仙台市教育委員会 2016『郡山遺跡第243次調査・西台畑遺跡第11次調査』仙台市文化財調査報告書第442集
- 仙台市教育委員会 2018『西台畑遺跡第13次調査』仙台市文化財調査報告書第467集

- 高橋誠明 2007「律令国家の成立期における境界地帯と関東との一関係―宮城県大崎地方出土の関東系土師器と出土遺跡の意義―」『国土館考古学』第3号 国土館大学考古学会
- 田中広明 1995「関東西部における律令制成立までの土器様相と歴史的動向―群馬・埼玉県を中心にして―」『東国土器研究』第4号 東国土器研究会
- 津野仁 1995「栃木県における6・7世紀の土器編年と地域的特徴」『東国土器研究』第4号 東国土器研究会
- 鶴間正昭 2019『律令国家成立期の土器様相』六一書房
- 東北古代土器研究会 2005『東北古代土器集成―古墳後期～奈良・集落編―』<福島> 研究報告1
- 東北古代土器研究会 2005『東北古代土器集成―古墳後期～奈良・集落編―』<宮城> 研究報告2
- 東北古代土器研究会 2008『東北古代土器集成―須恵器・窯跡編―』<陸奥> 研究報告3
- 奈良佳子 2003「宮城県域の7世紀の須恵器」『古代東北北海道研究会資料』 古代東北北海道研究会
- 東松島市教育委員会 2019『赤井遺跡発掘調査総括報告書Ⅱ―館院編―』東松島市文化財調査報告書第20集
- 福島県教育委員会 1988「第4編 善光寺遺跡」『国道113号バイパス遺跡発掘調査報告』Ⅳ 福島県文化財調査報告書第192集
- 福島県教育委員会 1998「第6編 善光寺遺跡(第2次)」『国道113号バイパス遺跡発掘調査報告』Ⅴ 福島県文化財調査報告書第211集
- 古川一明 2013「宮城県地域における古代地方行政単位の形成過程について」『国立歴史民俗博物館研究報告』第179集
国立歴史民俗博物館
- 古川市教育委員会 2006『名生館官衙遺跡X X V』宮城県古川市文化財調査報告書第38集
- 松本太郎 2013『東国の土器と官衙遺跡』六一書房
- 水野敏典 2009『古墳時代鉄鏃の変遷にみる儀仗的武装の基礎的研究』 奈良県立橿原考古学研究所
- 宮城県教育委員会 1999『一里塚遺跡―第44・47次発掘調査報告書―』宮城県文化財調査報告書第179集
- 宮城県教育委員会 2016『御駒堂遺跡・堂の沢遺跡』宮城県文化財調査報告書第244集
- 宮城県教育委員会 2018『山王遺跡Ⅶ(第3分冊)』宮城県文化財調査報告書第246集
- 村田晃一 1994「土器から見た官衙の終末」『古代官衙の終末をめぐる諸問題―第1分冊 問題提起・各地方の概要―』
東日本埋蔵文化財研究会
- 村田晃一 1995「宮城県における6・7世紀の土器様相」『東国土器研究』第4号 東国土器研究会
- 村田晃一 2000「飛鳥・奈良時代の陸奥周辺―移民の時代―」『宮城考古学』第2号 宮城県考古学会
- 村田晃一 2002「7世紀集落研究の視点(1)」『宮城考古学』第4号 宮城県考古学
- 村田晃一 2007「v. 宮城県中部から南部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』 東北学院大学文学部
- 矢本町教育委員会 2001『赤井遺跡Ⅰ』矢本町文化財調査報告書第14集
- 山元町教育委員会 2022『山元町文化財調査報告書22：合戦原遺跡 横穴墓編』

仙台市文化財調査報告書第512集
長町駅東遺跡第14次調査(1)
—総合店舗建設に伴う令和元年度発掘調査報告書—
[第2分冊]

2024年3月

発行 仙台市教育委員会

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1丁目
5番12号 上杉分庁舎10階
TEL022-214-8899 (文化財課)

印刷 株式会社 仙台紙工印刷

〒983-0036 宮城県仙台市宮城野区苦竹3丁目1-14
TEL022-231-2245
